

言語記述論集 第15号

言語記述論集 第15号

目次

ブヌン語における duu の原義を探る	落合 いずみ	1
ラロン・マ [Larong sMar] 語措瓦 [mTsholnga] 方言の語彙資料 (日英対照)	鈴木 博之・四郎翁姆・才讓三周	33
ラロ語の音韻体系	王 星月	55
[書評] 宋成、謝穎瑩、李大勤、李佐文 (著)《西藏察隅松林語》 北京：商務印書館、2019年、10+272pp.	鈴木 博之	75
ハルビ語の民話「王と王妃」	佐藤 雄太	85
広東語の動詞連続：運動・移動表現に関する例文	西田 文信	99
チャクマ語版・ミナ「ニワトリを数えておけ」	藤原 敬介	105
チベット・ビルマ諸語における相関関係文	藤原 敬介	131
南琉球八重山語大浜方言のアクセント資料	セリック ケナン・麻生 玲子	171
南琉球八重山語波照間方言辞典に関する中間報告	セリック ケナン・麻生 玲子・中澤 光平	193
「日々の仕事」と「簡単な自分史」：カガヤヌン語の談話資料	山本 恭裕・竹村 美宥	359

ブヌン語における *duu* の原義を探る *

落合 いずみ

帯広畜産大学

キーワード：ブヌン語、語彙的接頭辞、見る、会う、合う

1 はじめに

ブヌン語における *duu* という語の意味について、Nihira (1988: 73) では“encounter”（会う）とされている。しかし、その語義の裏付けとなる証拠が大木とは言えず、*duu* の原義は果たして“encounter”（会う）であるかどうか再検討の余地がある。本稿は *duu* を含むより多くの語例とその意味を検討し、それらの語に共通する意味素性を捉えることで、*duu* の原義のより精密な考察を目指す。検討の結果、*duu* の原義により近いのは「会う」よりも適合するという意味での「合う」であることを示す。

2 ブヌン語と *sa-duu* に関する背景

2.1 ブヌン語

ブヌン語は台湾先住民族ブヌン族によって話される言語であり、オーストロネシア語族に属する¹。台湾には20言語ほどのオーストロネシア諸語が分布し、これらをまとめて台湾オーストロネシア諸語と呼ぶが、ブヌン語はその1つである。ブヌン語は北部、中部、南部と地理的に三方言に大別される。北部方言はタキバカ (Takibakha) 方言とタキトゥドゥ (Takituduh) 方言から成り、中部方言はタクバナアズ (Takbanuaz) 方言とタキバタン

* 本稿は言語記述研究会第110回例会（2021年2月14日）における発表を基にしたものである。発表に際し助言をいただいた方々、特に野島本泰氏に感謝する。また本稿の読み合わせをしていただいたセリック・ケナン氏、藤原敬介氏に感謝する。ただし本稿の不備は筆者に帰する。

¹ Li (1988: 479–480) によるとブヌン語諸方言に共通の音素目録は3母音/a i u/と16子音/p b t d k q ʔ ts s h v ð l m n ŋ/である。ただし、イスブクン方言、タクバナアズ方言、タキバタン方言において/tʂ/は/s/に変化した。イスブクン方言において/q/は/ɣ/に変化した（このイスブクン方言の音素は *h* で表記する）。本稿では/ŋ/を ng、/ð/を z と表記する。ちなみに Li (1988:479) は/b/と/d/について前声門閉鎖音化を伴う/ʙ, ʔd/であると述べるが、本稿筆者のタキバカ方言のフィールド調査によると入破音/ʙ, d/であった。

(Takivatan) 方言から成る。南部方言はイスブクン (Isbukun) 方言から成る²。ちなみに、アクセントについていえば、タキバカ方言とイスブクン方言は次末音節に強勢が置かれることが多く、その他の方言は語末音節に強勢が置かれることが多い³。

2.2 ブヌン語の *sa-duu* 「見る」

オーストロネシア祖語における「見る」の形式は **kita* と再建されている (Blust and Trussel 2010)。アタヤル語 *kita*、パゼツへ語 *kita* (ともに台湾オーストロネシア諸語) などを始めとした大多数のオーストロネシア諸語がこの祖形の反映形を継承している。ところが、ブヌン語は管見の限りこの祖形を継承していない。ブヌン語において「見る」が *saduu* という形式で置き換えられたと考えられるが、この形式が何に由来するかの疑問が生じる。

2.3 ブヌン語の語形成: *sa-duu* 「見る」を例に

Nihira (1988) は、ブヌン語において「見る」を表す *saduu* は、接頭辞 *sa-* と語根 *duu* に分かれるとする。そして、他の語例との比較により、「見る」という意味を担う部分は接頭辞 *sa-* であるとする。このようにブヌン語において実質的な意味を伴いながら、独立して用いることのできない接頭辞の形式を、Nojima (1996) は語彙的接頭辞 (lexical prefix) と呼ぶ。そのため *sa-* は語彙的接頭辞の 1 つに挙げられる⁴。語彙的接頭辞 *sa-* 「見る」が、用いられる *sa-duu* 以外の語例を (1) に Nihira (1988: 304) を引用して示す。これらは各方言共通の形式である⁵。

(1) a. *sa-mi-miʔing* 「覗く」

² これら方言名の語頭にみられる *taki-* とその変化形 *tak-* は、Nihira (1988: 366) では “tribal names of Bunun” という意味が付されている。この意味においては、語彙的接頭辞の 1 つと言えるかもしれない。また、独立語の *taki* (と *tak*) の意味として “place or village where certain person live; dwell; settle” が挙げられている。この *taki(-)* は居住を表す語と言える。

³ 本稿筆者は、イスブクン方言とタキバカ方言では次末モーラを含む音節にアクセントが置かれる (それ以外の方言では語末モーラを含む音節にアクセントが置かれる) と考えているが、これについては別稿を準備中である。

⁴ ちなみに、語彙的接頭辞として類似形式と意味を持つものがサイシャット語にもある。Zeitoun 他 (2015: 581-582) によると、サイシャット語に *sha-* [ʃa] 「見る」がある。

⁵ これらの語の中、*sa-mi-miʔing* 「覗く」の語根 *miʔing* 「隠れる」のみ、Nihira (1988: 215) に語彙項目として挙げられている。因みに、*sa-mi-miʔing* において語根の語頭音節は重複されている。

- b. *sa-laqait* 「無視する」
- c. *sa-mangha* 「見上げる」
- d. *sa-qaal* 「認識する」

語彙的接頭辞と語根、それに派生・屈折接辞の結合の順序について Nojima (1996: 8) は (2) のように説明する。Nojima (1996) では接辞の形式を書き込んでいないが、(2) では黄・施 (2016) を参照し、形式を加えた。語根の直前に語彙的接頭辞が現れる。Zeitoun 他 (2015: 521) ではサイシヤット語の語彙的接頭辞+語根の結合に対して、“composite verb” (複合動詞) という用語を用いる。ブヌン語の *sa-duu* 「見る」も複合動詞と言える。

- (2) 態に関わる接頭辞 (*is-/ma-*など) + 使役の接頭辞 *pa-* + 相互の接頭辞 *pa-* + 語彙的接頭辞+語根+態に関わる接尾辞 (*-un/-an* など)

Nojima (1996: 8) は、語根に対し語彙的接頭辞の付加しうる個数については、1つだけと述べるが、表 2 で見る *tin-sa-duu* 「突然見える」における *tin-* 「突然起こる」と *sa-* 「見る」のように2つの語彙的接頭辞を持つ複合動詞も少なからず見られる。複合動詞に含まれる語彙的接頭辞の個数は1つとは限らないと言える。

2.4 ブヌン語の語根 *duu* について

まず *duu* の音形について説明する。この語は出現する音節の位置によって母音の長さが異なる。語末音節の位置に置かれると、*duu* の母音が2モーラの長さを持つ長母音として現れるが、接尾辞が付いた場合など、非語末音節に移動すると、母音が短くなり1モーラとして実現する⁶。そのため以下の表記では、語根 *duu* が語末音節に現れる場合は表記上 *u* を2つ並べて *duu*、非語末音節に現れる場合は *u* を1つにして *du* というように書き分けている。

Nihira (1988: 73) は *sa-duu* を接頭辞の *sa-* と語根の *duu* の結合として分析し、前者が「見る」を、後者が“encounter”「会う」を表すとしている。「会う」を意味するとされる語根 *duu* は、*sa-duu* の他にも Nihira (1988: 73, 306, 318) に派生語が多く挙げられている。それら

⁶ Huang (2008: 11, 21) によるとブヌン語において2モーラが最小語の単位である。ただし、接尾辞が付いて長母音を持つ音節が次末音節に移動すると、母音は音声的に短くなるため、語末以外の場合は1モーラに相当すると考える。

また、黄・施 (2016: 20) では、*ma-sipat-un* 「40」と *paat* 「4」(オーストロネシア祖語**Səpat* 「4」(Blust and Trussel 2010) に由来する。ブヌン語の「4」では語頭音節**Sə* が脱落したが、「40」では脱落していない) を例に挙げ、接尾辞の付かない方では母音が長音化すると説明している。

を (3) に示す⁷。Nihira (1988) は各形式がどの地域 (北部・中部、南部) で得られたかも示しており、その情報も項目の後ろに括弧で示す。英語による注釈は本稿筆者が和訳した。

語例は本稿著者が (a) から (m) に分類した。(a) は語彙的接頭辞の付かない派生形、(b) から (m) は語彙的接頭辞の付いた複合動詞またはその派生形である。語彙的接頭辞の種類ごとに分類した。語彙的接頭辞は太字で示した。2 つの語彙的接頭辞 (c. *an-pas-*、g. *pal-an-*、j. *tin-pas-*) を持つ形式も見られる。それぞれの語彙的接頭辞の意味については表 2 で考察したものを基に、本稿筆者が (b) から (m) までの各項目の一行目に加えた⁸。語根 *duu* と語彙的接頭辞以外の形態素 (態、時制、アスペクトなどに関わる) については、付録を参照されたい。

- (3) a. *du-du-an* 「出くわす」 (中部・南部)
 b. *an-* 「受ける」

⁷ 本稿では Nihira (1988) の表記に多少の変更を加えている。

⁸ ブヌン語においてどの接頭辞を語彙的接頭辞と見なすかについて定説があるわけではないが、本稿での判断基準を述べると、オーストロネシア諸語で一般的に用いられる態 (*ma-* 動作主態)、使役 (*pa-*)、相互 (*pa-*) の派生接頭辞以外の接頭辞でなんらかの意味的役割を担うものとした。ただし、本稿で語彙的接頭辞としてブヌン語内部の用法という観点からいえば、派生接頭辞と見なしたほうがいいものも含まれるかもしれないことを断っておく (例えば変化を表す *min-* や状況の持続を表す *mal-* など)。

ちなみに、ブヌン語において使役と相互を表す接頭辞は同一形式の *pa-* である。Blust and Trussel (2010) では使役を表す接頭辞としてオーストロネシア祖語に **pa-* が再建され、相互を表す接頭辞として東マラヨ・ポリネシア祖語 (オーストロネシア祖語にまでは遡らない) に **paRi-* が再建される。ブヌン語において相互を表す *pa-* が東マラヨ・ポリネシア祖語 **paRi-* に由来するものだとしたら、台湾オーストロネシア諸語の中にも **paRi-* が見られることになり、祖語 **paRi-* は系統樹において東マラヨ・ポリネシア語群よりも更に古い時代の祖語にまで遡ることが示唆される。また、使役の **pa-* と相互の **paRi-* の共通部分として *pa* が取り出せる。読み合わせ担当者の 1 人から使役構文が受動の意味をも表す言語—例えばモンゴル語 (橋本 2020) —が見られるとの指摘があった。結合価の操作に関わるという点では使役と受動の関係と共通なので、オーストロネシア諸語において使役と相互が関連している可能性もあるかもしれない。ただし、本稿では相互の **paRi-* が使役の **pa-* から派生された可能性については、現時点では不明であるとの見解に止める。

- an-du-an-an*⁹ 「見つけられた」 (中部)
- c. *an-* 「受ける」、*pas-* 「迎える」
an-pas-duu 「歓迎する、受け取る」 (南部)
an-pas-du-un 「歓迎された、受け取られた」 (南部)
- d. *ka-* 「する、作る」
ka-duu 「見つける」 (中部・南部)
ka-du-an-an 「見つけられた」¹⁰
ka-du-an-an=in 「見つけられた」 (中部)
ka-du-an=in 「見つけられた」、*in-ka-du-an* 「見つけた」 (中部)
ka<i>-du-an 「見つけられたもの」 (南部)¹¹
ka<i>-du-an-an 「見つけられたもの」 (南部)
<*in*>*ka-du-an=in* 「見つけられたもの」 (南部)¹²
- e. *kalin-* 「追う」¹³、*si-* 「引く、得る」

⁹ この形式では接尾辞としての*-an* (非動作主態・場所主語) が重複され、*-an-an* になっているようである。何故かは不明である。ちなみに、語彙的接頭辞としての*an-*と接尾辞の*-an*が同一の形式である。もしかしたら、両者は意味的な繋がりも見られるのかも知れないが (読み合わせ担当者の1人からの示唆的コメントによる)、本稿ではこれらは同音意義の関係にあるとの見解に止める。

¹⁰ 脚注9と同様に、この形式では接尾辞としての*-an*が重複されているようである。何故かは不明である。重複されていない対となる形式*ka-du-an=in*も見られる。接尾辞*-an*の重複はこの他にも*ka<i>-du-an-an*に見られる。

¹¹ この形式*ka<i>-du-an*の交替形として、語頭の*ka*が見られない*<i>-du-an*という形式も挙げられる。

¹² 経験を表す接辞は<*in*>または<*i*>というように接中辞として現れるが (黄・施 2016: 29)、ここではなぜか接頭辞の*in-*のようになっている (脚注11の<*i*>-*du-an*においても、*i*は接頭辞のようである)。ちなみに、Yu (2007: 144–191)によると語の両端付近に出現する接中辞は接頭辞や接尾辞に由来する。だとすれば上述のブヌン語の<*i*>が接頭辞としても現れても奇異な現象ではないだろう。

¹³ 表2において同形式の語彙的接頭辞は「風の吹く状況下で～する」という意味で挙げられているが、ここではその意味ではそぐわない。そのためNojima (1996: 23)に見られた、*kalin-*の別の意味である「追う」を参照した。

- kalin-pa-si-du-un* 「無理やり面と向かわせられる」 (南部) ¹⁴
- f. *la-* 「会う」
la-da-du-an 「(悪い行為を) 見つける」 (中部)
- g. *pal-* 「～の状態である」、*an-* 「受ける」
pal-an-duu 「出くわす、会う、面と向かう」 (中部・南部)
ma-pal-an-duu 「出くわす、会う、面と向かう」 (南部)
pa<i>l-an-du-an 「出会った人」 (南部)
- h. *pan-* 「止まる」
pan-duu 「止まる」 (中部)
pan-du-an 「止まる場所」 (中部)
- i. *sa-* 「見る」
sa-duu 「見る」 (北部・中部・南部)
- j. *san-* 「投げる」
san-duu 「的に当たる」 (北部・中部)
san-du-an 「石などが体に当たる」 (中部)
- k. *tin-* 「突然～する」、*pas-* 「迎える」
ma-tin-pas-duu 「突然来る、歓迎する」 (南部)
- l. *tu-* 「望ましくない状態である」 ¹⁵
tu-du-an 「石などが体に当たる」 (中部)
- m. *un-* 「行く」
un-du-an 「出くわす、会う、面と向かう」 (中部)

これら (a) から (m) の語例とその意味を検討すると、確かに Nihira (1988) の指摘通り、*duu* の共通の意味として「会う」が取り出せる。しかし、(3) に挙げられた語例は実際には *duu* から派生される語の一部であり、*duu* の原義を決定するデータとして十分とは言えない。

¹⁴ この語の形成方法は (2) にある Nojima (1996) の形態素順序にそぐわない。まず 2 つの語彙的接頭辞 *kalin-* と *si-* があるが、その間に使役の接頭辞 *pa-* が割って入っている。複数の語彙的接頭辞と他の接頭辞との順序がどのようになっているかは今後の課題である。

¹⁵ この語彙的接頭辞は表 2 には登場しない (同音異義の *tu-* 「言う」は登場するが)。この語彙的接頭辞の意味は野島 (2010) を参照した。そこでは *matu-* が「望ましくない状態」「姿勢」を表す接頭辞として挙げられる。上記の *tu-du-an* の例では接頭辞は *tu-* のみであるため、*matu-* は接頭辞 *ma-* (動作主態) と語彙的接頭辞 *tu-* から成るものと判断した。

そこで、本稿ではより多くのデータを基に語根 *duu* の原義が「会う」であるのかそうでないのかを再検討する。方法として、まず胡 (2016) によるタクバヌアズ方言のブヌン語辞典から、*duu* を含むと考えられる語形を 286 形式抜き出した。そして、それらをまず語彙的接頭辞を含まない形式と含む形式に分けた。語彙的接頭辞を含む複合動詞とその派生形については、語彙的接頭辞の形式によって 53 のタイプに分類した。例えば *sa-*「見る」を含むものがそのうちの 1 つである。これら *duu* から派生された語、語彙的接頭辞と *duu* から作られた複合動詞などの意味を検討することで、*duu* の原義を引き出す。

胡 (2016) にはブヌン語のどの方言を収録した辞書であるかは記されていないが、次の理由により、胡 (2016) の収録した方言がタクバヌアズ方言であると考えられる。本書の出版元は台東縣延平郷桃源國民小學であり、序文に *Pasikau* という集落名が記される。林 (2018: 2018) によると、台東縣延平郷桃源郷における *Pasikau* 集落はブヌン族のイスブクン系とタクバヌアズ系が居住すると述べる。胡 (2016) の語彙は、イスブクン方言とは異なる特徴を見せる。

3 語根 *duu* の派生形

表 1 では、本稿筆者が胡 (2016) から抜き出した *duu* から派生された語を示す。左列では胡 (2016) の挙げた語形をそのまま示し、その右隣に胡 (2016) の挙げた中国語による意味を示す。その右隣には、本稿筆者による胡 (2016) の挙げた語形の形態素分析と、中国語による意味の日本語訳を示す¹⁶。

胡 (2016) には使役の接頭辞が付いて派生されたものが多く含まれる。使役を表す典型的な接頭辞は *pa-* であるが野島 (2011) によるとこれは動詞に付加するという。野島 (2011) はブヌン語には *pi-* という接頭辞があり、これは形容詞に付いて使役の意味を表すという。この接頭辞 *pi-* に相当すると思われるものを含む形式が見られ、例えば *ma-pi-da-duu* (調整する) などがある。そのため、*duu* の重複形である *da-duu* は形容詞として捉えられていることになる。これは Ca-重複の形式を採っているが、Ca-重複とは語根 *duu* の子音 *d* を重複し、その後ろに母音 *a* を加えた *da-* が語根の前に付加した形式である。このような重複形式を Ca-重複と呼び、黄・施 (2016: 33) では動作の持続、繰り返しを表すとする。

以下の語例には接頭辞 *ki-* を持つものも含んだ。例えば、*ma-ki-da-duu* (適合する) などがある。この *ki-* が現れる場合、形容詞と見なされる *da-duu* に付加する。しかも使役の意味も読み取れることから、本稿では *ki-* を *pi-* の変化形の一種とみなし使役の派生接辞とした。た

¹⁶ 2.4 節で述べたように、*duu* の母音の長さは語の中において出現する位置によって異なるが、胡

(2016) にもその傾向が見られる。胡 (2016) では *duu* の表記が、*du* で現れる場合と *duu* で現れる場合があり、母音 *u* が 1 つだけの *du* は接尾辞など語根の後ろに別の形態が付いた非語末音節に多くみられ、母音 *u* が 2 つの *duu* は語末音節に多く見られるという傾向がある。ただし、接尾辞などが付いた非語末音節における場合でも *duu* で表記される語や、語末音節における場合でも *du* で表記される語もあった。

だし、*ki-*の前にさらに使役接辞 *pa-*が付いて *pa-ki-*となる語例もある。例えば、*pa-ki-da-duu* (調整させる) など。

表 1: *duu* から派生された語 (語彙的接頭辞の付加無し)

胡 (2016) の語形と意味		本稿における形態素分析と日本語訳	
<i>dadu</i>	適合	<i>da-duu</i>	適切である
<i>duan</i>	找到、偶而	<i>du-an</i>	見つける、まれに
<i>duduan</i>	偶而	<i>du-du-an</i>	まれに
<i>dudududu</i>	中等、不大不小	<i>du-du-du-duu</i>	中ぐらいである、大きくも小さくもない
<i>duu</i>	喜愛、中意	<i>duu</i>	好きである、意に合う
<i>isdadu</i>	治好、正合本意、 適合	<i>is-da-duu</i>	傷が癒える、本意である、適切である
<i>isdaduan</i>	正好、焼到	<i>is-da-du-an</i>	ちょうどいい、焼けた
<i>kidadu</i>	合適	<i>ki-da-duu</i>	適切である
<i>madadu</i>	適合	<i>ma-da-duu</i>	適切である
<i>maduu</i>	愛、喜愛 (中意)	<i>ma-duu</i>	好む、好きである、意に合う
<i>makidadu</i>	適合	<i>ma-ki-da-duu</i>	適合する
<i>mapakidadu</i>	使其調正	<i>ma-pa-ki-da-duu</i>	調整させる
<i>mapidadu</i>	調正	<i>ma-pi-da-duu</i>	調整する
<i>nadadu</i>	大概	<i>na=da-duu</i>	おおよそ
<i>pidadu</i>	調正	<i>pi-da-duu</i>	調整する
<i>pidaduun</i>	順勢調正、調正	<i>pi-da-du-un</i>	ついでに調整する、調整する
<i>pakidadu</i>	使其調正	<i>pa-ki-da-duu</i>	調整させる
<i>pakidaduun</i>	使其調正	<i>pa-ki-da-du-un</i>	調整させる

表 1 を検討すると *duu* から派生された語に共通する意味として、「適切」「適合」「調整」といったキーワードが候補として挙げられる。また、*duu* そのままの形式が上から 5 つ目に挙げられており「好きである、意に合う」の意味である。その次に単純な派生形の 1 つとして上から 9 つ目の *ma-duu* が挙げられるが、「好む、好きである、意に合う」という同様の意味である。これらも「適切」「適合」と関連した意味を持つと言える。次節では *duu* を含む語基に語彙的接頭辞が付加した複合動詞でも、*duu* に共通する意味として、「適切」「適合」などが見られるかを検討する。

4 語彙的接頭辞と *duu* から成る複合動詞とその派生形

続いて本節では胡 (2016) から抜き出した *duu* を含む語のうち、語彙的接頭辞をも含む複合動詞を表 2 に提示し、考察する。これらは語彙的接頭辞の形式によって分類した。ブヌン語の語彙的接頭辞については、網羅的なリストがあるわけではないが、Nojima (1996) の

本文中におけるイスブクン方言の語彙的接頭辞を参照した。以下タクバナズ方言の語彙項目にはイスブクン方言と共通の語彙的接頭辞が見られることもあったが、それ以外の多くの語彙的接頭辞については参照できる文献が得られなかった。そのため、共通の語彙的接頭辞を持った形式から意味的に共通する部分を探し出し、本稿著者がそれら意味を暫定的に付した。それでも意味が判然としない語彙的接頭辞もあり、その場合は「？」とした。

以下では *duu* から Ca-重複によって派生された語基 *da-duu* が頻出する。この他、語頭音節 CV を重複する CV-重複も見られる（例えば *la-du-duu* 「偶然に会う」など）。黄・施 (2016: 32) では CV-重複も動作の持続、繰り返しを表すとする。

以下ではまず語彙的接頭辞の形式を挙げ、続いて意味を示す。そして本稿筆者が胡 (2016) から抜き出した *duu* と各語彙的接頭辞の複合動詞、または複合動詞から派生された形式とその意味を示し、右隣に本稿における形態素分析と日本語訳を付す。以下では 53 タイプの語彙的接頭辞に分類したが、それぞれの語例において当該の語彙的接頭辞を太字で示した。

表 2: *duu* を含む語幹から語彙的接頭辞によって派生された語

語彙的接頭辞 ¹⁷	胡 (2016) の語形と意味	本稿における形態素分析と日本語訳
<i>an-</i> 「受ける」 ¹⁸	<i>anpasduav</i> 要迎接	<i>an-pas-du-av</i> 迎えに行こう
	<i>anpasduavang</i> 要先迎接	<i>an-pas-du-av=ang</i> 先に迎えに行こう
	<i>anpasduunin</i> 已經迎接	<i>an-pas-du-un=in</i> すでに迎えに行った
	<i>naampasdun</i> ¹⁹ 要來迎接	<i>na=an-pas-du-un</i> これから迎えに行く
<i>asi-</i> 「？」	<i>asiduu</i> 圓滿、中意、滿意	<i>asi-duu</i> 円満である、意に合う、満足である

¹⁷ 同音意義の語彙的接頭辞が 2 セット見られた。1 つは *kan-* であり「足で～する」と「～の状態である」を表す。もう 1 つは *san-* であり「清潔である」、「すぐに」、「投げる」を表す。

¹⁸ イスブクン方言において同形式の語彙的接頭辞 *an-* は「運ぶ」を意味する (Nojima 1996: 21)。タクバナズ方言の語例ではこの意味はそぐわないようである。タキバカ方言に *antala* 「受け取る」という語があるが (原住民族語言研究發展基金會 2020)、語頭の *an* はこの語彙的接頭辞 *an-* ではないかと思われる。この語を参照し、語彙的接頭辞 *an-* の意味は暫定的に「受ける」としておいた。

¹⁹ 語彙的接頭辞 *an-* とその次の語彙的接頭辞 *pas-* の形態素境界において鼻音 *n* が後続する *p* の調音点に同化し、音声的に *m* に代わったであろうことが、胡 (2016) の表記である *naampasdun* から読み取れる。

ik- 「食べる」 ²⁰	<i>ikdadu</i>	吃的適合	<i>ik-da-duu</i>	適度に食べる
	<i>ikdaduun</i>	吃的正好	<i>ik-da-du-un</i>	ちょうどよく食べ
	<i>ikduu</i>	吃太飽、吃撐著、吃起來真	<i>ik-duu</i>	食べ過ぎる、腹いっぱい食べる、満足するまで食べる
it- 「死ぬ」 ²¹	<i>itdadu</i>	正好死亡	<i>it-da-duu</i>	ちょうどよく死ぬ
	<i>itdaduan</i>	正好死亡	<i>it-da-du-an</i>	ちょうどよく死ぬ
	<i>pa-itdadu</i>	使其正好死亡	<i>pa-it-da-duu</i>	ちょうどよく死なせる
	<i>pa-itdaduun</i>	使其正好死亡	<i>pa-it-da-du-un</i>	ちょうどよく死なせる
ka- 「する、作る」 ²²	<i>kadadu</i>	對上眼、正好	<i>ka-da-duu</i>	気に入る、ちょうどいい
	<i>kadaduan</i>	適合我的想法	<i>ka-da-du-an</i>	自分の考えに適合する
	<i>kaduu</i>	中意、合意	<i>ka-duu</i>	意に合う
	<i>mapakadadu</i>	相互中意、相互合適	<i>ma-pa-ka-da-duu</i>	互いに意に合っている、互いに合っている
	<i>mapakaduu</i>	相互中意	<i>ma-pa-ka-duu</i>	互いに意に合っている
	<i>mapatukadadu</i>	相稱	<i>ma-pa-tu-ka-da-duu</i>	呼び合う
	<i>mapinkaduan</i>	使其找到	<i>ma-pin-ka-du-an</i>	探させる
	<i>pakadadu</i>	相互合適	<i>pa-ka-da-duu</i>	互いに合う

²⁰ イスブクン方言における語彙的接頭辞'ik-も「食べる」を意味する (Nojima1996: 14)。ただし Nojima (1996: 14) の表記では接頭辞の初頭に声門閉鎖音がある。

²¹ イスブクン方言における語彙的接頭辞'it-も「死ぬ」を意味する (Nojima 1996: 22)。ただし Nojima (1996: 22) の表記では接頭辞の初頭に声門閉鎖音がある。

²² タクバヌアズ方言におけるこの語彙的接頭辞の意味は上記の語例を検討しても判然としないため、イスブクン方言の同形式の語彙的接頭辞 ka-の意味「作る、する」 (Nojima 1996: 9) を参照した。ただし、Nojima (1996: 9) ではこの語彙的接頭辞は名詞に付加して動詞を派生されるものだとする。上記の ka-は語根 duu についているが、この語根は Nihira (1988) が「会う」と意味を付したことから判断するに名詞ではないだろう。そうだとすれば上記の ka-は、動詞派生の ka-とは異なる性質のものかもしれない。

	<i>pakadaduun</i>	相互	<i>pa-ka-da-du-un</i>	互いに～する
	<i>pakaduu</i>	相互中意	<i>pa-ka-duu</i>	互いに意に合う
	<i>palankaduu</i>	不期而 遇、遇見	<i>pa-lan-ka-duu</i>	思いがけず会う、 会う
	<i>patukadadu</i>	雙方適 合、相稱	<i>pa-tu-ka-da-duu</i>	互いが合う、互い に呼ぶ
	<i>patukadaun</i>	對上眼、 臭氣相投	<i>pa-tu-ka-da-un</i>	気に入る、意気投 合する
	<i>patukaduu</i>	自由戀愛 而結合	<i>pa-tu-ka-duu</i>	自由恋愛の結果一 緒になる
	<i>sinkaduan</i>	曾經找到	<i>sin-ka-du-an</i>	すでに探した
<i>kali-</i> 「打 つ」 ²³	<i>kalidadu</i>	打的好、 正好打到	<i>kali-da-duu</i>	ちょうどよく打 つ、ちょうどよく 打てる
	<i>kalidaduun</i>	正好打到	<i>kali-da-du-un</i>	ちょうどよく打て る
	<i>kaliduu</i>	打中	<i>kali-duu</i>	打撃が狙いに当た る
	<i>kalipasdu</i>	逆向（迎 面而 來）、迎 面而打	<i>kali-pas-duu</i>	逆行する、向かっ てくる、迎え打つ
	<i>mapakalidadu</i>	相互正好 打到	<i>ma-pa-kali-da-duu</i>	互いにちょうどよ く打つことになる
	<i>pakalidadu</i>	相互正好 打到	<i>pa-kali-da-duu</i>	互いにちょうどよ く打つことになる
	<i>pakalidaduun</i>	相互正好 打到	<i>pa-kali-da-du-un</i>	互いにちょうどよ く打つことになる
<i>kalin-</i> 「風 の吹く状 況下で～ する」 ²⁴	<i>kalinpasdu</i>	迎風而 來、迎風 而打	<i>kalin-pas-duu</i>	向かい風の中を来 る、向かい風の中 で打つ
	<i>kalinpasduun</i>	迎風而 來、迎風 而被打	<i>kalin-pas-du-un</i>	向かい風の中を来 る、向かい風の中 で打たれる

²³ イスブクン方言における語彙的接頭辞 *kali-* も「打つ」を意味する (Nojima 1996: 23)。

²⁴ イスブクン方言における語彙的接頭辞 *kalin-* も「風によって～する」を意味する (Nojima 1996: 13)。

kan- 「足で ～する」 ²⁵	<i>kandadu</i>	順勢踢	<i>kan-da-duu</i>	勢いのままに蹴る
	<i>kandaduan</i>	正好踏到	<i>kan-da-du-an</i>	ちょうど踏むことになる
kan- 「～の 状態であ る」	<i>kandaduu</i>	正好状	<i>kan-da-duu</i>	ちょうどいい状態
	<i>makandadu</i>	順勢、維 持原様	<i>ma-kan-da-duu</i>	順調である、現状を維持する
	<i>makanduu</i>	原地不 動、維持 原様	<i>ma-kan-duu</i>	元の場所から動かない、現状を維持する
	<i>makansadu</i>	保持看見 状態	<i>ma-kan-sa-duu</i>	見える状態を保つ
kat- 「つか む」	<i>katdadu</i>	保持其正 好状	<i>pa-kan-da-du-un</i>	よい状態を保つ
	<i>katdaduun</i>	抓對了、 捉得正好	<i>kat-da-duu</i>	正しいものを掴む、ちょうどよく掴む
kau- 「なげ る」 ²⁶	<i>katdaduun</i>	抓的適合	<i>kat-da-du-un</i>	適切に掴む
	<i>kaudadu</i>	丟的正好	<i>kau-da-duu</i>	ちょうどよく投げる
	<i>kaudaduan</i>	丟的正好	<i>kau-da-du-an</i>	ちょうどよく投げる
	<i>kaudaduun</i>	丟的正好	<i>kau-da-du-un</i>	ちょうどよく投げる
	<i>makaudadu</i>	丟的正 好、買的 好	<i>ma-kau-da-duu</i>	ちょうどよく投げる、よい買い物をする
kaun- 「回 す」	<i>pakaudadu</i>	丟的正好	<i>pa-kau-da-duu</i>	ちょうどよく投げる
	<i>kaundadu</i>	順勢轉	<i>kaun-da-duu</i>	方向通りに回す

²⁵ イスブクン方言における語彙的接頭辞 *kan-* も「足で～する」を意味する (Nojima 1996: 11)。

²⁶ イスブクン方言において同形式の語彙的接頭辞 *kau-* は「手で～する」を意味する (Nojima 1996: 10)。タクバナアズ方言の「なげる」との関連が見られる。

	<i>makaundadu</i>	順便、使其順勢轉	<i>ma-kaun-da-duu</i>	ついでにする、方向通りに回す
	<i>pakaundadu</i>	使其順勢轉	<i>pa-kaun-da-duu</i>	方向通りに回させる
<i>kin-</i> 「追いかける」	<i>kindadu</i>	放得正好	<i>kin-da-duu</i>	ちょうどよく置く
	<i>kindaduun</i>	順便去追	<i>kin-da-du-un</i>	ついでに追いかける
	<i>makindadu</i>	跟對了、順便去追	<i>ma-kin-da-duu</i>	うまく後をつけた、ついでに追いかける
	<i>pakindadu</i>	順便去追	<i>pa-kin-da-duu</i>	ついでに追いかける
	<i>pakindaduun</i>	順便去追	<i>pa-kin-da-du-un</i>	ついでに追いかける
<i>kis-</i> 「刺す」 ²⁷	<i>kisdadu</i>	刺中	<i>kis-da-duu</i>	刺して当たる
	<i>kisduu</i>	刺中、治癒有效	<i>kis-duu</i>	刺して当たる、傷がうまく癒える
	<i>kispasdu</i>	等待馬上向前刺	<i>kis-pas-duu</i>	待ち伏せして素早く前に出て刺す
	<i>kispasduan</i>	等待馬上向前刺	<i>kis-pas-du-an</i>	待ち伏せして素早く前に出て刺す
	<i>pakisdadu</i>	相對刺	<i>pa-kis-da-duu</i>	互いに向き合って刺す
<i>kus-/makus-</i> 「現れる」 ²⁸	<i>kusdadu</i>	順勢出現	<i>kus-da-duu</i>	順調に出現する
	<i>makusdadu</i>	出現出對了、正好出現、順	<i>ma-kus-da-duu</i>	ちょうどよく現れる、順調に出現する
	<i>makusdaduan</i>	順勢出現	<i>ma-kus-da-du-an</i>	順調に出現する

²⁷ イスブクン方言における語彙的接頭辞 *kis-* も「刺す」を意味する (Nojima 1996: 8)。

²⁸ イスブクン方言における *makus-* も「現れる」を意味する (Nojima 1996: 15)。タクバヌアズ方言では *kus-da-duu* のように語頭に *ma-* を持たない語彙的接頭辞が見られるため、この方言においては *kus-* が語彙的接頭辞の要素とし、*ma-kus-da-duu* などにおける語頭の *ma-* は動作主態接頭辞と考えられる。

<i>kun-</i> 「？」	<i>mapakundadu</i>	保持其正 好状	<i>ma-pa-kun-da-duu</i>	ちょうどいい状態 を保つ
<i>la-</i> 「会 う」 ²⁹	<i>ladadu</i>	撞個正著	<i>la-da-duu</i>	出くわす
	<i>laduduu</i>	恰巧遇 到、碰上 撞見	<i>la-du-duu</i>	偶然に会う
	<i>laduduun</i>	恰巧被遇 到	<i>la-du-du-un</i>	偶然に会われる
	<i>lamaiduduu</i>	中音階	<i>la-mai-du-duu</i>	中ほどの音階
<i>lan-</i> 「会 う」 ³⁰	<i>palankaduu</i>	不期而 遇、遇見	<i>pa-lan-ka-duu</i>	思いがけず会う、 会う
	<i>mapalanduu</i>	相遇、不 期而遇	<i>ma-pa-lan-duu</i>	会う、思いがけず 会う
	<i>palanduu</i>	遇見、不 期而遇	<i>pa-lan-duu</i>	会う、思いがけず 会う
<i>li-</i> 「？」	<i>maliduu</i>	合適、可 以調適、 跟得上	<i>ma-li-duu</i>	適合する、適応で きる、後について いくことができる
<i>lis-</i> 「つか む」 ³¹	<i>lisdadu</i>	抓的好、 捉的正好	<i>lis-da-duu</i>	ちょうどよく掴む
	<i>lispasdu</i>	迎頭抓 住、等待 馬上去迎 接	<i>lis-pas-duu</i>	出合いがしら掴 む、待ち合わせし て素早く迎える
	<i>lispasduan</i>	馬上去迎 接	<i>lis-pas-du-an</i>	素早く迎えに行く
	<i>palisdadu</i>	捉的正好	<i>pa-lis-da-duu</i>	ちょうどよく掴む
	<i>palisdaduun</i>	捉的正好	<i>pa-lis-da-du-un</i>	ちょうどよく掴む

²⁹ イスブクン方言において同形式の語彙的接頭辞 *la-* は「押す」を意味する (Nojima 1996: 10)。タクバヌアズ方言の語例ではこの意味はそぐわないようである。

³⁰ この語彙的接頭辞 *lan-* はその直前の語彙的接頭辞である *la-* と意味的に関連するため、派生関係にあると言えるだろう。つまり *la-* の後ろに *n* を付けて *la-n-* が生じたと考えられる。この *n* の機能については不明である。

³¹ イスブクン方言において同形式の語彙的接頭辞 *lis-* は「眠る」を意味する (Nojima 1996: 9)。タクバヌアズ方言の語例ではこの意味はそぐわないようである。

lun- 「着 る」	<i>lundadu</i>	正好穿上	<i>lun-da-duu</i>	ちょうどよく着る
	<i>malundadu</i>	正好穿上	<i>ma-lun-da-duu</i>	ちょうどよく着る
	<i>mapalundadu</i>	使其正好 穿上	<i>ma-pa-lun-da-duu</i>	ちょうどよく着さ せる
mai-/main- 「中ぐら いであ る」 ³²	<i>lamaiduduu</i>	中音階	<i>la-mai-du-duu</i>	中ほどの音階
	<i>maiduduu</i>	中等、剛 好 (大小 適中)	<i>mai-du-duu</i>	中ほどである、ち ょうどいい、大き さが適切である
	<i>maindu</i>	英俊、中 等、中間	<i>main-duu</i>	ハンサムである、 中ぐらいである
	<i>talmainduduu</i>	長得剛剛 好	<i>tal-main-du-duu</i>	ちょうどいい姿に 成長する
	<i>talmainduu</i>	英俊、蕭 灑	<i>tal-main-duu</i>	ハンサムである、 垢ぬけている
mal-/pal- 「～の状 態であ る」 ³³	<i>maldadu</i>	適合、順 勢、保持 良好状	<i>mal-da-duu</i>	適切である、順調 である、よい状態 を保つ

³² 脚注 30 と同類であるが、*mai*-の後ろに子音 *n* を付けることで *mai-n*-が派生されると考えられる。

³³ 黄・施 (2016: 117) には持続的アスペクトを表す接頭辞として *al*-が見られるが、*mal-/pal-*はこれに関連する。

さらに、語彙的接頭辞の対を成す *mal/pal*, *mat/pat*, *min/pin*, *mun/pun* では、語頭の *m* が *p* に替わった形式が対になっている。同様の音韻変化は黄・施 (2016: 40) にも報告されているが、そこでは *p* が脱落する (そして *m* が付く) と説明している。しかしこれは、筆者の分析では唇音子音 *p* の鼻音代替が起きていると考えられる。語彙的接頭辞の語根の形式が *p* 系であり、これに対して動作主態を表す接頭辞 *m*- (*ma*-に由来) が付加した場合、*p* が *m* に置き換ったと考えられる。同様の鼻音代替はセデック語 (オーストロネシア語族、アタヤル語群) においても見られる (落合 2016: 126–127)。しかし *mal/pal*, *mat/pat*, *min/pin*, *mun/pun* では、さらに複雑な状況も読み取れる。本来語根の一部であった語頭の *p* が、使役を表す *p*- (*pa*-由来) と再解釈されるようになった語形も見られる (*ma-pal-da-duu* 適合させる、*ma-pal-pas-duu* 迎える状態を保たせる、*pal-da-duu* 合わせる、*ma-pin-ka-du-an* 探させる、*pa-pin-da-duu* よくさせる、*pin-da-du-un* よくさせる、*ma-pun-pas-duu* 人を遣わせて迎えに行かせる、*pa-pun-da-duu* ちょうどよく行かせる、*pa-pun-*

	<i>malduu</i>	適合	<i>mal-duu</i>	適切である
	<i>malpasdu</i>	迎接的状態	<i>mal-pas-duu</i>	迎える状態
	<i>mapaldadu</i>	使其合適	<i>ma-pal-da-duu</i>	適合させる
	<i>mapalpasdu</i>	使其保持迎接状態、迎接的状态	<i>ma-pal-pas-duu</i>	迎える状態を保たせる、迎える状態
	<i>paldadu</i>	適合	<i>pal-da-duu</i>	合う
	<i>paldaduu</i>	使其適合	<i>pal-da-duu</i>	合わせる
<i>mat-/pat-</i> 「植える」	<i>mapatdadu</i>	正好種植	<i>ma-pat-da-duu</i>	ちょうどよく植える
	<i>matdadu</i>	正好種植	<i>mat-da-duu</i>	ちょうどよく植える
	<i>patdadu</i>	正好種植	<i>pat-da-duu</i>	ちょうどよく植える
	<i>patdaduan</i>	正好有種植到	<i>pat-da-du-an</i>	ちょうどよく植えることができた
	<i>patdaduun</i>	正好種植	<i>pat-da-du-un</i>	ちょうどよく植える
<i>min-/pin-</i> 「～に変化する」 ³⁴	<i>mindadu</i>	治癒、治療好、變好	<i>min-da-duu</i>	傷が癒える、よくなる
	<i>mapapindadu</i>	使其變好	<i>ma-pa-pin-da-duu</i>	よいほうに変化させる
	<i>mapindadu</i>	治癒、變好	<i>ma-pin-da-duu</i>	傷が癒える、よくなる
	<i>mapinkaduan</i>	使其找到	<i>ma-pin-ka-du-an</i>	探させる
	<i>papindadu</i>	使其變好	<i>pa-pin-da-duu</i>	よくさせる
	<i>papindaduun</i>	使其變好	<i>pa-pin-da-du-un</i>	よくさせる
	<i>pindadu</i>	治癒、使其變好	<i>pin-da-duu</i>	傷が癒える、よくさせる

da-du-un ちょうどよく行かせる、*pun-da-du-un* ちょうどよく行かせる、*pun-pas-du-un* 人を遣わせて迎えに行かせる)。この点は今後の検討を要する。

³⁴ 野島 (2010: 90) では、*min-*は名詞や形容詞に付加して「～になる」という意味を表す語を派生するという。ここでは語彙的接頭辞とは述べていない。

	<i>pindaduun</i>	變好、使 其變好	<i>pin-da-du-un</i>	よくなる、よくさ せる
	<i>sanmindaduain</i>	潔淨吧 (治好)	<i>san-min-da-du-a=in</i>	清潔にきなさい (治すこと)
	<i>sanmindaduang</i>	潔淨吧 (治好)	<i>san-min-da-duu=ang</i>	清潔にきなさい、 (治すこと)
	<i>sanmindadui</i>	希望 (你) 治	<i>san-min-da-du-i</i>	恢復することを願 う
<i>mun-/pun- /un-</i> 「行 く」 ³⁵	<i>mapapundadu</i>	使其去的 正好	<i>ma-pa-pun-da-duu</i>	ちょうどよく行か せる
	<i>mapundadu</i>	去的正好	<i>ma-pun-da-duu</i>	ちょうどよく行く
	<i>mapunpasdu</i>	叫人去迎 接	<i>ma-pun-pas-duu</i>	人を遣わせて迎え に行かせる
	<i>mundadu</i>	去的正好	<i>mun-da-duu</i>	ちょうどよく行く
	<i>munpasdu</i>	迎接	<i>mun-pas-duu</i>	迎える
	<i>papundadu</i>	使其去的 正好	<i>pa-pun-da-duu</i>	ちょうどよく行か せる
	<i>papundaduun</i>	使其去的 正好	<i>pa-pun-da-du-un</i>	ちょうどよく行か せる
	<i>pundadu</i>	去的正好	<i>pun-da-duu</i>	ちょうどよく行く
	<i>pundaduun</i>	使其去的 正好	<i>pun-da-du-un</i>	ちょうどよく行か せる
	<i>punpasduun</i>	叫人去迎 接	<i>pun-pas-du-un</i>	人を遣わせて迎え に行かせる

³⁵ Blust and Trussel (2010) にブヌン語において *mu-* という接頭辞があり、movement prefix (動きを意味する接頭辞) であるとする。ここに挙げた *mun-/pun-/un-* もこれに由来すると考えられる。ただし、これらの形式では母音 *u* の後に子音 *n* が付いている。この子音 *n* が付いていない形式表 2 の末尾の語彙的接頭辞 *u-* に見られる。ただし *u-* では、Blust and Trussel (2010) における形式 *mu-* の語頭の *m* が見られない。

また *pun-* について、語頭の *p* が使役を持つことがその語形の意味から示唆される語例が *pun-da-du-un* 「ちょうどよく行かせる」と *pun-pas-du-un* 「人を遣わせて迎えに行かせる」の 2 つ見られる。この他に *pun-* を含む語として *pun-da-duu* 「ちょうどよく行く」があるがこれには使役の意味が見られない。さらに、*pa-pun-da-duu* と *pa-pun-da-du-un* は共に「ちょうどよく行かせる」という使役の意味を示すが、これらには使役の接頭辞 *pa-* によるものであり、その後ろの *pun-* が使役の意味を含むかどうかは分からない。語彙的接頭辞 *pun-* の使役性の有無の検討については今後の課題とする。

	<i>undaduan</i>	去的正好	<i>un-da-du-an</i>	ちょうどよく行く
	<i>undaduun</i>	去的正好	<i>un-da-du-un</i>	ちょうどよく行く
	<i>unpasduav</i>	要迎接	<i>un-pas-du-av</i>	迎えに行こう
	<i>unpasduun</i>	迎接	<i>un-pas-du-un</i>	迎えに行く
<i>pan-</i> 「停まる」 ³⁶	<i>mapandadu</i>	正好停住	<i>ma-pan-da-duu</i>	ちょうどよく停める
	<i>mapapandadu</i>	正好停住	<i>ma-pa-pan-da-duu</i>	ちょうどよく停める
	<i>pandadu</i>	正好停住、使其正好停住	<i>pan-da-duu</i>	ちょうどよく停まる、ちょうどよく停まらせる
	<i>pandaduun</i>	正好停住、使其正好停住	<i>pan-da-du-un</i>	ちょうどよく停まる、ちょうどよく停まらせる
	<i>pandu</i>	棲息、停留	<i>pan-duu</i>	泊まる、停まる
	<i>pandua</i>	要停下來	<i>pan-du-a</i>	停まれ
	<i>panduan</i>	停留處	<i>pan-du-an</i>	停まる所
	<i>panduduan</i>	停留處	<i>pan-du-du-an</i>	停まる所
	<i>panduun</i>	被停留	<i>pan-du-un</i>	留まらされる
	<i>panduanduan</i>	恰巧、偶而	<i>pan-du-an-du-an</i>	偶然、まれに
	<i>panduin</i>	已經停下來了	<i>pan-duu=in</i>	すでに停まった
	<i>papandadu</i>	使其正好停住	<i>pa-pan-da-duu</i>	ちょうどよく停まらせる
	<i>papandu</i>	使其停下	<i>pa-pan-duu</i>	停まらせる
	<i>papanduan</i>	停棲處、常常停留	<i>pa-pan-du-an</i>	泊まる所、しばしば留まる
	<i>sipandu</i>	停下來、煞住	<i>si-pan-duu</i>	停まる、停める
<i>pap-</i> 「すぐに」	<i>papdu</i>	立即做	<i>pap-duu</i>	すぐにする
<i>pas-</i> 「迎える」	<i>anpasduav</i>	要迎接	<i>an-pas-du-av</i>	迎えに行こう

³⁶ イスブクン方言において同形式の語彙的接頭辞 *pan-*は「着る」を意味する (Nojima 1996: 13)。タクバヌアズ方言の語例ではこの意味はすぐわなないようである。Nihira (1988) を引用した (3) においても *pan-*「止まる」の例が挙げられていた。

<i>anpasduavang</i>	要先迎接	<i>an-pas-du-av=ang</i>	先に迎えに行こう
<i>anpasduunin</i>	已經迎接	<i>an-pas-du-un=in</i>	すでに迎えに行った
<i>kalipasdu</i>	逆向 (迎面而來)、迎面而打	<i>kali-pas-duu</i>	逆行する、向かってくる、迎え打つ
<i>kalinpasdu</i>	迎風而來、迎風而打	<i>kalin-pas-duu</i>	向かい風の中を来る、向かい風の中で打つ
<i>kalinpasduun</i>	迎風而來、迎風而被打	<i>kalin-pas-du-un</i>	向かい風の中を来る、向かい風の中で打たれる
<i>kispasdu</i>	等待馬上向前刺	<i>kis-pas-duu</i>	待ち伏せして素早く前に出て刺す
<i>kispasduan</i>	等待馬上向前刺	<i>kis-pas-du-an</i>	待ち伏せして素早く前に出て刺す
<i>lispasdu</i>	迎頭抓住、等待馬上去迎接	<i>lis-pas-duu</i>	出会いがしら掴む、待ち合わせして素早く迎える
<i>lispasduan</i>	馬上去迎接	<i>lis-pas-du-an</i>	素早く迎えに行く
<i>malpasdu</i>	迎接的狀態	<i>mal-pas-duu</i>	迎える状態
<i>mapalpasdu</i>	使其保持迎接狀態、迎接的狀態	<i>ma-pal-pas-duu</i>	迎える状態を保たせる、迎える状態
<i>mapunpasdu</i>	叫人去迎接	<i>ma-pun-pas-duu</i>	人を遣わせて迎えに行かせる
<i>matinpasdu</i>	去迎接	<i>ma-tin-pas-duu</i>	迎えに行く
<i>munpasdu</i>	迎接	<i>mun-pas-duu</i>	迎える
<i>naampasduun</i>	要來迎接	<i>na=an-pas-du-un</i>	これから迎えに行く
<i>pasdu</i>	迎接	<i>pas-duu</i>	迎えに行く
<i>patinpasdu</i>	使其迎接	<i>pa-tin-pas-duu</i>	迎えに行かせる
<i>patinpasduan</i>	迎面地點	<i>pa-tin-pas-du-an</i>	向かい合う地点

	<i>punpasduun</i>	叫人去迎接	<i>pun-pas-du-un</i>	人を遣わせて迎 えに行かせる
	<i>sanpasdu</i>	立刻迎接	<i>san-pas-duu</i>	すぐに迎える
	<i>taipasdu</i>	迎面射撃、等 待馬上去丟	<i>tai-pas-duu</i>	迎え撃つ、待 ち伏せして素 早く投げに行 く
	<i>taipasduan</i>	等待馬上去 丟	<i>tai-pas-du-an</i>	待ち伏せして 素早く投げに 行く
	<i>tinpasdu</i>	前往迎接	<i>tin-pas-duu</i>	迎えに行く
	<i>unpasduav</i>	要迎接	<i>un-pas-du-av</i>	迎えに行こう
	<i>unpasduun</i>	迎接	<i>un-pas-du-un</i>	迎えに行く
<i>pauk-</i> 「回 す」	<i>mapapaukdadu</i>	使其順勢環 繞	<i>ma-pa-pauk-da-duu</i>	順調に回す
	<i>papaukdadu</i>	使其順勢環 繞	<i>pa-pauk-da-duu</i>	順調に巡回さ せる
	<i>papaukdaduun</i>	使其順勢環 繞	<i>pa-pauk-da-du-un</i>	順調に巡回さ せる
	<i>paukdaduan</i>	使其順勢環 繞	<i>pauk-da-du-an</i>	順調に巡回さ せる
	<i>paukdaduun</i>	使其順勢環 繞	<i>pauk-da-du-un</i>	順調に巡回さ せる
<i>pis-</i> 「焼 く」 ³⁷	<i>ispisvangdu</i>	用來朝拜	<i>is-pis-vang-duu</i>	何かを使って 祈る
	<i>mapapisdadu</i>	使其燒的正 好	<i>ma-pa-pis-da-duu</i>	ちょうどよく 焼かせる
	<i>mapisdadu</i>	燒的正好正 好	<i>ma-pis-da-duu</i>	ちょうどよく 焼く
	<i>papisdadu</i>	使其燒的正 好	<i>pa-pis-da-duu</i>	ちょうどよく 焼かせる
	<i>papisdaduun</i>	使其燒的正 好	<i>pa-pis-da-du-un</i>	ちょうどよく 焼かせる
	<i>pisdadu</i>	燒的正好	<i>pis-da-duu</i>	ちょうどよく 焼ける
	<i>pisdaduun</i>	燒的正好	<i>pis-da-du-un</i>	ちょうどよく 焼ける
	<i>pisdua</i>	燃火、燒柴 火	<i>pis-du-a</i>	火をつけろ、 薪を燃やせ

³⁷ イスブクン方言における語彙的接頭辞 *mis-* は「焼く」を意味する (Nojima 1996: 12)。脚注 33 に述べた *m* と *p* の交替のように *mis-* と上記の *pis-* は派生関係にあると考えられる。

	<i>pisduu</i>	燃火、焼 柴火	<i>pis-duu</i>	火をつける、薪を 燃やす
	<i>pisduuun</i>	燃火、焼 柴火	<i>pis-du-un</i>	火をつける、薪を 燃やす
	<i>pisvavangduan</i>	聖殿	<i>pis-va-vang-du-an</i>	聖殿
	<i>pisvangdu</i>	祭拜、敬 拜、朝 拜、禱告	<i>pis-vang-duu</i>	祈る
	<i>pisvangduan</i>	祭拜的地 方、所祭 拜的宗教	<i>pis-vang-du-an</i>	祈る所、崇拜する 宗教
<i>pit</i> -「料理 する」 ³⁸	<i>mapapitdadu</i>	使其正好 煮	<i>ma-pa-pit-da-duu</i>	ちょうどよく料理 させる
	<i>mapitdadu</i>	正好煮	<i>ma-pit-da-duu</i>	ちょうどよく料理 する
	<i>papitdadu</i>	使其正好 煮	<i>pa-pit-da-duu</i>	ちょうどよく料理 させる
	<i>papitdaduun</i>	使其正好 煮	<i>pa-pit-da-du-un</i>	ちょうどよく料理 させる
<i>sa</i> -「見 る」	<i>makansadu</i>	保持看見 状態	<i>ma-kan-sa-duu</i>	見える状態を保つ
	<i>ispapasadu</i>	使其給人	<i>is-pa-pa-sa-duu</i>	人に見せる
	<i>ispasadu</i>	顯現、出 現、給別 人看	<i>is-pa-sa-duu</i>	現れる、人に見せ る
	<i>issadu</i>	用來看	<i>is-sa-duu</i>	何かを使って見る
	<i>malmishangtusasaduan</i>	司令台、 中央看台	<i>mal-mishang tu sa- sa-du-an</i> ³⁹	司令官が登る台、 中央に備え付けら れた観覧席
	<i>mapapasadu</i>	使其見面	<i>ma-pa-pa-sa-duu</i>	会わせる

³⁸ イスブクン方言における語彙的接頭辞 *pit*-も「料理する」を意味する (Nojima 1996: 12)。

³⁹ 語彙的接頭辞 *sa*-が重複されて *sa-sa*-という形態素の並びが生じている。これは CV-重複の一種と考えられる。表 2 には *sa-sa-du-an* の他にも *sa-sa-duu* などの重複形が見られる。

<i>mapasadu</i>	相遇、探訪、看見 (有意給人看見)、見面	<i>ma-pa-sa-duu</i>	会う、訪問する、姿を現して人に見せる
<i>muhnaangpasadu</i>	下次見	<i>muhna=ang pa-sa-duu</i> ⁴⁰	次の機会に会う
<i>nasadu</i>	要看見	<i>na=sa-duu</i>	これから見える
<i>nasaduang</i>	看情形	<i>na=sa-duu=ang</i>	状況を判断する
<i>papasadu</i>	使其見面	<i>pa-pa-sa-duu</i>	会わせる
<i>papasaduan</i>	使其給人看	<i>pa-pa-sa-du-an</i>	人に見させる
<i>papasaduun</i>	使其見面、使其給人看	<i>pa-pa-sa-du-un</i>	人に合わせる、人に見させる
<i>pasadu</i>	見面	<i>pa-sa-duu</i>	会う
<i>pasaduan</i>	給人看、見面、使其看見	<i>pa-sa-du-an</i>	人に見せる、会う、会わせる
<i>pasaduun</i>	使其被看到、給人看、見面	<i>pa-sa-du-un</i>	見られる、見せる、会う
<i>sadadu</i>	看的適合、看對眼、看中、中意	<i>sa-da-duu</i>	適切に見る、意に合う
<i>sadaduan</i>	盯著看	<i>sa-da-du-an</i>	じっと見る
<i>sadu</i>	看、看見	<i>sa-duu</i>	見る、見える
<i>sadua</i>	請看吧	<i>sa-du-a</i>	見ろ
<i>saduaat</i>	看吧	<i>sa-du-a=at</i>	見ろ
<i>saduavangat</i>	先看看吧	<i>sa-du-av=ang=at</i>	先に見よう
<i>saduan</i>	被發現、被看見	<i>sa-du-an</i>	発見される、見られる
<i>saduangat</i>	先看吧	<i>sa-du-ang=at</i>	先に見なさい
<i>saduav</i>	看一下、看管	<i>sa-du-av</i>	ちょっと見よう、監視しよう

⁴⁰ 原住民族語言研究發展基金會 (2021) によると *muhna* は「もう一度」の意味である。

<i>saduavat</i>	先看吧	<i>sa-du-av=at</i>	先に見よう	
<i>saduavang</i>	要看清 楚、看管	<i>sa-du-av=ang</i>	はっきり見よう、 監視しよう	
<i>sadusadu</i>	觀光、觀 察、看看	<i>sa-du-sa-duu</i>	觀光する、觀察す る、見てみる	
<i>saduik</i>	我看	<i>sa-du=ik</i>	私は見る	
<i>sasadu</i>	一直看、 正在看	<i>sa-sa-duu</i>	ずっと見る、今見 ている	
<i>sasaduan</i>	看台	<i>sa-sa-du-an</i>	觀覽席	
<i>sasaduasahil</i>	看書的地 方、書房	<i>sa-sa-du-a=s ahil</i> ⁴¹	本を読む所、書齋	
<i>saiduan</i>	看法、曾 看過、所 觀察	<i>sa-i-du-an</i>	考え、以前に見 た、見解	
<i>saiduanin</i>	看過了	<i>sa-i-du-an=in</i>	見た	
<i>sinsadu</i>	看法	<i>sin-sa-duu</i>	考え方	
<i>tinsadu</i>	忽然看見	<i>tin-sa-duu</i>	突然見える	
<i>usaduan</i>	看到、眼 前、看得 到、隨處 可見	<i>u-sa-du-an</i>	見える、目の前 にある、どこにでも 見られる	
<i>usaduas</i>	看見	<i>u-sa-du-a=s</i> ⁴²	見える	
san- 「清潔 である」	<i>sanmindaduain</i>	潔淨吧 (治好)	<i>san-min-da-du-a=in</i>	清潔にきなさい (治すこと)
	<i>sanmindaduang</i>	潔淨吧 (治好)	<i>san-min-da-duu=ang</i>	清潔にきなさい (治すこと)
	<i>sanmindadui</i>	希望 (你) 治 療好了	<i>san-min-da-du-i</i>	恢復することを願 う

⁴¹ これは *sa-sa-du-an mas ahil* (Ca-重複-見る-DUU-非動作主態・場所主語 斜格 本) 「本を読む場所」から来ている表現であると考えられる。斜格の *mas* が接語=*s* に変化し、語尾に *-an=s* という連続が作られる。そこからさらに *n* が脱落して *-a=s* になる。このような説明は黄・施 (2016: 21) に見られる。例えば *sadu-an=mas* が *saduas* に変わると述べている (*mas* はここでは接語と見なされている)。

⁴² 後ろから二番目の *u-sa-du-an* という形式には接周辞 *u-...-an* が含まれる。これは黄・施 (2016: 129) によると可能を表す接辞である。その次の語形 *u-sa-du-a=s* は、*u-sa-du-an=s* (=s は *mas* 斜格標識に由来) から接尾辞 *-an* の子音 *n* の脱落した形式と考えられる (脚注 41 参照)。

<i>san-</i> 「すぐ に」	<i>sanpasdu</i>	立刻迎接	<i>san-pas-duu</i>	すぐに迎える
<i>san-</i> 「投げ る」	<i>pasandaduun</i>	正好被丟 到	<i>pa-san-da-du-un</i>	ちょうどよく投げ られる
	<i>sandadu</i>	正好丟到	<i>san-da-duu</i>	ちょうどよく投げ ることになった
	<i>sandadun</i>	正好被丟 到	<i>san-da-du-un</i>	ちょうどよく投げ ることになった
	<i>sandu</i>	打中、射 中目標	<i>san-duu</i>	当たる、命中する
	<i>taisanduun</i>	射中目 標、被打 到	<i>tai-san-du-un</i>	的に当たる、打た れることになる
<i>saun-</i> 「飲 む」 ⁴³	<i>pasaundadu</i>	順勢喝	<i>pa-saun-da-duu</i>	ついでに飲む
	<i>pasaundaduun</i>	使其順勢 喝	<i>pa-saun-da-du-un</i>	ついでに飲ませる
	<i>saundadu</i>	順勢喝	<i>saun-da-duu</i>	ついでに飲む
	<i>saundaduan</i>	順勢喝	<i>saun-da-du-an</i>	ついでに飲む
	<i>saundaduun</i>	順勢喝	<i>saun-da-du-un</i>	ついでに飲む
<i>saun-</i> 「投 げる」	<i>saundu</i>	丟到目標	<i>saun-duu</i>	目的物に投げて当 たる
	<i>saunduu</i>	丟到目標	<i>saun-duu</i>	目的物に投げて当 たる
<i>si-</i> 「引 く、得 る」 ⁴⁴	<i>sipandu</i>	停下來、 煞住	<i>si-pan-duu</i>	停まる、停める
	<i>mapasidadu</i>	調正	<i>ma-pa-si-da-duu</i>	調整する
	<i>pasidadu</i>	調正	<i>pa-si-da-duu</i>	調整する
	<i>pasidaduun</i>	調正	<i>pa-si-da-du-un</i>	調整する

⁴³ イスブクン方言における語彙的接頭辞 *saun-* も「飲む」を意味する (Nojima 1996: 23)。

⁴⁴ タクバヌアズ方言におけるこの語彙的接頭辞の意味は上記の語例を見渡しても判然としないため、Nojima (1996: 19, 22) によるイスブクン方言の同形式の語彙的接頭辞 *si-* の意味「引く、得る」を参照した。

	<i>sidadu</i>	拉中意 (順勢拿 自己中意 的)	<i>si-da-duu</i>	首尾よく自分が好 きなものを取る
	<i>sidaduun</i>	拿的正適 合	<i>si-da-du-un</i>	ちょうどよく取る
	<i>siduu</i>	拿的正適 合	<i>si-duu</i>	適切に取る
<i>sin-</i> 「？」 45	<i>sinkaduan</i>	曾經找到	<i>sin-ka-du-an</i>	すでに探した
	<i>sinsadu</i>	看法	<i>sin-sa-duu</i>	考え方
<i>suk-</i> 「停ま る」	<i>sukdu</i>	停滯、停 留、留下	<i>suk-duu</i>	停まる、留まる
<i>tai-</i> 「投げ る」 ⁴⁶	<i>mapataidadu</i>	相互丟的 正好	<i>ma-pa-tai-da-duu</i>	互いにちょうどよ く投げる
	<i>pataidadu</i>	相互丟的 正好	<i>pa-tai-da-duu</i>	互いにちょうどよ く投げる
	<i>taidadu</i>	刺中、丟 的準	<i>tai-da-duu</i>	刺して当たる、投 げて当たる
	<i>taidaduan</i>	相互丟的 正好	<i>tai-da-du-an</i>	互いにちょうどよ く投げる
	<i>taidaduun</i>	丟的正好	<i>tai-da-du-un</i>	ちょうどよく投げ る
	<i>taiduu</i>	丟中、射 中、刺中	<i>tai-duu</i>	投げて当たる、射 て当たる、刺して 当たる
	<i>taipasdu</i>	迎面射 撃、等待 馬上去丟	<i>tai-pas-duu</i>	迎え撃つ、待ち伏 せして素早く投げ に行く
	<i>taipasduan</i>	等待馬 上去丟	<i>tai-pas-du-an</i>	待ち伏せして素早 く投げに行く
	<i>taisanduun</i>	射中目 標、被打 到	<i>tai-san-du-un</i>	的に当たる、打た れることになる

⁴⁵ これは *si-* (43) が *sin-* に変化した形式であるかもしれない。

⁴⁶ イスブクン方言における語彙的接頭辞 *tai-* は「撃つ」を意味する (Nojima 1996: 15)。上記の「投げる」と意味的な関連が見られる。

tal- 「成長して～になる」 ⁴⁷	<i>talmainduuu</i>	長得剛剛好	<i>tal-main-du-duu</i>	ちょうどいい姿に成長する
	<i>talmainduu</i>	英俊、蕭灑	<i>tal-main-duu</i>	ハンサムである、垢ぬけている
tau- 「押し倒す」	<i>mapataudadu</i>	使其正好壓到	<i>ma-pa-tau-da-duu</i>	ちょうどよく押し倒させる
	<i>pataudaduun</i>	使其正好壓到	<i>pa-tau-da-du-un</i>	ちょうどよく押し倒させる
	<i>taudadu</i>	正好壓到	<i>tau-da-duu</i>	ちょうどよく押し倒すことになる
	<i>taudaduan</i>	正好壓到	<i>tau-da-du-an</i>	ちょうどよく押し倒すことになる
	<i>taudaduun</i>	正好壓到	<i>tau-da-du-un</i>	ちょうどよく押し倒すことになる
taus- 「生まれる」 ⁴⁸	<i>patausdadu</i>	使其生逢其時	<i>pa-taus-da-duu</i>	ちょうどいい時期に生まれさせる
	<i>patausdaduun</i>	使其生逢其時	<i>pa-taus-da-du-un</i>	ちょうどいい時期に生まれさせる
	<i>tausdadu</i>	生逢其時	<i>taus-da-duu</i>	ちょうどいい時期に生まれる
	<i>tausdaduan</i>	生逢其時	<i>taus-da-du-an</i>	ちょうどいい時期に生まれる
	<i>tausdaduun</i>	生逢其時	<i>taus-da-du-un</i>	ちょうどいい時期に生まれる
tali- 「眠る」	<i>mapatalidadu</i>	使其正好睡到	<i>ma-pa-tali-da-duu</i>	ちょうどよく眠らせる
	<i>patalidadu</i>	使其正好睡到	<i>pa-tali-da-duu</i>	ちょうどよく眠らせる
	<i>talidadu</i>	睡得很適合、正好睡到	<i>tali-da-duu</i>	適切に眠る、ちょうどよく眠れる
ti- 「触る」	<i>istiduu</i>	用來摸的	<i>is-ti-duu</i>	それを使って触るもの

⁴⁷ イスブクン方言における語彙的接頭辞 *tal-* も「成長する」を意味する (Nojima 1996: 14)。

⁴⁸ イスブクン方言における語彙的接頭辞 *taus-* も「生まれる」を意味する (Nojima 1996: 10)。

	<i>mapatiduu</i>	使其觸摸	<i>ma-pa-ti-duu</i>	触らせる
	<i>matiduanduan</i>	偶而、恰巧	<i>ma-ti-du-an-du-an</i>	まれに、偶然
	<i>matiduu</i>	觸摸	<i>ma-ti-duu</i>	触る
	<i>patiduu</i>	插白祭的祭竿	<i>pa-ti-duu</i>	祭りに使う竿
	<i>patiduuan</i>	被摸	<i>pa-ti-du-an</i>	触られる
	<i>patiduuun</i> ⁴⁹	占卜、卜卦	<i>pa-ti-du-un</i>	占う
	<i>tiduu</i>	摸	<i>ti-duu</i>	触る
<i>tin-</i> 「突然 ～する」	<i>matindadu</i>	適當時機、順勢、順著方向	<i>ma-tin-da-duu</i>	ちょうどよい時期である、順調である、順行する
	<i>matinpasdu</i>	去迎接	<i>ma-tin-pas-duu</i>	迎えに行く
	<i>patinpasdu</i>	使其迎接	<i>pa-tin-pas-duu</i>	迎えに行かせる
	<i>patinpasduan</i>	迎面地點	<i>pa-tin-pas-du-an</i>	迎える地点
	<i>tinpasdu</i>	前往迎接	<i>tin-pas-duu</i>	迎えに行く
	<i>tinsadu</i>	忽然看見	<i>tin-sa-duu</i>	突然見える
	<i>mapatindadu</i>	順著方向	<i>ma-pa-tin-da-duu</i>	順行する
	<i>patindadu</i>	順著方向	<i>pa-tin-da-duu</i>	順行する
	<i>patindaduun</i>	順著方向	<i>pa-tin-da-du-un</i>	順行する
	<i>tindadu</i>	變好、順著方向	<i>tin-da-duu</i>	よくなる、順行する
<i>tis-</i> 「挟まる」 ⁵⁰	<i>patisdadu</i>	使其正好夾到	<i>pa-tis-da-duu</i>	ちょうどよく挟ませる

⁴⁹ 胡 (2016) における表記では、接尾辞の付加により非語末に移動した語根は *du* と母音 1 つで書かれることが多いが、この形式 (胡 2016: 245) では例外的に接尾辞 *-un* が付加しても語根は *duu* と母音 2 つで書かれている。

⁵⁰ イスブクン方言において同形式の語彙的接頭辞 *tis-* は「運ぶ」を意味する (Nojima 1996: 23)。タクバヌアズ方言の語例ではこの意味はそぐわないようである。

	<i>patisdaduun</i>	使其正好 夾到	<i>pa-tis-da-du-un</i>	ちょうどよく挟ま せる
	<i>tisdadu</i>	正好夾到	<i>tis-da-duu</i>	ちょうどよく挟む ことになる
	<i>tisdaduan</i>	陷阱有夾 到	<i>tis-da-du-an</i>	罠にかかる
	<i>tisduduan</i>	常夾到獵 物、(獵 物) 被陷 阱捉到	<i>tis-du-du-an</i>	頻繁に獲物が罠に かかる
	<i>tisduu</i>	被陷阱捉 到獵物	<i>tis-duu</i>	罠に獲物がかかる
<i>tu-</i> 「言 う」 ⁵¹	<i>mapatukadadu</i>	相稱	<i>ma-pa-tu-ka-da-duu</i>	呼び合う
	<i>patukadadu</i>	雙方適 合、相稱	<i>pa-tu-ka-da-duu</i>	互いが合う、互い に呼ぶ
	<i>patukadaun</i>	對上眼、 臭氣相投	<i>pa-tu-ka-da-un</i>	気に入る、意気投 合する
	<i>patukaduu</i>	自由戀愛 而結合	<i>pa-tu-ka-duu</i>	自由恋愛の結果一 緒になる
	<i>tudadu</i>	說の適合	<i>tu-da-duu</i>	適切に言う
	<i>tudaduun</i>	破除	<i>tu-da-du-un</i>	誤った考えなどを 打破する ⁵²
<i>tun-</i> 「乗 る」	<i>tundadu</i>	正好乗著	<i>tun-da-duu</i>	ちょうどよく乗る
<i>u-</i> 「行 く」、 <i>pu-</i> 「置く」 ⁵³	<i>mapudadu</i>	放對了	<i>ma-pu-da-duu</i>	ちょうどよく置い た

⁵¹ イスブクン方言における語彙的接頭辞 *tu-* も「言う」を意味する (Nojima 1996: 22)。

⁵² この派生語の意味「誤った考えなどを打破する」と、*tu-* 「言う」との関連性は明らかでないように思われる。例えば「誤った考えなどを打破する」ということは、言葉によって相手の考えを糺すことと言い換えられないだろうか。この言い換えなら *tu-* 「言う」との関連がより明らかである。

⁵³ この *pu-* 「置く」は使役の意味が含まれる(行かせる>置く)。「行く」を表す *u-* に対し使役の意味を表す接頭辞 *p-* (*pa-* に由来する) が付いて、*pu-* が作られたと考えられる。また、この語彙的接頭辞 *u-* 「行く」、*pu-* 「置く」は、*mun-/pun-/un-* 「行く」と意味的、形式的に関連している(脚注 34)。この両者の

	<i>puudun</i> ⁵⁴	被擠壓出 來	<i>pu-u-du-un</i>	押し出させる
	<i>udaduan</i>	正好來	<i>u-da-du-an</i>	ちょうどよく来る
<i>vang-</i> 「祈 る」	<i>ispisvangdu</i>	用來朝拜	<i>is-pis-vang-duu</i>	何かを使って祈る
	<i>pisvavangduan</i>	聖殿	<i>pis-va-vang-du-an</i> ⁵⁵	聖殿
	<i>pisvangdu</i>	祭拜、敬 拜、朝 拜、禱告	<i>pis-vang-duu</i>	祈る
	<i>pisvangduan</i>	祭拜的地 方、所祭 拜的宗教	<i>pis-vang-du-an</i>	祈る所、崇拜する 宗教

5 考察

表2における語彙的接頭辞と *duu* との複合動詞を検討すると、胡 (2016) における中国語注釈で最も多く用いられている漢字は「正」であることが分かる。「正合 (ちょうど合う)」「調正 (調整する)」「正好 (ちょうど〜である)」などの表現で現れる。表1における *duu* から派生された語 (語彙的接頭辞の付加無し) では、「適切」「適合」などの意味を共有していた。これらの意味と、頻出する意味の「正合 (ちょうど合う)」「調正 (調整する)」「正好 (ちょうど〜である)」を総合して考察すると、「適切である」、「適

関係もまた、*la-*と *lan-*「会う」(脚注30)、*mai-*と *main-*「中ぐらいである」(脚注32)と同様、前者の形式の後ろに *n* が付くことで後者が成り立っている。

⁵⁴ 胡 (2016: 280) におけるこの形式では非語末に移動した語根 *du* (< *duu*) とそれに後続する接尾辞の *-un* から成る *du-un* が形態素間で同質母音の縮約を起こして、表記上 *dun* として書かれたと考えられる。また、*pu-u-du-un* には、*pu-*と *u-*という派生関係にある語彙的接頭辞 (脚注53参照) が重なって付加していると本稿では分析したが、このような語彙的接頭辞の重複的出現が可能かどうかは今後検討の余地がある。

⁵⁵ 語彙的接頭辞 *vang-*の語頭の *va* が重複されている。

度である」という概念が共通していると考えられる⁵⁶。結論として、本稿は網羅的な語彙データに基づき、*duu* の原義に近いのは、Nihira (1988: 73) の言うところの「会う」よりも、適切である、適度であるという意味での「合う」のほうであることを主張した。

付録⁵⁷

-*a* 動作主態・命令、=*at* 連結辞、-*av* 非動作主態・命令、-*an* 非動作主態・場所主語、=*ang* 継続、-*i* 命令、<*i*>経験、=*ik* (1人称・主格)、<*in*>経験、=*in* 完了、-*is*- 非動作主態・状況主語、*ki*- 使役、*ma*- 動作主態、*na*= 未来、*pi*- 使役、*pa*- 使役、*pa*- 相互、=*s* 斜格、*u*...-*an* 可能、-*un* 非動作主態・対象主語

参考文献

- Blust, Robert and Stephen Trussel (2010) *Austronesian Comparative Dictionary, Web Edition*.
 <<http://www.trussel2.com/ACD/>> (最終閲覧日 2023年2月21日)
- 橋本邦彦 (2020) 「モンゴル語の受動構文と使役構文の<受身>の意味」『北海道言語文化研究』18: 111–153.
- Huang, Hui-chuan. J. (2008) Competition between syllabic and metrical constraints in two Bunun dialects. *Linguistics* 46(1): 1–33.
- 胡金勝 (2016) 『布農族語字典』台東縣延平鄉: 桃源國民小學.
- 黃慧娟・施朝凱 (2016) 『布農語語法概論』台北: 原住民委員會.

⁵⁶ しかも、表2に語彙的接頭辞として *la*- という形式があり、意味は「会う」である。もし Nihira (1988: 73) の言うように *duu* が「会う」を意味するなら、上記の *la-du-duu* 「偶然に会う」は語彙的接頭辞 *la*- 「会う」と語根 *duu* 「会う」の意味的に重複する形態素から作られることになる。そのような可能性もあるかもしれない。例えば、読み合わせ担当者の1人から、琉球諸語では2つの類義語を重ねて同じ意味の複合語を作ることがあるとの指摘を受けた。しかし、Nojima (1996) のブヌン語における語例を見る限り、語彙的接頭辞は語根の意味に対して、別の意味を付け加えるものである。この限りにおいて、語彙的接頭辞が語根と同じ意味を持つことは考えにくい。そのため *duu* の本来の意味は「会う」とは異なることが予測される。

⁵⁷ 本稿に現れる派生接辞や接語を挙げた。多くは黄・施 (2016) を参照した。黄・施 (2016) を参照していない形態素もあり、その中 *ki*-, *pi*- (使役) は3節で説明した通りである。また、-*i* (命令) は小川・浅井 (1935: 590) を参照した (そこでは *-e* となっているが、[e]は/i/の音声的現れの1つであることが小川・浅井 (1935: 585) の記述から分かる)。

- Li, Paul Jen-kuei (1988) A comparative study of Bunun dialects. *Buletin of the Institute of History and Philology* 59(2): 479–508.
- 林修澈 (2018) 『台灣原住民族部落事典』 新北市: 原住民族委員會.
- Nihira, Yoshiro (1988) *A Bunun vocabulary: A language of Formosa*. Tokyo: Ado-in Kabushiki Kaisha
- Nojima, Motoyasu (1996) Lexical prefixes of Bunun verbs. *Journal of the Linguistic Society of Japan* 110: 1–27.
- 野島本泰 (2010) 「ブヌン語の、「望ましくない状態」「姿勢」を表す形容詞の派生に用いられる接頭辞 *matu-*—形態分析と意味記述」 『地球研言語記述論集』 2: 87–95.
- 野島本泰 (2011) 「ブヌン語の「品詞分類」を再考する—特に「形容詞」の位置づけについて」 言語記述研究会第 36 回例会口頭発表. 2022 年 5 月 18 日.
- 落合いずみ (2016) 「セデック語パラン方言の文法記述と非意志性接頭辞の比較言語学的研究」 京都大学博士論文.
- 小川尚義・浅井恵倫 (1935) 『原語による臺灣高砂族傳説集』 東京: 刀江書院.
- Yu, Alan C. Y. (2007) *A natural history of infixation*. Oxford: Oxford University Press.
- 原住民族語言研究發展基金會 (2020) 『原住民族語 E 樂園』 <<https://web.klokah.tw/>> (最終閲覧日 2023 年 1 月 1 日) .
- 原住民族語言研究發展基金會 (2021) 『原住民族語言線上辭典』 <<https://e-dictionary.ilrdf.org.tw/index.htm>> (最終閲覧日 2023 年 1 月 1 日) .
- Zeitoun, Elizabeth, Tai-hwa Chu, and Lalo a tahesh kaybaybaw (2015) *A study of Saisiyat morphology*. Honolulu: University of Hawai‘i Press.

受理日 2023 年 3 月 7 日

ラロン・マ [Larong sMar] 語措瓦 [mTsholnga] 方言の語彙資料 (日英対照)

鈴木 博之 四郎翁姆 才讓三周
京都大学 オックスフォード大学 リーズ大学

キーワード：チベット・ビルマ諸語、羌語群、チャムド、基本語彙

1 はじめに

本稿では、ラロン・マ (Larong sMar) 語措瓦 (mTsholnga) 方言の語彙資料 (約 460 語) を提示する。見出し語は日本語・英語を併記し、意味分類に基づいて配列する。加えて、借用語と認められる語形式には、来源を示す。

ラロン・マ語は、チベット自治区昌都 [Chab-mdo]¹ 市芒康 [sMar-khams] 県および左貢 [mDzo-sgang] 県の瀾滄江沿岸に分布するチベット・ビルマ系言語の 1 つであり、羌語群に属すると考えられる (Tashi Nyima & Suzuki 2019)。分布域は芒康県措瓦 [mTsho-lnga] 郷、如美 [Rong-smad] 鎮、曲登 [mChod-rten] 郷、左貢県仁果 [Ri-mgo] 郷が報告されている。本稿で記述するのは、措瓦郷它亞 [Tha-ya] 村で話される方言で、mTsholnga 方言と呼ぶ。

鈴木ほか (2022) でまとめたように、ラロン・マ語の記述はいくつかあり、仁果郷の Dongpa 方言については同言語についての簡潔かつ全面的な記述がある (趙昊亮 2019)。語彙資料としては、Suzuki et al. (2018) の Phagpa 方言と鈴木ほか (2022) の Rongsmad 方言がある²。ラロン・マ語は、その研究背景から、その姉妹言語であるタヤ・マ (Drag-yab sMar) 語とラモ (Lamo) 語とともに記述されることも多い (《昌都地区誌》2005、Suzuki et al. 2018、鈴木等 2022)³。

mTsholnga 方言の資料収集は、第 2・第 3 著者が 2019 年芒康県内で行った。発話協力者は若年層に属する男性 3 名で、芒康県措瓦郷它亞村出身である。やりとりにはカムチベット語および漢語を用い、準備された語彙調査票と文例集 (Nagano & Prins 2013) に従って、カムチベット語から mTsholnga 方言への口頭翻訳を通じて記録した。なお、4 節の語彙リストの見出しは、Nagano & Prins (2013) で使用した語彙集の掲載語順に基づく。

¹ チベットの地名など固有名詞で漢字で音写されているものには、[] 内にチベット文語 (蔵文) 形式を添える。なお、蔵文は de Nebesky-Wojkowitz (1956) に基づく転写方法を用いる。

² 一方で、Tashi Nyima & Suzuki (2019) に言及される Dangre Chaya 方言というのは、本稿で扱う它亞村の隣村である當熱恰亞村で話される変種と考えられる。ただし、本稿のもととなるデータの収集と Tashi Nyima & Suzuki (2019) によるデータの収集は方法が異なるため、地理情報について現在のところ確認が取れていない。

³ 加えて、タヤ・マ語の語彙資料として鈴木ほか (2021)、ラモ語の語彙資料として Suzuki et al. (2021a) がある。

2 mTsholnga 方言の音体系

ラロン・マ語 mTsholnga 方言の音体系は以下のように整理できる。音節構造、子音体系、母音体系、声調に分けて掲げる。なお、記録した語数が比較的少ないため、データに現れない形式は以下の体系にも現れない点に注意されたい。

本稿で用いる音表記は、分節音については、国際音声字母 (IPA) で規定されるもののほか、朱曉農 (2010) で明確に定義される主に中国で使用されている音声記号も断りなく用いる⁴。超分節音については、Suzuki & Sonam Wangmo (2019) の方法を基本に、必要に応じて拡張したものをを用いる。

2.1 音節構造

音節構造は、鈴木 (2005) を参照して以下のように記述する。

$${}^c C_i G V$$

このうち C_i (主子音) と V (音節核の母音) が必須である。

2.2 子音

音節構造の主子音位置に現れる音素の一覧は以下のようなになる。

		A	B	C	D	E	F	G	H*
閉鎖音	無声有気	p ^h	t ^h	t ^h			k ^h		
	無声無気	p	t	t̥			k	q	ʔ
	有声	b	d	d̥			g	g̥	
破擦音	無声有気		ts ^h		tɕ ^h				
	無声無気		ts		tɕ				
	有声		dz		dʒ				
摩擦音	無声		s		ɕ	ç	x		h
	有声		z		ʒ		ɣ	ʙ	f
鼻音	有声	m	n		ɳ		ŋ	ɳ	
	無声	m̥	n̥		ɳ̥		ŋ̥		
流音	有声		l	r					
	無声		l̥						
半母音	有声	w				j			

* A: 両唇; B: 歯-歯茎; C: そり舌; D: 前部硬口蓋; E: 硬口蓋; F: 軟口蓋; G: 口蓋垂; H: 声門

以上の体系について、特に音声学側面から注意が必要なのは以下の点である。

⁴ チベット系諸言語における音表記については、Suzuki (2016) を参照。

- [ç]、[ç̣] と [x] は、チベット系諸言語からの借用語について、後続母音によって自由変異のように現れるが、本来語についてはそうではない。
- /w/は高母音の前でしばしば [v] となる。

2.3 母音

母音には、舌位置の対立と口母音/鼻母音、きしみ音、そり舌音による特徴に分かれる。

口母音	i	e	ɛ	a	ɑ	ɔ	o	u	ʊ	ʉ	ə	ɐ
鼻母音	ĩ	ẽ	ɛ̃	ã	ã̃	õ	õ̃	ũ		ũ̃	ã̃	ẽ̃
きしみ口母音	ᵢ	ᵉ	ᵛ	ᵃ	ᵃ	ᵔ	ᵔ	ᵘ	ᵘ	ᵘ	ᵚ	ᵚ
きしみ鼻母音							ᵔ̃					
そり舌音			ɛ̣								ə̣	

きしみ音にも口母音と鼻母音の異なりがあるが、きしみ口母音は体系的に認められるのに対し、きしみ鼻母音の種類は1つに限られる⁵。

そり舌音については、口母音のみが認められ、対応する鼻母音の例はまだ見つかっていない。/ɛ/は、音声学的に [æ̣] となる例が多い。

2.4 声調

語声調で2種類が区別される：高 (´) と低 (˘)。

声調を担う領域は語頭から2音節目までで、それ以降は弁別的な高さはなく、低平であることが多い。多音節語で1音節目のみに弁別的な声調が現れる場合、1音節目ののちに (´) で示す。ただし、mTsholnga 方言で該当例は多くない。

一方で、複合語については、1つの語の中で成分（形態素）ごとに上述の規則が適用された声調を担うことがある。語ごとに決まっているようであり、表記 (´) は音韻論的に重要である。

3 チベット系借用語における形式上の特徴

本節では、語彙リストに含まれるチベット系借用語について、その音対応と語形式について注目できる点をまとめる。

まず、ラロン・マ語の分布域周辺で話されるチベット系諸言語は母音に長短があり、また末子音として声門閉鎖音が認められる (Suzuki et al. 2021b, 2022)。一方、ラロン・マ語は常に開音節となるという異なりがある。このため、ラロン・マ語におけるチベット系借用語では長短の区別はなくなっている。借用元に鼻母音が期待される借用語の音形は、鼻母音をもつ場合 (たとえば、ˈtɕã 「壁」 < 蔵文 *gyang*) と口母音になったもの (たとえば、ˈm̥i 「熟れる」 < 蔵文 *smin*) とある。借用元に声門閉鎖音の末子音が期待される借用語の音形は、おおむねきしみ音母音に対応する (たとえば、ˈkʰɑ 「針」 < 蔵文 *khab*)。このことは、ラロン・マ語の本来語にお

⁵ ただし、鈴木ほか (2022) が報告するラロン・マ語 Rongsmad 方言の例を見ると、きしみ音には対応する鼻母音が複数認められるため、該当する例はもっと多く存在する可能性がある。

けるきしみ音母音も歴史的に声門閉鎖音と関連があることを示唆する。

次に、2節でも触れた点であるが、蔵文 sh/zh の対応形式について見ると、次のように調音位置が複数認められる。前部硬口蓋摩擦音に対応するもの（たとえば、 ʈcu 「力」 < 蔵文 *shugs*）、硬口蓋摩擦音に対応するもの（たとえば、 $\text{ʈci}^h\text{d}\text{ɛ}$ 「果物」 < 蔵文 *shing'bras*）、軟口蓋摩擦音に対応するもの（たとえば、 ʰiye 「歌」 < 蔵文 *gzhas*）の3種が見られる。これらのうち、硬口蓋摩擦音と軟口蓋摩擦音は条件変異で、かつカムチベット語南路方言群を中心とする諸方言の特徴を反映している（Suzuki et al. 2019）。ラロン・マ語の分布域周辺で話されるチベット系諸言語では、前部硬口蓋摩擦音もその自由変異として現れることがある一方、そもそもの音対応が前部硬口蓋摩擦音である方言も複数ある。この点については、現段階で記録している資料から借用元を特定するのは困難である。

ほかにも、蔵文で母音が a である開音節で終わる語では、 $/\text{ɛ}/$ に対応する例が多い。同様の事例は姉妹言語のラモ語やタヤ・マ語にも認められる。これは羌語支を特徴づける *brightening* と呼ばれる現象（Matisoff 2004 参照）で、それが借用語に認められるということは、一定程度古い時期に借用されたことが推定される。

なお、Suzuki (2022) で扱った音特徴から方言区分を考えると、ラロン・マ語 mTsholnga 方言のチベット系借用語の借用元は、大半がカムチベット語南路方言群であると予測できる。さらに資料を収集して検討する必要がある。

4 語彙リスト

見出し語は日本語とし、続いて英訳、ラロン・マ語 mTsholnga 方言の形式、備考の順で配列する。動詞の形式は接頭辞として方向接辞が付加されているものがあるが、特別に注記していない点に注意されたい。備考欄では、主に借用語の来歴について述べる⁶。同一の見出し語に複数の語形が与えられる場合、/ で区切り、かつ改行して掲げる。なお、語彙表には以下の略号を用いる⁷。

1	1 人称	EXV	存在動詞	S5	第 5 音節
2	2 人称	PL	複数	S6	第 6 音節
3	3 人称	S1	第 1 音節	SEN	感知
Chn	漢語	S2	第 2 音節	SG	単数
CPV	判断動詞	S3	第 3 音節	STM	判断
EGP	向自己	S4	第 4 音節	WrT	チベット文語形式

⁶ mTsholnga 方言は Rongsmad 方言（鈴木ほか 2022）と同じく、人称による動詞の語形変化が見込まれるが、その体系については現時点で明らかにできていない。

⁷ 証拠性の体系についての詳細は、Suzuki & Tashi Nyima (2021) を参照。

語義	Meaning	mTsholnga 方言	N.B.
頭	head	ˉwɔ̄	
頭が痛い	have a headache	ˉwɔ̄ ʼzɔ̄	
髪	hair	ʼwɔ̄ mɯ̄	
脳	brain	ˉfi lɛ̄ pə̄	WrT <i>klad pa</i>
額	forehead	ˉthɛ̄ pə̄	WrT <i>thod pa</i>
目	eye	ˉfi mī	WrT <i>dmig</i>
眼球	eyeball	ˉfi mə̄ wã̄	S1-WrT <i>dmig</i>
眉	eyebrow	ˉfi mī mɯ̄	S1-WrT <i>dmig</i>
涙	tear	ˉfi ŋi	
盲目の	blind	ʼlo wã̄ / ˉfi mī ʼlo wã̄	WrT <i>long pa</i> S1-WrT <i>dmig</i>
鼻	nose	ˉŋu	
鼻水	nasal mucus	ʼʔa ŋɔ̄	
耳	ear	ˉfi na dzɔ̄	
聾の	deaf	ʼmə̄ ʋō wā / ʼwã̄ m̄bō	
口	mouth	ˉh pə̄	
唇	lip	ˉni tɕē hɯ̄ dō	WrT <i>mchu to</i>
舌	tongue	ˉn dɔ̄	
唾の	mute	ˉh kū pɛ̄	WrT <i>lkugs pa</i>
歯	tooth	ˉɕi	
呼吸	respiration	ˉh pə̄ ʼlɥ̄ ˉwɯ̄ ʼtʰa	S3-WrT <i>dbugs</i>
声	voice	ˉh kɛ̄	WrT <i>skad</i>
咳	cough	ˉfi lō wā / ˉfi lō ʼlə̄ ʼtɔ̄	
顔	face	ʼkʰa ŋō	WrT <i>kha ngo</i>
恥じる	be ashamed	ʼŋō ʼtsʰɛ̄	WrT <i>ngo tsha</i>
頬	cheek	ˉni dɔ̄ m̄bɛ̄	WrT <i>'gram pa</i>
こめかみ	temple	ˉna ʰdɛ̄	
口ひげ	moustache	ˉkʰa ʰpu	WrT <i>kha spu</i>
首	neck	ˉh kē	WrT <i>ske</i>
喉	throat	ʼtʰɥ̄ ba	
肩	shoulder	ˉthɔ̄ ba / ˉh pɔ̄ m̄ba	WrT <i>phrag pa</i> WrT <i>dpung pa</i>
腕	arm	ʼlɔ̄ ŋa	WrT <i>lag ngar</i>
手	hand	ˉn di	

語義	Meaning	mTsholnga 方言	N.B.
指	finger	ⁿ dzɯ mu	WrT <i>mdzub mo</i>
爪	nail	^{se} mō	WrT <i>sen mo</i>
胸	chest	^k ba / ^{t̥} ba	WrT <i>khug pa</i> WrT <i>brang khug</i>
心臓	heart	^{se} / ^ñ	WrT <i>sems</i> WrT <i>snying</i>
腹	belly	^{wu}	
肝臓	liver	^ḥ t̥ ^h mba	WrT <i>mchin pa</i>
背	back	^{li} ru / ^h pu	
膝	knee	^{pō} ti	WrT <i>pus mo steng</i>
脚	leg	^{gu}	
足	foot	^{gu}	
足の不自由な	cripple	^{t̥} wa	
体	body	^{la} bu	WrT <i>lus po</i>
毛	hair	^{m̥}	
皮膚	skin	ⁿ d̥ mbo	
膿	pus	^{fi} me	
汗	sweat	^{fi} m̥ t̥	
血	blood	^{se}	
骨	bone	^{ra} bə	WrT <i>rus pa</i>
筋肉	muscle	^h p̥ mba	WrT <i>dpung pa</i>
力	power	^{cu}	WrT <i>shugs</i>
見る	look	^{ŋi}	
匂う	smell	^{t̥} n̥	
聞く	listen	^{na}	
笑う	laugh	^ḥ ts̥	
泣く	weep	^{qo}	
叫ぶ	shout	^{qo} ⁿⁱ t̥	
衣服	clothes	^{ku} ze	WrT <i>gos zan</i>
着る	put on	^{gu}	
脱ぐ	put off	^p h̥	WrT <i>phud</i>
裸	naked	^h ku də ^{mō}	
針	needle	^k q̥	WrT <i>khav</i>
糸	thread	^{ze} ^h ku	S2-WrT <i>skud</i>
縫う	sew	^{ze} ^h ku ^{jə} t̥ ^h wā	S2-WrT <i>skud</i>

語義	Meaning	mTsholnga 方言	N.B.
食べ物	food	ⁿ dze nɔ̃	
小麦粉	flour	^ʼ mj̃ ⁿ du	
肉	meat	ⁿ tʰi / ^ʰ tɕʰi	
果物	fruit	^ʼ çi ⁿ ɕɛ	WrT <i>shing 'bras</i>
種	seed	ⁿ ɕɛ wə	
卵	egg	^ʰ go mɛ	WrT <i>sgong ma</i>
塩	salt	ⁿ tsʰi	
脂肪	fat	ⁿ tʰu' xa jo	
牛乳	cow milk	^l ɔ̃	
水	water	^ʼ tɕi	
煮る	cook	^ʰ tsu	WrT <i>btsos</i>
熟れる	be ripen	ⁿ mi	WrT <i>smin</i>
食べる	eat	ⁿ dzə	
なめる	lick	^ʰ dj̃	
飲む	drink	ⁿ tʰi	
吸う	suck	^ʼ fiə ⁿ dzi	S2-WrT <i>'jib</i>
嘔吐する	vomit	^ʰ pʰə	
唾を吐く	spit	ⁿ dzɕ fiɛ 'ke tɕ	
腹が減る	be hungry	^ʼ wu' lə 'wu	
喉が渴く	be thirsty	ⁿ ti	
おいしい	be tasty	ⁿ di mo	
甘い	sweet	ⁿ di mo	
苦い	bitter	^ʰ bɛ ⁿ dzə	
酸っぱい	sour	^ʰ bɛ ^h tɕu	S2-WrT <i>skyur</i>
苦しみ	sufferance	^ʰ dũ ŋɕ	WrT <i>sdug bsngal</i>
腐る	rotten	^ʼ rɕ	WrT <i>rul</i>
家	house	ⁿ tɕɔ̃	
家を建てる	build a house	ⁿ tɕɔ̃ 'kɔ̃	
門	gate	^ʼ lɕ	
壁	wall	^ʼ tɕɔ̃	WrT <i>gyang</i>
屋根	rooftop	ⁿ tɕɔ̃ 'kə rɔ̃	
火	fire	ⁿ mi	
煙	smoke	^ʼ tɕ fiɛ	WrT <i>du ba</i>
灰	ash	ⁿ tʰɕ fiɛ	WrT <i>thal ba</i>
火が消える	be extinguished	ⁿ mi 'ni sə	

語義	Meaning	mTsholnga 方言	N.B.
燃える	burn	ʼtʰe mba	
座る	sit	ʼnə ndzɥ	
寝る	sleep	ʼjɥ	
夢	dream	ṁmə lɛ	WrT <i>rmi lam</i>
目覚めさせる	make awaken	ʼre ʒa nə ʼke ɕo	
開く	open	ʼke tɕu	
泊まる	stay	ṁdzɥ	
陶器の鍋	casserole	ʼtʰõ mbɛ	
フライパン	frying pan	ṁtʰe ŋo	WrT <i>tshal rngo</i>
ナイフ	knife	ʼtə nɛ / ʼtə ndzə	
刃	blade	ʼtə nɛ kə ʼxɥ gɥ	
埃	dust	ʼtʰɥ fiɛ	WrT <i>thal ba</i>
拭く	wipe	ʼtʰe ɕɥ	
縄	rope	ʼtɕə lō / ʼtɕō	
棒	rod	ṁgɛ	
生まれる	be born	ʼre ru ṁtʰwā	
成長する	grow	ʼte ndzə	
生きている	alive	ṁna ʼma ɕi fiə	
太った	fat	ṁtʰeʰi ʼɕi wu ʼna ṁdzə	
やせた	thin	ṁtʰeʰi ʼmə ṁdzə / ṁtʰeʰi ṁkū mbo	S2S3-WrT <i>skam po</i>
疲れた	tired	ʼɸə	
病気	sickness	ṁna sɛ ʼte zō	
けがをする	be injured	ṁmɛ ṁtʰa	
痛い	have an ache	ṁzə	
かゆい	itchy	ṁdɕə	
薬	medicine	ṁm̄	WrT <i>sman</i>
医者にかかる	see a doctor	ṁne dzɥ	
殺す	kill	ʼsə	
死ぬ	die	ṁsi	
神	deity	ṁlɛ	WrT <i>lha</i>
殴り合う	fight	ṁdzɛ ri ʼko	S1S2-WrT <i>rgyag res</i>
口げんかする	quarrel	ṁbɔʼ tə ʼtə tʰə ri ʼko	
逃げる	escape	ʼtsʰɛ	

語義	Meaning	mTsholnga 方言	N.B.
追いかける	pursue	^h kɯ	
剣	sword	ʼtə ne ʼrĩ ^m bo	S3S4-WrT <i>ring po</i>
槍	spear	ⁿ dõ ʼrĩ ^m bo	WrT <i>mdung ring po</i>
弓	bow	^{fi} ru	
矢	arrow	ⁿ du læ	S1-WrT <i>mde'u</i>
人	human being	^h ɣə nɛ	
男	man	^h zi	
女	woman	ʼri	
子供	child	^h k ^h ɛ	
老人	old man	ʼlu ʼfi ^g ɣ po	WrT <i>lo rgan po</i>
若い	young	ʼlu ʼtsa ⁿ dza	S1-WrT <i>lo</i>
父	father	^h kə	
母	mother	ʼmo	
息子	son	^h k ^h ɛ	
娘	daughter	ʼmi tɕu	
兄弟姉妹	sibling	^h xu ɕe	
兄	elder brother	ʼtɕo fia	
弟	younger brother	ʼti ti	Chn. <i>didi</i>
姉	elder sister	^h ʔa dza	
妹	younger sister	ʼpo mo ʼtɕ ^h ɔ	WrT <i>bu mo chung</i>
夫	husband	^{fi} zu ^{fi} zo	
妻	wife	^{fi} le mje	S1-WrT <i>zla</i>
村落	village	ʼtɕə ⁿ dzi	
銃を撃つ	shoot a gun	ʼmə ⁿ dɛ ʼfi ^g jə	WrT <i>me mda' rgyab</i>
盗む	steal	^h ku ʼwə	S1-WrT <i>rku</i>
仕事する	work	ʼle xɛ ʼljă	WrT <i>las ka las</i>
休憩する	take a rest	ʼmɛ ^h su ^h ta	S1S2-WrT <i>mal gso</i>
皮をむく	peel	^h pa pɛ ʼxu	S1S2-WrT <i>pags pa bshu</i>
行く	go	ʼxu	
来る	come	ʼre ⁿ də	
出ていく	go out	ʼra	
入って来る	come in	ʼte ⁿ də	
曲がる	turn	ʼjo jō	
腕時計	watch	^h tɕ ^h u ts ^h i	WrT <i>chu tshod</i>
止まる	stop	^{fi} mj	
歩く	walk	ʼxu	

語義	Meaning	mTsholnga 方言	N.B.
走る	run	ˉtse	
速い	quick	ˉxa ri	
遅い	slow	ˈka le	WrT <i>ga le</i>
這う	crawl	ˈte p ^h q	
道	road	ˈrə	
橋	bridge	ˈfi zã m ^b ε	WrT <i>zam pa</i>
車輪	wheel	ˈŋk ^h u lu	WrT <i>'khor lo</i>
船	ship	ˈtu ze	S1-WrT <i>gru</i>
言葉	language	ˈhkε' tε ^h ə / ˈhkε ri	S1-WrT <i>skad</i> WrT <i>skad rigs</i>
話す	speak	ˈhkε' tε ^h ə ˈxə di fio	S1-WrT <i>skad</i>
言う	say	ˈxə di fio	
尋ねる	ask	ˈti	WrT <i>dri</i>
呼ぶ	call	ˈre	
名前	name	ˉmi	
遊ぶ	play	ˈnə n ^d ze ˈwə	
歌	song	ˈfi ye	WrT <i>gzhas</i>
歌う	sing	ˈfi ye ˉtε ^h i	S1-WrT <i>gzhas</i>
踊る	dance	ˈfi ye ˈŋtε ^h ã	WrT <i>gzhas 'cham</i>
出会う	meet	ˉkə' di	
待つ	wait	ˈzə lã	
殴る	hit	ˉt ^h i ˈfi gjq	
噛みつく	bite	ˈn ^d q	
取る	fetch	ˈze n ^d ε	
手にする	take	ˉtε ^h i ba ˉja	
捕まえる	catch	ˈre ts ^h ε	
放す	release	ˈte tε ^h i	
投げる	throw	ˈne fi zã	
触る	touch	ˈŋt ^h ə ri ˈt ^h e zə	
拭く	wipe	ˈt ^h e ts ^h q	
揺らす	shake	ˈŋt ^h e n ^t h ^o ˈrə	
押す	push	ˈt ^h e fi j ^o	
背負う	carry on the back	ˉhpu	
蹴る	kick	ˈfi d ^o n ^d za ˈke	S1-WrT <i>rdog</i>
踏む	tread	ˈte zε	
隠す	hide	ˉtεə h ^o ε ˈwə	

語義	Meaning	mTsholnga 方言	N.B.
探す	look for	ʼfi zə	
見つける	find	ʼkʰəʼ dɛ	
見せる	show	ʼnəʼ tʰi	
置く	put	ʼrəʼ kə ɕã	
する	do	ʼfi zo	WrT <i>bzo</i>
		/ ʼlɛ	WrT <i>las</i>
壊す	destroy	ʼmə rɔ ʼfi zo	S3-WrT <i>bzo</i>
修理する	repair	ʼse pɛ ʼtəʼ fi zo	S1S2-WrT <i>gsar pa</i> S4-WrT <i>bzo</i>
裂ける	split	ʼnʰe tɕʰu	
曲がる	curve	ʼjo jō	
洗う	wash	ʼɛɔ	
緩める	unfasten	ʼtəʼ nʰi	
かぶる	wear	ʼzɛʼ fi	
突き刺す	stick into	ʼtʰe nʰdzu	
切る	cut	ʼne kə	
混ぜる	mix	ʼre nʰdu	
掘る	dig	ʼte tɕɯ	
動く	move	ʼmɯ	
落ちる	fall	ʼne tsʰi	
濡れた	wet	ʼtɕi tɕi	
乾いた	dry	ʼrə rə	
考慮する	consider	ʼhso nu ʼto	S1-WrT <i>bsam</i>
知っている	know	ʼha ʼko	WrT <i>ha go</i>
忘れる	forget	ʼfi me	
教える	teach	ʼzɛ	
恐れる	fear	ʼfi ɣɛ	WrT <i>gzhes</i>
好きである	like	ʼfi ga	WrT <i>dgaʼ</i>
うれしい	glad	ʼfi ga	WrT <i>dgaʼ</i>
腹を立てる	get angry	ʼni ʼniə	S1-WrT <i>snying</i>
心	mind	ʼse	WrT <i>sems</i>
天	sky	ʼnã nʰkʰɛ	WrT <i>nam mkhaʼ</i>
雲	cloud	ʼhʰi	WrT <i>sprin</i>
霧	fog	ʼhʰi ma	WrT <i>sprin dmar</i>
雨	rain	ʼtsʰu	
雨が降る	it rains	ʼtsʰu ʼn də	

語義	Meaning	mTsholnga 方言	N.B.
雷	thunder	't ^h jə / ʰt ^h o	WrT <i>thog</i>
雷が鳴る	thunder rolls	ʰt ^h o 'fi gje	WrT <i>thog rgyag</i>
稲光	lightning	ʰt ^h o' hke 'wə	S1S2-WrT <i>thog skad</i>
虹	rainbow	na me 'na h ^h tso	
雪	snow	'wi	
氷	ice	'tɕ ^h a ro	WrT <i>chab rom</i>
凍る	freeze	'tɕ ^h a ro 'n̄tɕ ^h ɑ	WrT <i>chab rom 'khyags</i>
溶ける	dissolve	'ma n̄dʒi	
太陽	sun	'ni / 'ni fu	
月	moon	fi da we	WrT <i>zla ba</i>
星	star	hka me	WrT <i>skar ma</i>
光	light	fi lo se bo	WrT <i>glog gsal po</i>
影	shadow	'tə ŋɑ	S1-WrT <i>grib</i>
暗い	dark	'ni du du	
風	wind	lō pa	
風が吹く	wind blows	lō pa 'fi de po 'ke	
熱い	hot	'h ^h t ^h sa h ^h tsə	
寒い	cold	'n ⁿ dza n ⁿ dzo	
暖かい	warm	'tə tə / 'tə fu	WrT <i>drod drod</i> WrT <i>drod po</i>
山	mountain	'ri	WrT <i>ri</i>
谷	valley	'zɑ' rə sə	
森	forest	'nɑ ts ^h ɛ	WrT <i>nags tshal</i>
平原	plain	ʰt ^h ɑ	WrT <i>thang</i>
湖	lake	fi lo tɕ ^h u	WrT <i>lung chu</i>
川	river	ʰtɕ ^h u	WrT <i>chu</i>
水	water	'tɕi	
泡	bubble	'ne tse	
沈む	sink	'nə yu	
流れる	flow	xu	
岸	bank	'kə rə	
波	wave	fi lo pa	WrT <i>rlabs pa</i>
石	stone	'fi du	WrT <i>rdo</i>
砂	sand	'ɕi me	WrT <i>bye ma</i>

語義	Meaning	mTsholnga 方言	N.B.
土	earth	ʼn dzɿ	
草	grass	ʼnə re	
木	tree	ṽṽi ^m bo	WrT <i>shing po</i>
樹皮	bark	ṽṽi ^m bo ʁə ʼpɿ pa be	S1S2-WrT <i>shing po</i> S4S5-WrT <i>pags pa</i>
枝	twig	ṽṽi ^m bo ʼlɿ la	S1S2S3-WrT <i>shing po lag</i>
葉	leaf	ʼlo ma	WrT <i>lo ma</i>
花	flower	ʼmɔ dɔ	WrT <i>me tog</i>
根	root	ʰtsa wɛ	WrT <i>rtsa ba</i>
生長する	grow	ʼte ⁿ dzu	
動物	animal	ʼfi dɿ	WrT <i>dwags</i>
鳥	bird	ʼn dzɛ ⁿ dzɛ	
魚	fish	ʼɿɛ	WrT <i>nya</i>
虫	insect	ʼɿo ⁿ dɔ	
犬	dog	ṽṽ ^h ɸ	
猫	cat	ṽṽe le	WrT <i>le le</i>
馬	horse	ʼre	
ロバ	donkey	ṽṽko rə	WrT <i>ku ru</i>
ヤク	yak	ṽṽɸ	
羊	sheep	ṽṽla	
ぶた	pig	ṽṽp ^h ɿ	WrT <i>phag</i>
鶏	chicken	ʼtɕo mo	
虎	tiger	ʰtɿ	WrT <i>stag</i>
熊	bear	ʼtɔ	WrT <i>dom</i>
狼	wolf	ʰtɕɔ ⁿ go	WrT <i>spyang khi</i>
猿	monkey	ʼte ri t ^h ɸ	
うさぎ	hare	ʼn dɿ fia	
ねずみ	mouse	ʼn ts ^h ɿ	
象	elephant	ʰi lã ^m bo tɕ ^h e	WrT <i>glang bo che</i>
大がらす	raven	ʼrə bɛ	
蝶	butterfly	ṽṽtɕ ^h ə ma kə lə	
蟻	ant	ʼtɿ ^h kə	S1-WrT <i>grog</i>
蜘蛛	spider	ʼtu wa k ^h a ra	
蜜蜂	bee	ʰm bã ⁿ go	
蚊	mosquito	ʼmə ⁿ dɔ	
蠅	fly	ʼmə ⁿ dɔ	

語義	Meaning	mTsholnga 方言	N.B.
蚤	flea	ʼne ^h tse	
蛇	snake	ˉru	
蛙	frog	ˉmε ^m bε	
角	horn	ˉi ^h t ^h wə	
爪	claw	ˉ ⁿ dzo	
尾	tail	ˉ ^{fi} nə ^m ε	
鳥の巢	bird's nest	ˉ ⁿ dzε ⁿ dzε ^h ts ^h ɔ	S3-WrT <i>tshang</i>
飛ぶ	fly	ˉ ^{fi} wi	
泳ぐ	swim	ˉtε ^h u ⁿ dzə ^h ʼke	
円形の	circle	ˉko ^{fi} go	
鋭利な	sharp	ʼsi ^m ə	
鈍い	dull	ʼtɔ	
まっすぐな	straight	ʼtə ^z ə ^z e	
大きい	big	ʼte ^{bo}	
背が高い	high	ˉ ⁿ t ^h o ^{bo}	WrT <i>mtho po</i>
小さい	small	ʼtca ⁿ dza	
太い	large in diameter	ˉtsō ⁿ ə ⁿ ə	
長い	long	ʼrĩ ^m bo	WrT <i>ring po</i>
短い	short	ʼwε ^w ε	
厚い	thick	ˉ ^m bɔ ^m bɔ	
薄い	thin	ʼrwi ^r wi	
色	colour	ˉts ^h ə ^k hε	WrT <i>tshos kha</i>
赤い	red	ˉnε ⁿ ε	
青い	blue	ˉŋə	WrT <i>sngon</i>
黄色い	yellow	ˉnε ⁿ ε	
緑色の	green	ˉŋə ⁿ ə	WrT <i>sngon sngon</i>
白い	white	ˉi ^h t ^h ɔ ⁱ t ^h ɔ	
灰色の	gray	ˉt ^h ε ^b ε	WrT <i>thal ba</i>
黒い	black	ˉni ⁿ i	
声	voice	ˉ ^h kə	
におい	smell	ʼtə ^m ε	WrT <i>dri ma</i>
強い	strong	ʼŋə ^m bε	WrT <i>ngan pa</i>
弱い	weak	ˉçu	
正確な	exact	ʼtce ^z e	
よい	good	ʼjɔ	WrT <i>yag</i>
悪い	bad	ʼʔa ^w ε	

語義	Meaning	mTsholnga 方言	N.B.
なめらかな	smooth	ⁿ dzã mbo	WrT 'jam po
古い	old	^{fi} nõ mbe	WrT rnying pa
新しい	new	^h se be	WrT gsar pa
美しい	beautiful	^{fi} ŋy fiɛ	
清潔な	clean	^h tsõ me	WrT gtsang ma
汚い	dirty	^h tsõ be	WrT btsog pa
硬い	hard	ⁿ t ^h õ bo	
やわらかい	soft	^h sõ mo	
前	front	^ŋ u' re	S1-WrT sngon
後ろ	back	^h ka' do	
中間	middle	^h tɕo xo	
上	upper	^h ka rø	
下	lower	^h ke' rø	
中	inside	^h na nẽ	
外	outside	^h ki' ɕø	
右	right	^{fi} je' mø	S1-WrT g.yas
左	left	^{fi} jo yø	S1-WrT g.yon
近い	near	^h ka n ⁿ dza	
遠い	far	^h t ^h ã rĩ mbo	WrT thag ring po
高い	high	ⁿ t ^h u po	WrT mthon po
低い	low	^h ta n ⁿ dza	
深い	deep	^h ka n ⁿ dza	
浅い	shallow	^h sø ŋa	
広い	wide	ⁿ t ^h u po ^{fi} ŋø ɕø	
狭い	narrow	^h ta n ⁿ dza ^h ca to	
一緒に	together	^h tã ɕã	
空の	vacant	^h tõ mbe	WrT stong pa
方向	direction	^h te ^h õ xe	S1-WrT phyogs
東	east	^h ca' te ^h õ	WrT shar phyogs
西	west	^h nu ^h te ^h õ	WrT nub phyogs
南	south	^h lo' te ^h õ	WrT lho phyogs
朝	morning	^h nã ŋu	
正午	noon	^h nĩ N ⁿ ɕø	S1-WrT nyin
明るい時間	daytime	^h nĩ N ⁿ ɕø	S1-WrT nyin
夕方	evening	ⁿ ts ^h ɛ ne	
夜更け	midnight	ⁿ ts ^h ẽ rø	WrT mtshan re

語義	Meaning	mTsholnga 方言	N.B.
夜	night	ʼjɔ̄	
早い	early	ʼnã ^u gu	
遅い	late	ʼjɔ̄	
今	now	ʼxa ⁿ da	
今すぐ	right now	ʼxa ri	
先に	firstly	ʼŋu ^l ə	S1-WrT <i>sngon</i>
後で	later	ʼka do	
常に	always	ʼmbo ʼxe ^{fi} dzi	
今日	today	ʼpə sə	
昨日	yesterday	ʼji sə	
明日	tomorrow	ʼce rə	
あさって	day after tomorrow	ʼsa ⁿ də	
日	day	ʼxe ^{fi} za	
年	year	ʼlo	WrT <i>lo</i>
春	spring	ʼhtɕi	WrT <i>dpyid</i>
夏	summer	ʼfi ja	WrT <i>dbyar</i>
秋	autumn	ʼhtɕ	WrT <i>ston</i>
冬	winter	ʼfi gũ	WrT <i>dgun</i>
数	numeral	ʼʔa ^u gi	WrT <i>ang ki</i>
一	one	ʼtə xi	
二	two	ʼne	
三	three	ʼsɔ̄	
四	four	ʼfi ɣə	
五	five	ʼŋa	
六	six	ʼtɕ ^h u	
七	seven	ʼŋɕ	
八	eight	ʼce	
九	nine	ʼŋgo	
十	ten	ʼba ^l qo	
十一	eleven	ʼba ^l tə	
十二	twelve	ʼba ^l ne	
十三	thirteen	ʼbo ^l sɔ̄	
十四	fourteen	ʼbo ^l fi ɣə	
十五	fifteen	ʼba ŋa	
十六	sixteen	ʼbo tɕ ^h u	
十七	seventeen	ʼbe ŋɕ	

語義	Meaning	mTsholnga 方言	N.B.
十八	eighteen	ʼbe ɕə	
十九	nineteen	ʼbe ʎgo	
二十	twenty	ʼna	
二十一	twenty-one	ʼna ʼtə	
二十二	twenty-two	ʼna ʼne	
二十三	twenty-three	ʼna ʼsə	
三十	thirty	ʼsu ʳdzu	WrT <i>sum cu</i>
四十	forty	ʼfi ʎi dzu	WrT <i>bzhi bcu</i>
四十一	forty-one	ʼfi ʎi dzu kə tɕə ʼfi ʎi ʰtɕi	S1S2-WrT <i>bzhi bcu</i> S5S6-WrT <i>zhi gcig</i>
五十	fifty	ʼfi ŋo tɕu	WrT <i>lnga bcu</i>
五十一	fifty-one	ʼfi ŋo tɕu ʼŋa ʰtɕi	WrT <i>lnga bcu nga gcig</i>
六十	sixty	ʼtɕu dzu	WrT <i>drug cu</i>
七十	seventy	ʼfi dɛ̃ ʳdzu	WrT <i>bdun cu</i>
八十	eighty	ʼfi dzɛ̃ dzu	WrT <i>brgyad cu</i>
九十	ninety	ʼfi gu dzu	WrT <i>dgu bcu</i>
百	hundred	ʼfi dzɛ̃	WrT <i>brgya</i>
二百	two hundred	ʼni ʰdzɛ̃	WrT <i>gnyis brgya</i>
三百	three hundred	ʼsũ ʰdzɛ̃	WrT <i>gsum brgya</i>
千	thousand	ʼʰtɕi ʰto	WrT <i>gcig stong</i>
二千	two thousand	ʼni ʰto	WrT <i>gnyis stong</i>
万	ten thousand	ʼtʰə ji	S1-WrT <i>khri</i>
二万	twenty thousand	ʼtʰə ne	S1-WrT <i>khri</i>
十万	hundred thousand	ʼtʰə ɞo	S1-WrT <i>khri</i>
百万	million	ʼtʰə ʼfi dzɛ̃	S1-WrT <i>khri brgya</i>
一回	time	ʼtʰe	WrT <i>thengs</i>
第一	first	ʼʔã ʼtã ʳmbo	WrT <i>ang dang po</i>
すべて	whole	ʼka ʳga	
半分	half	ʼtɕʰi kɛ	WrT <i>phyed ka</i>
重い	heavy	ʼfi dzɛ̃	WrT <i>ljed</i>
軽い	light	ʼjɛ̃	
多い	many	ʼka pɛ	
少ない	a few	ʼnu ʳũ	WrT <i>nyung nyung</i>
私	I (1SG)	ʼŋo	
私たち	we (1PL)	ʼŋo ne	
あなた	you (2SG)	ʼne	

語義	Meaning	mTsholnga 方言	N.B.
あなたたち	you (2PL)	ṅə ne	
彼/彼女/それ	he/she/it (3SG)	ṅi	
彼ら	they (3PL)	ṅi ne	
自分	self	ṅ ^{hə} k ^{hə} t ^{hə}	
これ	this	ṅe	
あれ	that	ṅci	
ここ	here	ṅə ru	
あそこ	there	ṅci ru	
誰	who	ṅsu	
何	what	ṅtə	
どれ	which	ṅ ⁿ de	
どんな	how	ṅ ⁿ dō lə	
どこ	where	ṅ ⁿ dō ru	
いつ	when	ṅsu ^f dʒi lə	
どれくらい	how many	ṅsu li	
いくつか	some	ṅmə ⁿ de	
まだ	not yet	ṅfi ʋō ṅgə	
である	be (CPV.EGP)	ṅo	
である	be (CPV.STM)	ṅxə	
ある	be (EXV.EGP)	ṅ ^h u	
ある	be (EXV.SEN)	ṅja	
ラサ	Lhasa	ṅla sɛ	WrT <i>lha sa</i>

付記

本研究に際しては、2017-2020 年度日本学術振興会科学研究費補助金若手研究 (A) 「チベット文化圏東部の未記述言語の解明と地理言語学的研究」(研究代表者: 鈴木博之、課題番号 17H04774) および 2018-2020 年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (B) 「高精細度広域地図による中国および隣接する多言語地域の地理言語学的研究」(研究代表者: 遠藤光暁、課題番号 18H00670) の援助を受けている。

参考文献

- 鈴木博之 (2005) 「チベット語音節構造の研究」『アジア・アフリカ言語文化研究』第 69 号 1-23
URI: <http://hdl.handle.net/10108/20212>
- 鈴木博之、四郎翁姆、才讓三周 (2022) 「ラロン・マ [Larong sMar] 語如美 [Rongsmad] 方言の語彙資料 (日英対照)」『言語記述論集』14, 27-63 URI: <http://id.nii.ac.jp/1422/00004410/>
- 鈴木博之、才讓三周、四郎翁姆 (2021) 「タヤ・マ [Drag-yab sMar] 語巴俄 [mBengo] 方言の語彙資料 (日英対照)」『言語記述論集』13, 189-213 URI: <http://id.nii.ac.jp/1422/00004151/>
- Matisoff, James A. (2004) “Brightening” and the place of Xixia (Tangut) in the Qiangic branch of Tibeto-Burman. In Ying-Chin Lin et al. (eds.) *Studies on Sino-Tibetan languages: Papers in honor of Professor Hwang-Cherng Gong on his seventieth birthday*, 327-352. Taipei: Institute of Linguistics, Academia Sinica.
Online: https://stedt.berkeley.edu/pdf/JAM/Xixia_Qiangic-Gong_Festo.pdf
- Nagano, Yasuhiko & Marielle Prins (2013) rGyalrongic languages database. Online: <https://htq.minpaku.ac.jp/databases/rGyalrong/>
- de Nebesky-Wojkowitz, René (1956) *Oracles and demons of Tibet: The cult and iconography of the Tibetan protective deities*. 's-Gravenhage: Mouton.
- Suzuki, Hiroyuki (2016) In defense of prepalatal non-fricative sounds and symbols: towards the Tibetan dialectology. *Researches in Asian Languages* 10, 99-125.
URI: <http://id.nii.ac.jp/1085/00002195/>
- Suzuki, Hiroyuki (2022) Dialectal affiliation of Tibetic varieties in gYagrwa within Yunnan Tibetan. *Kyoto University Linguistic Research* 41, 43-68.
- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (2019) An outline of the sound structure of Lhagang Choyu: A newly recognised highly endangered language in Khams Minyag. *Revue d'études tibétaines* 48, 99-151. Online: http://himalaya.socanth.cam.ac.uk/collections/journals/ret/pdf/ret_48_05.pdf
- Suzuki, Hiroyuki, Sonam Wangmo & Tsering Samdrup (2021a) Lamei, another dialect of Lamo (mDzong, TAR): Vocabulary and sentence structure. In Yasuhiko Nagano & Takumi Ikeda (eds) *Grammatical phenomena of Sino-Tibetan languages 4: Link languages and archetypes in Tibeto-Burman*, 25-69. Kyoto: Institute for Research in Humanities, Kyoto University.

URI: <http://hdl.handle.net/2433/263977>

- Suzuki, Hiroyuki, Sonam Wangmo & Tsering Samdrup (2021b) Geolinguistic analysis of ‘hand’, ‘wind’, and ‘moon’ in Tibetic languages in sMarkhams, mDzogong, and rDzayul counties. *Studies in Asian and African Geolinguistics II—Grammatical relations—*, 48-56. URI: https://publication.aa-ken.jp/saag2_grammatical_relations_2021.pdf
- Suzuki, Hiroyuki, Sonam Wangmo & Tsering Samdrup (2022) Connecting Southern Khams in geolinguistics: A brief survey on ‘fish’ and ‘pig’ beyond Provinces. *Studies in Geolinguistics* 2, 29-39. doi: <https://doi.org/10.5281/zenodo.7121496>
- Suzuki, Hiroyuki & Tashi Nyima (2021) Evidential system of copulative and existential verbs in Lamo. In Yasuhiko Nagano & Takumi Ikeda (eds) *Grammatical phenomena of Sino-Tibetan languages 4: Link languages and archetypes in Tibeto-Burman*, 259-287. Kyoto: Institute for Research in Humanities, Kyoto University. URI: <http://hdl.handle.net/2433/263981>
- Suzuki, Hiroyuki, Tsering Samdrup & Sonam Wangmo (2018) Contrastive word list of three non-Tibetic languages of Chamdo——Lamo, Larong sMar, and Drag-yab sMar——. *Kyoto University Linguistic Research* 37, 79-104. doi: <https://doi.org/10.14989/240980>
- Suzuki, Hiroyuki, Tsering Samdrup, Niangwujia (Nyingbo-Gyal), Jixiancairang (Chaksham Tsering), & Sonam Wangmo (2019) /fj/ in Amdo Tibetan: Descriptive and historical approaches. *Journal of the Phonetics Society of Japan* 23, 76-82. doi: https://doi.org/10.24467/onseikenkyu.23.0_76
- Tashi Nyima & Hiroyuki Suzuki (2019) Newly recognised languages in Chamdo: Geography, culture, history, and language. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 42.1, 38-82. doi: <https://doi.org/10.1075/ltba.18004.nyi>
- 鈴木博之 [Suzuki, Hiroyuki]、扎西尼瑪、才讓三周、四郎翁姆 (2022) 〈昌都市内新認知語言的數詞結構〉《南開語言學刊》第 1 期 159-168
- 西藏昌都地区地方志編纂委員会 (2005) 《昌都地区誌》方誌出版社
- 趙昊亮 (2019) 《新發現語言拉茸話的描寫及其系屬問題研究》中山大學碩士論文
- 朱曉農 (2010) 《語音學》商務印書館

Wordlist of the mTsholnga dialect of Larong sMar (Japanese-English)

Hiroyuki SUZUKI

Sonam Wangmo

Tsering Samdrup

Abstract

This article primarily provides a wordlist of Larong sMar (mTsholnga dialect), a Tibeto-Burman language spoken in mTsholnga Township, sMarkhams County, Chamdo Municipality, Tibet Autonomous Region. The word list contains around 460 words, arranged by semantic fields, in the order of Japanese-English-mTsholnga. The information of the lexical borrowing is also attached when necessary.

受理日 2023 年 4 月 4 日

ラロ語の音韻体系¹

王 星月

神戸市外国語大学博士課程

キーワード: ラロ語、彝語、チベット・ビルマ諸語、音韻分析

1 はじめに

ラロ語(ISO 639-3 ywt/glottocode:lalo1240)はシナ・チベット語族(Sino-Tibetan)チベット・ビルマ(Tibeto-Burman)語派ロロ・ビルマ(Lolo-Burmese)語支ロロ語群(Loloish)の中部ロロ諸語に属すると考えられる(Bradley 1979,2002)。雲南省大理市の南澗・巍山を中心として、主に大理市の南部・保山市の北部・臨滄市の北部・普洱市の北部などに分布している。具体的には鳳慶・昌寧・永平・景東・漾濞・隆陽・弥渡・禄勳・施甸などに分布している。

陳・辺・李 (1985), Björverud (1998)によれば、ラロの人口は約 50 万人いるとされ、話者人口は約 25 万人である。陳・辺・李 (2009)は、話者人口が 15 万人であると指摘している。一方、Yang (2015)は話者人口を 30 万人以下ではないかと推定している。話者人口は多いように見えるが、UNESCO の世界危機に瀕する言語の調査によれば、ラロ語は脆弱(vulnerable)の言語とみなされている(Moseley 2010)。Bradley (2007)及び Yang (2010)の指摘でも、周辺領域のラロ語は非常に危惧され、消滅に瀕する状況であるとされる。

本稿では雲南省保山市昌寧県の珠街彝族郷黒馬村の二布社(図 1)のラロ語を取り扱う。珠街彝族郷は東経 99°49'~100°02'から北緯 24°59'~25°12'に位置し、昌寧県の北東部に

あり、北西部は大理州の巍山県・永平県・漾濞県と接する。南は臨滄市の鳳慶県と繋がり、西は昌寧県の苟街彝族・ミャオ族の集落と隣接している。

珠街彝族郷の面積は 281 平方キロメートルである。9 つの村が存在し、133 のグループ、4,642 の世帯、14,176 人が暮らしている。村にはイ族、ミャオ族、リス族などの少数民族が 13,185 人住んでおり、総人口の 93%を占める。このうち、12,465

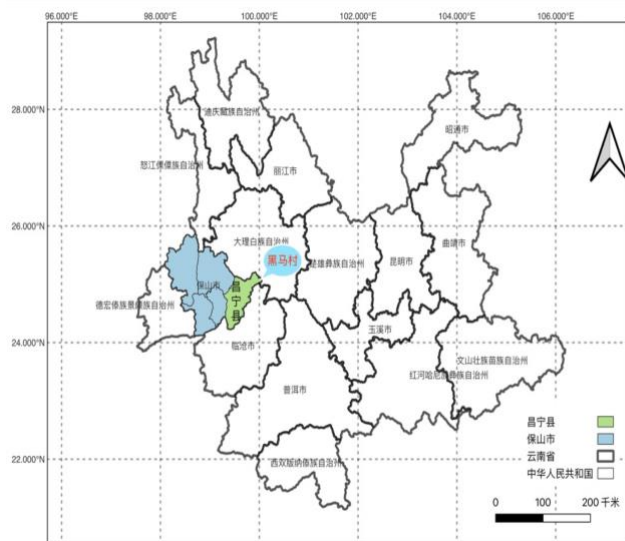


図 1 黒馬村の位置

¹ 本稿は筆者の修士論文の補筆・改訂版である。

² 珠街彝族郷人口の各種参考資料は以下の通りである。

人がイ族で、総人口の 87.93% を占めている。その内、黒馬村には 420 戸がある。村の総人口は 1,640 人 (2022 年) で、ラロ語を母語として使用している。

1.1 ラロ語の方言

陳・辺・李(1985)によれば、ラロ語の方言は二種類に分かれる。東山方言と西山方言である。巍山を境界として、巍山の東が東山方言、巍山の西が西山方言である。しかしながら、このような地理的な特徴のみに従った分類には限界があり、東西方言の分類は巍山を超えると適用が難しい部分も存在する。また、東西方言における音声や音韻などの相互の差異に関する問題はこれまで詳細に論じられてはこなかった。

Yang (2015 図 2) は音韻・音声・地理の特徴に基づき、ラロ語内部の方言を分類した。主方言は中部方言(C)・西部方言(W)・東部方言(E)、南東部(SE)の四つ及び少数話者の Eka(俄卡)・XZ(徐掌)・YL(楊柳)・MD(芒底)の四つに分類される。Yang の分類に従えば、昌寧県のラロ語は中部方言に属すると考えられる。

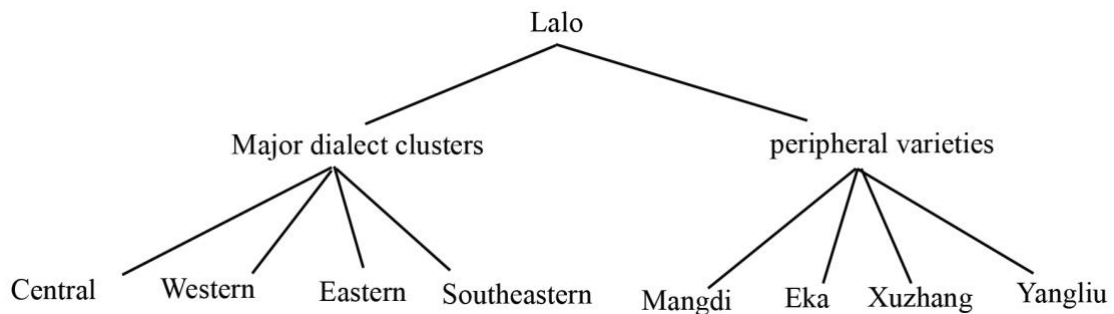


図 2 ラロ語の方言 (Yang2015 [筆者改訂])

1.2 先行研究

ラロ語に関する言語研究は 20 世紀初頭まで遡る。詳細な調査・分析は 1990 年代以降である。ラロ語内部の方言的差異の分析・比較研究・歴史言語学的な研究 Yang の研究にのみ見られる。Yang の研究は主に音声・音韻・変調・音変化の方面から進められている。形態・統語などの問題は触れられていない。ラロ語に関する研究は全てを挙げるのは限界があるため、主な研究を以下に掲げる。

YNYF(雲南彝語方言語彙集 1984)、陳・辺・李(1985)、孫・胡・黄(2007)、黄(1992)、王(2003)、朱(2005)などの多くの研究者は少なくともラロ語の音韻体系について概

雲南省昌寧県志編纂委員会(1985)によれば、珠街郷人口は 13,794 人、彝族がそのうちの 87.6% を占める。保山市民族宗教事務局(2006)によれば、珠街郷人口は 14,969 人、彝族・ミャオ族・リス族が 14,066 人である。李永周(2016):珠街郷彝族の人口は 12,474(2015)人、珠街郷総人口の 88.1% を占める。雲南省昌寧県珠街郷人民政府 (<http://www.yncn.gov.cn/info/3993/49918.htm>): 12,465 人がイ族で、総人口の 87.93% を占める。

黒馬村の人口は年末統計表による(黒馬村の村長私信)。

説を発表した。また一部の研究者は巍山県のラロ語の語彙も発表した。これら調査研究はおよそ巍山県を中心に進められてきた。周辺地域のラロ語は調査されていないところが多く見られる。巍山県はラロ語を中心に使用している地域に間違いはないが、それ以外の地域で話されるラロ語はよりいっそう調査すべきである。

文法に関しては、Björverud(1998)は音声・音韻だけではなく、形態・統語といった文法特徴を記述してきた。現在に至るまで広く参照されている。周(2017)の博士論文はラロ語の参照文法であるが、依然として未公開である。ト(2018, 2020, 2022)生成文法の立場から巍山県のラロ語の等価構文(equative construction)、数量詞遊離(floating numeral quantifier)及びラロ語の驚嘆性(mirativity)と証拠性範疇(evidentiality)の問題を論じてきた。

これらの先行研究に関わる調査はおよそ巍山県を中心に進められてきた。それ以外に臨滄市の芒底・俄卡及び保山市隆陽区の陽柳・徐掌などの地域のラロ語についても音韻的な特徴に関する報告がある。保山市の昌寧県や臨滄市の北部の地域の調査報告は僅かで、未調査と言っても過言ではないだろう。

1.3 データの収集・分析方法

非常に残念だが、2019年末から世界中で流行しているコロナ禍の影響がフィールド調査に大きな影響を与えている。筆者は修士課程の間、現地調査を行えなかった。そのため、音声データは事前に協力者にPCM録音機を送付して、録音してもらった形を採用した³。1200個程度の基礎語彙・短文・小学3年生用の国語教科書の文章(ラロ語に翻訳してもらったもの)を録音した。短文は簡単な陳述表現、一般的な否定表現、疑問文表現といった文法表現を含んでいる。

2023年に入ってからようやくフィールド調査が可能となった。2023年1月10日に現地調査へ行った。以前収集されたデータのチェック及び新たなデータの収集を実施した。そして、収集した音声データは音声分析ソフトウェアPraatを用いて、分節音と声調などの音声の特徴を観察した。

また、Björverud・Yangらが調査したものと、本研究で扱う黒馬村は調査時期や対象地域も大きく異なるため、音韻分析の結果は異なるを考える。そのため、必要がない限り、Björverud(1998)・Yang(2010/2015)のデータと分析に言及せず、筆者のデータのみについて分析・解釈を提示していくことにする。なお、記号の書記法は国際音声記号(IPA)を用いて、必要に応じて補助記号を追加して示す。

³ 2019年から2022年において、すべての音声データはリモート調査の形で採集した。具体的に、協力者に基礎語彙表を送って、語彙表にある語彙を録音してもらった。録音する際には、漢語の読み方一回にして、対応するラロ語の読み方は3回発音して録音した。

基礎語彙は1981年に中国の方言研究室資料室を出した『方言調査語彙表』からの参照である。

1.4 本稿の構成

本論文はラロ語の音韻にまつわる共時的記述を行う。以下ではそれぞれの節の概要について紹介する。

第1節はラロ語の使用状況・現在に至るまでの先行研究をまとめる。ラロ語は大理市の南澗・巍山を中心として使用され、話者数は30万人以下である。主要方言は四つ(中部・西部・東部・東南部)存在し、全て中部ロロ諸語に位置付けられる。

第2節はラロ語の音節構造をまとめる。ラロ語の音節構造は (C1)V(C2)/T(Cは子音、Vは母音、Tは声調)である。

第3節は子音体系をまとめる。子音音素は全部で33種類ある。時に、鼻音は成節子音としても現れる。末子音C2は -n 及び -ŋ の二種類がある。表1で提示した全ての子音は頭子音として出現できる。頭子音は閉鎖音・鼻音・破擦音・摩擦音・接近音の五つの調音方法に分かれる。

第4節は母音体系を記述していく。ラロ語の母音は緊喉母音と非緊喉母音の2種類が対立している。二重母音や三重母音などは基本的に漢語からの借用語である。

第5節では声調体系をまとめる。ラロ語の基本声調は高平調(55)、中平調(33)、低下降調(21)の三つがある。声調交替の現象も見られる。

最後に結論をまとめる。本論では主に珠街のラロ語の音韻現象について共時における特徴を取り上げた。ラロ語の子音は有声無気音・無声無気音・無声有気音を区別し、母音は緊喉母音と非緊喉母音の対立がある。固有語では単母音が中心である。二重母音などは基本的に借用語にのみ現れる。基本声調は高平調(55)、中平調(33)、低下降調(21)である。時に声調交替も見られる。

2 音節構造

ラロ語は音節声調型の言語である。音節は子音・母音・声調の三つの要素に分けられる。音節構造は下記(1)の通りである。

(1) 音節構造=(C1)V(C2)/T(Cは子音、Vは母音、Tは声調)

(1) に示した音節構造の各要素の概略を述べると以下のようなになる。

1.子音:子音は頭子音(C1)・末子音(C2)の位置で現れる。/n/は成節子音としても現れるが、生起条件は限られている(詳細は3.3節に)。末子音C2は-n及び-ŋの二種類がある(第2節)。

2.母音:固有語では単母音が中心である。漢語からの借用語で二重母音あるいは三重母音を観察することがあるが、極めて限定的な語彙にのみ出現する(第3節)。

3.声調:声調は超分節音的な特徴を表す(第4節)。

しかし、音節構造は必ずしも(1)の通りに実現するわけではない。漢語からの借用語で異なる音節構造になる可能性があり得る。以下に各音節タイプの実例を示しておく。

- (1): V/T /a²¹/[ʔ²¹] 「魚」 /i³³/[ʔ³³] 「4」
 (2): C/T /ŋ²¹du³³/[ŋ²¹du³³] 「空」 /ŋ⁵⁵/[ŋ⁵⁵] 「キノコ」
 (3): CV/T /yɑ⁵⁵/[yɑ⁵⁵] 「水」 /ʂi²¹/[ʂi²¹] 「歪む」
 (4): CVC/T /faŋ³³/[fəŋ³³] 「四角い」 <CH.fāng
 (5): CVV/T /phia³³tei²¹/[p^hie³³tei²¹] 「ミス」
 (6): CVVV/T /liu²¹kuai²¹tʂi³³/[liu²¹kuai²¹tʂ³³] 「肘」 <CH.guǎi

3 子音体系

表 1: ラロ語の子音音素一覧表

調音点 調音方法		両唇音		唇歯音		歯茎音		そり舌音		歯茎 硬口音		軟口蓋音		声門音	
閉鎖音	無気	p	b			t	d					k	g		
	有気	ph				th						kh			
鼻音			m				n						ŋ		
破擦音	無気					ts	dz	tʂ	dʒ	tɕ	dʒ				
	有気					tsh		tʂh		tɕh					
摩擦音				f	v	s	z	ʃ	ʒ	ɕ	ʒ	x	ɣ	h	
接近音			(w)				l								

ラロ語の子音音素は表 1 の通りである。子音音素は全部で 33 ある。音節構造によって、分かれた頭子音及び末子音のそれぞれの音声特徴を具体的な実例を挙げながら述べていく。

3.1 頭子音

表 1 で提示した全ての子音が頭子音として現れうる。頭子音は閉鎖音・鼻音・破擦音・摩擦音・接近音の五つの調音方法に分かれる。各子音の音価は以下の通りである。

[子音音素の特徴]

閉鎖音

閉鎖音は全て 9 種類あり、/p/[p], /ph/[p^h], /b/[b], /t/[t], /th/[t^h], /d/[d], /k/[k], /kh/[k^h], /g/[g]である。調音点は両唇・歯茎・軟口蓋になる。有声無気音・無声無気音・無声有気音の 3 種類において対立する。

鼻音

鼻音は/m/[m], /n/→[ŋ]/_i, [n]/elsewhere, /ŋ/[ŋ]/_ [+back]の3種類である。鼻音は成節鼻音としても生起できる。なお、音節間の同化現象により、成節鼻音は3.3節で後述するように、直後の頭子音の影響を受けて逆行同化(regressive assimilation)を起こす。

破擦音

破擦音は/ts/[ts], /tsh/[tʰ], /dz/[dz], /tʂ/[tʂ], /tʂh/[tʂʰ], /dz/[dz], /tɕ/[tɕ], /tɕh/[tɕʰ], /dz/[dz]の9種類ある。破擦音は閉鎖音と同様、有聲無気音・無声無気音・無声有気音において対立がある。また、調音点は歯茎・そり舌・歯茎硬口蓋に分かれる。しかし、歯茎硬口蓋音と結合する母音には限りがある。具体的に、母音/i, y, e, a/などの母音と共起しうる。言い換えれば、歯茎硬口蓋音は後舌母音と共起しない。

摩擦音

摩擦音は豊富であり、全部で11種ある。

/f/[f], /v/[v], /s/[s], /z/[z], /ʃ/[ʃ], /ʒ/[ʒ], /ɕ/[ɕ], /ʒ/[j~z], /x/[x], /ɣ/[ɣ], /h/[h]。

摩擦音は声門音/h/を除き、有聲音・無聲音の2種類が認められる。調音点としては唇歯音・歯茎音・そり舌音・歯茎硬口蓋音・軟口蓋音・声門音に分けられる。

/z/は/i/の前に置かれるとかなり弱く、[j~j]のようにしか聞こえない。/ɣ/は前舌母音と結合しない。/x/と/h/は母音/e, a, o/の前で対立している。

/k/は母音/-y/が後続する場合には、硬口蓋化が起こり、音声的には[k]として実現する。/ɕ/の直後の母音は/-a/または/-e/である場合にも硬口蓋化が起こり、音声的には[ɕ]として実現する。/h/の直後の母音は鼻音化される。

接近音

接近音は2種類ある。両唇軟口蓋接近音として/w/を、側面接近音として/l/を認める。/w/は[w]として実現するが、漢語からの借用語にのみ出現する。/l/[l]は全ての母音と共起しうる。

以下に各頭子音について具体的な例を掲げる。

[閉鎖音]

/p/: /pi²¹/[pi²¹] 「太い」、/pə²¹/[pə²¹] 「梳く」、/pa²¹/[pə²¹] 「人」

/ph/: /phi²¹/[pʰi²¹] 「吐く」、/phə³³/[pʰə³³] 「腐敗する」、/pha²¹/[pʰə²¹] 「優美」

/b/: /o⁵⁵bi²¹/[o⁵⁵bi²¹] 「蚊」、/bə²¹/[bə²¹] 「薄い」、/ba²¹/[be²¹] 「蜂蜜」

/t/: /tə³³/[tə³³] 「粗い」、/tu⁵⁵/[tu⁵⁵] 「沸かす」、/ta²¹/[tə²¹] 「切る」

/th/: /thə²¹/[tʰə²¹] 「側」、/thu⁵⁵/[tʰu⁵⁵] 「厚い」、/a⁵⁵tha²¹/[tʰə⁵⁵tʰə²¹] 「刀」

/d/: /ɕy⁵⁵də⁵⁵/[ɕy⁵⁵də⁵⁵] 「鉄」、/khu⁵⁵du⁵⁵/[kʰu⁵⁵du⁵⁵] 「穴」、/da²¹nan²¹/[dɛ²¹nən²¹] 「弓」

/k/: /ku³³/[ku³³] 「9」、/kə⁵⁵/[kə⁵⁵] 「胆」、/a³³fu⁵⁵ky²¹/[ɸ³³fy⁵⁵kjy²¹] 「白」
 /kh/: /khu²¹/[k^hu²¹] 「盗む」、/khə⁵⁵/[k^hə⁵⁵] 「個」、/khy³³ei⁵⁵/[k^hy³³ei⁵⁵] 「裏」
 /g/: /gu³³tʂhi⁵⁵/[gu³³tʂ^hi⁵⁵] 「体」、/gə⁵⁵go³³/[gə⁵⁵go³³] 「皮」、/ɣə³³gy³³/[ɣə³³gy³³] 「こら」

[鼻音]

/m/: /a⁵⁵mu²¹/[ɸ⁵⁵mu²¹] 「馬」、/ma²¹/[mə²¹] 「否定」、/me⁵⁵/[me⁵⁵] 「布」
 /n/: /nu²¹/[nu²¹] 「柔らかい」、/na²¹/[nə²¹] 「止まる」、/ne³³/[ne³³] 「近い」
 /ŋ/: /a⁵⁵ŋo⁵⁵/[ɸ⁵⁵ŋo⁵⁵] 「ガチヨウ」、/ŋa⁵⁵/[ŋə⁵⁵] 「私」、/ŋe²¹/[ŋe²¹] 「早い」

[破擦音]

/ts/: /tsi²¹/[tsi²¹] 「咳をする」、/si²¹tse⁵⁵/[sɿ²¹tse⁵⁵] 「肝臓」、/tsə³³/[tsə³³] 「達」
 /tsh/: /tshi²¹fu²¹/[tsh²¹fu²¹] 「肺」、/tshə⁵⁵/[tshə⁵⁵] 「油」、/tshə³³/[tshə³³] 「熱い」
 /dz/: /sɿ³³dzi⁵⁵/[sɿ⁴⁴dzi⁵⁵] 「森」、/dze²¹/[dze²¹] 「騎乗する」、/dzə²¹/[dzə²¹] 「食べる」
 /tʂ/: /khu⁵⁵tʂi²¹/[k^hu⁵⁵tʂi²¹] 「山」、/a⁵⁵tʂa²¹/[ɸ⁵⁵tʂə²¹] 「雀」、/tʂu³³/[tʂu³³] 「教える」
 /tʂh/: /a⁵⁵tʂhi²¹/[ɸ⁵⁵tʂ^hi²¹] 「羊」、/a⁵⁵tʂha⁵⁵/[ɸ⁵⁵tʂ^hə⁵⁵] 「フライパン」、/tʂhu⁵⁵/[tʂ^hu⁵⁵] 「人」
 /dz/: /dzi⁵⁵/[dzi⁵⁵] 「酒」、/vu³³dza³³/[vɸ³³dzə³³] 「夫」、/dzu³³/[dzu³³] 「ある」
 /te/: /tei³³/[tei³³] 「抓る」、/a⁵⁵tey²¹/[ɸ⁵⁵tey²¹] 「とげ」、/tei⁵⁵/[tei⁵⁵] 「酸っぱい」
 /teh/: /tehi⁵⁵/[te^hi⁵⁵] 「水稻」、/tehy⁵⁵/[te^hy⁵⁵] 「毛」、/tehi⁵⁵/[te^hi⁵⁵] 「屎」
 /dz/: /dzi²¹ti²¹/[dzi²¹ti²¹] 「嬉しい」、/dzi²¹phi²¹/[dzi²¹p^hi²¹] 「お金/質量単位」

[摩擦音]

/f/: /fu³³/[fɸ³³] 「卵」、/fe²¹/[fe²¹] 「干す」、/fi²¹tʂhi³³/[fi²¹tʂ^hi³³] 「ケチ」
 /v/: /vu³³zi²¹/[vɸ³³zi²¹] 「生」、/[ve²¹]/[vei²¹] 「瓦」、/vi⁵⁵/[vi⁵⁵] 「濃」
 /s/: /si²¹/[sɿ²¹] 「血」、/sə³³/[sə³³] 「三」、/se²¹/[se²¹] 「好き」
 /z/: /zi³³/[zi³³] 「大麦」、/zi⁵⁵me²¹/[zi⁵⁵me²¹] 「多い」、/ze²¹me²¹/[ze²¹me²¹] 「娘」
 /ʃ/: /ʃi⁵⁵/[ʃi⁵⁵] 「長い」、/ʃo²¹/[ʃo²¹] 「負ける」、/a⁵⁵ʃu²¹/[ɸ⁵⁵ʃu²¹] 「キジ」
 /tʃ/: /zi²¹tehi³³/[zi²¹te^hi³³] 「怒る」、/zə⁵⁵ei⁵⁵/[zə⁵⁵ei⁵⁵] 「右」、/a⁵⁵zə⁵⁵/[ɸ⁵⁵zə⁵⁵] 「綿羊」
 /e/: /ey²¹/[ey²¹] 「歩く」、/ei²¹/[ei²¹] 「殺す」、/ea²¹na²¹/[e^hə²¹na²¹] 「とても、すごく」
 /z/: /a⁵⁵zy²¹/[ɸ⁵⁵zy²¹] 「針」、/u³³zi²¹/[u³³zi²¹] 「古い」、/za²¹/[zə²¹] 「抜く」
 /x/: /xo²¹pe²¹/[xo²¹pe²¹] 「肌」、/xa²¹/[xa²¹] 「肉」、/xe²¹/[xe²¹] 「住む」
 /ɣ/: /ɣə³³/[ɣə³³] 「汗」、/ɣa²¹/[ɣə²¹] 「力」、/a³³ɣə²¹/[ɸ³³ɣə²¹] 「影」
 /h/: /ho³³/[hə³³] 「養う」、/ha⁵⁵/[hə⁵⁵] 「靈魂」、/ni³³he⁵⁵/[ni³³hə⁵⁵] 「寺」

[接近音]

/l/: /li⁵⁵/[li⁵⁵] 「来る」、/lu⁵⁵/[lu⁵⁵] 炒める、/ly²¹/[ly²¹] 「浴びる」
 /w/: /wai⁵⁵ti⁵⁵/[wei⁵⁵ti⁵⁵] 「地元」 < CH.wàidì、/wai⁵⁵ko³³/[wei⁵⁵kə³³] 「外国」 < CH.wàiguó

3.2 末子音

ラロ語の末子音 C2 は-n 及び-ŋ の二種類が入りうる。いずれも漢語からの借用語にのみ現れる。

/-n/: 音声実現としては[-n]である。母音-i-, -e-, -a-, -ia-, -u-と結合する。

/-ŋ/: 音声実現としては[-ŋ]である。母音-i-, -e-, -a-, -o-と結合する。

/-n/と/-ŋ/それぞれについて母音との結合例を以下で掲げる。

/-n/

/-in/: /tɕhin⁵⁵tɕhi⁵³/[tɕ^hin⁵⁵tɕ^hi⁵³] 「親戚」 <CH.qīnqi

/-en/: /na³³ʂen³³/[nɐ³³ʂen³³] 「叔母さん」 <CH.shěn,

/ken²¹tɕi³³/[kɛn²¹tɕi³³] 「堰」 <CH.gěngzi

/-an/: /pan³³tɕi³³/[pɛn³³tɕi³³] 「板」 <CH.bǎnzi、/kan²¹tɕi³³/[kɛn²¹tɕi³³] 「茎」 <CH.gānzi

/-ian/: /ian⁵⁵/[iɛn⁵⁵] 「タバコ」 <CH.yān、/pian²¹/[piɛn²¹] 「平坦」 <CH.biǎn

/-un/: /tɕie³³xun³³/[tɕiɛ³³xun³³] 「結婚する」 <CH.jiéhūn

/-ŋ/

/-iŋ/: /tiŋ³³pha³³/[tiŋ³³p^hɐ³³] 「くまで」 <CH.dīngpá

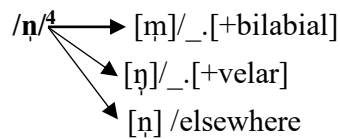
/-eŋ/: /tʂheŋ³³ku⁵⁵pa²¹/[tʂ^heŋ³³ku⁵⁵pɐ²¹] 「都会の人」 <CH.chéng

/-aŋ/: /ʂaŋ³³tɕi³³/[ʂɛŋ³³tɕi³³] 「怪我する」 <CH.shāng

/-oŋ/: /tʂhoŋ⁵⁵ɛy⁵⁵/[tʂ^hoŋ⁵⁵ɛy⁵⁵] 「セロリ」、/toŋ³³ei³³/[toŋ³³ei³³] 「物」 <CH.dōngxi

3.3 成節鼻音(syllabic nasal)

2.1 節で述べた通り、鼻音は成節鼻音になることがある。成節鼻音は直後の音節の頭子音の調音点に応じて逆行同化 (regressive assimilation)する。具体的に分布する環境は以下の通りとなる。



成節鼻音の直後が両唇音となる場合、音声的には両唇鼻音[m]として実現し、軟口蓋子音の直前に現れると軟口蓋鼻音[ŋ]として実現する。それ以外では[n]で実現する。すなわち、歯茎音の直前だけではなく、音節末に出現する時も[n]として実現する。

以下にそれぞれの例を示しておく。

⁴ ここでの/n/という表記は音素として/n/と別個に存在することを意味していない。あくまで成節鼻音の/n/の環境の記述を行うためにこの表記を用いていることに注意されたい。

[m]: /ŋ²¹pe³³/[m²¹pe³³] 「墓」、/ŋ³³ma³³/[m³³mɛ³³] 「心臓」、/ŋ²¹be⁵⁵/[m²¹be⁵⁵] 「柿」
 [ŋ]: /ŋ⁵⁵ts^hi²¹/[ŋ⁵⁵ts^hi²¹] 「泥」、/ŋ³³du³³/[ŋ³³du³³] 「空」、/ŋ²¹tsi³³/[ŋ²¹tsi³³] 「汚い」
 /a⁵⁵ŋ²¹/[e⁵⁵ŋ²¹] 「牛」、/vu⁵⁵ŋ²¹/[vy⁵⁵ŋ²¹] 「水牛」、/tchi⁵⁵ŋ²¹/[tɕ^hi⁵⁵ŋ²¹] 「糯米」
 [ŋ]: /ŋ³³ku³³/[ŋ³³ku³³] 「雷」、/ŋ²¹khu²¹/[ŋ²¹k^hu²¹] 「煙」、/ŋ³³xə³³pə³³/[ŋ³³xə³³pə³³] 「二ヶ月」
 合成語: /a⁵⁵ŋ²¹ma²¹ku²¹/[e⁵⁵m²¹mɛ²¹ku²¹] 「雌牛」、/a⁵⁵ŋ²¹tchi²¹/[e⁵⁵ŋ²¹tɕ^hi²¹] 「牛糞」
 /a⁵⁵ŋ²¹he²¹mie²¹/[e⁵⁵ŋ²¹hɛ²¹mie²¹] 「牛の胃」

上の例に見えるように、成節鼻音はわずかな例ながら、語頭・語中・語末にかかわらず現れている。

また、語彙として独立した形式と合成語になった形式において、成節鼻音の音声実現に異なる場合がある。ただし、その場合も意味上の区別を持たない。例えば、単独の「牛」において鼻音[ŋ]と発音され、合成語においては、[ŋ]の直後の初頭子音の調音位置に合わせて同化を行う。/ŋ/は[m]または[ŋ]と発音する。しかし、意味を区別しない。

4 母音体系

ラオ語の母音は緊喉母音⁵と非緊喉母音の2種類が対立している。表2は単母音音素の一覧表である。

⁵ 緊喉母音に関する先行研究は以下のようにまとめられる。

「緊喉母音」の現象については馬(1948)を嚆矢とする。馬(1948: 579)は雲南省禄勸県安多康村彝語の母音に緊喉母音と非緊喉母音の対立があると初めて言及した。馬の研究によれば、緊喉母音を発声する際、「喉頭がやや緊縮(Laryngeal Constriction)する」と記述している。

戴(1958: 36)は、緊喉母音を「声帯を緊張させ縮める音」と定義し、「場合によって喉頭と声帯が緊張し縮まるだけでなく、咽頭や口腔内の筋肉も同時に引き締まる」とする。さらに、戴(1991: 1)によれば、緊喉母音の発音上の特徴は「喉頭の筋肉を緊縮し、その音色が比較的大きくなる。」喉頭の筋肉を緊縮しないものが非緊喉母音である。

表記方法: 中国において一般的に緊喉母音は“_”で示すことが多いが、本論文では補助記号“~”を示すことにする。

なお、緊喉母音の英訳は Creaky Vowel である。研究者によって「咽頭化(Pharyngealization)」、あるいは「喉頭化(Laryngealization)」の現象が見られるとする場合もある。例えば、岩佐(2019)は、アシ・イ語の緊喉母音は軟口蓋化、または咽頭化(Pharyngealization)する可能性が高く、ノス・イ語の緊喉母音は喉頭化(Laryngealization)する可能性が高いと結論づけている。本論文では咽頭化などの現象についてはこれ以上踏み込まないこととする。

表 2: 単母音音素一覧表

非緊喉母音			緊喉母音		
i, y		u	i		u
e	ə	o	ɛ	ɚ	ɔ
	a			a	

4.1 単母音

4.1.1 非緊喉母音

単母音は前舌母音、中舌母音と後舌母音の三種のグループに分かれる。

前舌母音 /i/→[ɿ]/{ts, tsh, dz, s, z}_; [ɿ]/{tʂ, tʂh, dz̥, ʂ, z̥}_; [i]/elsewhere; /e/→[ei~ɛ]

中舌母音 /a/→[a]/{x, h}_; [ɐ]/elsewhere

後舌母音 /u/→[ʏ]/{f, v}_; [u]/elsewhere; /o/→[o~ɔ]

以下、注意点を述べる。

/i/は無声そり舌音の直後に置かれる場合は無声化されることがある。音声実現は[ɿ]となる。/e/は多くは[e]で発音されることが多いが、時によって[ei]になることがある。

/u/は多くは[u]で発音される。ただし、/f/また/v/と結合すると唇歯音化され、[ʏ]で発音される。/o/は多くは[o]で発音される。しかし、二重母音/ao/また三重母音/iao/で現れる際に音声実現は[ɐo]また[iɐo]で発音されることが多い。

また、母音が絶対語頭に現れる場合、音声的には若干に声門閉鎖音[ʔ]を伴うことがある。しかし、声門閉鎖音[ʔ]は音韻的な意味を持たない。全ての母音は/h/の直後に出現すると鼻音化⁶される。

それでは以下に、前舌母音・中舌母音・後舌母音のそれぞれの実例を見ていく。

[前舌母音]

/i/ 非円唇前舌尖母音[ɿ]/{ts, tsh, dz, s, z}_; 非円唇前舌尖そり舌母音

[ɿ]/{tʂ, tʂh, dz̥, ʂ, z̥}_; 前舌非円唇母音[i]/elsewhere; 結合する頭子音によって、3種類の異音が実現する。

/si²¹/[sɿ²¹]「血」、/zi³³/[zɿ³³]「大麦」、/tʂhi³³/[tʂhɿ³³]「一」、/dzi⁵⁵/[dzɿ⁵⁵]「酒」

/ŋ³³tsi³³/[ŋ³³tɿ³³]「汚い」、/mi³³se³³/[mi³³sei³³]「目」、/xi⁵⁵/[xi⁵⁵]「建物」

/y/ /tehy⁵⁵/[tehy⁵⁵]「毛」、/ny²¹/[ny²¹]「嗅ぐ」、/ey²¹/[ey²¹]「歩く」

⁶ Matisoff (1975: 265-287)は喉頭音(laryngeal)の[h]または[ʔ]に後続する母音は鼻音化される可能性があるとして指摘している(rhinoglottophilia)。例えば、ラフ語・リス語(中部ロロ諸語)の母音は無頭子音また/h-/に後続すると鼻音化される。Yang (2015: 37)によると、その現象は声門音/h/を区別するラロ語の方言にも当てはまる。

/e/ /e/の音声実現には、非円唇前舌半狭母音と非円唇前舌高母音からなる二重母音[ei]~非円唇前舌半狭母音[ɛ]; 大多数の語彙で[ei]と発音されるが、一部の語彙[ɛ]と発音されるものもある。[ei]のかわりに[ɛ]と発音しても理解される。
/le⁵⁵/[lɛ⁵⁵]「舌」、/de²¹/[dei²¹]「織る」、/na²¹phe²¹/[nɛ²¹p^hei²¹]「尻尾」

[中舌母音]

/ə/ /pə²¹/[pə²¹]「梳く」、/yə⁵⁵/[yə⁵⁵]「水」、/nə⁵⁵/[nə⁵⁵]「2SG」
/a/ /a/の音声実現としては、中舌非円唇広母音[ɐ]~後舌非円唇広母音[ɑ]の異音が確認される。多くは[ɐ]で音声的に実現するが、無声軟口蓋摩擦音/x/と無声声門摩擦音/h/と結合すると[ɑ]として実現する。
/xa²¹/[xɑ²¹]「肉」、/a⁵⁵ha³³/[ɐ⁵⁵hɑ³³]「ネズミ」、/ta⁵⁵ta³³/[tɐ⁵⁵tɑ³³]「伯父さん」

[後舌母音]

/u/ /fu³³/[fɯ³³]「卵」、/tʂhu³³/[tʂɯ³³]「生姜」、/thu²¹dzi⁵⁵/[tɯ²¹dzi⁵⁵]「松」
/o/ 音声的に多くの場合[o]として実現されるが、一部の語彙では[ɔ]と発音されることがある。それゆえに後舌・円唇・半広母音[ɔ]との区別が難しい場合がある。また、一部の語彙は/o/を[ow]と発音することがある。
/zɔ⁵⁵ei⁵⁵/[zɔ⁵⁵ei⁵⁵]「右」、/kho²¹/[kɯ²¹]「6」、/mo⁵⁵/[mo⁵⁵]「見る」

4.1.2 緊喉母音

緊喉母音を発音する場合、舌位は軟口蓋あるいは咽頭の位置に向かっていく。音声実現は通常の母音より舌位が低く、つまり下寄りでは発音される。IPA では下寄りの補助記号“˘”で示すべきであるが、全ての緊喉母音はその特徴を持つため、本稿ではこれ以降“˘”を省略する。緊喉母音は補助記号“˘”で示す。

緊喉母音は日常会話で頻繁に生起せず、僅かな語彙にのみ現れる。

それでは以下に、緊喉母音のそれぞれの例を見ていく。

[前舌母音]

/i/ /si²¹/[sɪ²¹]「渴く」、/a⁵⁵vi²¹/[ɐ⁵⁵vi²¹]「豚」、bi²¹/[bi²¹]「言う」
/ɛ/ /ɛ/は[ɛ˘]と発音されることがある。
/lɛ²¹/[lɛ˘²¹]「舐める」、/xɛ²¹oŋ³³/[xɛ˘²¹oŋ³³]「腸」、/xɛ²¹/[xɛ˘²¹]「八」

[中舌母音]

/ə/ /o³³xə²¹/[o³³xɐ²¹]「新しい」、/bə³³/[bɐ³³]「発芽する」
/a/ /və³³tu³³/[vɐ³³tɯ³³]「ペン」、/tsi²¹tə³³/[tsɪ²¹tɐ³³]「ハサミ」、/dɑ²¹/[dɐ²¹]「切る」

[後舌母音]

/u/ /u³³tu³³ly²¹/[u³³tɯ³³ly²¹]「ミル」

/o/ /gɔ²¹/[gɔ²²] 「怖がる」、/a⁵⁵nɔ³³/[ɐ⁵⁵nɔ⁴⁴] 「豆」、/dzɔ²¹/[dzɔ²²] 「腰」

4.2 二重母音

二重母音は7種類が存在する。二重母音は上昇二重母音、下降二重母音のいずれも存在する。以下のようにまとめられる。

a. 上昇二重母音: ia, ie, iu, ua, ui

b. 下降二重母音: ao, ai

4.2.1 上昇二重母音

ほぼ漢語からの借用語と考えてもよいが、固有語も存在する。

/ia/ /ze²¹me²¹teia²¹/[ze²¹me²¹ tei²¹] 「嫁に出す」 < CH.jià、/fia³³tei³³/[fi³³tei³³] 「失う」

/ie/ /teie³³xun³³/[teie³³xun³³] 「結婚する」 < CH.jiéhūn、/dɔ²¹tie²¹/[dɔ²²tie²¹] 「出る」

/iu/ /liu²¹tʂhui²¹tsi³³/[liu²¹tʂhui²¹tsɿ³³] 「拳」、/a²¹teiu⁵⁵/[ɐ²¹teiu⁵⁵] 「おじさん」 < CH.jiù

/ua/ /ey²¹ʂua²¹/[ey²¹ʂue²¹] 「歯を磨く」 < CH.shuā

/ui/ /thui³³po³³/[tʰuei³³pɔ³³] 「かんな」

/vu⁵⁵pə²¹ta⁵⁵thui³³/[vy⁵⁵pə²¹te⁵⁵tʰui³³] 「太腿」 < CH.dātuǐ

4.2.2 下降二重母音

ほぼ漢語からの借用語と考えてもよいが、固有語が極わずかに存在する。

/ao/ /tʂhu⁵⁵sao³³/[tʂhu⁵⁵səu³³] 「三人」、/tʂhao³³ʂan³³/[tʂhəu³³ʂən³³] 「寺の祭り」

/zu²¹phao³³/[zu²¹pʰəu³³] 「しゅうと」 < CH.pó

/ai/ /wai⁵⁵ti⁵⁵/[wei⁵⁵ti⁵⁵] 「地元以外」 < CH.wàidì

/tʂhə²¹tsi²¹khai²¹/[tʂhə²¹tsɿ²¹kʰei²¹] 「運転する」 < CH.chēzi+kāi

4.3 三重母音

三重母音/iao/と/uai/の二種類を認める。漢語からの借用語でのみ現れる。それゆえに現在の資料中に/iao/は硬口蓋あるいは歯茎硬口蓋のみと共起し、/uai/は頭子音/k-/とのみ結合しうる。/uai/の例は極めて少ない。

/iao/ /vu⁵⁵bə²¹eiao⁵⁵thui³³/[vy⁵⁵bə²¹eieu⁵⁵tʰui³³] 「下腿」 < CH.xiǎotuǐ

/eiao²¹tʂhai⁵⁵tʂhi²¹/[eieu²¹tsʰei⁵⁵tsʰɿ²¹] 「野菜を洗う」 < CH.xiǎocài

/tʂhiao³³pan³³ti²¹/[tʰieu³³pən³³ti²¹] 「大橋」 < CH.qiáo

/uai/ /liu²¹kuai²¹tsi³³/[liu²¹kuɛi²¹tsɿ³³] 「肘」 < CH.guǎi

5 T/声調

5.1 声調素

ラロ語には 55,33,21 の 3 種類の声調素が認められる。以下に音節単位で見られる声調素において声調の特徴を説明し、それぞれの例を掲げる。

/55/(高平調 H): 声調実現[55]、高く平らに発音する。本論文で用いる語彙データ(1,100 語彙程度)では高平調の出現率は約 26.3%である。そのうち、高平調は 56%以上語頭の位置に現れる。また、母音が緊喉母音である場合、高平調が出現しない。

/33/(中平調 M): 声調実現[33~44]、低く平らに発音する。筆者収集の語彙表では約 35.3%は中平調として出現している。

異調値[44]: 緊喉母音が中平調に現れる時、音声的にやや高く発音される傾向にあるが、高平調ほどの高さではない。

/21/(低下降調 F): 声調実現[21~22]、中平調よりやや低めのピッチから始まり、さらに緩やかに下降して発音される。筆者収集の語彙表では約 38.4%は低下降調として出現している。出現頻度が最も高い声調である。

異調値[22]: 緊喉母音が低下降調に現れる場合、調値は非緊喉母音の低下降調よりやや高く平らに発音される。しかし、調値は中平調より低く、低下降調より高い。

以下にそれぞれの声調素の例をあげておく。

/55/ /kha⁵⁵/[k^hə⁵⁵]「糸」、/a⁵⁵tei²¹/[e⁵⁵tei²¹]「家畜」、/tei⁵⁵/[tei⁵⁵]「星」

/33/ /phi³³/[p^{hi}33]「斗」、/ho³³/[hō³³]「うじ」、/sə³³/[sə³³]「三」
/va³³tu³³/[və⁴⁴tu³³]「ペン」、/tsi²¹ta³³/[tsɿ²²tə⁴⁴]「ハサミ」

/21/ /va²¹/[və²¹]「雪」、/lu²¹/[lu²¹]「龍」、/xa²¹/[xa²¹]「肉」
/da²¹/[dɛ²²]「切る」、/a⁵⁵mq²¹/[e⁵⁵mq²²]「猿」

5.2 声調交替

5.1 節にてラロ語の声調素は三種類があると述べた。しかし、認められた声調素が全ての語彙もしくは自然発話の内部に現れるわけではない。語形成により、声調交替が見られることがある。本稿では音韻的な声調交替(Phonological Tone Alternation)と文法範疇における特定の声調交替(Grammatical Tone Alternation)の 2 種類に分けて記述していく。

なお、本稿は名詞における声調交替に限定して記述を行う。

5.2.1 音韻的な声調交替

音韻的な声調交替は音韻的な動機付けによって声調素間で生じた交替現象である。単音節間における声調交替及び 2 音節以上の音節間における声調交替を記述する。この声調交替のパターンは意味の区別を持たない。

以下、声調の交替が起こった四つのパターンを見ていく。例としては(7)~(10)を見られたい。

■ 単音節における交替

パターン 1: 33+55→33+33

(7) a. $me^{33}+y\text{ə}^{55} \rightarrow me^{33}y\text{ə}^{33}$
目 水 涙

b. $t\text{ʃ}hi^{33}+ma^{55} \rightarrow t\text{ʃ}hi^{33}+ma^{33}$
一 CLF 一つ

■ 2音節以上における交替

パターン 2: 55+33+33→33+33+33

(8) $a^{55}zi^{33}+ho^{33} \rightarrow a^{33}zi^{33}ho^{33}$
鶏 養う 鶏を養う

パターン 3: 55+21+21→33+21+21

(9) $khu^{55}dzi^{21}+pe^{21} \rightarrow khu^{33}dzi^{21}pe^{21}$
山 登る 山を登る

パターン 4: 33+33+21→21+21+21

(10) $vu^{33}tsi^{33}+kho^{21} \rightarrow vu^{21}tsi^{21}kho^{21}$
帽子 かぶる 帽子をかぶる

上記に音韻的な4つの声調交替パターンを挙げた。パターン1は単音節において、中平調と高平調を共起すると高平調は中平調に交替する。(7a)単独の $y\text{ə}^{55}$ (水)は高平調で示しているが、語彙 $me^{33}y\text{ə}^{33}$ (涙)においては $y\text{ə}^{55}$ の声調は高平調から中平調に交替した。(7b)の類別詞の声調は(7a)と同じ声調交替が起こった。

2音節以上の声調交替のパターンはやや複雑である。パターン2では初頭する声調は高平調かつ後続する声調は中平調である場合、初頭の高平調は中平調に交替する(例8)。パターン3では初頭する声調は中平調かつ後続する声調は低下降調である場合、初頭の高平調は低下降調に交替する(例9)。パターン4では一番目と二番目の声調は中平調かつ三番目の声調は低下降調である場合、声調は低下降調に交替する(例10)。

ただし、単音節を除き、2音節以上の声調の交替は恣意的な規則であると考えられる。声調における交替は不安定であり、類似した語形成においても、声調交替の現象が異なる。声調交替が実現するかどうかにかかわらず、意味が変わることはほぼ見られない。いずれにせよ、これらは音声的なレベルの現象だと位置付けられる。

5.2.2 文法範疇における声調交替

5.2.2.1 名詞に見られるパターン

■ 人称代名詞に見られるパターン

人称代名詞において、所有関係を表示する際、所有格⁷は基本的に所有標識- $y\text{ə}^{21}$ が付く形式で現れる。しかし、一人称の単数(ηa^{55})及び二人称の単数(na^{55})は特殊な

⁷ 人称代名詞の所有格に後続する名詞が譲渡可能名詞であれば、所有標識- $y\text{ə}^{21}$ は義務的に生起しなければならない。後続する名詞が譲渡不可能名詞(身体部位・親族など)であれば、所有標識- $y\text{ə}^{21}$ は生起しなくても良い(例えば(11c))。

所有格の形式を持つ。一人称の所有格は $\eta e^{33}y\text{ə}^{21}$ 及び ηo^{33} の形式を持ち、二人称単数は $ni^{33}y\text{ə}^{21}$ である。一人称単数の所有格は ηe^{33} で表現することが多い。

すなわち、一人称単数と二人称単数の所有格は声調交替と母音交替を行う。声調は高平調から中平調に交替する。一人称の母音 a は e もしくは o に交替し、二人称の母音 ə は i に交替する。例(11)で挙げよう。

(11) a. ηa^{55} $\eta e^{33}-y\text{ə}^{21}$ $pho^{55}tshi^{33}$ zi^{33} .
 1SG.NOM 1SG-POSS 服 着る
 「私は自分の服を着る。」

b. $ni^{33}-y\text{ə}^{21}$ $thiu^{33}p\text{ən}^{33}$ $xi^{55}-ku^{33}$ tei^{21} .
 2SG-POSS 本 家-LOC ASP
 「あなたの本は家にある。」

c. ηa^{55} $ea^{21}na^{21}-dzi^{21}ti^{21}$ $\eta o^{33}-ti^{21}$ $a^{33}n\text{ə}^{21}-ba^{21}-pa^{21}-ma^{21}$.
 1SG とても-嬉しい 1SG-父 鳥-狩る-人-NEG
 「父が猟師でなくて本当によかったです。」

(11a)では一人称単数の所有格 $\eta e^{33}-y\text{ə}^{21}$ が後続名詞 $pho^{55}tshi^{33}$ 「服」を、(11b)では二人称単数の所有格 $ni^{33}-y\text{ə}^{21}$ が後続名詞 xi^{55} 「家」を修飾している。(11c)の一人称単数の所有格 ηo^{33} は後続名詞 ti^{21} 「父」を修飾している。(11c)の ηo^{33} は一人称単数所有格の一種と考えられる。

■ 数詞に見られるパターン

数詞は単独で発音するとき、1~4 は中平調(33)で読まれ、5~9 は低下降調(21)で読まれ、10 は高平調(55)で読まれる。10 以上の数詞は漢語からの借用語で示す。固有語の数字は例(12)で挙げている。

(12) $t\text{ʂ}hi^{33}$ 「1」、 $n\text{ə}^{33}$ 「2」、 $s\text{ə}^{33}$ 「3」、 zi^{33} 「4」、 ηa^{21} 「5」、 kho^{21} 「6」、 $x\text{ə}^{21}$ 「7」、 $x\text{e}^{21}$ 「8」、 ku^{21} 「9」、 $t\text{e}hi^{55}$ 「10」

ただし、人数を数える場合と子供の生まれた順番を表現する場合、声調交替が起こる。

まず人数を数える場合を見ていく。人数を数える場合、基本的に「数詞+類別詞」の形で現れるべきであるが、数字と類別詞を融合して、別の新たな形態が用いられる場合がある。以下それぞれ表 3.1 で示す。

表 3.1: 人数を数える場合と基数詞の対照

人数	基数詞	人数	基数詞
tɕə ⁵⁵ tɕha ³³ 「1 人」	tɕhi ³³ 「1」	khou ³³ 「6 人」	kho ²¹ 「6」
ni ³³ niao ²¹ 「2 人」	nə ³³ 「2」	xə ³³ ou ³³ 「7 人」	xə ²¹ 「7」
sao ³³ 「3 人」	sə ³³ 「3」	xi ³³ ao ³³ 「8 人」	xɛ ²¹ 「8」
zou ³³ 「4 人」	zi ³³ 「4」	ku ³³ ao ³³ 「9 人」	ku ²¹ 「9」
ŋou ³³ 「5 人」	ŋa ²¹ 「5」	tɕhi ³³ ao ³³ /tɕhiao ⁵³ 「10 人」	tɕhi ⁵⁵ 「10」

表 3.1 は人数を数える形式と基数詞をそれぞれに対照的に示している。表 3.1 一番左側の欄と第 3 番目の欄は人数を数える形式であり、第 2 番目と第 4 番目の欄は数字の形式を示している。

人数を数える場合は数詞と類別詞において形式が融合している。1 人と 2 人を除き、5 人～10 人の声調は単独の 21 調ではなく、中平調(33)と交替している。10 人は 33 調及び 53 調で発音してもよい。ただし、53 調は基本声調素ではなく、文法的な声調だと考えられる。

1 人と 2 人は特殊な表現を用いる。1 人の語形成は指示詞(tɕə⁵⁵「この」)+類別詞(tɕha³³)からなり、「この人」の意味となる。2 人は人称代名詞の双数からなると考えられる。ラロ語の双数は基本的に単数(一人称を除き)の直後に-ni³³niao²¹に付いた形式で示す。

一人称の双数は un³³niao²¹ (2 人とも)の形式を用いて、二人称の双数は ŋ³³tsə³³ni³³niao²¹(君たち 2 人)であり、三人称の双数は u³³tsə³³ni³³niao²¹(彼ら 2 人)で示している。そのため、2 人を数える場合、人称代名詞の双数で表現しているのではないかと考えられる。

次に子供の生まれた順番による声調交替を見ておこう。表 3.2 を見られたい。

表 3.2: 子供の生まれた順番

男		女	
a ⁵⁵ vu ⁵⁵ 「長男」	a ⁵⁵ lu ³³ 「六男」	a ⁵⁵ me ³³ 「長女」	a ⁵⁵ lu ³³ 「六女」
a ⁵⁵ ni ⁵⁵ 「次男」	a ⁵⁵ tɕhi ⁵⁵ 「七男」	a ⁵⁵ ni ³³ 「次女」	a ⁵⁵ tɕhi ³³ 「七女」
a ⁵⁵ san ³³ 「三男」	a ³⁵ pa ²¹ 「八男」	a ⁵⁵ sa ³³ 「三女」	a ⁵⁵ pa ²¹ 「八女」
a ⁵⁵ si ³³ 「四男」	a ³⁵ tɕiu ⁵⁵ 「九男」	a ⁵⁵ si ³³ 「四女」	a ⁵⁵ tɕiu ⁵⁵ 「九女」
a ⁵⁵ wu ³³ 「五男」	a ⁵⁵ ɕi ⁵⁵ 「十男」	a ⁵⁵ wu ³³ 「五女」	a ⁵⁵ ɕi ⁵⁵ 「十女」

子供の順番においては、男女の順番の区別は声調の違いで区別する(表 3.2 の右側)。基本的な構造は「接頭辞 a+数詞」である。3 番目から 10 番目の数詞は漢語の借用語を用いる。4、5、6、10 番目において男女の区別がない。それを除き、他の男女の順番は声調で使い分けることが多く見られる。

a⁵⁵vu⁵⁵「長男」と a⁵⁵me³³「長女」は他の順番と異なり、声調で区別するのではなく、形態素で区別する。2、7、8、9 番目の男女は声調の違いで区別される。2、

7 番目の男の声調パターンは 55-55 であり、女の声調は 55-33 である。8 番目の男の声調パターンは 35-21 であり、女の声調は 55-21 である。9 番目の男の声調パターンは 35-55 であるが、女の声調は 55-55 である。

■ 指示詞に見られるパターン

ラロ語の指示詞は近称・遠称の使い分けがある。基本的に近称は *tʂ-*、遠称は *n-* を頭子音に持つ。

表 4 はラロ語の指示詞の一覧である。

表 4: ラロ語の指示詞の一覧

近称	遠称	グロス
<i>tʂə</i> ⁵⁵ (NUM)(CLF)	<i>na</i> ⁵⁵ (NUM)(CLF)	これ/あれ
<i>tʂi</i> ⁵⁵ <i>ta</i> ³³ <i>ku</i> ³³	<i>ni</i> ⁵⁵ <i>ta</i> ³³ <i>ku</i> ³³	こちら/あそこ
<i>tʂi</i> ⁵⁵ <i>ku</i> ³³	<i>ni</i> ⁵⁵ <i>ku</i> ³³	これら/あれら
<i>tʂi</i> ⁵⁵ <i>thə</i> ³³	<i>ni</i> ⁵⁵ <i>thə</i> ³³	これら側/あれら側
<i>e</i> ²¹ <i>tʂi</i> ⁵⁵ <i>thə</i> ³³	<i>e</i> ²¹ <i>ku</i> ²¹ <i>si</i> ²¹	どの辺/どこ

指示詞は斜格形で生起する場合は声調交替し、主格形の高声調から中声調に交替することがある。以下、それぞれの主格形と斜格形の例を挙げていく。

- (13) a. *tʂə*⁵⁵ *a*⁵⁵*tʂa*⁵⁵*tʂho*³³ *ŋa*³³? b. *eo*³³*sen*³³ *tʂə*⁵⁵ *sao*³³.
 これ.NOM 何 COP 学生 この.NOM 3人
 「これは何ですか?」 「この3人の学生」

- c. *u*³³-*tʂə*³³ *ni*³³*ta*³³*ku*³³ *ze*³³-*pa*³³?
 2-PL あそこ.OBL 行く-FUT
 「あなたたちはあそこに行きますか?」

- d. *ŋ*³³-*tʂə*³³ *tʂi*³³*ta*³³*ku*³³ *ku*²¹*tei*²¹-*xa*²¹ *dzə*³³-*ma*²¹-*dzə*³³?
 2-PL こちら.OBL 野生-肉 食べる-NEG-食べる
 「こちらでは野生の肉を食べますか?」

- e. *tʂhu*⁵⁵ *na*⁵⁵-*tʂha*³³ *a*⁵⁵*sa*³³ *ŋa*³³?
 人 あの-CLF 誰 COP
 「あの人は誰ですか?」

(13a)の指示詞は主語として表れ、主格形をとっている例である。(13b)は名詞を修飾し、主格形をとっている例である。(13c)と(13d)の指示詞は場所を表し、斜格

形で表れている例である。(13e)は名詞を修飾し、主格をとる例である。

概要をまとめると、近称において、主格形をとる場合は tʂa⁵⁵を用いることが多く見られ(13a,b)、斜格形をとる場合は tʂi³³を用いることが多い(13d)。声調はデフォルトの高声調から中声調に交替する。

遠称において、主格形は na⁵⁵を用いることが多く見られ(13e)、斜格形をとる場合は ni³³を用いることが多い(13c)。声調交替も現れ、近称と同じように高声調から中声調に交替する。

本節では人称代名詞、数詞、指示詞の声調交替の現象を見てきた。声調交替は声調素間の交替のみではなく、声調素ではない声調に変わるものもある。35 調や 53 調は形態音韻論的な影響により現れるようになったのではないかと考えられるが、今後の継続的な検討が必要である。

おわりに

以上、雲南省保山市昌寧県の珠街彝族郷黒馬村の二布社で話されるラロ語の音韻特徴を中心に記述した。表 1 と表 2 の再掲となるが、現時点で収集されたデータによる音素体系としては表 4 のようにまとめられよう。

表 4: ラロ語の音素体系

[子音]

調音点 調音方法		両唇音	唇歯音	歯茎音	そり舌音	歯茎 硬口音	軟口蓋音	声門音
閉鎖音	無気	p b		t d			k g	
	有気	ph		th			kh	
鼻音		m		n			ŋ	
破擦音	無気			ts dz	tʂ dʂ	tɕ dɕ		
	有気			tsh	tʂh	tɕh		
摩擦音			f v	s z	ʃ ʒ	ɕ ʐ	x ɣ	h
接近音		(w)		l				

[単母音]	[声調]
非緊喉母音	55,33,21
i, y u e ə o a	
緊喉母音	
ɨ ʉ ɛ ɛ̣ ɔ̣ ɛ̣	

ただし、表 4 に掲げた分節音の音声特徴に関する注意点が挙げられる。

(14) a. 子音における相補分布が以下の条件で見られる。

/ŋ/→[m]/_[+bilabial], [ŋ]/_[+velar], [ŋ]/elsewhere

/n/→[ŋ]/_i, [n]/elsewhere

b. 子音における自由変異が以下の条件で見られる。

/z/は/-i/の前に置かれるとかなり弱く、[j]と[j̥]が自由に交替する。

c. 母音における相補分布が以下の条件で見られる。

/i/→[ɨ]/{ts,tsh,dz,s,z}_; [ɨ]/{tʂ,tʂh,dz̥,ʂ,z̥}_; [i]/elsewhere

/a/→[ɑ]/{x,h}_; [ɐ]/elsewhere

/u/→[ʏ]/{f,v}_; [u]/elsewhere

今後は現地調査を継続して、可能な限り語彙データを収集するとともに、自然会話の例文やテキストの採集を進めることにより、さらに詳細な音韻分析の記述を目指す。また同時に形態論、統語論などの文法範疇における特徴について詳細な分析を進めたい。二布社に加えて、珠街の二布社以外の分析が実施されていない地域に関して、精力的な調査と記述を行っていききたい。

略号一覧

ASP:アスペクト	CH:漢語	CLF:類別詞	COP:コピュラ	FUT:未来
LOC:位格	NEG:否定	NUM:数詞	NOM:主格	OBL:斜格
POSS:所有格	PL:複数	SG:単数		

参考文献

[中国語文献]

- 保山市民族宗教事務局 2006. 《保山市少数民族志》昆明: 云南民族出版社
- 卜维美, 刘洪勇 2020. <腊罗彝语的分列式数量短语>《中国语文》第5期 609-640.
- 卜维美, 黄华德 2022. <腊罗彝语的新异范畴和示证范畴>《语言科学》第3期 264-275.
- 陈士林, 边任明, 李秀清 1985. 《彝语简志》北京: 中央民族大学出版社
- 陈士林, 边任明, 李秀清 2009. 《彝语简志》北京: 民族出版社
- 戴庆厦 1958. <谈谈松紧元音>《少数民族语文论集》第二辑: 35-48.
- 戴庆厦 1991. 《藏缅语族语言研究》昆明: 云南民族出版社
- 黄布凡, 戴庆厦 1992. 《藏缅语族语言词汇》北京: 中央民族学院学报
- 李永周 2016. 《昌宁腊罗巴传统民俗文化》昆明: 云南民族出版社
- 马学良 1948. <傣文“作祭献药供胜经”译注>《中央研究院理事语言研究所集刊》第二十辑: 577-666.
- 孙宏开, 胡增益, 黄行 2007. 《中国的语言》北京: 商务印书馆
- 王成有 2003. 《彝语方言比较研究》成都: 四川民族出版社

- 云南彝语方言汇编(YNYF)1984.《云南彝语方言词语汇编》云南民族学院未出版
云南省昌宁县志编纂委员会 1985.《昌宁县志》德宏: 德宏民族出版社
中国社会科学院语言研究所方言研究室资料室 1981.〈方言调查词汇表〉《方言》第
3 期
朱文旭 2005.《彝语方言学》北京: 中央民族大学出版社
周庭升 2017.《彝语腊罗话参考语法》中央民族大学博士学位论文

[日本語文献]

- 岩佐一枝 2019.「彝語の緊喉・非緊喉母音に関する覚書—音声分析の結果をもとに—」『音声研究』第 23 卷: 51-64

[欧米文献]

- Björverud, Susanna. 1998. *A grammar of Lalo*. Lund: Department of East Asian Languages, Lund University.
- Bradley, David. 1979. *Proto-Loloish*. London: Curzon Press.
- Bradley, David. 2002. The subgrouping of Tibeto-Burman. *Medieval Tibeto-Burman Languages: proceedings of the Ninth Seminar of the International Association for Tibetan Studies*, 73-112. Leiden: Brill.
- Bradley, David. 2007. Language Endangerment in China and Mainland Southeast Asia. In *Matthias Brenzinger (ed.), Language Diversity Endangered*, 278-302. Berlin & New York: Mouton de Gruyter.
- Bu(卜), Weimei, 2018. The Equative Construction in Lalo Yi. In *Proceedings of the 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics*. 第 51 回国際漢藏語学会実行委員会・京都大学白眉センター.
- Matisoff, James. A. 1975. Rhinoglottophilia: the mysterious connection between nasality and glottality. *Nasálfest (papers from a symposium on nasals and nasalization)*, ed. by Charles A. Ferguson, Larry M. Hyman, and John J. Ohala. A. Ferguson, LM Hyman, JJ Ohala. California, 265-287.
- Moseley, Christopher (ed.). 2010. *Atlas of the World's Languages in Danger (3rd edition)* Paris: UNESCO Publishing.
- Yang, Cathryn. 2010. *Lalo regional varieties: Phylogeny, dialectometry, and sociolinguistics*. Melbourne: La Trobe University PhD dissertation.
- Yang, Cathryn. 2015. *Lalo dialects across time and space: subgrouping, dialectometry, and intelligibility (Asia Pacific Linguistics: A-PL 22)*.

ウェブサイト

- <http://www.yncn.gov.cn/info/3993/49918.htm> (最終閲覧日: 2023 年 2 月 21 日)

原稿受理日 2023 年 4 月 8 日

[書評] 宋成、謝穎瑩、李大勤、李佐文 (著) 《西藏察隅松林語》

北京：商務印書館、2019年、10+272pp.

鈴木 博之

京都大学

キーワード：チベット・ビルマ諸語、チベット系諸言語、言語識別、記述文法

1 本書の構成

本書は中国チベット自治区察隅県で話される松林語¹についての、初めてのまとまった文法記述である。松林語は本書が初めて独立した言語と認めた。同言語はこれまでほぼ未記述であったこと、および母語話者の認識においてチベット系諸言語（中国の言語学における枠組みでは「チベット語」）の1方言とみなされていたこと、また昨今の社会情勢から消滅の危機に瀕する言語に分類されることから、その記述が急務であった。本書のものは、中国で行われたプロジェクト《中国語言資源保護工程》の第1期の対象に選定され行われた著者のフィールドワークの成果である。本書は以下に示す6章に分かれ、続いて参考文献、調査手記、あとがき加わる。

- | | |
|----------|----------|
| 1. 序論 | 4. 分類語彙表 |
| 2. 音声、音韻 | 5. 文法 |
| 3. 語彙 | 6. 言語資料 |

本書は《中国語言資源保護工程》の成果を基本としているため、精密な文法記述よりも、資料として用いることができる語彙、文例、語りの書き起こしに当てられている。評者も同プロジェクトの別言語の記述にたずさわったこともあり²、チベット・ビルマ語用の調査票も手にし

¹ この言語名は地名に基づく。言語名は当該言語の原語音による自称または話される地域名に基づくのが望ましい (Suzuki 2022) が、評者はその詳細を知ることができない。民族名の自称は $po^{31}zɿ^{55}$ である (p. 91) が、これはチベット文語形式の *bod rigs* 「チベット族」と対応するため、言語名に拡張するのは適切でない。「松林」という音形について、漢語であるのか松林語の漢字音写であるのか現段階では明らかでない。このため、言語名を暫定的に漢字表記のままとする。ただし、読みとしては「ソンリン」が、欧文環境では漢字音のピンイン表記 Songlin とするのが妥当と考える。一方で、本書は「松林村」の松林語による自称を $saŋ^{31}lin^{55}$ と記し (p. 6)、「サンリン」のほうがふさわしい可能性がある。なお、「松林語」の自称は $saŋ^{31}lin^{55}pu^{55}lo^{31}je^{55}$ といい、最後の2音節はチベット文語 *logs skad* と対応するものと見積もられる。*logs skad* という語が自称に現れる場合、指示対象が「チベット文化圏で通用性の限りなく低い言語」という客観的かつ中立的な意味としてとらえられていると考えてよい (Suzuki & Sonam Wangmo 2016, Suzuki 2022)。そしてその指示対象が言語学的には非チベット系言語となることが多い点も注目に値する。

² 評者は2018年に四川丹巴二十四村話（カムチベット語 Rongbrag 方言群に属する sProsnang 方言）の記述に参加した（課題番号 YB1912A008；研究代表者：劉潔）。

たことがあるため、本書の構成および記述方法については理解できる。ただし、調査票だけでは本書のような文法を記述することはできず、著者の個別の努力が反映されていると判断できる。

本書評では、主に本書の記述言語学的成果の部分について紹介し、全般的な問題点を提起しつつ評者の考えを合わせて述べていく。

2 松林語の地位について

著者は松林語の地位について、チベット系諸言語（中国でいう〈藏語方言〉³「チベット語方言⁴」）ではないことを確認したうえで、〈藏語支〉に属する独立した言語という見解を提出している（pp. 5–9）。これは、評者の用語（Tournadre & Suzuki 2022）で言い換えれば、Tibetic ではないが Bodish に属するというように解釈できる。評者は、独立した言語であるという見立てを評価するが、その根拠となる議論は極めて不十分であり、それが中国で行われるチベット語方言学を援用したもののみであるため、説得力を欠いている。

著者は語彙形式を 2000 余語記録しているにもかかわらず、それを適切に評価する手段を用いていない。評者は著者の見解には賛同するが、最低限歴史言語学の比較方法にのっとって、すでに公開されている STEDT などのデータベースなどを利用して、適切な語形式の祖形との対応関係と音変化の規則という視点から結論を導くべきであったといえる。

試みに、松林語がチベット系諸言語の 1 つとみなしがたい語彙的特徴について、Tournadre & Suzuki (2022) を参考に考える。チベット系諸言語には、同系言語にのみほぼ共有される、祖形（proto-Tibetic）にさかのぼりうる語形式がある。このことは Beyer (1992:7-8) などにも指摘がある。表 1 は、そのような語について、語義、チベット文語形式⁵（以下「藏文」）、松林語（本書から引用）、松林語の形式に対応するチベット・ビルマ祖語形式（以下 PTB；STEDT による）を対照したものである。

表 1 チベット系諸言語を特徴づける語形式と松林語；PTB を添えて

語義	藏文	松林語	PTB
7	<i>bdun</i>	<i>ŋin</i> ²⁴	*s-ni-s (#2505)
2 人称代名詞単数	<i>khyod</i>	<i>nu</i> ⁵⁵ / <i>nu</i> ⁵⁵	*na-ŋ (#2489)
馬	<i>rta</i>	<i>nbzɑŋ</i> ²⁴	*s/m-raŋ (#1431)
血	<i>khrag</i>	<i>çi</i> ⁵⁵	*s-hywəy-t (#230)

以上の藏文形式に対応する口語形式がほぼチベット系諸言語にのみ現れる形式であるというのは経験則であるが、松林語でいずれも藏文形式に一致しない点を見て、すべてが非チベット

³ 本書評では、固有名詞を除く漢語の術語・用語を〈 〉でくくって示す。

⁴ 評者は「チベット語方言」という呼称を非常に制限的な文脈でのみ用い、各種先行研究にある「チベット語（諸）方言（Tibetan dialects）」という表現は「チベット系諸言語（Tibetic languages）」と呼称する。詳細は Tournadre (2014)、Suzuki (2022)、Tournadre & Suzuki (2022) を参照。

⁵ チベット文語形式のローマ字転写は de Nebesky-Wojkowitz (1956) に基づく。

系借用語で置き換えられた蓋然性は低いと言える。このため、表1のデータは松林語をチベット系諸言語に属さない言語の1つと考える根拠とすることができる。この手法は Tashi Nyima & Suzuki (2019) でラモ語の識別を行うときにも参考としたものである。

以上の点から、松林語がチベット系諸言語とは異なる言語であるという本書の主張は支持できる。しかし本書は、松林語が非チベット系の独立の言語であるとする一方で、同言語の所属を〈藏語支〉としている。評者はこの主張には首肯しがたい。中国の言語学が考える〈藏語支〉とは、英語 Bodish という用語で呼ばれる、チベット系諸言語と East Bodish を含む言語群に相当するものと考えられる⁶。本書では、〈藏語支〉に基づくという見方を孫宏開 (2004) の考えに基づいて判断しているだけで、言語事実を検討したうえでの結論ではなく、また、その過程は本書に示されていない (p. 7)。少なくとも Bodish に属する非チベット系諸言語との関係を具体例に基づいて対照し、歴史言語学的考察をしてはじめて確定的な意見が提出できるものである。読者はこの点に気をつけて本書を利用する必要がある。

3 本書の記述研究の検討

本書の中核をなす記述研究について、本書の順序にしたがって、音声・音韻、語彙、文法について分けて評していく。

3.1 音声・音韻について

松林語の音体系は、中国の言語学で採用される〈声韻調〉という3要素に分け、最後に音節構造を記述している (pp. 18-26)。以下、評者の目から見て注目できる特徴をいくつか紹介しておく。

本書のいう声母すなわち音節初頭の子音体系について注目すべき点として、以下のようなものがある。

- 前部硬口蓋閉鎖音 (ɸ 類)、前部硬口蓋破擦音 (tɕ 類)、硬口蓋閉鎖音 (c 類) の対立
ɸ 類と c 類が対立する言語は報告が非常に少ない。中国の音標文字システムに文字は登録されている (朱曉農 2010) が、特に ɸ 類が記述に現れる事例は少数である。チベット系諸言語については、カムチベット語 Lamdo (浪都) 方言 (鈴木 2010) や dNgo 方言 (鈴木 2017) などに見られる。この点について、チベット言語学の枠組みにおける音表記の重要性を Suzuki (2016) が取り上げている。とはいえ、これらの音の分布は音環境による偏りがあるようにも見えることから、同言語・借用語などを対照し、それぞれの音素が他言語のどの音素と対応関係を持つかを分析できるとよいだろう。
- 子音連続の3つのタイプ

⁶ Bodish という用語は複数の研究者が異なる定義で用いている。評者の定義は、ここに示したように、チベット系諸言語と East Bodish という最小限の構成要素からなるものと定義する。なお、East Bodish については、Hyslop (2022) を参照。なお、評者は〈藏語支〉という用語を Tibetic の意味で用いる (鈴木等 2022)。

前鼻音、/z/のわたり音、両者の複合という3種類がある。著者が明記するように、/z/は音声実現として [z] であって、[r, ɹ] ではない (p. 19)。チベット系借用語を見る限り、多くの例でわたり音/z/は蔵文下接字 r との関連が認められ、r 音との関連が認められる。カムチベット語でも、蔵文 r に対応する音を/z/と記述する例がある (格桑居冕 1985)。この差異は記述者によることが、STEDT⁷ などの多言語データベースにある表記上のゆれ⁸からも理解できる。本書における/z/の使用は音声実現を重視した記述であるといえるが、有気音に続く場合、当該音素がなお有声音として実現されるかどうかは気になる点である。

母音+末子音体系について注目すべき点として、以下のようなものがある。

- 広母音は/a/のみ
松林語には/a/が認められず、/ɑ/のみが音系にある。音節のどの位置に現れても後舌で調音されるということになるが、中舌 [A] という可能性があるかどうかは気になる点である。もしすべての音環境で後舌となるならば、チベット・ビルマ系言語としては際立つ特徴といえる。
- 摩擦性母音に非円唇と円唇がある
摩擦性母音として/ɣ/と/ɥ/の2種が認められる。これらは音声実現として初頭子音が非そり舌かそり舌かという環境変異を見せ、それぞれ [ɣ, ɥ] と [ɥ, ɥ] を見せるとする。一方、著者は/ɣ/が音素である根拠に/i/との対立を挙げている (p. 22) が、/ɑ/とは最小対を構成するようには見えない。この点について説明があればなおよかったと思われる。
- 鼻母音は音韻的でなく、末子音に鼻音 n, ŋ を認める
著者は鼻母音の音声実現が認められるとしつつも、鼻音末子音をもつ例との対立が見られないことなどを考え、鼻音末子音として処理できると考えている。一方で、現在の松林語が鼻音末子音から鼻母音へと変化しつつある状況にあると解釈できるとする。共時的に解決するのは難しい問題であり、長期間の観察を通して現状の解釈が妥当であるかが検証できるといえる。

声調体系について注目すべき点として、以下のようなものがある。

- 音節声調で、3つの対立がある
本書の分析では、音節ごとに声調を認め、55、24、31 の3種が対立することになっている。注意すべきは複音節語の構成要素になったとき変調することがあるという指摘 (p. 24) で、変化しないか 33 か 31 と記述する。チベット系諸言語の分析を見ると、中国では音節声調、それ以外の記述では語声調の分析がとられている。このため、語声調の可

⁷ 参照 URL: <https://stedt.berkeley.edu/>

⁸ この「ゆれ」が方言差であるか個人差であるか、それとも記述者の好みであるのかは、データベースからは分からない。松林語の文脈でいうと、近隣で話されるイドウ語 (江荻 2005)、クマン語 (李大勤 2002)、ザクリン語 (劉潔 2021) でわたり音位置の当該音をそれぞれ /l/, /r/, /r/ と記述している。

能性もあるのではないかと見える。

- 疑問詞に特有の声調パターン

本書では 42 という声調が疑問詞、疑問文、願望文で現れると指摘する (p. 24)。特定の文の形式に現れることから、語に備わった声調ではなくイントネーションなど韻律的特徴と判断でき、語の記述には適用しない著者の判断は正当であるといえる。

- 31 調の現れ

本書では声調に文法的機能があると述べ (p. 25)、31 調が主に機能語に現れるという観察を提示している。一方で格標識は 55 調で固定されているということで、特徴的である。31 調は自立語にも現れるというが、著者の挙げる例 (p. 25) を見ると、2 音節語の初頭音節と 4 音節語の第 3・4 音節に現れる例のみで、これだけを見ると、チベット系諸言語の語声調の類型を想起させる。この点から見ても、語声調という枠組みで再考する必要性があるといえる。

なお、本書は松林語のローマ字表記を提案している (pp. 30-33)。ただし、当該箇所を除いて、このローマ字表記は実践されていない。本書が言語学の研究者向けと考えられているからであろうか。現地への還元としては、語彙や長編資料の部分についてはローマ字表記を併記するなどの工夫があってもよかったのではないかと見える。

3.2 語彙について

《中国語言資源保護工程》の調査票の大部分は語彙に当てられている。本書では第 3 章で松林語の語彙体系を概観し、派生についてもまとめている。続いて第 4 章では、調査票の順序に基づいた松林語の語彙リストを掲載している。配列は意味グループにより、「天文地理」「時間・方位」「植物」「動物」「建物・器具」「服飾・飲食」「身体・医療」「冠婚葬祭・信仰」「人物」「農工商文化」「動作・行為」「性質・状態」「数量」「代名詞・副詞・機能語・接続詞」の順である。多くの記述研究では、語彙リストを巻末に配置する傾向にあるが、本書の基本理念が《中国語言資源保護工程》の成果発表であることを考えると、この順序に違和感はない。しかしながら、語彙は基礎語彙、調査票にあるその他の語彙、そして松林語のために必要な補足語彙の 3 種類に分けられ、かつ重なって収録されていないのは、語彙資料を利用する側から見れば非常に不親切である。加えて、索引がないため、配列を頭に入れておかなければ語形の検索には不便である。こういった点で、本書は参照を第一目的として作成されているわけではないということを心得ておかなければならない。

語彙形式については、第 3 章に借用語や同源語の解説があるものの、語彙資料中に語源が示されているわけではない。また、著者はチベット系借用語と本来語の違いがあることを認識してはいるが、その来歴となるチベット系借用語の性質、すなわち地方 (方言) 語彙であるか文語読書音であるかについて注意を払っていないか、それを分析するだけの資料を持ち合わせていないおそれがある。たとえば、「狼」という語について、 $\text{coŋ}^{55}\text{khu}^{55}$ を松林語に固有の形式、 $\text{tcaŋ}^{55}\text{ku}^{55}$ をチベット系借用語と記述する (p. 40)。しかし、いずれもチベット系借用語で、蔵

文 *spyang khu* に対応する形式である。前者が地方語彙からの借用、後者がラサのチベット語もしくは文語読書音に由来すると考えるのが通例の判断であろう。後者の獲得は、おそらくラジオ・テレビなどの音声メディアでラサのチベット語（もしくは *spyi skad* と呼ばれる共通語）に触れたことによる、最近の現象であると考えられる。このようなこともあり、本書の語形式からチベット系借用語を丁寧に分析し、その借用経路を検証することは、今後の課題の1つになると言ってもよい。

本書では一部ではあるがカラー印刷が採用され、これまでに中国で出版された記述文法や語彙集と一線を画す。この特徴を利用して、松林語の分布地域に特有のものについてカラー写真を使用して解説しているのは新しい試みであり、非常に役立つ。残念なのは写真と解説のバランスおよび紙幅の制限で、もう少しレイアウトを工夫し体系的に写真を配置すれば、語彙集としてよりよいものとなるだけでなく、記録言語学的にも効果的な成果報告となるだろう。特定分野について体系的な語彙集は星ほか (2020) がよい手本となるといえる。

3.3 文法について

《中国語言資源保護工程》の調査票では、収集すべき文例は100文のみであり、これだけでは文法の概要すら明らかにできない分量である。このため、本書の記述を完成させるために、著者は調査票以外に追加で調査したものと判断できる。記述方法は中国で出版されてきた類似の記述研究シリーズである《語言簡誌》《新發現語言研究叢書》のものに近いと判断される。

記述の構造は大きく「語類」「句」「文」に分かれる。「語類」についての記述が最も多く、11項目に分けて記述している。最後には〈附加成分〉（機能語）がまとまっており、名詞句につく格標識と動詞句につくアスペクト標識・証拠性標識についてまとめて記述がある。このように、「語類」に分けてしまうと、機能語の扱いが体系的に記述できない。むしろ名詞句と動詞句を別個にまとめて、各構成成分の配置関係を記述するほうが、文法記述としてより分かりやすい構造となるだろう。

名詞の記述について際立つのは、数範疇の記述が詳細な点である (pp. 117-119)。まず、名詞には可算・不可算の別があり、可算のものはさらに単数・複数に分かれる。複数にも2つあり、曖昧複数と非曖昧複数となる。特に最後の分類は評者のチベット系諸言語に対する数の概念と合致し、松林語には特に「双数」という概念がなく、非曖昧複数の下に分類されるものであると明記している (p. 119)。この記述は他言語にも応用可能であり、模範となりうる。

数詞については、(pp. 125-127) で松林語とチベット系諸言語の形式が対比されている。記述文法であれば、この作業を当該箇所で行う必要性はなく、第1章で議論すればよく、バランスを欠いている⁹。

数量詞については、名詞と結合するものと動詞と結合するものの2種を記述する。度量衡も

⁹ 加えて、該当箇所に引用してあるチベット系諸言語 (Lhasa, Chamdo, bLabrang) の資料には現実的ではない音が記述されており、残念ながら精確とはいえない。《中国語言資源保護工程》の成果というが、このような資料は引用するよりは、むしろ先行研究の出版物から記述を採用したほうがよかったと考える。

数量詞としてふるまう部分があり、ここで記述している。また、この中でも、「対」を表す *t̥cha*⁵⁵ について非文法的となる例を記述しているのが目立つ (p. 131)。この情報は簡潔であるが、類型論的には重要な点を押さえていると言えるだろう。

代名詞については、人称代名詞、指示代名詞、再帰代名詞、疑問代名詞、不定代名詞に分けて記述している。人称代名詞には双数が設けられている (pp. 134-135) が、数詞の「二」と関連する語形を用いるなどの点を見ると、他の数詞との組み合わせはないのかと疑問になる。名詞の数範疇で双数の独立性を否定しているため、なおさら知りたいところである。再帰代名詞については、代名詞の範疇で詳しく例示されている (pp. 137-140)。

動詞については、語類における記述としては簡潔である (pp. 147-151)。動詞の分類を自動詞・他動詞、自主動詞・非自主動詞、自発動詞・使役動詞、行為動詞・可能願望動詞、判断動詞、存在動詞、助動詞の7つの視点から行っている。このうち、自主動詞・非自主動詞は英語の用語の *controllable / non-controllable* に対応するものと考えられ、意思 *volitional*・非意思 *non-volitional* を採用していないのは注目できる。また、松林語には厳密な意味での判断動詞 (狭義での繫辞動詞) が存在しないことを記述している (p. 149)。これは語形が存在しないというよりは同カテゴリーが存在しないというように理解できる。当該箇所には *zɛ*²⁴ が記述されている¹⁰ が、第6章の例文を見ると、小辞とされる *noŋ*³¹ も繫辞の機能があるように見える (たとえば pp. 191-193 の例文 010, 020, 027)。ただし、著者は後の文を扱う節で述べているように (p. 182)、*noŋ*³¹ で名詞句が結ばれる文を名詞文と解釈している。

形容詞については、用法、程度の表現、名詞化について述べている。名詞を修飾する場合、形容詞は名詞に後置され、また述語にもなれる。形容詞自体の語形変化は認められず、重複が見られる程度である。形容詞の名詞化は話題標識によって構成されることが記述されているが、名詞化については別途まとめたほうがバランスがよかったかもしれない。

副詞については、その意味によって7種の下位分類を設けて記述している。なお、本書では否定の要素を副詞として記述する (p. 156)。否定副詞の現れは、チベット系借用語で複数音節の動詞の場合、チベット系のももとの構造を維持していることが例示されている。ただし、著者はそれについて触れていない。

間投詞については、主要な語形を挙げたうえで、用例を掲げている。このような提示の方法は、間投詞の具体的な使用方法の理解を助けるものであり、必要な作業といえる。

擬音語については、独立に節を設けて、間投詞と同じように主要な語形を挙げたうえで、用例を掲げている。ここでいう擬音語は、自然界のさまざまな音をまねて発話するものに限っている。このほかに擬態語があるかどうかは記述がない。

語気詞については、3つの形態について記述がある。このうち、1つめの語形 *noŋ*³¹ (*noŋ*³¹) については、先にも述べたように、繫辞としての機能が認められ、それを著者は「陳述の語気」

¹⁰ この *zɛ*²⁴ という形式は、チベット文語形式 *red* と対応する可能性が高く見える。判断動詞の中で陳述の証拠性の機能を持つ語幹である。松林語のチベット系借用語の借用経路については別途詳細な研究が必要であるが、松林語の分布域の近隣で話されるチベット系諸言語には *red* と対応する語形式が用いられている (鈴木 2012, 2021)。

と呼ぶ。しかし、先行する形容詞の記述の際の例文 (p.152) では述語として持続のAspect標識と並行して用いられるのが記述されている。すると、この要素自体が次の項目である付加成分の1つに位置づけられるのではないかと疑問を抱かせる。

付加成分 (機能語) については、記述の分量が豊富である (pp. 161-170) が、これまでの品詞別の記述に比べて記述対象が多すぎるように見える。まず名詞類への付加成分、すなわち格標識と話題標識がまとめられている (pp. 161-165) が、すべての標識を独立して扱い、文法格・位置格の分類など、格体系を示していないのは残念である。続いて述語への付加成分、すなわちAspect標識と証拠性標識がまとめられている (pp. 166-170) が、やはりAspectと証拠性という異なる要素をまとめて記述している点は分かりにくい。いずれの記述も、各標識が表しうる体系としての全体像をまとめた表などがあれば、参照しやすい。なお、本書は証拠性について引用 (reported) と視認 (visual) の2つを挙げているが、語気詞の項で述べたように、「陳述」もまた証拠性の1つとするという考え方 (Tournadre & LaPolla 2014) があることにも注意すれば、異なる分析が可能であろう。チベット文化圏に分布する言語という観点から見れば、証拠性が体系化しているかどうかに関心が向く。残念ながら、本書はその関心に応えられる記述は提供されていない。それは著者の興味とともにチベット系諸言語の知識にもよるため仕方のないことであるが、松林語のそばで話されるセク語 (gSerkhu; 本書の表記で〈素苦語〉、評者は〈色庫語〉を用いる) はラモ語と姉妹関係にあり、ラモ語にはカムチベット語の証拠性に酷似する体系¹¹を備えていることが分かっている (Suzuki & Tashi Nyima 2021)。この点を詳細に分析すれば、松林語とセク語の関係もまた議論でき、その所属問題に一石を投じることができるかもしれない。

語類に続いて、句と文の記述がある。句については、主に構造に基づく分類、機能における分類を行い、要領よく記述している (pp. 171-178)。文については、文の成分、単文、複文に分けて記述している (pp. 179-188)。文の成分の分類と記述には、漢語の文法範疇を適用している。句および文については、いずれも簡潔で的確な記述となっているが、もう少し語類との関連を持たせて記述すれば分かりやすいと言える。

3.4 言語資料について

本書には第6章として基本文例100文と自然発話 (民謡歌詞1件; 物語10件) が含まれている。記述言語学の資料として、このようなデータが付加されているのは歓迎できる。

採録された物語は、松林語がチベット文化圏に属することを示している。著者が意図的に選んだのか、採録できた中で、たとえば長さなど言語外の状況で調整したのかは不明であるが、物語だけでなく、神話や民族移動の口承など、種類に富む選択もありえたのではないか。ジャンルによって語り口の異なりが見られる可能性もある¹²。

¹¹ 興味深いことに、酷似するのは体系 (枠組み) だけであり、語形はラモ語に独自である。

¹² たとえば、Suzuki & Sonam Wangmo (2021b) は歴史的な語りと民話の間において語り口と形態統語論的表現の間に異なりがあることを報告している。

なお、採録された物語の中で、チベット文化圏で共有される筋書きがあり、物語の伝播の視点から見ると興味深い。4つめの「羊と狼」(pp. 218-223)は Suzuki & Sonam Wangmo (2021a:e115-e124)の「羊と狼」に、5つめの「1人の“ラマ”」(pp. 223-226)は Zou & Suzuki (2022:24-37)の「野うさぎの知恵」に、それぞれプロットが酷似している。細かな設定に違いがあるものの、物語の筋は共通といえる。前者はカム (Lhagang; 四川省甘孜州康定市)、後者はアムド (Cone; 甘肅省甘南州卓尼県)に伝わる民話であるが、いずれも松林語の分布地域とは距離がある。口承文化の拡張について考えさせられるものであり、本書が資料として提供したことが重要な発見につながるかもしれない。

参考文献

- 鈴木博之 (2010) 「カムチベット語香格里拉県浪都 [Lamdo] 方言の方言所属」『国立民族学博物館研究報告』 2010-35 巻1号 231-264. doi: <https://doi.org/10.15021/00003898>
- 鈴木博之 (2012) 「カムチベット語 Sangdam 方言の音声分析とその方言特徴」『アジア・アフリカ言語文化研究』 第83号 37-58. doi: <https://doi.org/10.15026/69336>
- 鈴木博之 (2017) 「カムチベット語翁上 [dNgo] 方言の音体系に関する覚え書き」『ニダバ』 第46号 35-43. URI: <http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045562>
- 鈴木博之 (2021) 「カムチベット語察瓦龍 [Tshawarong] 方言の音声記述と語彙」『アジア・アフリカの言語と言語学』 第15号 105-137. doi: <https://doi.org/10.15026/99899>
- 星泉・海老原志穂・南太加・別所裕介 (2020) 『チベット牧畜文化辞典 (チベット語-日本語)』 府中: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 doi: <https://doi.org/10.15026/94592>
- Beyer, Stephan V. (1992) *The Classical Tibetan language*. Albany: State University of New York.
- Hyslop, Gwendolyn (2022) Kurtöp verbal morphology in the East Bodish context: A case study in ethnohistorical morphosyntax. In Mark W. Post, Stephen Morey and Toni Huber (eds) *Ethnolinguistic prehistory of the Eastern Himalaya*, 323-362. doi: https://doi.org/10.1163/9789004518049_013
- de Nebesky-Wojkowitz, René (1956) *Oracles and demons of Tibet: The cult and iconography of the Tibetan protective deities*. 's-Gravenhage: Mouton.
- STEDT = The Sino-Tibetan etymological dictionary and thesaurus. Database. Online: <http://stedt.berkeley.edu/search/>
- Suzuki, Hiroyuki (2016) In defense of prepalatal non-fricative sounds and symbols: towards the Tibetan dialectology. *Researches in Asian Languages* 10, 99-125. URI: <http://id.nii.ac.jp/1085/00002195/>
- Suzuki, Hiroyuki (2022) Glottonyms, identity, and language recognition in the eastern Tibeto-sphere. In Gerald Roche and Gwendolyn Hyslop (eds.) *Bordering Tibetan languages: Making and marking languages in transnational High Asia*, 105-125. Amsterdam: Amsterdam University Press. doi: http://doi.org/10.5117/9789463725040_CH05

- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (2016) Lhagang Choyu: A first look at its sociolinguistic status. *Studies in Asian Geolinguistics II—Rice—*, 60-69.
Online: https://publication.aa-ken.jp/sag2_rice_2016.pdf
- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (2021a) Two folktales in Lhagang Tibetan of Minyang Rabgang Khams: *The Sheep and the Wolf* and *The Hare and the Tiger*. *Tokyo University Linguistic Papers (eTULIP)* 43, e114-e142. doi: <https://doi.org/10.15083/0002002787>
- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (2021b) Hearsay evidential marking strategy in Lhagang Tibetan: A case study on folktales and legends. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 44.2, 141-167. doi: <https://doi.org/10.1075/ltba.21001.suz>
- Suzuki, Hiroyuki & Tashi Nyima (2021) Evidential system of copulative and existential verbs in Lamo. In Yasuhiko Nagano & Takumi Ikeda (eds) *Grammatical phenomena of Sino-Tibetan languages 4: Link languages and archetypes in Tibeto-Burman*, 259-287. Kyoto: Institute for Research in Humanities, Kyoto University. URI: <http://hdl.handle.net/2433/263981>
- Tashi Nyima & Hiroyuki Suzuki (2019) Newly recognised languages in Chamdo: Geography, culture, history, and language. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 42.1, 38-82. doi: <https://doi.org/10.1075/ltba.18004.nyi>
- Tournadre, Nicolas & Randy J. LaPolla (2014) Towards a new approach to evidentiality: Issues and directions for research. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 37.2, 240-263. doi: <https://doi.org/10.1075/ltba.37.2.04tou>
- Tournadre, Nicolas & Hiroyuki Suzuki (2022) *The Tibetic languages: An introduction to the family of languages derived from Old Tibetan* (with the collaboration of Xavier Becker and Alain Brucelle for the cartography). Villejuif: LACITO Publications.
- Zou, Yuxia (gYu-'brug-mtsho) & Hiroyuki Suzuki (2022) Five folktales in Bragkhoglung Tibetan of Cone. *Himalayan Linguistics Archive* 11, 1-85. doi: <https://doi.org/10.5070/H90052025>
- 江荻 (2005) 《義都語研究》民族出版社
- 格桑居冕 [sKal-bzang 'Gyur-med] (1985) 〈藏語巴塘話的語音分析〉《民族語文》第2期 16-27.
- 李大勤 (2002) 《格曼語研究》民族出版社
- 劉潔 (2021) 《西藏察隅松古扎話研究》中央民族大学博士論文
- 孫宏開 (2004) 〈我對藏語支語言特點的初步認識〉《南開語言學刊》第2期 17-25.
- 鈴木博之 [Suzuki, Hiroyuki]、扎西尼瑪 [bKra-shis Nyi-ma]、才讓三周 [Tshe-ring bSam-grub]、
 一郎翁姆 [bSod-nams dBang-mo] (2022) 〈昌都市內新認知語言的數詞結構〉《南開語言學
 刊》第1期 159-168.
- 朱曉農 (2010) 《語音學》商務印書館

受理日 2023年4月10日

ハルビ語の民話「王と王妃」

佐藤雄太

東京外国語大学

キーワード: ハルビ語、インド・アーリヤ諸語、オリア語、
マラーティー語、東部ヒンディー語、少数民族

1 ハルビ語の概要

ハルビ語¹ (英: Halbi language) は、インドのチャッティースガル州南部のバスタル県 (英: Bastar) を中心とする地域で話されている。2011年のインド国勢調査によると、話者人口は593,443人である。

ハルビ語は、インド・ヨーロッパ語族インド語派に属する。グリアスンの『インド言語調査』 (*Linguistic survey of India*) は、ハルビ語を「オリア語、チャッティースガリー語、マラーティー語の興味深い混合物」としているが [Grierson (comp. & ed.) 1967, 330]、その記述はオリア語の巻でもチャッティースガリー語の巻でもなく、マラーティー語の巻 (Indo-Aryan family のうち southern group の諸言語を扱った巻) に収められている [ibid., 330-409]。そうなった経緯について、グリアスンは別の巻で次のように書いている。「私が東部ヒンディー語に従事していたとき、ステーン・コノーヴ博士 (今では教授だが) が並行してマラーティー語に従事していた。それぞれが独立して調査していたのだが、われわれはついに、ハルビ語という興味深い・混ぜこぜの方言が話されている合流点で落ち合った。東部ヒンディー語の観点から、私はこの言語をマラーティー語の一形態だと見做した。だが他方でコノーヴ博士は、マラーティー語の眼鏡を通して見て、これは東部ヒンディー語の一形態だと主張した。先程の私の言葉通り、この方言は『調査』のマラーティー語の巻に載ることとなった。しかし、これがもし東部ヒンディー語の巻に収められていたとしても、その按排が間違っていたとは言えなかったであろう。」 [Grierson (comp. & ed.) 1927, 31]

¹ ハルビ語の言語名は、デーヴァナーガリー文字の ALA-LC 翻字では *halbī* または *halabī* と表記される。ハルビ語には母音の長短の弁別がないため、本稿ではこれを /həlbi/ と音素表記し、「ハルビー語」ではなく「ハルビ語」とカタカナ表記する。オリア文字では *halabi* と綴られ、オリア語では /həlɔbi/ と発音される。

本稿の民話テキストの分析からも明らかなように、ハルビ語には、オリア語、チャッティースガリー語（東部ヒンディー語の一）、マラーティー語の要素が多く見出される。

2 ハルビ語の音韻

ハルビ語の音素目録を以下に示す [Schuyler & Woods 1967] [Mitra ; Nigam ; Singh 1977]。

母音 /ə, a, i, u, e, o/

鼻母音 /ã, â, î, û, ê, ô/

子音 /k, k^h, g, g^h, t̪, t̪^h, d̪, d̪^h, t, d, t^h, d, t^h, n, p, p^h, b, b^h, m, r, ʈ, l, j, w, s, h²

3 民話テキスト「王と王妃」

以下に、[Telaṅga 1966, 453-454] 所収の民話テキスト“rājā-rānī”（「王と王妃」）の本文にグロス、日本語訳、補足的分析を添えて示す。

テキストの原文はデーヴァナーガリー文字で表記されているが、本稿では ALA-LC 翻字方式に合わせたラテン文字表記を用いる。ALA-LC 翻字との整合を図るため、音素 /t̪, t̪^h, d̪, d̪^h, t, d, t^h, d, t^h, n, p, p^h, b, b^h, m, r, ʈ, l, j, w, s, h² と /n/ の異音 [ŋ ~ ɳ] とは、それぞれ c, ch, j, jh, t, th, d, dh, r, v, ñ, ɳ と表記する³。発音上脱落する潜在母音 /ə/ は全て表記しないが、脱落するか否かが判然としないときは、半角丸括弧を用いて (ə) のように示した箇所もある。ハルビ語以外の言語も原則として ALA-LC 翻字に統一するが、上記のように脱落する潜在母音は表記しない。また、オリア語、ベンガル語、ネパール語の母音は便宜的に ə, a, i, u, e, o で示す。

グロス中の略号は、原則として Leipzig Glossing Rules に準ずるが、リストにあるものもないものも併せて、テキストの後の凡例に纏めている。

テキストを分析し、日本語訳を作るにあたっては、テキストに付されたヒンディー語訳を適宜参照している。日本語訳の全角丸括弧 () は直前の言葉の言い換え、全角角括弧 [] は著者による補足を示す。[Turner 1966] の見出し番号は、T.のあとに数字を続けて「T.1234」のように示す。

(1) gotok gaō rəh -e mənə, utha ɖokri ɖokra -mən rəh -ət.
one village be -PST.3SG ITJ there old.woman old.man -PL live -HAB

1つの村があった。そこにおばあさんとおじいさんとが住んでいた。

gotok : オリア語 gotie 「1つの」を参照。

² /n/は、破裂音の直前でその破裂音と同調音点の条件異音 [ŋ ~ ɳ ~ ɳ] を持つ。

³ 異音 [ɳ] はテキストに登場しない。

rəh-e mənə : rəh- 「ある、留まる、住む」の PST.3SG として、規則的な過去形 rə-l-o (< rəh-l-o) の他に、この形がある。mənə は、動詞に後置され、語調を整える ITJ と考えられる。[Telaṅga 1966, 459] 等も参照。

ḍokri, ḍokra : T.5567 (< *ḍokka-, *ḍhokka-)。ヒンディー語 ḍokrā、マラーティー語 ḍokrā 「年老いた」を参照。ヒンディー語では、「老いぼれの」のような否定的なニュアンスを伴うことがある。

-mən : チャットィースガリー語 -mən (PL) に相当する。オリア語 -mane を参照。[Chatterji 1960, 126] は、サンスクリット語 mānava- に由来するとし、[Telaṅga 1966, 412] もそれに同意している。

rəh-ət : -ət は、ヒンディー語の -tā (PRS.PTCP) + COP のように習慣を表すさいに用いられるが、rəh-ət 単独で be-PST のように用いられる例もある。ここでは HAB (habitual) として分析する。

(2) temən -co sat -jhən leki -mən rəh-ət.

they -GEN seven-CLF girl -PL be -HAB

彼らには7人の娘達がいた。

temən : te- 「彼、彼女」+ -mən (PL) と分析できる。

co : GEN を表すこの後置詞がマラーティー語の後置詞 cā に似ていることが、ハルビ語とマラーティー語との近縁性の根拠に挙げられることがある [坂田 1992, 335]。ただし、マラーティー語 cā は [tʃa:] ではなく [tsa:] である。

-jhən : 人数を表す CLF。[Telaṅga 1966, 412] は、サンスクリット語 jana- に由来するとする。

(3) temən khube gərib rəh-ət, bəni bhuti kər-un kha-te rəh-ət.

they very poor be -HAB business labour do -CNV eat -PRS.PTCP be -HAB

彼らはとても貧しかった。商売や賃労働をして食べていた。

kər-un : -un 「(動詞) してから」は、マラーティー語 -ūn (CNV) に相当する。

kha-te rəh-ət : PRS.PTCP + be-HAB で、過去の習慣を表している。

(4) goṭok din-e ḍokra kəhā -le to khiṇḍik uṛid əru cāur an -l -o.

one day-LOC old.man where -ABL TOP a.little black.gram and rice bring -PST-3SG

或日、おじいさんは、どこかから少しのケツルアズキ (豆の一。学名 *Vigna mungo*) と米とを持って来た。

din-e : ハルビ語には、他に LOC を表す生産的な後置詞として -ne があるが、-e も用いられる。例えば、ghər 「家」→ ghər-e 「家で」 [Telaṅga 1966, 407-408]。

cāur : T.4749 (< *cāmala-). ヒンディー語 cāval 「米」等に対して、ロータシズムにより l > r となっている。これは、ボージプリー語 (東部ヒンディー語の一) cāur、オリア語 cauro 「米」等にも見られる。

an-l-o : T.1174 (< ānayati)。an- 「持って来る」は、オリア語 an-、ベンガル語 an- 「持って来る」等を参照。また、PST で -l- が現れることは、東部ヒンディー語の諸方言、オリア語、ベンガル語、マラーティー語等に広く共通している。

(5) te -ke roṭi kha-to -kaje ḍokri sum(ə)ta kər-l -a.

that -ACC roti eat -INF-PURP old.woman advice do -PST-3PL

それをロティ (無発酵パンの一、または食事一般) [にして] 食べるために、おばあさん [とおじいさんと] は相談した。

kha-to-kaje : 動詞語幹 kha- 「食べる」に、INF の接辞 -to(r) が付き、更に DAT または PURP の後置詞 -kaje 「(～の) ために」が付いている。この -kaje は kaj 「仕事」+ -e (LOC) と分析できる。この kaj は、T.3078 (< kārya-) にある通り、東部ヒンディー語の諸方言、オリア語、ベンガル語等に広く共通している。

sum(ə)ta : サンスクリット語 su-mati 「よき考え、善意」からであろう。

(6) te goṭ -ke bəṛe leki sun -te rəh-e.

that conversation-ACC big girl listen -PRS.PTCP be -PST.3SG

その話を、上の娘が聞いていた。

goṭ : サンスクリット語 goṣṭhī- 「集会、会話」 (< goṣṭha- 「牛舎」) からであろう。

sun-te rəh-e : PRS.PTCP + be-PST で、過去進行形を表している。

(7) hun ja -un səpay bəhin-ke sāg-un di -l -i.

she go -CNV all sister -ACC say -CNV give -PST-3SG.F

彼女は [そこから] 立ち去って、姉妹の皆に言った。

səpay : T.13276 (< sarva-)。ベンガル語 ṣobai 「皆」を参照。

sāg : T.12842 (< sāmkyāti)。オリア語 saṅg-、マラーティー語 sāṅg- 「言う」を参照。

(8) no.hay.re aj aya -buba -mən roṭi rādh -un kha-de.

ITJ today mother-father-PL roti cook -CNV eat -FUT.3PL

「ああなんと、今日、お母さんとお父さんが、ロティを料理して食べてしまうでしょう。」

rādh- : T.10615 (< randhana- 「破壊、料理」 ← √radh 「従属する」)。ベンガル語 ranna を参照。(10)、(14)、(16)には鼻母音のない radh- という形で出てくる。

(9) hā kāsən kər-tor ho -ede re.

ITJ how do -INF COP-FUT.3SG ITJ

「ああ、どのようにすべきでしょう。」

kər-tor ho-ede : INF + COP で義務・予定を表している。この形式は、インド・アー
リヤ諸語に広く共通している。

(10) nani leki bəl -l -i no.hay.re jitro səman radh -tor pis -tor as-e

little girl say -PST-3SG.F ITJ as.many.REL utensil cook-INF grind-INF be-PRS.3SG

hun -ke dhər-un so -ūde.

that.CREL-ACC hold-CNV sleep-FUT.1PL

下の娘は言った。「ああなんと、料理したり粉を挽いたりするために在る限りの道具を、
私達は抱えて寝ましょう。」

jitro : 量を表す REL。この REL を含む名詞句 jitro səman に対応する CREL が、hun
である。

(11) tebe səpay leki-mən ələg.ələg musər, bəhana, kərhəi, tel,

then all girl-PL respectively pestle winnowing.basket wok oil

culha, sil -ke dhər-un -bhati so -ū di -l -a.

stove millstone-ACC hold-CNV-after sleep-CNV give-PST-3PL

そこで、娘達は皆、それぞれ杵、箕、鉄鍋、油、焜炉、石臼を抱えてから寝た。

(12) jebe adha rati ho -l -i tebe dakra, dokri -ke

when.REL half night become-PST-3SG.F then.CREL old.man old.woman -ACC

jəga -l -o əru bəla -l -o səpay səman -ke an -ø.

awaken-PST-3SG.M and say -PST -3SG.M all utensil-ACC bring-IMP.2SG

夜更けになったとき、おじいさんはおばあさんを起こして、声を掛けた。「道具を全て
持って来い。」

jebe, tebe : 時間を表す REL、CREL。(26)には jeb、teb という形で出てくる。

(13) sab leki-mən so bəlas-ət.

all girl -PL sleep (?) -PST

「娘達は皆寝てしまっている。」

bəlas-ət : bəlas-は不詳。文脈とテキストのヒンディー語訳とから、この-ət は HAB
ではなく PST であると考えられる。

(14) radh-un kha-ūde.

cook-CNV eat -FUT.1PL

「[私達は] 料理をして食べよう。」

- (15) mantər səb leki-mən dhər-un dhər-un so -u rəh-ət
 but all girl-PL hold-CNV hold-CNV sleep -CNV be -PST
 temən bəle uṭh -la.
 they also wake -PST.3PL

しかし、娘達は皆、[料理道具を] 抱えて寝ており、彼女達も目を覚ました。

so-u : CNV の -un は、-ũ ~ -u の異形を持つと考えられる。

- (16) pache səpay mir -un radh-un khad-l -a.
 later all meet-CNV cook-CNV eat -PST-3PL

そのあとで、皆一緒になって料理して食べた。

pache : T.7990 (< *paśca-). オリア語 pōcho-re、ヒンディー語 pīche 「後ろに」等を参照。(50)では pace となっているが、インド・アーリヤ諸語のうち無気音/有気音の対立のある言語の多くで、有気音-ch-が現れている。

mir- : T.10133 (< milati ← √mil 「合う、会う、手に入る」)。オリア語 miḷ-、ヒンディー語 mil-、マラーティー語 miḷ- 「合う、会う、手に入る」等を参照。ロータシズムにより l > r。

- (17) goṭok din -e ḍokra car khəva-tor -kaje
 one day-LOC old.man chironji let.eat-INF-PURP
 səpay leki-mən-ke ran -baṭe ni -l -o.
 all girl-PL -ACC woods -ALL take-PST-3SG.M

或日、おじいさんはインドウミソヤ (ウルシ科の植物の一。学名 *Buchanania latifolia*) を食べさせるために、娘達を森の方へ連れて行った。

- (18) utha -to car ruk-mən -ke kaṭ-un di -l -o əru
 there-TOP chironji tree-PL -ACC cut-CNV give -PST -3SG.M and
 əpən leki -mən -ke chaṭ -un pəra -l -o.
 of.oneself girl -PL -ACC leave -CNV run.away-PST -3SG.M

そこでインドウミソヤの木を切った。そうして自分の娘達を放って、逃げ去った。

ruk : T.10757 (< *rukṣa- ~ vṛkṣa- 「木」)。パンジャービー語 rukkh 「木」等を参照。

pəra- : T.7955 (< pālāyatē ← palā- + √i 「逃げる」)。オリア語 poḷa-、ベンガル語 pala-、ヒンディー語 palā- 「逃げる」等を参照。ロータシズムにより l > r となるこの形は、ヒンディー語 palā- の異形 parā-、オリア語 poḷa- の異形 pəra- 等にも見られる。

- (19) leki-mən khube car khad-l -a.
 girl-PL very chironji eat -PST-3PL
 娘達は大いにインドウミソヤを食べた。
- (20) kha-to -ke khube pyas lag-l -i.
 eat -INF-ACC very thirst feel-PST-3SG.F
 食べることで、とても渴きを感じた。
- (21) ḍoṅgari -ne pani -kaje ge-l -a mantər
 mountain-LOC water-PURP go-PST-3PL but
 kəhā -co pani mir -t -i.
 where -GEN water be.available -PRS.PTCP -3SG.F
 [彼女達は] 山に水のために行った。しかし、どこの水が得られよう (どこにも水は得られない)。
 ḍoṅgari : マラーティー語 ḍoṅgar 「山」を参照。
 pani : 動詞 mir-t-i (be.available-PRS.PTCP-3SG.F) から、pani 「水」が F 扱いになっていることがわかる。これは、ヒンディー語 pānī 「水」(M) とは異なる。
- (22) pyas -co mare pāc -jhən leki -mən mər-l -a.
 thirst-GEN reason five-CLF girl -PL die -PST-3PL
 渴きのせいで、5人の娘達が死んだ。
- (23) nani leki əru bəre leki bac -l -o.
 little girl and big girl survive-PST-3PL(?)
 下の娘と上の娘が助かった。
 bac-l-o : bac-l-o は survive-PST-3SG.M であるため、文脈上考えにくい。*bac-l-a (survive-PST-3PL) の誤植か。
- (24) temən ḍoṅgari nahk -un goṭok catər beṛa-ne i -l -a.
 they mountain cross(?)-CNV one open.space field-LOC come -PST-3PL
 彼女達は山を越えて、ひらけた畑にやって来た。
 nahk-un : 動詞 nahk- は不詳。文脈とテキストのヒンディー語訳とから、「越える、渡る」と考えられる。
- (25) duriha -le goṭok təriya dəkha.di-l -i.
 distance-ABL one pond be.seen -PST-3SG.F
 遠くから、1つの池が見えた。

dākha.di-l-i : 動詞 dākha.di-l-i (be.seen-PST-3SG.F) から、təriya 「池」が F 扱いになっていることがわかる。これは、(26)と整合するが、(28)と整合しない。

- (26) mantər jeb bəre leki pani pi -tor -kaje utha ge-l -i
 but when.REL big girl water drink-INF-PURP there go-PST-3SG.F
 teb तरीya sukh -l -i ho.
 then.CREL pond dry.up-PST-3SG.F MOD

しかし、上の娘が水を飲むためにそこに行ったとき、池は干上がってしまっていたようだった。

jeb、teb : 時間を表す REL、CREL。(12)には jebe、tebe という形で出てくる。

sukh-l-i : 動詞 sukh-l-i (dry.up-PST-3SG.F) から、təriya 「池」が F 扱いになっていることがわかる。これは、(25)と整合するが、(28)と整合しない。

ho : 推量を表す MOD。

- (27) nani leki-ke khiṇḍik bud i -l -i hun bəl -ese ja-∅
 little girl-ACC a.little idea come -PST -3SG.F she say-PRS.3SG go-IMP.2SG
 didi əi mūdi-ke तरीya tən -e phək -un de -s.
 sister this ring -ACC pond inside(?) -LOC throw-CNV give -IMP.2SG

下の娘に、少し知恵がやって来た (閃いた)。彼女は言う。「お行きなさい、お姉さん、この指環を池の中に投げ入れなさい。」

bud : サンスクリット語 buddhi- 「知恵」 (F) (< √ budh 「目覚める、知る」) からであろう。

- (28) bəre leki mūdi -ke dhər-un तरीya bhīt(ə)re phək -un di -l -i
 big girl ring -ACC hold-CNV pond inside throw-CNV give -PST -3SG.F
 pani -ne तरीya bhər-l -o.
 water-LOC pond fill -PST -3SG.M

上の娘は指環を掴んで、池の中に投げ入れた。水で池が満ちた。

bhər-l-o : 動詞 bhər-l-o (fill-PST-3SG.M) から、təriya 「池」が M 扱いになっていることがわかる。これは、(25)、(26)と整合しない。

- (29) əru temən khube pani khad-l -a.
 and they much water eat -PST-3PL

そうして彼女達は大いに水を飲んだ。

khad- : 「(水を) 飲む」を表す動詞として既に pi-が出てきたが、kha- / khad- 「食べる」も用いられる。ベンガル語 kha-等を参照。

- (30) pyas sər -l -i, nani leki mūdi -kaje gag-l -i ho.
 thirst end-PST-3SG.F little girl ring -PURP cry -PST-3SG.F MOD
 渇きがなくなった。下の娘は [失った] 指環のために泣いたようだった。
- (31) bəre leki təriya-ne buḍ-un mūdi -ke bahir phək -un di -l -i.
 big girl pond -LOC sink-CNV ring -ACC outside throw-CNV give -PST-3SG.F
 上の娘は池の中に潜って、指環を [池の] 外に投げ出した。
 buḍ- : T.5561 (<* ḍubb-). ヒンディー語 ḍūb- 「沈む」等に対して、音位転換が生じている。オリア語 buṛ-, スインディー語 buḍ- 「沈む」を参照。
- (32) mūdi-ke dəkh-un nani leki khus ho -l -i.
 ring -ACC see -CNV little girl happy become -PST -3SG.F
 指環を見て、下の娘は喜んだ。
- (33) mantər te -ke əi dukh ho -l -i ki te -co bəre bəhin
 but she-ACC this sadness happen -PST -3SG.F PTCL she-GEN big sister
 pani bhīt[ə]re buḍ -un ge -l -i.
 water inside sink -CNV go -PST -3SG.F
 しかし、彼女にはこの [次のような] 悲しみが生じた。彼女の上の姉妹 (姉) が、水の中に沈んでしまった [という悲しみが]。
 buḍ-un : 原文は *buran だが、明らかな誤植のため buḍ-un とする。
 dukh : 動詞 ho-l-i (happen-PST-3SG.F) から、dukh 「悲しみ」が F 扱いになっていることがわかる。これは、ヒンディー語 dukh 「悲しみ」(M) とは異なる。
- (34) kay kər-t -i.
 what do -PRS.PTCP -3SG.F
 どうしたものだろうか。
- (35) goṭok ruk -ne cərh -un rəh-e hun -i təriya-ne goṭok raja
 one tree -LOC climb-CNV be -PST that-INT pond -LOC one king
 sikar -le phir-un -bhati i -l -o əru ḍera kər-l -o.
 hunting -ABL turn-CNV -after come -PST -3SG.M and camp do -PST-3SG.M
 [彼女は] 1本の木に登っていたのだが、まさにその池に、1人の王様が狩りから戻ったあとにやって来て、そうして野営をした。
- (36) leki əccha sundər rəh-e ho.
 girl very beautiful be -PST MOD

娘はとても美しかったのであろう。

- (37) te -ke dhər -un hun raja əpno ghər -e ni -l -o.
 she -ACC catch-CNV that king of.oneself home-LOC take -PST -3SG.M
 彼女を捕えて、その王様は自分の家に連れて行った。

- (38) əru rani bəna -l -o.
 and queen make -PST -3SG.M
 そうして [彼女を] 王妃にした。
 rani : 原文は *nani だが、明らかな誤植のため rani とする。

- (39) te raja -co chəy rani bəs -e rəh -ət.
 that king-GEN six queen live -PST.PTCP be -HAB
 その王には、6人の王妃がいた。
 bəs-e rəh-ət : PST.PTCP + be-HAB で、「過去の或時点で既にそのような状態になって
 いた」という過去完了的な意味を表していると考えられる。

- (40) te nani-ke khube ris ho -te rəh -ət.
 that little-ACC very angry be -PRS.PTCP be -HAB
 その娘に対して、[王妃達は] とても怒っていた。
 ris : T.10746、T.10749 (< riṣ ← √riṣ 「傷つく」)。ヒンディー語 ris 「怒り」(F) を
 参照。

- (41) temən -co goṭok bəle bal.bəcca ni- rəh -e.
 they -GEN one even children NEG-be -PST
 彼女達には、1人も子供がいなかった。

- (42) rə -te rə -te khube din -e ho -l -i.
 be-PRS.PTCP be-PRS.PTCP many day -INT(?) pass -PST -3SG.F(?)
 そうこうするうちに、多くの日が過ぎて行った。
 din-e : -e は (特に din に付くさいは) LOC を表すことが多いが、ここでは INT か。
 また、動詞 ho-l-i (pass-PST-3SG.F) から、din が F 扱いになっていることがわかる。
 これは、ヒンディー語 din 「日」(M) とは異なる。

- (43) nani rani -co goṭok leki əru leka ho -l -a, mantər hun-i din-e
 little queen -GEN one girl and boy be.born-PST-3PL but that-INT day-LOC

pəida ho-to bera te -co ākhi badh -un rəh-ət.

born be-INF time she-GEN eye cover-CNV be -PST

娘王妃に1人の女の子と男の子とが生れた。しかし、まさにその日、[子供達が] 生れたときに、彼女の目は覆われてしまった。

ho-to bera : 動詞 (INF) + bera 「時間」で「(動詞) するとき、したとき」を表す。

(44) leka leki -ke təriya-ne phək -un -bhati biləi pila -mən-ke

boy girl -ACC pond -LOC throw-CNV-after cat child-PL -ACC

rakh-un di -l -a.

put -CNV give -PST-3PL

男の子と女の子とを池の中に投げ込んだあと、[人間の子供達の代わりに] ねこの子供達を[王妃達は] 置いてやった。

(45) raja əi hal -ke dəkh-un nani rani -ke kəvahākni bəna -l -o.

king this condition -ACC see -CNV little queen -ACC scare.crow make-PST-3SG.M

王様はこの状況を見て、娘王妃を鴉追い女(畑の害鳥を追い払う役目の女、身分の低い女)にした。

(46) dhire.dhire khube din kəṭ -l -i.

gradually many day pass -PST -3SG.F

だんだんと多くの日が過ぎた。

kəṭ-l-i : (42)と同様に、動詞 kəṭ-l-i (pass-PST-3SG.F) から、khube din 「多くの日」が SG.F 扱いになっていることがわかる。

(47) hun -i təriya-ne duy-ṭhən kəməl-co phul phuṭ -l -a.

that -INT pond -LOC two-CLF lotus -GEN flower bloom -PST -3PL

まさにあの池の中に、2つの蓮の花が咲いた。

(48) rani -mən te phul -ke dəkh-un jan -l -a ki

queen -PL that flower -ACC see -CNV realise-PST-3PL PTCL

əi hun -i leka leki -co phul āy.

this that -INT boy girl -GEN flower be.PRS.3PL

王妃達はその花を見て悟った、これはまさにあの男の子と女の子との花であるのだと。

āy : [Telaṅga 1966, 459] に挙げられている CPL の PRS.3PL は at, asət の2つだが、āy はその異形と考えられる。ヒンディー語の CPL の hai / hai のように、非鼻母音の ay (CPL.PRS.3SG) に対して、鼻母音が PL 標識となっているのであろう。

(49) te phul -ke an -to -kaje khube nōukar pəṭha -l -a
that flower -ACC bring -INF-PURP many servant send -PST-3PL
mantər koni bāle an -uk ni- sāk -l -o.

but anyone even bring -CNV NEG-be.able -PST-3SG.M

その花を持って来るために、[王妃達は] 多くの召使を送った。しかし、誰も [その花を] 持って来ることが出来なかった。

pəṭha- : T.8607 (< prātiṣṭhati ← pra + √sthā 「立ち上がる、送り出す」)。ベンガル語 paṭha-、ネパール語 pəṭha- 「送る」等を参照。

(50) pace raja hun kāvahākni -ke pəṭha -l -o.

later king that scare.crow-ACC send -PST-3SG.M

そのあと、王様がかの鴉追い女を送った。

pace : (16)では pache となっている。

(51) mantər utha hun ge-l -i əru phul -ke tuṭa -te rəh-e
but there she go-PST-3SG.F and flower-ACC let.break -PRS.PTCP be -PST.3SG
ki duy-ṭhən leka əru leki utha -le nikər -l -a.

PTCL two-CLF boy and girl there-ABL come.out-PST -3PL

しかし、そこに彼女が行って、そうして花を摘みつつあるとき、2人の男の子と女の子とがそこから出てきた。

nikar- : T.7478 (< *niṣkalati)。ヒンディー語 nikal-を参照。ロータシズムにより l > r。

(52) kāvahākni bən -un rəh-e hun-i pher raja -ke sōb bat -ke sāg-l -i.
scare.crow become -CNV be -PST she-INT again king-ACC all thing-ACC say-PST-3SG.F

[彼女は] 鴉追い女になっていたのだったが、まさにその彼女が、改めて王様に全ての話を語った。

(53) raja hun chōy rani -ke phāsi di -l -e.

king that six queen-ACC hanging give -PST-3SG.M(?)

王様は、かの王妃達を絞首刑に処した。

di-l-e : di-l-e は give-PST-1SG であるため、文脈上考えにくい。*dil-l-o (give-PST-3SG.M) の誤植か。

(54) əru nani rani sōnge raj kər-un khad -l -a.

and little queen with reign do -CNV prosper(?) -PST-3PL

そうして、娘王妃と共に [国を] 統治して栄えた。

sōnge : sōng の LOC と分析できる。ベンガル語 ṣōng-e 「(GEN と) 共に」を参照。

- (55) jebe hun lekra, lekri-mən bəre ho -l -a əru
 when.REL that boy girl -PL big become -PST-3PL and
 rajpaṭh-ke cəla -l -a.
 reign -ACC conduct -PST-3PL
 その男の子と女の子とが大きくなると、[跡を継いで] 統治を行なった。
- (56) goṭok gərib leki-co təkdir jag -l -i ki.
 one poor girl-GEN destiny wake-PST-3SG.F PTCL
 hun rani bən -un raj kər-l -i
 she queen become-CNV reign do -PST -3SG.F
 1人の貧しい娘の運命が目覚めたことで、彼女は王妃となって国を治めた。
- (57) əkəl əru təkdir ho-lek bəre bəre kara ho -un ja -ese.
 wisdom and destiny be-CNV big big work(?) be.done-CNV go-PRS.3SG
 知恵と運命とがあれば、大きな大きな仕事が成し遂げられるだろう。
- (58) kəhani sər -l -i.
 story end-PST-3SG.F
 お話おしまい。

凡例

1, 2, 3 一、二、三人称	GEN 属格	PRS 現在
ABL 奪格	HAB 習慣	PST 過去
ACC 对格	IMP 命令	PTCL 不変化辞
ALL 方向格	INF 不定動詞	PTCP 分詞
CLF 類別詞	INT 強調	PURP 動作目的
CNV 副動詞	ITJ 間投詞	REL 関係詞
CREL 相関関係詞	LOC 処格	SG 単数
DAT 与格	M 男性	TOP 主題
F 女性	NEG 否定	
FUT 未来	PL 複数	

参考文献

本稿中で引用するさいは、[責任表示 出版年, 頁数] の形で示す。

Chatterji, Suniti Kumar, 1960, *Indo-Aryan & Hindi*, Calcutta : Firma K. L. Mukhopadhyay.

Grierson, G. A. (comp. & ed.), 1927, Introductory, *Linguistic survey of India*, vol. 1, part 1, Calcutta : Government of India Central Publication Branch.

Grierson, G. A. (comp. & ed.), 1905, Indo-Aryan family, southern group. Specimens of the Marāṭhī language, *Linguistic survey of India*, vol. 7, Calcutta : Office of the Superintendent of Government Printing, India.

Grierson, G. A. (comp. & ed.), 1967, Indo-Aryan family, southern group. Specimens of the Marāṭhī language, *Linguistic survey of India*, vol. 7, Delhi : M. Banarsidass.

Pāṇigrāhī, Rūdra Nārāyaṇa, 2021, *Halbī vyākaraṇa*, Bhilāi : Sarasvatī Buksa.

Pāṇigrāhī, Rūdra Nārāyaṇa, 2021, *Hindī-Halbī śabdakośa*, Bhilāi : Sarasvatī Buksa.

坂田貞二、1992、「ハルビー語」、『言語学大辞典』第3巻 335-336頁、三省堂。

Schuyler, Betsy & Woods, Fran, 1967, “Segmental phoneme analysis of the Halbi dialect”.

Shukla, H. L., 1987, *Dictionary of tribal languages : historico-comparative : Hindi-Hindi-English*, Delhi : B.R. Pub. Corp.

Siṃha, Pūrana, 1937, *Halbī-bhāshā-bodha*, Jagadalapura : [s. n.].

Telaṅga, Bhālacandra Rāva, 1966, *Chattīsagarhī, Halabī, Bhatarī boliyoṃ kā bhāshāvaijñānika adhyayana*, Bambaī : Hindī-Grantha-Ratnākara.

Tivārī, Bholānātha, 1964, *Bhāshā vijñāna kośa : pariśiṣṭa rūpameṃ bhāshā vijñānakī Aṅgrejī Hindī pāribhashika śabdāvalīke sātha*, Vārāṇasī : Jñānamaṇḍala.

Turner, R. L., 1966, *A comparative dictionary of the Indo-Aryan languages*, London : Oxford University Press.

Masica, Colin P., 1993, *The Indo-Aryan languages*, Cambridge : Cambridge University Press.

Mitra, A. (foreword) ; Nigam, R.C. (general supervision and guidance) ; Singh, R.A. (investigation and report), 1977, *Survey of Halabi in Madhya Pradesh*, [New Delhi] : Language Division, Office of the Registrar General, India & Delhi : Manager of Publications.

Woods, Fran, 1973, “Sentence patterns in Halbi” in Trail, Ronald L.(ed.), *Patterns in clause, sentence, and discourse in selected languages of India and Nepal*, Part I, pp. 35-123, Norman : Summer Institute of Linguistics of the University of Oklahoma.

受理日 2023年4月11日

広東語の動詞連続：運動・移動表現に関する例文

西田文信

早稲田大学・fuminobu@waseda.jp

キーワード：広東語、動詞連続、運動表現、移動表現

1 広東語

広東語とは中華人民共和国広州市及び香港特別行政区の両都市の口語を標準とする漢語の一方言である。一方言と言っても、世界の他の地域では母語話者及び使用地域からすると一国家の国語に相当する規模を有する。特に広東語は中華人民共和国広州市・広西チワン族自治区や香港をはじめ、シンガポールなど東南アジアにおいて実用的なコミュニケーションの手段として、即ち広域共通語 (*lingua franca*) として社会・文化・経済などの各方面で重要な機能を担っている。

言語類型としては、単音節声調言語、孤立語タイプであり、基本構成素順序は SVO、名詞修飾は AN 型であるが中には語彙化された形式には NA 型も多く見られる。

2 本稿の目的

筆者は広東語の言語実態を特に現代における言語使用の動態を中心に、多面的且つ包括的に記述することを目的とした調査を行ってきている。本稿では、チワン語についての動詞連続を扱った黄 (2022) に基づき収集した動詞連続に関する例文を列挙する。

3 例文

(1) 我食飯。

私にご飯を食べる。

(2) 黑色衫。

黒い服

(3) 呢两畚树。

この2本の樹

(4) 呢两畚树。

この2本の樹 (広東語では指示詞+数+量詞+名詞の語順のみ適格となる。)

(5) 用磨盘磨米。

碾き臼で米を挽き割る。

(6) 唔用磨盘磨米。

碾き臼で米を挽き割らない。(この文では唔が否定しているのは用磨盘である。)

(7)磨盘 (坏咗) 磨唔到米。

碾き臼が (壊れて) 米を挽き割らない。

(8)家姐读咗本书。/家姐啱啱喺度读书。

姉が本を読んだ。/姉が本を読んでいた。(家姐读咗书でも適格だが家姐读咗本书の方が自然。)

(9)家姐来咗。

姉が来た。

(10)车来咗。

車が来た。

(11)落雨啦。

雨が降って来た。(雨来咗/落雨咗。は非文。暴风雨来啦。は適格。雨来啦。は雨雲が近づいているのを目撃している状況では適格。)

(12)好运来啦/好运来咗。

幸運が訪れた。

(13)佢去市场买鱼。

彼は市場に行って魚を買う。

(14)佢去市场买咗条鱼返来。

彼は市場に行って魚を買ってきた。

(15)佢去市场买咗条鱼返来炒。

彼は市場に行って魚を買ってきて炒めた。

(16)佢去市场买咗条鱼返来炒俾啲细佬食。

彼は市場に行って魚を買ってきて弟に炒めてあげた。

(佢去市场买咗条鱼返来炒俾啲细佬は非文。佢去市场买咗条鱼返来炒俾啲细佬食の方が自然。)

(17)a 佢 (专登) 唔跑咁快。

彼は (わざと) 速くは走らない。(专登がなくても、佢唔跑咁快でも適格。)

b 佢 (搏命) 跑都跑唔快/佢点跑都跑唔快。

彼は (懸命に) 走っても速くはない。(佢跑都唔快は不自然。佢跑唔快は、彼はその能力がなくて速く走れない、あるいは足を怪我したなどで速く走れないという意味。佢跑极都唔快は適格。いくら頑張っても走っても速くないの意。)

(18)狗搵骨头食。

犬が骨を食べようと探した。

(19)狗唔搵骨头食。

犬が骨を食べるために探そうとしなかった。(犬は食べるための骨を探そうとしないの意。ドッグフードを食べたいとか何かの理由があって骨頭を食べないの意。)

(20)今晚, 佢割鸡拜神。

今夜、彼は鶏を殺してテーブル(=神々)に供える。(拜神以外に祭壇とも言えるが誇張感あり。)

(21) 佢做卖鸡公嘅生意。

彼は雄鶏を売買している。(佢贩卖鸡公とも言えるが文語的。)

(22) 女人显老。/女人睇落去老得快。

女性は早く老けて見える。

(23) 阿爷走咗。

お爺さんが亡くなった。

(24) 棺材抬走咗。

棺桶が道を歩いて行った。(棺材行路は非文。)

(25) 佢行咗去佢啲便。/佢行咗去佢啲度。/佢向佢啲便行咗过去。

彼は彼女の方に歩いた。

(26) 佢行咗入屋/佢行咗入屋入便。

彼は家の中に歩いて入った。(佢行咗入屋 [去/来] 非文。)

(27)a 佢行咗出屋。

彼は家から歩き出た。(佢行出咗屋 [去/来]、佢行咗出屋 [去/来] は非文。)

b 佢从屋(入便)行咗出 [去/来]。

彼は家(の中)から歩き出た。

c[?]佢行住从屋(入便)出咗 [去/来]。(彼は歩いて家(の中)から出た。ジャンプという方法ではなく、歩くという方法で出たことを指す、但しなかり不自然。佢从屋(入便)行咗出 [去/来]の方が自然。ジャンプなら佢从屋(入便)跳咗出 [去/来]と言う。)

(28) 佢沿住条路行咗过 [去/来]。

彼は道に沿って歩いて [行く/来る]。

(29) 琴日, 佢老婆跑住 [去/来] 咗市场。

昨日、彼の妻は市場に走って[行った/来た]。(普段は歩いていくけど、昨日だけ走っていった、の意。)

(30)a 佢跑咗出屋。

彼は家から歩き出た。(佢跑咗出屋 [去/来] は非文。)

b 佢从屋(入便)跑咗出 [去/来]。

彼は家(の中)から歩き出た。

(31)[?]佢爬啲座山爬到山顶。/佢爬到啲座山嘅山顶。

彼はその山に登って頂上まで着いた。(佢爬啲座山啲个爬到山顶は非文。佢爬啲座山爬到啲个山顶は通じるがくどい言い方。)

(32) 佢跳过呢个石头(岩石)。

彼は岩を飛び越えた。(呢个がないと不自然。)

(33) 佢向住啲棵树爬咗过去。/[?]佢爬咗过去啲棵树啲度。

彼はその木の方に腹這いで進んだ。

- (34) 佢向住屋入便爬咗过去。/佢爬咗去屋入便。
彼は家の中に腹這いで入った。(※佢爬咗去屋入便は不自然。)
- (35)a 佢从屋入便爬咗出去。
彼は家の中から腹這いで出た。
b 佢从屋入便爬咗出去。
彼は腹這いで家の中から出た。(広東語は a,b 共に同一の文となる。)
- (36) 佢游咗来佢啲便/啲度。/佢向住佢啲度/啲便游咗过来。
彼は彼女の方に泳いで来た。
- (37) 佢游咗入屋 (入便)。
彼は家(の中)に泳いで入った。
- (38) 佢从屋入便游咗出去。
彼は家の中から泳いで出た。
- (39)a 啲只雀从啲雀窠飞咗出 [去/来]。
その鳥は巣から飛び出して[行った/来た]。
b' 啲只雀飞咗出个雀窠。
その鳥は巣から飛び出して(行った/来た)。(不自然な言い方。)
- (40) 啲女碌咗去阿妈啲便。/女儿碌咗去母亲啲便。
娘は母親の方に転がった。(女儿碌咗去母亲啲便是文語的。)
- (41)a 佢碌咗落来。
彼は転がり落ちた。
b 佢从山仔上碌咗落 [去/来]。/佢从小山丘上碌咗落 [去/来]。
彼は(丘から)転がり落ちて[行った/来た]。(小山丘は文語、口語なら山仔、山头仔。)
- (42) 啲波碌咗落来。
そのボールは転がり落ちた。
- (43) 啲波从山仔上碌咗落 [去/来]。
そのボールは(丘から)転がり落ちて [行っ/来] た。
- (44) 佢将支笔从台上碌咗过去俾佢。
彼はペンを机越しに彼女の方に転がした。
- (45) 佢潜咗入水。
彼は水に潜った。
- (46) 条蛇钻咗入泥 (入便)。
蛇は泥(の中)に潜った。(钻は捐、蝸の字もあり。)
- (47) 佢钻咗入啲山洞 (入便)。
彼は洞窟(の中)に入り込む。
- (48) 佢出咗去玩。
彼は遊びに出て行った。
- (49) 佢上咗台讲话。

彼は壇上に上がって話した。

(50) 佢去 (学校) 学习。

彼は勉強に(学校に)行った。

(51) 佢经过咽棵树然后行咗过去。/ 佢行过咽棵樹。

彼はその木を通り過ぎて(歩いて)行った。(佢行过咽棵樹は通りかかる意味のみ。)

(52) 火车从村庄穿咗过去。

汽車はその村を(走り)過ぎた。(火车穿过村庄而去は文語的。)

(53) 佢经过咽棵樹然后行咗过去。

彼はその木を(歩いて)通り過ぎた。

(54)a 佢穿过运动场行咗过 [去/来]。/ 佢穿过运动场然后行咗过 [去/来]。

彼はその運動場を(歩いて)横切って[行った/来た]。

b[?] 为咗穿过咽运动场, 佢行咗过 [去/来]。

彼はその運動場を横切るために歩いた [行った/来た]。

(55) 佢入咗阿妈间房 (入便)。

彼は母親の部屋(の中)へと入った。

(56)a 佢 (急急脚) 跑咗出屋。/ 佢 (急急脚) 跑出屋去。

彼は(急いで走って)家の中から出た。

b 佢 (急急脚) 从屋入便跑咗出来/去。

彼は家の中から(急いで走って)出た。

(57) 佢 (行住) 离开咗屋企。

彼は家を(歩いて)離れた。(佢行住离开咗屋企は不自然。)

(58)a 佢一啲都冇离开屋企。

彼は家からいくらも離れてはいない。

b 车站离屋企唔係好远。

駅は家からそんなに離れていない。(车站离屋企一啲都唔远は更に距離が縮まる意。)

(59) 佢离开咽只狗。

彼はその犬から(歩いて)離れた。(佢行住离开咽只狗は不自然。)

(60) 佢爬住离开咽棵樹。

彼はその木から(腹這いで)離れた。

(61) 佢走咗。

彼は去った。

(62)a 佢翻咗 [去/来] 屋企。

彼は家に帰って[行った/来た] (佢翻咗屋企も適格。)

b 车开咗翻 [去/来]。

車は(動いて)戻って [行った/来た]。

(63) 佢去咗爬山, 不过冇爬到山顶。

彼は山に登ったが/行ったが山頂まで到達しなかった。

(64) 佢爬咗上山頂。

彼は（登って）山頂に上がって行った。（佢爬咗上山頂去は非文です。）

(65) 佢落咗来一楼。

彼は1階に降りた。

(66) 细佬跌咗入窿（入便）。

子供が穴（の中）に落ちた。

4 小結

本稿では例文を列挙するにとどめたが、今後は動詞連続構文における否定・疑問の形式についてまた文法化の観点からこれらを捉え直す。更に普通話をはじめとする漢語諸方言の動詞連続構文との比較を行い、その差異と共通性について考察を深めていきたい。

謝辞

筆者の質問にお答えくださった馮超鴻さん、陳國平さん、草稿にコメントを下さった鄭雅云さんに御礼申し上げます。

参考文献

黄海萍. 2022. 「論説 チワン語の動詞連続：運動・移動表現を中心に」 『言語社会』 16:333-305.

受理日 2023年4月11日

チャクマ語版・ミナ「ニワトリを数えておけ」

藤原敬介

帝京科学大学

主要語句：チャクマ語、ミナ、テキスト

1 はじめに

1.1 資料について

本稿では、南アジアで有名なアニメ・ミナ^{注1}について、チャクマ語 (ISO 639-3 ccp) による翻案をとりあげる。とりあげるのは、マルマ語版の第1話「ニワトリを数えろ」をとりあげた藤原 [2022] にひきつづき、チャクマ語版の第1話「ニワトリを数えろ」(<https://www.youtube.com/watch?v=QUgIBkBrW4c>: 2023年1月28日確認) である。クレジットタイトルから判断すると、チャクマ語版はバングラデシュで作成されている。

2 表記上の注意

本稿であつかうチャクマ語はチッタゴン丘陵の中心地であるランガマティ地方あるいはカグラチョリ地方のチャクマ語である。本稿は基本的にはカグラチョリ地方の南に位置するロッキチョリ地方出身の話者 (SC さん。1970年代生) に協力をあおぎ、かきおこしをしている。したがって、動画本来の発音とは異なるかきおこしをしている箇所があるかもしれないことをおことわりしておく。

2.1 チャクマ語音韻論の概要

本稿におけるチャクマ語は筆者による簡易音声表記である。チャクマ語の音韻論については藤原 [2019] であつかったところであるけれども、ここで主要な点を列記しておく。

1. チャクマ語の子音音素は /p, b, t, d, c [tʃ], j [dʒ], k, g, m, n, ŋ, r, l, y/ である。

(a) /p/ は語頭では [p̚] である。語末では [pʰ] である。

(b) /c/ は語頭では [s] である。これを本稿では簡易音素表記として s であらわす。

例: /caná/ saná ‘see.VN’

(c) /k/ は語頭では [h] である。語末では [kʰ] である。語頭の [h] を本稿では簡易音素表記として h であらわす。

例: /kuró/ huró ‘chicken’

(d) /g/ および /ŋ/ は母音間でしばしば消失する。

例: /madá=(g)ún/ [madáyún] ~ [madáún] ‘head=PL.DEF’

2. チャクマ語の母音音素は /a, ε, e, i, ɔ, o, u/ である。

^{注1} ミナの概要については藤原 [2021] を参照。

- (a) チャクマ語において長母音は弁別的ではない。
 - (b) チャクマ語に二重母音は存在しない。
 - (c) 母音が連続しているばあい、基本的には/g/や/ŋ/が消失したためである。
ただし、語源的に存在した h が消失した結果、母音が連続しているようにみえることもある。
例: sóor ‘city’ < Persian shahr
 - (d) 鼻母音は音素的であるけれども、機能負担量はおおくない。
3. チャクマ語のアクセントは高 (H) と低 (L) が弁別的である。
- (a) 高アクセントをになう母音に先行する子音が無声閉鎖音であるとき (実質的には/t/のみ)、帯気性をおびる傾向にある。
例: /tḗ/ [tḗ] ~ [tʰḗ] ‘then’
 - (b) 高アクセントは語源的には有気音または s, ś, ṣ に由来することがおおい。

2.2 連声

チャクマ語に観察される主要な連声は次のとおりである。

1. 有声交替 (voicing alternation) : 無声無気阻害音は母音間で対応する有声阻害音になる。有声交替していることがあきらかなばあいには、対応する無声音の下に_vをつけてあらわす。
例: ret=ot ‘night=LOC’
2. 重子音化 (gemination) : 阻害音が連続するとき、おなじ子音が連続してあらわれる。チャクマ語における子音連続は重子音が原則である。重子音化にかかわるおもな小辞は、名詞化標識の=te、定辞の=póや=kán、複数標識の=kún などである。
3. アクセントの同化と異化: チャクマ語のアクセントには以下にしめす同化と異化がある。これらの規則は、いずれも再帰的に適用される傾向にある。
 - (a) アクセントの同化: 高アクセントの音節に低アクセントの音節が後続するとき、低アクセントの音節が高アクセントの音節に変化する。
例: mɛdám ‘madame’ + =ɛ ‘=AGT’ > mɛdám=é ‘madam=AGT’
 - (b) アクセントの異化: 高アクセントをになう音節に高アクセントの音節が後続するとき、後続する方の高アクセントの音節が低アクセントの音節に変化する。
例: át ‘hand’ + =kán ‘=DEF’ > át=tan ‘hand=DEF’
ただし、LH に H がつくとき、LHL とはならず、LHH である。
例: madá ‘head’ + =bó ‘=DEF’ > madá=bó ‘head=DEF’

3 本文と語釈

(1) 0:00:44 タイトル

huró=(g)ún guni tó!

chicken=PL count.PRF.PTCP put.PRS.IMP

「ニワトリを数えておけ」

(2) 0:00:50 こどもたち

utton pek=é mek=ε mek=ε mek=ul=ó deba=t tol=ε.

fly.3.PL.PRS.CONT bird=AGT cloud=LOC cloud=LOC cloud=DEF=GEN sky=LOC place.under=LOC

「飛んでいるよ、鳥が、雲々の空の下のところ」

注 1 文の主語である *pek=é* ‘bird=AGT’ は、複数形の標識が明示されていない。しかし、意味的には集合的な名詞であり、複数の鳥をあらわしている。そのため、動詞は複数形で対応している。

注 2 場所格標識は一般的には=(o)t である。ただし、ときに=ε ももちいられる。使用される条件は不明である。なお、この=ε は、おそらくはバングラ語の場所格標識である=e の影響による。

注 3 この歌はチャクマ人のあいだでは有名な歌である。作詞は Amar Shanti Chakma 氏、作曲は Ranjeet Dewan 氏である。最初の一文から ‘Utton Pege Meghe Meghe’ という題名で知られている。この題名で検索すれば、YouTube などできざまな動画がみられる。

(3) 0:00:56 こどもたち

mər poran=án jedo magé tará logé logé.

1.SG.GEN heart=DEF go.3.SG.PST.HBT want.3.SG.PRS they with with

「私の心は行きたがっている、彼ら（鳥たち）と一緒に」

注 1 「V したい」という表現においては、「したい」を意味する動詞の直前に、V を意味する動詞の習慣過去形が先行する。したがって *jedo magé* ‘go.3.SG.PST.HBT want.3.SG.PRS’ という形式があらわれている。

注 2 一般に動詞の基本形は動名詞の形式である。*magé* ‘want.3.SG.PRS’ については、もしも動名詞の形式があるとしたら *magá* が予想される。しかし、そのような形式は確認されていない。

(4) 0:01:02 こどもたち

ser=ó hitte nanan pek=é uri uri git gadón.

four=GEN direction various bird=AGT fly.SEQ fly.SEQ song sing.3.PL.PRS.CONT

「四方をいろいろな鳥が飛んで、飛んで、歌を歌っている」

(5) 0:01:06 ミナ

ʃ, ikkúnú guro=ún=ór hɔdá sún!

INTJ just.now child=PL=GEN story listen.2.SG.PRS.IMP

「シー、今こどもたちの話を聞いて!」

注 ʃ はチャクマ語の音素ではない。「しずかにしなさい」という意味の間投詞として使用されている。

(6) 0:01:12 こどもたち

jeduŋ se=lé jey nɔ parɔŋ, tará ɔgɛ ɔgɛ.

go.1.SG.PST.HBT want=COND go.SEQ not be.able.to.1.SG.PRS 3.PL with with

「行きたくても、行けない、彼らと一緒に」

(7) 0:01:17 こどもたち

mɔ(r) pɔran=án jedɔ magé tará ɔgɛ ɔgɛ.

1.SG.GEN heart=DEF go.3.SG.PST.HBT want.3.SG.PRS 3.PL with with

「私の心は行きたがっている、彼らと一緒に」

(8) 0:01:22 こどもたち

uttɔn pek=é mɛk=ɛ mɛk=ɛ mɛk=ul=ó deba=t tɔl=ɛ.

fly.3.PL.PRS.CONT bird=AGT cloud=LOC cloud=LOC cloud=DEF=GEN sky.LOC place.under=LOC

「飛んでいるよ、鳥が、雲々の空の下のところで」

(9) 0:01:27 こどもたち

mɔ(r) pɔran=án jedɔ magé tará ɔgɛ ɔgɛ.

1.SG.GEN heart=DEF go.3.SG.PST.HBT want.3.SG.PRS 3.PL with with

「私の心は行きたがっている、彼らと一緒に」

(10) 0:01:31 先生

guro=(g)ún, tɔmáré ikkiné ikkó pɔjɔn súnájɔr.

child=PL 2.PL.ACC now one.DEF tale hear.CAUS.1.SG.PRS.CONT

「みなさん、君たちに今ひとつの昔話をきかせます」

注 *guro=(g)ún* ‘child=PL’ は直訳すれば「こどもたち」となるけれども、ここでは「こどもたち」への呼びかけであるから「みなさん」と訳した。

(11) 0:01:36 先生

bálók bálók dín age, elák=ké iggó raja ar rani.

many many day before be.3.PL.PST=NMLS one.DEF king and queen

「昔々、いたのです、一人の王と王妃が」

注 1 *elák=ké* < *elák=te* ‘be.3.PL.PST=NMLS’ である。=te は本来は低アクセントであるけれども、先行する高アクセントの影響により、高アクセントに変化している。

注 2 名詞化標識の=te ‘=NMLS’ は、バングラ語にはないチャクマ語の特徴である。文の述語としてあらわれるばあいには、日本語の「のだ」文に相当するようにおもわれる。本稿の文にはでてこないけれども、名詞修飾節を形成することもできる。このとき、動詞が人称と時制に応じて変化する点も、他のインド・アーリア語にはあまりみられない特徴である。

¶ ejét=té helle ‘come.3.SG.PRS.CONT=NMLS one.day.before.or.after.today’ 「明日(来る日)」

¶ ham gojjé=dé manúc ‘work do.3.SG.PRS.PRF=NMLS man’ 「仕事をした人」

なお、同様の形態素による同様の特徴がバングラ語チッタゴン方言にもみられる。

注 3 名詞化標識=te の来源については、3人称単数代名詞 te かもしれない。チベット・ビルマ系のノス・イ語では、指示詞に由来する3人称代名詞が名詞化標識として使用される例がある [Liu & Gu 2011]。

標準的なバングラ語で場所格をあらわす=te や不定詞の語尾である=te と関係している可能性もある。Učida [1970: 55] によれば、バングラ語チッタゴン方言で動詞につく-te は非現実をあらわす語尾-t に具格の-e が付加したものではないかという。ただし、本稿でいう名詞化用法の-te の用例を、Učida [1970] では確認できていない。

なお、チッタゴン丘陵の少数民族のあいだで共通語となっているマルマ語において、指示語に de がある。この de は、動詞文の直後に付加することがあり、チャクマ語のような名詞化標識ではないけれども、形式的にはチャクマ語と似た構文をとっているようにみえることがある。このような事情も、チャクマ語において=te が多用される一因であるかもしれない。

注 4 iggó < ek ‘one’ + =bó ‘=DEF’ である。

(12) 0:01:40 先生

tará elák=ké húp súḵ=ε, hintu súḵ=ε té=lé hi óbó?

3.PL be.3.PL.PST=NMLS very happy=ADV but happy=ADV stay=COND what be.3.SG.FUT
「彼らはとても幸せだったのですが、幸せなら、何かあるのでしょうか?」

(13) 0:01:46 先生

tará húp=i duk=ót tédák.

3.PL very=EMPF unhappy=LOC stay.3.PL.PST.HBT
「彼らはとても不幸でした」

(14) 0:01:48 先生

tará=r bana di=bé puo.

3.PL=GEN only two=DEF son
「彼らにはただ二人の息子がいました」

(15) 0:01:49 先生

hɔnɔ jí ney.

any daughter NEG.exist

「どんな娘もありません」

注 *hɔnɔ* は、変種によっては *honó* と発音されることもある。

(16) 0:01:50 先生

ɛk reʧ=ɔt ɔlɔ hi?

one night=LOC be.3.SG.PST what

「ある夜、何があったでしょう?」

(17) 0:01:52 先生

bɔr ɛk=kán jór eccé.

big one=DEF rain come.3.SG.PRS.PRF

「おおきな一つの雨が来ました」

(18) 0:01:53 先生

ikkó sigon mile só raj+gór=ót e=néy, adikké gorí daʧer=rí.

one.DEF small girl sibling king+house=LOC come=SEQ suddenly do.PRF.PTCP call.3.SG.PRS.CONT=VEN

「一人のちいさな女の子が、王宮にきて、突然、呼んできます」

注 *mile* は、変種によっては *mile* と発音されることもある。

(19) 0:01:58 先生

bídíré sómíbár de!

place.inside enter.PTCP give.2.SG.PRS.IMP

「中へ入れてください!」

(20) 0:02:00 先生

hó=déy, mile=bó hi hóyé?

say.2.SG.PRS.IMP=SFP.IMP girl=DEF what say.PRS.PRF

「いってみなさい、その女の子は何をいったか?」

(21) 0:02:05 ミトウ

mɔré gór=ɔ bídíré bóró!

1.SG.ACC house=GEN place.inside make.enter.2.PL.PRS.IMP

「ワタシヲイエノナカヘイレテ!」

(22) 0:02:10 生徒

sá=déy, sá=déy, (ik)kó tɔdek.

watch=EMPF watch=EMPF one.DEF parrot

「見なよ、見なよ、一羽のオウムだ」

注 *sá=déy* は *sá=dey* のようにもきこえる。

(23) 0:02:21 ミナ

mitú, tuy hi legápɔrá sí(g)ibar sác?

PSN 2.SG what writing.reading study.PTCP want.2.SG.PRS

「ミトウ、お前は勉強したいの?」

注 *legápɔrá* は *legápɔra* のように発音されることもある。

(24) 0:02:26 ミナ

muy tɔré sígem.

1.SG 2.SG.ACC teach.1.SG.FUT

「私がお前に教える」

(25) 0:02:32 ミナ

accá hó=déy, mitú.

OK say.2.SG.PRS.IMP=SFP.IMP PSN

「はい、いいなさい、ミトウ」

(26) 0:02:33 ミナ

mɔ naɲ=án mitú.

1.SG.GEN name=DEF PSN

「私の名前はミトウ」

注 1 *mɔ* は本来は *mɔr* であるけれども、語末の *-r* はしばしば脱落する。

注 2 *naɲ* ‘name’ は *nam* ともいう。

(27) 0:02:34 ミトウ

mɔ(r) naɲ=án mitú.

1.SG.GEN name=DEF PSN

「オレナマエミトウ」

(28) 0:02:39 ミナ

ba, ba.

INTJ INTJ

「よしよし」

(29) 0:02:44 ミトウ

mitú, mitú, mɔ naɲ=án mitú, mɔ naɲ=án mitú.

PSN PSN 1.SG.GEN name=DEF PSN 1.SG.GEN name=DEF PSN

「ミトウ、ミトウ、オレナマエミトウ、オレナマエミトウ」

(30) 0:02:55 村長

helle reṭ=ɔt sur=bó mɔ ságól=lo nejeyé=góy, ní.

yesterday night=LOC thief=DEF1.SG.GEN goat=DEF bring.3.SG.PRS.PRF=ANDV INTJ

「昨日の夜、泥棒が私の山羊をつれていったんだよ」

注 *helle* は「発話時点を基準として一日はなれた時点」というのが中心的な意味である。したがって、過去のことであれば「昨日」、未来のことであれば「明日」となる。

(31) 0:03:03 村長

ní, tík age, muy jaɲɔr.

INTJ OK exist.3.SG.PRS 1.SG go.1.SG.PRS.CONT

「んー、よし、行こう」

注 *age* は、本来は *agé* であるけれども、高アクセントの語が先行すると *age* になることがある。

(32) 0:03:06 村長

tuy ekkəna úç=ɛ təc!

2.SG a.little careful=ADV stay.2.SG.FUT.IMP

「お前はすこし注意していなさい」

(33) 0:03:07 村長

sur=bó=ré dóra poribo.

thief=DEF=ACC catch.VN should.3.SG.FUT

「泥棒をつかまえないといけない」

注 *poribo* は、本来は *pora* 「落ちる」という動詞の三人称単数未来形であるけれども、「～しなければならない」という意味で多用される。

(34) 0:03:10 父

sí=yan gorím=dɔ, harbajje.

that=DEF do.1.SG.FUT=TOP village.master

「それをしますよ、村長」

(35) 0:03:11 父

jú ju.

hello hello

「さようなら」

注 *jú* はチャクマ語でもっとも多用される挨拶ことばである。状況によって「こんにちは」とも「さようなら」ともなる。二回つづけて使用されることが多い。二回目の発音は高アクセントのあとになるので低アクセントで発音される傾向にある。

(36) 0:03:14 父

sí=yan mina éđókkɔn lagilo hia?

that=DEF PSN this.much be.needed.3.SG.PST why

「それに、ミナ、これほど時間がかかったのは、どうして？」

(37) 0:03:16 ミナ

mitú=ré hɔdá hɔná sígɔt=te.

PSN=ACC language say.VN teach.3.SG.PRS.CONT=NMLS

「ミトゥにことばを話すのを教えているの」

注 *sígɔt=te* ‘teach.3.SG.PRS.CONT=NMLS’ のように動詞のあとにつく *=te* は名詞化標識であり、日本語でいえば「のだ」文のような役割をはたすようにおもわれる。これに類似した構文はバングラ語には存在しない。ただし、バングラ語チッタゴン方言には形式も機能も類似したものがみられる。

(38) 0:03:17 母

mina, andaç=ɛ sómóy bɔrbat nɔ goric!

PSN speculation=ADV time waste not do.2.SG.FUT.IMP

「ミナ、憶測で時間を無駄にしないで」

(39) 0:03:24 ミナ

ma, sún, mɔ naŋ=án mitú!

mother listen.2.SG.PRS.IMP 1.SG.GEN name=DEF PSN

「お母さん、きいて、「私の名前はミトゥ！」」

(40) 0:03:28 ミトゥ

mɔ naŋ=án mitú!

1.SG.GEN name=DEF PSN

「オレナマエミトゥ！」

(41) 0:03:30 両親

ba.

INTJ

「あー」

(42) 0:03:31 ラジュ

hi uccó gɔré=pará.

what high do.3.SG.PRS=alike

「なんて楽しそうなんだろう」

注 1 *uccó gɔré* ‘high do.3sg.PRS’ は「楽しむ」という熟語である。

注 2 *=pará* は定動詞に後続して「～のようなもの」という意味をあらわす。

(43) 0:03:33 父

raju, ikkul=ɔt hi síkkoc, pɔranne.

PSN school=LOC what learn.2.SG.PRS.PRF darling

「ラジュ、学校で何をまなんだ、お前」

注 1 *pɔranne* は愛するものに対する呼びかけとしてもちいられる。

注 2 SC さんの発音では *síkkoc* であるけれども、元の動画では *síkkɔc* であるかもしれない。方言によって、どちらの発音もきかれうるという。

(44) 0:03:35 ラジュ

balɔk=káni síkkey.

many=DEF.PL learn.1.PL.PRS.PRF

「たくさん学びました」

注 *balɔk=káni* は、通常は *bálók=káni* と発音される。

(45) 0:03:38 ラジュ

muy ikkiné mə nam=án ligí paɾɔŋ.

1.SG now 1.SG.GEN name=DEF write.SEQ can.1.SG.PRS

「ぼくは今自分の名前をかける」

(46) 0:03:40 父

húp dol hədá.

very beautiful story

「とてもよい話だ」

(47) 0:03:42 父

ikkul=ɔt tuy mən diy lɛgápɔrá goríc.

school=LOC 2.SG heart give.SEQ writing.reading do.2.SG.FUT.IMP

「学校で集中して勉強しなさい」

注 *mən diy* ‘heart give.SEQ’ は「集中して」という意味の熟語である。

(48) 0:03:45 ミナ

ba, muy=ó ikkul=ɔt lɛgá sígim.

INTJ 1.SG=too school=LOC write.VN learn.1.SG.FUT

「あ、私も学校で勉強する」

(49) 0:03:49 父

na, mina, tuy gór=ót tɛc, tɔr ma lɔgé.

not PSN 2.SG house=LOC stay.2.SG.FUT.IMP 2.SG.GEN mother with

「いや、ミナ、お前は家にいなさい、母さんと一緒に」

注 *tɔr ma* ‘2.SG.GEN mother’ は *tɔmma* のようにきこえる。

(50) 0:03:53 ラジュ

mə logé jey parɛ.

1.SG.GEN with go.SEQ can.3.SG.PRS

「ぼくと一緒にいける」

(51) 0:03:55 父

mile=gún=ór ikkul=ɔt jana dɔrkar ney.

woman=PL=GEN school=LOC go.VN need NEG.exist

「女性たちに学校に行く必要はない」

注 所有構文では意味上の主語が属格で表現される。

(52) 0:03:57 ミナ

hintu muy=dó legápɔrá sígibar sáj, ba.

but 1.SG=TOP writing.reading learn.PTCP want.1.SG.PRS father

「だけど、私は勉強したい、父さん」

注 =dó ‘=TOP’ の母音はバングラ語からの対応からすれば *o* であることが予想される。

しかし、*ɔ* である。

(53) 0:03:59 父

hehehe.

INTJ

「ハハハ」

注 笑い声は *hehehe* のように聞こえる。しかし、もしも書くとすれば *hahaha* のように書くそうである。

(54) 0:04:00 母

tuy sígibe=de ranábara ar gór=ó ham.

2.SG learn.2.SG.FUT=NMLS cooking and house=GEN work

「お前が学ぶのは、料理と家事」

(55) 0:04:03 ミナ

muy legápɔrá sígibar sáj, ma.

1.SG writing.reading learn.PTCP want.1.SG.PRS mother

「私は勉強したい、母さん」

(56) 0:04:05 母

hittéy mina, iyení hittéy laget=tɛ?

why PSN this why be.needed.3.SG.PRS.CONT=NMLS

「どうしてミナ、これはどうして必要なの?」

(57) 0:04:08 母

ekkɛna paní an=doy=déy!

a.little water bring=ANDV=SFP.IMP

「ちょっと水をとってきてよ」

(58) 0:04:19 ミトウ

鳥のなきごえ

(59) 0:04:46

このあたりからしばらく夢の中

(60) 0:05:53 ラジュ

mina, tuy ikkul=ɔt gelé bári gɔm ódó.

PSN 2.SG school=LOC go.COND very good be.3.SG.PST.HBT

「ミナ、ミナが学校にいけば、とてもよかっただろう」

(61) 0:05:57 ミナ

tuy ja, raju!

2.SG go.2.SG.PRS.IMP PSN

「お前は行きなさい、ラジュ」

(62) 0:06:05 ニワトリ

なきごえ

(63) 0:06:08 ミトウ

なきごえ

(64) 0:06:11 ミナ

mitú, tuy ikkul=ɔt ja=goy=déy!

PSN 2.SG school=LOC go.2.SG.PRS.IMP=ANDV=SFP.IMP

「ミトウ、お前は学校にいつてきなさい」

(65) 0:06:13 ミトウ

「はい」というなきごえ

(66) 0:06:15 ミナ

ɔ, tuy ikkul=ɔt ja, ar medám=é hi sígay, sí=yan hujór

INTJ 2.SG school=LOC go.2.SG.PRS.IMP and madame=AGT what teach.3.SG.PRS that=DEF asking

gorí ay=goy!

do.PRF.PTCP come.2.SG.PRS.IMP=ANDV

「おー、ミトウ、学校にいきなさい、そしてマダムが何を教えるか、それを尋ねてきなさい」

(67) 0:06:19 ミナ

té sí=yan mǎré síge paribi.

then that=PL 1.SG.ACC teach.PTCP can.2.SG.FUT

「そしたら、それらを私に教えることができる」

(68) 0:06:23 ミナ

tǒdek=kún=é hi poríbát=téy súníbát=téy nǒ sán?

parrot=DEF=AGT what read.PTCP=for listen.PTCP=for not want.3.PL.PRS

「オウムたちは読んだり聞いたりしたくないの?」

(69) 0:06:25 ミトゥ

poríbár súníbár nǒ san.

read.PTCP listen.PTCP not want.3.PL.PRS

「ヨムキクシタクナイ」

注 *nǒ san* は、本来は *nǒ sán* というべきである。

(70) 0:06:27 ミナ

lokkí mitú.

good PSN

「いい子ね、ミトゥ」

注 *lokkí* は *lókki* のようにもきこえる。この単語は、本来はヒンドゥー教の女神 *Lakṣmī* のことをさす。しかし、バングラ語と同様にチャクマ語においても、家族や親友など、甘えるように呼びかけられる相手への呼びかけ語としても使用される。

(71) 0:06:28 ミナ

tuy ja!

2.SG go.2.SG.PRS.IMP

「お前、行って!」

(72) 0:06:30 ミトゥ

手をひろげ「しょうがないなあ」という様子

(73) 0:06:39 先生

ikkiné amí duy=or namata sígibɔŋ.

now 1.PL two=GEN multiplication learn.1.PL.FUT

「今、私たちは二ノ段の掛け算を学びましょう」

(74) 0:06:48 こどもたち

duy ɛk=ɛ duy, duy dugun=ɛ ser, tin duguna sóy,...

two one=ADV two two double=ADV four three double six

「にいちがに、ににんがし、さんにながろく...」

注 1 $\varepsilon k = \varepsilon$ はバングラ語的ないいかた。チャクマ語としては $\varepsilon \dot{k} = \varepsilon$ となる。

注 2 $dugun = \varepsilon$ ‘double=ADV’ はチャクマ語の本来語、*duguna* はバングラ語からの借用語。

注 3 二の段の掛け算において *tin duguna sóy* ‘three double six’ 「さんにかろく」は、*duy tingun = \varepsilon sóy* ‘two triple=ADV six’ 「にさんかろく」のように表現することが期待される。しかし、バングラ語でも「さんにかろく」のような表現をする。

注 4 掛け算の表現方法は、バングラ語でもチャクマ語でもおなじである。具体的には下表のようになっている。不規則な部分を太字でしめす。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	1*1	1*2	1*3	1*4	1*5	1*6	1*7	1*8	1*9
2	2*1	2*2	3*2	4*2	5*2	6*2	7*2	8*2	9*2
3	3*1	3*2	3*3	3*4	3*5	3*6	3*7	3*8	3*9
4	4*1	4*2	3*4	4*4	4*5	4*6	4*7	4*8	4*9
5	5*1	5*2	3*5	4*5	5*5	5*6	5*7	5*8	5*9
6	6*1	6*2	3*6	4*6	5*6	6*6	6*7	6*8	6*9
7	7*1	7*2	3*7	4*7	5*7	6*7	7*7	7*8	7*9
8	8*1	8*2	3*8	4*8	5*8	6*8	7*8	8*8	8*9
9	9*1	9*2	3*9	4*9	5*9	6*9	7*9	8*9	9*9

(75) 0:06:56 先生

duy $\varepsilon k = \varepsilon$...

two one=ADV
「にいちが」

(76) 0:06:57 ラジュ

duy!

two
「に！」

(77) 0:06:58 先生

duy dugun = \varepsilon...

two double=ADV
「ににんが」

(78) 0:06:59 女の子

ser!

four
「し！」

(79) 0:07:00 先生

tin dugun=ε...

three double=ADV

「さんにか」

(80) 0:07:02 ミトウ

sóy!

six

「ロク!」

(81) 0:07:05 ラジュ

aré, ibé amá tɔdɛk=kó.

INTJ this 1.PL.GEN parrot=DEF

「あれ、これはぼくたちのオウムだ」

(82) 0:07:07 ミトウ

mɔ naŋ=án mitú.

1.SG.GEN name=DEF PSN

「オレナマエミトウ」

(83) 0:07:09 先生

bárí gɔm hədá, mitú.

very good story PSN

「とてもよい話ね、ミトウ」

(84) 0:07:22 ミナ

mitú, tuy hi síkkoc?

PSN 2.SG what learn.2.SG.PRS.PRF

「ミトウ、お前は何を学んだ」

(85) 0:07:25 ミトウ

duy ɛk=ε duy, duy duguna ser, tin duguna sóy...

two one=ADV two two double four three double six

「ニイチガニ、ニニンガシ、サンニガロク」

(86) 0:07:31 ミナ

muy parɔŋ=ŋí sáŋ=dé.

1.SG can=PQ see.1.SG=NMLS

「私ができるかどうか、見てみよう?」

注 sáŋ=déは sáŋ=ŋéあるいは sáŋ=géと発音されることもある。

(87) 0:07:34 ミナ

duy ek=ε, n...

two one=ADV FIL

「にいちが...」

(88) 0:07:35 ミトウ

duy!

two

「ニ!」

(89) 0:07:36 ミナ

duy dugun=ε n...

two double=ADV FIL

「ににんが...」

(90) 0:07:38 ミトウ

ser!

four

「シ!」

(91) 0:07:40 ミナ

ser.

four

「し」

(92) 0:07:41 ミナ

tin dugun=ε n... chóy.

three double=ADV FIL six

「さんにか... ろく」

注 *chóy* はバングラ語の形式。チャクマ語としては *sóy* である。

(93) 0:07:45 ミナ

duy ek=ε duy, duy duguna n...

two one=ADV two two double FIL

「にいちがに、ににんが...」

(94) 0:07:49 ミトウ

ser!

four

「シ!」

(95) 0:07:51 ミナ

tin dugun=ε chóy.

three double=ADV six

「さんにながろく」

(96) 0:07:53 ミナ

mitú, muy sígi púreyoŋ.

PSN 1.SG learn.SEQ finish.1.SG.PRS.PRF

「ミトゥ、私は学び終わった」

(97) 0:07:58 ミナ

duy εk=ε duy, duy dugun=ε ser, tin duguna sóy, n...

two one=ADV two two double=ADV four three double six FIL

「にいちがに、ににんがし、さんにながろく...」

(98) 0:08:05 ミナ

sóy=do.

become.3.SG.PRS=TOP

「そうだ」

(99) 0:08:10 ミナ

tin duguna sóy.

three double six

「さんにながろく」

(100) 0:08:17 ミナ

sóy.

six

「ろく」

(101) 0:08:53 ミナ

ar εk=bar sáŋ=gé.

and one=time see.1.SG.PRS=NMLS

「もう一回してみよう」

(102) 0:08:55 ミナ

tin dugun=ε... aré, aróggó huró hudú geló?

three double=ADV INTJ more.one.DEF chicken where go.3.SG.PST

「さんになが... あれ、もう一羽のニワトリはどこに行った?」

注 *aróggó* < *aró* ‘more’ + *oggó* ‘one.DEF’ である。

(103) 0:09:01 ミトウ

huró! huró!

chicken chicken

「ニワトリ! ニワトリ!」

(104) 0:09:03 ミナ

éy! éy! sur! sur! sur!

INTJ INTJ thief thief thief

「エイ! エイ! 泥棒! 泥棒! 泥棒!」

(105) 0:09:07 父

hi óye, mina?

what become.3.SG.PRS.PRF PSN

「どうした、ミナ?」

(106) 0:09:08 ミナ

ikkú sur=ε amá huró=bó nejeyé=góy=dé.

now thief=AGT 1.PL.GEN chicken=DEF bring.3.SG.PRS.PRF=ANDV=NMLS

「今泥棒が私たちのニワトリをもっていったの」

注文末の=déは、動画ではほとんど=di のように聞こえる。

(107) 0:09:10 父

sur! sur!

thief thief

「泥棒! 泥棒!」

(108) 0:09:15 ミトウ

sur! sur!

thief thief

「ドロボウ! ドロボウ!」

(109) 0:09:16 父

sur! sur!

thief thief

「泥棒! 泥棒!」

(110) 0:09:22 村人

dójjó! dójjó! dójjó!

catch.2.PL.FUT.IMP catch.2.PL.FUT.IMP catch.2.PL.FUT.IMP

「捕まえろ! 捕まえろ! 捕まえろ!」

(111) 0:09:27 ミナ

dójjó!

catch.2.PL.FUT.IMP

「捕まえろ!」

(112) 0:09:34 村人 2

dóró!

dóró!

sur=bó=ré dóró!

dóró!

catch.2.PL.PRS.IMP catch.2.PL.PRS.IMP thief=DEF=ACC catch.2.PL.PRS.IMP catch.2.PL.PRS.IMP

「捕まえろ! 捕まえろ! その泥棒を捕まえろ! 捕まえろ!」

(113) 0:09:42 村人 2

dóró!

dóró!

catch.2.PL.PRS.IMP catch.2.PL.PRS.IMP

「捕まえろ! 捕まえろ!」

(114) 0:09:46 村長

éy, éy, éy=dó séy sur=bó!

this this this=TOP that thief=DEF

「これ、これ、これがその泥棒だ!」

注 éy ‘this’ は通常は低アクセントの ey である。しかし、=dó ‘=TOP’ が後続するときには高アクセントの éy となり、後続する=dó ‘=TOP’ を低アクセントにする。

(115) 0:09:49 村長

dójjó!

dójjó!

dójjó!

dójjó!

sur=bó=ré

catch.2.PL.FUT.IMP catch.2.PL.FUT.IMP catch.2.PL.FUT.IMP catch.2.PL.FUT.IMP thief=DEF=ACC

dójjó!

dójjó!

catch.2.PL.FUT.IMP catch.2.PL.FUT.IMP

「捕まえろ! 捕まえろ! 捕まえろ! 捕まえろ! 泥棒を捕まえろ! 捕まえろ!」

(116) 0:10:00 ミトウ

sur! sur!

thief thief

「ドロボウ、ドロボウ」

(117) 0:10:02 泥棒

「あー」

(118) 0:10:25 村長

mina, ecce tod=dey sur=bó=ré dórí pajjón=gé.

PSN today 2.SG.GEN=for thief=DEF=ACC catch.SEQ can.1.PRS.PRF=NMLS

「ミナ、今日はお前のおかげでその泥棒をつかまえることができたよ」

(119) 0:10:28 父

huró=bó=ré neja=de sur=bó=ré dekkóc?

chicken=DEF=ACC bring=NMLS thief=DEF=ACC see.2.sg.PRS.PRF

「ニワトリをつれていったその泥棒を見たのか?」

(120) 0:10:31 ミナ

na, nó dégɔŋ.

not not see.1.SG.NEG.PRS.PRF

「いいえ、みなかった」

注 現在完了形の否定は、形式的には現在形を否定したものとなる。ただし、否定辞は低アクセントではなく高アクセントの *nó* となる。そして、高アクセントの否定辞の影響により、現在形の *deɣɔŋ* が現在完了形の否定としては *dégɔŋ* となっている。

(121) 0:10:33 母

hēgēri hárasótté bujilé?

how so.easily understand.2.SG.PST

「どのようにはやくわかった?」

(122) 0:10:35 ミナ

muy ek=kán ɔŋkɔ occóŋ=gé.

1.SG one=DEF calculation do.1.SG.PRS.PRF=NMLS

「私は一つ計算したの」

注 *occóŋ=gé* は *gojjóŋ=gé* とも発音される。

(123) 0:10:38 父

tuy hi ɔrót=té hóyóc=cé?

2.SG what do.3.SG.PRS.CONT=NMLS say.2.SG.PRS.PRF=NMLS

「お前は何をしているところといったんだ?」

(124) 0:10:39 ミナ

muy amá huró=gún sékkéne guni sáŋót=té.

1.SG 1.PL.GEN chicken=PL.DEF at.that.time count.SEQ see.1.SG.PRS.CONT=NMLS

「私は、私たちのニワトリたちをそのとき数えてみようとしていたの」

(125) 0:10:41 村長

wá, baba!

INTJ INTJ

「あー、おどろいた!」

(126) 0:10:43 村長

tuy to jí=bo=re ikkul=ɔt di=ney bári gəm ham gojjóc.

2.SG 2.SG.GEN daughter=DEF=ACC school=LOC give.PRF.PTCP=SEQ very good work do.2.SG.PRS.PRF

「お前はお前の娘を学校にやって、とてもよい仕事をした」

(127) 0:10:46 父

ɔ, hi ɔlɔ=dé?

INTJ what become.3.SG.PST=NMLS

「おー、何がおきたのか」

(128) 0:10:48 おばあさん

ɔ, mile=bó pɔráná húp gəm.

INTJ girl=DEF make.learn.VN very good

「この女の子に勉強させるのはとてもよい」

(129) 0:10:51 おばあさん

mɔ jí=bo=t=tun ek=kán huró hámar agé.

1.SG.GEN daughter=DEF=LOC=ABL one=DEF chicken farm exist.3.SG.PRS

「私の娘のところ(から)一つのニワトリの牧場がある」

(130) 0:10:54 父

ɔy, ɔy.

become.3.SG.PRS become.3.SG.PRS

「はい、はい」

(131) 0:10:55 おばあさん

te ar mɔ pu=bó mɔré tɛŋa dɔn.

3.SG and 1.SG.GEN son=DEF 1.SG.ACC money give.3.PL.PRS

「彼女と私の息子が私にお金をくれます」

(132) 0:10:57 おばあさんの娘

muy=ó ikkul=ɔt jeyóŋ.

1.SG=too school=LOC go.1.SG.PRS.PRF

「私も学校に行きました」

(133) 0:10:58 おばあさんの娘

síttun hɔdókki síkkoŋ.

there.ABL some learn.1.SG.PRS.PRF

「そこから、いくらか学びました」

注 *hɔdókki* は *hɔdók* ‘how.much’ に *hi* ‘what’ がついたものである。疑問語が不定語としても使用される例である。

(134) 0:11:00 おばあさんの娘

ikkunú puo+sá=un=ɔɾɛ ɡɔm=ɛ dalé séy parɔŋ.

now son+ELAB(?)=PL.DEF=ACC good=ADV ELAB watch.PTCP can.1.SG.PRS

「今、こどもたちをよく見ること (世話すること) ができる」

注 *sá* は単独では意味をもたない。マルマ語の *θá* ‘son’ が借用されているかもしれないけれども、チャクマ語の中にマルマ語の単語が借用されることはすくない。

(135) 0:11:02 母

óy=ni?

become.3.SG.PRS=PQ

「そうなんですか」

(136) 0:11:04 村人

mə jí=bo páib=sóŋ pojje.

1.SG.GEN daughter=DEF five=till read.3.SG.PRS.PRF

「私の娘は 5 年まで学びました」

(137) 0:11:06 村人

ikké te mɔré sidí ligí parɛ.

now 3.SG 1.SG.ACC letter write.PTCP can.3.SG.PRS

「今、彼女は私に手紙をかくことができる」

注 *ligí* は SC さんは *legí* という。

(138) 0:11:09 村長

n..., bek mile=ɡún=ót=tún peramarí ikkul=ɔt jana ujit.

FIL all girl=PL.DEF=LOC=ABL primary school=LOC go.VN be.appropriate

「んー、すべての女性が小学校に行くべきだ」

(139) 0:11:13 村長

aró údu páib=sóŋ pɔraná ujit.

and.more there.ALL five=till make.learn.VN be.appropriate

「そして、あちらで五年生までまなばせるべきだ」

(140) 0:11:16 父

óy=də ɡɔm hədá.

become.3.SG.PRS=TOP good story

「そうだね、よい話だ」

(141) 0:11:17 父

n..., mina, tuy helle=t=tún dóri ikkul=ɔt jɛbɛ.

FIL PSN 2.SG tomorrow=LOC=ABL catch.PTCP school=LOC go.2.SG.FUT

「んー、ミナ、お前は明日から学校にいきなさい」

(142) 0:11:20 ミナ

gɛccɛ hɔ́t=té?

real say.2.SG.PRS.CONT=NMLS

「本当に言っているの?」

(143) 0:11:21 父

gɛccɛ gorí hɔ́t=té, ma.

real do.PTCP say.2.SG.PRS.CONT=NMLS mother

「本当に言っているんだよ」

注 *ma* は本来は「母」という意味である。しかし、こどもに対する呼びかけとしても使用される。

(144) 0:11:23 母

muy=ó=dɔ sí=yan hɔŋ=ŋé.

1.SG=too=TOP that=DEF say.1.SG.PRS=NMLS

「私もそれを言うんですよ」

(145) 0:11:25 母

tuy jelé mɔré lɛgápɔrá síge paribi.

2.SG go.COND 1.SG.ACC writing.reading teach.PTCP can.2.SG.FUT

「お前がいけば、私に読み書きを教えられるだろう」

(146) 0:11:27 ミナ

ar, tuy mɔré ranána sígeɛ.

and 2.SG 1.SG.ACC make.cook.VN teach.2.SG.FUT

「そして、お母さんは私に料理させることを教える」

(147) 0:11:29 ラジュ

hi súk! amí ek=sómáré ikkul=ɔt jɛbɔŋ.

what happy 1.PL one=together school=LOC go.1.PL.FUT

「なんて幸せなんだ! 僕たちは一緒に学校に行く」

(148) 0:11:37 母

mina, tɔré íjɛp gɔráná sígeye, hɔnná?

PSN 2.SG.ACC calculation make.do.VN teach.3.SG.PRS.PRF who

「ミナ、お前に計算させることを教えたのは誰?」

注 *goráná* は *goraná* のようにもきこえる。

(149) 0:11:39 ミナ

ikkó sómájjé, jibé ikkul=ɔt jeyé.

one.DEF friend REL.NOM school=LOC go.3.SG.PRS.PRF

「一人の友人よ、その人が学校に行った」

(150) 0:11:42 父

hɔnná síbe, tɔ sómájjé=bo?

who that 2.SG.GEN friend=DEF

「誰だそれは、お前の友人か？」

(151) 0:11:45 ミトゥ

mɔ naŋ=áj mitú!

1.SG.GEN name=DEF PSN

「オレノナマエ、ミトゥ」

記号・略号一覧

/A/	A は音素表記
[A]	A は音声表記
(A)	A は任意の要素
A < B	A は B に由来する
A > B	A は B に変化する
+	複合語境界
=	接語境界
1, 2, 3	人称 (それぞれ 1 人称、2 人称、3 人称)
ABL (ABLative)	奪格
ACC (ACCusative)	対格
ADV (ADVerb)	副詞
ANDV (ANDative)	去辞
CAUS (CAUSative)	使役
COND (CONDitional)	条件
CONT (CONTinuous)	継続
DEF (DEFinite marker)	特定
ELAB (element of ELABorate expression)	精巧表現の構成要素
EMPH (EMPHatic)	強意
FIL (FILler)	つなぎ言葉
FUT (FUTure)	未来
GEN (GENitive)	属格
HBT (HaBiTual)	習慣
IMP (IMPerative)	命令
INTJ (INTerJection)	間投詞
LOC (LOCative)	場所格
NEG (NEGative)	否定
NMLS (NoMinaliSer)	名詞化標識
NOM (NOMinative)	主格
PL (PLural)	複数
PQ (Polar Question marker)	諾否疑問標識
PRF (PeRfect)	完了

PRS (PReSent)	現在
PSN (PerSonal Name)	人名
PST (PaST)	過去
PTCP (ParTiCiPle)	分詞
REL (RELative clause)	関係節
SG (SinGular)	単数
SEQ (SEQuential)	継起
SFP (Sentence Final Particle)	文末小辞
TOP (TOPic)	主題
VEN (VENitive)	来辞
VN (Verbal Noun)	動名詞

参考文献

- 藤原敬介. 2019. 「チャクマ語音韻論」『言語記述論集』 11: 51–102. <http://id.nii.ac.jp/1422/00003020/>
- 藤原敬介. 2021. 「マルマ語版・ミナ「私は学校がすき」」『言語記述論集』 13: 317–354. <http://id.nii.ac.jp/1422/00000912/>
- 藤原敬介. 2022. 「マルマ語版・ミナ「ニワトリを数えておけ」」『言語記述論集』 14: 211–236. <http://id.nii.ac.jp/1422/00004416/>
- Liu, Hongyong & Gu Yang. 2011. Nominalization in Nuosu Yi. In Yap, Foong Ha, Karen Grunow-Hårsta and Janick Wrona (eds.), *Nominalization in Asian languages: diachronic and typological perspectives*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins, pp. 313–342.
- Učida, Norihiko. 1970. *Der Bengali-Dialekt von Chittagong*. Wiesbaden: Otto Harrassowitz.

(附記) 本稿は科学研究費補助金（課題番号 20K00570）による研究成果の一部である。

受理日 2023 年 4 月 11 日

チベット・ビルマ諸語における相関関係文*

藤原敬介

帝京科学大学

主要語句：相関関係文、言語接触、借用、地域特徴、チベット・ビルマ諸語

1 はじめに

1.1 相関関係文とは

相関関係文 (relative-correlative construction: RCC) とは、典型的には南アジア諸語にひろくみられる構文である。一般には関係節をみちびく標識を前文にもち、その標識と呼応する標識が後文にあらわれるような構文をいう。Masica [1991] には次のような定義があがっている。

“[R]elative-correlative construction, where the modifying clause, marked by a member of the “J”-set of relative pronouns, adverbs, and other words, is “represented” by a *correlative* in its role-slot in the main clause.” [Masica 1991: 410]

相関関係文はインド・アリア諸語に限定されているわけではない。

“Downing (1973)^{注1}, the most thorough treatment of corelatives we know of, notes that corelatives are limited to verb-final languages, and, in fact, are largely limited to ‘loose’ verb-final ones, namely ones which permit some NPs, especially ‘heavy’ ones to occur to the right of the verb without any special effect of foregrounding or backgrounding. For example corelatives are not attested in rigid verb-final languages such as Japanese and Turkish. Nor are they attested in rigid SVO or verb-initial languages.” [Keenan 1985: 164–165]

具体例をバングラ語でしめせば (1) のようになる^{注2}。

(1) *je mee-Ti_i okhane dāRie ache je_i lOmba.*
rel.det. girl.class.(def.sg.) there(deict.) stand-conj.ppl. be-pres.-3 anaph.-3ord. tall
‘The girl who is standing over there is tall.’ [Bagchi 1994: 16]

(1) では、前文に関係節をみちびく標識として *je* がある。そして、後文では *je* と呼応するように三人称代名詞 *je* があらわれている。

* 本稿は Huziwara [2005] として発表したものをもとに、その後の資料を追加し、再構成した藤原 [2021] に、若干の加筆・修正をくわえたものである。

^{注1} ただしは Downing [1974] である。

^{注2} 以下、二次資料からの例文における語釈は、特にことわらないかぎり、引用元の表記にしたがう。引用例文の語釈における略号については、おおくのばあい、言語学分野での慣例から理解可能であるので、注記しない。筆者がつけた略号については、本稿末尾の記号・略号一覧を参照。

本稿では、チベット・ビルマ諸語にみられる相関関係文およびそれと類似した構文について報告する^{注3}。

1.2 先行研究

相関関係文についての通言語的な研究としては、生成文法の立場からさまざまな言語をあつかった論文集である Lipták [2009] がある。ただし、この論文集でチベット・ビルマ諸語をあつまっているのは、チベット語の Cable [2009] のみである。

チベット・ビルマ諸語を中心に相関関係文をあつかったものとしては、チャック語 (Cak: ISO 639-3 ckh) の相関関係文をあつかうなかで他のチベット・ビルマ諸語の状況を概観した Huziwara [2005] がある。また、Coupe [2018] は南アジアの文脈のなかでチベット・ビルマ諸語の相関関係文をあつまっている。Noonan [2003] はネパールのヒマラヤ諸語を比較するなかで、相関関係文の分布についても言及している。

本稿のように、中国から南アジアにかけて分布するチベット・ビルマ諸語全体を視野にいれた相関関係文の研究は、管見のかぎりでは存在しない。

1.3 調査方法と問題点

本稿では、筆者が直接に臨地調査した数言語 (チャック語、マルマ語、ウスイ語) をのぞき、文法書を中心とした二次資料の記述に依存している。具体例は 4「チベット・ビルマ諸語における相関関係文の具体例」で提示する。

本稿であつかうチベット・ビルマ諸語における相関関係文は、かならずしも相関関係文として記述されているものばかりではない。二次資料のなかでは相関関係文とよばれていなくとも、形式的には相関関係文とみなしうるものをふくんでいる。

二次資料調査の方法は (2) のようにまとめられる。

- (2) a. 「相関関係文」という語句が目次や索引にあるかどうかを調査する^{注4}。
- b. 関係節や名詞修飾表現の例文を調査する。
- c. 指示詞の例文を調査する。
- d. 疑問詞の例文を調査する。

^{注3} Hale and Shrestha [2006: 225–228] ではネワール語の相関関係文が四分類されている。すなわち (1) Compared Actions or Situations、(2) Compared Amounts or Extents、(3) Progressive Correlation、(4) Identificational Correlations である。ただし、本稿では、ここまでこまかい分類はおこなわず、関係詞と相関詞が呼応しているかどうかだけを観察するにとどめる。

^{注4} 相関 (corelative) という語が目次や索引にあっても、かならずしも相関関係文であるとはかぎらない。相関比較文 (comparative-correlative construction) の記述がなされていることもある。相関比較文とは、たとえば英語で “The more you read, the less you understand” [Lipták 2009: 11] という種類の構文である。相関関係文をもつような言語では、英語などで相関比較文をもちいて表現される文が、相関関係文で表現されうる [Lipták 2009: 18]。だが、本稿では相関比較文そのものはあつかわない。

(2) にしめした調査方法についてさらに注意すべき点がある。どのような構文を相関関係文とみなすかが、論者によって異なるということである。たとえば、Sharma [2004: 229] によれば、Balti 語には相関関係文がない。

“Balti does not favour construction of correlative sentences with correlative conjunctions like ‘when ... then ...’, etc. Consequently, all syntactic constructions of other systems with these terms are transformed into complex sentences in their Balti renderings.” [Sharma 2004: 229]

Sharma が想定しているのは、インド・アーリア語からの借用語をもちいた相関関係文がない、ということであるとおもわれる。しかしながら、(3) にしめすように、インド・アーリア語からの借用形式をもちいていなくとも、相関関係文に類似した構文そのものはみつかるとは限らない。

(3) *su thulna, do phoqtuk*

‘who climbs, (he) will fall.’ [Read 1934: 18; Zemp 2018: 770^{注5}]

このように、相関関係文が「ない」とされていても、どのような種類の相関関係文が「ない」ということであるかは、論者によって異なることがある。

いまひとつの問題は、いわゆる主要部がない関係節 (headless RCC) の問題である。Atong 語における (4) の例は、Breugel [2014: 174] では関係節とされており、相関関係文とはされていない。他方、Coupe [2018: 7] は、おなじ例文を主要部がない相関関係文の例としている。

(4) *je-səkən naŋʔ=ci ganəŋ cən=ari=bo kamal=ma*
 any-QUANTITY 2SG=LOC exist offer=SIMP=IMP priest=GOAL
 ‘However much you have, just offer it to the priest.’ [Breugel 2014: 174]

Coupe [2018] は、関係節の標識としてインド・アーリア語の *je* がもいられているので、(4) を相関関係文のひとつとみなしているとおもわれる^{注6}。しかし、本稿では、主要部なしのものは考察の対象外とする。

2 チベット・ビルマ諸語における相関関係文の種類

2.1 チベット・ビルマ諸語周辺の共通語

チベット・ビルマ諸語における相関関係文は、一般的には、それぞれの言語がはなされる地域での共通語であるインド・アーリア語あるいは漢語やタイ語などに影響を受けたものであるとかがえられる。

^{注5} 原文では形態素分析されていない。それでも、*su* と *do* が呼応していることはわかる。鈴木博之氏によれば、*thulna* は *thul-na* ‘go-if’ であり、*phoqtuk* は *phoq-tuk* ‘fall-sensory evidential’ とのことである。

^{注6} 命令文だと相関詞が省略される傾向があるのではないかと、という指摘が Muhammad Zakaria 氏からあった (2021-10-02・日本地理言語学会第3回大会)。

そこで、インド・アーリア語、漢語、タイ語にみられる相関関係文やそれに類似した構文の特徴をまとめれば、(5) のようになる。具体例は 2.1.1 以下を参照。

- (5) a. インド・アーリア語型: 前文でインド・アーリア語の関係詞をもちい、後文で指示詞（あるいは三人称代名詞）が呼応する。
 b. 漢語型: 前文で疑問詞、後文で疑問詞が呼応する。前文で疑問詞、後文で指示詞が呼応するものもある。
 c. タイ語型: 前文で疑問詞、後文で指示詞（あるいは三人称代名詞）が呼応する。

2.1.1 Indo-Aryan

チベット・ビルマ諸語に影響をあたえているとかんがえられるインド・アーリア諸語における相関関係文の具体例は以下のとおりである。

いずれの例も、概略、前文でインド・アーリア語特有の関係詞をもちい、後文でそれと呼応する指示語や代名詞がもちいられる。

2.1.1.1 Pali

- (6) **jo** janāti **so** imam ganhātu
 REL knows COREL this let.take
 ‘he who knows let him take this.’ [Duroiselle 1997³: 153 #592; 語釈は筆者による]

2.1.1.2 Hindi

- (7) a. **jo** laRkii khaRii hai **vo** lambii hai.
 REL girl standing is DEM tall is
 b. **vo** lambii hai. **jo** laRkii khaRii hai
 DEM tall is REL girl standing is
 c. **vo** laRkii **jo** khaRii hai lambii hai.
 DEM girl REL standing is tall is
 ‘The girl who is standing is tall.’ [Sribastav 1991: 642]

2.1.1.3 Bangla/Bengali

バングラ語において相関関係文は文語でも口語でも比較的よくもちいられる。

- (8) **je** mee-Ti_i okhane dāRie ache **je**_i lOmba.
 rel.det. girl.class.(def.sg.) there(deict.) stand-conj.ppl. be-pres.-3 anaph.-3ord. tall
 ‘The girl who is standing over there is tall.’ [Bagchi 1994: 16]

2.1.1.4 Nepali

ネパール語にも相関関係文は存在する。ただし、以下の引用にあるように、あまりもちいられないようである。

“Nepali has a full inventory of relative and correlative pronouns, adjectives and adverbs, with which subordinate clauses may be constructed. Such constructions, however, occur with far less frequency than in some other Indo-Aryan languages.” [Riccardi 2003: 575]

“Occasionally, the relative pronoun जो may be used to introduce a relative clause. This is, however, largely a feature of the written language, where constructions tend to be more complicated and where a large number of participles would seem inelegant or be likely to obscure the meaning.” [Matthews 1992²: 187]

上述の引用にあるように、ネパール語では相関関係文がもちいられることがあまりない。したがって、ネパール語の文法書をもて、相関関係文の具体例があらわれることは稀であるようである。(9) は、ネパール語の文法書ではなく、チベット・ビルマ系のネパール語の文法書にあがるネパール語の例である。

- (9) **jo** mānche āuncha **tyo** timro Thulobā ho
 who man come(3sPST) that your p.uncle be
 “The man that will come is your father’s elder brother.” [Genetti 1994: 185]

ネパール語において相関関係文がもちいられることは稀であるようであるけれども、ネパールでチベット・ビルマ諸語の記述にたずさわる研究者は、相関関係文の存在をよく意識している。したがって、附録 1 で例をしめすように、相関関係文の有無について明示的に記述される傾向がある。

2.1.2 Chinese

漢語における相関関係文では、次の引用にあるように、疑問詞がかさねて使用される。

“One common type of correlative is in the form of repeated interrogative-indefinites” [Chao 1968: 121]

- (10) 誰 先 来 誰 先 吃.
 shéi xiān lái shéi xiān chī
 who first come who first eat
 ‘Whoever comes first eats first.’ [Chao 1968: 121–122; 語釈は筆者により修正]

杉村 [2000⁸: 233] によれば、漢語の相関関係文には二種類ある。ひとつは「疑問詞・疑問詞」型である。もうひとつは「疑問詞・指示詞」型である。

- (11) a. 誰 要求 没有 缺点 的 朋友, 誰 就 得 不 到 朋友.
 shéi yāoqiú méiyǒu quēdiǎn de péngyou shéi jiù dé bù dào péngyou
 who want not.have defect GEN friend who EMPF get NEG PRF friend
 「欠点のない友を求める者、そのような人間は友を得られない」 [杉村 2000⁸: 233; 語
 釈は筆者による]
- b. 誰 要求 没有 缺点 的 朋友, 他 就 得 不 到 朋友.
 shéi yāoqiú méiyǒu quēdiǎn de péngyou tā jiù dé bù dào péngyou
 who want not.have defect GEN friend he EMPF get NEG PRF friend
 「欠点のない友を求める者、そのような人間は友を得られない」 [杉村 2000⁸: 233; 語
 釈は筆者による]

2.1.3 Thai

タイ語では、(12) ~ (14) にしめすような相関関係文が日常的にもちいられる^{注7}。いずれも前文で疑問詞をもちい、後文で指示語が呼応している。

- (12) mây_wâa khun ca pay **nǎy** chǎn kôo ca pay **thû_nân**.
 even.if you FUT go where I too FUT go there
 ‘Wherever you may go, I will go there too.’

- (13) mii **thâw rây** chây **thâw nán**.
 exist how many use much that
 ‘As many as there is, [I/you] use that much.’

- (14) tham wáy **yanṅay**, kôo dây phôn **yàngán**
 do keep how then get result like.that
 ‘How [much] you do, then you get the result like that [much].’

(15) の例は、むずかしいけれども、普通にもちいられるという。

- (15) khun lûak khon **nǎy**, chǎn kôo lûak khon **nán**.
 you choose man which I too choose man that
 ‘Which man you choose, I choose that man too.’

(16) ~ (17) の例は、非常にむずかしいけれども、文脈さえあたえられれば、理解されるという。

- (16) mây_wâa khun ca khǎn k̄iaw_kâp nǎy_sǔuu lêm **nǎy** chǎn kôo ca khǎn k̄iaw_kâp
 even.if you FUT write about book CLF:book which I too FUT write about

^{注7} 本稿におけるタイ語の例は Apasara Wungpradit さんによる。ローマ字表記も彼女によるものである。

lêm nán bân.

CLF:book this too

‘On whichever book you may write, I will write about that book too.’

- (17) mây_wâa khun ca pay bân khǝŋ **khray** chǎn kôo ca taam pay hǎa **khǎw**. /khon
 even.if you FUT go house GEN who I too FUT follow go meet him/her man
nán.
 that
 ‘Whosever house you may go, I will follow and meet [with] that man.’

2.2 チベット・ビルマ諸語

チベット・ビルマ諸語における相関関係文およびそれに類似する構文には、大別して (18) にしめす 7 種類が確認される。なお (18) は、形式的な分類であり、意味による分類ではない。たとえば、「疑問語」とかかかれていても、意味的には不定である。

- (18) a. 前文の関係詞にインド・アリア語からの借用形式、後文の相関詞にチベット・ビルマの指示語。インドやネパールのチベット・ビルマ諸語にひろくみられる (4.1)。
 b. 前文の関係詞にチベット・ビルマ語の名詞化、後文の相関詞にチベット・ビルマ語の指示語。ラサ・チベット語にしか確認されない (4.2)。
 c. 前文の関係詞にチベット・ビルマ語の不定語、後文の相関詞にチベット・ビルマ語の指示語。文章語のある言語での翻訳調のみで確認される (4.3)。
 d. 前文の関係詞にチベット・ビルマ語の疑問語、後文の相関詞にチベット・ビルマ語の不定語。ブータンの Tshangla 語にのみ確認される (4.4)。
 e. 前文の関係詞にチベット・ビルマ語の疑問語、後文の相関詞にチベット・ビルマ語の指示語。チベット・ビルマ諸語のなかでもっとも広範にみられる (4.5)。
 f. 前文の関係詞にチベット・ビルマ語の疑問文、後文の相関詞にチベット・ビルマ語の指示語。バングラデシュ・チッタゴン丘陵のチベット・ビルマ諸語とインド・ナガランドのチベット・ビルマ諸語にしか確認されていない (4.6)。
 g. 前文の関係詞にチベット・ビルマ語の疑問語、後文の相関詞にチベット・ビルマ語の疑問語。中国語のチベット・ビルマ諸語にひろくみられる (4.7)。

(18) にしめしたように、チベット・ビルマ諸語には、(18a) のようなインド・アリア語型の相関関係文を一方の極とし、(18g) のような漢語型の相関関係文を他方の極とする類型があるとわかる。そして、両者の中間的な型が分布しているということになる。

以上を表にまとめると、次のようになる^{注8}。

^{注8} 表中の略号は以下のとおり。IA: インド・アリア語、DEM: 指示語、NLS: 名詞化、ID: 不定語、Q: 疑問語、QQ: 疑問文。

	I	II	III	IV	V	VI	VII
形式	IA-DEM	NLS-DEM	ID-DEM	Q-ID	Q-DEM	QQ-DEM	Q-Q
前文	IA 借用	名詞化	不定	疑問	疑問	疑問文	疑問
後文	指示	指示	指示	不定	指示	指示	疑問
言語数	多数	僅少	僅少	僅少	最多	少数	多数

3 まとめ

本稿では (19) にしめすことがわかった。

- (19) a. チベット・ビルマ諸語における相関関係文でもっともよくみられるものは、前文に疑問語、後文に指示語をもつものである。この型は漢語にもみられるけれども、漢語の影響がおよんでいるとはかんがえがたいインドやネパールの諸言語にもみられる。漢語とは関係なく、各言語における独自の発展とみられる。
- b. インド・アーリア語の影響がつよい地域では、インド・アーリア語型の相関関係文がよくみられる。
- c. 漢語の影響がつよいところでは、漢語と同様に、前文に疑問語、後文にも疑問語の相関関係文がみられる。
- d. 相関関係文に（形式的な）不定語がかかわることはほとんどない。
- e. チベット・ビルマ諸語のいわゆる関係節（名詞修飾節）には、名詞化標識がかかわることがおおい [DeLancey 2011]。他方、相関関係文に名詞化標識がかかわることはほとんどない。

今後の課題としては (20) のようなものがあげられる。

- (20) a. 特に中国のチベット・ビルマ諸語の記述を調査する。
- b. 未確認の型（たとえば前文にインド・アーリア語の関係節、後文に不定語など）があるかどうか。
- c. 相関関係文に「譲歩」（どんな～でも）の解釈が生じるとすれば、どのような場合か。譲歩の意味があるようにみえるのは、単に英語などによる翻訳の問題か。

4 附録 1・チベット・ビルマ諸語における相関関係文の具体例

4.1 インド・アーリア語からの借用とチベット・ビルマ語の指示語

4.1.1 Tripura (Kokborok): Tripura, India

“The relative clause is formed with the relative pronoun *je* borrowed from Bengali.” [Pai 1976: 100]

- (21) **je** bórók tabuk phayo **bo** bini yar.
 which man now is.coming he his friend
 ‘The man who is coming now is his friend.’ (lit. which man is coming he is his friend) [Pai 1976: 100]

4.1.2 Deuri: Assam, India

- (22) **jiba** mosi ko-ba-si **ba** ko-m
 celui homme venir-VNC-sel ce venir-PP
 ‘l’homme qui devait venir, il est arrivé’. [Jacquesson 2005: 240] ^{注9}

4.1.3 Garo (Achik): Garo Hills, India

“Garo has a relative pronoun (*je* sec. 2.212) that is clearly borrowed from Indic and which sits a bit askew with the rest of the language.” [Burling 1961: 72]

- (23) **je** -ko na’-a nik-a **u** -ko ra’-ba-bo
 whatever -OBJ you see it -OBJ bring
 ‘whatever you see, bring it.’ [Burling 1961: 72; 語釈は筆者による]

4.1.4 Rabha: Garo Hills, India

“There is just one relative pronoun (REL) in Rabha, viz. *ja* ‘which, whoi, that’, which is clearly borrowed from Indo-Aryan Assamese or Bengali”. [Joseph 2007: 336]

- (24) náj **ja**-ka aŋ **o**-ka
 you REL-ATTR I that-ATTR
 ‘I am in the way as you’. (we are in the same boat) [Joseph 2007: 337]

4.1.5 Meche: Eastern Nepal/West Bengal

- (25) **je**-che-khəu jəŋ nu-nə hə-nai, **o**-che-khəu kichi-nə ha-nai.
 any-CL-ACC 1PL see-SUB CAUS-FUT that-CL-ACC photograph-SUB can-FUT
 ‘Whatever I let you see, you can take a photo of it’. [Kiryu 2008: 74]

4.1.6 Athpare: Eastern Nepal

“Correlative clauses are rare in Athpare; they are constructed according to the Indo-Aryan

^{注9} ‘jiba’ において、‘ji’ はおそらくインド・アーリア語からの借用語であり、‘ba’ は「これ」をあらわす。

model with a question word in the first clause and a demonstrative in the second.” [Ebert 1997a: 154]

- (26) tara unci handeḡ samma kristyēn-lok li-ma u-hi-ni-ga, poḡ bhane
 but they tomorrow until Christian-FOC be-INF 3pA/S-can-NEF-NML:ns because
jun yapmi-ci kristyēn lis-e, **hitna** yapmi-ci aniya samaj-ni unci cimma
 which person-ns Christian become-PT that person-ns our(pe) society-LOC their despision
 u-phutt-u-ci-ga.
 3pA/S-break-3U-ns-NML:ns
 ‘But they cannot be Christians for long, because the people who became Christians are
 despised in our society.’ [Ebert 1997a: 154]

4.1.7 Baram: Central Nepal

“[D]ue to the influence of Nepali, the contact language, relative-correlative clauses also exist in Baram... The clauses which are like relative-correlatives are Nepali calques”. [Kansakar et al. 2011: 163–164]

- (27) ḡa-e **dze** dum-o **ui** ḡi-ca.
 I-ERG what get-IRR that NPST-eat
 ‘I eat whatever I get’. [Kansakar et al. 2011: 163]

4.1.8 Western Magar: Central Nepal

- (28) **jus** bfiormi-o mi-ja cha-ma le **ho-se-ke** ḡa-e
 whichever man-GEN POSS-child sick-NOM COP D.DEM-DEF-DAT 1S-ERG
 ḡa-daḡ-a-aḡ
 1PRO-see-PST-PRO
 ‘I saw the man whose child is sick.’ = ‘Whichever man’s child is sick, I saw that one.’
 [Grunow-Hårsta 2008: 376]

4.1.9 Byansi: Uttar Pradesh, India

“[The above] cited adjective clauses are apparent interferences of Indo-Aryan by borrowing the relative pronoun jayi (on the analogy(*sic*) of ayi ‘this’, e.f.(*sic*) Hindi jo ‘which, who’). In fact the construction of adjective clauses does not appear to be an inherent tendency of Byansi.” [Trivedi 1991: 160^{注10}]

^{注10} 以下の例において、原文の語釈は印刷が不鮮明なため、よみまちがっている可能性がある。

- (29) **ayi** ati yī kathā lhe **jayi** use nyāre lukso
 this same matter is which he yesterday told
 ‘This is the same matter which he told yesterday.’ [Trivedi 1991: 50]

他方、Sharma [2001: 286] は次のようにのべる。

“Byangsi uses a single relative pronoun, /dzai/, and it is always used with the remote demonstrative pronoun /ati/ as a correlative.”

- (30) **ati** tsame **dzai** cim-dza lan ʃuŋgɛtata je-ge hriŋfa hle
 that girl RELPRO house-in work is.doing I-GEN sister is
 ‘That girl who is doing work at home is my sister.’ [Sharma 2001: 286]

4.1.10 Chaudangsi: Uttar Pradesh, India

“There are two forms for the relative clause, the native Tibeto-Burman form where a clause nominalized by /ta/ appears before the head noun [...], and Indo-Aryan-style post-head relative clause involving one of two relative pronouns, i. e. /jo/ or /jəi/ below; actually, the relative clause not only follows the head noun in this construction, but also the verb of the main clause, giving a correlative structure [...] It appears that both of these relative pronouns are borrowed from Indo-Aryan, especially from Hindi jo, though there is no human/non-human distinction in the relative pronouns of Hindi.” [Krishan 2001b: 411]

- (31) a. hidi **əti** siri hle **jo** nyarə ra-s
 this that boy is who yesterday come-PAST
 ‘He is the same boy who came yesterday.’ (KRISHAN 2001b: 412)
- b. **jəi** mi itan ra-sə **əti** ji-ge pe hle
 who person just.now come-PAST he I-AGT brother COP
 ‘The man who has come just now is my brother.’ [Krishan 2001b: 412]

4.1.11 Darma: Uttar Pradesh, India

“The pattern for relative-correlative constructions in Darma is no identical to the IA patterns... Here, we find both an autochthonous demonstrative pronoun <hadu> and the IA loan relative pronoun <jo> in the first clause (without an overt noun) followed by another autochthonous demonstrative pronoun <idu> and an overt noun in the second clause. It appears that in addition to the relative pronoun <jo>, the relative-correlative construction is also a loan, which is a calque”. [Willis Oko 2019: 411]

- (32) hadu **jo** ki-ŋe-nu ni-ni **idu** syeno buNnu ni-ni.
 3sg rel.In compl-stand.up-nr aux-3.npt dem.nonvis child tall aux-3.npt
 ‘The boy who is standing is tall.’ (Lit: ‘Which one is standing, that boy is tall.’) [Willis
 Oko 2019: 411]

なお、Darma 語については、次のような記述もある。

“The structure of the relative clause is unusual for Tibeto-Burman, as it is a correlative with the usual Tibeto-Burman prehead relative with nominalization, and a post-head relative pronoun, as in the Indo-Aryan languages, but not a full post-head relative clause.” [Krishan 2001a: 375]

- (33) amə ja-**no** siri **ənduna** hlɛ
 mango eat-NOM boy RELPRO COP
 ‘(He) is the boy who had eaten the mango.’ [Krishan 2001a: 375]

4.1.12 Raji: Uttar Pradesh, India

“A relative clause is formed by adding [jo ~ joi] to the beginning of the dependent clause. The relative clause is a free-standing nominalized clause, giving a correlative structure [...]. Raji has borrowed the relative pronoun from Hindi, which is *jo* ‘the one’ or ‘who.’” [Krishan 2001c: 474]

- (34) a. **əi** whəi bəghol hī **jo** bəkka ja
 this same tiger COP RELPRO goat eat
 ‘This is the same tiger which ate the goat.’ [Krishan 2001c: 475]
 b. **joi** bəkka hə-tɛ ha **ai** lōDa rugga
 RELPRO goat kill-COMPL past that boy leave
 ‘The boy who killed the goat has left.’ [Krishan 2001c: 475]

4.2 名詞化と不定語

4.2.1 Lhasa Tibetan

- (35) pad=ma -s deb ʼkhyer -**pa** **de** nga -ʼi yin
 Peema -ERG book bring -NOM the I -GEN be
 ‘The book which Peema brought is mine.’ [Mazaudon 1978: 402; Genetti 1992: 408 による語釈つき英語からの引用]

“Mazaudon (1978) states that this construction is more common in Classical Tibetan materials, and that in modern spoken Tibetan it occurs only when the head noun is in absolutive

case (subject of intransitive or object of transitive) within the relative clause.” [Genetti 1992: 408]

4.2.2 Manipuri: India

- (36) ləykol=də sat-li=bə ləysiŋ ədu phəjəy
 garden=LOC bloom-PROG=NMLS flower that be.beautiful
 ‘Blooming flower in the garden, that is beautiful’. [Shougrakpam 2014: 11^{注11}]

4.3 不定語と指示語

前文に不定語、後文に指示語という型は、文語形式が発達した言語にしか確認されない。また、不定語といっても、不定の意味でもちいられる名詞である点には注意が必要である。

4.3.1 Written Tibetan

文語チベット語にみられる相関関係文はサンスクリット語からの翻訳にのみみられる^{注12}。

関係代名詞は元来のチベット語の用法にない。経典翻訳の際に梵語に対応させる表現形式として登場した。元来の表現では、下記のように不定代名詞をもちいるが、関係代名詞と指示代名詞を関連させた用法はない。[山口 1998: 86]

関係代名詞の場合と同様チベット語の元来の表現に関係副詞はない。梵語の表現にあるこの形式を翻訳文に反映させるため、不定副詞を置き、それに従う名詞句や名詞節を必ず指すように指示代名詞を用い、同じ型の副詞句に仕立てて用いたのである。[山口 1998: 142]

- (37) **ji** ltar pha ma bu byams kyang | **de** ltar bu tshas pha
 what.REL like father mother son love although that like son.and.grandson.ERG father
 ma min |
 mother is.not
 「父母がどのように子を慈しんでも、同じく孫子がそのように父母にするとは思えない」
 [山口 1998: 143–144; 語釈は筆者による]

- (38) dpe cha **ji** tsam klog pa **de** tsam shes kyi red |
 book what.REL as.much.as read NMLS that as.much.as know -link -aux.
 ‘As much as you read the book, you [will] know that much.’ [武内・高橋 2016: 43; 語釈は筆者による]

^{注11} 形態素分析と語釈、翻訳は筆者による。なお、この例は、原文では相関関係文の例とされているけれども、相関関係文とはいえないのではないかとおもわれる。

^{注12} 以下の例は白井聡子氏の教示による。

4.3.2 Nissaya Burmese: Burma

“Relative clauses receive no special treatment as a whole: each word is rendered just as it stands in the Pali.” [Okell 1965: 209]

- (39) **Akrañ** lak -phrañ' pe'' -í **thui** lak -phrañ' chui -í
 whatever hand -by give -SFP that hand -by say -SFP
 ‘I direct you by the hand with which I give to you.’ [Okell 1965: 209, 1967: 110; 語釈は筆者による]

4.3.3 Written Burmese

- (40) အကြင် သူ ၏ အိမ် ၌ တ ည၌ မျှ လည်း တည်း ဖူး အံ့၊ ထို သူ အား
 əciN θu i. eiN hnai? tə nyi. hmya. le: te: phu: aN. **tho** θu a:
 some man GEN house LOC one night almost EMPH stay EXP COND that man for
 စိတ် ဖြင့် မျှ လည်း ပြစ်မှား ခြင်း ကို မ ပြု အပ်။
 sei? phyiN. hmya. le: pyi?hma: jiN: go mə pyu. a?
 mind by almost EMPH blaspheme NOM OBJ NEG do appropriate

「誰かの家に一晩でも泊まった事があれば、その家の人にたとえ心中なりといえども冒
 瀆してはならない」 [大野 2000: 772^{注13} 語釈は発表者による]

4.4 疑問語と不定語

前文に疑問詞、後文に不定語があらわれる例は、今のところブータンではなされるツァンラ語にしか確認されていない。調査がすすめば、周辺言語に確認される可能性がある。

4.4.1 Tshangla: Bhutan

“A content question word together with the indefinite marker *thur* is the common way of forming an indefinite relative clause, (‘whatever ...’, ‘whoever ...’ etc.)” [Andvik 2003: 443]

- (41) Ji-gi pura **hang** tshat-pa **thur** nan-ga bi-wa
 1S-AGT completely what need-NOM one 2S-LOC give-NOM
 ‘Whatever (you) needed I gave you.’^{注14} [Andvik 2003: 443]

^{注13} 原文にみられる誤記は加藤昌彦氏の教示により修正した。

^{注14} おなじ例文が Andvik [1999: 396] にもある。ただし、翻訳は ‘Whatever you need I will give you.’ となっている。

4.5 疑問語と指示語

4.5.1 Japhug: Sichuan, China

“All interrogative pronouns, ..., can be used in correlative relative constructions as free-choice indefinites ‘whoever/whatever/whenever’... The pronoun can occur on its own or in apposition with an overt head noun...” [Jacques 2021: 1261]

- (42) *uzo ku* [*<cai> tɕ^{hi} ta-ndza*] *nu* *ɣu* *u-mdoɕ* *nu* *ɲu-ndɣm* *ɲu-ɲu*.
 3sg erg vegetable what aor:3→3' -eat dem gen 3sg.poss-colour dem ipfv-take[III] sens-be
 ‘It takes the colour of whatever vegetable it has eaten’. [Jacques 2021: 1261]

4.5.2 Wobzi Khroskyabs: Sichuan, China

Wobzi Khroskyabs 語においては、「疑問語・不定語」のくみあわせだけでなく、「疑問語・指示語」、「疑問語・疑問語」のくみあわせも確認されている。

“Wobzi exhibits a type of correlative-like relativisation... However, such constructions are not proto-typical correlatives in that 1) it does not necessarily require a correlate (usually a resumptive pronoun, for instance the case of Hindi...) in the matrix clause, and that 2) they can be nominalised as well as bare sentences”. [Lai 2018: 245]

- (43) a. Q-DEM

æca <*jiütian xuánnǚ*> *ŋêtə* *rə-vîn* *ætə* *r-u-ví=si*

CONJ Goddess.of.the.Nine.Skies which IMP-do₁-2 DEM PST-INV-do₂=IFR

‘He did what the Goddess of the Nine Skies told him to (literally: What the Goddess of the Nine Skies asked him to do, he did it)’. [Lai 2018 (14b)]

- b. Q-INDEF

t^hjê_i *vî=spi* <*bàn fǎ*> *râɣ_i* *fsæmnôŋ=spi* *næ-dô=si*

what do₁=NMLZ:P.IRR solution one think₁=NMLZ:P.IRR IPFV.PST-EXIST₂=IFR

‘He found a way (literally: He found what he should do)’. [Lai 2018 (52)]

- c. Q-Q

jdəsp^hjær *ŋêlɑ_i* *rə-vê* *jê* *ŋêlɑ_i* *rə-rbjæ* *næ-ntɕ^hêɣ=si*

wave where NPST-go₁ 3SG where NPST-arrive₁ PST-go₂=IFR

‘He went where the wave went’. [Lai 2018 (53b)]

4.5.3 Tibetan

- (44) Khyodra-s gyag gare nyos yod na nga-s de bsad pa yin.
 you-ERG yak what buy AUX if I-ERG that kill PERF AUX
 ‘I killed whatever yak you bought’. (Lit. ‘If you bought what yak, I killed that’.) [Cable 2009: 195^{注15}]

4.5.4 Lahu: Thailand

“Just across the frontier of separate NP-hood are nouns which clearly belong to different NP’s in the syntactic sense (e.g., a particle may intervene between them), but which are mutually dependent in that one implies the other: neither may occur without the other if a particular meaning is to be conveyed. We may label such NP’s *correlative*. In the most interesting of these constructions, an interrogative noun in one NP is followed in the next NP by a noun which answers its question, the whole sequence then bearing an indefinite (rather than interrogative) meaning.” [Matisoff 1982²: 186–187]

- (45) a. **qhòkà?** qay gâ qo, **còkà?** qay -ʔ
 where go want if over there go -IMP
 ‘Go wherever you want.’ (“If you want to go [any]where, go there!”) [Matisoff 1982²: 414; 語釈は筆者により改変]

4.5.5 Ao Naga: Nagaland, India

“There are no relatives corresponding to English modes of thought. The relatives are interrogative in form, [...] the construction of sentences with relative clauses is very common in ordinary conversation and in formal addresses.” [Clark 1893: 13]

- (46) **Shibae** tang aru **pae** azi oda ashi
 Who just now come he so said
 ‘he who just now come said so.’ [Clark 1893: 13]

“The relative-correlative construction of Mongsen is not necessarily more effective than the gapping strategy for relativizing on a core argument of the clause. The structure may have been borrowed into the language to allow for the relativization of oblique arguments, and then became an alternative strategy for deriving relativized attributes of all clausal argu-

^{注15} この例文自体はかなり不自然な文である。チベット語の文字転写にも、語釈にも問題がある。ただし、疑問語をもちいた相関関係文そのものは、翻訳調ながら、チベット語として理解されるものであるという [鈴木博之直談 2021-08-09]。

ments, including core arguments. I noted earlier that some speakers use it more frequently than others, particularly those who speak English fluently. All of the Mongsen speakers who used the relative-correlative construction were also bilingual speakers of Nagamese, the Assamese-based lingua franca of Nagaland”. [Coupe 2007: 235–236]

- (47) **sópá?** nə kùk-rù la **pa** tə-zəm-pà? t[hà-i-ù?
 who AGT win-IMM TOP 3SG NZP-be.senior-NR COP-IRR-DEC
 ‘Whoever wins will be more senior.’ [Coupe 2007: 234]

4.5.6 Konyak: Nagaland, India

- (48) kaʔtalannə ə'wpẽ yèŋte wúbè suyaʔpəyʔ/ imannə tə'wñí? ña? máè yèŋyənme
 people-pl-nom when water-to material mix / they that.day fish lot river-in
 omnàŋ
 catch-prs
 ‘people when mix the material to the water, that day they catch lot of fish in the water’.
 [Nagaraja 2010: 159]

4.5.7 Turung: Assam, India

“In Assamese, a correlative construction is used to express temporal linkage, and this has been calqued in Turung”. [Morey 2010: 573]

- (49) **gloiyong** purt **daiyong** singnang ngkhong thah la na dwa soh na
 when boil then bamboo.stick two with take SEQ REAL=DEF take.out SEQ
 go a ho lphoh ang dat
 TOP HESIT yonder banana.leaf at put
 ‘When it is boiled, then with two sticks it will be taken, taken out and put into a banana leaf’. [Morey 2010: 573–574^{注16}]

4.5.8 Galo: Arunachal Pradesh, India

- (50) **jadì**=go zí-ró dii **əkə**=go dó-ró
 how.much/many=IND give-IRR WOND ANAP.PL=IND eat-IRR
 ‘However much (corn) I’m given, that much I’ll eat!’ [Post 2007: 340]

^{注16} 原文では形態素分析され声調も付されているけれども、ここでは正書法のみでしめた。

4.5.9 Denjongke (Sikkimese Bhutia): Sikkim, India

“Correlative clauses consist of two clauses with a common argument marked in the first clause by a question word and in the second clause by a coreferential resumptive demonstrative. The interrogative pronoun occurs in a truly question-like construction, but the presence of the resumptive demonstrative in the following clause distinguishes correlative clauses from indirect question clauses”. [Yliniemi 2019: 475]

- (51) t'a məma k'ar jò-po óde=ra zak go?
 now earlier what EX-2INF like.that=AEMPH set be.needed
 'Whatever was before, has to be preserved like that'. [Yliniemi 2019: 476]

4.5.10 Yakkha: Eastern Nepal

“As Yakkha does not have relative pronouns, it utilizes interrogative pronouns in the relative clause. The main clause contains a noun or a demonstrative”. [Schackow 2015: 423]

- (52) ka ikhiŋ nis-uks-u-ŋ, khiŋ ka-me-ŋ=na.
 1sg[erg] how.much know-prf-3.P[pst]-1sg as.much say-npst-1sg=nmlz.sg
 'I will say as much as I (got to) know'. [Schwackow 2015: 424]

4.5.11 Yamphu: Eastern Nepal

- (53) indo? hænjiŋ.æ? lu.n.j.u mo.dok.no? kho.e? te.ndh.w.a.
 like_what you^d.ERG say.NP.DU.→3 that.like.EXF s/he.ERG turn.NP.→3.PLNR
 'He will answer in exactly the same spirit as you talk to him'. [Rutgers 1998: 95]

4.5.12 Chhathare Limbu: Eastern Nepal

- (54) khene ho-laambaa kaa-daa-yaa-i haambo-i te-gaa
 you where-LOC you-come-2sA-PRET-EMP there-EMP go-2sIMP
 'Go to the place from where you come'. [Tambahang 2004: (11c)]

4.5.13 Dumi: Eastern Nepal

- (55) aju-a mo lut-t-o mam mu-t-a
 1SG-ERG what tell-NPST-1SG that do-NPST-3SG
 '(He) does what I tell him.' [Rai 2016: 352]

4.5.14 Koyee: Eastern Nepal

- (56) **habo** d^hila mo-ki **d^hai** kama bigre s^hΛ?
 how late be.1PL.INCL that.much work damage be.NPST
 ‘The more we do late, the more we will get problem’. [Rai 2015: 276]

4.5.15 Lhomi: Eastern Nepal

Lhomi 語においては「疑問語・指示語」だけでなく「疑問文・指示語」の例も確認されている。

“Lhomi does not make any use of relative pronouns at all. The correlative construction in Lhomi typically consists of two paratactic clauses. The first is nominalized and the second one is the main clause in which the whole first clause is either a subject argument or an object argument. The correlative pronouns come in pairs”. [Vesalainen 2016: 231]

- (57) a. Q-DEM

’khit-raŋ-ki nam **khanʃa** ga-a tʃhik-kin
 2PL-self-ERG when what feel.good-COMP2 do;VBZR-NMLZ
 ’thek-køt-aŋ **u-ko** tʃhit-tʃe ’noŋ-ken
 like.to-PROG;EXP-NMLZ that-head do;VBZR-SBJV get.chance-NMLZ;CONJ
 bet.
 AUX
 ‘Whenever you would like to be doing something good, that you will have a chance to do.’ [Vesalainen 2016: 231–232]

- b. QQ-DEM

raŋ-ki ’khim-la mi ɖompu ’su juŋ-kuk=**ka** **u-ko** ɖompu
 2SG-GEN house-DAT man guest who come-PROG;VIS=Q that-head guest
 juŋ-a di-la tir go-ken bet.
 come-NMLZ;Q DEF-DAT give have.to-NMLZ;CONJ AUX
 ‘A guest whoever comes to your house, to him, who has come as a guest, you must give (food).’ Or ‘Whoever guest comes to your house, to that person you have to give food.’
 [Vesalainen 2016: 232]

4.5.16 Bantawa: Eastern Nepal

“The relative pronoun in Bantawa is always an interrogative pronoun... Interrogative and demonstrative pronouns come in corresponding pairs that share type and scope...” [Doornenbal 2009: 329]

- (58) **dem** wa ta-∅, **k^hum-ŋa** wadera k^har-a.
 how.much rain come-NPT that.much-EMPH flood go-PT
 ‘As much rain falls, that much it will flood’. [Doornenbal 2009: 329]

4.5.17 Wambule: Eastern Nepal

“In correlative and adverbial subordinate clauses, indefinite and interrogative words are used in the relative sense of English *who* and *whoever*, *which* and *whichever*, *how* and *however*, *when* and *whenever*, *where* and *wherever*, etc.” [Ongenort 2004: 224^{注17}]

4.5.18 Camling: Eastern Nepal

“In correlative linking the first clause, the second a demonstrative.” [Ebert 1997b: 66]

- (59) wui-sim wui-sim **demno** kholai tir-e **tyonno** kholi-di
 run-MAN run-MAN how.much dawn become-IPFV that.much jungle-hiLOC
 wang-e-ko raicha.
 enter-IPFV-NML REP
 ‘Running, running, the more it dawned, the deeper he ran up into the jungle’. [Ebert 1997b: 67]

4.5.19 Eastern Tamang: Eastern Nepal

- (60) ŋa¹ **khaĩ²** ni-pa¹, ai²-ne **oti**-n kha-u¹
 I where go-IND you-also there-also come-IMP
 ‘Wherever I go, come along’. [Nishi 1992: 11^{注18}]

4.5.20 Tamang: Eastern Nepal

“It is also possible to relativize elements in Tamang using a correlative construction. This is formed of two clauses: the first clause (the correlative clause) specifies an element (which

^{注17} 具体的な例文は確認できず。

^{注18} この例文は Mazaudon から西義郎への私信による。

can be nominal or otherwise) which is then referred back to in the main clause... It appears likely that this structure in Tamang represents a borrowed rather than an inherited feature, as it widespread in Indo-Aryan (Masica 1991: 410–5) but less common in Tibeto-Burman languages,... While Nepali (on which the correlative construction in Tamang is probably modelled) has a distinct set of relative pronouns and adverbials which are used in correlative clauses, Tamang uses the same set of forms which are used for content questions”. [Owen-Smith 2014: 358]

- (61) ²tilma ²khatle ¹la-ci ³tanke=no ²otle ¹lo
 yesterday how do-PFV now=FOC like.that dp.HORT
 ‘Do [it] how [you] did [it] yesterday’. [Owen-Smith 2014: 359]

4.5.21 Dhankute Tamang: Eastern Nepal

- (62) k^hanaŋ ai ni-zi hoza-ri ai-la ama si-bala mu-ba.
 where you go-Pt that-LOC you-GEN mother die-PERF be-NML
 ‘You went where your mother had died.’ [Poudel 2006: 166]

4.5.22 Chantyal: Eastern Nepal

“The correlative construction that concerns us here is a complex construction formed with a relative pronoun in the first clause and a demonstrative in the second: *who believes my argument, that person will be enlightened*. The Tamangic languages natively lacked this construction; it is, however, characteristic of Nepali. Chantyal has borrowed this construction from Nepali, as has Tamang; I have no evidence of this construction in any other Tamangic language”. [Noonan 2006: 15–16]

- (63) a. sə nə **jya** fiin-la-i **jya** fiin-la-i
 therefore topic what be+RC what be+RC
 ‘Therefore, whatever it is, whatever it is,’ [Noonan 1999: 543 (83)]
 b. **cu**-i fiya-m də fiistori nə
 this-also go-NPST fact history topic
 ‘this also goes, history.’ [Noonan 1999: 543 (84)]

4.5.23 Hayu: Eastern Nepal

- (64) a. **hatha** -dum lo-gaŋ kak **mitha** wol lam are
 combien -INDEF soleil brille tant faner va-ASS dit-on
 ‘Plus le soleil brille, plus elle (la plante) se fane.’ [Michailovsky 1988: 192]

- b. **su** -dum -ha dip **tei** dzã·tsem
 qui -INDEF -ERG terrasse ce il-mange(REFL)-ASS
 “Celui qui terrasse l’autre mangera (le repas).” [Michailovsky 1988: 192]
- c. **hanonj** -dum hõ·ku ɔxtom **minonj** na mi wolta nom ɔxtse
 où -INDEF avant il-le-rencontra-ASS là EMPH ce fané il-était-ASS dit-on
 “Le fané était précisément là où il l’avait rencontré auparavant.” [Michailovsky 1988: 192]

4.5.24 Thangmi: Central Nepal

- (65) cawa woi, **kuta** ukhiŋ-∅-du, **to-te** hok-eŋ-thyo.
 walk also where become.dark-sAS-NPT that-LOC be-pAS-3sCOND
 ‘While walking, they would rest [and camp] at whichever place they had got to when it became dark’. [Turin 2012: 304]

4.5.25 Classical Newari: Central Nepal

- (66) **gva**-hma strīn putr jāyarapayakara, **thva**-hma strī dhāya
 what-ANIM wife.LOC son bear(?) that-ANIM wife to.speak
 ‘a wife that bears children, she must be called a true wife’. [Jørgensen 1941: 97^{注19}]

4.5.26 Kathmandu Newari: Central Nepal

- (67) mirā -yāke ritā -yāta **chu** mā -ā **wo** du
 Mira -ASS Rita -DAT what need -STAT that have
 ‘Mira has that which Rita needs.’ [Malla 1985: 94; Genetti 1994: 186 からの引用による]

4.5.27 Newar: Central Nepal

- (68) a. Compared Actions or Situations
 wõ: **gøthe** mæti-i təl-ə **əthe** ju-nõ:-jul-ə.
 that.ERG how mind-LOC put-PD like.that happen.SH-EMP-happen-PD
 ‘Just as he had intended, so it came about.’ [Hale and Shrestha 2006: 225]
- b. Compared Amounts or Extents
 bhæktæci-tə nepa: ca:hyu:-bøle: **guli** nhyai-pi-gu khø: ji-tø: nõ:
 Little.Bhæktø-DAT Nepal travel.ID-when how.much enjoyable-AGR be.ID I-DAT also

^{注19} 語釈は筆者が推測してつけたものである。動詞の形式については、正確なところは不明である。

thwə bəkhō: cwəy-a-bələ: **uli** he nhyaipul-ə.
 this story write-PC-when that.much EMP enjoy-PD
 ‘However much Little Bhəktə enjoyed his Nepal travels, I also enjoyed them just as
 much when I wrote this story.’ [Hale and Shrestha 2006: 225]

c. Progressive Correlation

guli guli makhapikha pi-hā: wələ, **uli uli** juju-ya
 how.many how.many spider.RDP out-DIRA come-PD that.much that.much king-GEN
 nhæ:pō: sya:-gu kwəlan-a: yaũy-a-wən-ə.
 ear ache.ID-AGR subside-NF be.light-CM-PERF-PD
 ‘The more the spiders came out the more the king’s earache subsided. He recovered.’
 [Hale and Shrestha 2006: 225–226]

d. Identificational Correlations

məcā: **chu** təkə dhal-ə wə təkə biy-a-təl-ə.
 child.ERG what up.to say-PD that up.to give-CM-PF-PD
 ‘What the child asked for, that he would be given.’ [Hale and Shrestha 2006: 226]

4.5.28 Dolakha Newari: Central Nepal

(69) **guli** thōsi nar-ai **āmli** thōsi jati
 how.much meat eat-3sPR that.much meat leftover
 ‘However much meat they eat, that much meat is leftover.’ [Genetti 1994: 184]

4.5.29 Chepang: Central Nepal

(70) **gawkhelo** hme?mut brusto muna? **?ow?kay?** wan?sa pərəna
 which dust make.grey exist.NPST that.GOAL bring ?
 ‘The one that is grey with dust, that is the one to be brought’. [Caughly 2000: 66^{注20}]

4.5.30 Eastern Magar: Central Nepal

(71) **kudik** že-le, **adik** b^hereš-le.
 how.much eat-IND.PT that.much scatter-IND.PT
 ‘one scatters that much how much one eats’. (‘It scatters as much as it eats.’) [Subba 1972:
 179^{注21}]

注20 語釈は Caughly [2000] に即して筆者がつけた。

注21 語釈は Nishi [1992: 11] による。

4.5.31 Bhujel: Central Nepal

“The second way to form the relative clauses in Bhujel is to employ interrogative pronoun as there are not relative pronouns as in English and Nepali tradition.

Such type of relative clauses is not common in Bhujel. They are simply innovations under the influence of the contact language, Nepali. It is, however, to be noted that Nepali does not employ interrogative pronouns to form relative clauses.”. [D. R. Regmi 2007: 340–341]

- (72) **su**-koy myan galto mu-na **u**-kay ŋa man paray-na-ŋ
 who-GEN hair black stay-NPST he-DAT ISG liking occur-NPST-1/2
 ‘I like the woman who has black hair.’ [D. R. Regmi 2007: 340]

4.5.32 Magar Kaike: Central Nepal

“As in Newar and other Tibeto-Burman languages like Bhujel (Regmi, 2007) Kaike makes use of interrogative pronouns for making correlative relative clauses. They are simply innovations under the influence of the contact language, Nepali.

Such type of relative clause is not common in Kaike. They are simply innovations under the influence of the contact language, Nepali. It is, however, to be noted that Nepali does not employ interrogative pronouns to form relative clauses”. [A. Regmi 2013: 121]

- (73) **su**-i c^hoy lə ŋya ənə-je pas k^hě
 who-ERG read good COP he-ERG pass do.IMPFV.DJ
 ‘The man who studies well passes the exam.’ [A. Regmi 2013: 121]

4.5.33 Kanauri: Himachal Pradesh, India

- (74) **hat**-yaŋ bə-to **hədoi** bi-to
 who.ABS-also come-<3>FT ? go-<3>FT
 ‘whoever comes, he will go’. [Nishi 1992: 11^{注22}]

4.5.34 Ladakhi: Jammu Kashmir, India

- (75) **ʃpe** -čhə kə -bo rde-mo duk **te** ʃpe -čhə -bo sil.
 book -suf. which -Sp. good to be Core.Pro. book -suf. -Sp. read
 ‘Read (the book), that (lit. which book) is good’. [Koshal 1979: 128–129; 語釈は筆者により
 変更^{注23}]

^{注22} おそらく D. D. Sharma の文法書から引用している。

^{注23} なお、Sharma [2003] は Ladakhi に相関関係文はないと記述する。

4.5.35 Balti: Baltistan, Pakistan

(76) *su thulna, do phoqtuk*

‘who climbs, (he) will fall.’ [Read 1934: 18; Zemp 2018: 770^{注24}]

4.6 疑問文と指示語

本稿における相関関係文においてあらわれる疑問文とは、前文が疑問詞ではじまり、疑問文標識でおわるものである。

この型は、前文が疑問詞、後文が指示詞の亜種とかがえることもできる。筆者は当初、この型はバングラデシュ・チッタゴン丘陵の *Cak* 語と *Marma* 語にしかないとかんがえていた。のちに、おなじくチッタゴン丘陵の *Hyow* 語にも確認された。チッタゴン丘陵の共通語である *マルマ* 語の影響が、周辺の少数言語にもおよんでいるようにおもわれる。

さらに、インド・ナガランド州の *Patscho Khamniungan* 語、アッサム州の *Karbi* 語にも確認された。調査がすすめば、東北インドの言語を中心に、よりおおくの言語で確認される可能性がある。

4.6.1 Patscho Khamniungan: Nagaland, India

“A more common response of the replicating language is to recruit its interrogative pronouns to serve as relative pronouns if it does not borrow these along with the RCC structure. Such a pattern is found in the Patsho dialect of Khamniungan, a Konyak language of extreme eastern Nagaland”. [Coupe 2018: 8]

(77) *nɔŋ³³ ni⁵⁵ fau⁵⁵ khiu¹¹ uŋ¹¹ khɔ³³ tʃə¹¹-mie³³ ju³¹-a³³ thi-ɛ tə¹¹ ju-n¹¹*
 this.one who hair Q 1sg:poss-wife-? be-irr thus say-pst
 “‘The one whose hair this is will be my wife’, [he] said.’ [Coupe 2018: 9]

“Ld. [Ladakhi のこと] does not favour construction of correlative sentences with correlative conjunctions like ‘when ... then’ etc. There all statements of other linguistic systems falling in this category are transformed into complex sentences in which the verb of ‘when’ clause is expressed with conjunctive participle and that of the ‘then’ clause with indicative mood of the tense concerned.” [Sharma 2003: 149]

^{注24} 原文では形態素分析されていない。それでも、*su* と *do* が呼応していることはわかる。鈴木博之氏によれば、*thulna* は *thul-na* ‘go-if’ であり、*phoqtuk* は *phoq-tuk* ‘fall-sensory evidential’ とのことである。

なお、Sharma [2004] によれば、*Balti* 語には相関関係文がない。

“Balti does not favour construction of correlative sentences with correlative conjunctions like ‘when ... then ...’, etc. Consequently, all syntactic constructions of other systems with these terms are transformed into complex sentences in their *Balti* renderings.” [Sharma 2004: 229]

4.6.2 Karbi: Assam, India

“The co-relative construction ... is based on corresponding interrogative pronouns or adverbs and demonstrative/diestic pronouns and adverbs across two nominalized clauses. In this construction, the interrogative pronouns or adverbs are marked with the question particle =*ma* in order to function as indefinite or universal relative pronouns ‘*whoever*’, ‘*whatever*’, etc.” [Konnerth 2020: 391]

- (78) a. là ke-dàm-bōm ahūt Pātkái-College **konát=mà** ke-dō là=tā
 this NMLZ-go-CONT during PN where=Q NMLZ-stay this=ADD
 nang=pa-klàng-lò
 1/2:NSUBJ=CAUS-appear-RL
 ‘While we were going, they also showed us where Patkai College is (lit., where Patkai College is, that they also showed us).’ [Konnerth 2020: 160]
- b. lasì lasō a-honjèng **komāt=ma** ke-teròì-ùn **labàng=ke**
 therefore this POSS-thread who=Q NMLZ-walk.cautiously-be.able this=TOP
 a-hōk-lò
 POSS-truth-RL
 ‘Therefore, whoever can walk over thsi thread, that one is true.’ [Konnerth 2020: 160]

4.6.3 Hyow: Chittagong Hill Tracts, Bangladesh

“Relative-correlative clauses are found in abundance in Hyow. This type of relative clauses is not native to Tibeto-Burman languages. The TB languages that have relative-correlative clauses borrowed such clauses from Indo-Aryan languages, which is due to the effect of language contact, more specifically due to the spread of Buddhism. The teachings of Buddha is written in Pali, an Indo-Aryan language. As a result, a lot of borrowings from Pali can be found in languages spoken in Southeast Asia as well as in Burmese (see Mathias 2015). Since the history of contact between the Hyow and the Marma, people who speak a dialect of Arakanese, is very long, the borrowing of Pali relative-correlative structure via Marma is quite understandable”. [Zakaria 2017: 734]

- (79) **ítíá** báng kêy kú-hlú-éy=**êṃ** èy khó=â kú-pú-hô
 when even 1SG 1A-want.II-MID=CONT.Q ANAPH.DEM time=LOC 1A-borrow.II-PM
 ‘I borrow at the time whenever I want’. [Zakaria 2017: 740]

4.6.4 Cak: Chittagong Hill Tracts, Bangladesh

- (80a) のような疑問文が、(80b) にしめすように、相関関係文の前文となる。

- (80) a. **ʔáyu** laŋ =ga =yá?
 who go =NMLS =CQ
 ‘Who will go?’
 b. **ʔáyu** laŋ =ga =yá, **ʔáma** mí =he?
 who go =NMLS =CQ 3sg. be.good =CSM
 ‘Whoever_i will go, s/he_i is good.’

4.6.5 Marma: Chittagong Hill Tracts, Bangladesh

- (81) **ja**=ma khwí hŋ=re=lé, **yáŋ**=ma krɔŋ=lé hŋ=re.
 what=LOC dog exist=RLS=CQ that=LOC cat=too exist=RLS
 ‘In the place, where dog is available, cat is available too’.

4.7 疑問語と疑問語

林 [2004: 166–167] によれば、疑問語と疑問語による相関関係文は、漢語からの借用形式である。そして、ロロ・ビルマ諸語についていえば、すくなくとも Jino 語、Achang 語、Bisu 語に確認される。筆者の調査では、ロロ・ビルマ諸語のなかでもさらに Lisu 語と Zaiwa 語に確認されるほか、チアン諸語のうち Ersu 語と Wadu Pumi 語にも確認される。

4.7.1 Ersu: Sichuan, China

- (82) **se** tə-wo ya-nts^{hə}, **se**
 whoever one-CL:generic, non-sticklike APFX-quick whoever
 tə-wo mimi la=gə
 one-CL:generic, non-sticklike meat come=PROS
 ‘Anyone who is quick will ge the meat.’ Lit.: Whoever quick, whoever meat will come.
 [Zhang 2013: 254]

4.7.2 Jino: Yunnan, China

- (83) **khɔ³³su⁵⁵** m³³=lɔ⁴⁴ **khɔ³³su⁵⁵** pi⁵⁵.
 誰 要る=も 誰 与える
 「ほしい人にあげなさい。」 (=誰がほしいのなら、誰に与えよ) [林 2009: 93]

4.7.3 Achang: Yunnan, China

- (84) **pi³¹si⁵⁵** pɔ⁵⁵, **pi³¹si⁵⁵** tɕɔ³⁵.
 what exist what eat
 ‘What_i is here, eat that_i.’ [戴・崔 1985: 77; 語釈は筆者により改変]

4.7.4 Bisu: Yunnan, China

- (85) zaj^{33} $a^{55}maj^{55}$ lin^{31} no^{33} $a^{55}maj^{55}$ be^{33}
 he what learn (part.) what understand
 ‘He is good at whatever he learns’. [Xu 2001: 103; 徐 1998: 100]

4.7.5 Lisu: Yunnan, China

- (86) $yá$ $páchìwā$ $yíphwì$ $ālīmā$ $jūa,$ $ālīmā$ $tā$ $jǎ.$
 they plain=at price whichever=item have=nom whichever=item eat=nom
 ‘As for them [the Thai], whatever brings a price down on the plain, (I’ll) plant it to earn a living’. [Roop 1970: 184]

4.7.6 Wadu Pumi: Yunnan, China

“Interrogative pronouns can be used as a pair in a correlative construction (Keenan 1985) with the structure interrogative-X=(gə), interrogative-X and an indefinite sense.” [Daudey 2014: 136]

- (87) $nǐj$ $míj$ $pù=gə$ $é=lá$ $míj$ $pú=ʃù$
 2SG what do-DEF 1SG=also what do=VOL:SG
 ‘Whatever you do, I will do as well.’ [Daudey 2014: 137^{注25}]

4.7.7 Zaiwa: Yunnan, China

- (88) ke^5-me^{55} $zang^{35}$ r^{11} ke^5-me^{55} yo^{11}
 Q-LOC strike also Q-LOC itch3
 ‘It itched wherever it touched their skin’. [Lustig 2010: 310]

4.8 インド・アリア語からの借用形式と本来語の形式とが併存

インド・アリア語からの借用語をもちいる形式と、本来語をもちいた形式が併存する言語もある。併存するばあいには、現在のところ、疑問語と指示語のくみあわせのみが確認されている。

4.8.1 Usui Tripura: Chittagong Hill Tracts, Bangladesh

以下、藤原 [2008: 109–110] を引用する。

ウスイ語においては、疑問語を相関関係節の標識としてもちいる形式 (89a) と、バングラ語

^{注25} 同一言語内で方言関係にある Prinmi 語には相関関係文が確認されていない [Ding 2014]。

からの借用語である $jè^{注26}$ をもちいる形式 (89b) とがある。

(89) a. ro =wo **təmà** tòŋ -mì, abo kəhà.

ここ =LOC COL:何 ある -NF それ 良い

ここにあるもの、それは良い

b. **jè** ro =wo tòŋ =mo =ma, abo kəhà.

COL.REL ここ =LOC ある =NMLZ.NF =DEF それ 良い

ここにあるもの、それは良い

▷ =mo (NMLZ.NF) は必須要素であるけれども、=ma (DEF) は任意の要素。

$jè$ による相関関係節は、主節も主要部名詞もともなわず、全体がひとつの名詞句としてもちいられることのほうが、むしろおおい。

4.8.2 Garo (Mandi): Modhupur, Bangladesh

“A special relative pronoun, usually *je*, is used in one clause, and a second “correlative” pronoun, usually a demonstratives, is used in the succeeding clause [...] The odd thing about the relative-correlative construction is that it appears to have been borrowed from Bengali. At least *je*, the most often-used relative pronoun, must be a borrowing [...] it is not obvious why it should have been borrowed, not only into Mandi, but more widely into other dialects of Garo.” [Burling 2004: 333–334]

(90) a. **je** man-de cha*-a-ming, **u**-a man-de-in ring-a-ming.

whatever person eat-Neut-Pst that person-Frg drink-Neut-Pst

‘Whatever person ate, that person drank.’ (BURLING 2004: 335)

b. **Ba**-ko ang-a am*-a, **u**-ko bi-a ra*-ba-in-a.

whatever-Acc I-Nomn want-Neut that-Acc he bring-Prog-Neut

‘Whatever I want, that he is bringing.’ [Burling 2004: 335]

4.8.3 Kham: Western Nepal

“Corelative structures are common in the Indic languages of the larger linguistic area, and at least one corelative in Kham appears to be a borrowing from Nepali.” [Watters 2002: 165]

(91) a. **jo** nə-pəĩ-zya, **ho** zə ŋa-yā

whatever 2S-want-CONT, that EMP 1S-give.2S

‘Whatever you desire, that I will give you.’ [Watters 2002: 166]

^{注26} $jè$ は、バングラ語における相関関係文の従属節をあらわす標識である *je* からの借用と推定される。ただし、なぜウスイ語で鼻母音であるかは不明である。

- b. **kitao** ya-le-o, **hitao** zə u-li-rə-kə
 however 3P-be-NML, like.that EMP DUM-be-3P-OPT
 ‘However they were (in whatever state), let them remain like that.’ [Watters 2002: 166]
- c. **kha:** nə-zyu-rih-zya, **ha:h** zə gəh-zyu-yo
 how.much 2S-eat-PROS-CONT, that.much EMP HOR-eat-IMP
 ‘However much you want to eat, eat that much.’ [Watters 2002: 166]

4.8.4 Dhimal: Southeastern Nepal

“There are essentially three types of relative clause constructions in Dhimal that distinguish non-specific and specific referents, i.e. an inherited construction with the nominalising morpheme <ka>, an Indo-Aryan influenced construction employing an indefinite and a definite pronoun, and a construction with an interrogative and definite pronoun that may represent an intermediate stage between the previous two constructions. All three types are common”. [King 2009: 277–278]

- (92) a. ma-ko **jai** dharma pa-khe **wa-ko** karma ca-li goi-khe.
 NEG-COP REL.what virtue do-IMP 3sg-GEN fate eat-INF must-IMP
 ‘No, whatever virtue one performs, one must accept one’s fate’. [King 2009: 280]
- b. **hesa** dheu-nha-ka hi-gha-hi **injko** bhai-pa dheu.
 how tue-MID-NOM AUX-PIMP-P that be.like-do tie
 ‘Tether him just like he had been tethered’. [King 2009: 279]

5 附録 2・相関関係文についての記述がないチベット・ビルマ諸語

5.1 相関関係文が「ない」と記述されているもの

- Balti: “Balti does not favour construction of correlative sentences with correlative conjunctions like ‘when ... then ...’, etc. Consequently, all syntactic constructions of other systems with these terms are transformed into complex sentences in their Balti renderings.” [Sharma 2004: 229] ^{注27}
- Gahri: “In Gahri there are neither relative pronouns to serve as connectives in relative clause, nor does it prefer relative clause constructions.” [Sharma 1989a: 259]
- Kanashi: “In this type of complex sentences, the relative clause which is introduced by a relative pronoun, functions as a subject or a complement of the principal clause. [...] But more often this type of complex sentences are transformed into simple sentences...” [Sharma 1992: 399]

^{注27} Balti 語については、(3) でしめしたように、相関関係文とみなせる例がある。

- Manange: “Presently, I have found no evidence of co-relativisation or of non-restrictive relatives in Manange.” [Hildebrandt 2004: 116]
- Purki: “Purki does not favour construction of correlative sentences as we find in I.E. speeches. There all compound sentences connected with ‘when ... then’ are transformed into complex sentences joined together with conjunctive participles, e.g. a statement like ‘when the work was finished then food was eaten’ will be expressed as ‘having finished the work, food was eaten’.” [Sharma 2004: 128]

このほか、筆者の調査範囲では、ビルマのカドゥー語やガナン語にも相関関係文は確認されない。

5.2 相関関係文についての記述がみられないもの

筆者が二次資料を調査したかぎりでは、相関関係文あるいはそれに類似する構文がみられなかった言語は以下のとおりである^{注28}。

- | | |
|------------------------------------|--|
| • Amdo Tibetan: 海老原 [2019] | • Guìqióng: Jiāng [2015] |
| • Anong: Sun & Liu [2009] | • rGyalrong (Jiǎomùzú; Kyom-kyo): Prins [2017] |
| • Apatani: Abraham [1985] | • Hmar: Dutta Baruah & Bapui [1996] ^{注29} |
| • Bai (Minjia): Wiersma [1990] | • Jero: Opgenort [2005] |
| • Bawm: Reichle [1981] | • Kayah Monu: Wai Lin Aung [2013] |
| • Bjokapakha: Grollmann [2020] | • Khezha: Kapfo [2005] |
| • Bumthang: van Driem [2015] | • Kiranti-Bayung: Rapacha [2008] |
| • Bunan: Widmer [2017] | • Kulung: Tolsma [2006] |
| • Classical Limbu: Angdembe [2019] | • Kurtöp: Hyslop [2017] |
| • Colloquial Burmese: Okell [1969] | • Lalo: Björverud [1998] |
| • Daai Chin: So-Hartmann [2008] | • Lhasa Tibetan: Denwood [1999] |
| • Duhumbi: Bodt [2020] | • Limbu: van Driem [1997] |
| • Dumi: van Driem [1993] | • Mao Naga: Giridhar [1994] |
| • Dura: Schorer [2016] | • Meithei: Chelliah [1997] |
| • Dzonkha: van Driem [1998] | • Mikir: Grüßner [1978] |
| • Eastern Kayah Li: Solnit [1997] | |
| • Geba Karen: Naw Hsar Shee [2008] | |

^{注28} 筆者は以前このリストの中に Bhujel 語の例として Regmi [2007]、Karbi 語の例として Konnerth [2014] をいれていた。しかし、後に両者においても相関関係文についての記述があることに気がついた。このように、筆者がみおとしているだけで、実際には相関関係文がある言語もふくまれている可能性は十分にある。

^{注29} Dutta Baruah & Bapui [1996: 144–145] には相関関係文のようにみえる例もあがる。しかし、語釈がかならずしも一貫しているようにはみえない。そこで、相関関係文の例とはかんがえなかった。

- Mishmi: Sastry [1984]
- Mising: Prasad [1991]
- Mosuo (Yongning Na; Naxi): Lidz [2010]
- Nuosu: Gerner [2013]
- Purki: Rangan [1979]
- Pwo Karen: 加藤 [2004]
- Qiang: LaPolla and Huang [2003]
- Rongpo: Sharma [2001a^{注30}]
- Sema: Sreedhar [1980]
- Sherpa: Kelly [2004]
- Sunwar: Borchers [2008]
- Tangam: Post [2017]
- Tangkhul Naga: Arokianathan [1987]
- Tarao: Singh [2002]
- Tiddim Chin: Henderson [1965]
- Tujia: Brassett & Brassett & Lu [2006]
- Yao'an Lolo: Merrifield [2010]
- Yohlmo: Hari [2010]

記号・略号一覧

以下の略号は筆者によるものである。二次資料からの引用にあるものはふくまれていない。

- CC: correlative construction
- CLF: classifier
- COND: conditional
- CSM: change of state marker
- COREL: correlative marker
- DEF: definite
- EMPF: emphatic
- ERG: ergative
- EXP: experience
- FUT: future
- GEN: genitive
- IMP: imperative
- LOC: locative
- NEG: negative
- NMLS: nominaliser
- OBJ: object marker
- PRF: perfect
- PURP: purposive
- REL: relative marker
- RLS: realis
- SFP: sentence final particle

参考文献

【日本語】

- 海老原志穂. 2019. 『アムド・チベット語文法』 ひつじ書房.
 大野 徹. 2000. 『ビルマ (ミャンマー) 語辞典』、大学書林.
 加藤昌彦. 2004. 『ポー・カレン語文法』、東京大学博士学位申請論文.
 杉村博文. 2000⁸ (1994). 『中国語文法教室』、大修館書店.

^{注30} インド・アーリア語起源の関係節が使用される例が Sharma [2001a: 209–210] にみられる。ただし、これが相関関係文であるようにはおもわれない。

(i) **dhe** kyēTi **gho** Dya:ra ka:m ləɕɕ
 that girl who house work doing
 ‘that girl who is working in the house’ [Sharma 2001a: 209]

- 武内紹人・高橋慶治. 2016. 「チベット語の基礎」『チベット語文法研究』神戸市外国語大学研究叢書 57, Pp. 87(0)–193(110).
- 林 範彦. 2004. 「チノ語における漢語からの文法的借用」、『日本中国語学会第 54 回全国大会予稿集』、165–169.
- 林 範彦. 2009. 『チノ語（悠楽方言）の記述研究』神戸市外国語大学研究叢書 43.
- 藤原敬介. 2008. 「ウスイ語文法の概要」『京都大学言語学研究』 27: 81–124.
- 藤原敬介. 2021. 「チベット・ビルマ諸語における相関関係文の地理的分布」、日本地理言語学会第 3 回大会、2021-10-02.
- 山口瑞鳳. 1998. 『チベット語文語文法』春秋社.

【漢語】

- 戴慶厦・崔志超 (Dài Qìngxia · Cuī Zhìchāo) (編著) 1985. 『阿昌語簡志』、民族出版社.
- 徐世璇 (Xú Shìxuán) 1998. 『畢蘇語』、上海遠東出版社.

【その他の言語】

- Abraham, P. T. 1985. *Apatani grammar*. Mysore: Central Institute of Indian Languages.
- Andvik, Erik. 1999. *Tshangla grammar*. University of Oregon Ph.D. dissertation.
- Andvik, Erik. 2003. Tshangla. In Thurgood, Graham and Randy J. LaPolla (eds.), *The Sino-Tibetan Languages*. London; Routledge, 439–455.
- Angdembe, Tej Man. 2019. *The classical Limbu language: grammar and dictionary of a Kirat Mundhum*. Kamaladi Kathmandu: Nepal Academy.
- Arokianathan, S. 1987. *Tangkhol Naga grammar*. Mysore: Central Institute of Indian Languages.
- Bagchi, Tista. 1994. Bangla correlative pronouns, relative clause order, and D-linking. In Butt, Miriam, Tracy Holloway King & Gilliam Ramchand (eds.), *Theoretical perspectives on word order in South Asian languages*, 13–29.
- Björverud, Susanna. 1998. *A grammar of Lalo*. Lund: Department of East Asian Languages, Lund University.
- Bodt, Timotheus Adrianus. 2020. *Grammar of Duhumbi (Chugpa)*. Leiden: Brill.
- Borchers, Dörte. 2008. *A grammar of Sunwar: descriptive grammar, paradigms, texts and glossary*. Leiden: Brill.
- Brassett, Cecilia, Philip Brassett and Meiyang Lu. 2006. *The Tujia language*. Muenchen: LINCOM Europa.
- Breugel, Seno van. 2014. *A grammar of Atong*. Leiden: Brill.
- Burling, Robbins. 1961. *A Garo grammar*. Poona: Deccan College.
- Burling, Robbins. 2004. *The Language of the Modhupur Mandi (Garo), Vol. I: grammar*. New Delhi: Bibliophile South Asia.
- Cable, Seth. 2009. The syntax of the Tibetan correlative. In Lipták (ed.), 195–222.

- Chao, Yuen Ren[趙元任]. 1968. *A grammar of spoken Chinese*. Berkeley: University of California Press.
- Clark, Mary M. 1893. *The Ao Naga grammar: with Illustrations Phrases and Vocabulary*. Repr. New Delhi 2002: Mittal Publications.
- Coupe, Alexander R. 2007. *A grammar of Mongsen Ao*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Coupe, Alexander R. 2018. South Asian perspectives on relative-correlative constructions. Paper presented at the 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics, Kyoto University.
- Daudey, Gerdine Henriëtte. 2014. *A grammar of Wadu Pumi*. Ph.D. Thesis, La Trobe University.
- Denwood, Philip. 1999. *Tibetan*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.
- DeLancey, Scott. 2011. Finite structures from clausal nominalization in Tibeto-Burman. In Foong Ha Yap, Karen Grunow-Härsta & Janick Wrona (eds.), *Nominalization in Asian languages: diachronic and typological perspectives*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins. 343–359.
- Ding, Picus Sizhi. 2014. *A grammar of Prinmi*. Leiden: Brill.
- Doornenbal, Marius. 2009. *A grammar of Bantawa: grammar, paradigm tables, glossary and text of a Rai language of Eastern Nepal*. Ph.D Thesis, Universiteit Leiden.
- Downing, Bruce T. 1974. Correlative relative clauses in universal grammar. *Minnesota Working Papers in Linguistics and Philosophy of Language* 2, 1–17.
- van Driem, George. 1987. *A grammar of Limbu*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- van Driem, George. 1993. *A grammar of Dumi*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- van Driem, George. 1998. *Dzongkha*. Leiden: Research School CNWS.
- van Driem, George. 2015. Synoptic grammar of the Bumthang language, *Himalayan Linguistics Archive* 6: 1–77.
- Duroiselle, Charles. 1997³. *A Practical grammar of the Pāli Language*. Buddha Dharma Education Association Inc.
http://www.buddhanet.net/pdf_file/paligram.pdf (2005-12-17 閲覧)
- Dutta Baruah, P. N. and V. L. T. Bapui. 1996. *Hmar grammar*. Mysore: Central Institute of Indian Languages.
- Ebert, Karen. 1997a. *A grammar of Athpare*. München: Lincom Europa.
- Ebert, Karen. 1997b. *A grammar of Camling*. München: Lincom Europa.
- Genetti, Carol. 1992. Semantic and grammatical categories of relative clause morphology in the languages of Nepal. *Studies in Language*, Volume 16-2, 405–427.
- Genetti, Carol. 1994. *A descriptive and historical account of the Dolakha Newari dialect*. Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa.

- Genetti, Carol. (ed.) 2004. *Tibeto-Burman languages in Nepal: Manange and Sherpa*. Canberra: Pacific Linguistics.
- Gerner, Matthias. 2013. *A grammar of Nuosu*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Giridhar, P. P. 1994. *Mao Naga grammar*. Mysore: Central Institute of Indian Languages.
- Grollmann, Selin. 2020. *A grammar of Bjokapakha*. Leiden: Brill.
- Grunow-Hårsta, Karen. 2008. *A descriptive grammar of two Magar dialects of Nepal: Tanahu and Syangja Magar*. Ph.D. Thesis, The University of Wisconsin-Milwaukee.
- Grübner, Karl-Heinz. 1978. *Arleng Alam — Die Sprache der Mikir*. Wiesbaden: Franz Steiner Verlag.
- Hale, Austin and Kedār P. Shrestha. 2006. *Newār (Nepāl Bhāsā)*. Muenchen: Lincom Europa.
- Hari, Anna Maria. 2010. *Yohmo grammar sketch*. Kathmandu: SIL International and Central Department of Linguistics, Tribhuvan University.
- Henderson, Eugénie J. A. 1965. *Tiddim Chin: A Descriptive Analysis of Two Texts*. London: Oxford University Press.
- Hildebrandt, Kristine A. 2004. A grammar and glossary of the Manange language. In Genetti (ed.), 1–189.
- Huziwara, Keisuke. 2005. Correlative construction in Cak. Paper presented at the 11th Himalayan Languages Symposium, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand.
- Hyslop, Gwendolyn. 2017. *A grammar of Kurtöp*. Leiden: Brill.
- Jacques, Guillaume. 2021. *A grammar of Japhug*. Berlin: Language Science Press.
- Jacquesson, François. 2005. *Le deuri: langue tibéto-birmane d'Assam*. Leuven-Paris: Peeters.
- Jiāng, Lì. 2015. *A grammar of Guìqióng*. Leiden: Brill.
- Jørgensen, Hans. 1941. *A grammar of the classical Newārī*. København: Ejnar Munksgaard.
- Kansakar, Tej et al. 2011. *A grammar of Baram*. Kathmandu: Tribhuvan University.
- Kapfo, Kedutso. 2005. *The ethnology of the Khezhas & the Khezha grammar*. Mysore: Central Institute of Indian Languages.
- Keenan, Edward L. 1985. Relative clauses. In Shopen, Timothy (ed.), *Language typology and syntactic description, Volume II, Complex constructions*. 141–170. Cambridge: Cambridge University Press.
- Kelly, Barbara. 2004. A grammar and glossary of the Sherpa language. In Genetti (ed.), 193–324.
- King, John. 2009. *A grammar of Dhimal*. Leiden: Brill.
- Kiryu, Kazuyuki. 2008. *An outline of the Meche language—grammar, text and glossary—*. A report of the project “A research on the Meche language: its grammatical description and documentation” supported by the Grant-in-Aids for Scientific Research, the Ministry of Education, Sports and Culture, Japan, No.17720093, 2005-2007.
- Konnerth, Linda. 2014. A grammar of Karbi. University of Oregon Ph.D. dissertation.

- Konnerth, Linda. 2020. *A grammar of Karbi*. Berlin/Boston: De Gruyter Mouton.
- Konow, Sten. 1903. Notes on the Maghī dialect of the Chittagong Hill Tracts. *Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft* 57: 1–12.
- Koshal, Sanyukta. 1979. *Ladakhi grammar*. Delhi: Motilal Banarsidass.
- Krishan, Shree. 2001a. A sketch of Darma grammar. In Nagano and LaPolla (eds.), 347–400.
- Krishan, Shree. 2001b. A sketch of Chaudangsi grammar. In Nagano and LaPolla (eds.), 401–448.
- Krishan, Shree. 2001c. A sketch of Raji grammar. In Nagano and LaPolla (eds.), 449–497.
- Lai, Yunfan. 2018. Relativisation in Wobzi Khroskyabs and the integration of genitivation, *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 41(2): 219–262.
- LaPolla, Randy J. with Chenglong Huang 2003. *A grammar of Qiang with annotated texts and glossary*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Lidz, Liberty A. 2010. *A descriptive grammar of Yongning Na (Mosuo)*. Ph.D. Thesis, The University of Texas at Austin.
- Lipták, Anikó. 2009. The landscape of correlatives: an empirical and analytical survey. In Lipták (ed.), 1–46.
- Lipták, Anikó (ed.) 2009. *Correlatives cross-linguistically*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.
- Lustig, Anton. 2010. *A grammar and dictionary of Zaiwa: volume one: grammar*. Leiden: Brill.
- Malla, Kamal P. 1985. *The Newari language: A working outline*. Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa.
- Matisoff, James A. 1982². *The grammar of Lahu*. Berkeley: University of California Press.
- Masica, Colin P. 1991. *The Indo-Aryan languages*. Paperback edition, Cambridge: Cambridge University Press.
- Matthews, David. 1992². *A course in Nepali*. Second Indian Reprint, Kathmandu 1996: Ratna Pustak Bhandar.
- Mazaudon, Martine. 1978. La formation des propositions relatives en tibétain. *Bulletin de la société de linguistique de Paris* 73: 401–414.
- Merrifield, Judith Thomas. 2010. *Yao'an Lolo grammar sketch*. MA Thesis, Dallas International University.
- Nagano, Yasuhiko and Randy J. LaPolla (eds.). 2001. *New Research on Zhangzhung and Related Himalayan Languages*. Osaka: National Museum of Ethnology.
- Nagaraja, K. S. 2010. *Konyak grammar*. Mysore: Central Institute of Indian Languages.
- Naw Hsa Eh Ywar. 2013. *A grammar of Kayan Lahta*. MA Thesis, Payap University.
- Naw Hsar Shee. 2008. *A descriptive grammar of Geba Karen*. MA Thesis, Payap University.

- Nishi, Yoshio. 1992. A survey of the present state of our knowledge about the Himalayan languages, ICSTLL #25, Berkeley.
- Noonan, Michael. 1999. *Chantyal dictionary and texts*. Berlin/New York: Mouton de Gruyter.
- Noonan, Michael. 2003. Recent language contact in the Nepal Himalaya. In Bradley, David, Randy LaPolla, Boyd Michailovsky and Graham Thurgood (eds.), *Language variation: Papers on variation and change in the Sinosphere and in the Indosphere in honour of James A. Matisoff*. Canberra: Pacific Linguistics, 65–87.
- Noonan, Michael. 2006. Contact-induced change in the Himalayas: the case of the Tamangic languages. Paper presented at *International Colloquium on Language Contact and Contact Languages*, University of Hamburg, July 6-8, 2006.
- Okell, John. 1965. Nissaya Burmese, a case of systematic adaptation to a foreign grammar and syntax. *Lingua* 15: 186–227.
- Okell, John. 1967. Nissaya Burmese, a case of systematic adaptation to a foreign grammar and syntax. *Journal of the Burma Research Society* 50(1): 95–123.
- Okell, John. 1969. *A reference grammar of colloquial Burmese*. London: Oxford University Press.
- Opgenort, Jean Robert. 2004. *A grammar of Wambule*. Leiden: Brill.
- Opgenort, Jean Robert. 2005. *A grammar of Jero*. Leiden: Brill.
- Owen-Smith, Thomas. 2014. *Grammatical relations in Tamang, a Tibeto-Burman language of Nepal*. Ph.D. Thesis, SOAS, University of London.
- Pai, Pushpa. 1976. *Kokborok grammar*. Mysore: Central Institute of Indian Languages.
- Post, Mark. 2007. *A grammar of Galo*. Ph.D. Thesis, La Trobe University.
- Post, Mark. 2017. *The Tangam language: grammar, lexicon and texts*. Leiden: Brill.
- Poudel, Kedar Prasad. 2006. *Dhankute Tamang grammar*. Muenchen: Lincom Europa.
- Prasad, Bal Ram. 1991. *Mising grammar*. Mysore: Central Institute of Indian Languages.
- Prins, Marielle. 2017. *A grammar of rGyalrong, Jiăomùzú (Kyom-kyo) dialects: a web of relations*. Leiden: Brill.
- Rai, Netra Mani. 2016. *A grammar of Dumi*. Ph.D. Thesis, Tribhuvan University.
- Rai, Tani Mari. 2015. *A grammar of Koyee*. Ph.D. Thesis, Tribhuvan University.
- Rangan, K. 1979. *Purki grammar*. Mysore: Central Institute of Indian Languages.
- Rapacha, Lal-Shyākarelu. 2008. *Kiranti-Bayung grammar, texts and lexicon*. Kathmandu.
- Read, A. F. C. 1934. *Balti grammar*. London: The Royal Asiatic Society.
- Regmi, Ambika. 2013. *A grammar of Magar Kaike*. Muenchen: LINCOM Europa.
- Regmi, Dan Raj. 2007. *The Bhujel language*. Ph.D. Thesis, Tribhuban University.
- Reichle, Verena. 1981. *Bawm Language and Lore: Tibeto-Burman Area*. Bern: Peter Lang.

- Riccardi, Theodore. 2003. Nepali. In Cardona, George and Danesh Jain (eds.), *The Indo-Aryan Languages*. London: Routledge.
- Roop, Delagnel Haigh. 1970. *A grammar of the Lisu language*. Ph.D. Thesis, Yale University.
- Rutgers, Roland. 1998. *Yamphu: grammar, texts & lexicon*. Leiden: Research School CNWS.
- Sastry, G. Devi Prasada. 1984. *Mishmi grammar*. Mysore: Central Institute of Indian Languages.
- Schackow, Diana. 2015. *A grammar of Yakkha*. Berlin: Language Science Press.
- Schorer, Nicolas. 2016. *The Dura language: grammar and phylogeny*. Leiden: Brill.
- Sharma, D. D. 1988. *A descriptive grammar of Kinnauri*. New Delhi: Mittal Publications.
- Sharma, D. D. 1989a. *Tribal languages of Himachal Pradesh (Part One)*. New Delhi: Mittal Publications.
- Sharma, D. D. 1989b. *Tibeto-Himalayan languages of Uttarakhand (Part One)*. New Delhi: Mittal Publications.
- Sharma, D. D. 1990. *Tibeto-Himalayan languages of Uttarakhand (Part Two)*. New Delhi: Mittal Publications.
- Sharma, D. D. 1992. *Tribal languages of Himachal Pradesh (Part Two)*. New Delhi: Mittal Publications.
- Sharma, D. D. 1994. *A comparative grammar of Tibeto-Himalayan Languages*. New Delhi: Mittal Publications.
- Sharma, D. D. 2003. *Tribal languages of Ladakh (Part Two)*. New Delhi: Mittal Publications.
- Sharma, D. D. 2004. *Tribal languages of Ladakh (Part Three)*. New Delhi: Mittal Publications.
- Sharma, Shuhnu Ram 2001a. A sketch of Rongpo grammar. In Nagano and LaPolla (eds.), 195–270.
- Sharma, Shuhnu Ram 2001b. A sketch of Byangsi grammar. In Nagano and LaPolla (eds.), 271–341.
- Shougrakpam, Dhanapati. 2014. Relative clause structure in Manipuri, *IOSR Journal of Humanities and Social Science* 19(10): 11-14.
- Singh, Chungkham Yashawanta. 2002. *Tarao grammar*. New Delhi: Akansha Publishing House.
- So-Hartmann, Helga. 2009. *A descriptive grammar of Daai Chin*, STEDT Monograph Series #7. Berkeley: University of California, Berkeley.
- Solnit, David. 1997. *Eastern Kayah Li: grammar, Texts, Glossary*. Honolulu: University of Hawai'i Press.
- Sreedhar, M. V. 1980. *Sema grammar*. Mysore: Central Institute of Indian Languages.
- Srivastav, Veneeta. 1991. The syntax and semantics of correlatives. *Natural Language & Linguistic Theory*, Volume 9, No. 1, 637–686.
- Subba, Subhadra. 1972. *Descriptive analysis of Magar: a Tibeto-Burman language*. Ph.D. Thesis, The University of Poona.

- Sun, Hongkai & Guangkun Liu. 2009. *A grammar of Anong: language death under intense contact*. Leiden: Brill.
- Tambahang, Govinda Bahadur. 2004. The morphosyntax of relativization in Chhathare Limbu: a typological perspective, *Tribhuvan University Journal* 24(1): 70–77.
- Tolsma, Gerard Jacobus. 2006. *A grammar of Kulung*. Leiden: Brill.
- Trivedi, Govind Mohan. 1991. *Descriptive grammar of Byansi—a Bhotiya language*. Calcutta: Anthropological Survey of India.
- Turin, Mark. 2012. *A grammar of the Thangmi language: with an ethnolinguistic introduction to the speakers and their culture* 2 vols. Leiden: Brill.
- Vesalainen, Olavi. 2016. *A grammar sketch of Lhomi*. SIL International.
- Wai Lin Aung. 2013. *A descriptive grammar of Kayah Monu*. MA Thesis, Payap University.
- Watters, David E. 2002. *A grammar of Kham*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Widmer, Manuel. 2017. *A grammar of Bunan*. Berlin/Boston: De Gruyter Mouton.
- Wiersma, Grace Claire. 1990. *A study of the Bai (Minjia) language along historical lines*. Ph.D. Thesis, University of California, Berkeley.
- Willis Oke, Christina. 2019. *A grammar of Darma*. Leiden: Brill.
- Xu, Shixuan. 2001. *The Bisu language* (Translated by Cecilia Brassett). Muenchen: LINCOM Europa.
- Yliniemi, Yuha. 2019. *A descriptive grammar of Denjongke (Sikkimese Bhutia)*. Ph.D. Thesis, University of Helsinki.
- Zakaria, Muhammad. 2017. *A grammar of Hyow*. Ph.D. Thesis, Nanyang Technological University.
- Zemp, Marius. 2018. *A grammar of Purik Tibetan*. Leiden: Brill.
- Zhang, Sihong. 2013. *A reference grammar of Ersu: a Tibeto-Burman language of China*. Ph.D. Thesis, James Cook University.

(附記) 本稿は科学研究費補助金 (課題番号 20K00570) による研究成果の一部である。

受理日 2023 年 4 月 11 日

南琉球八重山語大浜方言のアクセント資料*

セリック・ケナン[†] 麻生玲子[‡]

キーワード：八重山語、大浜方言、アクセント

概要

本稿は、南琉球八重山語大浜方言のアクセント体系に関する予備的考察および、470語のアクセント型所属情報を提示したものである。秋永(1960)、平山ほか(1967)の研究以降、大浜方言では少なくとも2つのアクセント型(下降型、平板型)が対立することが知られているが、大浜方言のアクセント体系を詳細に記述した研究は未だに実現していない。筆者らは2022年より大浜方言話者らと協力し、アクセントを含め総合的な調査を開始している。現時点での調査資料の分析に基づき、現代大浜方言も先行研究で記述されている通り、下降型と平板型のアクセント型を区別しているという結果が得られた。あわせて、470語についてそのアクセント型の所属情報を報告する。

1 はじめに

南琉球八重山語石垣^{おおはま}大浜方言(自称 *hoomamuni*、以下「大浜方言」)は、沖縄県石垣市大浜集落で話されている方言である。系統的に八重山語の中で石垣^{しか}四箇方言に最も近いとされている(ローレンス 2000)。大浜方言は秋永(1960)、平山ほか(1967)の研究以降、少なくとも2つのアクセント型(下降型、平板型)が対立することが知られているが、アクセント体系を詳細に記述した研究はない。さらに、各語彙の所属情報としては、平山ほか(1967)が報告した613語の報告のみで、大浜方言の所属体系もほとんど不明のままである。

通時的な観点から見ると、大浜方言におけるアクセント型の対立は琉球祖語から継承された古い対立の保持であると考えられるため、この方言の所属情報は八重山祖語の系列を再建するための有効なデータとなり得る。したがって、大浜方言のアクセント体系の詳細な分析を行うことや、各語のアクセント型の所属情報を報告することは歴史研究を進めるうえでも課題であると言えよう。本稿では、その課題に取り組む第一歩として、筆者らが2022年から進めてきた現地調査の結果に基づき、平山ほか(1967)から50年以上経過した後の、現代の大浜方言のア

* 本研究は JSPS 科費 18K12390、19K13174、19H00530、20H01259、21H00353、22F22305 および 国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本・琉球語諸方言におけるイントネーションの多様性解明のための実証的研究」(代表：五十嵐陽介)、「消滅危機言語の保存研究」(代表：山田真寛)の助成を受けたものです。本稿の作成にあたり、ホームムニ伝承会の方々に多大なるご協力をいただきました。心より感謝を申し上げます。調査の調整などをしてくださった小椋和弘氏にも感謝を申し上げます。また、数多くの有益なコメントを下された落合いずみ氏にも深く感謝を申し上げます。

[†] 国立国語研究所

[‡] 名桜大学

クセント体系に関する予備的考察と、470 語のアクセント型所属情報を提示する。

2 先行研究

大浜方言に関する先行研究は全体として非常に少ない。平山ほか (1967) が最も大きな先行研究であり、アクセント、音韻、文法（動詞・形容詞の活用）に関する概説を含んでいる他、アクセント情報の付いた 613 項目（重複も含む）の語彙を収録している。この他に大浜方言の動詞活用を扱った名嘉真 (1989)、占部 (2022) と、焦点標識とモダリティを扱った占部 (2018) がある。さらに、地元の方々によって 2008 年に結成された大浜方言伝承会が編集した冊子がある (大浜方言伝承会 2013)。本冊子は伝承会の数年間の活動結果をまとめており、様々な文法項目に関連する方言の例文と約 1,000 語の語彙資料などを含んでいる。ただし、アクセント情報の記載はない。

2.1 音韻論

大浜方言の音韻論については平山ほか (1967) と名嘉真 (1989) にごく簡単な記述がある。これらの研究は音声に関する詳細な記述や具体的な対立を提示してはいないが、掲げている音素目録は一致している(1) ([] 内に音声的な実現を示す)。なお、撥音/N/は成節的になりえる(2) (「.」は音節境界を示す)。

- (1) 子音 (14 個) /h, ' [ʔ], k, g, t, d, c [ts], s, z [dz], r, n, p, b, m/
 母音 (6 個) /i, e, i, a, u, o/
 拍音素 /Q, N [m] ~ [n] ~ [ŋ] ~ [N]/
- (2) a. /NN.cu/ 「六つ」
 b. /N.gi/ 「棘」

今回の調査協力者も、上記の先行研究の協力者とは世代が違うものの、(1)と同じ音韻体系である。ただし / / は、先行研究で語頭母音に先行する声門閉鎖音として、あるいは母音連続の境 (すなわち無音) を表す際に用いられているが、それを音素として想定するメリットはないため、本稿では音素として認めない立場を取る。

先行研究の指摘の通り、大浜方言において /i/ が衰退していく傾向が顕著である。すなわち、本稿筆者の調査でも /i/ は /i/ または /u / に合流していくことが確認できた(3)。/i/ の保持状態については最も個人差があるようで、予備的な観察においてその母音を殆ど確認できなかった話者もいる。

- (3) a. /ni:bari/ ~ /ni:bari/ ~ /ni:baru/ 「根」¹
 b. /kin/ ~ /kin/ 「着物」

¹ 同じ母音交代として、/ki:nu nari/ ~ /ki:nu naru/ 「木の実」が挙げられる。

同様に、先行研究で指摘されている通り、(単子音の) /p/ が /h/ に変化しつつあることも確認できた(4)。ただし、現段階では /p/ か /h/ かはほとんどの場合において自由変異のようである。また、/h/ [h] と /hw/ [ɸ] の音韻的対立を保つためか、後続する母音が /u/ である環境以外は [p] > [ɸ] のような音変化の中間的な段階は全く見られない。

- (4) a. /pa:/ ~ /ha:/ 「歯」
 b. /pasan/ ~ /hasan/ 「鋏」

2.2 アクセント体系

平山ほか (1967) は、2 拍から 3 拍の単純名詞と 3 拍から 4 拍語を中心とした動詞と形容詞の調査結果から、大浜方言のアクセント体系は 2 種類のアクセント型が対立すると述べている。以下、例においてピッチの高い拍を [] で囲う。1 つの型はピッチのピークが第 1 拍に実現する「頭高型」(5)で、もう 1 つの型は語全体が平板に発音される「低平型」である(6)²。ただし、頭高型は第 1 拍の母音が無声化するとピッチのピークが第 2 拍に実現し(5cd)、また、語に助詞が付くと高いピッチが第 2 拍まで実現するという(5e-h)。

- (5) 頭高型 (平山ほか 1967:38)
- a. [ʔu]sᵊ 「牛」
 b. [pa]na 「鼻」
 c. Fᵊ[tsu] 「口」
 d. pᵊ[tu] 「人」
 e. [ʔusi]ndu [ʔu]ru 「牛がいる」
 f. [pana]ndu takasa:du ʔaru 「鼻が高い」
 g. Fᵊ[tsu]ndu jamu 「口が痛い」
 h. pᵊ[tu]ndu [ʔu]ru 「人がいる」

- (6) 低平型 (平山ほか 1967:38)
- a. ʔusi 「白」
 b. pana 「花」
 c. ʔusiᵊndu ʔaru 「白がある」
 d. panandu ʔaru 「花がある」

² 平山は八重山語諸方言に分布する平板型をすべて「低平型」と見る顕著な傾向がある。これに対して秋永 (1960) は同じ型を「高平型」と記述する傾向がある。この 2 つの解釈は一見矛盾しているが、当該研究で採用されている高低 2 段階の枠組みでは両方とも妥当であると言える。なぜならば、八重山語諸方言に分布する平板型はそれと対立する下降型のピークより低いと同時に、下降型のピッチの終着点より高いからである (例えば宮良方言に関するセリックほか (2022) の記述などを参照されたい)。そのため、平板型を「高・低」の 2 段階で解釈しようとすると、下降型のどの点 (ピーク対終着点) と比較するかによって異なる解釈 (「低平型」または「高平型」) が生じる。平山や秋永のどちらかが観察を「誤っている」わけではない。ただし、音声的に石垣島諸方言の平板型より実際に低く実現する与那国方言の B 型については、秋永でも「低平型」として記述している。

平山ほか (1967) は以上のアクセント型の実現などに基づき、大浜方言アクセントの弁別的素性が第1拍の直後における下がり目の有無であるという音韻的な解釈を提示している。

3 調査情報およびデータ

2022年の4月よりホームムニ伝承会の方々と協力し、2023年3月まで数回にわたり現地調査を実施した。話者は(7)の通りである。

- (7) 前津 栄昭 (昭和16年生)
大島 克博 (昭和22年生)
長浜 寛 (昭和30年生)

調査の主な内容は次の通りである。大浜方言伝承会 (2013) の語彙資料を電子化し、セリック・大浦 (2022) のフォーマットに整理してから、上記のホームムニ伝承会の方々と一緒に各項目の確認作業を行った。確認済みの項目は音形の確認とともにアクセント型が特定できるよう、単独発音や該当の語を枠文に入れた発音を収録した。現時点では1658点の音声資料が整備済みである。本稿はこれらの音声資料に基づく。

4 (現代) 大浜方言のアクセント体系に関する予備調査結果

本節では、音声資料が最も多い大島氏の発音を中心に、大浜方言のアクセント体系に関する予備的な考察結果を報告する。以下、例においてピッチの下降を「 \downarrow 」で示し、文節全体が平板に発音される場合には「 $=$ 」の記号で示す。

2拍および3拍の単純名詞は平山ほか (1967) の通り、2種類の音調が観察される。すなわち、急で、大幅なピッチの下降が実現する語(8)と、語全体がやや高いピッチで平たく発音される語がある(9)。さらに、アクセント型の最小対(「井戸」(8cd)・図2に対する「皮」(9cd)・図4)も見つかるため、観察される2つの音調は対立するアクセント型であると解釈できる。下降の実現する型は「下降型」、平たく発音される型は「平板型」と呼ぶ。図1から4にそれぞれの型のピッチ曲線を示す。

- (8) 下降型に所属する名詞例
- | | | |
|----|---------------|----------|
| a. | ka]ni | 「金」 |
| b. | kani]nu ... | 「金の...」 |
| c. | ka]: | 「井戸」 |
| d. | ka:]nu ... | 「井戸の...」 |
| e. | kuga]ni | 「黄金」 |
| f. | kuga]ninu ... | 「黄金の...」 |
| g. | ka:]ra | 「川」 |
| h. | ka:]ranu ... | 「川の...」 |

(9) 平板型に所属する名詞例

- a. iru = 「色」
- b. irunu = ... 「色の…」
- c. ka: = 「皮」
- d. ka:nu = ... 「皮の…」
- e. anabu = 「穴」
- f. anabunu = ... 「穴の…」
- g. ka:ra = 「瓦」
- h. ka:ranu = ... 「瓦の…」

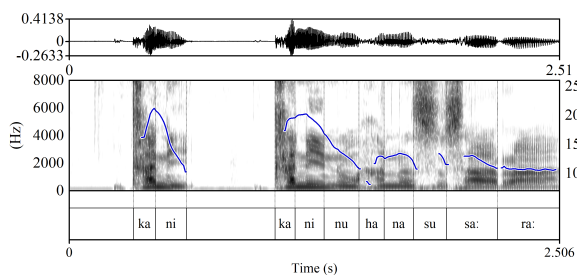


図1 kani 「金」の実現 (大島氏)

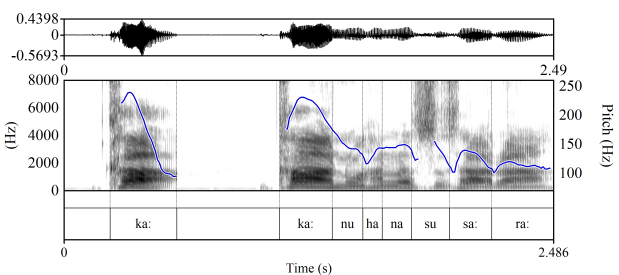


図2 ka: 「井戸」の実現 (大島氏)

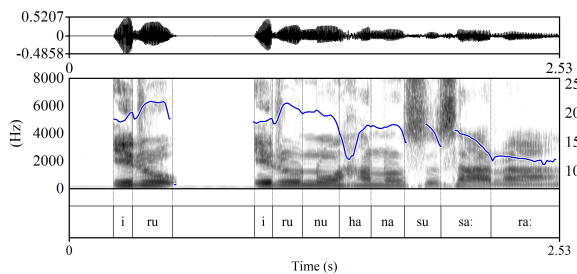


図3 iru 「色」の実現 (大島氏)

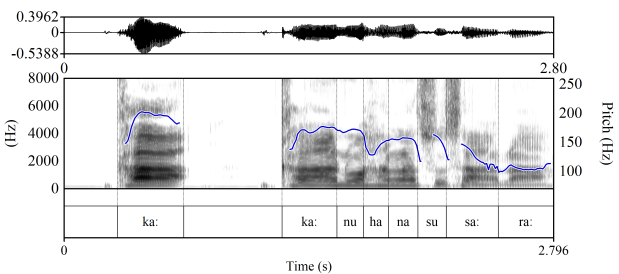


図4 ka: 「皮」の実現 (大島氏)

上の(8)や図1から2で分かるように、下降型における下降の位置は条件により異なる。すなわち、2拍名詞の単独発音ではピッチの下降が第1拍の直後に実現する。これに対して同2拍名詞に1拍助詞が付くと、ピッチの下降が第2拍の直後に実現する。「黄金」(8ef)や「川」(8gh)などの3拍名詞は単独の発音でも助詞が付いた発音でも常にピッチの下降が第2拍の直後に実現する。これに対し、平板型は第1拍がやや低く発音される場合もある(図3)が、基本的に語全体が平たく発音される。したがって、本調査の結果は、下降型における3拍名詞の下降位置が1拍分右にずれている点以外、下降型および平板型の実現は平山ほか(1967)の記述と完全に一致している。3拍名詞における下降位置の違いについては平山ほか(1967)の調査協力者と本調査の調査協力者間の世代差が関わっている可能性も考えられる。単純名詞の実現を表1にまとめる。

このほか、動詞は単純名詞と同様に下降型と平板型が対立する(10)(11)。

表1 2拍・3拍名詞の実現

型	拍数	単独	Xnu ...
下降型	2	○]○	○○]nu ...
	3	○○]○	○○]○ nu ...
平板型	2	○○ =	○○ nu = ...
	3	○○○ =	○○○ nu = ...

(10) 下降型に所属する動詞例

- a. **kara]sUN** 「貸す」
- b. **kai]rUN** 「変える」
- c. **sutirUN** 「捨てる」

(11) 平板型に所属する動詞例

- a. **idirUN =** 「出る」
- b. **kairUN =** 「帰る」
- c. **ugamUN =** 「拝む」

5 アクセント資料

5.1 凡例

5.3節の表2に、総数470語の大浜方言のアクセント資料を提示する(大島氏は452語、前津氏は259語)。このうちの258語は平山ほか(1967)にも掲載がある。語の配列は、仮名表記の五十音順に従う。

「大」「前」の欄ではそれぞれ大島氏、前津氏のアクセント型を示す。アクセント型の認定は単独発音および名詞の場合 *Xnu hanasu ...* 「Xの話(をしよう) (Xは任意の対象語)の粹文に基づいて行った。「F」は下降型、「H」は平板型を表す。「平」の欄では平山ほか(1967)で報告されているアクセント型を示す。平山ほか(1967)で報告されている下降型はピッチの下降位置が語によって異なるため、ピッチの下降が何番目の拍の後に実現するかを示す「F1」「F2」「F3」などの記号を使用した。同様に「大」「前」の発音で下降型とは見なせないが、下降を伴う語は下降の位置を示す「F2」³、「F3」⁴の記号を使用した。

大浜方言の語形は主に大島氏の発音に基づく。調査では /u/ とは対立する /i/ を観察することができなかつたため、今回は暫定的に当該母音をすべて [u] と記した。

本報告では名詞(名)、動詞(動)、副詞(副)の項目がある。それに加えて「連語」、すなわち

³ *o:]niku* 「豚肉」の1例のみである。*o:* 「豚」は平板型であるため、それを前部要素に含んだ複合語も平板型であると期待されるが、実際には形態素境界において下降が実現している。

⁴ *nane:]dzu* 「桑の実」、*utta]da:* 「彼ら」などの例がある。前者は平山ほか(1967)にもF3として報告されている。これは音節構造を条件とした下降型の異音かもしれないが、現時点では未詳である。

形態統語的に2語からなる項目も報告している。連語は2語であるため、基本的に2つのアクセント単位をなしている。その場合、「HH」などのようにそれぞれの構成語のアクセントを示した⁵。平山ほか(1967)では連語の後部語についてアクセント認定が行われていないため、「HX」などのように示した。

5.2 対応

今回調査した2人のインフォーマントのデータと平山ほか(1967)で報告されたデータを見ると、殆どの語について所属が一致していることが分かる。つまり、各語のアクセント所属は同世代だけではなく、世代別でも安定していることが言える。

一方、違いが全くないわけではない⁶。今回の調査結果と平山ほか(1967)での所属が異なる語は「粟」(H・F1)、「幾つ」(F・H)、「鴨」(H・F)、「勝つ」(F・H)、「手首」(H・F)、「霧」(H・F)、「二十」(H・F2)、「昼食」(F・H)、「甥・姪」(H・F)、「星」(F・H)、「四十」(F・H)の11語である。そのうち、今回の調査結果の方が八重山諸方言の伝統的な所属であると思われる語は「粟」「幾つ」「星」の3語で、その逆に当たる語は「手首」「霧」「甥・姪」の3語である(他は未詳)。さらに、今回の調査結果の中でも大島氏と前津氏の間には個人差が観察された。すなわち、「蟻」(H・F)、「海老」(F・H)、「膿」(F・H)、「粥」(F・H)、「鋤」(F・H)の違いが見られた。

5.3 データ

表2 アクセント資料

仮名	音声表記	品詞	意味	大	前	平
あー	a:	名	粟	H		F1
あーし	a:ʃi	名	汗	H	H	
あーぶく	a:buku	名	泡	H	H	H
あーり	a:ri	名	蟻	H	F	
あーる	a:ru	名	東	F	F	
あーるかじ	a:rukadzi	名	東風	F	F	F2
あーんた	a:nta	名	東	F	F	F1
あいつつ	aitsutsu	名	槌	H	H	
あう	au	動	喧嘩する	H		
あうだー	auda:	名	蛙	H	H	H
あうむぬ	aumunu	名	熟していない物	H	H	
あかな	akana	名	赤ん坊	F		
あかまづ	akamadzu	名	髪の毛	H	H	

⁵ ただし、*uru kata*「住所」は1つのアクセント単位としてまとまっているようなので、「F」に認定した。

⁶ 当然、これらの違いの中には観察の誤りに起因するものもあろう。

表2 (続き)

仮名	音声表記	品詞	意味	大	前	平
あがるん	agarun	動	上がる	F		
あきかた	akikata	名	開け方	F	F	
あきない	akinai	名	商い。商売	H	H	
あきないぴとう	akinaipitu	名	商人	H	H	
あきん	akin	動	開ける	F		
あぐ	agu	名	顎	H	H	H
あぐざい	agudzai	名	貝。貝殻	H	H	
あくび	akubi	名	欠伸	F	F	F1
あざ	adza	名	痣	F		F1
あさぶん	asabun	動	遊ぶ	F		F1
あさるごー	asarugo:	名	潮干狩り	H	H	
あさんぼん	asambon	名	朝食	H		
あず	adzu	名	味	F	F	F1
あすとうー	asutu:	名	明後日	H	H	H
あっかい	akkai	名	杓子	H	H	
あっこん	akkon	名	芋	F	F	F1
あつつあ	attsa	名	明日	H	H	H
あっぱ	appa	名	祖母	H	H	H
あっぴらー	appira:	名	家鴨	H	H	
あつまるん	atsumarun	動	集る	H		H
あとう	atu	名	跡	H	H	H
あどう	adu	名	踵	H		H
あな	ana	名	穴	H	H	H
あなぶ	anabu	名	穴	H	H	
あば	aba	名	油	H	H	H
あばてー	abate:	動	急ぐ	F		F1
あばば	ababa	名	聾啞者	F	F	
あぶ	abu	名	たて穴	F	F	
あぶんだま	abundama	名	水溜り	F	F	
あまつあん	amatsan	名	ヤドカリ	H	H	
あやー	aja:	名	おばあさん。祖母	H	H	
あらぐん	aragun	動	歩く	H		H
あり	ari	名	あれ	F	F	F1
あん	an	名	網	H	H	H

表 2 (続き)

仮名	音声表記	品詞	意味	大	前	平
あんかき	aŋkaki	名	網掛け	H	H	
あんぐん	aŋgun	動	言う	H		H
あんまー	amma:	名	母	H		H
いー	i:	名	胃	H	H	H
いー	i:	名	絵	H	H	
いーかき	i:kaki	名	絵描き	H	H	
いーるかじ	i:rukadzɪ	名	西風	F	F	F2
いーるん	i:run	動	撃つ	H		
いーんた	i:nta	名	西	F	F	F1
いくさ	ikusa	名	戦争	H		
いざりん	idzarin	動	叱られる	F		
いし	iʃi	名	石	F	F	F1
いしなま	iʃinama	名	小石	H		
いず	idzu	名	魚	F	F	F1
いすきむぬ	isukimunu	名	動物	H	H	H
いずん	idzun	動	叱る	F		F1
いた	ita	名	板	H	H	H
いつつ	itsutsu	名	五つ	H	H	H
いつばん	itsuban	名	一番	H	H	
いつん	itsun	名	いつも。常に。毎日	F	F	F1
いでいるん	idirun	動	出る	H		H
いとう	itu	名	糸	H	H	H
いなすき	inasuki	名	杵	H	H	H
いなつく	inatsuku	名	杵	H	H	
いび	ibi	名	海老	F	H	
いびる	ibiru	名	海老	H	H	
いふつ	iɸutsu	名	幾つ	F	F	H
いみ	imi	名	意味	F	F	
いみ	imi	名	夢	H	H	
いらぎ	iragi	名	鱗	H	H	H
いらぶん	irabun	動	選ぶ	H		H
いり	iri	名	西	F	F	
いりずみ	iridzumi	名	刺青	H	H	H
いる	iru	名	色	H		H

表 2 (続き)

仮名	音声表記	品詞	意味	大	前	平
いるん	irun	動	要る	F		F1
いん	in	名	犬	H	H	H
いんとうつ	intutsu	名	煙突	F	F	
うい	ui	名	上	F	F	F1
うい	ui	動	追う	F		
ういびとう	uipitu	名	老人	H	H	H
ういんちゅ	uintʃu	名	鼠	H		F3
うーき	u:ki	名	桶	H		H
うかすん	ukasun	動	起こす	H		
うがむん	ugamun	動	信仰する	H		
うくすん	ukusun	動	起こす	H		
うくるん	ukurun	動	送る	F		
うぐん	ugun	動	動く	H		H
うけー	uke:	動	起きる	H		H
うさぎ	usagi	名	兎	H	H	H
うす	usu	名	白	H	H	H
うす	usu	名	牛	F	F	F1
うすけーらし	usuke:raʃi	動	押す	F		
うすつけー	usutsuke:	動	抑える	F		
うすにく	usuniku	名	牛肉	F		
うすぬ かー	usunu ka:	連語	牛の皮	F H	F H	
うすぬ やー	usunu ja:	連語	牛小屋		F H	F X
うすぬ やま	usunu jama	連語	鋤の一種	H H	H H	
うたがーれー	utaga:re:	動	疑う	F		F1
うっけー	ukke:	動	追いかける	F		
うったー	utta:	名	彼	H	H	
うっただー	uttada:	名	彼ら		F3	
うでい	udi	名	腕	H	H	H
うているん	utirun	動	落ちる	H		H
うとう	utu	名	音	F	F	F1
うとうどー	utudu:	名	弟妹。弟。妹	H	H	H
うばいるん	ubairun	動	怖がる	F		
うび	ubi	名	帯	H	H	H
うぶいん	ubuin	動	覚える	H		H

表2 (続き)

仮名	音声表記	品詞	意味	大	前	平
うふかじ	uɸukadzi	名	暴風	H		H
うふびとう	uɸupitu	名	大人	H	H	H
うま	uma	名	そこ	H	H	H
うみる むぬ	umiru munu	連語	熟した物		H H	
うむいだす	umuidasu	動	思い出す	H		F4
うむてい	umuti	名	顔	H	H	H
うや	uja	名	親	H	H	H
うやきびとう	ujakipitu	名	金持ち	F		
うやきやー	ujakija:	名	裕福な家	F		
うやく	ujaku	名	親戚	H	H	
うやんちゅ	ujantju	名	鼠	H	H	
うらんだ	uranda	名	オランダ	H	H	
うりるん	urirun	動	下りる	H		H
うる かた	uru kata	連語	いる所。住所	F	F	
うるずん	urudzun	名	春	H	H	
うわーりった	uwa:ritta	動	終わる	F		F1
うわり	uwari	名	終わり		F	
うん	un	名	膿	F	H	
おいすん	oisun	動	贈る	F		
おー	o:	名	豚	H	H	H
おーすん	o:sun	動	与える	F		
おーにく	o:niku	名	豚肉		F2	
おーぬ にく	o:nu niku	連語	豚肉	H H		
おんだー すん	onda: sun	連語	泳ぐ	H F		
かー	ka:	名	井戸	F	F	F1
かー	ka:	名	皮	H	H	H
がーぎ	ga:gi	名	鎌	H	H	H
がーざん	ga:dzan	名	蚊	H	H	
かーすん	ka:sun	動	売る	F		F1
かーていん	ka:tin	名	カーテン	H	H	
かーどうる	ka:duru	名	鴨	H	H	F2
がーば	ga:ba	名	垢	H	H	H
かーぶる	ka:buru	名	蝙蝠	H	H	
かーら	ka:ra	名	川	F	F	F1

表 2 (続き)

仮名	音声表記	品詞	意味	大	前	平
かーらがす	ka:ragafi	動	乾かす	F		
かーるん	ka:run	動	変わる	F		
かい	kai	名	粥	F	H	F1
かいですん	kaisun	動	返す	H		H
かいるん	kairun	動	変える	F		F1
かいるん	kairun	動	帰る	H		H
かうん	kaun	動	買う	F		F1
かがん	kagan	名	鏡	H	H	H
かぎ	kagi	名	影	H		
かくず	kakudzu	名	顎	H	H	
かくん	kakun	動	書く	H		H
かざ	kadza	名	蔓	H	H	H
かざ	kadza	名	匂い	F	F	
かざー すん	kadza sun	連語	嗅ぐ	F F		
かさないん	kasainin	動	背負う	F		
かじ	kadzi	名	風	F	F	F1
かすきん	kasukin	動	走る	H		
かた	kata	名	印	F	F	
かた	kata	名	肩	H	H	
かたな	katana	名	刀	H		H
かたなまー	katanama:	名	小刀	H	H	
かたみん	katamin	動	担ぐ	H		
かつ	katsu	動	勝つ	F		H
がっこー	gakko:	名	学校	H	H	
かどう	kadu	名	角	H	H	H
かなぱい	kanapai	名	鍬	F	F	F1
かに	kani	名	鉄。金属	F	F	
かび	kabi	名	紙	F	F	F1
かま	kama	名	窯	F	F	
かま	kama	名	あそこ	F	F	F1
がま	gama	名	洞窟	F	F	
かまどう	kamadu	名	竈	F	F	
かや	kaja	名	手首	H	H	F1
がらさー	garasa:	名	烏	H	H	

表 2 (続き)

仮名	音声表記	品詞	意味	大	前	平
がらす	garasu	名	烏	H	H	H
からすん	karasun	動	貸す	F		F1
からびさ	karapisa	名	裸足	H	H	
かり	kari	名	彼	F	F	F1
かれー	kare:	動	枯れる	F		F1
かん	kan	名	蟹	F	F	
かんだり	kantari	動	噛む	H		H
かんだる	kandaru	名	雷	H	H	H
かんぱるん	kanparun	動	噛む	H		
きー	ki:	名	毛	F	F	F1
きー	ki:	名	木	H	H	H
きーぬ なり	ki:nu nari	連語	木の実	H H		
きーぬ なる	ki:nu naru	連語	木の実	H H	H H	
きーぬ ぱー	ki:nu pa:	連語	木の葉っぱ	H F		
きーり	ke:ri	動	消える	F		
きす	kisu	動	切る	H		H
きす	kisu	動	着る	F		F1
きず	kidzu	名	傷	F	F	F1
きっぷ	kippu	名	切符	H	H	
きぬ	kinu	名	昨日	F	F	F1
きぶ	kibu	名	煙	F	F	F1
きぶす	kibusu	名	煙	F	F	
きむ	kimu	名	肝臓	H	H	
きゅー	kju:	名	今日	H	H	H
きゅーじゅー	kju:dzu:	名	九十	F	F	F2
きょーだい	kjo:dai	名	兄弟		H	H
きょーだいしゃー	kjo:daiʃa:	名	兄弟	H		
きり	kiri	名	霧	H		F1
きん	kin	名	黍	H	H	
きん	kin	名	金	H	H	
くい	kui	名	声	H	H	H
くい	kui	動	漕ぐ	H		H
くいるん	kuirun	動	超える	F		
くー	ku:	名	粉	H	H	

表2 (続き)

仮名	音声表記	品詞	意味	大	前	平
くーなー	ku:na:	名	勝負	H	H	
くがに	kugani	名	黄金。小判	F	F	
くがにくとうば	kuganikutuba	名	きれいなことば	F	F	
くくぬつ	kukunutsu	名	九つ	H		H
くくる	kukuru	名	心	H	H	H
ぐさん	gusan	名	杖	H	H	
ぐし	gufi	名	酒	H	H	
くじら	kudzira	名	鯨	H	H	H
くす	kusu	名	背中	F	F	F1
ぐすく	gusuku	名	垣根	H	H	
くすまき	kusumaki	名	腰巻	F		
くとうば	kutuba	名	言葉	H	H	H
くとうばるん	kutubarun	動	断る	H		
くに	kuni	名	国	F	F	
くばすん	kubasun	動	壊す	H		
くばすん	kubasun	動	零す	H		
くばりる	kubariru	動	壊れる	H		
くび	kubi	名	壁	F	F	
くぶすん	kubusun	動	零す	H		
くまるん	kumarun	動	困る	H		
くむ	kumu	名	雲	H	H	H
くらびん	kurabin	動	比べる	F		F1
くり	kuri	名	これ	F		F1
くるさりん	kurusarin	動	殺される	F		
くるぶん	kurubun	動	転ぶ	F		F1
くわー	kwa:	名	桑	H		H
くん	kun	動	来る	H		H
ぐんじゅー	gundzu:	名	五十	H		H
けーすん	ke:sun	動	消す	F		F1
こーにー	ko:ni:	名	息子	F	F	F2
さくん	sakun	動	裂く	H		
さくん	sakun	動	咲く	F		
さない	sanai	名	禪	H	H	H
ざまどうるん	dzamadurun	動	迷う	H		

表2 (続き)

仮名	音声表記	品詞	意味	大	前	平
さめーた	same:ta	動	醒める	H		H
さんじゅー	sandʒu:	名	三十	H	H	H
さんしんびら	sanʃimbira	名	杓文字	H	H	
さんぬふぁー	sannuɸa:	名	申の方向。南西		F3	
しーぐ	ʃi:gu	名	小刀	H	H	
しーじゃ	ʃi:dʒa	名	兄	H	H	H
しこーるん	ʃiko:run	動	用意する	F		
しているん	ʃitirun	動	捨てる	F		F1
しぶる	ʃiburu	動	舐める	F		
しまい	ʃimai	名	終わり	F	F	
しまいるん	ʃimairun	動	終わる	F		
しゅば	ʃuba	名	心配		F	F1
しゅむつ	ʃumutsu	名	書物。本	H		H
しょーしき	ʃo:ʃiki	名	葬式	F		F1
しょんがず	ʃoŋgadzu	名	正月	F	F	F2
しん	ʃin	名	千	F	F	H
じんむち	dʒimmutʃi	名	金持ち	H		
すき	suki	名	鋤の一種	F	H	
すす	susu	名	煤	H		H
すたでい	sutadi	名	醤油	H	H	
すつつぁー	suttsa:	名	砂糖黍	H		F2
すま	suma	名	相撲	H		
すま	suma	名	島	H		H
すらい	surai	名	皿	H	H	
するす	surusu	名	印	F	F	F1
たー	ta:	名	田	H		H
たーら	ta:ra	名	俵	H	H	H
だいばん	daiban	名	大きい	H	H	
たな	tana	名	棚	F	F	F1
たる	taru	名	樽		F	
つから	tsukara	名	力	F		F1
つくい	tsukui	名	机	H		
つくりむぬ	tsukurimunu	名	偽物	H		
つず	tsudzu	名	唾	H		H

表 2 (続き)

仮名	音声表記	品詞	意味	大	前	平
つぬ	tsunu	名	角	H		H
つばみ	tsubami	名	燕		H	H
つぶ	tsubu	名	壺	F		F1
つぶすん	tsubusun	名	膝	F		F1
つぶる	tsuburu	名	頭	H		H
つみ	tsumi	名	爪	F		F1
つら	tsura	名	頬	H		
つる	tsuru	名	鶴	F		
ていー	ti:	名	手	H		H
ていーすくん	ti:sukun	名	拳	H		
ていーぬ ぴさ	ti:nu pisa	連語	手の平	H F		H X
ていーやま	ti:jama	名	鋤の一種	H	H	
ていがみ	tigami	名	手紙	H		
ていがら	tigara	名	手柄	H		
ていき	tiki	名	敵	F		
ていだ	tida	名	太陽	H	H	H
ていっぷ	tippu	名	鉄砲	F		
ていら	tira	名	寺	F		
ていり	tiri	名	籠	H		
ていん	tin	名	天	F	F	F1
ていんじょー	tindzo:	名	天井	H		H
とぅー	tu:	名	十	F	F	F1
どぅー	du:	名	銅	F		
どぅー	du:	名	体	H		H
どぅーかた	du:kata	名	味方	F		
どぅーぴとぅず	tu:pitudzu	名	十一。十一個	F	F	F1
どぅーる	tu:ru	動	通る	H		
どぅーる	du:ru	名	泥	H	H	H
どぅき	tuki	名	時	H		H
どぅく	duku	名	毒	H	H	H
どぅぐ	dugu	副	あまり	H		
どぅす	tusu	名	年。年齢	H		H
どぅず	tudzu	名	妻	F		F1
どぅす	dusu	名	友達	F		F1

表2 (続き)

仮名	音声表記	品詞	意味	大	前	平
とうすぬ ゆー	tusunu ju:	連語	大晦日	H H	H H	H X
とうずみ	tudzumi	名	終わり	F	F	
とうなが	tunaga	名	卵	H		H
とうる	туру	名	鳥	F		F1
なー	na:	名	名前	F		F1
なー	na:	名	縄。紐	H		H
なか	naka	名	中。真ん中	H		H
なかずん	nakadzun	名	芯	H		
なかふくる	nakaɸukuru	名	まん中	H	H	H
なすうや	nasuuja	名	産みの親	H	H	
なだ	nada	名	涙	H		H
なつ	natsu	名	夏	F		F1
なな一つ	nana:tsu	名	七つ	H	H	H
ななじゅー	nanadzu:	名	七十	H	H	H
なねーず	nane:dzu	名	桑の実	F3	F3	F3
なば	naba	名	茸	H		
なび	nabi	名	鍋	H		H
なま	nama	名	今	H		H
なまむぬ	namamunu	名	生物	H		
なまり	namari	名	鉛	H		
なり	nari	名	実	H		
なん	nan	名	波	F		F1
なんじゃ	nandza	名	銀	H		
にー	ni:	名	根	H		H
にーぬふあー	ni:nuɸa:	名	北西	H		
にーばり	ni:bari	名	根	H		
にーばる	ni:baru	名	根	H		
にきり	nikiri	名	鋸	H		H
にく	niku	名	肉	H		H
にすかじ	nisukadzi	名	北風	F		
にすんた	nisunta	名	北	F	F	F1
につ	nitsu	名	熱	H	H	H
にぬふあ	ninuɸa	名	子の方向。北	H	H	
にびどぅくる	nibidukuru	名	寝床	F		

表 2 (続き)

仮名	音声表記	品詞	意味	大	前	平
にひゃく	nihjaku	名	二百	H	H	H
にぶどうがん	nibudugan	名	寢床	F	F	F1
にんじゅー	nindzu:	名	二十	H		F2
にんどうくる	nindukuru	名	寢床		F	
ぬー	nu:	名	野原	H		H
ぬす	nusu	名	主人	H		
ぬすかじ	nusukadzi	名	北風	F	F	F1
ぬすんた	nusunta	名	北	F	F	
ぬつ	nutsu	名	命	H		
ぬどう	nudu	名	喉	H		H
ぬぬ	nunu	名	布	F		F1
ぬび	nubi	名	首	H	H	H
ぬん	nun	名	蚤	H		
ねーり	ne:ri	名	右	F	F	F1
ねーりていー	ne:riti:	名	右手	F	F	
のー	no:	名	何	H		H
はー	ha:	名	葉	F		F1
はー	ha:	名	齒	H		H
ぱー	pa:	名	刃	H		H
ぱー	pa:	名	葉	F		
ぱい	pai	名	灰	F		F1
ぱい	pai	名	蠅	F		
はいかじ	haikadzi	名	南風	H		H
はいり	hairi	名	お酔	H	H	
ばがさぬ ぴとう	bagasanu pitu	連語	若者		H F	
ばぎ	bagi	名	脇	H		
ばぎ	pagi	名	禿げ	H		
ばぎつぶる	pagitsuburu	名	禿頭	H		
ばぎら	bagira	名	蜥蜴の一種	F		
はく	haku	名	箱	F		F1
ぱく	paku	名	箱	F		
ばげーな	bage:na	名	泉	H		F1
はさん	hasan	名	鋏	H		H
ぱさん	pasan	名	鋏	H		

表2 (続き)

仮名	音声表記	品詞	意味	大	前	平
はす	hasu	名	橋	F		F1
はず	hadzu	名	蜂	F		
ばす	basu	名	鷺	F	F	F1
ぱす	pasu	名	箸	H		H
はた	hata	名	旗	F		
はだ	hada	名	皮膚	H		
ばだ	bada	名	腹	H		H
ばだーま	bada:ma	名	腸	H	H	H
はだが	hadaga	名	裸	H		
ぱたぎ	patagi	名	畑	H	H	H
はだす	hadasu	名	裸足	H		
ばだま	badama	名	小腸	H		
はちじゅー	hatjidzu:	名	八十		H	H
はりぬ みー	harinu mi:	連語	針穴	H H	H H	H X
はんがま	hangama	名	釜	F	F	
はんた	hanta	名	南	F	F	F2
ばんだー	banda:	名	私たち	F	F	F2
びぎうす	bigiusu	名	牡牛	F	F	F1
ぴきすー	pikisu:	名	干潮	F	F	F2
びげー	bige:	名	父。お父さん	F	F	
ぴしー	piji:	名	娘	H	H	H
びしとぅんなま	bifitunnama	名	雀	F	F	F2
ぴだら	pidara	名	左。左手	F	H	
ぴていーずう	piti:dzu	名	一つ		H	H
ぴとぅげーら	pituge:ra	名	一回	H		
ぴとぅず	pitudzu	名	一つ	H		
ぴとぅる	pituru	名	一人	H		
ぴゃーく	pja:ku	名	百	H	H	H
ぴろーむん	piro:mun	名	昼食	F	F	H
ふあー	ɸa:	名	子	F	F	F1
ふあーうす	ɸa:usu	名	子牛	F	F	F2
ぶい	bui	名	甥。姪	H		F1
ぶいぬ	buinu	名	斧	H	H	H
ぶざさ	budzasa	名	おじ		H	

表2 (続き)

仮名	音声表記	品詞	意味	大	前	平
ぶじゃ	budʒa	名	おじ	H		H
ふす	fusu	名	星	F		
ぷす	pusu	名	星		F	H
ふたーず	ɸuta:dzu	名	二つ	F	F	F2
ふたかた	ɸutakata	名	両方	F	F	
ふたなか	ɸutanaka	名	間	F	F	F2
ふちり	ɸutʃiri	名	葉	H	H	H
ぶどうどうい	bududui	名	一昨日	H	H	H
ぷとーり	puturi	名	一人		H	H
ぶねー	bune:	名	母	F	F	
ぶねーうや	bune:uja	名	母。母親	F	F	
ふむむぬ	ɸumumunu	名	履物	F	F	F2
ふゆ	ɸuju	名	冬	F		F1
ぼーきし	bo:kiʃi	名	棒切れ	H		
まーび	ma:bi	名	真似	F	F	
まーび すん	ma:bi sun	連語	真似する。真似る	F F		F X
まい	mai	名	前	H		H
まいぐすく	maigusuku	名	目隠し堀	H		
まぎやー	magija:	名	大きな家	H	H	
まつ	matsu	名	松	H	H	H
まにつあ	manitsa	名	俎板	F		F2
まんじゅーまい	mandʒu:mai	名	パイヤ	H	H	
みーうす	mi:usu	名	牝牛	H	H	H
みーつ	mi:tsu	名	三つ	F	F	F1
みずんだまり	midzundamari	名	沼	H		
むむ	mumu	名	腿	H	H	H
やーつ	ja:tsu	名	八つ	F	F	F1
やさい	jasai	名	野菜	H	H	H
やま	jama	名	仕掛け	H	H	
やまぬ ごーざー	jamanu go:dza:	連語	亀	H H	H H	H X
やんまい	jammai	名	病気	H	H	H
ゆい	jui	名	結。労働交換	F	F	F1
ゆーか	ju:ka	名	明々後日	F	F	F1
ゆーかなでい	ju:kanadi	名	一昨昨日	F	F	F2

表 2 (続き)

仮名	音声表記	品詞	意味	大	前	平
ゆーつ	ju:tsu	名	四つ	F	F	F1
ゆーふる	ju:ɸuru	名	お風呂	H	H	
ゆーぼん	ju:bon	名	夕食	H	H	H
ゆーる	ju:ru	名	夜	H	H	H
ゆかるびとう	jukarupitu	名	士族。やくにんの偉い人	H	H	
ゆび	jubi	名	指	H	H	H
ゆびんがにー	jubingani:	名	指輪	F		H
ゆみ	jumi	名	夢		H	
ゆり	juri	名	百合	F	F	F1
ゆんじゅー	jundzu:	名	四十		F	H
わた	wata	名	綿	H	H	H
んつすー	ntsusu:	名	満潮	H	H	H
んまーにく	mma:niku	名	馬肉	H		
んまぬふあー	mmanuɸa:	名	午の方向。南東	H	H	
んーつ	n:tsu	名	六つ	F	F	F1

6 おわりに

以上、現代の大浜方言のアクセント体系を対象とした予備的調査では平山ほか (1967) で報告された結果を再現することができた。すなわち、現代の大浜方言では第 2 拍の後に実現するピッチの下降の有無によって対立する少なくとも 2 つのアクセント型が存在する。

一方で、南琉球ではアクセント型の最大の対立数が複合語で最も観察されやすい傾向が見られるとの報告 (松森 2015) もある。そのため複合語を対象とした調査に本格的に着手していない現段階では、大浜方言のアクセント体系について決定的なことが言えない。今後の課題は複合語も分析の対象とし、アクセント体系の全体像を明らかにすることである。

参考文献

- 秋永一枝 (1960) 「八重山方言一・二音節名詞のアクセントの傾向」 『国語学』 (41) 121-125.
 占部由子 (2018) 「南琉球八重山語石垣島大浜方言における焦点標識とモダリティ」 『日本語学会第 157 回大会予稿集』93-99.
 占部由子 (2022) 「沖縄県石垣市大浜方言の動詞資料: 「食べる」, 「来る」, 「煮る」」 『シマジマのしまくとぅば: 危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究: 文化庁委託事業報告書』 琉球大学島嶼地域科学研究所 278-301.
 大浜方言伝承会 (2013) 『大浜のことば』 私家版.

セリックケナン・麻生玲子・中澤光平 (2022) 「南琉球八重山語宮良方言の名詞アクセント資料」
『国立国語研究所論集』22: 157-176.

セリックケナン・大浦辰夫 (2022) 「『みんなふつ語彙集』電子データ (220331 版)」.

名嘉真三成 (1989) 「八重山大浜方言の動詞の活用」 『琉球大学教育学部紀要. 第一部・第二部』
(34) 1-11.

平山輝男・大島一郎・中本正智 (1967) 『琉球先島方言の総合的研究』 明治書院.

松森晶子 (2015) 「南琉球の三型アクセント体系: その韻律単位に関する考察」 『日本女子大学
紀要. 文学部』(64) 55-92.

ローレンス・ウェイン (2000) 「八重山方言の区画について」 石垣繁 (編) 『宮良當壮記念論集』
宮良當壮生誕百年記念事業期成会 547-559.

受理日 2023 年 4 月 11 日

南琉球八重山語波照間方言辞典に関する中間報告*

セリック・ケナン[†] 麻生玲子[‡] 中澤光平[§]

キーワード：八重山語、波照間方言、辞典

概要

本稿は筆者らが2019年度より編集してきた南琉球八重山語波照間方言の語彙に関する中間報告（小辞典）である。本辞典には3614項目を掲載し、3,189項目についてアクセント情報を記載した。本辞典に収録されている項目は、語数として平山（1988）で報告されたものと同程度のものであるが、動詞を多く取り入れた点（500語強対1,300語強）やアクセント情報を記載した点に特徴がある。本稿は波照間方言のまとまった形での初めてのアクセント付き辞典と言える。

1 はじめに

波照間方言は南琉球八重山語の下位方言に分類され、沖縄県竹富町に属する波照間島で伝統的に話されることばである（系統的な位置付けについてローレンス（2000）を参照されたい）。波照間島内の集落（「富嘉^{ふか}」、「名石^{ないし}」、「前」、「南」、「北」）間の方言差は小さい一方、系統的に近い白保方言を除き、八重山語の他の方言とは相互理解が成り立たないほど言語差が大きい（麻生2020:10）。近年、八重山語の各方言の大型辞典が続々と出版されており（池間ほか1998, 宮城2003, 前新ほか2011, 宮里2018, 加治工2020）、八重山語全体の語彙体系が明らかになりつつある。しかし、八重山語の中で著しい言語差を示す波照間方言に関しては今日までこのような大型辞典はない。

これまで波照間方言の語彙を収録している代表的な先行研究には、宮良（1930）、平山ほか（1967）、沖縄県教育委員会（1975）、中松（1987）、平山（1988）がある。この中で特に平山（1988）は4,410語（重複も含む）を収録しており、八重山語の他の大型辞典には劣るものの、波照間方言の先行研究の中では他を圧倒する語数を収録している¹。また、当該先行研究には例文も豊富に記されており、非常に詳しい語彙集だと言える。

* 本研究はJSPS科研費18K12390、19K13174、19H00530、20H01259、21H00353、22F22305および国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本・琉球語諸方言におけるイントネーションの多様性解明のための実証的研究」（代表：五十嵐陽介）、「消滅危機言語の保存研究」（代表：山田真寛）の助成を受けたものです。本辞典の作成にあたり、本田昭正氏の多大なる協力をいただきました。心より感謝を申し上げます。また、数多くの有益なコメントを下された黒木邦彦氏にも感謝を申し上げます。

[†] 国立国語研究所

[‡] 名城大学

[§] 信州大学

¹ なお、他の出典のそれぞれの収録語数は宮良（1930）が828語、平山ほか（1967）が620語、沖縄県教育委員会（1975）が762語、中松（1987）が1,161語である161語である。

一方で、平山 (1988) はアクセント情報を欠いている点と、動詞の収録数が少ない点が課題として指摘できよう。平山ほか (1967) ではアクセントが記されていたにもかかわらず、平山 (1988) でアクセントが記されなかった理由は定かではない。ただし、同南琉球の宮古語諸方言を対象とした平山 (1983) もアクセントを記していないのに対して、北琉球の方言を対象とした平山 (2013) がアクセントを記しているところを見ると、南琉球諸方言のアクセント体系の観察の難しさが関係している可能性が指摘できる。平山 (1988) に収録されている動詞は、名詞が語数全体の約 4 分の 3 を占める 2,989 語収録されているのに対して、動詞は 546 語であった。

本辞典は、平山 (1988) に見られる上記 2 つの問題をなるべく解消できるよう編集されたものである。

2 本辞典の編集過程とデータ

本節では本辞典の編集過程および収録データについて述べる。本辞典のもとになっているのは、本田昭正氏（波照間島^{ふか}富嘉出身、昭和 10 年生）が 2019 年までに自身で編集した『波照間方言語彙集』（本田 2019）である。筆者らは本田氏の下承のもと、語彙集原稿を受け取り、本辞典の編集に取りかかった。

本辞典を編集するにあたっては、通常の面接調査に頼らず、編集作業に必要となるデータ収集等のすべてを麻生ほか (2022) で提示されているハイブリッド遠隔型の調査方法で実施した。面接調査を実施したのは、辞典編集期間中、最終確認のための 1 回（2 時間弱）のみである。この点は、特筆すべきであろう。ハイブリッド遠隔型の調査方法とは、調査にかかる作業工程を明確に分け、研究者と被調査者でそれらの作業を分担し、各自、各地で実施するという方法である（麻生ほか 2022:90）。我々は 2020 年 4 月から本調査方法にて語彙調査を実施している。

本辞典を編集する流れは次の通りである。まずはセリック・大浦 (2022) の琉和辞典フォーマットに従って元の辞典原稿を適宜構造化し、その後、収録語彙およそ 3,000 項目について本田氏に音声化を委託し、その結果に基づき語形を整えた。さらに、原稿全体を点検し、品詞付け、意味記述の整理、重複項目の解消などの作業を行った。その後、アクセント認定に特化した音声化を委託し、その結果をもとにアクセント認定を行った。同時に、項目を追加するにあたり、我々は近隣方言の語彙資料を用いた原稿作成法（麻生ほか 2022:94）を採用した。具体的には、宮城 (2003) から未調査の動詞を抜き出し元原稿を作成し、本田氏が当該原稿を参照しながら石垣方言から波照間方言に翻訳し、その結果を原稿に追加した。これまでの音声化を通じて項目の単独発話 7,417 点、アクセント資料 3,599 点を含む音声データベースを構築している。

本辞典は、これまでに詳細な報告のないハイブリッド遠隔型の語彙調査事例と言える。どのようなスケジュールで原稿あるいは音声データのやり取りがあったか、さらにその手書き原稿あるいは音声データ処理をどのように実施したかという点について 2022 年 10 月から 12 月の調査事例を下記のとおり報告する。話者との基本的なやり取りは、レターパックを利用したものである。

- 話者：2022 年 10 月 7 日（着）～10 月 25 日（発送） 1,191 項目の動詞原稿作成

- アルバイト委託：2022年11月11日 手書き原稿入力
- 研究者：入力原稿を含めた音声化用調査セットの準備
- 話者：2022年10月31日(着)～11月2日(発送) 224項目の形容詞(終止形・否定形)の音声化、67項目の擬音語(原形・例文)の音声化
 - アルバイト委託：2022年11月18日～11月29日 PraatのTextGridファイルの作成及び発話とIDの紐付け
 - 研究者：音声確認・各種情報の認定後、辞典原稿への反映
- 話者：2022年11月23日(着)～12月2日(発送) 1,189項目の動詞(終止形・否定形)の音声化
 - アルバイト委託：2022年12月6日～12月21日 PraatのTextGridファイルの作成及び発話とIDの紐付け
 - 研究者：音声確認・各種情報の認定後、辞典原稿への反映

3 本辞典の波照間方言の概説

3.1 音韻体系

波照間方言の音韻論については麻生(2020)に詳しい報告がある。本田氏の発音は数点の細かい違いを除き、基本的に麻生(2020)で記述されている音韻体系と変わらない。本節では、本田氏の発音の観察に基づき、その音韻的特徴について簡単に述べておく。なお、以下では音韻表記を//、音声表記を[]で囲って示す。

3.1.1 子音

子音音素の目録は麻生(2020)で報告されているものと同じである(表1)。表では子音の音韻表記を示したが、音韻表記に使う記号が国際音声記号と異なる場合は該当する国際音声記号も示した。なお、/i/の前では/c/、/s/、/z/が口蓋化し、それぞれ[tʃi]、[ʃi]、[dʒi]と発音される。

表1 本田氏の子音体系

		唇音	歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
閉鎖音	無声	/p/	/t/		/k/	
	有声	/b/	/d/		/g/	
破擦音	無声		/c/ [ts]			
	有声		/z/ [dz]			
摩擦音		/f/	/s/			/h/
鼻音		/m/	/n/			
はじき音			/r/			
接近音		/w/		/j/		

本田氏の発音では、[ti] および [di] の音節が認められる。ただし、これらの音節の分布は非常に限られており、借用語と思われる数語にしか見られない(1)(2)。

(1) [ti] を含む語

- a. [aiti] 「相手」
- b. [du:katti] 「自分勝手」
- c. [miati] 「目当て」
- d. [sattimu] 「大変だ」
- e. [tigara] 「獲物」
- f. [timma] 「伝馬船」

(2) [di] を含む語

- a. [do:diŋ] 「どうぞ」
- b. [sadifuka] 「ハマオモト (植物名)」

これに対して、波照間の固有語では [ti] や [di] の音節は見つからない。麻生 (2020:18-20) で論じられるように、固有語では形態論的な観点で音韻的に /ti/、/di/ と解釈できる [tʃi]、[dʒi] の音節が存在する。つまり、借用語の層と固有語の層とで少し異なる音韻体系を想定する必要があるということになる。しかし、本辞典では固有語・借用語の層を分けていないため、[tʃi]、[dʒi] の全ての音節を /ci/、/zi/ と表記する。

/p, b, k, g, c, z, s, m, n, r/ の子音は /j/ と結合できる。ただし、/cj/、/zj/、/sj/ の場合は子音が口蓋化し、[tʃ]、[dʒ]、[ʃ] と発音される(3)。

(3) /Cj/を含む語例 (「C」は任意の子音)

- a. /pjaagu/ [pja:gu] 「百」
- b. /bjooha/ [bjo:ha] 「痒い」
- c. /kjuu/ [kju:] 「今日」
- d. /gjoorecu/ [gjo:retsu] 「行列」
- e. /biicjaa/ [bi:tʃa:] 「酔っ払い」
- f. /kanzjaa/ [kandʒa:] 「鍛冶屋」
- g. /oosja/ [o:ʃa] 「村番所」
- h. /mjagu/ [mjagu] 「脈」

/n/ は音節の核あるいはコーダの位置に立ちうる。その場合、/n/ の調音点が後続子音の調音点と同化する。後続する子音がない場合は [ŋ] ~ [N] と発音される(4)。

(4) 音節の核やコーダの位置を占める /n/ の語例

- a. /inanpata/ [inampata] 「海辺」

b. /nta/	[nta]	「土」
c. /tanka/	[taŋka]	「真向い」
d. /nman/	[mman]	「馬」

3.1.2 母音

本田氏の母音体系は麻生 (2020) で記述されている体系とは異なる点が観察され、未解決の課題として残っている。本節では仮の分析を提示する。母音音素の目録を表 2 に示す。

表2 本田氏の母音体系

	前舌	中舌	後舌
狭	/i/	/i/ [i] ~ [u] ~ [ɯ]	/u/
中	/e/		/o/
広		/a/	

まず、本田氏の発音では /ë/ [ɜ] の母音が観察されない。/ë/ が期待される音節は全て /e/ で発音され、/ë/ が /e/ に合流したと考えられる。これは波照間方言の若年層において /ë/ と /e/ の対立がなくなる傾向があるという先行研究の指摘と一致している (パップラルド 2012)。なお、古い語彙資料 (平山 1988) を見ると、/ë/ の分布がもっと広がったことが確認できる (表 3)。

表3 /ë/の対応 (「-」は未詳)

	平山 (1988)	麻生 (2020)	本田氏
「米」	/mëë/	/mëë/	/mee/
「灰」	/pëë/	/pëë/	/pee/
「鋤」	/pëë/	-	/pee/
「卵」	/këë/	-	/kee/
「南」	/pëë/	/pee/	/pee/
「井戸」	/këë/	/kee/	/kee/
「前」	/mee/	/mee/	/mee/
「陰」	/kee/	-	/kee/

次に、/i/ の分布および実現が麻生 (2020) で記述されているものと異なっており、そもそも母音として立てるべきかどうかについて議論が必要である。まず、麻生 (2020) が記述している変種では /i/ が /p, c, z, s, n, r/ の子音と結合できるが、本田氏の発音では /ni/ と /ri/ の音

節はなく、/i/ を立てたとしてもその分布がより狭い²。

続いて、/si/、/ci/、/zi/ に該当すると思われる音節は環境によって音声的な実現が大きく異なる。語頭音節や語中音節の位置において後続する音節の母音に従って音価が同化し、[i] ~ [u] のように実現する (5)-(7)。

- (5) a. /sikun/ [sukun] 「聞く」
 b. /siki/ [ʃiki] 「聞いて」
 c. /sikanu/ [sukanu] 「聞かない」
- (6) a. /kacirin/ [kaʃirin] 「飢える」
 b. /kacirunu/ [kaʃurunu] 「飢えない」
- (7) a. /taziriru/ [taʒinirun] 「尋ねる」
 b. /taziriru/ [taʒununu] 「尋ねないで」

上の例で分かるように、/i/ は /u/ の前に /u/ と、そして、/i/ の前に /i/ と完全に中和する。次に、語末音節の位置では単独発音において3項の対立があるが、/i/ を含む音節の実現が揺れており、/i/ を含む音節と中和する発音もしばしば観察される(8)。つまり、その環境では/i/ と /i/ の対立は必ずしも明瞭であるとは言えない。狭母音の環境別の実現を表4にまとめる。

- (8) a. /mimizi/ [mimidzi] ~ [mimidzi] 「ミミズ」
 b. /mugazi/ [mugadzi] 「百足」
 c. /nanazu/ [nanazu] 「七十」

表4 /i, i, u/ の環境別実現

環境	_Ca	_#	_Ci	_Cu
/i/	[i]	[i]	[i]	[i]
/i/	[u]			
/u/	(未詳)	[u]	[u]	[u]

結論として、/i/ や /u/ とは別に /i/ を立てることが妥当であると考えられるが、広範囲に渡る中和があるため、表層形の観察だけではどの母音音素であるかが決められない場合が多い。どの母音音素かを決定するためには実現の交代を引き起こす形態統語的操作による観察が必要であるが、編集の現段階ではそこまでの観察には至っていない。さらに、「_Ca」の環境では /i/ と /u/ が対立するかどうかについて未詳である。従って、中間報告となる本辞典では表層形の提示にとどめた上で、観察が困難な [u] と [u] の違いを区別しなかった。つまり、/i/ に対して [i] か [u] のように書き起こした。

² /pi/ が認められる可能性があるが、[pi] とも発音されており、現段階では判断を保留している。

3.1.3 無声化

波照間方言では、無声子音に後続する分節音が広く無声化するという現象がよく知られている(平山ほか 1967, 加治工 1996, 大野 1989, 狩俣 2008, 麻生 2020)。語頭という環境では無声子音に後続する母音 (/i, i, u, a/) が無声化し、その上で後続する有声子音も無声化する傾向がある。すなわち、元の有声子音の /*b, *d, *z/ は無声化母音の後で通時的に /p, t, c/ に合流している(9)(狩俣 2008:67-70)。また、/m, r, n/ も(10)のように無声化して実現する。

(9) 波照間方言における通時的な無声化

a. [sapa] 「鱧」

b. [kaɸji] 「風」

(狩俣 (2008:15) より)

(10) 波照間方言における無声化

a. /pini/ [p̥ini] 「髯」

b. /sima/ [s̥ima] 「島」

c. /simi/ [s̥imi] 「爪」

d. /s̥inu/ [s̥inu] 「着物」

e. /pari/ [p̥ari] 「針」

f. /tani/ [t̥ani] 「種」

g. /kamun/ [k̥amun] 「噛む」

h. /tumarun/ [t̥umarun] 「泊まる」

(平山ほか (1967:128) より、音韻表記一部改変)

本田氏の発音も同様であるが、Pappalardo (2016:340) で(相対的に)若い世代の発音について指摘されている通り、無声化した母音の後に後続する流音や鼻音は無声化しない傾向がある。本辞典ではこの傾向を考慮して母音のみに無声化の記号を付与した。

3.2 アクセント

3.2.1 概要

波照間方言のアクセント体系に関する最も詳細な記述は、北集落で話される言語変種を対象とした麻生・小川 (2016) である。富嘉出身の本田氏のアクセント体系は基本的にこの研究の記述と一致する。すなわち、「平進型」、「上昇型」、「下降型」の3つのアクセント型が対立する。それぞれのアクセント型の一般的な実現は次の通りである。平進型は語全体がやや高く平たく発音される。上昇型は語頭から次末モーラまで低く発音され、語末モーラが高く発音される。下降型は語頭から第2拍までやや高く発音され、第2拍の後でピッチが下がっていく(ただし、第1拍から低く始まり、語全体がほとんど低平で発音されることもしばしばある)。以下では、平進型、上昇型、下降型の所属を語形の後に付与する「1」「A」「V」の記号で表し、各型の語例とその

実現を(11)(12)および図 1に示す。

- (11) a. zi̯l̥ 「乳」
 b. zii̯M 「土地」
 c. zii̯V 「血」
- (12) a. aman̥l̥ 「ヤドカリ」
 b. agan̥M 「芋」
 c. agon̥V 「木の一種」

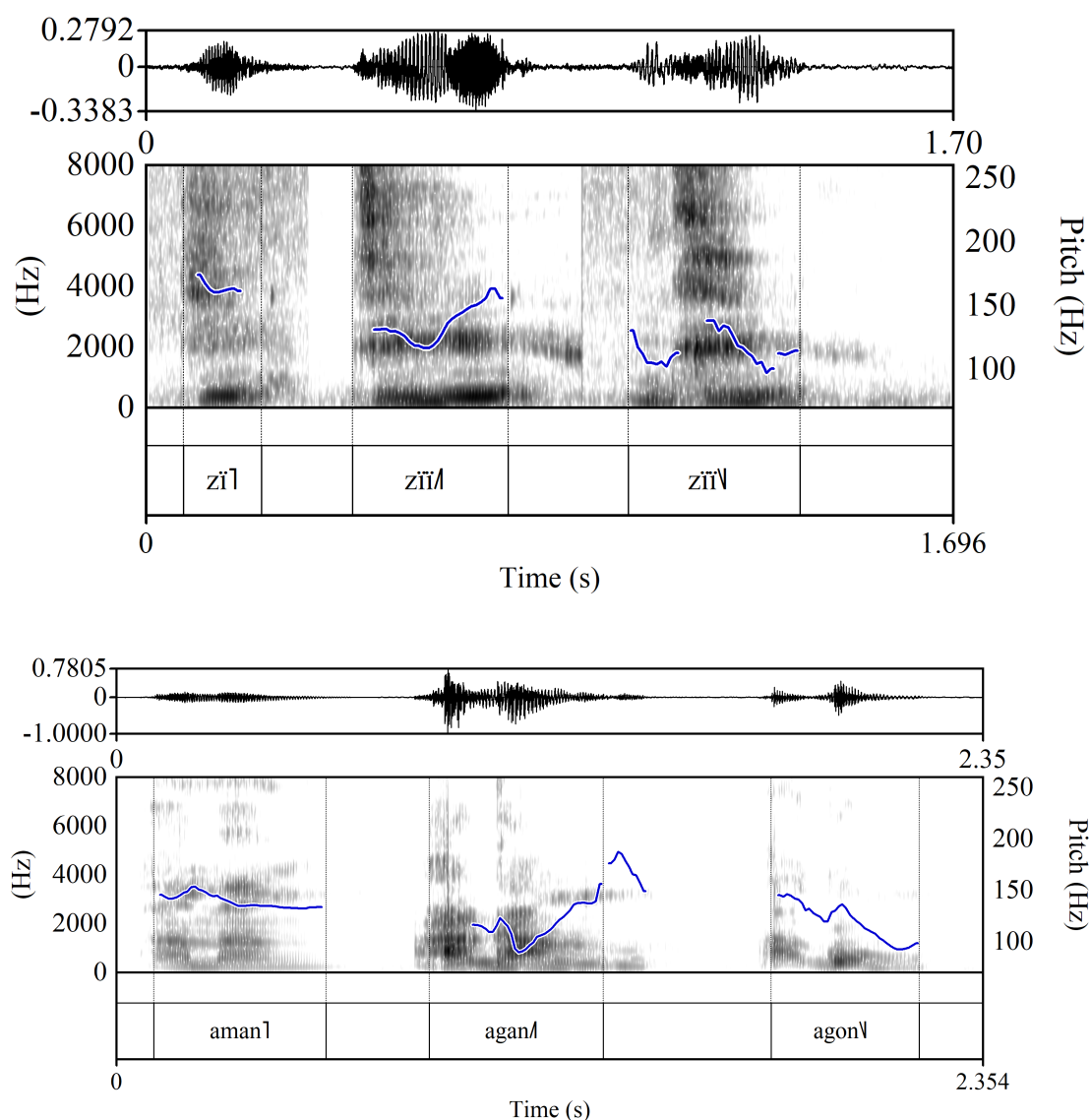


図1 3つのアクセント型の実現
 (上「乳」「土地」「血」、下「ヤドカリ」「芋」「木の一種」)

麻生・小川 (2016) が指摘している通り、平進型と上昇型の所属は語頭の分節音と強く関連している。すなわち、平進型に所属する語は母音あるいは無声子音で始まる傾向があるのに対して、上昇型に所属する語は有声子音で始まる傾向がある。しかし、先行研究の指摘の通り、この相関関係から外れる語も幾らか存在し、最小対も得られるため、両型を対立する型として分析するほかない(13)(14)。

(13) 無声子音または母音始まり・上昇型の例

- a. *peeru* 「酔」 (cf. *peeru* 「入る」)
- b. *hii* 「家」
- c. *agan* 「芋」

(14) 有声始まり・平進型の例

- a. *mana* 「今」
- b. *mintama* 「目玉」
- c. *minkaa* 「つんぼ」
- d. *muci* 「顔」 (cf. *muci* 「持って」)
- e. *mun* 「思う」
- f. *buunan* 「大波」 (*buu* 「大」を含む 1 単位の合成語は全て平進型)
- g. *nzifuni* 「出船」
- h. *nbusin* 「蒸す」

動詞、形容詞は名詞と同様に 3 つのアクセント型が対立する (15)(16) (形容詞は対立が最も明瞭に現れる語形を提示する)。

(15) 動詞における 3 つのアクセント型

- a. *nzin* 「出る」
- b. *ncin* 「満ちる」
- c. *ngun* 「行く」

(16) 形容詞における 3 つのアクセント型

- a. *mussaha* 「面白く」
- b. *messaha* 「心地よく」
- c. *nadaragaha* 「平坦に」

少数の名詞において、平進型、上昇型、下降型のいずれの型にも当てはまらない「低高低」のパターンが観察される。このパターンは数語にしか見られないため、それを例外と考え「特殊型」と名付ける。特殊型の例とその実現を(17)および図 2 に示す (ピッチの局所的な上昇と下降をそれぞれ「↑」「↓」の記号で表す)。

(17) 特殊型の語例

- a. ni^ɾzi^ɾkjoo 「ウイキョウ」
- b. na^ɾri^ɾsa 「砂利」
- c. koo^ɾni^ɾi 「男の子」

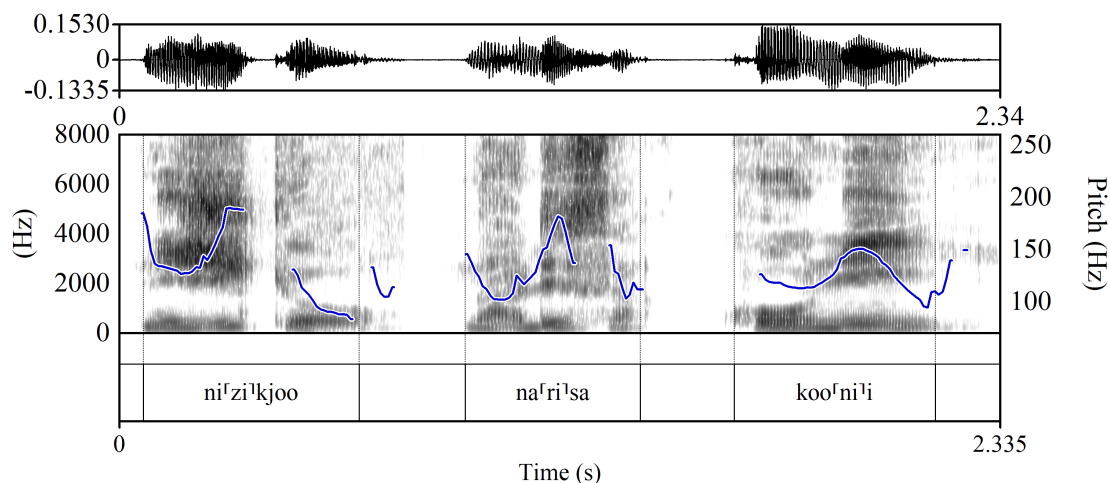


図2 特殊型の実現

上記の語のうち **koonii** 「男の子」はその音調が第2拍の後にピッチの下降が実現する下降型と著しく異なっている（比較のため、下降型の実現を示す図4を参照されたい）。そのため、下降型として分析できないことが明らかである。これに対して、**nizikjoo** 「ウイキョウ」と **narisa** 「砂利」は第2拍の後にピッチの下降が実現するため、一見下降型の変種と見ることが可能かもしれない。しかし、次の3つの理由からそのようには分析しない。第一に、特殊型に所属する語の中で、上昇型でも発音される語が確認されている(18)。第二に、特殊型と下降型が「下降」という共通点を持っていながらも、それぞれの型の実現が著しく異なっている（図3）。すなわち、3拍の下降型では第1拍と第2拍のピッチの高さは少しの違いが認められても、殆ど同じレベルであるのに対して、特殊型では第1拍の後にはっきりとした、幅の大きいピッチの上昇が実現している（図4に3拍の下降型の他の例を示す）。第三に、後述するように、同じ「低高低」というパターンがほかに副詞にも観察されている。そのため、下降型とは別に、「低高低」というパターンが波照間方言のアクセント体系の中で定着していると考えられる。

(18) na^ɾri^ɾsa ~ narisa^ɾ 「砂利」

副詞の中では「低高低」や「高低」のパターンで実現する語がある(19)(20)。その実現を図5に示す。

(19) 「低高低」のパターンを示す副詞

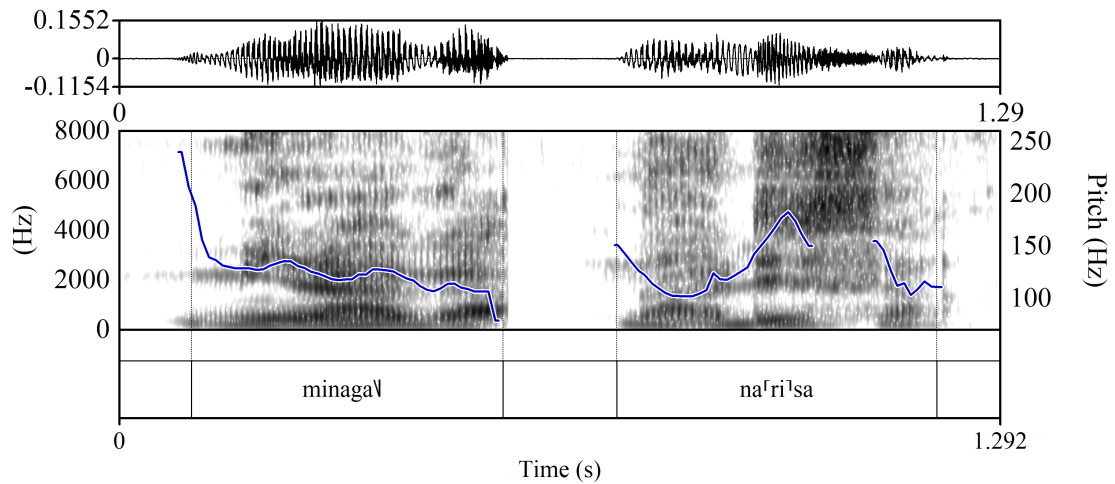


図3 下降型 (minagaV 「庭」) と特殊型 (na^ri^sa 「砂利」) の実現

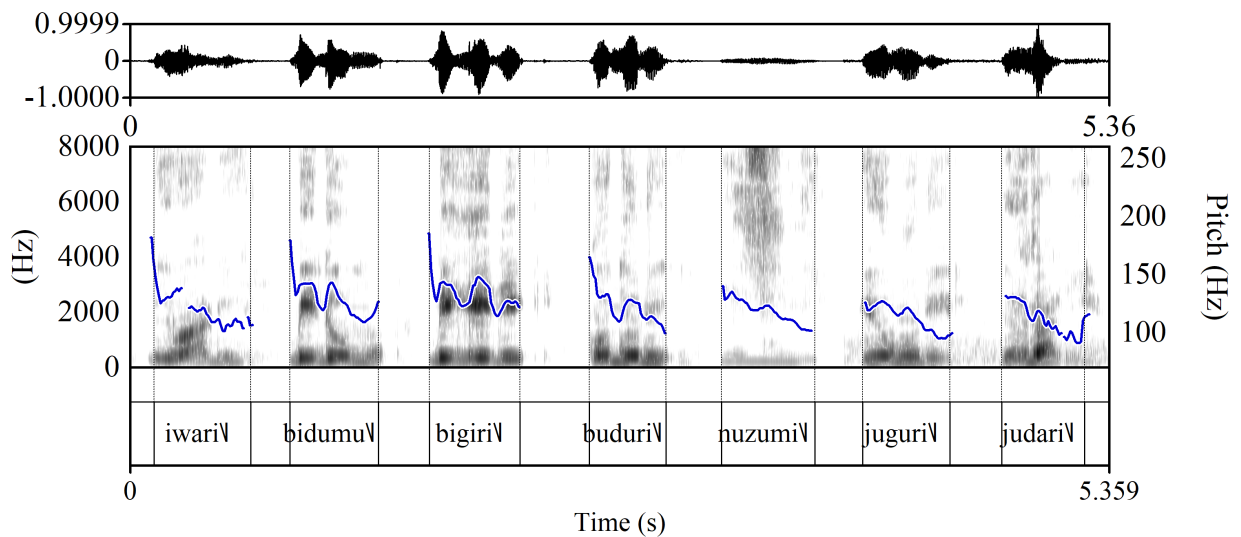


図4 3拍の下降型の実現例
 (「謂れ」、「男」、「男の兄弟」、「踊り」、「望み」、「汚れ」、「涎」)

- a. i^ci^n 「いつも」
- b. jac^ci^n 「必ず」
- c. ja^maa^si 「ゆっくり」

(20) 「高低」のパターンを示す副詞

- a. ^bee^bi 「たいそう」
- b. ^doo^din 「是非」

上述の特殊型と同様に、これらの副詞の音調を下降型としては分析できない。「低高低」に関

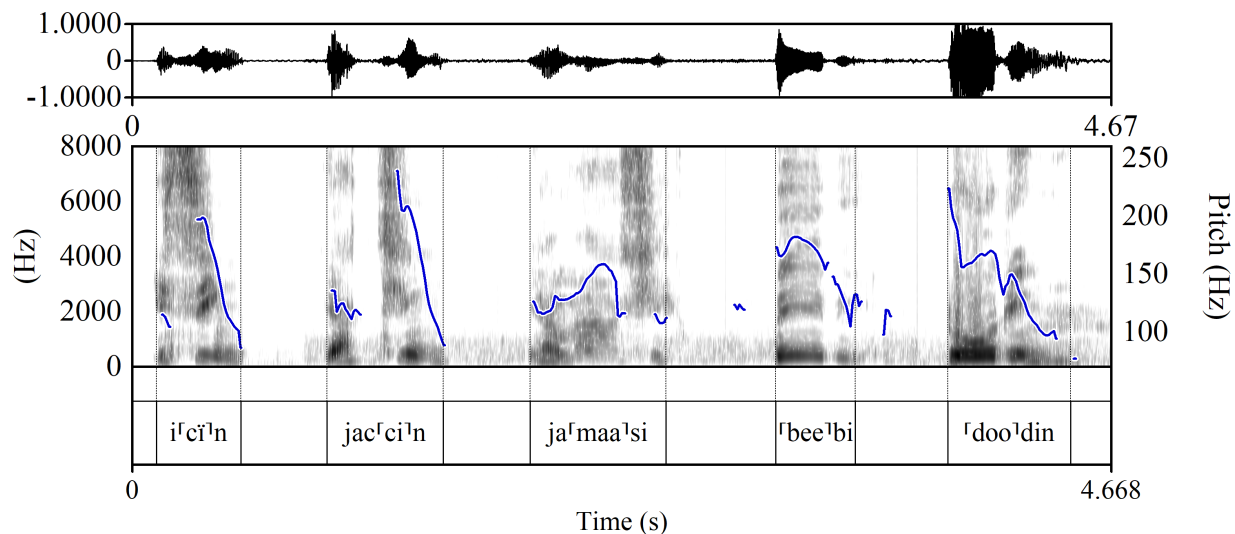


図5 副詞の「低高低」・「高低」パターン
 (「いつも」「必ず」「ゆっくり」「少し」「是非」)

しては特殊型と同じく、語頭における上昇の有無という点で音調が異なるため、下降型と区別する必要がある。さらに「高低」が果たして下降型の変種かどうかという点についても議論の余地がある。「高低」と下降型とで、その実現も聴覚的印象も大きく異なる(図6)。すなわち「高低」においては語頭におけるピッチの高さは下降型に比べ高く、また実現するピッチの下降は下降型に比べ幅が大きい。そのため、本辞典では副詞に現れる「高低」のパターンを下降型と区別しておく。なお、3.2.2節で述べるように複合語においても下降型とは異なると考えられる「高低」のパターンが認められる。

重複形はピッチの下降が形態素境界で実現する「低高低」のパターンで現れる(21)。

(21) 重複形の音調

- a. ta'maa'tama 「たまに」
- b. du'gu'dugu 「あまり」

3.2.2 複合語のアクセント

2つの単純語から構成される複合語はその多くで複合アクセント法則が成立しており、語全体のアクセント型が前部要素のアクセント型で決まる(表5)。

一方で、それぞれの構成要素のアクセント型が実現する2単位の複合語も観察される(表6)。麻生・小川(2016:94-95)も2単位の複合語について報告しており、当該データにおいて2単位で実現する複合語では、後部要素が下降型に限られることを指摘し、これらを複合アクセント法則の「例外」として解釈している。しかし、少なくとも本田氏のアクセント体系に関しては、2単位の複合語が一定数見つかる上、後部要素に平進型、上昇型、下降型の3つの所属語が見

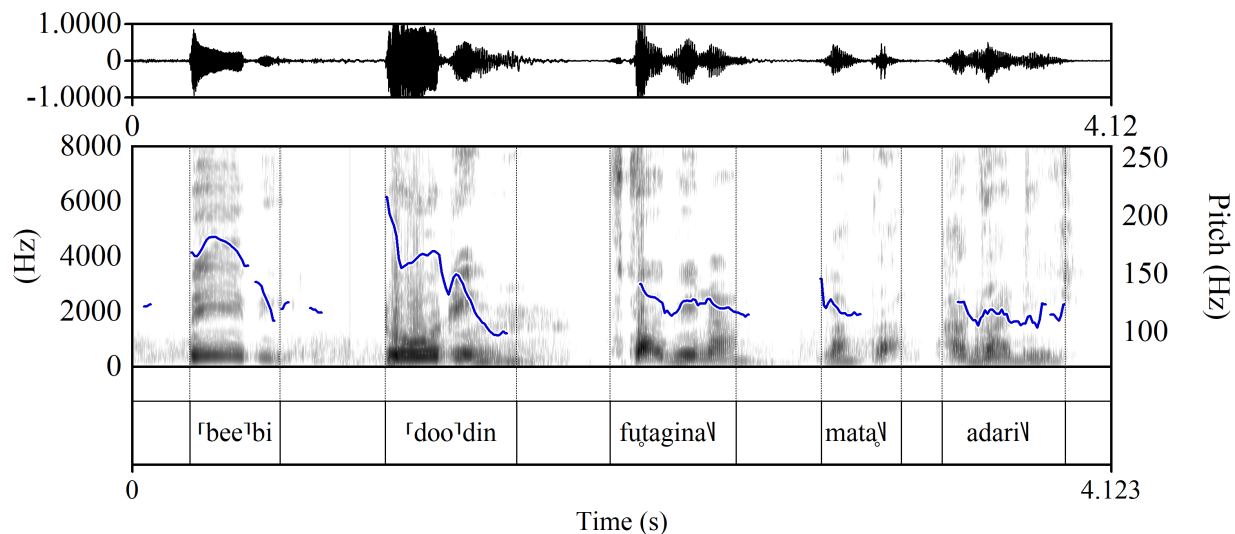


図6 「高低」と下降型の副詞の実現
 (「少し」「是非」「直ちに」「又」「いたずらに」)

表5 複合アクセント法則が成立する例

型 (X)	型 (Y)	X	Y	複合語
	平進	uciṽ 「打ち」	amiṽ 「雨」	uci + amiṽ 「侵入する雨」
平進	上昇	amiṽ 「雨」	nigeeṽ 「祈願」	ami + nigeeṽ 「雨乞い祈願」
	下降	peeriṽ 「入り」	fuṭciṽ 「口」	peri + fuṭciṽ 「入口」
	平進	meeṽ 「前」	panṽ 「足」	mee + panṽ 「前足」
上昇	上昇	maamiṽ 「豆」	nanṽ 「菜」	maami + nanṽ 「モヤシ」
	下降	nigeeṽ 「祈願」	fuṭciṽ 「口」	nigee + fuṭciṽ 「祈願の言葉」
	平進	mataṽ 「又」	icifuṽ 「従兄弟」	mata + icifuṽ 「又従兄弟」
下降	上昇	isjooṽ 「漁」	daaguṽ 「道具」	isjoo + daguṽ 「漁具」
	下降	tunṽ 「妻」	butuṽ 「夫」	tun + butuṽ 「夫婦」

られる。ただし、2単位となる複合語はアクセント型の組み合わせに一定の偏りがあるようである。例えば、前部要素が上昇型の場合、後部要素がいずれのアクセント型に所属する2単位の複合語もよく観察される。これに対して前部要素・後部要素がともに下降型に所属する2単位の複合語は見つかっていない。なお、前部要素・後部要素の両方が平進型に所属する2単位の複合語が存在すると考えられるが、音調の実現からは当然のことながら1単位のものと区別はできない。

以上のパターン、すなわち複合アクセント法則が成立する1単位のパターンと、それぞれの構成要素のアクセントが実現する2単位のパターンに加えて、幾つかの複合語において下降型

表6 2単位の複合語

型 (X)	型 (Y)	X	Y	複合語
平進	上昇	kaaraŋ 「瓦」	hiiŋ 「家」	kaaraŋ + hiiŋ 「瓦葺の家」
	下降	ucizaŋ 「親戚」	mariŋ 「生まれ」	ucizaŋ + mariŋ 「親戚」
上昇	平進	mugasiŋ 「昔」	paŋasiŋ 「話」	mugasiŋ + paŋasiŋ 「昔話」
	上昇	bataŋ 「お腹」	jamiŋ 「痛み」	bataŋ + jamiŋ 「腹痛」
	下降	nooriŋ 「豊穰」	juuŋ 「世」	nooriŋ + juuŋ 「豊年」
下降	上昇	iriŋ 「入り」	muguŋ 「婿」	iriŋ + muguŋ 「入り婿」
		ara-ŋ 「荒い」	muniŋ 「言葉」	araŋ + muniŋ 「荒い言葉」

とは分析できない「高低」のパターンが認められる(表7)。図7で確認できるように、これらの複合語は前部要素全体が高く、後部要素全体が低く発音される。

表7 「高低」で実現する複合語(一部)

複合語	X	Y
'in ¹ + duri	「海鳥」	*in ³ 「海」 turiŋ 「鳥」
'ainaa ¹ + joi	「結婚式」	ainaaŋ 「花嫁」 joiŋ 「祝い」
'sɨkama ¹ + buci	「宵の明星」	sɨkamaŋ 「仕事」 ⁴ puɕiŋ 「星」
'sinzi ¹ + fuɕiri	「煎じ葉」	sinzirunŋ 「煎じる」 fuɕiriŋ 「葉」
'taborari ¹ + munu	「頂き物」	taboorarinŋ 「頂く」 munuŋ 「物」

表7に挙げた複合語の音調は下降であるものの、次の2つの理由で下降型として分析できない。第一に、下降型におけるピッチの下降が(長い語において)基本的に第2拍の後に実現するのに対して、表7に示した複合語はピッチの下降がその拍数(2拍~4拍)に関わらず前部要素の後に実現するからである。第二に、表7のすべての複合語が平進型の語を前部要素としているため、表5で見た複合語の音調規則からすると、語全体が下降型で実現することが期待される環境ではないからである。

複合語におけるこの「高低」のパターンは、既に松森(2015:78-81)で2語報告されており、当該研究では通常の平進型とは別のアクセント型として分析されている(22)。

(22) a. usinaa + pituŋ 「沖縄人」(平進型)

b. 'taruma¹ + pitu 「多良間人」

³ 共時的に単独の in 「海」はないが、*in 「海」と *naga 「中」の複合語に由来する inagaŋ 「海」より *inŋ と再建できる。

⁴ 共時的には「仕事・労役」を意味するが、他の南琉球琉球の多くの方言では「昼間・午後」などの意味も持っている。「sɨkama¹ + buci 「宵の明星」はすなわち「明るいうちに現れる星」である。

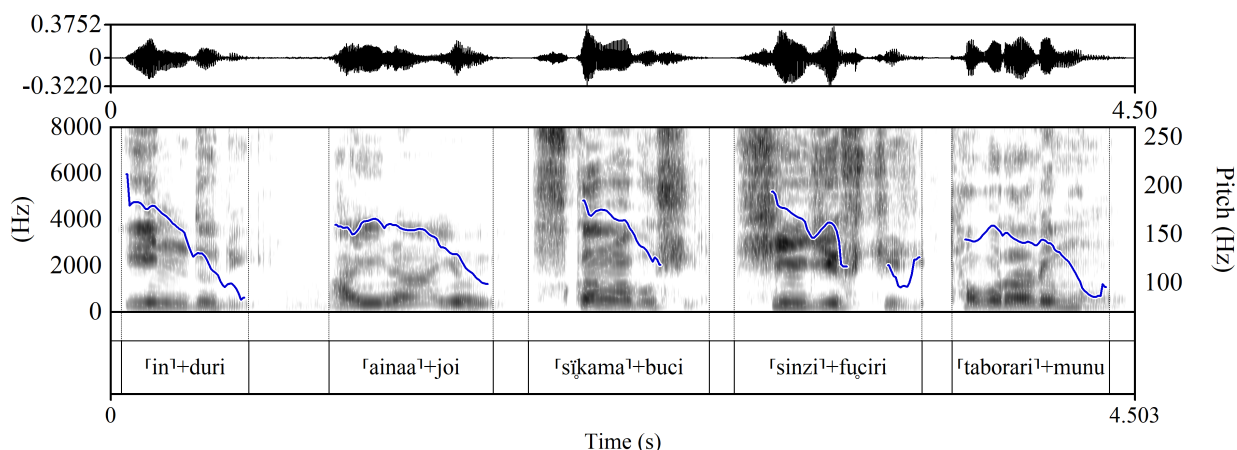


図7 「高低」の複合語の実現
 (「海鳥」「結婚式」「宵の明星」「煎じ菓」「頂き物」)

c. 'takiduu¹ + pïtu 「竹富人」

(松森 (2015:79) より、表記を一部改変)

この報告に対して麻生・小川 (2016) は別の解釈を提示した。上記のパターンが出現する2語の複合語は後部要素が下降型であることを指摘した上で、*usinaa*¹「沖縄」と *takiduu*¹「竹富」の音調を対象とした追加調査の結果に基づき、(22-bc)の複合語を平進型と下降型の2単位として分析できることを主張した(23)。つまり、新たなアクセント型を認めないという立場を取っている。

(23) 麻生・小川 (2016) による解釈

a. *usinaa* + *pïtu*¹ 「沖縄人」(平進型の1単位)

b. *takiduu*¹ + *pïtu*¹ 「竹富人」(平進型と下降型の2単位)

しかし、これまで見てきたとおり、麻生・小川 (2016) が提示している解釈は、本田氏のアクセント体系について成立しないことが明らかである。なぜならば、表7に挙げた、「高低」のパターンで実現する複合語は後部要素が下降型に限らないからである。ただし、現時点では代わりとなる解釈を持たないため、解釈の問題を今後の課題とし、本辞典ではそのパターンで実現すると思われる語の指摘に留める。

3.2.3 平山ほか (1967) に含まれるアクセント型の所属情報の評価

平山ほか (1967) は、波照間方言の620語(重複も含む)についてそのアクセント型の所属を報告しているが、本辞典の認定結果とは異なる点が生じていることを指摘する。このような違いが生じた理由は、平山ほか (1967) では、2つのアクセント型、すなわち「低平型」(本辞典の下降型に該当)と「尾高型」(本辞典の上昇型に該当)しか認めておらず、この2つのアクセン

ト型と対立する平進型を認めていないからである。その結果、提示されている「尾高型」の所属語例に、本辞典で平進型に所属する語が混在している(24)。

(24) 「尾高型」の所属例 (平山ほか 1967:53)

- a. *mugu* 「婿」
- b. *min* 「目」
- c. *juru* 「夜」
- d. *jama* 「山」
- ... 以上、本辞典で上昇型に所属
- e. *ami* 「網」
- f. *mma* 「馬」
- g. *paŋi* 「針」
- h. *kaŋa* 「肩」
- ... 以上、本辞典で平進型に所属

さらに、逆のケースも観察される。つまり「低平型」に認定された語の中に本辞典で平進型と認定される語が混在している(25)。これらの語に関しては、本辞典でも平山ほか (1967) でも、平板に発音されているという観察は一致しているが、「低平」「尾高」の2項対立の枠組みを採用した結果、平山ほか (1967) では「低平」として分類されたと考えられる。

(25) 本辞典で平進型に所属する「低平型」の語例

- a. *ʔamasikuri* 「頭」
- b. *ʔo:tta* 「目」
- c. *pe:kaŋfi* 「南風」
- d. *kannari* 「雷」
- e. *ʔasipë* 「泡」
- f. *ʃindzo:* 「天井」
- g. *s̥is̥i* 「煤」
- h. *p̥itumuŋi* 「一回」
- i. *p̥ituri* 「一人」等々

以上見てきたように、認定するアクセント型の違いにより、各語のアクセント型の認定結果は、本辞典と平山ほか (1967) で異なる部分がある。

3.3 語彙素のカテゴリー

麻生 (2020) では、表 8に示す基準に従って、波照間方言の品詞として、動詞、名詞、指示連体詞、副詞、指示様態詞、感嘆詞の6つを認めている。上記6つに加え、必ず他の語句と用いられる語や接語を助詞と呼んでいる。

表8 品詞分類の基準 (麻生 2020:87)

	動詞	名詞	指示連体詞	副詞	指示様態詞	感嘆詞
活用する	○					
項となる句の主要部になる		○			○	
項となる句の主要部を修飾する			○		○	
述語を修飾する				○	○	
上記以外						○

本辞典でも、麻生 (2020) に倣い、基本的には上記 6 つの品詞と助詞を認める。一方で、辞典という本稿の特徴から利便性を考慮した結果、先行研究とは異なる立場を取る点が 2 点ある。1 つ目は、動詞に含まれる語のうち、3.4 節でクラス 4 に分類される語は、便宜的に「形容詞」として区別したという点である。2 つ目は、副詞に含まれる語のうち擬態語・擬音語を区別したという点である⁵。

3.4 動詞・形容詞の活用

麻生 (2020) では、波照間方言の動詞語幹に後続する接辞の異形態の現れ方 (活用) によって 4 つの動詞語幹クラスを認めている。本田氏の動詞活用体系も同様に、交替語幹の有無と、接辞の異形態によって、大きく 4 つのクラスが認められる (表 9)。

ただし、現時点では、本田氏のすべての動詞活用体系を調査しきれていないため、本辞典では活用体系全体の記述や動詞の活用クラスの情報提示を省略する。

⁵ 麻生 (2020) 節を合わせて参照されたい。

表9 動詞・形容詞の語幹クラス (麻生 (2020:147) をもとに筆者らが改変)

	語幹 意味	交替語幹	異形態の例	
			非過去接辞	否定接辞
クラス 1	jum 「読む」	-	-u	-an
	hak 「書く」	-		
	ng 「行く」	-		
クラス 2	arah 「洗う」	aras(i)	-∅	-an
	nah 「産む」	nas(i)		
	marah 「死ぬ」	maras(i)		
クラス 3	iri(r) 「入れる」	ir	-∅/-u	-un
	ndi(r) 「出る」	nd		
	uti(r) 「落ちる」	ut		
クラス 4 (形容詞)	agaha(r) 「赤い」	-	-∅/-u	-en
	takaha(r) 「高い」	-		
	maroha(r) 「低い」	-		

4 凡例

4.1 収録語

本辞典は南琉球八重山語波照間方言の母語話者である本田昭正氏 (富嘉^{ふか}出身、昭和 10 年生) のことばを収録したものである。全部で 3,614 項目 (発音の揺れも含む) を収録した。

4.2 見出し語

見出し語はアクセント記号付き仮名表記、音声表記、品詞、活用、意味記述、備考から構成されている。

4.3 配列

項目は仮名表記を基に五十音順に並べた (配列の際は分かち書きの空白を無視している)。

4.4 仮名および音韻表記

波照間方言を仮名で表記するにあたって概ね本田氏の方針に従った。注意点として同じ音声的な実現に対して複数の表記が使われることがある。音声表記は本田氏の実際の発音に基づき、決めた。母音の無声化は音声表記においてのみ示した⁶。高母音の書き起こしに関する注意点は 3.1.2 節を参照されたい。また、音声表記において音節境界が曖昧になる場合、音節境界を「.」の記号で示した (例えば *nna.awari* 「無駄骨」)。

⁶ 無声化の書き起こしに関する注意点については 3.1.3 節も参照されたい。

4.5 アクセント

名詞、動詞、形容詞を中心に 3,189 項目についてアクセント情報を示した。アクセント型の情報は仮名表記に記載し、平進型、上昇型、下降型のそれぞれの所属を語の後に付与する「↑」「↓」「↘」の記号で示した。2 単位の項目については、アクセント単位 (1 つのアクセント型が実現するドメイン) ごとに記号を付与した(26)。

(26) 2 単位項目の表示例

- a. あが↘んた↑ [aganta] 「赤土」
- b. ばた↑やみ↑ [batajami] 「腹痛」
- c. むがしい↑びいと↘ [mugaʃipitu] 「昔の人。古人」

また、平進型、上昇型、下降型のいずれの型にも収まらないパターンは単独発音で実現するピッチの局所的な変動を「↑」(局所の上昇)と「↓」(局所の下降)の記号で示した。形容詞(クラス 4 動詞)は語尾がアクセント単位をなすため、アクセント記号を語幹末に記してある。なお、(引用形において)平進型に所属する語尾のアクセント記号は省略した。

アクセント型の認定は次のように行った。名詞は単独発音および「～の話」の粹文、動詞は終止形や否定形の単独発音、形容詞はアクセント型の対立が最も明瞭に観察できる「～くなる」の粹文に基づき、認定した。他の品詞については単独発音に基づき、認定した。認定において十分な確信が得られなかった場合はアクセント情報を省略した(未調査の項目も若干数ある)。

4.6 品詞

見出し語に対し、3.3節で述べた通り次の品詞を設定した(27)。右に使用した略号を示す。

- (27) a. 動詞：動
 b. 形容詞：形
 c. 名詞：名
 d. 指示連体詞：連体
 e. 副詞：副
 f. 擬態語・擬音語：擬
 g. 指示様態詞：指示様態
 h. 感嘆詞：感
 i. 助詞：助

これらに加え、上記に分類される語内に含まれる語根以外の形態素として次の範疇も設けた(28)⁷。

⁷ 句として分類されているものには 1 語化して語(名詞や動詞など)として認定できるものや、逆に動詞や名詞として分類したものの中に句であるものが紛れている可能性がある。韻律や形態統語的な調査を進め、今後、より

- (28) a. 接頭辞：接頭
b. 接尾辞：接尾
c. 句：句（複数の語、あるいは語と助詞から成る項目）
d. 未定：-

なお、品詞の認定に際し先行研究とは異なる点が2つある。まず、麻生 (2020) では形容詞という品詞は認定されておらず、「大きい」「小さい」といった性質を意味する多くの語は、形態統語的な根拠から動詞の下位分類と見なされている。しかし、本辞典では語幹クラス4に分類される動詞を便宜的に「形容詞」として立項した。次に、擬態語・擬音語に関してである。擬態語・擬音語は麻生 (2020) では副詞に含まれているが、本辞典では独立した品詞としてまとめた。

4.7 活用

動詞は項目の最後に〔否〕で導入される否定形（～しない）を示した。ただし、否定形が未調査の場合は否定形の提示を省いた。

4.8 意味記述

意味は相当する共通語を示した上、必要な場合に解説を加えた。多義語は「①②③…」など番号を付けて意味を分けて示した。

4.9 備考

必要に応じて見出し語に関する備考を加えた。

4.10 共通語引き

利便性を考慮し、辞典本体の後に共通語引きを用意した。

精密な認定がなされることが期待される。

表10 仮名・発音記号一覧

あ	[a]	い	[i]	う	[u]	え	[e]	お	[o]
か	[ka]	き	[ki]	く	[ku]	け	[ke]	こ	[ko]
が	[ga]	ぎ	[gi]	ぐ	[gu]	げ	[ge]	ご	[go]
きゃ	[kja]			きゅ	[kju]			きょ	[kjo]
								ぎょ	[gjo]
さ	[sa]	し~しい	[ʃi]	す~すう	[su]	せ	[se]	そ	[so]
ざ	[dza]	じ~じい	[dʒi]	ず	[dzu]	ぜ	[dze]	ぞ	[dzo]
しゃ	[ʃa]			しゅ	[ʃu]			しょ	[ʃo]
じゃ	[dʒa]			じゅ	[dʒu]			じょ	[dʒo]
た	[ta]	てい	[ti]	とう	[tu]	て	[te]	と	[to]
だ	[da]	でい	[di]	どう	[du]	で	[de]	ど	[do]
ちゃ	[tʃa]			ちゅ	[tʃu]	ちえ	[tʃe]	ちょ	[tʃo]
つあ	[tʃa]	ち~ちい	[tʃi]	つ	[tsu]	つえ	[tʃe]	つお	[tʃo]
な	[na]	に	[ni]	ぬ	[nu]	ね	[ne]	の	[no]
にゃ	[nja]								
は	[ha]	ひ	[hi]			へ	[he]	ほ	[ho]
ば	[ba]	び	[bi]	ぶ	[bu]	べ	[be]	ぼ	[bo]
ぱ	[pa]	ぴ~ぴい	[pi]	ぷ	[pu]	ぺ	[pe]	ぽ	[po]
ぶわ	[bwa]							びょ	[bjo]
びゃ	[pja]							びょ	[pjo]
ふあ	[fa]	ふい	[fi]	ふ	[fu]	ふえ	[fe]	ふお	[fo]
ふわ	[fwa]								
ま	[ma]	み	[mi]	む	[mu]	め	[me]	も	[mo]
みゃ	[mja]							みょ	[mjo]
や	[ja]			ゆ	[ju]	いえ	[je]	よ	[jo]
ら	[ra]	り	[ri]	る	[ru]	れ	[re]	ろ	[ro]
りゃ	[rja]								
わ	[wa]								
ん	[m] ~ [n] ~ [ŋ] ~ [N]								
(無声化)	[◌̚]			(語頭において) しっ(さ) ~ す(さ)	[s(sa)]				
ー	[◌̚]			(語頭において) ふっ(ふあ)	[f(fa)]				
っ		子音を重ねる							

5 本文

- あー [a:] [感] ^あ 嗚呼。
- あーい [a:i] [感] ^{いや} いいえ。嫌。
- あーいし [a:iʃi] [名] 砂岩。「栗石」の義。
- あーさ [a:sa] [名] ヒトエグサ。海藻名。食用。
- あーしみるん [a:ʃimirun] [動] 合わせる。会うようにさせる。[否] あーすうむぬ
- あーすん [a:sun] [動] ① 合わせる。② 戦わせる。[否] あーはぬ
- あーらすん [a:rasun] [動] ① 騒がす。騒がしくする。② 急き立てる。急がせる。[否] あーらはぬ
- あーらすん [a:rasun] [動] 研ぐ。臼の歯を削る。のこぎりの歯を研ぐ。
- あーらすん [a:rasun] [動] 蒸す。餅や菓子類などを蒸す。[否] あーらはぬ
- あーり [a:ri] [名] 蟻。
- あーり [a:ri] [名] 東。東方。
- あーるん [a:run] [動] 騒ぐ。[否] あーらぬ
- あい [ai] [名] 藍。染料。
- あい [ai] [感] おや。はて。
- あいさち [aisatʃi] [名] 挨拶。
- あいじ [aidʒi] [名] 蜻蛉。
- あいず [aidʒi] [名] 合図。
- あいずみ [aidzumi] [名] 藍染。
- あいち [aitʃi] [名] ^{きづち} 木槌。
- あいてい [aiti] [名] 相手。
- あいなー [aina:] [名] 花嫁。
- あいなー すん [aina: sun] [句] ^{めと} 娶る。嫁をもらう。嫁として縁組する。
- 「あいなー」よい [aina:joi] [名] 結婚式。結婚祝い。
- あいま [aima] [名] あいま。隙間。
- あいるん [airun] [動] 会える。逢える。[否] あるぬ
- あいるん [airun] [動] 和える。混ぜる。混ぜ合わせる。
- あか [aka] [名] ^{あか} 塗。船底に溜まった海水。船舶用語。
- あがー [aga:] [感] いたっ。痛い。
- あかー すん [aka: sun] [句] 赤くなる。赤らむ。人についてだけ言う。
- あかーいる [aka:iru] [名] 赤色。
- あ「かー」し [aka:ʃi] [副] 赤く。
- あ「かー」し なるん [aka:ʃi narun] [句] 赤くなる。赤らむ。
- あがしい [agaʃi] [名] 松の根の芯。昔は燈明に使われた。
- あかしきぶし [akafʃikibuʃi] [名] 明けの明星。
- あかしきん [akafʃikin] [名] ^{あかつき} 暁。
- あがすん [agasun] [動] 仲裁する。[否] あがはぬ
- あがたま [agatama] [名] 赤ん坊。赤子。[備] 前部要素に下降型の〈あが〉「赤い」を含んでいると考えられるが、アクセントが平進型となっている。これは〈たま〉「指小辞」の影響によると思われる。
- あがだん [agadan] [名] 赤ダニ。牛などに付くダニ。
- あがでーぐに [agade:guni] [名] ニンジン。「赤い大根」の義。
- あがぱーち [agapa:tʃi] [名] スズメバチ。
- あがはん [agahan] [形] 赤い。
- あがまーみ [agama:mi] [名] ^{あずき} 小豆。
- あがますん [agamasun] [動] 赤くする。
- あがみるん [agamirun] [動] 崇める。敬う。
- あがむん [agamun] [動] 赤らむ。赤くなる。[否] あがまぬ
- あがやー [agaja:] [感] 残念。惜しい。
- あがよー [agajo:] [感] とても痛い。また強く

- 嘆き悲しむさまにも使う。〈あがよーあがよー〉はその強調。
- あがよーあがよー** [agajo:agajo:] [感] 強く痛み嘆くさま。嘆き悲しむさま。
- あがらすん** [agarasun] [動] ① 明るくする。照らす。② (夜を) 明かす。[否] あがらぬ
- あがり** [agari] [名] 灯り。
- あがりゃん** [agarjan] [動 (継)] 明るい。
- あがるん** [agarun] [動] ① 明るくなる。② 明ける。[否] あがらぬ
- あがるん** [agarun] [動] 上がる。昇る。〈しなあがるん〉「太陽が昇る」。[否] あがらぬ
- あがん** [agan] [名] さつま芋。甘藷。
- あがゝんた** [aganta] [名] 赤土。赤い粘土。
- あがんたま** [agantama] [名] 赤ん坊。赤子。[備] 前部要素に下降型の〈あが〉「赤い」を含んでいると考えられるが、アクセントが平進型となっている。これは〈たま〉「指小辞」の影響によると思われる。
- あぎごっこー** [agigokko:] [名] 三十三年忌。最後の法事。〈あぎしょっこー〉とも。
- あきさみよー** [akisamijo:] [感] なんとることか。
- あぎさり** [agisari] [名] 明け方。夜明け前。
- あぎひ** [agih] [名] 空家。
- あぎまーすん** [agima:sun] [動] 騙す。欺く。[否] あぎまーはぬ
- あぎやしき** [agijafiki] [名] 空き屋敷。
- あきりるん** [akirurun] [動] 飽きる。
- あきりん** [akirin] [動] 飽きる。
- あきるん** [akirun] [動] 呆れ果てる。呆れる。
- あぎるん** [agirun] [動] (戸を) 開ける。
- あぎるん** [agirun] [動] (油で) 揚げる。
- あぎん** [agin] [動] 開ける。[否] あぐぬ
- あく** [aku] [名] 悪いこと。悪口。
- あぐん** [agun] [動] 開く。[否] あがぬ
- あごん** [agon] [名] アコウ。樹木名。
- あざーぎるん** [adza:girun] [動] 片付けてきれいにする。
- あざぎしゃ** [adzagi] [名] きれいな好きだ。清潔だ。
- あざぎしゃはん** [adzagi:han] [形] きれいな好きだ。清潔だ。
- あざぎしゃはん** [adzagi:han] [形] こざっぱりする。
- あさどおり** [asaduri] [名] ^{あさなぎ}朝凧。
- あさはん** [asahan] [形] 浅い。海や川の水深をさす。
- あざまぐ** [adzamagu] [名] 按司。島の古語。古代の豪族の名につく。
- あさむぬ** [asamunu] [名] 朝食。
- あさらごー** [asarago:] [名] 潮干狩り。
- あざらはーん** [adzaraha:n] [形] (刺、木やつるが多くて) 通りにくい。(荒れて) 通れない。
- あさるん** [asarun] [動] 漁る。探す。
- あざん** [adzan] [名] 薊。海辺の植物名。
- あし** [aji] [名] 汗。
- あじ** [adzi] [名] 味。
- あじ すん** [adzi sun] [句] 味わう。味をみる。
- あし ふきん** [aji fukin] [句] 汗ばむ。汗をかく。
- あしきるん** [ajikurun] [動] 預ける。[否] あすくぬ
- あしけー** [ajike:] [名] シャコガイ。貝の種類。
- あした** [ajita] [名] 下駄。東の村では〈あすたん〉と言う。
- あしび** [ajipi] [名] 遊び。大人が歌や踊りで楽しむこと。宗教的な行事にも言う。
- あしふさ** [ajifusa] [名] 汗臭い。
- あじまぎ** [adzimagi] [名] たすき。
- あしみじ** [ajimidzi] [名] 汗水。
- あしみるん** [ajimirun] [動] 集める。[否] あすむぬ

- あしやぼー¹ [aʃabo:] [名] 汗疹。
- あすうとう¹ [asʉtu] [名] 明後日。
- あすかるん¹ [asʉkarun] [動] 預かる。[否] あすからぬ
- あすぺー¹ [asʉpe:] [名] 泡。
- あずま¹はん [adzumahan] [形] 甘い。
- あすまるん¹ [asʉmarun] [動] 集まる。[否] あすまらぬ
- あた¹ [ata] [副] 急に。突然。
- あ¹た¹すま [ata:sʉma] [副] いっとき。^{しばら}暫く。
- あたあみ [ata.ami] [名] ^{にわか}俄雨。
- あたしに [ataʃini] [名] 急死。
- あ¹た¹め¹すん [atame:sun] [動] 保管する。大事にしまう。[否] あため¹さぬ
- あだら¹ [adara] [-] 汚い。体が汚れているときに。
- あたら¹さん [atarasan] [形] 惜しい。可愛らしい。
- あたらは¹ [ataraha] [句] 大切に。
- あだり¹ [adari] [副] いたずらに。無為に。
- あたるん¹ [atarun] [動] 当たる。正しい。つり合う。合格にも言う。[否] あたらぬ
- あたるん¹ [atarun] [動] 身に応える。[否] あたらぬ
- あちいゆ¹ [atʃiju] [名] 湯。熱湯。
- あちすん¹ [atʃisun] [動] 当てにする。期待する。[否] あちさぬ
- あちらいん¹ [atʃirain] [動] 誂える。[否] あちらはぬ
- あちるん¹ [atʃirun] [動] 当てる。[否] あとらぬ
- あつあすとう¹ [atsa.asʉtu] [名] ① 明後日。② 近いうち。
- あつあ¹すん¹ [atsa:sun] [動] ^{あたた}温める。[否] あつあ¹はぬ
- あつあすとうむち¹ [atsasʉtumutʃi] [名] 明日の朝。翌朝。
- あつあは¹なるん¹ [atsaha narun] [句] 熱くなる。温まる。
- あつあむさ¹はん [atsamusahan] [形] 暑がりやだ。
- あつあゆ¹ [atsaju] [名] 明日の夜。明晩。
- あつあ¹ー¹ [attsɑ:] [名] あす。明日。
- あつあすん¹ [attsasun] [動] (食べ物を)^{あたた}温める。[否] あつあはぬ
- あつあ¹はん [attsahan] [形] 暑い。熱い。
- あ¹て¹し [ate:ʃi] [副] 温かく。温く。
- あと¹う¹ [atu] [名] ① 後。② 跡。
- あど¹う¹ [adu] [名] ^{かかと}踵。
- あとうあとう¹ [atu.atu] [副] 後々。行く末。
- あとう¹ちぎ¹ [atutʃigi] [名] 後継ぎ。後継者。
- あとさき¹ [atosaki] [名] 後先。前後。[備] アクセントは「平進型」と「下降型」の2単位の可能性もある。
- あなどるん¹ [anadorun] [動] 侮る。嘲る。[否] あなどらぬ
- あ¹な¹ば¹り¹ひー [anabarihi:] [名] 掘っ立て小屋。
- あなぶ¹ [anabu] [名] 沼。溜め池。牛馬の飲み水や農具の洗い場、農道にそって点在。
- あば¹ [aba] [名] 油。食油。燃料油。
- あばず¹ー¹さーん [abadzu:sa:n] [形] 脂っこい。
- あばたしみるん [abataʃimirun] [動] 急き立てる。[否] あばたすむぬ
- あばだり¹ [abadari] [名] 裸。裸体。
- あばちかんち¹すん¹ [abatʃikantʃi sun] [句] 大慌てする。慌てふためく。
- あばちるん¹ [abatʃirun] [動] 慌てる。急ぐ。
- あばりしゃ¹はん [abariʃahan] [形] (容姿が)美しい。美人だ。人の容姿の美しさに言う。
- あばんぐん¹ [abangun] [動] 仰向く。仰向けになる。[否] あばんがぬ
- あぴら¹ [apira] [名] 家鴨。

- あぶㇿ [abu] [名] ドリーネ。雨水の吸い込み穴。
- あふあㇿさん [afasan] [形] 薄味だ。塩味不足。
- あふくんㇿ [afukun] [動] 息切れになる。息がはずむ。[否] あふかぬ
- あぶしㇿ [abusi] [名] 畦。田の畔。
- あふらん [afuran] [動 (継)] 溢れる。
- あぶるんㇿ [aburun] [動] ① 炙る。② 焼く。[否] あぶらぬ
- あぶわㇿ [abwa] [名] 母。母親。
- あまㇿ [ama] [名] 姉。
- あまいるんㇿ [amairun] [動] 喜ぶ。楽しむ。[否] あまいるぬ
- あまおしきㇿ [ama.ɔʃiki] [名] 雨天。曇天。
- あまㇿくまㇿ [amakuma] [副] あちらこちら。
- あまじㇿ [amadzi] [名] 髪。頭髮。
- あますなㇿ [amasuna] [名] サトウキビ。甘蔗。
- あますん [amasun] [動] 浴びせる。[否] あまはぬ
- あまだりㇿ [amadari] [名] 庇。
- あまだりんㇿ [amadarin] [動] 滴る。
- あまっすくるㇿ [amasukuru] [名] 頭。頭部。
- あまっすくるㇿやみㇿ [amasukurujami] [句] 頭が痛い。頭痛。
- あまばんぎㇿ [amapanɡi] [名] 軒端。軒先。
- あまふもんㇿ [amafumon] [名] 雨雲。
- あまみじㇿ [amamidzi] [名] 真水。淡水。
- あまむりㇿ [amamuri] [名] 雨漏り。
- あまらすんㇿ [amarasun] [動] 余す。余らす。[否] あまらはぬ
- あまりㇿ [amari] [名] 余り。余分。
- あまるんㇿ [amarun] [動] 余る。[否] あまらぬ
- あまんㇿ [aman] [名] ヤドカリ。
- あみㇿ [ami] [名] 雨。「梅雨」は〈ゆどあみ〉。
- あみじわーㇿ [amidziwa:] [名] 祈年祭。次年の豊作を祈る豊年祭。
- あみにげーㇿ [aminige:] [名] 雨乞い祈願。〈ふつあまらー〉「仮面神」が登場。
- あみんㇿ [amin] [動] 浴びる。[否] あむぬ
- あむんㇿ [amun] [動] 編む。紐で編む。竹の時は〈ふむん〉。[否] あまぬ
- あやかーるんㇿ [ajaka:run] [動] 肖る。
- あやかるんㇿ [ajakarun] [動] 肖る。似ることを願う。[否] あやからぬ
- あやついさーん [ajassa:n] [形] 怪しい。疑わしい。
- あやつふあㇿさーん [ajaffwasa:n] [形] 薄暗い。
- あやつふわみㇿ [ajaffwami] [名] たそがれ時。
- あやみるんㇿ [ajamirun] [動] 傷つける。損なう。[否] あやむぬ
- あよーㇿ [ajo:] [名] 古謡の一種。[備] 宮古語の〈あやぐ〉～〈あーぐ〉「(一般的な)歌」に対応。〈あやぐ〉 > 〈あやう〉 > 〈あよー〉のように変化した。
- あらㇿ [ara] [名] 粗。(白米中の) 粃粒。
- あらすんㇿ [arasun] [動] 荒らす。[否] あらはぬ
- あらすんㇿ [arasun] [動] 洗う。洗濯する。[否] あらはぬ
- あらだているんㇿ [aradatirun] [動] 荒立てる。[否] あらだつぬ
- あらたみるんㇿ [aratamirun] [動] 改める。改善する。[否] あらたむぬ
- あらとうしㇿ [aratuʃi] [名] 新年。
- あらなんㇿ [aranan] [名] 荒波。荒海。大波は〈ぶーなん〉〈むさん〉。
- あらぬㇿ [aranu] [動] 違う。そうではない。
- あらはん [arahan] [形] (波、動作、粉末などが) 荒い。粗い。
- あらむにㇿ [aramuni] [名] 荒い言葉。暴言。
- あらもーぎㇿ [aramo:gi] [名] 大儲け。
- あらわりるんㇿ [arawarirun] [動] 現れる。[否] あらわるぬ

ありかた^ㄨ [arikata] [名] 東側。東方。
 ありしあぎるん^ㄨ [arifi.agirun] [動] 開墾する。
 [否] ありしあぐぬ
 ありしぴてー^ㄨ [aripite:] [名] 開墾畑地。
 ありすむち^ㄨ [arisumutji] [名] 米粉の蒸し菓子。
 ありるん^ㄨ [arirun] [動] ① 荒れる。② 暴れる。
 [否] あーるぬ
 あるぐん^ㄨ [arugun] [動] 歩く。[否] あるがぬ
 あるふた^ㄨ [arufuta] [名] 塵。ごみ。
 あわり^ㄨ [awari] [名] 難儀。苦勞。
 あん^ㄨ [an] [動] 有る。[否] ねーぬ
 あん^ㄨ [an] [名] 粟。
 あん^ㄨ [an] [名] 網。魚網など。
 あん^ㄨ [an] [名] 餡。餡子。
 あんぎるん^ㄨ [angirun] [動] 上げる。高いところ
 にあげる。[否] あんぐぬ
 あんざーりるん^ㄨ [andzarirun] [動] もつれる。
 [否] あんざーるぬ
 あんざらすん^ㄨ [andzarusun] [動] 交差させる。
 [否] あんざらはぬ
 あんざらだーぐ^ㄨ [andzarada:gu] [名] 釣竿の
 工夫。釣針の根かかり防止工夫。
 あんざるん^ㄨ [andzarun] [動] 絡まる。もつれ
 る。こんがらがる。[否] あんざらぬ
 あんじるん^ㄨ [andzirun] [動] 交差させる。あ
 ざなう。
 あんだしい^ㄨ [andaji] [名] アダンの気根。繩
 のよい材料。
 あんだに^ㄨ [andani] [名] 阿旦。
 あんだみしゅ^ㄨ [andamisu] [名] 油味噌。味噌
 を油でいため豚肉など入れた保存食。
 あんむち^ㄨ [ammutji] [名] 餡餅。
 いー^ㄨ [i:] [名] 飯。ご飯。
 「いー」くとう [i:kutu] [名] 良いこと。慶事。
 いーしきるん^ㄨ [i:ʃikirun] [動] 告げる。知ら
 せる。[否] いーすくぬ

いーのーすん^ㄨ [i:no:sun] [動] 言いなおす。[否]
 いーのーはぬ
 「いー」ば [i:ba] [副] 好都合。
 いーばぎ^ㄨ [i:bagi] [名] 言い訳。
 いーまーり^ㄨ [i:marri] [名] 飯茶碗。
 いーまかすん^ㄨ [i:makasun] [動] 言い負かす。
 [否] いーまかはぬ
 いかすく [ikasuku] [副] どれほど。
 いがすん^ㄨ [igasun] [動] 生かす。[否] いがは
 ぬ
 いがすん [igasun] [動] 蘇らせる。
 いがばり^ㄨ [igabari] [名] 胸焼け。
 いがばりゃん [igabarjan] [句] (胸のあたりが
 何となく) 変な具合だ。(胸がむかついて)
 吐き気がする。
 いがふちるん^ㄨ [igafutʃirun] [動] (水を) ぶっ
 かける。[否] いがふとうぬ
 いぎだる [igidaru] [句] 生きている。
 いきら^ㄨさん [ikirasun] [形] 少ない。わずか。
 いぎるん^ㄨ [igirun] [動] (花などを) 生ける。
 [否] いぐぬ
 いぎるん^ㄨ [igirun] [動] 生きる。[否] いぎら
 ぬ
 いきろー^ㄨ [ikiro:] [名] 生霊。呪い。
 いぎん^ㄨ [igin] [動] 生きる。
 いげーるん^ㄨ [igerun] [動] 行き会う。[否] い
 げーらぬ
 いさすうま^ㄨ [isasuma] [名] 石垣島。地名。
 いざり^ㄨ [idzari] [名] 漁り。
 いざんだ^ㄨ [idzanda] [副] 一生懸命。
 いし^ㄨ [iji] [名] 石。
 いし^ㄨ [iji] [名] 息。
 いじい^ㄨ [idzi] [名] 意地。勇氣。
 いじい ねーぬ [idzi ne:nu] [句] 小胆だ。臆
 病だ。勇氣がない。
 いじいぬ^ㄨ ねーぬ^ㄨ [idzinu ne:nu] [句] 小胆
 だ。臆病だ。勇氣がない。

- いしうし [iʃi.ʌʃi] [名] 石臼。沖縄では引き臼が主。
- いしかぼ [iʃikabo] [名] ハリセンボン。とげに覆われた魚。
- いしなが [iʃinaga] [名] 背中。
- いしふく [iʃifuku] [名] 小石。礫。
- いしまーし [iʃima:ʃi] [名] 石垣。
- いじみるん [idʒimirun] [動] 虐める。虐待する。[否] いじむぬ
- いしゃがーたま [iʃaga:tama] [名] 幼い子。幼児。
- いしゃがはん [iʃagahan] [形] 小さい。
- いしゃば [iʃaba] [名] オニオコゼ。刺に毒を持つ魚。
- いしゃん [iʃan] [名] 医者。
- いしゃんが はかるん [iʃanga hakarun] [句] 治療する。医者にかかるの義。
- いしょー [iʃo:] [名] 衣装。踊りなどの衣装を指す。
- いしょー [iʃo:] [名] 漁労。[備] 日本語の「磯」に対応。
- いしょーだぐ [iʃo:dagu] [名] 漁具。
- いしょーぶさ [iʃo:busa] [名] 神行事の漁労係。
- いしょん [iʃon] [名] 砂。
- いしんたま [iʃintama] [名] 小石。砂利。〈たま〉は小さなものの愛称。
- いすがすん [isugasun] [動] 急がせる。[否] いすがはぬ
- いすぐん [isugun] [動] 急ぐ。[否] いすがぬ
- いすぱん [isupan] [名] 一番。一番座。一番狂言など。
- いすぱんこんぎ [isupankongi] [名] 一番狂言。豊作祈願の狂言。
- いすぱんどうし [isupandufi] [名] 親友。一番親しい友人の意。
- いすむし [isumufi] [名] 生き物。動物。
- いた [ita] [名] 板。
- いたすきばら [itasukibara] [名] 悪霊払いの一つ。悪霊を払う行事。お盆の翌日に行く。
- いたちり [itatʃiri] [-] (液体や小粒の物を) 勢いよく移すさま。
- いたちるん [itatʃirun] [動] ① (液体を残らず) 零す。液体を皆こぼすときに言う。② 空にする。空ける。全部移してしまう。
- いたふに [itafuni] [名] くり舟。
- いたますん [itamahun] [動] 損なう。傷つける。[否] いたまはぬ
- いたみるん [itamirun] [動] 損なう。傷つける。
- いためー [itame:] [名] 床下。
- いたんだ [itanda] [名] 只のもの。無代。
- いちい [itʃi] [名] 何時。
- い^いちい^いん [itʃin] [副] 何時も。常に。
- いちふ [itʃifu] [名] 従兄弟。
- い^いちふ^いぶい [itʃifubui] [名] 叔父叔母の孫。
- いちむん [itʃimun] [名] 一門。一族。
- いちゆ [itʃu] [名] 絹。
- いちゆすぬ [itʃusunu] [名] 絹の着物。
- いっし [iʃʃi] [名] 五つ。
- いっふえー [iffe:] [名] ものもらい。目の腫物。
- いとう [itu] [名] 糸。
- いなー [ina:] [名] 海。
- いなが [inaga] [名] 海。
- いなさひー [inasahi:] [名] 昔の船待ち小屋。
- いなしき [inaʃiki] [名] 杵。
- いなむん [inamun] [感] 無念。残念。
- い^いなん^いぱた [inampata] [名] 海辺。海岸付近。
- いに [ini] [名] 稲。
- いぬ [inu] [名] 犬。
- いぬ [inu] [名] 戌。十二支の戌(いぬ)。
- いのー [ino:] [名] 礁池。リーフ内側の浅い

- 海。
- いのーㄨ [ino:] [名] 竜巻。
- いばちㄨ [ibatʃi] [名] 種取祭の山盛飯。
- いばりすくんㄨ [ibarisʊkʊn] [動] 威張る。高尚ぶる。
- いばるんㄨ [ibarun] [動] 威張る。[否] いばらぬ
- いびㄨ [ibi] [名] ^{えび}海老。
- いびるんㄨ [ibirun] [動] 植える。[否] いぶぬ
- いふつあㄨ [ifʊtsa] [名] 戦争。戦い。
- いふつあーㄨ すんㄨ [ifʊtsa: sʊn] [句] 戦争する。
- いふなーㄨ [ifʊna:] [名] 変だ。おかしい。
- いふなー やっさーㄨ [ifʊna: jassa:] [句] 変だ。変わっている。悪い意味に使う。
- いべーㄨ [ibe:] [名] 位牌。
- いましみるんㄨ [imaʃimirun] [動] 戒める。説教する。教える。[否] いますむぬ
- いましみるんㄨ [imaʃimirun] [動] 戒める。説教する。教える。[否] いますむぬ
- いみㄨ [imi] [名] 夢。
- いみㄨ [imi] [名] 忌。喪。
- いみうち [imi.utʃi] [名] 忌中。
- いみはかるんㄨ [imihakarun] [動] 喪に服する。忌中だ。[否] いみはからぬ
- いみるんㄨ [imirun] [動] 催促する。督促する。ねだる。
- いやㄨ [ija] [名] 父。父親。
- いやぐㄨ [ijagu] [名] 權。
- いらㄨ [ira] [名] (粟刈りの) 小鎌。
- いらㄨ [ira] [名] クラゲ。
- いらぶんㄨ [irabun] [動] 選ぶ。選択する。[否] いらばぬ
- いりㄨ [iri] [名] 西。西方。
- いりㄨ [iri] [名] 錐。
- いりかーるんㄨ [irika:run] [動] 入れ代わる。[否] いりかーらぬ
- いりかいㄨ すんㄨ [irikai sʊn] [句] 入れ換える。入れ換える。
- いりかいるんㄨ [irikairun] [動] 入れ換える。
- いりぎㄨ [irigi] [名] 鱗。
- いりぐんㄨ [irigun] [動] 煎る。[否] いりがぬ
- いりしなㄨ [irifina] [名] 入日。日光が室内に差し込むこと。
- いりびたるんㄨ [iribitarun] [動] 入り浸る。[否] いりびたらぬ
- いりむぐㄨ [irimugu] [名] 入り婿。養子に行く婿。
- いりむちㄨ [irimutʃi] [名] 西表。西表島。八重山諸島の島の名。
- いりむんㄨ [irimun] [名] 入れ物。容器。
- いりんㄨ [irin] [動] 入れる。[否] いるぬ
- いるㄨ [iru] [名] 色。色彩。
- いるすそーㄨはん [irusso:han] [形] 色が白い。色白だ。
- いるんㄨ [irun] [動] 要る。必要だ。[否] いらぬ
- いるんㄨ [irun] [動] 射る。撃つ。[否] いらぬ
- いわりㄨ [iwari] [名] 謂れ。由来。
- いんㄨ [in] [名] 洞穴。洞窟。
- いんㄨ [in] [名] 印。印鑑。
- いんㄨ [in] [名] 犬。
- いんㄨ [in] [名] ^{いぬ}戌。十二支の戌(いぬ)。
- 「いん」どりㄨ [induri] [名] 海鳥。
- いんぬㄨ まらㄨ [innu mara] [句] 鍾乳石。
- うーㄨ [u:] [名] 卵。十二支の卵。
- うー [u:] [接頭] 幾〜。何〜。助数詞や可算名詞と結合し、数の疑問詞を作る。〈うーび〉「幾つ」、〈うーむし〉「何回」など。
- うーぐとう [u:gutʊ] [名] 大事。一大事。
- うーちいㄨ [u:ʃi] [名] ① 幾つ。② 何歳。
- うーとーとう [u:to:tu] [感] ああ尊し。祈りの冒頭のことば。
- うーびㄨ [u:bi] [名] 幾つ。幾ら。

- うーむし [u:muʃi] [名] 何回。
- うい¹ [ui] [動] 泳ぐ。〈ういっしょん〉「泳げる」。[否] うわぬ
- うい² [ui] [名] 上。上方。目上。
- うい³ [ui] [名] 銛。
- うい⁴ [ui] [名] 老い。老いること。
- ういが¹ [uiga] [句] 上へ。上方へ。
- ういくむん¹ [uikʉmun] [動] 追い込む。[否] ういくまぬ
- ういし¹ [uifi] [名] 訓戒。「御意志」の意味で国王の命令か。
- ういし うがますん [uifi ugamasun] [句] 訓戒する。「御意志を拝ませる」の意味で国王の命令を伝えたことからか。
- ういすくん¹ [uisʉkun] [動] 追いつく。[否] ういすかぬ
- ういなん¹ [uinan] [名] 牝牛。
- ういぬ¹ ぴいと¹ う¹ [uinu piʉtu] [句] 上役。上司。
- ういぬぐん¹ [uinugun] [動] 追い抜く。追い越す。[否] ういぬがぬ
- ういばー¹ [uipa:] [名] 曾祖母。
- ういばろーん¹ [uiparo:n] [動] 追っ払う。
- ういぶや¹ [uibuja] [名] 曾祖父。
- ういぶら¹ [uipura] [名] 耄碌。痴呆。
- ういぶり¹ [uiburi] [動] 老いぼれる。[否] ういぶらぬ
- ういぶん¹ [uibun] [動] 及ぶ。叶う。
- ういまーすん¹ [uima:sun] [動] 追い回す。追い立てる。[否] ういまーさぬ
- ういるん¹ [uirun] [動] 老いる。年を取る。[否] ういぬ
- ういわっきるん¹ [uiwakkirun] [動] 追い散らす。[否] ういわっくぬ
- ういんぐん¹ [uinʉgun] [動] 追っかけていく。[否] ういんがぬ
- ういんだすん¹ [uindasun] [動] 追い出す。[否] ういんだはぬ
- うか¹ [uka] [名] 負債。負い目。
- うかさ¹ はーん [ukasaha:n] [形] 醜い。見苦しい。
- うがじい¹ [ugadzi] [名] 神占い。米粒で占う。
- うがすん¹ [ugasun] [動] 起こす。[否] うがはぬ
- うがすん¹ [ugasun] [動] ① 動かす。② 移動する。[否] うがはぬ
- うか¹ と [ukatto] [副] うっかり。
- うか¹ と すん [ukatto sun] [句] 軽率だ。
- うか¹ と すん¹ [ukatto sun] [句] ぼんやりする。うっかりする。
- うがみ¹ [ugami] [名] ① 拝み。拝むこと。② 祈願。
- うがむん¹ [ugamun] [動] 拝む。[否] うがまぬ
- うがり¹ [ugari] [名] 高地。小高い台地。
- うがん¹ [ugan] [名] 祈願。
- うがんじゅ [ugandzu] [名] 拝所。
- うがんちゅむん¹ [ugantʃumun] [動] くたばる。参る。[否] うがんちゅまぬ
- うき¹ [uki] [名] 木桶。水桶。
- うきしゃ¹ はん [ukifahan] [形] 恰好悪い。不美人。
- うきと¹ うるん¹ [ukitʉrun] [動] ① 受け取る。② 引き受ける。[否] うきとらぬ
- うきむつん¹ [ukimutsun] [動] 受け持つ。[否] うきむつあぬ
- うきるん¹ [ukirun] [動] 受ける。請け負う。[否] うきらぬ
- うぎるん [ugirun] [動] 起きる。目覚める。
- うぎん¹ [ugin] [動] 起きる。目覚める。[否] うぐぬ
- うく¹ [uku] [名] 奥。奥の方。
- うく¹ たるん¹ [ukutarun] [動] 怠る。油断する。[否] うくたらぬ

- うくびよー¹さーん [ukubjo:sa:n] [形] 臆病だ。
 うくらすん¹ [ukurasun] [動] 遅らせる。[否]
 うくらはぬ
 うくりん¹ [ukurin] [動] 遅れる。
 うぐるぴん¹ [ugurupin] [名] お盆の最終日。
 うぐるん¹ [ugurun] [動] 送る。葬式を済ませ
 る。[否] うぐらぬ
 うぐん¹ [ugun] [動] 動く。[否] うがぬ
 うさぎむぬ¹ [usagimunu] [名] 献上品。
 うさぎるん¹ [usagirun] [動] 差し上げる。敬
 語。[否] うさぎぬ
 うさまるん¹ [usamarun] [動] 治まる。[否] う
 さまらぬ
 うさみるん¹ [usamirun] [動] ① 納める。納
 入する。② 治める。統治する。[否] うさむ
 ぬ
 うし¹ [uji] [名] 牛。「雄牛」は〈ぐちえー〉、
 「牝牛」は〈ういなん〉。
 うし¹ [uji] [名] 丑^{うし}。十二支の丑。
 うし¹ [uji] [名] 白。搗き白と引き白がある。
 うじ¹ [udzi] [名] 腕。
 うじ¹ [udzi] [名] 蛆。
 うしあんぎるん¹ [uji.angirun] [動] 押し上げ
 る。[否] うしあんぐぬ
 うしかいすん¹ [ujikaisun] [動] 押し返す。[否]
 うしかいさぬ
 うしくみるん¹ [ujikumirun] [動] 押し込める。
 [否] うしくむぬ
 うしくむん¹ [ujikumun] [動] 押し込む。詰め
 込む。へし込む。力を入れて強く押し込む。
 [否] うしくまぬ
 うしくるばすん¹ [ujikurubasun] [動] 押し転
 ばす。押し転がす。[否] うしくるばはぬ
 うししきるん¹ [ujisikirun] [動] 押し付ける。
 強いる。[否] うしすくぬ
 うししきん¹ [ujisikin] [動] 押さえ込む。[否]
 うしいすくぬ
 うしたま¹ [ujitama] [名] 彼ら。あいつら。
 うしとーすん¹ [ujito:sun] [動] ① 突き飛ばす。
 ② 押し倒す。[否] うしとーはぬ
 うしとー¹ [ujitu] [名] 年寄り。老人。
 うしとー¹ なるん¹ [ujitu narun] [句] 老人に
 なる。歳を取る。
 うしとーぱー¹ [ujitupa:] [名] 老婆。おばあ
 さん。
 うしとーぶや¹ [ujitubuja] [名] 老爺。おじい
 さん。
 うしび¹ [ujipi] [名] 風呂敷。
 うしむどうすん¹ [ujimudusun] [動] 押し戻
 す。[否] うしむどうさぬ
 うじゃうじゃ [udza.udza] [擬] うようよ。虫
 などのたくさんいるさま。
 うしゆがなし¹ [ufugana:si] [名] 御主加那志。
 国王。琉球国王をさす。
 うしゆく [ufuku] [副] それほど。
 うしゆしるん¹ [ujijurun] [動] 押し寄せる。
 うず¹ [udzu] [名] 布団。
 うすくみん¹ [usukumin] [動] 仕舞う。収納す
 る。[否] うすくむぬ
 うすくん¹ [usukun] [動] 置く。[否] うすかぬ
 うすな¹ [usuna] [名] 沖繩。沖繩本島。地名。
 うすなすん¹ [usunasun] [動] なくす。失う。
 [否] うすなはぬ
 うすぴらがすん¹ [usupiragasun] [動] 踏み潰
 す。
 うすふかすん¹ [usufukasun] [動] 伏せる。下
 に向けて置く。[否] うすふかはぬ
 うすふくん¹ [usufukun] [動] 俯く。[否] う
 すふかぬ
 うすまさん [usumasan] [形] ものすごい。恐
 るしい。
 うずまるん¹ [udzumarun] [動] 埋もれる。埋
 まる。[否] うずまらぬ
 うずみるん¹ [udzumirun] [動] 埋める。

- うずら¹ [udzura] [名] ウズラ。小鳥の一種。
- うすん¹ [usun] [動] ① 押す。押さえる。② 覆う。[否] うさぬ
- うせー¹ [use:] [名] ^{さかな}肴。
- うせーるん¹ [use:run] [動] 軽蔑する。
- うせーん¹ [use:n] [動] 貶す。馬鹿にする。[否] うせーるぬ
- うた¹ [uta] [名] 歌。民謡。
- うたーり¹ [utari] [名] いくたり。何人。
- うだぎ [udagi] [副] その程度。それだけ。
- うたげーるん¹ [utage:run] [動] 疑う。疑問に思う。[否] うたげーぬ
- うたごーん¹ [utago:n] [動] 疑う。[否] うたがーぬ
- うたさんしん¹ [utasanjin] [名] 音曲。歌三線。
- うたすん¹ [utasun] [動] 落とす。[否] うたはぬ
- うだち¹ [udatji] [名] 海への降り口。
- うたま¹ [utama] [名] 子。子供。「子供たち」は〈うたまんじ〉。
- うたま¹ すかなすん¹ [utama sūkanasun] [句] 子育てする。
- うたま¹ なすん¹ [utama nasun] [句] 子供を産む。出産する。
- 「うたま¹」んじ [utamandzi] [名] 子たち。子供たち。
- うち¹ [utji] [名] 内。内側。
- うちあみ¹ [utji.ami] [名] (室内に) 打ち込む雨。
- うちあん¹ [utji.an] [名] 投げ網。投網。
- うちくむん¹ [utjikumun] [動] 投げ込む。放り込む。[否] うちくまぬ
- うちくる¹ [utjikuru] [名] 押入れ。
- うちざ¹ [utjidza] [名] 兄弟姉妹。「姉妹」は〈ぶなり〉という。
- うちざ¹まり¹ [utjidzamari] [名] 親戚。親類。
- うちすくん¹ [utjisukun] [動] 落ち付く。[否] うちすかぬ
- うちばっさん [utjibassan] [動 (継)] うち忘れる。忘れるを強めた語。
- うちまかすん [utjimakasun] [動] 打ち負かす。
- うちよー¹ [utjo:] [名] 獲った魚を紐に通す漁具。
- うちん¹ [utjin] [動] 落ちる。[否] うとぅぬ
- うっす¹ [ussu] [名] 後頭部。
- うつすん¹ [utsusun] [動] ① 写す。② 感染させる。[否] うつさぬ
- うったいん¹ [uttain] [動] 訴える。
- うったち [uttatji] [名] 打ち身。ぶつつける。
- うつつあーすん¹ [uttsa:sun] [動] 打ち付ける。[否] うつつあーさぬ
- うつるん¹ [utsurun] [動] ① 移る。② 引越す。③ (病気が) うつる。感染する。④ 映る。⑤ 似合う。[否] うつらぬ
- うつん¹ [utsun] [動] 打つ。[否] うたぬ
- うつん¹ [utsun] [動] 射撃する。[否] うたぬ
- うとー¹ [uto:] [名] 音。物音。
- うとーとう¹ [utu:tu] [名] 年下の兄弟。弟。妹。
- うどーがすん¹ [udugasun] [動] ① 脅す。② どやす。[否] うどーがはぬ
- うとーさた¹ [utuşata] [名] 音沙汰。音信。消息。
- うとーだが¹はん [utudagahan] [形] 名高い。有名だ。
- うとーなさ¹はん [utunasahan] [形] 大人しい。穏和だ。
- うとーるいるん¹ [uturuirun] [動] 衰える。[否] うとーるあぬ
- うどーるぎ¹ [udurugi] [名] 驚き。
- うどーるぐん¹ [udurugun] [動] 驚く。[否] うどーるがぬ
- うとーるさ¹はん [uturusahan] [形] 怖い。恐ろしい。

- うとうるん¹ [uturun] [動] 劣る。[否] うと
うらぬ
- 「うなー¹ぐ」 [una:gu] [名] 安心。安堵。
- うなーぐ しゃーん [una:gu ja:n] [句] (心配
事がなくなり) ほっとする。
- 「うなー¹ぐ なるん¹」 [una:gu narun] [句] 安
心する。安堵する。ほっとする。
- うなん¹ [unan] [名] ウナギ。
- うぬ¹ [unu] [連体] あの。その。〈うぬ-ぴと
う〉「あの人」など。
- うぬ まーま [unuma:ma] [句] そのまま。
- うぶい¹ [ubui] [名] 覚え。記憶。
- うぶいるん¹ [ubuirun] [動] 覚える。
- うぶいん [ubuin] [動] 覚える。
- うぶりるん¹ [uburirun] [動] 溺れる。[否] う
ぶるぬ
- うむいきすん¹ [umuikisun] [動] ① 思い切る。
決心する。② 諦める。③ 果たす。
- うむいくがりん¹ [umuikugarin] [動] 思い焦
がれる。深く思う。[否] うむいくがるぬ
- うむいくむん¹ [umuikumun] [動] 思い込む。
[否] うむいくまぬ
- うむい¹すくん¹ [umuisukun] [動] 思い付く。
[否] うむいすかぬ
- うむいたつん¹ [umuitatsun] [動] 思い立つ。
[否] うむいたたぬ
- うむいつみるん¹ [umuitsumirun] [動] 思い詰
める。[否] うむいつむぬ
- うむいつみん¹ [umuitsumin] [動] 思い詰め
る。[否] うむいつむぬ
- うむいぬぐすん¹ [umuinugusun] [動] 思い
残す。[否] うむいぬぐはぬ
- うむい¹のーすん¹ [umuino:sun] [動] 思い直
す。[否] うむい¹のーさぬ
- うむいんだすん¹ [umuindasun] [動] 思い出
す。[否] うむいんだるぬ
- うや¹ [uja] [名] 親。肉親。王府時代には役人
にも。
- うやかた¹ [ujakata] [名] 親方。
- うやぎ¹ [ujagi] [名] 富裕。金持ち。
- 「うやぎ¹ひー」 [ujagih:] [名] 富裕者。金持ち
の家。
- うやぐ¹ [ujagu] [名] 親族。親戚。[備] 親子
の転訛か。
- うやだり¹ [ujadari] [名] 公務。公事。王府時
代役人の指示した公事、公務。
- うやっすり¹ [ujassuri] [名] 祈り。祈願。
- うやびいとう¹ [ujapitu] [名] 先祖の霊。先祖
神。
- 「うや¹ふあ」 [ujafa] [名] 親子。
- うやまいるん¹ [ujamairun] [動] 敬う。尊敬
する。[否] うやまーるぬ
- うやめーるん¹ [ujame:run] [動] 敬う。尊敬
する。[否] うやめーぬ
- うゆぶん¹ [ujubun] [動] ① 及ぶ。② 相応す
る。[否] うゆばぬ
- うら¹ [ura] [名] 灣。王府時代は「蔵元」を指
した。
- うらがいすん¹ [uragaisun] [動] 裏返す。
- うらげーすん¹ [urage:sun] [動] 裏返す。[否]
うらげーさぬ
- うらすん¹ [urasun] [動] 降ろす。下ろす。[否]
うらはぬ
- うらすん¹ [urasun] [動] 刻む。刃物で切って
細かくする。[否] うらはぬ
- うらんだー¹ [uranda:] [名] 欧米人。西洋人。
- うり¹ [uri] [名] あれ。それ。
- うりー¹ [uri:] [名] 潤い。畑が潤うこと。
- うりげー¹ [urige:] [名] 降り井戸。降りて水
を汲む式の井戸。
- うりじん¹ [uridzin] [名] 春。春季。「潤いの
季節」から。
- うりん¹ [urin] [名] 胡瓜。
- うる¹ [uru] [名] 珊瑚。^{さんご}珊瑚の石。

うるばたぎ¹ [urubatagi] [名] 田虫。皮膚病名。
 うるん¹ [urun] [動] 織る。機を織ること。[否] うらぬ
 うるんがに¹ [urungani] [名] 指輪。
 うるんぺー¹ [urumpe:] [名] 石灰。「サンゴの灰」の義。
 うわー¹ [uwa:] [名] 豚。
 うわるん¹ [uwarun] [動] 終わる。仕舞う。[否] うわらぬ
 うわん¹ひー¹ [uwanhi:] [名] 豚小屋。
 うん¹ [un] [名] 鬼。
 うん¹ [un] [名] 運。幸運。
 うん¹ [un] [名] 海栗。
 うんしゆく¹ [unʃuku] [副] それほど。
 うんつえー [untse:] [名] エンサイ。野菜名。
 「うん¹とう [untu] [副] しっかり。精一杯。
 うんどうん¹ [undun] [名] 位牌をまとめた大きな位牌。
 うんぬ¹ ねーぬ¹ [unnu ne:nu] [句] 運がない。不運だ。
 えー¹ [e:] [名] 絵。図画。絵画。
 えー [e:] [感] そう。軽い肯定。
 「えー¹ しみるん¹ [e: ʃimirun] [句] そうさせる。
 えー¹ すん¹ [e: sun] [句] そうする。
 「えー¹ やちゃら [e: jatʃara] [句] そうなら。それなら。
 「えー¹ やばん [e: jaban] [句] そうでも。
 えーさ [e:sa] [感] そうだよ。
 えーちゅー [e:ʃu:] [感] ~だそうだ。
 えーなー [e:na:] [感] そうか。なるほど。
 「えー¹ぬ [e:nu] [句] そんな。そんなこと。
 「えー¹ばぎる [e:bagiru] [句] そうしか。〈えーばぎる-なる〉など。
 えーるやろ [e:rujaro] [感] そうだ。その通りだ。

「え¹した [eʃita] [句] そうして。
 えすか [esuka] [句] だが。しかし。けれども。
 「えす¹がら [esugara] [句] だから。そうだから。
 えちー¹ [etʃi:] [句] そうだから。
 えちる [etʃiru] [接続] そうだから。
 えにすかすん¹ [enisukasun] [動] 言って聞かせる。指図する。説き聞かせる。教訓する。[否] えにすかはぬ
 えぬ むぬ [enu munu] [句] そんなもの。
 えぬばち [enubatʃi] [句] ^{）箸(はず)} その。
 えぬふあ¹ [enufa] [名] アイゴ。魚の種類。
 えぬん¹ [enun] [動] 言う。[否] えなぬ
 えん¹ [en] [名] 来年。来る年。東村の発音。
 えんだりるん¹ [endarirun] [動] 喧嘩する。争う。[否] えんだるぬ
 えんだりん¹ [endarin] [動] 喧嘩する。争う。[否] えんだるぬ
 おー [o:] [感] はい。目上に対しての返事。敬語。目下には〈くん〉と返事する。
 おーがーるん¹ [o:garun] [動] 浮かぶ。浮かれる。[否] おーがーらぬ
 おーがるん¹ [o:garun] [動] 浮かぶ。浮遊する。[否] おーがらぬ
 おーぎるん¹ [o:girun] [動] 浮ける。浮かべる。浮かせる。漂わす。[否] おーぐぬ
 おー¹し [o:ʃi] [副] 青々と。緑色に。
 おーし おるん [o:ʃi orun] [句] 召し上がる。お上がりになる。「食べる」の尊敬語。
 おー¹し なるん¹ [o:ʃi narun] [句] 青ばむ。青味を帯びる。
 おーしゃ¹ [o:ʃa] [名] 村番所。村事務所。王府時代の村番所。
 おーじゃなー¹ [o:dzana:] [名] 青大将。へびの種類。無毒。
 おーすむぬ¹ [osumunu] [名] 献上品。
 おーすん¹ [o:sun] [動] (牛馬に荷物を) 背負

- わす。[否] おーはぬ
- おーすん¹ [osun] [動] 差し上げる。謙讓語。
[否] おさぬ
- おーばー¹ [o:ba:] [名] 余り。余分。
- おーぱーと¹ [o:pa:to] [名] 青鳩。
- おーふつあ¹はーん [o:futsaha:n] [形] 青臭い。
生臭い。魚や牛、豚などの肉の臭さなどに言う。
- おーむん¹ [o:mun] [動] 青む。青ばむ。青くなる。
- おーらが¹ [o:raga] [句] 風上へ。風上へ向かうこと。
- おーるん¹ [o:run] [動] 来られる。いらっしゃる。「来る」「行く」などの尊敬語。[否] おーらぬ
- おこらすん¹ [okorasun] [動] (人を) 刺激して怒らせる。[否] おこらはぬ
- おこるん¹ [okorun] [動] 怒る。叱る。[否] おこらぬ
- おこるん¹ [okorun] [動] 起こる。[否] おこらぬ
- おしき¹ [ofiki] [名] 天気。天候。
- おった¹ [otta] [名] 蛙。オタマジャクシはくたらく。
- おび¹ [obi] [副] それだけ。それまで。終わり。
- おま¹はん [omahan] [形] 気分が悪い。頭痛がする。
- おわるん¹ [owarun] [動] 終わる。終了する。
[否] おわらぬ
- おん¹ [on] [名] 恩。恩義。
- おん¹ [on] [名] 団扇。扇。^{うちわ おうぎ}
- おんぎ¹ [ongi] [名] 団扇。扇。^{うちわ おうぎ}
- おんぐん¹ [ongun] [動] 扇ぐ。[否] おんがぬ
- おんだ¹ [onda] [名] 畚。^{もっこ} 縄製の運搬具。
- おんだ¹ [onda] [名] 海水浴。水泳。
- が [ga] [助] ~の方へ。〈ありが〉「東の方へ」など。
- かー¹ [ka:] [名] 匂い。香り。
- がー¹ [ga:] [名] 我。^が 根性。忍耐。
- がーがー [ga:ga:] [擬] ① がやがや。やかましくしゃべるさま。② かーかー。カラスが鳴くさま。
- かーき¹ [ka:ki] [名] 約束。賭け。
- かーぎ¹ [ka:gi] [名] 鉤の手。
- がーし [ga:ʃi] [助詞] ~だけ。~ばかり。
- がーし¹ [ga:ʃi] [名] 飢饉。餓死。飢饉は蛾死につながった。
- がーずさはん [ga:dzusahān] [形] ① 忍耐力が強い。我慢強い。② 強情だ。
- かーすん¹ [ka:sun] [動] 匂う。匂いがする。
[否] かーさぬ
- かーち¹ [ka:ʃi] [名] 夏至。
- かーぬ すさはぬ [ka:nu ssahanu] [句] 匂いが強い。
- かーま¹むがし¹ [ka:mamugaʃi] [名] 大昔。太古。
- かーみん¹ [ka:min] [名] 一重瞼。
- かーら¹ [ka:ra] [名] 船の竜骨。キール。
- かーら¹ [ka:ra] [名] 川。河川。
- かーら¹ [ka:ra] [名] 瓦。
- がーら¹だま¹ [ga:radama] [名] 勾玉。^{まがたま}
- かーら¹ひー¹ [ka:rahi:] [名] 瓦葺きの家。
- かーり¹ [ka:ri] [名] 代わり。
- がーりすきん¹ [ga:risukin] [動] 威張る。氣勢を上げる。[否] がーりすくぬ
- がーん [ga:n] [感] まさか。嘘だ。強い否定。
- がい¹ [gai] [名] 害。
- がい¹ すん¹ [gai sun] [句] 害する。
- がいじい¹ [gaidzi] [名] 容器名。茅と竹ひごで編む物入れ。
- かぎ¹ [kagi] [名] 影。陰。
- かきあうん¹ [kaki.aun] [動] 談判する。抗議する。[否] かきあわぬ

かぎじん1 [kagidzin] [名] 陰膳。旅の人の無事を祈るため。
 かぐ1 [kagu] [名] 籠。^{かご}
 がく [gaku] [名] 学校。「学校」の略化。
 がくたま [gakutama] [名] 学童。生徒。「学童」の方言化。
 がくむん1 [gakumun] [名] 学問。
 かさにるん1 [kasanirun] [動] 重ねる。
 かさばるん1 [kasabarun] [動] 重なる。[否] かつあばらぬ
 かさびるん1 [kasabirun] [動] 重ねる。[否] かつあびらぬ
 がざまに 1 [gadzamani] [名] ガジュマル。植物名。
 かざまやー1 [kadzamaja:] [名] 風車。
 かじ1 [kadzi] [名] 数。
 かしー 1 [kaʃi:] [名] 加勢。手伝い。
 がしいどうしい [gaʃiduʃi] [名] 餓死の年。凶作の年。収穫が不作の年。
 'かしがー'ふくる [kaʃiga:fukuru] [名] 南京袋。
 かしき 1 [kaʃiki] [名] おこわ。こわ飯。
 かしきるん1 [kaʃikirun] [動] 駆ける。全力で走る。[否] かしくぬん
 かじまやー 1 [kadzimaja:] [名] 九十七歳の長寿祝い。
 かしみるん1 [kaʃimirun] [動] 売る。販売する。[否] かすむぬ
 かしら 1 [kaʃira] [名] 頭。頭領。旗頭。
 かずいるん1 [kadzuirun] [動] 数える。
 'がす'た [gasuta] [副] ^{みんな}皆。全部。
 かた1 [kata] [名] 型。
 かた1 [kata] [名] 肩。
 かたうや1 [kata.uja] [名] 片親。
 かたが 1 [kataga] [名] 風除け。庇護。
 がたがた [gatagata] [擬] ① がたがた。震えるさま。② 揺れ動くさま。

かたぐ 1 [katagu] [名] 片方。片一方。
 かたすか1 [katasuka] [名] 片付け。整理。
 かたずぐん1 [katadzugun] [動] きちんと整理される。[否] かたずがぬ
 かたすぶる 1やみ 1 [katasupurujami] [名] 片頭痛。
 かたすん1 [katasun] [動] 組する。味方する。[否] かたさぬ
 かたち 1 [katatʃi] [名] 形。姿。恰好。
 かたな 1 [katana] [名] 刀。包丁。
 かた1はん [katahan] [形] 濃い。濃厚だ。密集している。
 かたぱん1 [katapan] [名] 片足。
 かたふかすん [katafukasun] [動] 傾ける。
 かたふきるん1 [katafukirun] [動] 傾ける。[否] かたふかぬ
 かたふくん 1 [katafukun] [動] 傾く。傾斜する。[否] かたふかぬ
 かたぶり1 [kataburi] [名] 片降り。局所的に降る雨。
 かたまるん1 [katamarun] [動] 固まる。硬くなる。[否] かたまらぬ
 かたみるん1 [katamirun] [動] (肩に) 担ぐ。[否] かたむぬ
 かたみるん1 [katamirun] [動] 固める。[否] かたむぬ
 かたるん1 [katarun] [動] 語る。話す。語らう。[否] かたらぬ
 かたん 1 [katan] [名] バッタ。昆虫名。
 かち1 [katʃi] [名] すじ。繊維。
 かち1 [katʃi] [名] 勝ち。勝つこと。
 かち1 [katʃi] [名] 舵。
 かち1 [katʃi] [名] 風。
 かち1 [katʃi] [名] 海栗。
 かちいら1 [katʃira] [名] 蔓。
 かちふき1 [katʃifuki] [名] 暴風。台風。「風吹き」の意味。

- かちまーり^ㄩ [kaɕʝima:ri] [名] 風廻り。風向の急変のこと。
- かちみるん^ㄩ [kaɕʝimin] [動] 保管する。大事にしまう。
- かちむん^ㄩ [kaɕʝimUN] [名] おかず。[備] 直訳「糧物」。
- かちゆ^ㄩ [kaɕʝu] [名] ^{かつお} 鰹。
- かちゆぶし^ㄩ [kaɕʝubuʃi] [名] ^{かつお} 鰹節。
- かちゆぶに^ㄩ [kaɕʝubuni] [名] ^{かつお} 鰹漁船。
- かちよ^ㄩはん [kaɕʝohan] [形] 風が強い。
- かちりるん^ㄩ [kaɕʝirirUN] [動] 飢える。餓える。ひもじい思いをする。[否] かつるぬ
- かちりん^ㄩ [kaɕʝirin] [動] 飢える。餓える。[否] かつるぬ
- かつあ^ㄩ [kaɕʝa] [名] 蚊帳。
- かつあ^ㄩ [kaɕʝa] [名] 笠。
- かつあなるん^ㄩ [kaɕʝanarUN] [動] 重なる。[否] かつあならぬ
- かつあびるん^ㄩ [kaɕʝabirUN] [動] 重ねる。
- かつあま^ㄩはん [kaɕʝamaha:N] [形] 喧しい。
- かつあみるん^ㄩ [kaɕʝamirUN] [動] 仕舞い込む。隠す。[否] かつあむぬ
- かつあむん^ㄩ [kaɕʝamUN] [動] 嵩む。数、量が増える。
- かつあり^ㄩ [kaɕʝari] [名] 飾り。装飾。
- かつえー^ㄩ [kaɕʝe:] [名] 鍛冶。鍛冶屋。
- かつえーぶな^ㄩ [kaɕʝe:buna] [名] 鍛冶屋祭。ふいご祭。
- がっきや^ㄩ [gakkja] [名] 鎌。
- かつん^ㄩ [kaɕʝtUN] [動] 勝つ。[否] かつあぬ
- かとーし^ㄩ [kaɕʝo:ʃi] [名] 梳き櫛。
- かどう^ㄩ [kadu] [名] 角。隅。
- かな^ㄩ [kana] [名] 鉋。大工道具。
- かな^ㄩさーん [kanasa:N] [形] 可愛い。愛らしい。
- かなば^ㄩ [kanaba] [名] 大きな葉。バナナの葉など。
- かなばりん^ㄩ [kanabarin] [名] ヒョウタン。夕顔の実。
- かなぶ^ㄩ [kanabu] [名] えびずる。野ブドウ。
- かに^ㄩ [kani] [名] 金属。
- かに^ㄩ [kani] [名] 鐘。鉦。
- かにじん^ㄩ [kanidzin] [名] 硬貨。
- かにち^ㄩ [kanitʃi] [名] 金槌。玄翁。
- かにるん^ㄩ [kanirUN] [動] おんぶする。担ぐ。[否] かぬぬ
- かぬめー^ㄩ [kanume:] [名] 神行事。
- かねー [kane:] [-] すぐれた。有能な。
- かねーるん^ㄩ [kanerUN] [動] 叶える。[否] かねーらぬ
- かのーん^ㄩ [kano:N] [動] 叶う。実現する。[否] かのーらぬ
- かぱすん^ㄩ [kapasUN] [動] 嗅がせる。[否] かぱはぬ
- かぱ^ㄩはん [kapanhan] [形] 芳しい。薫る。良い香りがする。
- かふちるん^ㄩ [kafutʃirUN] [動] 被せる。上からかける。覆う。[否] かふつぬ
- かぶる^ㄩ [kapurU] [名] コウモリ。
- かぶるさな^ㄩ [kapurusa:na] [名] 洋傘。蘭傘。
- かぶん^ㄩ [kapan] [動] ① 被る。② 茂る。生い茂る。繁茂する。[否] かぱぬ
- かぶん^ㄩ [kapan] [動] (匂いを) 嗅ぐ。[否] かぱぬ
- かペー^ㄩ [kape:] [名] ^{かび} 黴。
- かま^ㄩ [kama] [名] ^{かま} 釜。
- かまいるん^ㄩ [kamairUN] [動] 構える。身構える。[否] かまわぬ
- かまぐ^ㄩ [kamagu] [名] かまぼこ。
- かまさ^ㄩ [kamasu] [名] 食器。ひょうたん製の野良用。
- がま^ㄩさーん [gamasu:N] [形] ① 腕白だ。② 悪戯っぽい。
- がまん^ㄩ [gaman] [名] (海中の) 洞穴。陸上

- の洞窟は〈いん〉。
- かまんだ [kamanta] [名] 大型エイ。マンタ。
- かみ [kami] [名] 亀。
- かみ [kami] [名] 甕。
- かみしきるん [kamiʃikirun] [動] 捕える。ひ
つつかむ。[否] かみすくぬ
- かみん [kamin] [動] ^{つか} 掴む。捕える。
- かみん [kamin] [動] 頭上に乗せて運ぶ。[否]
かむぬ
- かむい [kamui] [名] 梁。
- かむし [kamuʃi] [名] ゴキブリ。油虫。
- かむん [kamun] [動] 噛む。咬む。[否] か
まぬ
- がや [gaja] [名] 茅。チガヤ。植物名。
- がやふきひー [gajafukihii:] [名] 萱ぶきの家
屋。
- かよーん [kajo:n] [動] 通う。[否] かよーわ
ぬ
- がら [gara] [接尾] ~匹。魚などを数える数
詞。結合する数詞語根によって形が変わる。
〈ぴとーら〉「一匹」、〈みーから〉「三匹」な
ど。
- から [kara] なるん [kara narun] [句] 空になる。
全部移されてしまう。
- がらがら [garagara] [擬] からから。空っぽ
のさま。
- からぎるん [karaɡirun] [動] 絡げる。^{まく} 捲る。
[否] からぎらぬ
- がらし [garaʃi] [名] カラス。鳥の名。
- からすん [karasun] [動] 貸す。[否] からは
ぬ
- からばっさ [karabassahan] [形] すばし
こい。身軽だ。敏捷だ。
- から [kara] はん [karahan] [形] ^{から} 辛い。
- からばん [karapan] [名] ^{はだし} 裸足。
- からまぐん [karamagun] [動] 絡まる。絡み
付く。[否] からまがぬ
- からまぐん [karamagun] [動] 巻き付ける。
絡める。[否] からまがぬ
- からむん [karamun] [動] 絡み付く。[否] か
らまぬ
- かりー [kari:] [名] 嘉例。吉例。
- かりがすん [karigasun] [動] 乾かす。[否] か
りがはぬ
- かりぐん [karigun] [動] 乾く。[否] かりが
ぬ
- かりゆし [karijuʃi] [名] 航海安全。航路平
安。
- かりよん [karjon] [名] 山芋。作物。
- かりるん [karirun] [動] 借りる。[否] からぬ
- かりるん [karirun] [動] ① 枯れる。② (声
が) 嘎れる。[否] かるぬ
- かるん [karun] [動] 刈る。刈り取る。[否]
からぬ
- かるん [karun] [動] 借りる。借用する。[否]
からぬ
- かるんじるん [karundzirun] [動] 軽んじる。
軽く思う。ないがしろにする。
- かれーるん [kare:run] [動] 変える。代える。
替える。交換する。両替する。[否] かれー
らぬ
- かるんはん [karohan] [形] 軽い。
- かわり [kawari] [名] 変わり。
- かわるん [kawarun] [動] ① 変わる。変化す
る。② 代わる。[否] かわらぬ
- かん [kan] [名] 蟹。
- かん [kan] [名] 神。神様。
- かん [kan] [名] 寒気。寒さ。
- かん [kan] [名] 棺桶。
- かんがーすん [kanga:sun] [動] (火で) 焙っ
て乾燥する。[否] かんがーはぬ
- かんがん [kangan] [名] 鏡。
- かんがん [kangan] [擬] 早く。早くやれと急
がす様。

- がんきょー [gan:kjo:] [名] 眼鏡。水中眼鏡。
 がんくむぬ [gankumunu] [名] 頑固者。
 かんげー [kan:ge:] [名] 考え。思案。
 かんげーるん [kan:ge:run] [動] 考える。思う。
 かんご [kan:go] [名] 肩車。
 がんざん [gandzan] [名] 蚊。
 がんす [gansu] [名] 元祖。先祖。
 がんずさ なるん [gandzusa narun] [句] 丈夫になる。体が強くなる。
 がんずさはん [gandzusahan] [形] 頑丈だ。丈夫だ。元気だ。
 かんすり [kansuri] [名] 剃刀。
 かんだが さん [kandagasa:n] [形] 神の靈験が高い。
 がんたるごー [gandarugo:] [名] ^{がん} 龕。葬儀で棺を運ぶ龕。
 かんたるん [kandarun] [動] 噛む。よく噛む。
 [否] かんたらぬ
 がんどりん [gando:rin] [動] ① 疲れ果てる。② 元気をなくす。[否] がんどうーるぬ
 がんどらん [gandoran] [動 (継)] 痩せ衰える。
 かなり [kannari] [名] 雷。雷鳴。
 かんぬ ゆー [kannu ju:] [句] 神の世。豊穰の世。
 かんぱるん [kampa:run] [動] 噛み砕く。[否] かんぱらーぬ
 かんぼーしん [kampo:jin] [名] 船首材が上に出た船。
 がんまり [gammari] [名] 悪戯。悪さ。
 がんまり しゃーん [gammari ja:n] [句] よく悪戯をする。悪戯っばい。
 かんみちい [kammit:i] [名] 神の道。神や神司が通る道。
 きー [ki:] [名] 毛。体毛。
 きー [ki:] [名] 木。樹木。
 きー [ki:] [名] 気。気持。
 きー しきりん [ki:jikirun] [句] 注意する。気をつける。
 きーいりん [ki:irin] [動] 元気付ける。[否] きーいらぬ
 きーぬ むとう [ki:nu mutu] [句] 木の幹。
 きーる [ki:ru] [名] 黄色。
 きがい [kigai] [名] 気立て。気骨。
 きかんしん [kikan:jin] [名] 発動機船。帆船に対して言う。
 きさ [kisa] [名] 既に。とっくに。
 きさり [kisar:i] [名] 神行事。宗教的な行事を指す。
 ぎし [gi:ji] [名] 指図。命令。
 きしり [kijiri] [名] 煙管。
 きた [kita] [名] 桁。
 きちい [kit:i] [名] 垂木。
 きちいるん [kit:jirun] [動] ① ^{けず} 削る。② (櫛で髪を) 梳く。[否] きちいらぬ
 きちがん [kit:jigan] [名] 結願。祈願の成就への感謝祭。
 きつあむん [kitsamun] [動] 刻む。[否] きつあまぬ
 きっく [kikku] [名] 稽古。練習。
 きっしい [kijji] [名] 警察。「警察」の転訛。
 きつとー [kitto:] [名] 毛布。外来語の「ケット」から。
 きな [kina] [名] 黒木。琉球黒檀。樹木で三線の部材になる。
 きなし [kina:ji] [名] シナノキ。植物名。
 ぎなむぬ [ginamunu] [名] 出しもの。芸能。「芸の物」から。
 きに [kini] [名] 世帯。家庭。
 きにばがら [kinibagara] [名] ① 分家する。② 分家。
 きぬ あん [kinu an] [句] 気がある。関心がある。

- きぬ¹ みー¹ [kinu mi:] [句] 林の中。^{やぶ}藪の中。
 きぬん¹ [kinun] [動] ねだる。せがむ。[否]
 きなぬ
 きばるん¹ [gibarun] [動] 頑張る。よく働く。
 尽くす。努力する。[否] きばらぬ
 きぶ¹ [kipu] [名] 湯気。蒸気。
 きぶさ¹はーん [kipusaha:n] [形] 煙たい。煙
 る。
 きまるん¹ [kimarun] [動] 決まる。定まる。[否]
 きまらぬ
 きみるん¹ [kimirun] [動] 決める。決定する。
 [否] きむぬ
 きむ¹ [kimu] [名] 肝。肝臓。
 きむぐくる¹ [kimugukuru] [名] 心根。心情。
 きゃんぎ¹ [kjangi] [名] イヌマキ。樹木名。最
 良の建材。
 きゅー¹ [kju:] [名] 今日。本日。
 きゅみるん¹ [kijumirun] [動] 清める。[否] き
 ゆむぬ
 きょーれつ¹ [gjo:retsu] [名] 行列。旧盆の仮
 装行列は〈みちすねー〉という。
 きりかた¹はん [girikatahan] [形] 義理堅い。
 律義だ。
 きりとーすん¹ [kiritosun] [動] 切り倒す。[否]
 きりとはぬ
 きりとーすん¹ [kiritosun] [動] 蹴り倒す。[否]
 きりとーはぬ
 きりとうばすん¹ [kiritupasun] [動] 蹴飛ばす。
 [否] きりとうばはぬ
 きるん¹ [kirun] [動] 蹴る。[否] きらぬ
 きん¹ [kin] [名] 斤。斤数。重さの単位。
 きんき すん¹ [kinki sun] [句] 黄ばむ。黄色
 になる。
 きんさ¹ [kinsa] [名] 検査。
 きんだるん¹ [kindarun] [動] 掻き乱す。[否]
 きんだらぬ
 きんつあーらすん¹ [kintsarasun] [動] 掻き混
 ぜる。[否] きんつあーらはぬ
 ぎんみ¹ [gimmi] [名] 吟味。検討。
 く¹ [ku] [名] 粉。粉末。
 ぐー¹ [gu:] [名] 相棒。仲間。連れ。
 くい¹ [kui] [名] 声。
 くいつあーすん¹ [kuitsa:sun] [動] 揺する。揺
 らす。[否] くいつあーはぬ
 ぐいふ¹ [guifu] [名] 御用布。王府時代の人頭
 税の一つ。
 くいるん¹ [kuirun] [動] 越える。[否] くいぬ
 くいるん¹ [kuirun] [動] ① 請う。求める。②
 求婚する。嫁として申し込む。
 くがすん¹ [kugusun] [動] 焦がす。[否] くぐ
 はぬ
 くがに¹ [kugani] [名] ^{こがね}黄金。
 くがりるん¹ [kugarirun] [動] ① 焦げる。②
 焦がれる。[否] くがるぬ
 くくぬち¹ [kukunutji] [名] 九つ。[備] 簡略
 化〈はこな〉。
 くくる¹ [kukuru] [名] 心。精神。
 くくるいるん [kukuruirun] [動] 心得る。心
 掛ける。気をつける。
 くくるがきるん [kukurugakirun] [動] 心掛け
 る。[否] くくるがくぬ
 くさむくん¹ [kusamukun] [動] 憤慨する。し
 ゃくにさわる。[否] くさむかぬ
 ぐさん¹ [gusan] [名] 杖。
 ぐじいら¹ [gudzira] [名] 鯨。
 くしみ¹ [kujimi] [名] 甲烏賊。
 ぐじゅー¹ [gudzu:] [名] 九十。
 ぐしん¹ [gujin] [名] お酒。お神酒。酒でお供
 えしたものを指す。
 ぐす¹ [gusu] [名] トウガラシ。香辛料。
 ぐそー¹ [guso:] [名] あの世。後生。
 ぐそーみ¹ [guso:mi] [名] 五勺米。御嶽神事
 の徴収米。
 くたいるん¹ [kutairun] [動] 答える。[否] く

- たいるぬ
くだくん [kudakun] [動] 砕く。打ち砕く。[否]
くだかぬ
くたんでー [kɯtande:] [名] 草臥れ。疲労。
くたんでいるん [kɯtandirun] [動] 疲れる。
草臥れる。[否] くたんでいらぬ
くち [kɯtʃi] [名] 籐。蔓の植物。
くち [kɯtʃi] [名] 腰。
くちさはん [kɯtʃisaʰan] [形] 苦しい。窮屈
だ。
ぐちみん [gutʃimin] [名] ^{わき}脇。脇の下。
ぐちゅぐちゅ [gutʃugutʃu] [擬] こちょこち
よ。くすぐる時の形容。
ぐちゅるん [gutʃurun] [動] ^{くすぐ}擦る。[否] ぐ
ちゅらぬ
くつあーすん [kɯtsa:sun] [動] (魚などを) 拵
える。[否] くつあーさぬ
くつあすん [kɯtsasun] [動] 拵える。こさえ
る。[否] くつあはぬ
ぐつえー [gutse:] [名] (大きな) 雄牛。
くつん [kɯtsun] [名] 去年。昨年。
ぐてー [gute:] [名] 体。体格。
くとうしい [kɯtuʃi] [名] 今年。
くとうしきるん [kɯtuʃikirun] [動] 言付ける。
伝言する。[否] くとすくぬ
くとうば [kɯtuba] [名] 言葉。言語。
くとうばるん [kɯtubarun] [動] 断る。[否]
くとうばらぬ
くなすん [kɯnasun] [動] こなす。柔らかく
する。[否] くなはぬ
くなすん [kɯnasun] [動] (お腹を) 下す。下
痢する。[否] くなはぬ
くなちい [kunatʃi] [名] 来年の夏。「来る夏」
の意味。
くぬ [kɯnu] [連体] この。これの。
くば [kɯpa] [名] クバ。ピロウ。植物名。
くばかつあ [kubakɯtsa] [名] クバ笠。クバ
を材料とした笠。
くばすん [kɯpasun] [動] ^{こぼ}零す。[否] くばは
ぬ
くぱはん [kɯpahan] [形] 下手だ。不器用だ。
くぱるん [kɯparun] [動] (寒さで) 凍える。
[否] くぱらぬ
くぱるん [kɯparun] [動] 配る。分配する。[否]
くぱらぬ
くぱん [kɯpan] [名] 神前の供物の名。
くぷりるん [kɯpurirun] [動] ^{こぼ}零れる。[否] く
ぷるぬ
くぷりん [kɯpurin] [動] ^{こぼ}零れる。[否] くぷ
るぬ
ぐぼん [gubon] [名] ^{こぼう}牛蒡。野菜名。
くまた [kɯmata] [名] 分け前。
くまはん [kɯmahan] [形] ① 細かい。② (手
が) 器用だ。(技が) 精巧だ。
ぐまはん [gumahan] [形] 小さい。小粒だ。
くまるん [kɯmarun] [動] ① ^{こも}籠る。② 隠れ
る。[否] くまらぬ
くらすん [kɯrasun] [動] ① 殺す。② 打つ。
殴る。[否] くらはぬ
くらびるん [kɯrabirun] [動] 比べる。比較す
る。
ぐるっけーすん [gurukke:sun] [動] 引っく
り返す。[否] ぐるっけーさぬ
ぐるっけーらん [gurukke:ran] [動 (継)] 引
っくり返る。
くるばすん [kɯrubasun] [動] ① 転ばす。転
がす。② 横たえる。[否] くるばはぬ
くるぶん [kɯrubun] [動] 転ぶ。転がる。[否]
くるばぬ
くるまぼー [kurumabo:] [名] 車棒。くるり
棒。豆打ちの農具。
くわいるん [kuwairun] [動] 加える。
くん [kun] [動] 来る。[否] くぬ
くん [kun] [動] 漕ぐ。[否] くわぬ

- くんき [kuŋki] [名] 根気。体力。
くんき しきるん [kuŋki ſikurun] [句] 栄養をつける。
ぐんず [gundzu] [名] 五十。
くんぞー [kundzo:] [名] 怒り。怒ること。
くんぞーむぬ [kundzo:munu] [名] 怒りんぼ。
くんた\ばり [kuntabari] [名] この間。少し前。
ぐんぼー [gumbo:] [名] 私生児。隠し子。
けー [ke:] [名] 井戸。
けー [ke:] [名] 陰。日蔭。
けー [ke:] [名] 卵。
けーし [ke:ʃi] [副] きれいに。立派に。
けーすん [ke:sun] [動] 耕す。「返す」の義。
[否] けーさぬ
けーら [ke:ra] [名] ^{みんな}皆。全部。
けーら\ねーら [ke:ranera] [名] 皆さま。皆皆様。〈けーら〉は「皆・全部」。
けーり [ke:ri] とーすん [ke:ri to:sun] [句] 切り倒す。薙ぎ倒す。
けーるん [ke:run] [動] 切り倒す。(固いものを) 叩き切る。[否] けーらぬ
けーるん [ke:run] [動] 帰る。
けしゃ\はん [keʃahan] [形] きれい。美しい。物について言う。
けすん [kesun] [動] 消す。消去する。[否] けさぬ
「けっ」た [ketta] [副] たいそう。
けった ぞっふあら [ketta dzoffara] [句] びしょり。水に濡れるさまの形容。
けった ばっさーん [ketta bassa:n] [句] すっかり忘れきる。
けった みゃーん [ketta mja:n] [句] 十分に熟する。熟しきる。
げん [gen] [名] 来年。来る年。富嘉の発音。
こー [ko:] [名] お香。線香。
こーがき [ko:gaki] [名] 頬かぶり。覆面。
ごーごー [go:go:] [擬] ① ぐうぐう。ぐっすり眠るさま。② すうすうと寝入るように死んで行くさま。
こーさー [ko:sa:] [名] 拳骨。
こーし [ko:ʃi] [副] 固く。堅実に。立派に。
こーし [ko:ʃi] [名] 菓子。
こーすん [ko:sun] [動] 壊す。[否] こーはぬ
こーすん [ko:sun] [動] 掘り取る。根こそぎ取る。[否] こーさぬ
こー「に」ー [ko:ni:] [名] 男の児の愛称。
こー\はん [ko:han] [形] 固い。硬い。
こー\はん [ko:han] [形] 歯ごたえがある。
ごー\はん [go:han] [形] 怖い。恐ろしい。
こーみ [ko:mi] [名] お辞儀。拝む。
こーりるん [ko:rirun] [動] 壊れる。崩れる。
[否] こーるぬ
こーるん [ko:run] [動] 固まる。硬くなる。
[否] こーらぬ
こーろ [ko:ro] [名] 独染。^{こま}
こーん [ko:n] [動] 買う。[否] かーぬ
ごーんた [go:nta] [擬] こつん。物を軽く打つ音の形容。
こい [koi] [名] 肥し。肥料。
こいすぶ [koisupu] [名] 肥溜。
こいたんぐ [koitangu] [名] 水肥おけ。
ごかけー [gokake:] [名] ニワトリの卵。鶏卵。
こさ\はん [kosahan] [形] ^{くす}擦ったい。
こすぱり [kosupari] [-] 歯ごたえがある。
こすぱるん [kosuparun] [動] 固まる。硬くなる。[否] こすぱらぬ
こすん [kosun] [動] 漉す。[否] こさぬ
こすん [kosun] [動] 越す。越える。越させる。[否] こはぬ
ごっか [gokka] [名] 鶏。
こっきー [kokki:] [名] ご馳走。
こっこー [kokko:] [名] 法事。法要。

- こっち [kottʃi] [名] (幼児語) 陰茎。
- こっぱるん [kopparun] [動] ① 強張る。意地を張る。② 固くなる。硬直する。[否] こっぱらぬ
- こっふあすん [koffasun] [動] 崩す。壊す。[否] こっふあはぬ
- こっふいるん [koffirun] [動] 崩れる。[否] こっふぬ
- こむん [komun] [動] お辞儀する。[否] こまぬ
- こんぎ [kongi] [名] 桑の木。植物名。
- こんぎ [kongi] [名] 狂言。
- ごんた [gonta] [擬] ごくんごくん。水など、液体を勢い良く飲み下ろすさま。
- さ [sa] [名] 茶。
- さ [sa] [名] 差。
- さ [sa] [接尾] ～さ。
- ざー [dza:] [名] 何処。どれ。
- ざー [dza:] [名] 座。席。
- さーだがはん [sa:daɣahan] [形] 靈感能力が高い。靈驗あらたかだ。
- ざーだぎ [dza:dagi] [名] 苦竹。竹の種類。
- さーっさーった [sa:ssa:tta] [擬] さっさと勢いよく歩く様子。
- さーった [sa:tta] [擬] さっさと。素早く。
- さーに [sa:ni] [名] 月桃。植物名。
- ざーぬ [dza:nu] [句] どの。何処の。
- ざーはん [dza:han] [形] 苦い。
- さーふーふー すん [sa:fu:fu: sun] [句] ほろ酔いになる。上機嫌になる。
- ざーふえー [dza:fe:] [名] まずいこと。困ったこと。
- さーら [sa:ra] [名] サワラ。魚類名。
- ざーりるん [dza:rirun] [動] (布などが古くなって) 裂ける。[否] ざーるぬ
- さーる [sa:ru] [名] 猿。動物名。
- さーるん [sa:run] [動] 触る。触れる。[否]
- さーらぬ
- ざいぎ [dzaigi] [名] 木材。材木。
- ざいさん [dzaisan] [名] 財産。
- さうき [sauki] [名] お茶うけ。茶菓子。
- さか [saka] [名] 上り坂。「下り坂」はくさんがり」と言う。
- さかいるん [sakai-run] [動] ① 栄える。繁栄する。② 繁る。[否] さかゆぬ
- さかさー [saka:sa:] [名] 逆さ。逆。
- さかすけー [saka:suke:] [名] 盃。
- さかなやー [sakanaja:] [名] 料亭。遊廓。
- ざがふなぶ [dzagafunabu] [名] ヒラミレモン。ミカン名。
- さがらすん [sagarasun] [動] 掛け買いする。掛けで買う。[否] さがらはぬ
- さがるん [sagarun] [動] (肉類が) 傷む。[否] さがらぬ
- さがるん [sagarun] [動] 下がる。後退する。ぶら下がる。[否] さんがらぬ
- さき [saki] [名] 先。先端。岬。埼。
- さき [saki] [名] 酒。
- さきぐし [sakiguʃi] [名] 酒癖。
- さきじょーぐ [saki:dʒo:gu] [名] 大酒飲み。酒上戸。
- さきつあーるん [sakit:sa:run] [動] ずたずたに裂く。
- さきふつあはーん [saki:futsaha:n] [形] 酒臭い。
- さきまーり [saki:ma:ri] [名] 先回り。
- さきやま [saki:jama] [名] 崎山。西表島の地名。
- さきるん [saki-run] [動] 裂ける。[否] さくぬ
- さぎるん [sagirun] [動] 下痢する。通じが良くなる。
- さくほー [sakuho:] [名] 農作。耕作。
- さくるん [sakurun] [動] 切り開く。肉を切り開くときに言う。[否] さくらぬ

- さぐるん [sagurun] [動] 探る。探索する。[否]
さくらぬ
- さくん [səkun] [動] 裂く。割る。[否] さかぬ
- さくん [səkun] [動] 咲く。[否] さかぬ
- さけー [səkə:] [名] 境。境界。
- さこー [səkō:] [名] 咳。
- さこーし [səkō:ʃi] [名] 長男。
- さこだち [səkodatʃi] [名] ハスノハギリ。樹木名。
- さこらはん [səkorahan] [形] 塩辛い。
- ざしき [dzəʃiki] [名] 座敷。
- さすん [səsun] [動] 刺す。差す。挿す。[否]
ささぬ
- さた [sata] [名] 噂。消息。評判。
- さた [səta] [名] 砂糖。黒糖。
- さたたくん [sətatəkun] [名] 製糖する。
- さたぱんべー [sətapambe:] [名] 砂糖てんぷら。
- さだみ [sadam] [名] 定め。規則。
- さだみるん [sadamirun] [動] 定める。決める。[否] さだむぬ
- さち [sətʃi] [名] 鉢巻。
- さっていむ [sattimu] [感] 大変だ。もう大変。
- さっと [satto] [副] てきぱきと。手早く。
- 「ざつ」と [dzatto] [副] 簡単に。大雑把に。
- ざつふあざつふあ [dzaffadzaffa] [擬] ① ぐさり。物を突き刺す音の形容。② ざぶざぶ。
- ざつふあった [dzaffatta] [擬] ざぶっと。水に勢いよくつけるさま。
- さっぶん [sappun] [名] 石鱈。外来語の「シャボン」から。
- さでいふか [sadifuka] [名] ハマオモト。植物名。
- さとー [səto:] [名] 茶湯。仏前に供えるお茶。
- さとうるん [saturun] [動] 悟る。気付く。[否]
- さとらぬ
- ざとく [dzatoku] [名] 床の間。一番座の神を祭る間。
- さとぬし [sətonuʃi] [名] 里之子。士族の若い男。
- さな [səna] [名] 傘。洋傘。
- さにさに しゃん [sanisani ʃan] [句] にこにここと笑う。
- さにしゃー すん [səniʃa: sun] [句] 嬉しがる。喜ぶ。楽しむ。
- さにしゃはん [səniʃahan] [形] 嬉しい。
- さにち [sənitʃi] [名] 旧暦の三月三日。浜下りの日。
- ざぬ [dzanu] [句] どの。どこの。
- さねー [səne:] [名] ^{ふんどし} 褌。
- さぱ [səpa] [名] ^{ふか} 鱧。
- さぱあ [səpa] [名] 相撲。
- さぱくん [səbakun] [動] さぱく。調停する。[否] さぱかぬ
- さぱくん [səbakun] [動] 探す。探索する。[否] さぱかぬ
- さぱさぱ [səpasəpa] [擬] 粘り気のない様。
- さぱに [səbani] [名] くり舟。
- さぱはん [səpahan] [形] 折れやすい。裂けやすい。
- さぱん [səban] [名] 湯呑。茶碗。
- さぱん [səpan] [名] 草履。
- さび [səbi] [名] 錆。
- さびすくん [səbisukun] [動] 錆付く。
- さふくん [səfukun] [動] 引きずる。[否] さふかぬ
- さぶら [səbura] [名] ^{ほら} 法螺貝。
- さぼーりん [səbo:rin] [動] 寂れる。落ちぶれる。[否] さぼーるぬ
- ざぼんた [dzabonta] [擬] ざぶっと。水の中へ物を入れる音の形容。
- さましきるん [səmaʃikirun] [句] 縛りつける。

さますん¹ [samasun] [動] 冷ます。[否] さまはぬ
 さますん¹ [samasun] [動] 覚ます。
 さまたぎるん¹ [samatagirun] [動] 妨げる。邪魔する。[否] さまたぐぬ
 ざまどうらすん¹ [dzamadurasun] [動] ① 迷わす。惑わす。② 化かす。
 ざまどうるん¹ [dzamadurun] [動] 迷う。まごつく。うろたえる。[否] ざまどうらぬ
 さまるん¹ [samarun] [動] 醒める。目覚める。[否] さまらぬ
 さまるん¹ [samarun] [動] ① 縛^{しば}る。② 束ねる。[否] さまらぬ
 さみるん¹ [samirun] [動] 覚める。
 さみるん¹ [samirun] [動] 冷める。
 さゆ¹ [saju] [名] 白湯。
 さら¹ [sara:] [名] 皿。
 ざらざーら すん [dzaradzara:ra sun] [句] ざらざらする。
 さらさら [sarasara] [擬] ① さっさと。素早く。② 水気のないさらっとしたさま。
 ざらざら [dzaradzara] [擬] (粒など小さな物が) 零れる様子。小さな物を移したり、こぼしたりする時の音の形容。
 さらすん¹ [sarasun] [動] 晒す。漂白する。[否] さらはぬ
 さらすん¹ [sarasun] [動] (水に) 晒す。[否] さらはぬ
 さり¹ [sari] [名] 申。十二支の申。
 ざりるん¹ [dzarirun] [動] 裂ける。破れる。[否] ざるぬ
 さわがすん¹ [sawagasun] [動] 騒がす。慌てさせる。[否] さわがはぬ
 さん¹ [san] [名] 棧。戸や障子の骨。
 さん¹ [san] [名] 虱。
 さん¹ [san] [名] 魔除けの結び。
 ざん¹ [dzan] [名] ジュゴン。海獣名。

さんがり¹ [sangari] [名] 下り坂。
 さんがるん¹ [sangarun] [動] ぶら下がる。
 さんきら¹ [sankira] [名] 山帰来。薬草。
 さんぎるん¹ [sangirun] [動] 吊るす。吊下げ^る。[否] さんぐぬ
 さんぎんそー¹ [sanginso:] [名] 易者。占い師。
 さんごなー¹ [sangona:] [名] 浮気女。尻軽女。
 さんごなー¹ すん¹ [sangona: sun] [句] 淫^らだ。性的にだらしのない。
 ざんざらごー [dzandzarago:] [名] ばらばらに割れる。
 さんしん¹ [sanjin] [名] 三^{さんしん}線。沖縄の三味線の呼称。
 さんず¹ [sandzu] [名] 三十。
 さんだん [sandan] [名] 工面。
 さんだん すん [sandan sun] [句] 工面する。
 ざんぬ¹ゆ¹ [dzannuju] [名] ジュゴン。海獣名。
 「さん」ば [samba] [名] 南西方。
 「さん」ぼー [sambo:] [名] 三方。お供えの台。
 さんみん¹ [sammin] [名] 計算。
 しー¹ [ji:] [名] 手。
 しー¹ [ji:] [名] 巢。鳥の巢。
 しー うすくまん [ji: usukuman] [動] 終える。し遂げる。[否] しー うすくむぬ
 しー¹あらはーん [ji:araha:n] [形] 手荒い。手が粗っぽい。手ですることが粗削りである。
 しー¹うさぎるん¹ [ji:usagirun] [句] 手を合わせる。礼拝する。
 しー¹うすくま¹ [ji:usukuma] [句] 仕事を完了する。
 じーかたうやぐ [dzi:kata.ujagu] [名] 母方親戚。
 しあぎるん¹ [ji.agirun] [動] 仕上げる。[否] しあぐぬ
 しー¹くぱ¹はーん [ji:kupaha:n] [形] 不器用だ。

- しーぐまはん [ʃi:ɡumahan] [形] 器用だ。仕事の出来がきれいだ。
- しーし [ʃi:ʃi] [名] 獅子。ライオン。
- しーっぺー [ʃi:ppe:] [副] 精一杯。
- しーなん [ʃi:nan] [名] 帆綱。
- しーにふつはん [ʃi:nifutsuhan] [形] 手の仕事が遅い。
- しーぬふつあはん [ʃi:nufutsahan] [形] 手が遅い。手がのろい。
- しーのーすん [ʃi:no:sun] [動] し直す。[否] しーのーはぬ
- しーぱん [ʃi:pan] [名] 手足。
- しーぶ [ʃi:bu] [名] 勝負。[備] 勝負の転訛。
- しーふき [ʃi:fuki] [名] 指笛。
- しーべしやはん [ʃi:peʃahan] [形] ① 手早い。手がすばしこい。仕事の処理が早い。② 手がすぐ出る。
- しーるん [ʃi:run] [動] 饅える。食べ物が痛む。[否] しーらぬ
- じい [dʒi] [名] 乳。乳房。
- じいー [dʒi:] [名] 血。血液。
- じいー [dʒi:] [名] 地。土地。
- じいー [dʒi:] [名] 字。文字。
- じいー [dʒi:] [名] 棘。
- じいーまーみ [dʒi:ma:mi] [名] 落花生。ピーナツ。
- じいぬ みち [dʒinu mitʃi] [名] 血管。
- しいぴりるん [ʃipirirun] [動] 萎びる。小さくなる。[否] しいぴるぬ
- しいぴるん [ʃipirun] [動] 舐める。[否] しいぴらぬ
- しいま [ʃima] [名] 手間。手間賃。報酬。
- しいみるん [ʃimirun] [動] ① 強める。② (酒などを) 濃くする。
- じうてー [dʒi.ute:] [名] 地謡。
- しか [ʃika] [名] 石垣市。石垣市の古称。直訳「四箇」で、「四か村」の義。
- 「しかい」とう [ʃikaitu] [副] しっかり。精一杯。
- しかき [ʃikaki] [名] 仕掛け。工夫。
- しかきるん [ʃikakirun] [動] ① 仕掛ける。② 挑む。[否] しかくぬ
- しかた [ʃikata] [名] 仕方。方法。
- しがねー [ʃigane:] [名] 手伝い。手助け。
- しかま [ʃikama] [名] 仕事。
- 「しかま」ぶち [ʃikamaputʃi] [名] 宵の明星。昔は星の明かりで野良仕事をしたことから。
- しがみ [ʃigami] [名] 手紙。
- しかむん [ʃikamun] [動] しかむ。ひびる。
- しからさ [ʃikarasa] すん [ʃikarasa sun] [句] ① 悲しがる。② 寂しがる。
- しから [ʃikaraha:] ーん [ʃikaraha:n] [形] ① 悲しみふさぐ。② 寂しがる。
- しから [ʃikarahan] はん [ʃikarahan] [形] 淋しい。悲しい。
- しき [ʃiki] んぐん [ʃiki ŋɡun] [句] 付いて行く。
- しきあたるん [ʃiki.atarun] [動] 突き当たる。[否] しきあたらぬ
- しきあんぎるん [ʃiki.angirun] [動] 突き上げる。[否] しきあんぐぬ
- しきぐり [ʃikigurisa:] ーん [ʃikigurisa:n] [形] 聞き苦しい。
- しきだーすん [ʃikida:sun] [動] べったり座る。
- しきだぎ [ʃikidagi] [名] 燐寸。^{マッチ}
- しきだるん [ʃikidarun] [動] 叩く。砕く。[否] しきだらぬ
- しきたん [ʃikitan] [名] 石炭。[備] 石炭の転訛。
- しきつあーすん [ʃikitsa:sun] [動] にじり寄る。いざる。[否] しきつあーさぬ
- しきつつあーるん [ʃikittsa:run] [動] いざって進む。膝行する。
- しきとうばすん [ʃikityapasun] [動] 突き飛ば

す。[否] しきとばはぬ
 しきべー [ʃikibe:] [名] 色気違い。多淫の女子。好色の女子。
 しきぼーるん [ʃikipo:run] [動] 散乱させる。散らかす。[否] しきぼーらぬ
 しきほーん [ʃikiho:n] [動] ついばむ。
 しきゆ [ʃikiju] [名] 石油。初めはくしきたんゆ〉と言っていた。
 しきり [ʃikiri] [名] ^{なまこ}海鼠。
 しきるん [ʃikirun] [動] 漬ける。[否] すくーぬ
 しきるん [ʃikirun] [動] お供えする。[否] しくぬ
 しきるん [ʃikirun] [動] (灯りや火を) 点ける。
 しぎるん [ʃigirun] [動] 過ぎ去る。[否] すぐぬ
 しきん [ʃikin] [名] 世間。世の中。
 しきんじるん [ʃikindzirun] [動] 突き出る。[否] しきんどうぬ
 しきんだすん [ʃikindasun] [動] ① 突き出す。② 突き出させる。突き出るようにする。[否] しきんだはぬ
 しぐ [ʃigu] [名] 小刀。ナイフ。
 しぐとう [ʃigutu] [名] 仕事。業務。
 しくむん [ʃikumun] [動] 仕込む。準備する。[否] しくまぬ
 じぐや [dʒiguja] [名] 十五夜。中秋の名月。
 しくん [ʃikun] [動] 突く。[否] しかぬ
 しけーすん [ʃike:sun] [動] 案内する。お迎えする。[否] しけーさぬ
 しけーるん [ʃike:run] [動] 支える。
 しけん [ʃiken] [名] (天体の) 月。
 しこーるん [ʃiko:run] [動] ① 準備する。用意する。② 作る。拵える。[否] すこーらぬ
 しさはん [ʃsahan] [形] 酸っぱい。
 ししー [ʃiji:] [名] 煤。

ししき [ʃiʃiki] [名] (頭上運搬の) 当て物。頭に乘せる輪。頭上運搬に使う丸い輪。
 ししきるん [ʃiʃikirun] [句] 手がける。手をつける。
 しじゃー [ʃidʒa:] [名] 年上。年長。
 ししゃん [ʃʃan] [動 (継)] 知っている。
 ししらすん [ʃʃirasun] [動] 滑らせる。
 しじり [ʃidʒiri] [名] ^{すずり}硯。
 ししりん [ʃʃirin] [動] 滑る。[否] ししいるぬ
 ししん [ʃʃin] [動] 捨てる。
 ししん [ʃʃin] [名] 節祭。
 した [ʃita] [名] 舌。
 したい [ʃitai] [感] やったー。でかした。
 したいが [ʃitaiga] [句] 下へ。下方へ。
 したく すん [ʃitaku sun] [句] 支度する。
 したくぱるん [ʃitakuparun] [動] ^{ども} 吃る。[否] したくぱらぬ
 しだすん [ʃidasun] [動] 着飾る。[否] しだはぬ
 したち [ʃitatʃi] [名] 醤油。
 したているん [ʃitatirun] [動] 仕立てる。
 しち [ʃitʃi] [名] 節。季節。
 しっさん [ʃʃan] [動 (継)] 絶やす。
 しっし [ʃiʃʃi] [名] 手拭い。タオル。
 しっしとうるん [ʃʃiturun] [動] 切り取る。[否] しっしとうらぬ
 しっしりるん [ʃʃirirun] [動] ① ずり落ちる。② 滑る。[否] しっしるぬ
 しっしるん [ʃʃirun] [動] 絶える。途切れる。
 しっしんふに [ʃʃinfuni] [名] 節祭で漕ぐぐり舟。
 しっすぴかり [ʃʃupikari] [名] ^{ほたる}蛍。
 しっすみん [ʃʃumin] [名] 白いキノコ。
 しっするん [ʃʃurun] [動] 拭く。拭き取る。[否] しっすらぬ
 しっすするん [ʃʃurun] [動] ^す 擦る。^{こす} 擦る。[否] しっすらぬ

- しっすん¹ [ssun] [動] 切る。[否] しっさぬ
しっすん¹ [ssun] [動] 着る。[否] しっさぬ
しっすん¹ [ssun] [動] 注ぐ。差す。湯, 茶, 水
だけに使う。
しっすん¹ [ssun] [動] 知る。
しっせー¹ [sse:] [名] 白髪。
しっつあーすん¹ [ʃittsa:sun] [動] 撫でる。[否]
しっつあはぬ
しな¹ [ʃina] [名] 太陽。日。
しな¹ [ʃina] [名] 品。種類。
しな¹あがるん¹ [ʃina.agarun] [句] 日が昇る。
日の出になる。
しな¹いるん¹ [ʃina.irun] [動] 日が沈む。日没
になる。[否] しないらぬ
しな¹しっすん¹ [ʃinassun] [動] 日が照る。[否]
しなしっさぬ
しなた¹ [ʃinata] [名] 後ろ。後方。
しなぬ¹ みー¹ [ʃinanu mi:] [句] 日向。
しなばく¹ [ʃinabaku] [名] 首里大屋子。王府
時代の役職。
しにぶたん [ʃinibutan] [動] 死に果てる。
しぬ¹ [ʃinu] [名] 昨日。
「しぬ¹」ふき [ʃinu fuki] [句] 手首。
しのー¹ [ʃino:] [名] 角。
しのー¹ [ʃino:] [名] 篩。
じばぐ¹ [dzibagu] [名] 重箱。[備] 重箱の転
訛。
しばみるん¹ [ʃipamirun] [動] 狭める。狭くす
る。
じばり¹ [dzibari] [名] 釣針。
しび¹ [ʃibi] [名] 鮪。
しび¹ [ʃipi] [名] タカラガイ。子安貝。
しび¹ [ʃipi] [名] ① 後ろ。後。② 尻。
しびかるん¹はん [ʃipikarohan] [形] 尻が軽い。
さっさと仕事を片づける。
しびぬ¹みん¹ [ʃipinumin] [名] 尻の穴。肛門。
しびゃた¹ [ʃipjata] [名] 後ろ。後。後方。
- しぴりん¹ [ʃipirin] [動] 萎びる。腫れがひく。
[否] しぴるぬ
しびる¹ [ʃibiru] [名] 葱。
しぴんさ¹はーん [ʃipinsaha:n] [形] 尻が重い。
不精だ。なかなか動こうとしない。
しふく¹ [ʃifuku] [名] 拳。
じふねー¹ [dzifune:] [名] 陸酔い。下船後も
酔うこと。
じぶん¹ [dzibun] [名] 時分。ころ。
じぼー¹ [dzibo:] [名] 釣り竿。
しぼへぬ [ʃibohenu] [句] したくない。やら
ない。
しまいるん¹ [ʃimairun] [動] 済む。終わる。
しまはかるん¹ [ʃimahakarun] [動] 手間取る。
[否] しまはからぬ
しまふさ¹ら¹ [ʃimafusara] [名] 疫病除けの行
事。
しみ¹ [ʃimi] [名] 爪。
しみしきるん¹ [ʃimiʃikirun] [動] 責めつける。
[否] しみすくぬ
しみしきるん¹ [ʃimiʃikirun] [動] 締めつける。
[否] しみすくぬ
しみらすん¹ [ʃimirasun] [動] 湿らせる。水気
を与える。[否] しみらはぬ
しみるん¹ [ʃimirun] [動] 締める。締めつけ
る。[否] すむぬ
しみるん¹ [ʃimirun] [動] 湿る。湿っぽくな
る。(湿って) 不潔になる。[否] しみらぬ
しみるん¹ [ʃimirun] [動] ① 責める。非難す
る。② 攻める。
しみん¹ [ʃimin] [動] 染める。[否] すむぬ
しむぬ¹ [ʃimunu] [名] 吸い物。料理名。
しゃー¹ [ʃa:] [副] 何時も。常に。
しゃー¹ [ʃa:] [名] 枡。一升枡。
しゃー¹ んぐん¹ [ʃa: ŋgun] [句] よく行く。し
ばしば行く。
しゃーみ¹ [ʃa:mi] [名] つもり。予定。

- しゃーみるん [ʃa:mirun] [動] やっつける。やり込める。叱りつける。[否] しゃーむぬ
- じゃく [dʒaku] [名] ^{かつお} 鰹の餌の小魚。「雑魚」から。
- しゃしゃびら [ʃaʃabira] [名] 杓文字。
- しゃま [ʃama] [名] 兄。年上。「兄方」の義。
- しゃまかた [ʃamakata] [名] 先輩。
- しゃみしきるん [ʃamiʃikirun] [動] 叱りつける。どやしつける。[否] しゃみすくぬ
- しゃみしきん [ʃamiʃikin] [動] 叱りつける。[否] しゃみすくぬ
- しゃんしゃん [ʃanʃan] [名] セミ。アブラゼミ。
- しゆくぶん [ʃukubun] [名] 職分。任務。
- しゆぷ [ʃupu] [名] 鉄砲。
- しゆる [ʃuru] [名] 棕櫚。
- しゆるん [ʃurun] [動] (稲を) 扱く。そぐ。脱穀する。[否] しゅらぬ
- しゆるん [ʃurun] [動] しごく。しごき落とす。[否] しゅらぬ
- じょーぎ [dʒo:gi] [名] 定規。物差し。
- じょーぐ [dʒo:gu] [名] ^{じょうご} 上戸。酒好き。
- じょーふかいはん [dʒo:fukaha:n] [形] 情が深い。
- じょーぶくろ [dʒo:bukuro] [名] 封筒。
- しょーむぬ [ʃo:munu] [名] 良い物。立派な物。
- しょっこー [ʃokko:] [名] 法事。法要。直訳「焼香」。普通は〈こっこー〉と言う。
- しら [ʃira] [名] ^{いな} 稲むら。
- しらいん [ʃirain] [動] してやられる。[否] しらるぬ
- しらす [ʃirasu] [名] 予行演習。リハーサル。
- じらば [dʒiraba] [名] 古謡の労働歌。
- じり [dʒiri] [名] 暗礁。リーフ。
- じりく [dʒirikun] [名] 十六日祭。旧暦一月十六日の墓前での先祖や死者供養。
- しるし [ʃiruʃi] [名] ^{しるし} 印。兆候。
- しるん [ʃirun] [動] (太陽が) 照る。[否] しらぬ
- じろーし [dʒiro:ʃi] [名] サルカケミカン。鋭い棘の植物。
- しわー [ʃiwa:] [名] 心配。不安。
- しわざ [ʃiwadza] [名] 仕業。行為。
- しん [ʃin] [名] 千。
- しん [ʃin] [名] 墨。墨汁。
- しん [ʃin] [名] ^{つば} 唾。唾液。
- しん [ʃin] [名] ^{ひえ} 稗。
- しん [ʃin] [名] 招待客。お客。
- じん [dʒin] [名] 天。空。
- じん [dʒin] [名] お膳。膳。
- じん [dʒin] [名] 銭。お金。
- しんか [ʃinka] [名] 従業員。部下。「臣下」すなわち「家来」から。[備] 「臣下」の転。
- しんがま [ʃiŋgama] [名] ^{さそり} 蠍。
- しんがら [ʃiŋgara] [名] 大きな金梃子。
- じんぎり [dʒiŋgiri] [名] 茶筒。
- しんくつえー [ʃiŋkutse:] [名] 洗骨。法事の一つ。
- しんけー [ʃinke:] [名] 気違い。「神経」から。
- 「しんじ」ふちり [ʃindʒifutʃiri] [名] 煎じ薬。
- しんじょー [ʃindʒo:] [名] 天井。
- しんじるん [ʃindʒirun] [動] 煎じる。[否] しんじぬ
- しんじるん [ʃindʒirun] [動] 信じる。信用する。信仰する。[否] しんずぬ
- しんしん [ʃinʃin] [名] 先生。[備] 先生の転訛。
- しんず [ʃindzu] [名] 四十。
- じんたみるん [dʒintamirun] [動] 金を貯める。貯金する。[否] じんたむぬ
- しんだら [ʃindarasa:n] [形] 可愛い。可愛らしい。
- しんどー [ʃindo:] [名] 船頭。

- じんぬ¹ ふかー¹ [dzinnu fuka:] [句] 天の川。
銀河。
- じんぱるん¹ [dzimparun] [動] 噛み切る。[否]
じんぱらぬ
- じんぱるん [dzimparun] [動] 抓る。^{つね}
- しんび¹ [simbi] [名] 手の指。
- じんふくる¹ [dzinfukuru] [名] 財布。お金入
れ。直訳「錢袋」。
- しんぷら¹ [simpura] [名] 天ぷら。[備] 「て
んぷら」の転訛。
- じんぶん¹ [dzimbun] [名] 知恵。分別。
- じんぶん¹ とーらん¹ [dzimbun to:ran] [句]
気が利かなくなる。
- じんむちゃー¹ [dzimmutja:] [名] 金持ち。
- じんもーき¹ [dzimmo:ki] [名] 金儲け。
- すー¹ [su:] [名] 潮。海水。
- すー¹ [su:] [名] おつゆ。汁。
- ずーし¹ [dzu:ʃi] [名] おじや。雑炊。
- すーだが¹ [su:daga] [名] 合計。総額。
- すーぬ¹ ふち¹ [su:nu futʃi] [名] なぎさ。波
打ち際。
- すーぴき¹ [su:piki] [名] 潮流。
- すーぴすん¹ [su:pisun] [動] 潮が引く。干潮に
なる。
- ずーぶるん¹ [dzu:burun] [動] 発情する。[否]
ずーぶらぬ
- ずーぶん¹ [dzu:bun] [動] 交尾する。[否] ず
ーばぬ
- すーペー¹ [su:pe:] [名] 杓子。お玉。
- すーまん¹ [su:mam] [名] 小満。季節の名。沖
縄では梅雨時期にあたる。
- すーむに¹ [su:muni] [名] 苦言。忠言。
- すーんつん¹ [su:ntsun] [動] 潮が満ちる。満
潮になる。
- すうとう¹ [sutu] [名] お土産。^{みやげ}
- すうな¹はん [sunahan] [形] 拙い。幼稚。^{つたな}
- すうぬ¹ [sunu] [名] 着物。
- すうぬ [sunu] [名] 昨日。
- すうぬ¹ あらすん¹ [sunu. arasun] [句] 洗濯
する。
- すうぬ¹ かれーるん¹ [sunu kare:run] [句] 着
替える。
- すうぬ¹ すっすん¹ [sunu ssun] [句] 着物を
着る。
- すうぬん¹ [sunun] [動] 死ぬ。敬語はくまら
すん。[否] すなぬ
- すうぱ¹ [supa] [名] 唇。^{くちびる}
- すうぶ¹ [supu] [名] ① 壺。^{つぼ} ② 急所。
- すうふく¹ [sufuku] [名] クモ。クモの糸。
- すうま¹ [suma] [名] 島。郷里。我が島(ペー
すま)など。
- すうまるん¹ [sumarun] [動] 詰まる。[否] す
まらぬ
- すか¹ [suka] [名] 囲炉裏。炉。
- すか¹ [suka] [名] 柄。道具の柄。
- すか っしりん [suka ʃʃirin] [句] 投げ捨てる。
捨てるの強調。
- すかーるぬ [suka:runu] [句] 聞こえない。
- すがい¹ [sugai] [名] 身なり。身だしなみ。
- すかいるん¹ [sukairun] [動] ① 聞こえる。聞
かれる。② 聞ける。聞くことができる。[否]
すかるぬ
- すかうちるん¹ [suka.utʃirun] [動] 落ちこち
る。「落ちる」の強調。[否] すかうとぬ
- すかさ¹ [sukasa] [名] 司。神司。
- すかすん¹ [sukasun] [動] ① 聞かせる。② 知
らせる。[否] すかはぬ
- すかすん¹ [sukasun] [動] 鋤く。[否] すかは
ぬ
- すかなーうや¹ [sukana:uja] [名] 養い親。養
父母。
- すかなすん¹ [sukanasun] [動] 養育する。飼
育する。[否] すかなはぬ
- すかのーすん¹ [sukano:sun] [動] 養う。飼う。

- [否] すかのーはぬ
 すかは1 なるん1 [sɯkaha narun] [句] 近づく。
 ただし、時間的なもののにのみいう。
 すかはん [sɯkahan] [形] 近い。近距離。
 すかふちるん1 [sɯkafutʃirun] [動] おっかぶ
 せる。[否] すかふとぬぬ
 すかま1 [sɯkama] [名] 仕事。労役。業務。
 すかみち1 [sɯkamitʃi] [名] 近道。
 すかみんだすん1 [sɯkamindasun] [動] 掴み出
 す。[否] すかみんだはぬ
 すかむん1 [sɯkamun] [動] ^{つか}掴む。捕える。[否]
 すかまぬ
 すかり1すくん1 [sɯkarisɯkun] [動] 叱りつけ
 る。戒める。駭ける。[否] すかりすくぬ
 すかるん1 [sɯkarun] [動] 漬かる。浸る。[否]
 すからぬ
 すぎゃん1 [sugjan] [動 (継)] 過ぎ去る。
 すく1 [sɯku] [名] 底。奥。
 すくく1 [sɯkuku] [名] 梟。
 すくつふわすん1 [sɯkuffwasun] [動] ぶち壊
 す。[否] すくつふわさぬ
 すくび1 [sɯkubi] [名] ^{おび}帯。
 すくぶ1 [sɯkubu] [名] ^{もみがら}粃殻。
 すくふあすん1 [sɯkufasun] [動] 強く振る。揺
 らす。[否] すくふあさぬ
 すくまるん1 [sɯkumarun] [動] 縮こまる。小
 さくなる。[否] すくまらぬ
 すくまるん1 [sɯkumarun] [動] ① ^{かが}屈む。②
 小さくなる。
 すくまん1 [sɯkuman] [名] 初穂祭。
 すくむん [sɯkumun] [動] すくむ。身動きが
 出来なくなる。[否] すかまぬ
 すくり1 [sɯkuri] [名] 造り。構造。
 すぐりん1 [sugurin] [動] 優れる。勝る。
 すくるん1 [sɯkurun] [動] 作る。作成する。[否]
 すくらぬ
 すくん1 [sɯkun] [動] 聞く。[否] すかぬ
 すくん1 [sɯkun] [動] 敷く。[否] すかぬ
 すくん1 [sɯkun] [動] 着く。到着する。[否]
 すかぬ
 すくん1 [sɯkun] [動] 突く。[否] すかぬ
 すくん1 [sɯkun] [動] 置く。置いておく。[否]
 すかぬ
 すくん1 [sɯkun] [動] 搗く。玄米について白
 米にする。[否] すかぬ
 すくん1 [sɯkun] [動] 好く。好む。好きだ。[否]
 すかぬ
 すけーとー1 あん1 [sɯke:to: an] [句] 使い出
 がある。
 すこーすん1 [sɯko:sun] [動] ^{すく}掬う。[否] すこ
 ーはぬ
 すこーん1 [sɯko:n] [動] 使う。使用する。費
 やす。[否] すかーぬ
 すさーらすん1 [ssa:rasun] [動] 垂らす。ぶら
 下げる。[否] すさーらはぬ
 すさーり1 [ssa:ri] [名] 白蟻。
 すさーるん [ssarun] [動] 垂れる。垂れ下が
 る。[否] すさーらぬ
 すさぎるん1 [ssagirun] [動] (白・杵で) 搗く。
 [否] すさぐぬ
 すさざぎ1 [ssadzagi] [名] モンパノキ。海浜
 の植物。
 すさはん [ssahan] [形] 強い。強力だ。優勢
 だ。
 すさびるん1 [ssabirun] [動] 調べる。[否] す
 さぶぬ
 すさぶ1 [ssabu] [名] ^{しらほ}白保。石垣島の集落名。
 海岸に位置し、1771年の津波で集落がほと
 んど壊滅し、その後、波照間島からの人で
 再建された。現在の八重山諸方言の中で白
 保方言が波照間方言にもっと近い。
 すさむん1 [ssamun] [動] 白む。白くなる。白
 みを帯びる。色があせる。[否] すさまぬ
 すさりぶち1 [ssaributʃi] [名] 挨拶。口上。

すさりん [ssarin] [動] 申し上げる。謙讓語。
 [否] すさるぬ
 すされー [ssare:] [感] ご免下さい。他家訪問
 時の声かけ。
 すさんち [ssantʃi] [名] 秋。秋季。
 すするん [ssurun] [動] 拭く。擦る。[否] す
 すらぬ
 「すそー」し [sso:ʃi] [副] 白い。白っぽい。
 す「たー」すたー [sʉta:sʉta:] [副] 度々。
 すたうい [sʉta:ui] [名] 上下逆。
 すだちるん [sudatʃirun] [動] 育てる。
 すだつん [sudatsun] [動] 育つ。[否] すだた
 んぬ
 すたはこち [sʉtahakotʃi] [名] 下あご。
 すたみん [sʉtamin] [名] カタツムリ。
 すたらすん [sʉtarasun] [動] 滴らせる。水を
 切る。[否] すたらはぬ
 すたるん [sʉtarun] [動] (雫が) 垂れる。滴
 る。湿る。[否] すたらぬ
 すっす [sussu] [名] 裾。
 すっち [sutʃi] [名] 潮時。干潮時。
 ずっち [dzittʃi] [名] ① 乳房。② 竹床。
 すとーま [sʉto:ma] [名] 風下。
 すとうち [sʉtutʃi] [名] 蘇鉄。備荒植物。
 すとうみるん [sʉtumirun] [動] 勤める。勤
 務する。[否] すとうむぬ
 すとうむち [sʉtumutʃi] [名] 朝。
 すとうりすとうり [sʉturisʉturi] [擬] ぽたぽ
 た。しとしと。雨の静かに降るさま。
 すとうる [sʉtura:] [形] うら寂し
 い。
 すな [suna] [名] 綱。縄。
 すながらすん [sʉnagarasun] [動] 続かせる。
 連ねる。[否] すながらはぬ
 すながるん [sʉnagarun] [動] ① 連ねる。②
 並べる。
 すなすん [sʉnasun] [動] ① 殺す。「死なす」

の意。② 殴る。[否] すなはぬ
 すなちるん [sʉnatʃirun] [動] 育てる。[否]
 すなとはぬ
 すねー [sʉne:] [名] 曾根。浅堆。バンク。
 すぱしきるん [sʉpaʃikirun] [動] くっ付ける。
 接着する。[否] すぱすかぬ
 すぱに [sʉpani] [名] 岩礫。岩岸壁。
 すぱみるん [sʉpamirun] [動] 狭める。
 すぱんこっち [sʉpaŋkottʃi] [名] ミズガンピ。
 浜紫檀。植物名。
 すび [subi] [名] 礫。荒礫。
 すぶしん [sʉpuʃin] [名] 膝。
 すぶた [sʉputahan] [形] 不潔だ。汚い。
 すぶつあーん [sʉputsa:n] [形] 不潔だ。
 すぶりやみ [sʉburijami] [動] 腹がしぼるよう
 に痛む。
 すぶりん [sʉpurin] [名] 冬瓜。
 すぶるいし [sʉpuru:ifi] [名] アザミサンゴ。
 すぶるん [sʉpurun] [動] 搾る。
 すぶるん [sʉpurun] [動] すする。舐める。[否]
 すぶらぬ
 すぶるん [sʉpurun] [動] 吸う。吸い取る。[否]
 すぶらぬ
 すぽはん [sʉpohan] [形] 渋い。渋みがある。
 すまじしゃはん [sʉmadʒifahan] [形] コクのある旨味。
 すますん [sʉmasun] [動] 済ます。済ませる。
 終える。し遂げる。[否] すまはぬ
 すますん [sʉmasun] [動] 潜らせる。沈ませ
 る。[否] すまはぬ
 すますん [sʉmasun] [動] 澄ます。[否] すま
 はぬ
 すまっち すん [sʉmattʃi sun] [句] 粗末にす
 る。ぞんざいに扱う。
 すまどうるん [sʉmaburun] [動] 迷う。とま
 どう。[否] すまどうらぬ
 すまむに [sʉmamuni] [名] 鳥言葉。方言。

- すまるん\\ [sɯmarun] [動] 染まる。[否] すま
らぬ
- すむん [sɯmu] [名] 肝。心。
- すむん ねーぬ\\ [sɯmu ne:nu] [句] 人情がない。
薄情。
- すむあーり [sɯmu.a:ri] [名] 胸騒ぎ。落ち着
かない。
- すむいしやがはーん [sɯmuiʃagaha:n] [形]
小胆だ。気が小さい。
- すむいたはん [sɯmuitahan] [形] 気の毒だ。
可哀そうだ。心が痛い。義。
- すむいり\\ [sɯmuri] [名] 肝入り。熱心。
- すむぐくるん [sɯmugukuru] [名] 心情。精神。
- すむぐりさん [sɯmugurisan] [形] 可哀そう
だ。気の毒だ。
- すむぐりしやがはーん [sɯmuguriʃaha:n] [形]
可哀そう。そう。な。思。い。が。す。る。み。じ。め。な。思。い
が。す。る。
- すむくん [sɯmukun] [動] 背く。
- すむけしやがはーん [sɯmukeʃaha:n] [形] 心
が美しい。心が優しい。
- すむづさはーん [sɯmuzusaha:n] [形] 心強
い。頼もしく思う。
- すむすさはん [sɯmususahan] [形] 心強い。
- すむだーりるん\\ [sɯmuda:run] [動] 悄げる。
気落ちする。
- すむだがはん [sɯmudagahan] [形] 気位が
高い。
- すむち\\ [sɯmutʃi] [名] 書物。本。
- すむとう [sɯmutu] [名] 鞭。^{むち}
- すむぴらすん [sɯmupirasun] [動] ① 打ち解
ける。② 仲直りする。[否] すむぴらはぬ
- すむやむーん [sɯmujamu:n] [句] 心が痛む。
胸の痛む。思。い。が。す。る。見。る。に。忍。び。な。い。哀
れだ。
- すむやむん\\ [sɯmujamun] [動] 心配する。悩
む。[否] すむやまぬ
- すむん\\ [sɯmun] [動] 積む。積み重ねる。[否]
すまぬ
- すむん [sɯmun] [動] 潜る。沈む。[否] すま
ぬ
- すむん [sɯmun] [動] 澄む。[否] すまぬ
- すむん [sɯmun] [動] 済む。終わる。[否] す
まぬ
- すむん [sɯmun] [動] 包む。[否] すまぬ
- すむん [sɯmun] [動] ① 摘む。摘み切る。千
切る。② つねる。[否] すまぬ
- すら [sura] [名] 先。先端。
- すーる\\ [sɯru] [名] 弦。^{げん}
- するいるん [sɯruirun] [動] ① 揃える。準備
する。② 列を整える。行列をつくる。③ 集
まらせる。集合させる。
- するいん [suruin] [動] 揃える。
- するん [sɯrun] [動] 剃る。[否] すらぬ
- すん\\ [sun] [動] する。やる。[否] さぬ
- すん [sun] [名] 損。^{そん}
- すんぐるん [sɯngurun] [動] 鞭打つ。[否] す
んぐらぬ
- すんぼー [sumpo:] [名] 寸法。
- せー [se:] [名] 小エビ。
- せー [se:] [感] さあー。行動始めの掛け声。
- せーぐ [se:gu] [名] 大工。[備] 「細工」に対
応。
- せいろー [seiro:] [名] 蒸籠。蒸し器のこと。
- そー [so:] [名] 正気。意識。
- そー [so:] [名] 竿。^{きお}
- ぞー [dzo:] [名] 門。^{もん}
- そー ねーぬ [so: ne:nu] [句] 毫碌している。^{もうろく}
- そーいり\\ [so:iri] [名] 利口。賢い。
- そーぎ [so:gi] [名] 箕。^み
- そーじ [so:dzi] [名] 掃除。
- ぞーじ [dzo:dzi] [名] 上手。上手い。
- そーしき\\ [so:ʃiki] [名] 葬式。
- ぞーしき\\ [dzo:ʃiki] [名] 炊事。

そーどーㄨ [so:do:] [名] 騒動。騒ぎ。
 そーとうㄨ [dzo:tu] [名] 上等。立派。
 そーぬㄨ [dzo:nu] [名] 租税。年貢。上納の義。
 そーべーㄨ [so:be:] [名] 安っぽい。粗悪な。
 そーみんㄨ [so:min] [名] 素麵。^{そうめん} [備] そうめんの転訛。
 そーりㄨ くんㄨ [so:ri kun] [句] 一緒に来る。
 そーりㄨ んぐんㄨ [so:ri ŋun] [句] 一緒に行く。
 そーりそーり [dzo:ridzo:ri] [擬] ザァザァ。激しい雨のさま。
 そーりんㄨ [so:rin] [名] お盆。旧盆。
 そーるんㄨ [so:run] [動] ① 連れる。② 娶る。妻にする。[否] そーらぬ
 そーるんㄨ [so:run] [動] (へらで) 根こそぎに取る。[否] そーらぬ
 そっかㄨ [dzokka] [名] 急須。^{きゅうす}
 そっふわらすんㄨ [dzoffwarasun] [動] 濡らす。[否] そっふあらはぬ
 そっふわりんㄨ [dzoffwarin] [動] 濡れる。[否] そっふあるぬ
 そっふわるんㄨ [dzoffwarun] [動] 濡らす。
 そりㄨ んぐんㄨ [sori ŋun] [句] 連れていく。
 そるんㄨ [sorun] [動] (妻を) 娶る。[否] そらぬ
 そるんㄨ [sorun] [動] (へらで) 除草する。[否] そらぬ
 そんㄨ すんㄨ [son sun] [句] 損する。欠損する。
 そんぐんㄨ [sonŋun] [動] 引きずる。連れていく。[否] そんがぬ
 そんㄨ さみやㄨ [sonsamja] [名] 白鷺。鳥の名。
 そんだんㄨ [sondan] [名] 相談。[備] 相談の転訛。
 そんだんㄨ すんㄨ [sondan sun] [句] 相談する。言い合わせる。
 た [ta] [接尾] ~方。〈あらた〉「東方」、〈い

らた〉「西方」など方向を示す。
 たーㄨ [ta:] [名] どなた。誰。敬語。
 だーㄨ [da:] [名] お前。君。年下へ使う。
 だーぐㄨ [da:gu] [名] 道具。
 だーこ [ta:ko] [名] 凧。「たこ」の転訛。
 だーさはん [da:sahan] [形] 立派だ。獲物が多い。
 だーしㄨ [da:ʃi] [名] 出汁。^{だし}
 だーびむぬㄨ [da:bimunu] [名] 玩具。^{おもちゃ} 遊び道具。
 だーぶんㄨ [da:bun] [動] 弄る。^{いじ} 弄ぶ。^{もてあそ} [否] だーばぬ
 たーむじいㄨ [ta:mudʒi] [名] 田芋。
 たーらㄨ [ta:ra] [名] 俵。^{たわら}
 だーり [dari] [-] ぐったり。ぐだっと。
 だーりゃんㄨ [da:rjan] [動 (継)] ぐたっとなつて元気がなくなる。
 だーりるんㄨ [da:rirun] [動] ① だれる。ぐったりする。② 萎える。(花などが) 萎む。(植物の勢いが) 衰える。[否] だーるぬ
 たーりんㄨ [ta:rin] [動] 寝入る。熟睡する。[否] たーるぬ
 だーりんㄨ [da:rin] [動] だれる。疲れる。(植物が) 萎れる。[否] だーるぬ
 だーんた [danta] [擬] どんと。どたあんと。どすん。物事をしっかり決める。〈だーんたきみるん〉「しっかり決める」のように使う。
 たいㄨ すんㄨ [tai sun] [句] ① 対抗する。反抗する。敵対する。② 嫉妬する。
 だいばんㄨ [daiban] [名] 大型のカツオ。大判鯉。
 だいまㄨ [daima] [名] 君たち。お前ら。
 たいらぎるんㄨ [tairagirun] [動] (飲食物を残らず) 飲食し尽くす。
 たかㄨ [ta:ka] [名] 鷗。^{サンバ}
 たかた [ta:kata] [名] 高地。台地。

た¹が¹たかし [tagatakaʃi] [副] 高々と。うず高く。

たか¹はん [takahan] [形] 高い。

たか¹ぴいとう¹ [takapitu] [名] 背の高い人。偉い人。

たか¹ぶ¹ [takabu] [名] ^{たばこ}煙草。

たか¹ふもん¹ [takafumon] [名] 入道雲。

たか¹ぶるん¹ [takaburun] [動] 高ぶる。威張る。高く止まる。

たか¹ら¹ [takara] [名] 宝。

たき¹ [taki] [名] 竹。

たき¹ [taki] [名] 丈。身長。

だき¹ [daki] [名] 岳。山。

だぎ [dagi] [副] その程度。

だき¹すん¹ [dakisun] [動] (固い物、刃物で) 叩き切る。「切る」の強調。[否] だきさぬ

たき¹どうん¹ [takidun] [名] 竹富。竹富島。八重山諸島の島の名。

たぎ¹らすん¹ [tagirasun] [動] たぎらせる。煮えたぎらせる。沸騰させる。[否] たぎらはぬ

たぎ¹るん¹ [tagirun] [動] たぎる。煮えたぎる。沸騰する。

たく¹ [taku] [名] 蛸。

だく¹むん¹ [dakumun] [動] ぶち込む。投げ入れる。放り込む。[否] だくまぬ

たく¹らむん [takuramun] [動] 企む。

たぐ¹るん¹ [tagurun] [動] ^{たぐ}手繰る。[否] たぐらぬ

たく¹ん¹ [takun] [動] 炊く。炊事する。[否] たかぬ

だぐ¹ん¹ [dagun] [動] 抱く。[否] だがぬ

たげ¹ー¹ [tage:] [副] だいぶ。大概。

たけ¹ーるん¹ [take:run] [動] 叫ぶ。怒鳴る。唸る。[否] たけーらぬ

たこ¹ーすん¹ [tako:sun] [動] 貯える。貯蔵する。[否] たこはぬ

たじい¹にるん¹ [tadzimirun] [動] 尋ねる。問う。探す。[否] たずぬぬ

たしか¹みるん¹ [tʃikamirun] [動] ① 確かめる。確認する。② 探し求める。[否] たしかむぬ

たし¹きるん¹ [tʃikirun] [動] 助ける。救う。[否] たすくぬ

だす¹きん¹ [dasukin] [動] 叩きつける。[否] だすくぬ

たす¹たがー¹ [tasutaga:] [句] 知ったことか。

だす¹たすく¹ん¹ [dasutasukun] [動] 放置する。構わない。捨てておく。ほっておく。[否] だすたすかぬ

だす¹だすく¹ん¹ [dasudasukun] [動] ほっておく。[否] だすだすかぬ

だす¹ますん¹ [dasumasun] [動] (鞭で) ひっぱたく。[否] だすまはぬ

たた¹ーるん¹ [tata:run] [動] 崇る。[否] たたーらぬ

たた¹ぎばるん¹ [tagibarun] [動] 叩き割る。[否] たたぎばらぬ

たた¹ぐん¹ [tagun] [動] ^{たた}叩く。[否] たたがぬ

たた¹しきるん¹ [tagikirun] [動] 投げて叩きつける。[否] たたすくぬ

ただ¹すん¹ [tadasun] [動] 質す。確かめる。質問して確かめる。[否] ただはぬ

たた¹つくむん¹ [tagakumun] [動] 放り込む。[否] たたつくまぬ

たた¹むん [tagamun] [動] 畳む。折り畳む。[否] たたまぬ

たた¹めー¹ [tagame:] [名] ^{たたみ}畳。

ただ¹りん [tadarin] [動] ^{ただ}爛れる。

たち¹ [tati] [名] ^{たつ}辰。十二支の辰。

だち¹ご¹ [datigo] [名] ダンチク。竹科の植物。

たち¹のーるん¹ [tagino:run] [動] 立ち直る。[否] たちのーらぬ

- たま。
- たましい¹ [tamaʃi] [名] 魂。靈魂。
- たまち¹ [tamatʃi] [名] 魂。靈魂。
- たまち¹ [tamatʃi] [名] 割当て。持分。〈くまた〉と同義。
- たまるん¹ [tamarun] [動] (曲がっている物が) 真っ直ぐになる。日本語の「矯める」と同源の〈たみるん〉「まっすぐにする」に対応する自動詞。[否] たまらぬ
- たまるん¹ [tamarun] [動] 溜まる。貯まる。[否] たまらぬ
- たまん¹ [taman] [名] 玉。弾。
- たみ¹ [tami] [名] ^{ため}為。
- たみすん¹ [tamisun] [動] 試す。[否] たみさぬ
- たみらすん [tāmirasun] [動] 真っ直ぐにする。[否] たみらはぬ
- たみるん¹ [tāmirun] [動] 真っ直ぐにする。
- たみるん¹ [tāmirun] [動] ① 貯める。蓄える。② 溜める。
- たむき¹ [tamuki] [名] ^{かざむき}風向。
- たむつん¹ [tamutsun] [動] 保つ。長持ちする。[否] たむたぬ
- たむぬ¹ [tamunu] [名] ^{たきぎ}薪。
- たむん [tamun] [名] ^{たきぎ}薪。
- たゆるん¹ [tajurun] [動] 頼る。[否] たゆらぬ
- たらーすん¹ [tārasun] [動] 物を補う。埋め合わせる。[否] たらーはぬ
- たらーぬ¹ [tāranu] [句] 足りない。不足する。
- たらぐ¹ [taragu] [名] ^{たわら}俵。
- たらぐ¹ [taragu] [名] オタマジャクシ。
- たらすん¹ [tārasun] [動] 足らす。補う。[否] たらはぬ
- たらすん¹ [tārasun] [動] 溶かす。とろかす。[否] たらはぬ
- だらだら [daradara] [擬] だらだら。動作の鈍いさま。
- たりるん¹ [tārirun] [動] 溶ける。垂れる。
- たりるん¹ [tarirun] [動] 足りる。十分に足りる。
- だりるん¹ [darirun] [動] ① ^{しお}萎れる。② 元気がなくなる。悄げかえる。[否] だるぬ
- たるざー¹ [tarudza:] [名] どいつが。誰が。
- だる¹さーん [darusa:n] [形] だるい。疲労ぎみだ。
- たれー¹ [tāre:] [名] ^{たらい}盥。
- たん¹ [tan] [名] 炭。木炭。
- たん¹ [tan] [名] 反。田畑の面積や反物の数。
- だん¹ [dan] [名] 段。壇。
- たんか¹ [taŋka] [名] 真向かい。正面。
- たんかー¹ [taŋka:] [名] 満一歳の誕生日。
- たんがーむぬ¹ [taŋga:munu] [名] 独り者。独身。
- だんがさ¹ [dangasa] [名] 洋傘。[備] 蘭傘の転訛。
- たんかにげー¹ [taŋkanige:] [名] 遥拝。遠隔地からの礼拝。
- たんきむぬ [taŋkimunu] [名] 短気者。
- たんきるん¹ [taŋkirun] [動] ひるむ。怖気づく。[否] たんくぬ
- たんぐ¹ [tangu] [名] 桶。水桶。
- だんざー¹ [dandza:] [名] お前は。きさまは。
- だ¹ん¹た [danta] [副] しっかり。がっちり。
- だ¹ん¹だん [dandan] [名] 階段。
- たんでー¹ [tande:] [感] どうか。是非とも。
- だんぱち¹ [dampatʃi] [名] 断髪。理髪。
- だんぱちーやー [dampatʃi:ja:] [名] 床屋。理髪店。
- だんぱん¹ [dampān] [名] 談判。抗議。
- ちー [tʃi:] [接尾] ① ～個。〈ぴとちい〉「一個」)、〈はたちい〉「二十歳」。② ～歳。〈ぴとちい〉「一個」)、〈はたちい〉「二十歳」。
- ちーかたうやぐ¹ [tʃi:kata.ujagu] [名] 母方親戚。

- ちき¹ [tʃiki] [名] (月日の) 月。
- ちくどうん¹ [tʃikudun] [名] 筑登之。王府時代の位階。
- ちごーん¹ [tʃigo:n] [動] ① 違う。② 変わる。
[否] ちがわぬ
- ちじ¹ [tʃidʒi] [名] 頂。頂上。
- ちじきるん¹ [tʃidʒikirun] [動] 続ける。[否] ちじくぬ
- ちじくん¹ [tʃidʒikun] [動] 続く。[否] ちじかぬ
- ちちすむん¹ [tʃitʃisumun] [動] 慎む。[否] ちちしいまぬ
- ちぶ¹ [tʃibu] [名] 坪。面積の単位。
- 「ちゃー」が [tʃa:ga] [句] どうか。どうだい。
- ちゃんぷるー¹ [tʃampurū:] [名] 油でいためたおかず類。
- ちゅー [tʃu:] [助] ~だそうだ。
- ちよーみー¹ [tʃo:mi:] [名] 長命。長寿。
- ちんだみ [tʃindami] [名] 調弦。三線用語。
- つぐん¹ [tsugun] [動] 継ぐ。[否] つがぬ
- てー¹ [te:] [名] 魚の干物。
- てー¹ [te:] [名] 支える力。
- てー¹ [te:] [名] ^{たいまつ} 松明。
- てーく¹ [te:ku] [名] 太鼓。
- てーぐ¹ [de:gu] [名] 大工。
- てーぐに¹ [de:guni] [名] 大根。
- てーし¹ [te:ʃi] [名] 野いちご。ナワシロイチゴ。[備] 多良間方言の〈たぎす〉に対応。
- てーじ¹ [de:dʒi] [名] 大事。大変。
- てーだが¹ [de:daga] [名] 高価な。
- てーに¹ [te:ni] [名] ^{かじぼう} 舵棒。
- ていがら¹ [tigara] [名] 手柄。獲物。
- ていんま¹ [timma] [名] 伝馬船。
- てしきるん¹ [teʃikirun] [動] (火を) 熾す。焚き付ける。(薪に火を) 点ける。(薪などを) くべる。[否] てすくぬ
- てすかるん¹ [tesukarun] [動] (火が) 燃えだす。[否] てすからぬ
- でん¹ [den] [名] 値段。代金。
- とー¹ [to:] [名] 沖。大海。
- とー¹ [to:] [名] ^{とお} 十。[備] 簡略化〈とー〉。
- とー¹ [to:] [名] 唐。中国。
- とー¹ [to:] [名] 低平地。窪地。
- とー [to:] [感] もう。
- とーかち¹ [to:kætʃi] [名] 米寿。八十八歳の祝い。
- とーさ¹ [to:sa] [名] 田草。
- とーしんべー¹ [to:ʃimbe:] [名] おたふくかぜ。風疹。
- とーすん¹ [to:sun] [動] 倒す。サトウキビの収穫にも言う。[否] とーはぬ
- とーすん¹ [to:sun] [動] 通す。[否] とーはぬ
- 「どー」でいん [do:di:n] [副] どうぞ。是非とも。
- とーに¹ [to:ni] [名] 豚の餌入れ。
- とーぴくん¹ [to:pikun] [動] ^{こす} 擦る。磨く。[否] とーぴかぬ
- とーら¹ [to:ra] [名] 炊事小屋。福屋。作業小屋を兼ねる。[備] 「唐倉」の転。白保方言も下降型である。
- どーり¹ [do:ri] [名] 道理。ことわり。
- とーりるん¹ [to:rirun] [動] ① 倒れる。② 滅ぶ。滅亡する。[否] とーるぬ
- とーるん¹ [to:run] [動] ① 通る。② 通用する。認められる。[否] とーらぬ
- とーん¹ [to:n] [動] 問う。尋ねる。[否] とわぬ
- どー¹ [du:] [名] 自分。体。胴体。
- どー¹かってい¹ [du:katti] [名] 自分勝手。
- どー¹かってい¹ しゃーん [du:katti ʃa:n] [句] 自分勝手している。自分勝手だ。
- どー¹が¹ん¹じ¹ゅー¹さーん [du:gandʒu:sa:n] [形] 体が健康だ。
- 「どー」し [du:ʃi] [句] 自分で。

- どうー¹ずさ¹はん [du:dzusahan] [形] 体が丈夫だ。健康だ。
 どうー¹だるさ¹はん [du:darusaha:n] [形] 体がだるくて重い感じだ。
 どうー¹たんき¹ [du:taŋki] [名] 骨惜しみ。
 どうー¹ぴとうち [tu:pitutji] [名] 十一。十一個。
 どうー¹よがすん¹ [du:jogasun] [動] 休む。休憩する。[否] どうよがはぬ
 どうー¹る¹ [du:ru] [名] 泥。
 どうい¹しみるん¹ [tuijimirun] [動] 問い詰める。[否] どういすむぬ
 どうい¹すくん¹ [tu:isukun] [動] 問い聞く。[否] どういすかぬ
 どうが¹ [tuga] [名] 罪。罰。
 どうが¹にん [tuganin] [名] 罪人。
 どうが¹みるん¹ [tugamirun] [動] 咎める。罰する。[否] どうがむぬ
 どうき¹るん¹ [tukirun] [動] 溶ける。融ける。[否] とうくぬ
 とうく¹ [tuku] [名] 仏壇。床の間。
 とうく¹ [tuku] [名] 寢床。
 とうく¹ [tuku] [名] 得。利得。
 とうく¹ [tuku] [名] 徳。
 どうく¹ [duku] [名] 毒。
 どうぐ¹ [dugu] [副] 酷い。
 とうく¹つ¹とう¹ [tukuttu] [名] 安心。安堵。
 どう¹ぐ¹どう¹ぐ¹ [dugudugu] [副] あんまりだ。〈どうぐ〉の強調。
 どうぐ¹りしゃ¹はん [dugurijaha:n] [形] 気の毒だ。気まずい。可哀そうだ。恐縮だ。
 とうくる¹ [tukuru] [名] 所。場所。
 とうぐ¹ん¹ [tugun] [動] 研ぐ。研磨する。[否] とがぬ
 とうけ¹ー¹ [tuke:] [名] 遠い所。遠方。
 どうげ¹ー¹るん¹ [dugerun] [動] 怒鳴る。[否] どげーらぬ
 とうさ¹はん [tusahan] [形] 遠い。遠方だ。
 とうし¹ [tu:ʃi] [名] 砥石。
 どうし¹ [du:ʃi] [名] 友人。友達。
 とうしいぬ¹ ゆー¹ [tu:ʃinu ju:] [句] 大晦日の夜。
 とうしいぬ¹ ゆる¹ [tu:ʃinu juru] [句] 大晦日の夜。
 とうしき¹るん¹ [tu:ʃikirun] [動] 説得する。[否] とうすくぬ
 どうしけ¹な [du:ʃikena] [句] 各自で。自分で。自分でやるなど。
 とうしみ¹るん¹ [tu:ʃimirun] [動] 問い責める。問い詰める。[否] とうしむぬ
 とうじ¹みるん¹ [tudzimirun] [動] 終える。
 とうち¹ [tu:ʃi] [名] 年。歳。年齢。
 とうち¹い¹とうるん¹ [tu:ʃiturun] [動] 年を取る。[否] とうちとうらぬ
 とうとうぎ¹るん¹ [tu:ʃugirun] [動] 届ける。
 とうとうぐ¹ん¹ [tu:ʃugun] [動] 届く。[否] とがぬ
 とうとうのー¹ん¹ [tu:ʃuno:n] [動] 整う。きちんとなる。うまくまとまる。[否] とうとうのーあぬ
 どうなー¹さー¹ん [duna:sa:n] [形] (動作が) 緩慢である。のろのろしている。
 とうなば¹るん¹ [tu:nabarun] [動] 黙る。押し黙る。[否] とうなばらぬ
 どうな¹はん [dunahan] [形] 鈍い。
 とうぬす¹く¹ [tu:nusuku] [名] 登野城。石垣島の地名。
 とうのー¹ [tuno:] [名] アカテツ。樹木名。
 「どうば¹だ¹」にげー [dubadanige:] [名] 健康祈願。〈どうー〉「体」と〈ばだ〉「肌」の「願い」からか。
 とうぴ¹く¹いるん¹ [tu:pikuirun] [動] 飛び越える。
 とうぴ¹ゆ¹ [tu:piju] [名] 飛魚。

- とうぷちん¹ [tʊputʃin] [動] 踏み外す。飛び込む。[否] とうぷとうぬ
- とうぶん¹ [tʊpun] [動] 飛ぶ。飛行する。[否] とうばぬ
- とうまらすん¹ [tʊmarasun] [動] 泊ませる。[否] とうまらはぬ
- とうまるん¹ [tʊmarun] [動] 泊まる。宿る。宿泊する。[否] とうまらぬ
- とうまるん¹ [tʊmarun] [動] 窪む。へこむ。[否] と一まらぬ
- とうみるん¹ [tʊmirun] [動] ① 探す。見つける。② 拾う。③ 求める。[否] とうむぬ
- とうみん¹ [tʊmin] [動] ① 探す。見つける。② (嫁を) 探す。(妻を) 娶る。[否] とうむぬ
- とうむ¹ [tʊmu] [名] ^{とも} 艦。船の船尾。
- とうゆますん¹ [tʊjumasun] [動] 轟かせる。とよます。[否] とうゆまはぬ
- とうゆまりん¹ [tʊjumarin] [動] とよむ。世に鳴り響く。[否] とうゆまらぬ
- とうら¹ [tura] [名] ^{とら} 虎。十二支の寅。
- とうり¹ [tʊri] [名] 鳥。
- とうり¹ [tʊri] [名] 灯り。ランプ。
- とうり¹ [tʊri] [名] ^{とり} 西。十二支の酉。
- とうり¹ っしるん¹ [tʊri ʃʃirun] [句] 取り除く。取って捨てる。
- 「とうり」 っしん¹ [tʊri ʃʃin] [句] 取り去る。取って捨てる。
- とうりかいすん¹ [tʊrikaisun] [動] 取り返す。取り戻す。[否] とうりかいさぬ
- とうりかいるん¹ [tʊrikairun] [動] 取り替える。[否] とうりかいらぬ
- とうりくむん¹ [tʊrikumun] [動] 取り組む。[否] とうりくまぬ
- とうりくむん [tʊrikumun] [動] 取り込む。取ってしまい込む。[否] とうりくまぬ
- とうりけーすん¹ [tʊrike:sun] [動] 取り返す。[否] とうりけーさぬ
- とうりしまるん¹ [tʊriʃimarun] [動] 取り締まる。[否] とうりしまらぬ
- とうりたちん¹ [tʊritatʃin] [動] 取り立てる。[否] とうりたとうぬ
- とうりはかろーん¹ [tʊrihakaro:n] [動] 取り計らう。[否] とうりはからぬ
- とうりぱんつん¹ [tʊripantsun] [動] 取り外す。[否] とうりぱんつあぬ
- とうりぴんがすん¹ [tʊripingasun] [動] 取り逃がす。[否] とうりぴんがはぬ
- とうりむつん¹ [tʊrimutsun] [動] 持てなす。接待する。[否] とうりむたぬ
- とうりむどうすん¹ [tʊrimudusun] [動] 取り戻す。[否] とうりむどうさぬ
- とうりゆしるん [turijuʃirun] [動] 取り寄せる。
- とうりるん¹ [tʊrirun] [動] 凪ぐ。静かになる。[否] とうるぬ
- とうりんだすん¹ [tʊrindasun] [動] 取り出す。[否] とうりんだはぬ
- どうるびちゃー¹ なるん¹ [durubitʃa: narun] [句] 泥だらけになる。
- どうるみち¹ [durumitʃi] [名] 泥道。
- とうるん¹ [tʊrun] [動] 取る。奪う。[否] とうらぬ
- とうん¹ [tun] [名] 妻。嫁。
- とうんけーるん [tuŋkerin] [動] 振り返る。振り向く。
- とうんじー¹ [tundʒi:] [名] 冬至。
- とうんじるん¹ [tundʒirun] [動] 飛び出る。
- とうんそるん¹ [tunsorun] [動] 娶る。嫁として縁組する。[否] とうんそらぬ
- とうんたち¹ [tuntatʃi] [名] つま先立ち。
- とうんたちびるん¹ [tuntatʃibirun] [動] 爪立つ。爪先で立つ。
- とうんちるん¹ [tuntʃirun] [動] 突き出る。

- とうんぶとうㄴ [tumbutu] [名] 夫婦。夫婦。^{めおと ふうふ}
- とつきん [tokkin] [名] (野生の) バンザクロ。
- どっふあつた [doffatta] [擬] どかっと。どっ
かり。重いものを置いたり、大きな人が座
ったりするさま。
- とふかすんㄴ [tofukasun] [動] 突き通す。[否]
とふかはぬ
- とまらすん [tomarasun] [動] 窪ませる。
- どまんぐるんㄴ [domangurun] [動] うろたえ
る。正気を失う。[否] どまんぐらぬ
- どみがすんㄴ [domigasun] [動] 突き崩す。[否]
どみかはぬ
- どみんがすんㄴ [domingasun] [動] 叩きのめ
す。[否] どみんがはぬ
- とらしみん [torajimin] [動] 与える。取らせ
る。
- どらんㄴ [doran] [名] 銅鑼。^{どら}
- とろふかすんㄴ [torofukasun] [動] 下痢する。
[否] とろふかぬ
- どんどん [dondon] [擬] ときどき。心臓が鼓
動する音の形容。
- どんぶりㄴ [domburi] [名] 井。食器名。^{どんぶり}
- なーㄴ [na:] [名] ここ。此处に。
- なーㄴ [na:] [名] 名。名前。
- なーがすんㄴ [nagasun] [動] 泣かす。[否] な
ーがはぬ
- なーぐんㄴ [nagun] [動] ① 泣く。② 鳴く。
(鳥が) 囀る。[否] なーがぬ
- なーしきうやㄴ [na:siki.uja] [名] 名付け親。
- なーしきんㄴ [na:sikin] [動] 名を付ける。命
名する。[否] なんすくぬ
- なーすんㄴ [na:sun] [動] 縋う。縄を縋う。[否]
なーはぬ
- なーㄴたかㄴはん [na:takahān] [形] 名高い。有
名だ。
- なーどうーどう [na:du:du] [句] 各自。自分。
- なーㄴなー じゃんㄴ [na:na:jan] [句] 長々と
した。
- なーばぐㄴ [na:bagu] [名] 長持ち。衣類入れ。
- なーㄴはん [na:han] [形] 長い。永い。
- なーびらㄴ [na:bira] [名] 糸瓜。
- なーふくㄴ [na:fuku] [名] 目隠しの石垣。中の
石垣の義。沖縄で言うヒンプン。
- なーぶにㄴ [na:buni] [名] 背骨。
- なーむらㄴ [na:mura] [名] 前村。波照間島の
集落名。
- なーらぼんㄴ [narabon] [名] ナーラボン。山
芋の種類。
- なーりㄴ [nari] [名] 実。果物。
- なーりむぬㄴ [narimunu] [名] 果物。果樹。
- なーりんㄴ [na:rin] [動] 流れる。漂流する。[否]
なーるぬ
- なーるんㄴ [na:run] [動] 鳴る。騒ぐ。[否] な
ーらぬ
- なーるんㄴ [na:run] [動] 出来る。実がなる。
[否] なーらぬ
- なーれるんㄴ [na:rerun] [動] 慣れる。[否] な
ーるぬ
- ないぐんㄴ [naigun] [動] ① びっこをひく。び
っこになる。② 足腰が立たなくなる。
- ながㄴ [naga] [名] 中。中に。
- ながあみㄴ [naga.ami] [名] 長雨。
- ながいきㄴ [naga.iki] [名] 長生き。長寿。
- ながいぎㄴ すんㄴ [naga.igi sun] [句] 長生き
する。
- なかざらㄴ [nakadzara] [名] 中皿。
- なかだちㄴ [nakadatji] [名] 仲人。媒酌人。
- ながびくんㄴ [nagabikun] [動] 長引く。[否]
ながびかぬ
- ながびりㄴ [nagabiri] [名] 長居。
- ながみんㄴ [nagamin] [動] 眺める。[否] なが
むぬ
- ながやどうㄴ [nagajadu] [名] 中戸。
- ながやみㄴ [nagajami] [名] 長患い。

- なぎ¹ [nagi] [名] 長さ。丈。
- なきくがりん [nakikugarin] [動] 泣き焦がれる。
- なぎすかり¹ [nagisukari] [動] 泣きかかる。泣きつく。[否] なぎすかるぬ
- なぎと一すん¹ [naigito:sun] [動] 薙ぎ倒す。切り倒す。[否] なぎと一はぬ
- なぎぼたりるん¹ [nagibotarirun] [動] 泣き疲れる。泣きくたびれる。泣きしおれる。[否] なぎぼたるぬ
- なぎま一べ¹ [nagima:be] [名] 泣き真似。うそ泣き。
- なぐさみん¹ [nagusamin] [動] 慰める。[否] なぐさむぬ
- なぐりしゃ¹はん [naguri:ahan] [形] 名残惜しい。悲しい。
- なげ一くとう [nage:kutu] [句] 長いこと。長い間。
- なさき¹ [nasaki] [名] 情け。思いやり。
- なざぎ¹ [nadzagi] [名] ハエキビ。雑草名。
- なしきるん¹ [nafikirun] [動] ^{かこ}託ける。口実にする。
- なしぴ¹ [nafjipi] [名] ^{なすび}茄子。
- なすうくん¹ [nasukun] [動] 懐く。なじむ。[否] なすかぬ
- なすかっさ¹はん [nasukassahan] [形] 懐かしい。
- なすむら¹ [nasumura] [名] ^{ないし}長石村。波照間島の集落名。
- なすん¹ [nasun] [動] ^な綯う。縄を綯う。[否] なはぬ
- なすん¹ [nasun] [動] 産む。[否] なはぬ
- なだ¹ [nada] [名] ^{なみだ}涙。
- なだぎるん¹ [nadagirun] [動] 均す。平坦にする。[否] なだぐぬ
- なだみるん¹ [nadamirun] [動] 宥める。[否] なだむぬ
- なだらがすん¹ [nadaragasun] [動] 平坦にする。均す。[否] なだらがはぬ
- なだらが¹はん [nadaragahan] [形] 平坦だ。
- なだらぎゃーん [nadaragja:n] [動(継)] なだらかだ。
- なだらぎるん¹ [nadaragirun] [動] なだらかにする。平らにならす。[否] なだらぐぬ
- なだらぐん¹ [nadaragun] [動] ① なだらかになる。平坦になる。② 凪ぐ。穏やかになる。[否] なだらがぬ
- なちい¹ [natji] [名] 夏。夏季。「初夏」はくばがなちい。
- なちいまき¹ [natjimaki] [名] 夏負け。
- なちすうぬ¹ [natjisunu] [名] 夏着。
- なちぶさ一¹ [natjibusa:] [形] 泣き虫だ。
- なっす¹ [nassu] [名] 苗代。
- なっすだ一 [nassuda:] [名] 苗代田。
- ななず¹ [nanadzu] [名] 七十。
- ななち¹ [nanatji] [名] 七つ。簡略化：なな。
- なば¹ [naba] [名] 茸。
- なび¹ [nabi] [名] ^{なべ}鍋。
- なびしき¹ [nabijiki] [名] おこげ。
- なびふつあらすん¹ [nabifutsarasun] [動] 鍋を焦がす。
- なびふつありん¹ [nabifutsarin] [動] 焦げる。[否] なびふつあるぬ
- なふこ¹はん [nafukohan] [形] なめらかだ。滑りやすい。
- なま¹ [nama] [名] 今。現在。
- なま¹ [nama] [名] 生。
- なまき¹ [namaki] [名] 生木。枯れていない薪など。
- なまぐみ¹ [namagumi] [名] 生米。半煮のご飯。
- なましい¹ [nama:si] [名] ^{さしみ}刺身。
- なまに一¹ [namani:] [名] 半煮え。
- なまふささ一¹ん [namafusasa:n] [形] 生臭い。

生物, 野菜, 魚, 肉類の煮てない物, または, 枯れていないものの臭いがする。

なまふつあはん [namafutsahan] [形] 生臭い。

なまふつありむぬ [namafutsarimunu] [名] 怠け者。横着な者。

なまむぬ [namamunu] [名] 生物。生の物。

なまるん [namarun] [動] 鈍る。^{なま}(切れ味が)鈍る。[否] なまらぬ

なもり [namori] [名] 一合枧。

なや [naja] [名] 鰹工場。「納屋」すなわち「漁具小屋」から。

ならずん [narasun] [動] ① 教える。② 習う。学ぶ。[否] ならはぬ

ならずん [narasun] [動] 鳴らす。[否] ならはぬ

ならずん [narasun] [動] 慣れる。[否] ならはぬ

ならびるん [narabirun] [動] 並べる。[否] ならぶぬ

ならぶん [narabun] [動] 並ぶ。整列する。[否] ならばぬ

な'り'さ [narisa] [名] 浜砂利。サンゴの砕けた砂利。

なれー [nare:] [名] ならい。習慣。

なん [nan] [名] 名。名前。

なん [nan] [名] 釣り糸。

なん [nan] [名] 波。波浪。

なん [nan] [名] 菜。

なん えぬん [nan enun] [句] 名乗る。名前を告げる。

なんが [nanga] [名] 七日。一周忌。

なんが しするん [nanga sʃirun] [句] 投げ捨てる。

なんが っしん [nanga sʃin] [句] 捨てる。投げ捨てる。

なんがそーりん [nangaso:rin] [名] 旧暦の七夕。

なんぎ [nangi] [名] 難儀。

なんぎるん [nangirun] [動] ① 投げる。② 叩きつける。[否] なんぐぬ

なんざ [nandza] [名] 銀。

なんだ [nanda] [名] 涙。^{なみだ}

なんだ んじるん [nanda ndzirun] [句] 涙が出る。涙ぐむ。

なんだら [nandara] [名] ビーチロック。浜に出来る砂岩。

なんぶらすん [namburasun] [動] 流す。[否] なんぶらはぬ

なんぶりるん [namburirun] [動] 漂わす。

なんぶりん [namburin] [動] 流れ出す。流失する。[否] なんぶるぬ

にー [ni:] [名] 子。十二支の子。

にーはい [ni:hai] [感] ありがとう。

にーはいゆー [ni:haiju:] [感] ありがとうございます。敬語。

にーびち [ni:bitʃi] [名] 結婚式。

にーぶた [ni:buta] [名] 腫れ物。吹き出物。

にーぶやー [ni:bujə:] [名] 寝坊助。寝坊。

にーまらん [ni:maran] [動] (食物が) 腐る。腐りかかる。

にーらすん [ni:rasun] [動] 似せる。

にが [niga] [名] 今晚。今夜。

にく [niku] [名] 肉。^{にく}

にげー [nige:] [名] 願い。祈願。

にげー んじるん [nige: ndzirun] [句] 願い出る。申し入れる。

にげーしきるん [nige:sʃikirun] [動] 祈る。[否] にげーすくぬ

にげーふちい [nige:futʃi] [名] 祈願の言葉。

にげるん [nigerun] [動] 祈願する。[否] にげーらぬ

にし [niʃi] [名] 北。北方。

にしかち [niʃikatʃi] [名] 北風。

に'じ'きよー [nidʒikjo:] [名] ウイキョウ。ハ

- ープの一種。
- にししゃはん [niʃiʃahan] [形] 似る。似ている。
- にした [niʃita] [名] 北。北方。
- にしななち [niʃinanatʃi] [名] 北斗星。北斗七星。
- にしむら [niʃimura] [名] 北村。地名。
- にししゃはん [niʃahan] [形] 不味い。旨くない。
- にたはん [nitahan] [形] 憎い。妬ましい。
- にたむん [nitamun] [動] ① ^{ねた} 妬む。② 恨む。
[否] にたまぬ
- にちん [nitʃi ndʒirun] [句] 熱が出る。発熱する。
- にちい [nitʃi] [名] 熱。体温。
- にちい [nitʃi] [名] ^{むね} 胸。
- にばり [nibari] [名] ハタ。ハタ類の総称。魚類名。
- にぶ [nibu] [名] ^{ひしやく} 柄杓。
- にふつあはん [nifutsahan] [形] 遅い。遅れる。
- にむちい [nimutʃi] [名] 荷物。
- にん [nin] [名] ^ね 根。植物の根。
- にん [nin] [名] 地震。
- にん [nin] [名] ^{ねん} 年。
- にんうりん [nin.urin] [句] 根付く。
- にんぎん [niŋgin] [名] 人。人間。
- にんぐ [niŋgu] [名] 年貢。
- にんじるん [nindʒirun] [動] 念ずる。祈る。
[否] にんずぬ
- にんず [nindzu] [名] 二十。年齢の「二十歳」は〈ぱたち〉という。
- にんずー [nindzu:] [名] 人数。
- にんすくん [ninsukun] [動] 根付く。[否]
にんすかぬ
- にんどーしい [nindo:ʃi] [名] ハイキビ。雑草名。
- にんにん [ninnin] [名] 年々。毎年。
- にんぬんさはん [ninnu nsahan] [句] 荷が重い。
- にんばぎるん [nimbagirun] [句] 根分けする。株分けする。
- にんばぶち [nimbaputʃi] [名] 北極星。
- にんぶち [nimbutʃi] [名] 念仏者。司祭。
- にんぶり [nimburi] [名] 居眠り。
- にんまるん [nimmarun] [動] 腐りかかる。腐敗にまではいたっていない。[否] にんまるぬ
- にんむとう [nimmutu] [名] 根元。
- ぬー [nu:] [名] 野。野原。
- ぬー [nu:] [名] 何。
- ぬー やばん [nu: jaban] [句] なんでも。
- ぬーぐとう [nu:gutu] [名] 何事。
- ぬー しゃる [nu:ʃaru] [句] どんな。どのような。
- ぬーしん [nu:ʃin] [副] どうしても。
- ぬー た [nu:ta] [句] なんと。何と言ってるか。
- ぬー たる [nu:taru] [句] なんと。何と言ってるか。
- ぬー とう [nu:tu] [名] 謎々。「なんだろう」の意味。
- ぬー び [nu:bi] [名] 背伸び。
- ぬー や [nu:ja] [句] 何が。
- ぬー ん [nu:n] [副] 全く。何も。
- ぬー ん [nu:n] [動] 縫う。裁縫。[否] ぬわぬ
- ぬいむぬ [nuimunu] [名] 縫い物。裁縫。
- ぬが [nuga] [名] ^{ぬか} ^{こめぬか} 糠。米糠。
- ぬがーらすん [nugarasun] [動] 許す。免れさせる。
- ぬがーるん [nugarun] [動] ① 許される。免れる。② 卒業する。義務教育を「免れた」から。
- ぬがりゃん [nugarjan] [動(継)] 脱した。

- ぬきひー [nukih:] [名] 貫き家。本建築。掘っ立て小屋に対する。
- ぬぎり^{のこぎり} / [nugiri] [名] 鋸。
- ぬぎるん / [nugirun] [動] 抜ける。外れる。[否] ぬぐぬ
- ぬぎるん / [nugirun] [動] ① 退く。遠のく。② 離れる。
- ぬぎんだん [nugindan] [動] 抜きんでる。[否] ぬぎんどうぬ
- ぬぐじま / [nugudzima] [名] 山のない平坦な島。
- ぬぐり / [nuguri] [名] 残り。残部。
- ぬぐりしゃ / はん [nugurijahan] [形] 恐ろしい。危険だ。
- ぬぐん / [nugun] [動] ① 抜く。貫く。脱ぐ。② 刺す。突き刺す。[否] ぬがぬ
- ぬしいま [nufjima] [名] 与那国。与那国島。八重山諸島の島の名。最も西の方に位置する。
- ぬしん / [nufjin] [動] 乗せる。積む。[否] ぬすぬ
- ぬすむん / [nusumun] [動] 盗む。[否] ぬすまぬ
- ぬすかるん / [nusukarun] [動] 近づく。(間近に、目前に) せまる。[否] ぬすからぬ
- ぬすとうり / [nusuturi] [名] 泥棒。盗人。「盗み取り」の略。
- ぬずみ / [nudzumi] [名] 望み。希望。
- ぬずむん [nudzumun] [動] 望む。所望する。欲する。[否] ぬずまぬ
- ぬちい / [nutji] [名] 命。生命。
- ぬちい しさん [nutji ssan] [句] こと切れる。死亡する。
- ぬちいずー / ーさん [nutjidzu:sa:n] [形] 命強い。生命力が強い。命が永い。
- ぬちいぬうや / [nutjinu.uja] [名] 命の恩人。
- ぬちいまる / はん [nutjimarohan] [形] 短命。薄命。
- ぬちいむやん [nutjimujan] [句] 助かる。生き返る。
- ぬっふえーるん / [nuffe:run] [動] 舐める。^な
- ぬっふたりるん [nuffutarirun] [動] 寝入る。よく眠る。
- ぬっふん / [nuffun] [動] 寝る。眠る。[否] ぬっふわぬ
- ぬどう / [nudu] [名] 喉。^{のど}
- ぬどう / かりるん / [nudu karirun] [句] 喉が渴く。
- ぬぬ / [nunu] [名] 布。織物。
- ぬのさらし / [nunosaraji] [名] 布晒し。
- ぬばすん / [nubasun] [動] 延ばす。延期する。[否] ぬばはぬ
- ぬびるん / [nubirun] [動] 延ばす。伸べる。[否] ぬばはぬ
- ぬぶしるん / [nubufjin] [動] 逆上せる。^{のぼ} [否] ぬぶすぬ
- ぬぶしん / [nubufjin] [名] 首。喉元。
- ぬふた / はーん [nufutaha:n] [形] 眠たい。
- ぬぶたん / [nubutan] [動 (継)] 飲み尽くす。
- ぬふちるん [nufutjirun] [句] 寝かせる。寝かしつける。
- ぬぶるん / [nuburun] [動] ① 登る。上がる。② 乗る。[否] ぬぶらぬ
- ぬぶん / [nubun] [動] 伸びる。[否] ぬばぬ
- ぬみ うらへ [numi urahe] [句] 飲み下ろす。
- ぬみくむん / [numikumun] [動] 飲み込む。[否] ぬみくまぬ
- ぬみのがすん / [numinogasun] [動] 飲み残す。[否] ぬみのがはぬ
- ぬむん / [numun] [動] 飲む。[否] ぬまぬ
- ぬり / [nuri] [名] 苔。
- ぬり / [nuri] [名] 糊。^{のり}
- ぬりうくりるん [nuri.ukurirun] [動] 乗り遅れる。乗りはずす。[否] ぬりうくるぬ
- ぬりだっくわーすん [nuridakkwa:sun] [動] 塗

りたくる。
ぬりふもん^ノ [nurifumon] [名] 積雲。積乱雲。
ぬりむぬ^ノ [nurimunu] [名] 乗り物。交通機
関。
ぬるさ^ノはん [nurusahan] [形] 温い。
ぬるみゃん^ノ [nurumjan] [動 (継)] 温まる。
ぬるみるん^ノ [nurumirun] [動] 温くする。温
める。
ぬるん^ノ [nurun] [動] 乗る。載る。[否] ぬら
ぬ
ぬるん^ノ [nurun] [動] 塗る。[否] ぬらぬ
ぬん^ノ [nun] [名] 蚤。
ぬん^ノ [nun] [名] 鑿。
ねー^ノ [ne:] [副] どう。どんな。
ねー^ノなるん^ノ [ne: narun] [句] なくなる。
ねー^ノき^ノ [ne:ki] [句] どうして。何故。
ねー^ノきる [ne:kiru] [句] どうして。何故。
ねー^ノしゃるん [ne:jarun] [句] どんな。如何な
る。
ねー^ノな^ノさん^ノ [ne: nasan] [動 (継)] なくす。失
う。
ねー^ノぬ^ノ [ne:nu] [動] 無い。
「ねー^ノや [ne:ja] [句] どう。どうかね。
ねー^ノり^ノ [ne:ri] [名] 右。右方。右側。
ねー^ノる^ノ [ne:ru] [指示様態] どのように。どん
な風に。
ねー^ノるん^ノ [ne:run] [動] 煮える。[否] ねーら
ぬ
ねっすん^ノ [nessun] [動] 煮る。
のー^ノ [no:] [名] 脳。大脳。
のー^ノさ^ノなるん^ノ [no:sa narun] [句] 暖かくな
る。暖まる。
のー^ノさ^ノはん [no:sahan] [形] 暖かい。
「のー^ノしん [no:jin] [副] どうしても。
のー^ノじん^ノ [no:dzin] [名] 虹。
のー^ノすん^ノ [no:sun] [動] ① 治す。病気を治
す。② 直す。物を直す。[否] のーはぬ

のー^ノなさん [no: nasan] [動] 居なくなる。
のー^ノり^ノ [no:ri] [名] 実り。
のー^ノり^ノゆ^ノ [no:riju] [名] 豊年。「稔り世」の
意。
のー^ノるん [no:run] [動] 実る。
のー^ノるん^ノ [no:run] [動] ① 治る。体の病気が
治る。② 直る。物が直る。[否] のーらぬ
のー^ノがすん^ノ [nogasun] [動] 残す。[否] のーがは
ぬ
のー^ノがるん^ノ [nogarun] [動] 残る。余る。[否]
のー^ノがらぬ
はー^ノ [ha:] [名] あそこ。あちら。
ばー^ノ [ba:] [名] 私。自分。私の。
ぱー^ノ [pa:] [名] 葉。
ぱー^ノ [pa:] [名] 祖母。おばあさん。
ばー^ノうたま [ba: utama] [句] 私の子。
はー^ノがに^ノ [ha:gani] [名] 鋼。「刃金」から。
ばー^ノき^ノ [ba:ki] [名] ざる。竹ざる。
ばー^ノぐん^ノ [ba:gun] [動] 湧き出る。[否] ば
ー^ノがぬ
ばー^ノさ^ノ [ba:sa] [名] 芭蕉。バナナ。
ばー^ノさぬ^ノなー^ノり^ノ [ba:sanu nari] [句] バナ
ナの実。
ばー^ノしゃはん [ba:shahan] [形] 可笑しい。
ばー^ノすん^ノ [ba:sun] [動] (水などで) 薄める。
[否] ばーはぬ
ぱー^ノすん^ノ [pa:sun] [動] 嘸す。
ぱー^ノち^ノ [pa:tʃi] [名] 蜂。
ぱー^ノった [pa:tta] [擬] ぱあっと。急に明るく
なるさま。
はー^ノはー [ha:ha:] [擬] はあはあ。あえぐさ
ま。
ばー^ノばー [ba:ba:] [擬] ① びゅうびゅう。風
の強く吹くさま。② ぼうぼう。火の勢いよ
く燃えるさま。
ばー^ノらいるん^ノ [ba:rairun] [動] 笑われる。物
笑いになる。[否] ばらーるぬ

ばーりㇿ [ba:ri] [名] 割れ目。

ばーりゃんㇿ [ba:ɾjaŋ] [動] 微笑む。[否] ばーらぬ

ばーるんㇿ [ba:ruŋ] [動] 笑う。[否] ばーらぬ

はいからㇿさーん [haikarasɑ:n] [形] ハイカラだ。おしゃれだ。

ばいまㇿ [baima] [名] 私たち。

ばいるんㇿ [bairuŋ] [動] 薄める。

ばいるんㇿ [pairuŋ] [動] ① 映える。② 似合う。[否] ばいらぬ

ばかㇿ [pa:ka] [名] 区画。畝。

ばかㇿ [pa:ka] [名] 墓。

ばがいとうるんㇿ [bagaituruŋ] [動] 奪い取る。

ばがけーるㇿ [bagake:ru] [句] 若返る。

はかじㇿ とうるんㇿ [ħakadzi tu:ruŋ] [句] 掻き集めて取る。

はかじるんㇿ [ħakadziruŋ] [動] 引っ掻く。[否] はかじらぬ

ばがすけんㇿ [bagasuken] [名] 若月。

はかずるんㇿ [ħakadzuruŋ] [動] (爪で) 引っ掻く。[否] はかずらぬ

はかすんㇿ [ħakasun] [動] 弁償させる。[否] はかはぬ

ばがすんㇿ [bagasun] [動] 煮る。[否] ばがはぬ

ばがすんㇿ [bagasun] [動] 奪う。[否] ばがはぬ

ばがすんㇿ [bagasun] [動] ① 引き離す。離す。② 剥がす。[否] ばがはぬ

ばかすんㇿ [pa:kasun] [動] (全責任を) 負わせる。[否] ばかはぬ

ばかすんㇿ [pa:kasun] [動] 吐かせる。[否] ばかはぬ

ばがっせーㇿ [bagasse:] [名] 若白髪。

ばがなちㇿ [baganatʃi] [名] 若夏。初夏。「若夏」の義。

ばがぱㇿ [bagapa] [名] 若葉。新緑。

ばがㇿはん [bagahan] [形] 若い。

ばがへ とうるんㇿ [bagahe tu:ruŋ] [句] 奪い取る。

ばかまㇿ [pa:kama] [名] ^{はかま}袴。

ばがむぬㇿ [bagamunu] [名] 若者。青年。

はからすんㇿ [ħakarasun] [動] (魚を) 網で捕る。[否] はからはぬ

ぱからㇿさ [pa:karassa] [形] かんばしい。立派。

ぱからㇿさーㇿ ねーぬㇿ [pa:karassa: ne:nu] [句] 芳しくない。良くない。〈まぱからさねーぬ〉は強調語。

ばがらぬㇿ [bagaranu] [句] 知らない。

ぱがりるんㇿ [pagariruŋ] [動] 剥がれる。[否] ぱがるぬ

ばがりんㇿ [bagarin] [動] 別れる。離婚する。[否] ぱがるぬ

はかるんㇿ [ħakarun] [動] ① 掛かる。引っ掛かる。② (禁忌に) かかる。③ (病気に) 罹る。患う。[否] はからぬ

はかるんㇿ [ħakarun] [動] 謀る。企む。[否] はからぬ

ばがるんㇿ [bagaruŋ] [動] ① 分かる。理解する。② 思い当たる。推し量る。[否] ばがらぬ

ぱかるんㇿ [pa:karun] [動] 計る。計測する。[否] ぱからぬ

はきㇿ [ħaki] [名] 欠片。破片。

ばぎ [bagi] [助] ～まで。

はきあしみるんㇿ [ħaki.aʃimiruŋ] [動] 掻き集める。[否] はきあすむぬ

はきいりるんㇿ [ħaki.iriruŋ] [動] 書き入れる。[否] はきいるぬ

はきいりるんㇿ [ħaki.iriruŋ] [動] 口にかき込む。

ばぎしㇿ [bagiʃi] [名] バケツ。

ぱぎじㇿ [pagidzi] [名] 痩せ地。

はきしいきるん [həkisʲikurun] [動] 駆ける。
走る。[備] 「駆け付ける」に対応。[否] は
きすくぬ

はきじゃー [hakidʒa:] [名] 雨樋。^{あまどい}

ばぎすぶる [pagisʲupuru] [名] 禿頭。^{はげあたま}

はきたすん [həkitasun] [動] 書き添える。書
き足す。[否] はきたさぬ

ばぎだま [bagidama] [名] 分け前。

はきとうみるん [həkituʲmirun] [動] 書き留
める。[否] はきとうむぬ

ばぎとうるん [pagiturun] [動] ① 剥ぎ取る。
② かつぱらう。[否] ばぎとうらぬ

はきぼーるん [həkipo:run] [動] 掻き散らか
す。[否] はきぼーらぬ

はきまーすん [həkima:sun] [動] 掻き回す。
[否] はきまはぬ

はきまーるん [hakima:run] [動] 駆け回る。

はきまんじるん [həkimandʒirun] [動] ① 掻
き乱す。掻き混ぜる。② いびる。[否] はき
まんずぬ

ばぎみじ [bagimidzi] [名] 湧水。泉。

はきもらすん [həkimorasun] [動] 書き落と
す。書き漏らす。[否] はきもらはぬ

はきるん [həkirun] [動] 掛ける。[否] はく
ぬ

はきるん [həkirun] [動] 欠ける。[否] はく
ぬ

ばぎるん [bagirun] [動] 分ける。和解させ
る。[否] ばぐぬ

ばぎるん [pagirun] [動] 色褪せる。^{いろあ}[否] ば
ぐぬ

はきん [həkin] [動] 欠ける。[否] はくぬ

ばぎん [bagin] [動] 分ける。分別する。[否]
ばーぐぬ

ばぎん [pagin] [動] 禿げる。[否] ばぐぬ

はきんだすん [həkindasun] [動] 掻き出す。
[否] はきんだはぬ

ばきんだすん [pəkindasun] [動] 吐き出す。
[否] ばきんだはぬ

ぱく [paku] [名] 箱。

ぱく [paku] [名] 蛇。

ぱくるん [bakurun] [動] 侮る。嘲る。[否]
ぱくらぬ

ぱくるん [pəkurun] [動] からかう。ひやか
す。

はくん [həkun] [動] 書く。描く。[否] はか
ぬ

はくん [həkun] [動] 掃く。[否] はかぬ

はくん [həkun] [動] 掻く。[否] はかぬ

ばぐん [bagun] [動] (水が) 湧く。(酒が) 醸
される。[否] ばがぬ

ばぐん [bagun] [動] (木を) 挽く。

ぱくん [pəkun] [動] ① 佩く。② ひっかぶ
る。③ 償う。責任を負う。弁償する。[否]
ぱかぬ

ぱくん [pəkun] [動] 償う。責任を負う。弁
償する。[否] はかぬ

ぱくん [pəkun] [動] 吐く。[否] ぱかぬ

ぱぐん [pagun] [動] 剥ぐ。剥ぎ取る。[否]
ぱがぬ

はこー [həko:] [名] 水夫。船員。[備] 古語
「水夫(かこ)」に対応。

はこー [həko:] [名] 屋敷。

ばごー [bago:] [名] ノカラムシ。雑草名。

はこすん [həkosun] [動] 隠す。[否] はこは
ぬ

はこち [həkotʃi] [名] 顎。^{あご}

はこますん [həkomasun] [動] 囲む。囲ませ
る。[否] はこまはぬ

はこむん [həkomun] [動] 囲む。

はこりん [həkorin] [動] 隠れる。[否] はこ
るぬ

ばざーるん [badza:run] [動] 勢いづく。勢い
が強くなる。[否] ばざーらぬ

- ばさすうぬ¹ [basasunu] [名] 芭蕉布の着物。
- ばざるん¹ [badzarun] [動] はしゃぐ。気が高まる。[否] ばざらぬ
- ばしい¹ [baʃi] [名] 鷺^{わし}。鳥の名。
- はじまるん¹ [hadzimarun] [動] 始まる。[否] はじまらぬ
- はじみるん¹ [hadzimirun] [動] 始める。[否] はじむぬ
- ばしゆ¹ [baʃu] [名] 場所。場面。
- ばしゆくりん¹ [paʃukurin] [動] 弾^{はじ}ける。破裂する。[否] ばしゆくるぬ
- ばすうか¹さーん [pasukasa:n] [形] (人に対して) 恥ずかしい。世間体が悪い。きまりが悪い。面目がない。
- ばすうこー¹はん [pasuko:han] [形] (稲、麦などの芒が皮膚をつきさすような) 痛くて痒い感じがする。
- ばすかはん [pasukahan] [形] 恥ずかしい。
- ばずら¹ [badzura] [名] トカゲ。動物名。
- ばずらすん¹ [badzurasun] [動] 屠殺する。解体する。[否] ばずらはぬ
- ばた¹ [bata] [名] 餡^{あん}。餡子。
- ばた¹ [bata] [名] 腹。腹わた。内臓。
- ばた¹ [bata] [名] 綿。木綿。
- ばた¹ [paʃa] [名] 側。端。傍ら。
- ばた¹ [paʃa] [名] 旗^{はた}。
- ばたさ¹ [batasa] [名] 下男。小使い。
- ばたすん¹ [batasun] [動] 渡す。[否] ばたはぬ
- ばたち¹ [paʃatʃi] [名] 二十歳。
- ばたぬ¹ むしい¹ [batanu muʃi] [句] 寄生虫。回虫。
- ばたふくら [batafukura] [句] 腹具合が悪い。消化不良。
- ばたふくりるん¹ [batafukurirun] [動] (消化不良で) 腹が膨れる。
- ばたふさりー [batafusari:] [句] 腹がもたれ
- る。腹具合が悪い。
- ばたぶたー¹ [batabuta:] [名] でぶ。肥満者。
- ばたふちり¹ [batafutʃiri] [名] 悪口を言うこと。
- ばたふちりむぬ¹ [batafutʃirimunu] [名] 憎まれ口。
- ばたむん¹ [paʃamun] [名] 機織り機。
- ばた¹やみ¹ [batajami] [名] 腹痛。
- ばた¹よー¹さーん [batajo:sa:n] [形] お腹をこわしやすい。
- ばたらぐん¹ [paʃaragun] [動] 働く。仕事する。[否] ばたらがぬ
- ばたらしやみどうむ [pataraʃijamidumu] [名] お転婆。
- ばたるん¹ [batarun] [動] 渡る。[否] ばたらぬ
- ばた¹んち¹ [batantʃi] [句] 満腹になる。腹一杯になる。
- ばち [batʃi] [名] (大鼓の) ばち。
- ばち¹ [batʃi] [名] 罰。
- ばち¹ [paʃʃi] [名] 橋。梯子。
- ばち¹ [paʃʃi] [名] お初。初物。
- ばちさはん [batʃisahan] [形] 細^{ほそ}い。
- ばちず¹ [paʃʃidzu] [名] 八十。
- ばちばた¹ [batʃibata] [名] 小腸。「細い腸」の義。
- ばちま¹はん [paʃʃimahan] [形] 眩^{まぶ}しい。
- ばちまはん [paʃʃimahan] [形] 眩しい。
- ばちみがすん¹ [paʃʃimigasun] [動] 平手で打つ。平手打ちを食わせる。[否] ばちみがはぬ
- ぱちるま [paʃʃiruma] [名] 波照間。波照間島。波照間・白保での呼び方。
- ぱちるん¹ [paʃʃirun] [動] (不吉を) 祓う。[否] ぱちらぬ
- ぱちるん¹ [paʃʃirun] [動] (着物を) 脱^{まぶ}ぐ。[否] ぱちらぬ

- ばつあ¹ [batsa] [名] 罰。罪。咎。
- ばつあかぶん [batsakapun] [句] 罰を被る。咎を被る。
- ばつあみるん¹ [batsamirun] [動] (牛馬などの動物を) 繋ぐ。繋ぎとめる。[否] ばつあむぬ
- ばつあむん¹ [patsamun] [動] 挟む。(箸などを) 掴む。[否] ばつあまぬ
- ばつあん¹ [patsan] [名] 鋏。^{はさみ}
- ばっくるん¹ [bakkurun] [動] からかう。馬鹿にする。[否] ばっくらぬ
- はっさみよー [hassamijor:] [感] なんとることか。
- ばっしむぬ [bassimunu] [名] 忘れ物。
- ばっしめさはん [bassimesahan] [形] 忘れっぽい。
- ばっしるん¹ [bassirun] [動] 忘れる。[否] ばっすぬ
- ばっしん¹ [bassin] [動] 忘れる。[否] ばっすぬ
- ばったらげー [pattarage:] [名] てんてこ舞い。
- ばっぺー¹ [bappe:] [名] 間違い。
- ばっぺー すん [bappe: sun] [句] 間違う。誤る。
- はてろー¹ [hatero:] [名] 波照間。波照間島。石垣市での呼び方。
- はてろーま¹ [patero:ma] [名] 波照間。波照間島。石垣市や民謡での呼び方。
- ばとーま¹ [pato:ma] [名] 鳩間。^{はとま}鳩間島。八重山諸島の島の名。
- ばとん¹ [paton] [名] 鳩。
- はな¹ [hana] [句] あそこに。あちらに。
- ばな¹ [pana] [名] 鼻。^{はな}
- ばな¹ [pana] [名] 先。崎。岬。
- ばな¹ [pana] [名] 花。
- ばないぎ¹ [pana.igi] [名] 花生け。花瓶。
- ばなぐみ¹ [panagumi] [名] 供米。神前に供える米。[備] 直訳「花米」。
- ばなし¹ [panaji] [名] 話。
- ばなしき¹ [panajiki] [名] 病。^{やまい}病気。
- ばなしきぬ はやるん [panajikinu hajarun] [句] 風邪が流行る。
- ばなじな¹ [panadzina] [名] (牛の) 鼻綱。
- ばなすん¹ [panasun] [動] 離す。[否] ばなはぬ
- ばなすん¹ [panasun] [動] 話す。語る。[否] ばなさぬ
- ばなた¹ [panata] [名] 先。先端。
- ばなだり¹ [panadari] [名] 鼻汁。^{あおばな}青涕。
- ばなたるん¹ [panatarun] [動] 太る。肥える。肥満になる。[否] ばなたらぬ
- 「ばなぬ」 ふあー [pananu fa:] [句] (御嶽の)^{うじこ}氏子。お嶽の祭祀にかかわる血族の人々。
- ばなびいすん¹ [panapusun] [句] くしゃみをする。
- ばな¹ふき¹ [panafuki] [名] 躰。^{ひびき}
- はなやかすん¹ [hanajakasun] [動] 賑やかに騒ぐ。賑わす。[否] はなやかさぬ
- ばなり¹ [panari] [名] 離れ。新城島。新城島の略称。
- ばなりぬ すま¹ [panarinu suma] [名] 離れの島。新城島。八重山諸島の島の名。直訳「離島」。
- ばなりるん¹ [panarirun] [動] ① 離れる。② 別れる。③ 剥がれる。[否] ばなるぬ
- ばなりん¹ [panarin] [動] 離れる。[否] ばなるぬ
- ばに¹ [pani] [名] 羽。翼。鱗。
- はにかいすん¹ [hanikaisun] [動] (物に突き当たって) 跳ね返す。
- はにかいるん¹ [hanikairun] [動] 跳ね返る。[否] はにかいらぬ
- ばぬ¹ [banu] [名] 我。^{われ}私。^{おれ}俺。
- ば¹ひー¹ [bahi:] [名] 私の家。

- ばびる¹ [paʔpiru] [名] 蝶。蛾。
 ばま¹ [paʔma] [名] 浜。砂浜。
 ばまかん¹ [paʔmakan] [名] 浜蟹。
 『ばま』ふちい [paʔmafutʃi] [名] なぎさ。磯辺。
 ばまるん¹ [paʔmarun] [動] はまる。[否] ばま
 らぬ
 ばみがすん¹ [bamigasun] [動] 殴る。ぶん殴
 る。[否] ばみがはぬ
 ばみるん¹ [paʔmirun] [動] はめる。はめ込む。
 当てはめる。
 ばめー¹ [pame:] [名] 食糧。[備] 飯米からか。
 はやーるん¹ [haja:run] [動] 流行る。流行す
 る。[否] はやーらぬ
 はやじに¹ すん¹ [hajadzini sun] [句] 早世す
 る。早死する。
 ばやすん¹ [pajasun] [動] 囃す。
 はやまり¹ [hajamari] [名] 早生まれ。同年で
 も早く生まれた者。
 はやまるん¹ [hajamarun] [動] 早まる。早く
 なる。[否] はやまらぬ
 はやみるん¹ [hajamirun] [動] 早める。早く
 する。
 はやり¹ [hajari] [名] 流行り。流行。
 はやりやん¹ [hajarijan] [名] 伝染病。
 ばら¹ [bara] [名] 藁。^{わら}
 ばら¹ [paʔra] [名] 柱。^{はしら}
 はらごー¹ [harago:] [名] 魚の腹肉。カツオの
 腹肉を指す。
 ばらざん¹ [baradzan] [名] 藁算。^{わらざん} 結縄記録。
 王府時代の記録法の一つ。
 ばらじいな¹ [baradzina] [名] 藁縄。^{わら} 藁束は
 〈ばらふた〉。
 ばらすん¹ [paʔrasun] [動] 払う。支払う。[否]
 ばらはぬ
 ばらすん¹ [paʔrasun] [動] ① 走らせる。② (血、
 汗などを) 流す。③ 注ぐ。[否] ばらはぬ
 ばらふた [barafuta] [名] 藁束。^{わら}
- ばらふちい [barafutʃi] [名] 藁製の草鞋。^{わら}
 はらみ¹ [harami] [名] (鰹など魚の) 卵巣。
 ぱり¹ [paʔri] [名] 針。釣針はくじぱり。
 ぱり っしん [bari ʃʃin] [句] 割ってしまう。
 ぱりあていん¹ [bari.atin] [動] 割り当てる。振
 り当てる。
 ぱりくたくん¹ [barikudakun] [動] 割り砕く。
 [否] ぱりくたかぬ
 ぱりみじい¹ [paʔrimidzi] [名] 湧水。泉。
 ぱりやん¹ [paʔrjan] [名] (魚の) 卵巣。(蟹の)
 卵。
 ぱりん¹ [paʔrin] [動] (天气が) 晴れる。[否]
 ぱるぬ
 ぱるむん¹ [paʔrumun] [動] 孕む。妊娠する。
 [否] ぱるまぬ
 ぱるん¹ [paʔrun] [動] 走る。行く。発つ。[否]
 ぱらぬ
 ぱるん¹ [paʔrun] [動] 張る。[否] ぱらぬ
 ばん¹ [ban] [名] 番。順番。見張りする。
 ぱん¹ [pan] [名] 祈詞。呪詞。祈祷などの祈
 りの言葉。
 ぱん¹ [pan] [名] 刃。刃先。
 ぱん¹ [pan] [名] 足。
 ぱん¹ [pan] [名] 印。印鑑。
 ぱん¹ [pan] [名] 歯。[備] 単独では多くくふ
 ちいぬ ぱん〉を使う。複合語の構成要素
 となる。
 ぱんがま¹ [pamgama] [名] 羽釜。^{はがま}
 ぱんきん¹ [paʔnkin] [動] (男の包茎の皮が) 捲
 れる。[否] ぱんくぬ
 ぱんくん¹ [paʔnkun] [動] 弾く。^{はじ} [否] ぱんかぬ
 ぱんじ¹ [pandzi] [名] ハゼノキ。〈はじまき〉
 「ハゼノキにかぶれる」。
 ぱんじいん¹ [bandzin] [名] 盛り。真っ盛り。
 ぱんしゅる¹ [banʃuru] [名] バンザクロ。野
 生の果物。〈とっきん〉ともいう。
 はんじょー¹ [handzo:] [名] 繁昌。繁栄。

- ばんぞーがに^カ [bandzo:gani] [名] 曲尺。^{かねじゃく}
- ぱんた^カ [panta] [名] 端。端っこ。
- ぱんだー^カ [panda:] [名] おばさん達。神司の
集団を指すことも。
- ぱんたっさ^カはん [pantassahan] [形] 忙しい。
多忙だ。
- ぱんたるん^カ [pantarun] [動] 太る。肥える。
肥満になる。[否] ぱんたるぬ
- ぱんちるん^カ [pantjirun] [動] 解ける。^{ほど}[否] ぱ
んつぬ
- ぱんちん^カ [pantjin] [動] 外れる。[否] ぱん
つぬ
- ぱんつん [pantsun] [動] 外す。
- ぱんどー^カ [bando:] [名] 口の大きな水甕。「飯
銅」から。
- ぱんにち^カ [pannitji] [名] 半日。
- ぱんぬ こー [pannu kor:] [名] 足の甲。
- ぱんぬ にふつあー [pannu nifutsa:] [句] 足
が遅い。
- ぱんぬ ぴいさ [pannu pi:sa] [名] 足の甲。
- ぱんぬ ふき [pannu fuki] [名] 足首。
- ぱんぶん^カ [pambun] [名] 半分。
- ぱんぶんばぎ^カ [pambumbagi] [名] 半分分け。
- ぱんべー^カ [pambe:] [名] 天ぷら。
- ひー^カ [hi:] [名] 家。家屋。
- びー^カ [bi:] [名] 亥。十二支の亥。
- ぴー^カ [pi:] [名] 火。火事。
- ぴー^カ [pi:] [名] 干瀬。干潮時に干上がる瀬。^{ひせ}
- ぴー^カ [pi:] [名] 女陰。
- びーうしい^カ [bi:u:ʃi] [名] 雄牛。大きい雄牛
は〈ぐちえー〉と言う。
- びーがーら^カ [bi:ga:ra] [名] 雄瓦。
- びーかち^カ [pi:kætji] [名] 火風。塩害のひどい
台風。
- ひーすうぬ^カ [hi:sunu] [名] 普段着。
- びーたこりるん^カ [bi:takorirun] [動] 酔いつぶ
れる。[否] びーたこるぬ
- びーちゃー^カ [bi:tʃa:] [名] 酔っ払い。
- ぴーなん^カ [pi:nan] [名] 火繩。火種にする繩。
- 'ぴーぬ' ばり [pi:nu bari] [句] 干瀬の割れ
目。リーフの割れ目。^{ひせ}
- ぴーみじい^カ [pi:midzi] [名] 冷や水。
- びーら [bi:ra] [名] ひ弱。虚弱。
- びーらー [bi:ra:] [名] 病弱な子供。
- ぴーる [pi:ru] [名] 吉日。日選び。
- びーるん^カ [bi:run] [動] 中毒する。[否] びー
らぬ
- びーるん^カ [pi:run] [動] 冷える。[否] ぴらぬ
- ぴいさ^カ [pi:sa] [名] 足の甲。
- ぴいさ^カ [pi:sa] [名] 屋根。
- ぴいささしー^カ [pi:sasaʃi:] [名] 人差し指。
- ぴいさじま^カ [pi:sadzima] [名] 平坦な島。
- ぴいさすん^カ [pi:sasun] [動] (米飯を) 炊く。
[否] ぴさはぬ
- ぴいさ^カはん [pi:sahan] [形] 薄い。薄めだ。
- ぴいさんたり^カ [pi:santari] [名] 平たい。平べ
ったい。
- 'ぴいしゃー'むぬ [pi:ʃa:munu] [名] 拾い物。
- ぴいす^カ [pi:su] [名] 昼間。日中。
- ぴいすあとう [pi:su.atu] [名] 昼後。午後。
- ぴいすまぬっふい^カ [pi:sumanuffi] [名] 昼寝。
- ぴいすまり^カ [pi:sumari] [名] 真昼。正午。
- ぴいすまりむぬ^カ [pi:sumarimunu] [名] 昼食。
昼飯。
- ぴいすまり^カやしみ^カ [pi:sumarijaʃimi] [名] 昼
休み。
- ぴいすん^カ [pi:sun] [動] (潮が) 引く。干潮に
なる。[否] ぴさぬ
- ぴいすん^カ [pi:sun] [動] (屁を) ひる。(屁を)
こく。[否] ぴさぬ
- ぴいすん^カ [pi:sun] [動] 拾う。[否] ぴさぬ
- ぴいせー^カ [pi:se:] [名] 台地上の平地。
- ぴいせー^カ [pi:se:] [名] 平得。石垣島の集落名。^{ひらえ}
- ぴいそ^カはん [pi:sohan] [形] 広い。

- ぴいとうㄌ [p̚itu] [名] ① 人。人間。② 他人。
 ぴいとういしㄌ [p̚itu.ifi] [名] 一息。
 ぴいとうかたㄌ [p̚itukata] [名] 一方。片側。
 ぴいとうきぱㄌ [p̚itukipa] [名] 一畝。
 ぴいとうごはすん [p̚itugohasun] [句] 人怖じ
 する。人見知りをする。
 ぴいとうしぐとㄌ [p̚itufigutu] [名] 一仕事。
 ぴいとうっしㄌ [p̚ituffi] [名] 一切れ。
 ぴいとうすこーん [p̚itusuko:n] [句] 人を使
 う。
 ぴいとうすなㄌ [p̚itusuna] [名] 一品。
 ぴいとうだぎㄌ [p̚itudagi] [名] 人並に。
 ぴいとうたなぐん [p̚itutanagun] [句] 人に頼
 る。人頼み。
 ぴいとうぴれーㄌ [p̚itupire:] [名] 付き合い。交
 際。
 ぴいとうむしㄌ [p̚itumuʃi] [名] 一度。一回。
 ぴいとうゆーㄌ [p̚ituju:] [名] 一晚。一夜。
 ぴいとうりㄌ [p̚ituri] [名] 独り。一人。
 ぴいとうりたまㄌ [p̚ituritama] [名] 一人っ子。
 ぴいとうりふちㄌ [p̚iturifutʃi] [名] 独り言。
 ぴいなㄌ [p̚ina] [名] 皺。〔備〕 日本語の「襷
 (ひだ)」に対応。
 ぴからすんㄌ [p̚ikarasun] [動] 光らせる。磨い
 て光らせる。〔否〕 ぴからはぬ
 ぴかるんㄌ [p̚ikarun] [動] 光る。〔否〕 ぴから
 ぬ
 ぴきㄌ [p̚iki] [名] 竿秤。
 ぴきㄌ [p̚iki] [名] 血筋。血統。
 ぴきㄌ [p̚iki] [名] 引き。引くこと。
 ひきあうんㄌ [h̚iki.aun] [動] 引き合う。相当
 する。〔否〕 ひきあわぬ
 ひきあんぎるんㄌ [h̚iki.angirun] [句] 引き揚
 げる。
 ひきうきるんㄌ [h̚iki.ukirun] [動] 引き受け
 る。〔否〕 ひきうくぬ
 ぴきうしㄌ [p̚iki.ufi] [名] 引き白。
- ぴきうらすん [p̚iki.urasun] [動] 引き下ろす。
 〔否〕 ぴきうらはぬ
 ぴきうるすん [p̚iki.urusun] [動] 引き下ろす。
 ぴきけーすんㄌ [p̚ikike:sun] [句] 引き返す。
 ぴきさくんㄌ [p̚ikisaʔun] [動] 引き裂く。〔否〕
 ぴきさかぬ
 ぴきさんぎるんㄌ [p̚ikisangirun] [動] 引^ひっ提^き
 げる。〔否〕 ぴきさんぐぬ
 ぴきさんぎんㄌ [p̚ikisaŋgin] [句] ぶら下げる。
 ぴきしいきんㄌ [p̚ikiʃikin] [句] ① 引き付け
 る。引^ひっ張る。② 痙攣する。
 ぴきすーㄌ [p̚ikisu:] [名] 引き潮。
 ぴきそーるんㄌ [p̚ikiso:run] [句] 引き連れる。
 ぴきだーすん [p̚ikida:sun] [句] 引き出す。
 ぴきとーすん [p̚ikito:sun] [句] 引き倒す。
 ぴきとうるんㄌ [p̚ikiturun] [動] 引き取る。〔否〕
 ぴきとうらぬ
 ぴきなんㄌ [p̚ikinan] [名] 曳き縄漁。
 ぴきぬ ぶり [p̚ikinu furi] [名] 分銅。
 ぴきぬぐんㄌ [p̚ikinugun] [動] 引き抜く。抜
 き出す。〔否〕 ぴきぬがぬ
 ぴきぬばすんㄌ [p̚ikinubasun] [動] 引き伸ば
 す。〔否〕 ぴきぬばはぬ
 ぴきはかるん [p̚ikihakarun] [句] 引^ひっかかる。
 ぴきやどうㄌ [p̚ikijadu] [名] 引き戸。
 ぴきやぶるんㄌ [p̚ikijaburun] [動] 引き破る。
 〔否〕 ぴきやぶらぬ
 ぴきゆしるんㄌ [p̚ikijufirun] [動] 引き寄せる。
 寄せ集める。〔否〕 ぴきゆするぬ
 びぎりㄌ [bigiri] [名] 男の兄弟。「女の兄弟」
 は〈ぶなり〉。
 ぴきんだすん [p̚ikindasun] [動] 引き出す。〔否〕
 ぴきんだはぬ
 ぴく [p̚iku] [副] 早く。すぐに。
 ぴくだりㄌ [p̚ikudari] [副] 早めに。早く。
 ぴくらやむんㄌ [p̚ikurajamun] [動] 痺^{しび}れる。
 〔否〕 ぴくらやまぬ

- ぴくん¹ [pikun] [動] 引く。弾く。[否] ぴかぬ
 ぴくん¹ [pikun] [動] 穴をあける。
 ぴくん¹ [pikun] [動] (白を) 挽く。[否] ぴかぬ
 ぴぐん¹ [pigun] [動] ^{けず}削る。[否] ぴがぬ
 ぴこ¹はん [pikohan] [形] 危ない。危険だ。
 ぴさんたらすん¹ [pisan tarasun] [動] 潰れる。平たくなる。ひしゃげる。[否] ぴさんたらはぬ
 ぴじがら¹ [pidzigara] [名] ^{かつお}鰹の削りかす。
 ぴしじ¹ [bidzi] [名] 礎石。土台。
 ぴしゃ¹はん [pishahan] [形] 寒い。冷える。
 ぴじゆる¹さーん [pidzurusān] [形] 冷たい。
 ぴしょー¹ [biʃo:] [名] (磯に続く) 浅瀬。
 ぴしるん¹ [bifirun] [動] 据える。[否] びすぬ
 ひすくり¹ [hisukuri] [名] 家造り。
 ひすくりよい¹ [hisukurijoi] [名] 家の落成祝い。
 ぴそーぎるん [piʃo: girun] [動] ① 広げる。拡大する。広げて敷く。② 延べる。延ばす。[否] ぴそーぐぬ
 ぴたこら¹ [bitakora] [名] 酒に酔う。
 ひだみるん¹ [hidamirun] [動] 隔てる。離れる。[否] ひだみぬ
 ひだみん¹ [hidamin] [動] 隔てる。離れる。
 ぴちい¹ [bitʃi] [名] 別。
 ぴちい¹ [pitʃi + 02983] [名] ^{ひつじ}未。十二支の未。
 ぴちいぬ¹ [bitʃinu] [名] 別の。他の。
 ぴちいびちい [bitʃibitʃi] [副] 別々。
 ぴちゃびちゃ [bitʃabitʃa] [擬] じめじめ。湿っているさま。
 ぴっしゃ¹ [piʃʃa] [名] 筆者。書記。王府時代の役人。
 ぴっちゆる¹ [bittʃuru] [名] 陽石。男根をかたどった石。
 ぴてー¹ [pite:] [名] 畑。
 ぴてーぎ¹ [pite:gi] [名] 畑。
 ぴてーすうぬ¹ [pite:sunu] [名] 野良着。作業着。
 ぴてー¹すくるん¹ [pite:sukurun] [名] 畑仕事。農作業。
 ぴてーひ¹ [pite:hi] [名] 畑小屋。
 ぴてん¹ [pitɛn] [名] ^{いちにち}一日。
 ぴてんぴじゅ [pitɛmpidʒu] [名] 一日中。終日。
 ぴとうち¹ [pitutʃi] [名] 一つ。簡略化: てい。
 ぴとうみしり すん [pitumifiri sun] [名] 人見知りをする。
 びどうむ¹ [bidumu] [名] 男。男性。
 ひな¹ のーぬ¹ [hina no:nu] [名] 留守。「家に居ない」の意。
 ひなかん¹ [pinakan] [名] 火の神。台所の守護神。
 ひながん¹ [pinagan] [名] 太陽の^{かさ}量。^{かさ}量。
 ひな¹さーん [binasān] [名] 病弱だ。
 ひな¹はん [pinahan] [名] 劣る。貧弱だ。
 ひなり¹ [pinari] [名] 左。左方。
 ひなるん¹ [pinarun] [動] 減る。減少する。[否] ぴならぬ
 ぴに¹ [pini] [名] ^{ひげ}鬚。
 ぴにるん¹ [pinirun] [動] ^{ひね}捻る。[否] ぴぬぬ
 ひぬばん¹ [hinuban] [名] 留守番。
 ぴぱちい¹ [pipatʃi] [名] ヒハツモドキ。香辛料の植物。
 ぴぱり¹ [pipari] [名] 地割れ。旱害。旱魃による田畑の地割れ。
 『ひばん』むり [hibammuri] [名] 火番盛。王府時代の烽火台。
 びびんたま¹ [bibintama] [名] 小指。
 ぴま¹ [pima] [名] ^{ひま}暇。
 ぴみざ¹ [pimidza] [名] ^{やぎ}山羊。
 ぴむ¹ [pimu] [名] (魚の) えら。
 ぴゃーぐ¹ [pja:gu] [名] 百。

- ぴゃっかるん [pjakkaruN] [動] 這って進む。
 [否] ぴゃっからぬ
- ぴゃんが [pjaŋga] [名] お転婆。お転婆娘。
- ぴゅーびゅー [bju:bju:] [擬] ひゅうひゅう。
 穴やすきま風が吹きぬける音の形容。
- ひよー [hijo:] [名] 日雇い。
- びよーはん [bjo:han] [形] 痒い。
- びよすた [bjosuta] [副] 一目散に。
- ぴょん [pjɔN] [名] 足跡。
- びら [bira] [名] 蕪。
- びら [pira] [名] 篋。
- びらーすん [bira:sun] [動] 中毒させる。[否]
 びらはぬ
- ぴらい [pirai] [名] 付き合い。交際。
- びらがすん [biragasun] [動] 押しつぶす。押し
 して平たくする。[否] びらのはぬ
- ひらきるん [hirakiruN] [動] ① 開ける。②
 発展する。[否] ひらくぬ
- びらぐ [biragu] [名] 竹製の食べ物籠。
- ぴらぐ [piragu] [名] 寒気。寒波。
- ぴらす [pirasu] [名] 付き合い。交際。
- ぴらすか [pirasuka] [名] 怠惰な農夫。下手
 な農夫。
- ぴらすん [pirasun] [動] 冷やす。冷ます。[否]
 びらはぬ
- ぴらすん [pirasun] [動] おどける。[否] び
 らはぬ
- びらま [birama] [名] 兄さん。年上の男性を
 指す。
- ぴり [piri] [-] 冷える。冷たい。
- ぴりかち [pirikatʃi] [名] 冷たい風。涼風。
- ぴりかなば [birikanaba] [名] クワズイモ。毒
 のある植物。
- ぴりがるん [pirigarun] [動] 澄む。沈澱する。
 [否] ぴりがらぬ
- ぴりしゃー すん [piriʃa:sun] [句] 涼む。
- ぴりしゃはん [piriʃahan] [形] 涼しい。
- ぴりふつありむぬ [pirifutsarimunu] [名] 冷
 や飯。冷えた食事。
- ぴる [piru] [名] 昼。昼間。
- ぴる [piru] [名] 大蒜。
- ぴるぬ うち [pirunu utʃi] [句] 昼間。昼の内
 に。
- ぴるまさん [pirumasan] [形] 不思議だ。珍し
 い。
- ぴるまはん [pirumahan] [形] 不思議だ。珍
 しい。
- ひるまるん [hirumarun] [動] 広がる。広ま
 る。噂などについていう。[否] ひるまらぬ
- ぴるまるん [pirumarun] [動] 広まる。広が
 る。[否] ぴるまらぬ
- ひるみるん [hirumiruN] [動] 広める。広げ
 る。流行らせる。[否] ひるむぬ
- ひるみん [hirumin] [動] 広める。広げる。流
 行らせる。[否] ひるむぬ
- ひるん [hirun] [動] あげる。与える。[否] ふ
 ーぬ
- びるん [birun] [動] 座る。[否] びらぬ
- ぴん [pin] [名] 笛。竹笛。
- ぴん [pin] [名] 稗。
- ぴん [pin] [名] 日。日にち。
- ぴん [pin] [名] 屁。
- ぴんがすん [pingasun] [動] 逃がす。[否] ぴ
 んがはぬ
- ぴんがん [pingan] [名] 彼岸。
- ぴんぎまーるん [pingima:run] [動] 逃げ回
 る。[否] ぴんぎまーらぬ
- ぴんぎるん [pingiruN] [動] 逃げる。逃亡す
 る。[否] ぴんぐぬ
- ぴんくるん [pinkuruN] [動] 決る。
- ぴんぐるん [pinguruN] [動] 冷える。凍える。
 [否] ぴんぐらぬ
- ひんすん [hinsun] [動] すねる。[否] ひん
 さぬ

- ぴんそー¹ [pinso:] [名] 貧乏。貧しい。
 ぴんだま¹ [pindama] [名] 火の球。人魂。
 ぴんちい¹ [pintʃi] [名] 日付。日和。日数。
 ひんとー¹ [hinto:] [名] 返事。返答。
 びんとー¹ [binto:] [名] 弁当。
 ぴんとまらすん¹ [pintomasun] [動] 尖らせる。
 [否] ぴんとまらぬ
 ぴんとまり [pintomari] [名] 鋭く尖った。
 ぴんとまるん¹ [pintomarun] [動] 尖る。
 [否] ぴんとまらぬ
 ぴんふつあ¹はーん [pimfutsaha:n] [形] 屁臭い。
 屁の臭いがして臭い。
 ぶー¹ [bu:] [名] ^{ひも}紐。
 ぶー¹ [bu:] [名] ^{ちよま}苧麻。上布の原料。
 ぶー [bu:] [接頭] ^{おお}大。大。大きい。〈ぶーいし〉
 「大石」、〈ぶーあみ〉「大雨」など。
 ぶー¹ [pu:] [名] ^ほ穂。植物の穂。
 ぶー¹ なすん¹ [fu: nasun] [句] 古くする。
 ぶー¹ なるん¹ [fu: narun] [句] 古くなる。古む。
 古びる。
 ぶーがー¹ [fu:ga:] [名] 大川。地名。石垣市の字名。
 ぶーかち¹ [bu:kaʃi] [名] 大風。台風。
 ぶーき [pu:ki] [名] 暑気。猛暑。
 ぶーき¹ [pu:ki] [名] マラリア。熱病。
 ぶーく¹ [fu:ku] [名] 奉公。
 ぶーさ¹ なすん¹ [bu:sa nasun] [句] 多くする。
 増やす。増す。
 ぶーさ¹ なるん¹ [bu:sa narun] [句] ① 多くなる。
 増える。② 成長する。
 ぶーさた [fu:sata] [名] 黒糖。黒砂糖。
 ぶーさら [bu:sara] [名] 大皿。
 「ぶー¹し [fu:ʃi] [副] 黒く。黒ずむ。
 「ぶー¹し なるん¹ [fu:ʃi narun] [句] 黒む。黒くなる。
 黒ずむ。黒みを帯びる。
 ぶーしけん [bu:ʃiken] [名] 満月。
 ぶーすー¹ [bu:su:] [名] 大潮。
 ぶーすうぬ¹ [fu:sunu] [名] 古着。
 ぶーたい¹ [furai] [名] 風袋。軽量のときの入
 れ物の重さ。
 ぶあどうまるん¹ [fadumarun] [動] 薄暗くなる。
 [否] ぶあどまらぬ
 ぶーどうり¹ [bu:duri] [名] 居所。住所。
 ぶーなん¹ [bu:nan] [名] 大波。津波。
 「ぶーぬ¹ むぬ [pu:nu munu] [句] 穀物。穂
 の物の義。
 ぶーばた¹ [bu:bata] [名] 胃。胃袋。
 ぶーび¹ [bu:bi] [名] 親指。
 ぶー¹ひー¹ [bu:hi:] [名] 母屋。
 ぶーびいとう [bu:pitu] [名] 大きな人。偉い
 人。
 ぶーりん¹ [purin] [名] 豊年祭。
 ぶーる¹ [fu:ru] [名] ^{かわや}厠。便所。
 ぶーん¹ [fu:n] [動] ① 閉じる。閉める。② 蓋
 をする。
 [否] ふはぬ
 ぶーん¹ [fu:n] [感] 人の感情を害するような
 ことを言う。
 ぶい¹ [bui] [名] 甥。姪。
 ぶい¹ っしん¹ [fui ʃʃin] [句] 振って落とす。
 ぶいーつあるん [fi:tsarun] [動] 身震いする。
 寒気がする。
 [否] ぶいーつあらぬ
 ぶいふあー¹ [buifa:] [名] 甥。姪。
 ぶか¹ [fuka] [名] ^{そと}外。他。
 ぶ¹が¹き [bugaki] [名] ヤエヤマアオキ。植
 物名。
 ぶがじ¹ [fugadzi] [名] ^{あおがんび}青雁皮。和紙の原料。
 ぶかすん¹ [fukasun] [動] (篩で) ^こ濾す。
 [否] ぶかはぬ
 ぶかすん¹ [fukasun] [動] (湯を) 沸かす。
 [否] ぶかはぬ
 ぶかな [fukana] [句] 別に。外に。
 ぶか¹はん [fukahān] [形] 深い。
 ぶがま [bugama] [名] クロヨナ。植物名。
 ぶかまー¹ [fukama:] [名] 外孫。

- ふかまーり1 [fukama:ri] [名] 外回り。外出。
- ふかむら1 [fukamura] [名] ^{ふか}富嘉村。波照間島の集落名。「外村」とも書く。
- ふがら1 [fugara] [名] クロツグの繊維。黒縄の材料。
- ふかりるん1 [fukarirun] [動] (風に) 吹かれる。(風に) 当たる。[否] ふかーるぬ
- ぶがりるん1 [bugarirun] [動] 疲れる。疲労する。[否] ぶがるぬ
- ふき1 [fuki] [名] 茎。芽。
- ふきありるん1 [fuki.arirun] [動] 吹き荒れる。吹きまくる。[否] ふきあるぬ
- ふきーるん1 [fuki:run] [動] 気絶する。失神する。
- ふきけーし1 [fukike:ji] [名] 台風の吹き返し。
- ふきつあーるん1 [fukitsa:run] [動] (帯が下に下がって) だらしない姿をする。
- ふきつつあーるん1 [fukittsa:run] [動] 緩む。緩くなる。
- ふきるん1 [fukirun] [動] ^{くぐ}潜る。^{くぐ}潜り抜ける。
- ふきん1 [fukin] [動] 卒倒する。
- ふきん1 [fukin] [動] 嘯る。高鳴きする。
- ふきんじるん1 [fukindzirun] [動] 勢いよく溢れる。[否] ふきんどうぬ
- ふく1 [fuku] [名] 石垣。
- ふく1 [fuku] [名] 粉。粉末。
- ふく1 [fuku] [名] 肺臓。
- ふく なるん [fuku narun] [句] 粉々に割れる。
- ふくじい1 [fukudzi] [名] ^{ほこり}埃。
- ふくた1 [fukuta] [名] ぼろの着物。防寒着。
- ふくな1 [fukuna] [名] ハルノノゲシ。雑草名。
- ふくなすん1 [fukunasun] [動] 砕く。粉々にする。粉末にする。[否] ふくなはぬ
- ふくなるん1 [fukunarun] [動] 粉々になる。[否] ふくならぬ
- ぶくぶく [bukubuku] [擬] ブクブク。泡が出るさま。
- ふくますん1 [fukumasun] [動] 含ませる。[否] ふくまはぬ
- ふくむん1 [fukumun] [動] ^{ふく}含む。[否] ふくまぬ
- ふくむん [fukumun] [動] (味などが) しみ込む。
- ぶくむん1 [bukumun] [動] ① 取り混ぜる。② ぶち込む。放り込む。[否] ぶくまぬ
- ふくら1いさーん [fukurasa:n] [形] ふんわりする。
- ふくらすん1 [fukurasun] [動] 膨らます。
- ふくら1はん [fukurahan] [形] ありがたい。ありがたい。
- ふくらび1 [fukurabi] [名] カワハギ。魚類名。
- ふくらますん1 [fukuramasun] [動] 膨らませる。
- ふくりるん1 [fukurirun] [動] 膨れる。腫れる。[否] ふくるぬ
- ふくりん1 [fukurin] [動] ① ^{ふくら}膨らむ。② (水を含んで) 膨れる。
- ふくる1 [fukuru] [名] ^{ふくら}袋。
- ふくるさ1はん [fukurusahan] [形] ふんわりする。
- ふくるふくる [fukurufukuru] [擬] ふっくらとした様。
- ふくるん1 [fukurun] [動] 括る。縛る。[否] ふくらぬ
- ふくん1 [fukun] [動] (屋根を) 葺く。[否] ふかぬ
- ふごー1 [fugo:] [名] 不合格。不合格の短略。
- ふこーら1はん [fuko:raha:n] [形] ありがたい。同等以下にしか用いない。
- ふこ1はん [fukohan] [形] (畑が) じめじめする。
- ふこん1 [fukon] [名] 福木。樹木名。暴風林になる。

- ぶざ¹ [budza] [名] 百姓。平民。王府時代の
下層身分。
- ふさがるん¹ [fʊsagarun] [動] ① 塞がる。②
邪魔になる。[否] ふさがらぬ
- ふさぐん¹ [fʊsagun] [動] 塞ぐ。閉じる。
- ぶざすけー¹ [budzasuke:] [名] 床の間の神棚。
- ぶさは¹ なるん¹ [busaha narun] [句] 大きく
なる。成長する。
- ぶさ¹はん [busahan] [形] ① 大きい。② 多
い。
- ぶざま¹ [budzama] [名] 叔父。伯父。
- ふし¹ [fʊʃi] [名] 節。
- ぶし¹ [buʃi] [名] 武士。強力者。
- ふしうた¹ [fʊʃi.uta] [名] 節歌。
- ふしがらぬ [fʊʃigarunu] [句] 我慢できない。
- ふしきるん¹ [fʊʃikirun] [動] (口に) くわえ
る。食いつく。(歯で) 噛む。食い切る。[否]
ふしくぬ
- ふしぐん¹ [fʊʃigun] [動] 防ぐ。[否] ふしがぬ
- ぶしゃ¹ [buʃa] [名] 長兄。
- ぶす¹ [busu] [名] 潮水。
- ぶすうま¹ [fʊsuma] [名] 黒島。八重山諸島の
島の名。
- ぶすく¹ [fʊsuku] [名] 不足。
- ぶすとう なるん [busutu narun] [句] 育つ。
成長する。
- ぶすぷ¹ [busupu] [名] 尾。尻尾。
- ふた¹ [fʊta] [名] 蓋。
- ふだー¹ [fuda:] [名] 札。
- ふたーち¹ [fʊta:tʃi] [名] 二つ。
- ふたーちい¹ばぎ¹ [fʊta:tʃu:bagi] [句] 両方と
も。二つとも。
- ふだいり¹ [fuda.iri] [名] 札入れ。投票。
- ふたうや¹ [fʊta.uja] [名] 両親。
- ふたかた¹ [fʊtakata] [名] 両方。
- ふたぎな¹ [fʊtagina] [副] 今すぐ。直ちに。
- ふたし¹ [fʊtaʃi] [名] 両手。両手で。
- ふたしみ¹ [fʊtaʃimi] [名] 守宮。
- ふたじろー¹ [fʊtadʒiro:] [名] 食べ物を入れる
竹籠。
- ふたち¹ [fʊtatʃi] [名] 二つ。簡略化〈たー〉。
- ふたなんが¹ [fʊtananga] [名] 二週忌。
- ふだにん¹ [fudani:n] [名] 札人。正丁。王府時
代の課税対象の成人。
- ふたばぎ¹ [fʊtabagi] [句] 二等分。折半。
- ふたびし¹ [fʊtabiʃi] [名] 間。合間。
- ふたまた¹ [fʊtamata] [名] 二股。二又。
- ふたみん¹ [fʊtamin] [名] 両目。
- ふたり¹ [fʊtari] [名] 垢。汚れ。
- ふち¹ [fʊtʃi] [名] 口。
- ふち¹ [fʊtʃi] [名] 筆。毛筆。
- ふち¹ [fʊtʃi] [名] 櫛。
- ふち¹ [pʊtʃi] [名] 星。
- ふちい¹ [fʊtʃi] [名] 草鞋。靴。藁製はくばら-ふ
ちい〉と言う。
- ふちい¹ [fʊtʃi] [名] 縁。
- ふちいかる¹はん [fʊtʃikarohan] [形] 口が軽
い。
- ふちいくばはん [fʊtʃikupahan] [形] ① 口下
手だ。訥弁だ。② 口が重い。吃りがちだ。
- ふちいぬ¹ ぱん¹ [fʊtʃinu pan] [句] 歯。[備]
直訳「口の歯」。同音同アクセントの〈ぱん〉
「足」と区別するためか。
- ふちいやにっしやーん [fʊtʃijaniʃʃa:n] [形] 口
汚い。言うことが汚い。
- ふちいやば¹はん [fʊtʃijabahan] [形] 口達者
だ。能弁だ。
- ふちくる [fʊtʃikuru] [名] 懐。
- ふちぬ¹ すぱ¹ [fʊtʃinu sʊpa] [句] 唇。直訳
「口の唇」。
- ふちめー¹ [fʊtʃime:] [名] 台所。炊事場。
- ふち¹やぶら¹ [fʊtʃijabura] [名] 食欲がないこ
と。
- ふちり¹ [fʊtʃiri] [名] 薬。薬品。

ぷちり1 [putʃiri] [名] 稲光。稲妻。

ぷちんた [putʃinta] [擬] ぷつんと。ぷつりと。
さくりと。糸や縄が切れるさま。

ぷちんた [putʃinta] [擬] ぽきりと。ぽきっと。
軽くものが折れるさま。

ふつ1 [futsu] [名] 糞^{くそ}。

ぷつ1 [putsu] [名] 臍^{へそ}。

ふつ1 まりぽーるん1 [futsu maripo:run] [句]
(大便を) 排泄し散らかす。

ふつあ1 [futsa] [名] 草。雑草。

ふつあーすん1 [futsa:sun] [動] 煮返す。再び
沸騰させる。[否] ふつあはぬ

ふつああん [futsa.an] [名] 建て網の一種。

ふつあ1はん [futsahan] [形] 臭い。悪臭がす
る。

ふつあはん [futsahan] [形] 欲しい。欲しが
る。

ふつあび1 [futsabi] [名] ベラ。魚類名。

ふつあび [futsabi] [名] 楔^{くさび}。

ふつあまら1 [futsamara] [名] 雨乞い祈願の
仮面神。

ふつあらし1 [futsaraji] [名] 草むら。

ふつあらすん1 [futsarasun] [動] 腐らせる。[否]
ふつあらはぬ

ふつありかー [futsarika:] [名] 腐臭。悪臭。

ふつありん1 [futsarin] [動] 腐る。腐敗する。

ふつあるん1 [futsarun] [動] ① 塞がる。②
(目を) 閉じる。[否] ふつわらぬ

ふつあんだに1 [futsandani] [名] 草。雑草。

ぷつおー1 [putso:] [名] 煙草入れ。

ふつかばり1 [fukkabari] [-] 黒い。黒ずむ。

ふつがら1 [futsugara] [名] オオタニワタリ。
植物名。

ふつくれー [futsukure:] [感] 嫌だ。不承知だ。
「くそくらえ」の義。

ぶった [butta] [助] だらけ。

ふっひ1 [fushi] [名] 冬。冬季。

ふっひ ししるん [fushi ʃʃirun] [動] 振り捨て
る。振り払う。

ふっふあ1 [ffa] [名] 倉。穀物倉。

ふっふあ1 [ffa] [名] 鞍^{くら}。

ふつ1ふつあ1はーん [futsufutsaha:n] [形] 糞
臭い。糞の臭いがする。

ふつふん1 [fufun] [動] 振る。[否] ふつわぬ

ふつふん1 [ffun] [動] 揺れる。振動する。[否]
ふつわぬ

ふつふん1 [ffun] [動] (雨が) 降る。[否] ふ
つふあぬ

ふつ1まるん1 [futsumarun] [句] 糞を垂れる。
排便する。

ふつるん1 [futsurun] [動] 漁る。探し回る。[否]
ふつらぬ

ふつん1 [futsun] [動] 沸騰する。煮立つ。[否]
ふつあぬ

ぷつん1 [putsun] [動] 干す。乾かす。[否] ぷ
つあぬ

ふてー1 [fute:] [名] 額^{ひたい}。

ぶとう1 [butu] [名] 夫。

ぶとうぎるん [putugirun] [動] 解^{ほど}ける。糸や
結んだ物などが解ける。[否] ぶとうぐぬ

ぶとうぎん1 [putugin] [名] 仏。仏様。

ぶとうぎんぬ1 めー1 [putuginnu me:] [句] 仏
の前。仏前。

ぶとうぐん1 [putugun] [動] 解^{ほど}く。[否] ぶと
うがぬ

ぶとうち1 [bututi] [名] 一昨日^{おととい}。

ぶとうちばん1 [fututʃipan] [名] 虫歯。

ぶとうちるん1 [fututʃirun] [動] 朽^くちる。[否]
ぶとうとうぬ

ぶとうぶとう [futufutu] [擬] どきどき。ぶる
ぶる。不安、心配、怒り、恐怖などで興奮す
る様。

ぶとうぶとう [butubutu] [擬] 沸騰する様。物
が煮えたぎる様。

- ぶとうむち [butumutʃi] [名] 結婚する。嫁に行く。「夫を持つ」の義。
- ぶどうり [buduri] [名] 踊り。舞踊。
- ぶどうるん [budurun] [動] 踊る。
- ぶなが [bunaga] [名] 祭。祭礼。
- ふなぐん [funagun] [動] 叩く。砕く。[否] ふながぬ
- ふなたび [funatapi] [名] 船旅。
- ふなだま [funadama] [名] 船霊。
- ふなだまり [funadamari] [名] 船の停泊場所。船溜り。
- ふなでーぐ [funade:gu] [名] 船大工。
- ふなどうり [funaduri] [名] メジロ。鳥の名。
- ふなはこー [funahako:] [名] 水夫。船員。
- ふなばに [funabani] [名] 船の横板。横舷。
- ぶなび [bunabi] [名] よなべ。夜業。
- ぶなびやー [bunabija:] [名] よなべ小屋。王府時代の夜業小屋。
- ふなぶ [funabu] [名] 蜜柑。
- ぶなり [bunari] [名] 姉妹。
- ぶなりかん [bunarikan] [名] 姉妹神。
- ふに [funi] [名] 船。船舶。
- ぶに [puni] [名] 骨。骨格。
- ぶにやしみ [punijajimi] [名] 骨休め。休養。
- ふにんじるん [funindzirun] [句] 出港する。船が出るの義。
- ぶぬ [bunu] [名] ^{おの}斧。
- ふねー [fune:] [名] 船酔い。
- ふのーら [funo:ra] [名] 船浦。船の停泊地。
- ぶば [buba] [名] 伯母。叔母。
- ふばむに [fubamuni] [名] 冗談。
- ふひつあるん [fuhitsarun] [動] 寒くて震える。[否] ふひつあらぬ
- ふみあぎるん [fumi.agirun] [動] 褒めあげる。褒め讃える。
- ふみるん [fumirun] [動] 褒める。[否] ふむぬ
- ふむむぬ [fumumunu] [名] 履物。
- ふむん [fumun] [動] (履物を)はく。[否] ふまぬ
- ふむん [fumun] [動] (水を)汲む。[否] ふまぬ
- ふむん [fumun] [動] 編む。竹などで編む時にいう。[否] ふまぬ
- ふむん [fumun] [動] (足で)踏む。[否] ふまぬ
- ふもーらすん [fumo:rasun] [動] 煙を立てる。[否] ふもーらはぬ
- ふもん [fumon] [名] 雲。
- ぶや [buja] [名] 祖父。おじいさん。
- ふゆー [fuju:] [名] 怠け。不精。
- ふゆーむぬ [fju:munu] [名] 怠け者。不精者。
- ふゆな むぬ [fujuna munu] [句] 不精者。
- ぶら [bura] [名] ^{つるべ}釣瓶。
- ぶら [bura] [名] ^{ほら}法螺貝。楽器の法螺。
- ぶら [bura] [名] (楽器の)法螺。
- ふらー [fura:] [名] 馬鹿。馬鹿者。
- ふらふら [furafura] [擬] ふらふらっと。目眩がする様。気が遠くなる様。
- ぶりー [buri:] [名] 失礼。無礼。
- ぶりばーり [puribari] [名] 馬鹿笑い。大笑い。
- ふりはきん [furihakin] [動] 振りかける。[否] ふりはくぬ
- ぶ^りり^り すん [puripuri sun] [句] ぼんやりする。
- ふりまーすん [furima:sun] [動] 振り回す。[否] ふりまーさぬ
- ぷりむに [purimuni] [名] 虚言。嘘。
- ぷりむぬ [purimunu] [名] 気違い。馬鹿者。
- ぶりるん [burirun] [動] (波が)荒れる。[否] ぶるぬ
- ぶりるん [burirun] [動] 折れる。[否] ぶる

- ぬ
- ぷりるん\\ [purirun] [動] ① 惚れる。② 気が狂う。[否] ぶるぬ
- ふるばすん\\ [fʉrubasun] [動] 滅ぼす。[否] ふるばさぬ
- ふるぶん\\ [fʉrubun] [動] 滅ぶ。[否] ふるばぬ
- ふるや\\ [furuja] [名] ^{かわや} 厠。便所。
- ぶるん\\ [burun] [動] 折る。収穫する。[否] ぶらぬ
- ぶるん\\ [burun] [動] (木の実などを) 摘む。[否] ぶらぬ
- ぶるん\\ [burun] [動] 摘み折る。もぎ取る。[否] ぶらぬ
- ぶるん\\ [pʉrun] [動] 掘る。彫る。[否] ぶらぬ
- ふわどうまり\\ なるん\\ [ffwadumari narun] [句] ① 暗くなる。② 曇る。
- ふわむん\\ [fwamun] [動] ① 暗くなる。(日) が) 暮れる。② 曇る。[否] ふわーまぬ
- ふわ\\はん [fʉwahan] [形] 暗い。
- ふん\\ [fun] [名] 釘。^{くぎ}
- ふん\\ [fun] [名] 運。
- ぶん\\ [bun] [動] 居る。〈ぶなー〉「居るか」。[否] ぶらぬ
- ぶん\\ [bun] [名] 恩。恩義。[備] 「恩」の転訛。
- ぶん\\かいすん\\ [bunkaisun] [動] 恩を返す。
- ぶんぎ\\ [bungi] [名] 恩。恩義。[備] 「恩義」の転訛。
- ふんさまるん\\ [funsamarun] [動] ふん縛る。
- ふんしー\\ [funʃi:] [名] 風水。風水学。
- ふんしきるん\\ [funʃikirun] [動] 踏みつける。[否] ふんすくぬ
- ふんた\\ [funta] [名] 床。板床。
- ふんだやー [fundaja:] [名] 我がままだ。勝手放題だ。
- ぶんちうちん\\ [buntʃi.utʃin] [動] 跳び下りる。[否] ぶんちうとうぬ
- ふんつあーすん\\ [funtsa:sun] [動] 踏みにじる。踏みつける。しきりに踏む。[否] ふんつあーさぬ
- ふんつん\\ [funtsun] [動] 跳ぶ。命令形は〈ぶんち〉。[否] ぶんつあぬ
- ふんでー\\ [funde:] [名] 我がまま。あまつたれ。
- ふんでー すむん [punde: sʉmun] [動] 甘やかす。[否] ふくらはぬ
- ふんとー\\ [funto:] [名] 本当。真実。
- ぶんどうり [bunduri] [名] 踊り。舞踊。
- ぶんどうるん\\ [bundurun] [動] 踊る。舞う。[否] ぶんどうらぬ
- ふんぱんちるん\\ [fumpantʃirun] [動] 踏み外す。
- ふんぱんつあすん\\ [fumpantsasun] [動] 踏み外す。[否] ふんぱんつあはぬ
- ふんびらがすん\\ [fumbiragasun] [動] 踏み潰す。[否] ふんびらがはぬ
- ふんまるぐん\\ [fummarugun] [動] 強く束ねる。[否] ふんまるがぬ
- べー\\ [be:] [副] 少し。わずか。
- べー\\ [be:] [名] 我。我が。〈べーま〉「我ら」、〈べーひー〉「我が家」、〈べーすま〉「我が島」など。
- べー\\ [be:] [名] 芽。
- べー [be:] [感] わあー。へえー。
- ペー\\ [pe:] [名] 南。南方。
- ペー\\ [pe:] [名] ^{くわ} 鋏。
- ペー\\ [pe:] [名] ^{はえ} 蠅。
- へー\\ あますん\\ [he: amasun] [句] 食い残す。食い余す。
- ペーかち\\ [pe:kʌtʃi] [名] 南風。
- へーじぶん\\ [he:dʒibun] [名] 食べ頃。
- ペーしゃな\\ [pe:ʃana] [副] 早く。急いで。

- ペーしゅら¹ [pe:ʃura] [名] 夕立ち。
- ペーすま [be:sɯma] [名] 我が島。(島民間で) 波照間島。島民間では波照間島を指す。島外の人を除いた「我々の島」という表現なので、波照間島の島民のみが使う名称である。
- ペーすん¹ [pe:sun] [動] (釣り糸などを) 這わす。[否] ペーはぬ
- ペーチャー [betʃa:] [感] 羨ましい。
- ペーつあーるん¹ [pe:tsa:run] [動] 這う。這いつくばう。[否] ペーつあーらぬ
- ペー¹な [be:na] [副] 少し。わずか。
- 「ペーぬ¹」かた [pe:nu kaʔa] [句] 南方。
- ヘーぱんちるん¹ [he:pantʃirun] [動] 食い外す。[否] ヘーぱんつぬ
- 「ペー¹び」 [be:bi] [副] 少し。わずか。
- ペーまるん¹ [pe:marun] [動] 早まる。[否] ペーまらぬ
- ペーむら¹ [pe:mura] [名] 南村。波照間の村落名。
- ペーり¹ [pe:ri] [名] 日照り。^{かんぼつ}早魃。
- ペーり しゃーん [pe:ri ʃa:n] [句] ^{かんぼつ}早魃だ。
- ペーりくむん¹ [pe:rikumun] [動] 入り込む。[否] ペーりくまぬ
- ペーりまぎ¹ [pe:rimagi] [名] 早害。
- ペーる¹ [pe:ru] [名] 酢。食酢。
- ペーるん¹ [pe:run] [動] 入る。[否] ペーらぬ
- ペしきびり¹ [pe:ʃikibiri] [名] ひざまずき。正座。
- ペしくらやむん¹ [pe:ʃikurajamun] [動] ^{しび}痺れる。[否] ペしくらやまぬ
- へだま¹ [hedama] [名] 食いしん坊。
- へだま¹さーん [hedamasa:n] [形] 食い意地が汚い。
- ペっかるん¹ [pekkarun] [動] 這う。[否] ペっからぬ
- ペった¹ [petta] [名] 南側。
- 「ペったぬ¹」かた [pettanu kaʔa] [句] 南方。
- ペつつあるん¹ [pettsarun] [動] 這いつくばう。[否] ペつつあらぬ
- へぶたん [hebutan] [句] 食べ尽くす。
- ペふつあ¹ [pefutsa] [名] ^{とび}鳶。
- ペりふちい¹ [perifutʃi] [名] 入口。
- ペるん¹ [perun] [動] 入る。[否] ペらぬ
- ぼー¹ [bo:] [名] 棒。棒術。
- ぼー¹ [bo:] [名] 共同作業。[備] 意味的に八重山の他の方言の〈ゆい〉に対応する。
- ぼー¹ [po:] [名] 帆。
- ぼーがり¹ [bo:gari] [名] 疲れ。疲労。
- ぼーぎぶしい¹ [po:gibuʃi] [名] ほうき星。彗星。
- ぼーぐん¹ [po:gun] [動] 掃く。掃除する。[否] ぼーがぬ
- ぼーしん¹ [po:ʃin] [名] 帆船。
- ぼーす¹ [bo:su] [名] 芒種。季節名。沖縄は梅雨時期に当たる。
- ぼーず¹ [bo:dzu] [名] 坊主。僧侶。
- ぼーち¹ [po:tʃi] [名] ^{ほうき}箒。
- ぼーま¹ [bo:ma] [名] 長姉。
- ぼーま¹ [bo:ma] [名] ^{おおはま}大浜。石垣島の集落名。
- ほーむぬ¹ [ho:munu] [名] 食べ物。食糧。
- ほーらきし¹ [ho:rakiʃi] [名] あほらしい。間抜け。
- ほーらし [ho:raʃi] [-] 威張る。自惚れる。
- ぼーりすくん [po:risukun] [動] 蒔き散らかす。[否] ぼーりしいくな
- ぼーり¹のがすん¹ [bo:rinogasun] [句] 疲れをとる。
- ぼーりぼーり [bo:ribo:ri] [感] お利口さん。
- ぼーりゃん¹ [po:rjan] [動(継)] 散らかる。散らばる。
- ぼーるん¹ [po:run] [動] 散らす。[否] ぼーらぬ
- ほーん¹ [ho:n] [動] 食べる。[否] はーぬ

- ほすん¹ [hosun] [動] 釣る。[否] ほはぬ
- ぼたりるん¹ [botarirun] [動] 疲れる。疲労する。[否] ぼたるぬ
- ぼたりん¹ [botarin] [動] 疲れる。[否] ぼたるぬ
- ほっか¹ [hokka] [名] 手品。
- ぽっつあ¹ [pottsā] [名] 包丁。
- ぽっつあーるん¹ [pottsā:run] [動] ばらばらになる。
- ぽっつあらすん [pottsarasun] [動] ばらす。ばらばらにする。
- ほふあ¹ [bofatta] [擬] さっと貫通するさま。
- ほふた [bofuta] [名] 全部。
- ほふた¹ [bofutta] [擬] さっと貫通するさま。
- ほへぬ [bohenu] [句] ～たくない。〈へぼへぬ〉「食べたくない」など。
- ほんぎるん¹ [bongirun] [動] 放り投げる。投げ捨てる。[否] ほんぐぬ
- まー¹ [ma:] [名] 間。場所を表す語。
- まー¹ [ma:] [名] 孫。〈またまー〉は「曾孫(ひまご)」。
- まー [ma:] [接頭] 真～。本～。[備] 〈まー〉が付く語は下降型に所属する。
- まー ぴいとうむし [ma: pitumufi] [句] もう一度。
- まー みちん [ma: mitjin] [句] 再来年。
- まーおーび [ma:o:bi] [名] 倍。二倍。
- まーぎ [ma:gi] [形] 大きい。
- まーぎ¹く¹い¹ [ma:gikui] [名] 大声。
- まーぐん¹ [ma:gun] [動] 播く。蒔く。[否] まーがぬ
- まーぐん¹ [ma:gun] [動] 巻く。[否] まーがぬ
- まーさかさー ねーぬ [ma:sakasa: ne:nu] [形] 体調が悪い。
- まーし¹ [ma:ʃi] [名] (～より) まし。良い。
- まーし¹ [ma:ʃi] [名] 箸。[備] 〈おみぱし〉「御箸」の転。アクセントより本来母音始まりであることが分かる。
- まーしい¹ [ma:ʃi] [名] (田の) 区画。
- まーじい¹ [ma:dʒi] [名] 一緒。同期生。
- まーしとう¹ [ma:ʃitu] [名] 開き戸。
- まーじゃかち¹ [ma:dʒakətʃi] [名] つむじ風。
- まーす¹ [ma:su] [名] 塩。
- まーすにー¹ [ma:suni:] [名] 塩煮。
- まーすむ¹ [ma:sumu] [名] 本心。本気。
- まーすん¹ [ma:sun] [動] 回す。回転させる。[否] まーはぬ
- まーたき [ma:taki] [名] 同等。対等。公平。
- まーち¹ [ma:tʃi] [名] 松。
- まーに¹ [ma:ni] [名] クロツグ。植物名。
- まーぱからさー ねーぬ [ma:pakarasā: ne:nu] [句] 全く利口でない。まるで愚かだ。
- まー¹はん [ma:han] [形] 旨い。美味しい。
- まーび [ma:bi] [副] もっと。
- まーびる¹ [ma:biru] [名] 真昼。日中。
- まーぶり¹ [ma:buri] [名] 魂。靈魂。
- まーぷり¹ [ma:puri] [名] べた惚れ。熱中。
- まーぷりむん¹ [ma:purimun] [名] 大馬鹿者。
- まーべー¹ [ma:be:] [名] 真似。[備] 真似すること。
- まーべー¹ すん¹ [ma:be: sun] [句] 真似する。真似る。
- まーましい¹ [ma:maʃi] [名] まわり。周囲。
- まーみ¹ [ma:mi] [名] 心臓。魚などの心臓。
- まーみ¹ [ma:mi] [名] 豆。
- まーみなん¹ [ma:minan] [名] モヤシ。「豆菜」から。
- まーむしいび¹ [ma:mufipi] [名] 真結び。本結び。
- まーむぬ¹ [ma:munu] [名] 本物。〈ハブ〉「毒蛇」にも言う。
- まーむん [ma:mun] [名] 小麦。
- まー¹らん¹ぶ¹に [ma:rambuni] [名] 馬艦船。^{まーらんせん}近

- 世中期以降の沖縄の帆船。
- まーり¹ [mari] [名] 碗。
- まーり¹ [mari] [名] 周り。周囲。
- まーり¹ [mari] [名] 順番。
- まーり¹ みるん¹ [ma:ri mirun] [句] 見回る。
巡回する。
- まーるん¹ [ma:run] [動] 回る。回転する。[否]
まーらぬ
- まかすん¹ [makasun] [動] 負かす。[否] まか
はぬ
- まかすん¹ [makasun] [動] 任せる。[否] まか
はぬ
- まがすん¹ [magasun] [動] 炊事する。[否] ま
がはぬ
- まぎ¹ [magi] [名] かぶれ。まげ。
- まきしょー [makiʃo:] [感] もういやだ。やる
もんか。
- まぎぼーるん¹ [magipo:run] [動] 蒔き散らす。
[否] まぎぼーらぬ
- まぎり¹ [magiri] [名] 間切。王府時代の行政
区画。
- まきるん¹ [makirun] [動] 負ける。降参する。
[否] まくぬ
- まく¹ [maku] [名] 幕。
- まぐる¹ [magukuru] [名] 真心。
- まくとう¹ [makutu] [名] 誠。
- まさむぬ¹ [masamunu] [名] ご馳走。
- まざむん¹ [madzamun] [名] 魔物。妖怪。幽
霊。
- まさるん¹ [masarun] [動] 優れる。勝る。[否]
まさらぬ
- ましかく¹ [maʃikaku] [名] ミミズク。フクロ
ウの種類。
- ましん¹ [maʃin] [名] 本当だ。
- ますぶどうり¹ [masubuduri] [名] 巻き踊り。
豊年祭の時の集団円舞。
- まそーみ¹ [maso:mi] [名] 真正面。御嶽の遙
拝所の祭壇。
- また¹ [mata] [副] 又。再び。
- また¹ [mata] [名] 股。又。
- またいちふ¹ [mata.itʃifu] [名] ^{またいとこ}又従兄弟。
- まだぎるん¹ [madagirun] [動] 片付ける。整
理する。[否] まだぎらぬ
- またぐい¹ [matagui] [名] 追肥。
- またさ¹ [matasa] [名] 燕。
- またそーり¹ [mataso:ri] [名] 男の再婚。「ま
た嫁を連れる」の義。
- まだ¹はん [madahan] [形] 立派だ。獲物が多
い。
- またびし¹ [matabiʃi] [名] 股下。股間。
- またべー¹ [matabe:] [名] 脇芽。
- またまー¹ [matama:] [名] ^ひ曾孫。
- またむち¹ [matamutʃi] [名] 女の再婚。「また
夫を持つ」の義。
- またんがるん¹ [matanʒarun] [動] ^{またが}跨る。[否]
またんがらぬ
- まちがいん¹ [matʃigain] [動] 間違える。取り
違える。
- まちくがりん¹ [matʃikugarin] [動] 待ち焦が
れる。[否] まちくがるぬ
- まちげー¹ [matʃige:] [名] 間違い。誤り。
- まちげーるん¹ [matʃige:run] [動] 間違える。
[否] まちげーらぬ
- まちぼさーん [matʃibosa:n] [形] 待ち遠しく
思う。待ちわびる。
- まちやー¹ [matʃija:] [名] 店。商店。
- まちゆ¹ [matʃu] [名] 眉。睫毛。
- まちり¹ [matʃiri] [名] 祭。
- まつふあ¹ [maffa] [名] ^{まくら}枕。
- まつら¹ [matsura] [名] 船の竜骨。キール。
- まつん¹ [matsun] [動] 待つ。[否] またぬ
- まとーば¹ [mato:ba] [-] 正直だ。
- まどうぎるん¹ [madugirun] [動] 片付ける。
[否] まどうぐぬ

- まとうまるん [matumarun] [動] まとまる。
[否] まとうまらぬ
- まとうみん [matumin] [動] まとめる。[否]
まとうむぬ
- まとむ [matomu] [名] まとも。真後ろ。
- まな [mana] [名] 今。現在。
- まなぬ [mananu ju:] [句] 今の世。現代。
- まなばら [manabara] [名] 今頃。
- まなまな [manamana] [名] 今すぐ。
- まにあーすん [mani.a:sun] [動] (時間に) 間に合わせる。[否] まにあーさぬ
- まにあうん [mani.aun] [動] 間に合う。時間にも物についてもつかう。[否] まにあーぬ
- ま「べー」 [mabe:] [副] もう少し。もうちょっと。
- まむるん [mamuraun] [動] 守る。[否] まむらぬ
- まゆ [maju] [名] 猫。〈まーゆ〉とも言う。
- まゆ [maju] [名] 繭。
- まら [mara] [名] 陰茎。小児語で〈こっち〉と言う。
- まらすん [marasun] [動] 亡くなる。「死ぬ」の尊敬語。[否] まらはぬ
- まり [mari] [名] 生まれ。生地。血統。
- まりぐん [marigun] [動] 束ねる。[否] まりがぬ
- まりしき [marisiki] [名] 臨月。
- まりじま [maridzima] [名] 生まれ島。故郷。古里。
- まりどうしい [maridu:ji] [名] 生まれ年。生年。
- まりぴん [maripin] [名] 誕生日。
- まりぶなー [maribuna:] [名] 生年祝い。誕生祝い。
- まりぼーるん [maripo:run] [動] (大小便を) 排泄し散らす。[否] まりぼーらぬ
- まりるん [marirun] [動] 生まれる。誕生する。[否] まるぬ
- まるばい [marubai] [名] 丸裸。全裸。
- まるばすん [marubasun] [動] 強く叩く。[否] まりばはぬ
- まるぶさ [marubusa] [名] ダンドク。南方系の草花。
- まるぶちん [marubutjin] [動] 転ぶ。転がる。転倒する。[否] まるぶとうぬ
- まるぶん [marubun] [動] 転ぶ。まろぶ。[否] まるばぬ
- まるん [marun] [動] (糞を) 放つ。出す。[否] まらぬ
- まろはん [marohan] [形] 短い。低い。
- まん [man] [名] 万。数字の単位。
- まんいち [man.itji] [副] 万一。もしも。
- まんが [manga] [副] 真っ直ぐ。
- まんがたんが [mangatangga] [擬] 率直に。
- まんかりかんかり [mankarikan kari] [擬] 曲がりくねって。
- まんかるん [mankarun] [動] 曲がる。たわむ。[否] まんからぬ
- まんきるん [mankirun] [動] 曲げる。[否] まんくぬ
- まんざーすん [mandza:sun] [動] ① 混ぜ合わせる。② 加える。③ 一緒にする。
- まんざるん [mandzarun] [動] 混ぜる。混合する。[否] まんざらぬ
- まんじょー [mandzo:] [名] パパイア。果樹名。
- まんじるん [mandzirun] [動] 混ぜる。混合する。[否] まんずぬ
- まんしん [mansjin] [名] 一杯。満載。満船からか。
- まんしん [mansjin] [名] 首。
- まんしん なるん [mansjin narun] [句] 満杯になる。

- まんず [mandzu] [名] 和え物。
- まんつあ / [mantsa] [名] まな板。
- まんどん / [mandon] [副] 一杯。沢山。
- ま^んな^ーが [manna:ga] [名] 真ん中。
- みー / [mi:] [名] 巳。十二支の巳。
- みー / [mi:] [接頭] 新しい。
- みー / しちん / [mi:ʃitʃin] [句] 見捨てる。
- みーうとすん [mi:utosun] [動] 見落とす。
- みーかんがん / [mi:kanʒan] [名] 眼鏡。水中眼鏡。
- みーぐりしゃーん [mi:guriʒa:n] [形] 見にくい。見苦しい。
- みーしきるん [mi:ʃikirun] [句] 目を付ける。睨む。
- みーち / [mi:tʃi] [名] 三つ。[備] 簡略化 くみい。
- みあてい / [mi.ati] [名] 目当て。目標。
- みーとーすん / [mi:to:sun] [動] 見通す。続けて見る。[否] みーとーはぬ
- みーどー / さーん [mi:du:sa:n] [形] 久しく会わない。中々見ることの無い。
- みーとうどうきるん / [mi:tʊdukin] [動] 見届ける。[否] みーとうどうくぬ
- みーならすん / [mi:narasun] [動] 見習う。[否] みーならはぬ
- みーなりゃん [mi:narjan] [動 (継)] 見慣れる。
- みーにち / [mi:nitʃi] [名] 命日。
- みーぬがすん / [mi:nugasun] [動] 見逃す。[否] みーぬがはぬ
- みーばっぺー / [mi:bappe:] [名] 見間違い。見誤り。
- みーふかさりん / [mi:fukasarin] [動] 見透かされる。透き通って見える。[否] みーふかさるぬ
- みーふかすん / [mi:fukasun] [動] 見通す。見透かす。[否] みふかさぬ
- みーぶりん / [mi:burin] [動] 見惚れる。見とれる。[否] みーぶるぬ
- みーむぬ / [mi:munu] [名] 見物。見せ物。
- みーむん / [mi:mun] [名] 新しい物。新品。
- みーやっ / さーん [mi:jassa:n] [形] 見やすい。
- みーん / ぱちま / はん [mi:mpatʃimahan] [形] 目が眩しい。
- みぐとら / [migutu] [名] 見事。立派。
- みぐらすん / [migurasun] [動] めぐらす。回す。[否] みぐらはぬ
- みぐりしゃ / はん [miguriʒahan] [形] 見苦しい。みっともない。
- みぐるん / [migurun] [動] めぐる。回る。[否] みぐらぬ
- みざし / [midzaʃi] [副] 大変な。たいそう。
- みざし / [midzaʃi] [名] ^{めざし} 目差。王府時代の下級役人。
- みざしくとら [midzaʃikʊtu] [名] 大事。大変なこと。
- みざとら / [midzatu] [名] ^{まへざと} 真栄里。石垣島の集落名。
- みし / [miʃi] [名] ^{みき} 神酒。
- みしー / みし [miʃi:miʃi] [擬] みすみす。まんまと。
- みじい / [midzi] [名] 水。淡水。
- みしきるん / [miʃikirun] [動] 見つける。[否] めすからぬ
- みしくるみん / [miʃikurumin] [名] 耳たぶ。
- みしこー / みしこ [miʃiko:miʃiko] [擬] 慎重に。丁寧に。
- みしこ / はん [miʃikohan] [形] 神聖だ。神々しい。
- みしやー / なるん / [miʃa:narun] [句] 良くなる。治る。
- みしや / はん [miʃahan] [形] 良い。よろしい。
- みしゆ / [miʃu] [名] ^{みそ} 味噌。
- みしゆ / どうり / [miʃuduri] [名] 雀。

- みしるん^ん [miʃirun] [動] 見せる。[否] みし
ゆぬ
- みずあみ [midzu.ami] [名] 水浴。
- みじいがーさ^ん [midzuga:sa] [名] 水疱瘡。くみ
じがーさ〉とも発音する。
- みじいがーみ^ん [midzuga:mi] [名] 水甕。^{みずがめ}
- みじいがーり^ん [midzuga:ri] [名] 水当たり。
- みずぬ こー [midzunu ko:] [名] 水の香。法
要時の邪霊除け。
- みずらはん [midzurahan] [形] 珍しい。不思
議だ。
- みぞーり^ん [midzo:ri] [名] 溝。排水溝。
- みだつん^ん [midatsun] [動] 目立つ。際立つ。
目立って見える。[否] みだたぬ
- みたているん^ん [mitatirun] [動] 見たてる。見
て選び定める。
- みちい^ん [mitʃi] [名] 道。道路。
- みちいくせー^ん [mitʃikuse:] [名] 道普請。道路
修理。
- みちさはん [mitʃisahan] [形] 太い。^{ふと}
- みちすねー^ん [mitʃisune:] [名] (旧盆の) 仮装
行列。
- みちなりん [mitʃinarin] [名] 一昨年。
- みっくわ^ん [mikkwa] [名] めくら。盲人。
- みっちん^ん [mittsin] [名] 目玉。眼球。[備] 語
中の二重子音は口蓋化していない。
- みっとはん [mittohan] [形] 見苦しい。みっ
ともない。
- 「みっふあー」むん [miffa:mun] [名] 嫌われ者。
- みっふあはん [miffahan] [形] 憎らしい。嫌
い。
- みっ「ふあ」ん [miffan] [副] どんどん。一目
散に。
- みとうどうぎるん^ん [mitudugin] [動] 見届け
る。[否] みとうどうぐぬ
- みとうみるん^ん [mitumirun] [動] 認める。[否]
みとうむぬ
- みどうむ^ん [midumu] [名] 女。女性。
- みどうんたま^ん [miduntama] [名] 女の子。娘。
- みなー^ん [mina:] [名] 庭。
- みなが^ん [minaga] [名] 庭。
- みなすけぬ ぱんだー [minasykenu panda:]
[句] 豊年祭時の神司達。
- みなぶ^ん [minabu] [名] 藁蓆。^{わらむしろ} 穀物を干すの
に使用。
- みなれー^ん [minare:] [名] 見習い。
- みなん^ん [minan] [名] 貝。貝類の総称。
- みなんぬ^ん くー^ん [minannu ku:] [句] 貝殻。
- みぬがすん^ん [minugasun] [動] 見逃す。見落
とす。[否] みぬがはぬ
- みのーすん^ん [mino:sun] [動] ① 見直す。②
見て許す。[否] みのーさぬ
- みまちごーん^ん [mimatʃigo:n] [動] ① 見間違
える。② 見損なう。[否] みーまちげーらぬ
- みみじい^ん [mimidzi] [名] ミミズ。
- みゃーぐ^ん [mja:gu] [名] 宮古。宮古島。
- みゃぐ^ん [mjagu] [名] 脈。脈拍。
- みやくつえー^ん [mijakutse:] [名] (御嶽や神道
の) 除草清掃。
- みやらび^ん [mijarabi] [名] 美童。女わらべ。娘。
- みゃん^ん [mjān] [動 (継)] 熟する。熟れる。
- みゃん [mjān] [動 (継)] 膿む。
- みよーでん^ん [mjo:den] [名] 名代。代理。
- みり^ん みらぬ^ん [miri miranu] [句] 見覚えが
ない。
- みるく^ん [miruku] [名] 弥勒神。弥勒菩薩。
- みるくゆー^ん [mirukuju:] [名] 豊穰で平和の
世。「弥勒神の世」の義。
- みるん^ん [mirun] [動] 見る。[否] みらぬ
- みん^ん [min] [名] 目。
- みん^ん [min] [名] 耳。
- みん^ん [min] [名] 穴。
- みんかー^ん [miŋka:] [名] 聾。^{つんぼ}
- みんくぱり^ん [miŋkypari] [-] 目がさえる。

- みんぐる¹ [minguru] [名] キクラゲ。食用になる茸。
 みんぐるみん¹ [mingurumin] [名] キクラゲ。食用になる茸。
 みん¹さまるん¹ [minsamarun] [句] 目覚める。
 みんすさ¹はーん [minsusaha:n] [形] 目がかたい。夜遅くまでよく起きる。
 みんぜー¹ [mindze:] [名] ものもらい。
 みんたま¹ [mintama] [名] 目玉。眼球。
 みんだれー¹ [mindare:] [名] 洗面器。[備] びん-たらいの転訛。
 みんとーら¹ [minto:ra] [-] 聞こえない。難聴になる。
 みんとーりむん¹ [minto:rimun] [名] 難聴になった人。
 みんどー¹ [mindu:] [名] 面倒。
 みんとーさーん [mintu:sa:n] [形] 耳が遠い。
 みんどな¹ [mindona] [-] 面倒だ。
 みんぬ¹ かー¹ [minnu ka:] [句] ^{まぶた} 瞼。[備] 直訳「目の皮」。
 みんぴきるん [mimpikirun] [動] 穴があく。
 みんみり¹ [mimmiri] [句] 老眼になる。
 むーじ¹ [mu:dzi] [名] 田芋。
 むーち¹ [mu:tʃi] [名] 六つ。[備] 簡略化〈むー〉。
 むーる [mu:ru] [名] 皆。
 むい¹かぶん¹ [muikapun] [句] 生い茂る。
 むいきし¹ [muikiʃi] [句] 思い切る。
 むいくみ¹ [muikumi] [動] 思い込む。[否] むいくまぬ
 むいるん¹ [muirun] [動] 生える。[否] むーぬ
 むえー¹ [mue:] [名] 模合。頼母子。
 むがし¹ [mugaʃi] [名] 昔。
 むがじ¹ [mugadzi] [名] 百足。
 むがしいがら¹ [mugasugara] [句] 昔から。古来。
 むがしいなれー¹ [mugaʃinare:] [名] 旧慣。旧習。昔からのしきたり。
 むがしい¹ばなしい¹ [mugaʃipanaʃi] [名] 昔話。
 むがしい¹びいとう¹ [mugaʃipitu] [名] 昔の人。古人。
 むがしい¹ゆー¹ [mugaʃiju:] [名] 昔の世。神の世。豊穰の世。
 むがし¹くとうば¹ [mugaʃikutuba] [名] 諺。格言。
 むぎゃん¹ [mugjan] [動(継)] 向かう。
 むぐ¹ [mugu] [名] ^{むこ} 婿。
 むぐちよーでー¹ [mugutʃo:de:] [名] 婿兄弟。
 むぐぶざ¹ [mugubudza] [名] ^{むこ} 婿。
 むぐん¹ [mugun] [動] (皮を) 剥く。[否] むがぬ
 むげーかち¹ [muge:kaʃi] [名] 向かい風。
 むげーぴん¹ [muge:pin] [名] 迎えの日。盆の初日。
 むげーるん¹ [muge:run] [動] 迎える。[否] むげーらぬ
 むごん¹ [mugon] [名] やし蟹。
 むざ¹ [mudza] [名] ^{いのしし} 猪。
 むさん¹ [musan] [名] 大きなうねり。大波。
 むし¹ [muʃi] [名] 虫。昆虫。
 むし [muʃi] [接尾] ~回。回数を示す。〈ぴとむしい〉「一回」など。
 むじかーるん¹ [mudzika:run] [動] ① 振じれる。振じ曲がる。② 拗ねる。[否] むじかーらぬ
 むじかるん¹ [mudzikarun] [動] ① 振じれる。ねじ曲がる。② 拗ねる。[否] むじからぬ
 むじまーすん¹ [mudzima:sun] [動] 振じる。ねじ曲げる。捻る。[否] むじまーさぬ
 むしゃまー¹ [muʃama:] [名] 旧盆の〈ゆにげー〉「世願い」行事。
 むすかつさ¹はん [musukassahan] [形] 難し

- い。困難だ。
- むすなすん^ん [musunasun] [動] (牛馬を) 繋ぎ変える。(牛馬を) 移す。[否] むすまはぬ
- むすぶん^ん [musupun] [動] 結ぶ。縛る。[否] むすばぬ
- むすめー^ん [musume:] [名] もち米。うるち米。
- むたーりるん^ん [mutarirun] [動] ① もたれる。寄り掛かる。② 頼る。
- むたすくん^ん [mutasukun] [動] 取り扱う。[否] むたすかぬ
- むだすけー^ん [mudasuke:] [名] 無駄遣い。
- むたすん^ん [mutasun] [動] 持たす。持参させる。[否] むたはぬ
- むち^い [mutji] [名] 餅。
- むち^い [mutji] [名] 顔。顔面。
- むち^い [mutji] [名] 漆喰。
- むち^い あんぎるん^ん [mutji angirun] [句] (顔を) もたげる。
- むち んぐん [mutji ngun] [句] 持っていく。
- むちあんぎるん^ん [mutji.angirun] [動] 持ち上げる。[否] むちあんぐぬ
- むちあんぎるん^ん [mutji.angirun] [動] ① (上へ) 持ち上げる。② 引き立てる。[否] むちあんぐぬ
- むちいむぬ^ん [mutjimunu] [名] 持ち物。
- むちのーすん^ん [mutjino:sun] [動] 持ち直す。いい方向へ戻す。[否] むちのーさぬ
- むちのーるん^ん [mutjino:run] [動] 持ち直す。回復する。立ち直る。[否] むちのーらぬ
- むっさ^いはん [mussahan] [形] 面白い。
- むっしるん^ん [mussirun] [動] 切れる。千切れる。[否] むっすぬ
- むっす^い [mussu] [名] 蓆。
- むっすん^ん [mussun] [動] むしる。摘み取る。[否] むっさぬ
- むつつあーすん^ん [muttsa:sun] [動] くっ付ける。ひっ付ける。[否] むつつあーらぬ
- むつつあーるん^ん [muttsarun] [動] くっ付く。ひっ付く。[否] むつつあーらぬ
- むつつあ^いはん [muttsahan] [形] 粘っこい。ねばねばする。
- むつつあるん^ん [muttsarun] [動] くっ付く。ひっ付く。[否] むつつあらぬ
- むつつあるん^ん [muttsarun] [動] 粘付く。[否] むつつあらぬ
- むつとう^い [muttu] [副] 全く。さっぱり。
- むつ^いとう^いむ [muttumu] [副] もっとも。
- むつま^いさん [mutsumassa:n] [形] 睦ましい。仲がいい。
- むつま^いさはん [mutsumassahan] [形] 睦ましい。仲がいい。
- むつん^ん [mutsun] [動] 持つ。持参する。[否] むつあぬ
- むとう^い [mutu] [名] 元。幹。
- むとうがら^い [mutugara] [句] 元々。元来。
- むとうぐい^い [mutugui] [名] 元肥。
- むどうすん^ん [mudusun] [動] ① 戻す。② 吐く。[否] むどうさぬ
- むとうだぎ^い [mutudagi] [名] 於茂登岳。石垣島の山の名。
- むとうみるん^ん [mutumirun] [動] 求める。[否] むとうむぬ
- むどうりみち^い [mudurimitji] [名] 戻り道。帰り道。
- むどうるん^ん [mudurun] [動] 戻る。[否] むどうらぬ
- むに^い [muni] [名] 言葉。言語。
- むに^い ゆむん^ん [muni jumun] [句] 愚痴を言う。
- むに^い あら^いはーん [muniaraha:n] [形] 言葉が荒い。言葉が荒っぽい。
- むぬ^い [munu] [名] 物。食べ物。食事。
- むぬうぶい^い [munu.ubui] [名] 物覚え。記憶力。

- むぬかんげー¹ [munukange:] [名] 物考え。思案。
 むぬぐとう¹ [munugutu] [名] 物事。
 むぬしらし¹ [munufiraji] [名] 予兆。神仏の啓示。
 むぬしり¹ [munufiri] [名] 物知り。
 むぬすくり¹ [munusukuri] [名] 農耕。栽培。「物作り」の義。
 むぬ¹すくん¹ [munusukun] [句] 尋ねる。物事を聞く。
 むぬなれー¹ [mununare:] [名] 物習い。学習。勉強。
 むぬばっさ [munubassa] [句] 物忘れ。
 むぬばなし¹ [munupanafi] [名] おしゃべり。世間話。
 むぬへーずく¹ [munuhe:dzuku] [名] ^{なりわい} 生業。
 むぬみずらはん [munumidzurahan] [形] 珍しい。物珍しい。
 むぬむい¹ [munumui] [名] 物思い。心配。
 むぬむち¹ [munumutji] [名] 物持ち。資産家。
 むみん¹ [mumin] [名] 木綿。
 むむん¹ [mumun] [動] 揉む。揉みほぐす。[否] むまぬ
 むやすん¹ [mujasun] [動] (草を) 生やす。[否] もーはぬ
 むよー¹ [mujo:] [名] 模様。様子。
 むら¹ [mura] [名] 村。村落。
 むらぐとう¹ [muragutu] [名] 村の行事。
 むらたたまり [muratamari] [名] 村人の集会。王府時代の村人集会。
 むらばぎん¹ [murabagin] [名] 分村。王府時代に行われた強制的な分村。
 むり¹ [muri] [名] 山。森。丘。石盛。
 むりあがるん¹ [muri.agarun] [動] 盛り上がる。膨れ上がる。持ち上がる。[否] むりあがらぬ
 むりあぎるん¹ [muri.agirun] [動] 盛り上げる。[否] むりあぐぬ
 むりあま¹ [muri.ama] [名] 子守の娘。(姉)。
 む¹る¹むるし [murumuruji] [副] 丸い。丸っこい。
 むるん [murun] [動] 盛る。盛り上げる。[否] むらぬ
 むるん¹ [murun] [名] もろみ。
 むん¹ [mun] [動] 思う。考える。[否] もわぬ
 むん¹ [mun] [名] 麦。麦類の総称。
 むんぐる¹ [muṅguru] [名] 麦わら。
 むんじる¹ [mundziru] [動] 思い出す。
 むんだに¹ [mundani] [名] 餌。釣り餌。
 むんだらし¹ [mundaraji] [名] 腿。太腿。
 むんどうー¹ [mundu:] [名] 問答。争議。口論。
 むんどうー すん [mundu: sun] [名] 争議する。口論する。
 むんぬ¹ くー¹ [munnu ku:] [句] 小麦粉。メリケン粉。
 むんみ¹ [munmi] [名] ^{もんめ} 匁。重さの単位。
 めー¹ [me:] [名] 米。作物の稲にも言う。
 めー¹ [me:] [名] 前。前方。以前。
 めー¹ なすん¹ [me: nasun] [句] ① 前にする。② 先にする。③ 前に置く。
 めー¹ なるん¹ [me: narun] [句] 前に行く。先になる。
 めー¹が¹めーにち [me:game:nitji] [副] 毎日。何時も。
 めーかり¹ [me:kari] [名] 稲刈り。
 めーがり¹ [me:gari] [名] 前借。
 めー¹しび¹ [me:jipi] [名] 前後。逆。
 めーすん¹ [me:sun] [動] 燃やす。[否] めーはぬ
 めーだら¹ [me:dara] [名] 米俵。
 めーどうし¹ [me:duji] [名] 毎年。
 めーにち¹ [me:nitji] [名] 毎日。
 めーぬ¹ いー¹ [me:nu i:] [句] 米の飯。米飯。

- めーぬ¹ しき¹ [me:nu ſiki] [句] 先月。直訳「前の月」。
- めーぬすかるん¹ [me:nusukaruN] [句] 間近に迫る。近づく。
- めーぱん¹ [me:pan] [名] 前足。
- めーぱん¹ [me:pan] [名] 前歯。
- めーむち [me:mutʃi] [副] 前もって。
- めーむぬ¹ [me:munu] [名] 新しい物。新品。
- めーむるし¹ [me:muruʃi] [名] 古墳。古墓。
- めーら¹ [me:ra] [名] 宮良。石垣島の集落名。
- めーりぴてー¹ [me:ripite:] [名] 肥沃な畑。
- めーるん¹ [me:ruN] [動] (芽などが) 太る。実る。[否] めーらぬ
- めーるん¹ [me:ruN] [動] 燃える。[否] めーらぬ
- めすかるん¹ [mesukaruN] [句] 見つかる。
- めっさはん [messahan] [形] 心地よい。気持ちいい。
- めった [metta] [名] アンツク。入れ物の一種。縄で編んだ物入れ。
- めつつあ¹ [mettsa] [名] 女のふんどし。
- めふな¹ [mefuna] [名] 利口な。
- めらびな¹ [merabina:] [名] 幼名。
- めんさ¹ [mensa] [名] 蓑。^{みの}
- もー¹ [mo:] [名] ここ。この辺。
- もーが¹ [mo:ga] [名] 儲け。利益。
- もーぎ¹ [mo:gi] [名] 儲け。利益。
- もーや¹ [mo:ja] [名] 即興踊り。
- もーら¹ [mo:ra] [句] こちらから。
- もーらすん¹ [mo:rasuN] [動] 漏らす。[否] もーらはぬ
- もーるん¹ [mo:ruN] [動] 漏る。漏れる。[否] もーらぬ
- もが¹ [moga] [句] こちらへ。
- もぬ¹ まーり¹ [monu ma:ri] [句] この辺。この付近。
- もみ¹ [momi] [名] 粃。^{もみ}
- や¹ [ja] [名] 矢。楔。^{くさび}
- やー [ja:] [感] やあー。おーい。呼びかけの言葉。
- やーち¹ [ja:tʃi] [名] 八つ。[備] 簡略化〈やー〉。
- やーなれー [ja:nare:] [名] 家の習慣。家風。
- やーにんじゅ¹ [ja:nindʒu] [名] 家族。
- やーは¹ すん¹ [ja:ha suN] [句] ひもじい。空腹だ。
- やーはん [ja:han] [形] ひもじい。空腹だ。
- やーばん¹ [ja:ban] [名] 家紋。家判。
- やーぶさ¹ [ja:busa] [名] 山補佐。王府時代の百姓役目。杣山筆者の補佐役。
- やーむとう¹ [ja:mutu] [名] 家元。本家。実家。
- やーむんどう [ja:mundu] [名] 家庭内争議。
- やーらぎるん¹ [ja:ragiruN] [動] ① 和らげる。柔らかくする。② 殴る。[否] やーらぐぬ
- やーらぐん¹ [ja:raguN] [動] 柔らかく。柔らかくなる。[否] やーらがぬ
- やーりん¹ [ja:riN] [動] 破れる。裂ける。[否] やるぬ
- やいと [jaitto] [擬] がぼと。すくと。力を入れて勢いよく行動を開始するさま。
- やいま¹ [jaima] [名] 八重山。地名。
- やいやいた [jaijaita] [擬] せっせと働くさま。
- やがまさはん¹ [jagamassaha:N] [形] やかましい。
- やがりるん¹ [jagariruN] [動] 焼ける。[否] やがるぬ
- やきー¹ [jaki:] [名] マラリア。熱病。〈やえやま-やきー〉と呼ばれた。
- やぎむぬ¹ [jagimunu] [名] 焼き物。陶磁器。
- やく¹ [jaku] [名] 役職。
- やく¹ [jaku] [名] 厄。災い。
- やぐい¹ [jagui] [名] 掛声。
- やく¹ たつん¹ [jakutʃuN] [動] 役に立つ。[否]

- やくたたぬ
- やくどうし [jakudufi] [名] 厄年。
- やくば [jakuba] [名] 役場。役所。
- やぐん [jagun] [動] 焼く。焼き捨てる。[否]
やがぬ
- やし [jafi] [名] 椰子。植物名。
- やしいねーふあ [jafine:fa] [名] 養子。養い子。
- やしき [jafiki] [名] 屋敷。
- やしねー [jafine:] [名] 養い。
- やしねーうや [jafine:uja] [名] 養い親。養父母。
- やじまるん [jadzimarun] [動] 孕まない。不妊だ。[否] やじまらぬ
- やしみ [jafimi] [名] 休み。休憩。
- やしむぬ [jafimunu] [名] 安物。
- やしゃ [jafa] [名] 次姉。
- やしり [jafiri] [名] 鑪。^{やすり}
- やすうむん [jasumun] [動] 休む。休憩の意ではなく、休暇を取るの意。
- やすなすん [jasunasun] [動] 養う。養育する。[否] やすなほぬ
- やすんじるん [jasundzirun] [動] 安んじる。安心する。
- やせー [jase:] [名] 野菜。
- やせーびてー [jase:pite:] [名] 野菜畑。
- やた [jata] [名] 脇。^{わき}
- やたかび [jatakabi] [名] 浜木綿。
- や^たぶ [jatapu] [名] 唐黍。高粱。
- やたふちい [jatafutfi] [名] 蓬。^{よもぎ}
- やたぶに [jatabuni] [名] 肋骨。
- やち [jatfi] [名] 灸。お灸。
- やっけー [jakke:] [名] 厄介。迷惑。
- やっさ [jassa] [助] ~だ。~だろう。
- やっさはん [jassahan] [形] ① 安い。安価だ。
② た易い。
- やっちるん [jattjin] [動] 痩せる。衰弱する。
[否] やっつぬ
- やっ^ちん [jattjin] [副] 必ず。
- やっとう [jattu] [副] やっと。ようやく。
- やっぱり [jappari] [副] 言い張る。主張する。
- やとーすん [jato:sun] [動] 移植する。[否]
やとーはぬ
- やどう [jadu] [名] 戸。雨戸。
- やどう [jadu] [名] 宿。宿屋。
- やどうとうるん [jaduturun] [句] 宿る。泊まる。宿泊する。
- やとすん [jatosun] [動] 雇う。雇用する。[否]
やとはぬ
- やな [jana] [形] 悪い。劣悪だ。
- やなかー [janaka:] [名] 悪臭。
- やなかたち [janakatati] [名] 悪い形。不格好。形が悪いこと。
- やなくしー [janakyfi:] [名] 悪い癖。悪癖。
- やなくとう [janakutu] [名] 悪事。凶事。不幸。
- やなごるん [janagorun] [動] 濁る。汚濁になる。[否] やなごらぬ
- やなたくみ [janatakumi] [名] 悪だくみ。
- やななれー [jananare:] [名] 悪い習慣。因習。
- やなふちい [janafuti] [名] 悪口。
- やなむしい [janamufi] [名] 害虫。
- やなむん [janamun] [名] 悪者。魔物。
- やなわしき [janawafiki] [名] 天気が悪い。悪天候。
- やなわらび [janawarabi] [名] 悪戯っ子。悪童。
- やにっしゃはん [janiffahan] [形] 汚ない。汚れている。
- やばはん [jabahan] [形] 上手。優れている。
- やびくん [japikun] [動] 火傷をする。
- やびむん [jabimun] [名] ろくでなし。
- やふ [jafu] [名] 災い。凶事。
- やふあらぐん [jafaragun] [動] 和らぐ。柔らかになる。

- やぶす なるん [jabusu narun] [句] 安心する。
安堵する。
- やぶりん¹ [jaburin] [動] 破れる。壊れる。[否]
やぶるぬ
- やぶるん¹ [jaburun] [動] 破る。壊す。[否] や
ぶらぬ
- やま¹ [jama] [名] 山。森。
- や¹まー¹し [jama:ʃi] [副] 静かに。ゆっくり
と。
- やまかたなし¹ [jamakātanaʃi] [名] 山刀。
- やまぐ¹ [jamagu] [名] 乱暴者。暴れ者。腕白
者。横着な者。悪戯っばい者。
- やまぐ¹ すん¹ [jamagu sun] [句] 乱暴を働
く。
- やまじいま¹ [jamadzima] [名] 山島。山国。
- やましぐとう¹ [jamaʃigutu] [名] 山仕事。
- やますん¹ [jamasun] [動] 痛める。傷つける。
[否] やまはぬ
- やまとう¹ [jamatu] [名] 大和。日本。日本本
土。
- やまとう¹ふいとう¹ [jamatupitu] [名] 日本
人。内地人。
- やまどうみ¹ [jamadumi] [名] 山止め。王府時
代の禁忌。
- やまとうむに¹ [jamatumuni] [名] 日本語。標
準語。
- やまにんじゅ¹ [jamanindzu] [名] 御嶽の祭祀
に参加する村人。
- やまんぐ¹ [jamangu] [名] 乱暴者。暴れ者。腕
白者。横着な者。悪戯っばい者。
- やまんぐ¹さーん [jamaŋgusa:n] [形] ① 暴れ
ん坊だ。② 腕白だ。悪戯好きだ。
- やみ¹ [jami] [名] 闇。真っ暗。
- やみ¹ [jami] [名] 病^{やまい}。病気。
- やみるん¹ [jamirun] [動] ① 止める。② 辞職
する。辞任する。[否] やむぬ
- やむん¹ [jamun] [動] 痛む。病気に罹る。[否]
- やまぬ
- やむん¹ [jamun] [動] (風雨が) 止む。[否] や
まぬ
- やらすん¹ [jarasun] [動] よこす。遣わす。[否]
やはらぬ
- やらん¹はん [jarahān] [形] 柔らかい。
- やらび¹ [jarabi] [名] 童。子供。
- やらびなー¹ [jarabina:] [名] 童名。幼名。
- やらぶ¹ [jarabu] [名] テリハボク。植物名。
- やらふあー¹ すん¹ [jarafa: sun] [句] 柔らか
くする。
- やらふあー¹ なるん¹ [jarafa: narun] [句] 柔
らかくなる。
- やり¹ [jari] [名] 槍。
- やりしちるん¹ [jarifitʃirun] [動] 破って捨て
る。[否] やりしつぬ
- やりすうぬ¹ [jarisunu] [名] ぼろの着物。
- やりふちい¹ [jarifutʃi] [名] 破れ目。裂け目。
- やりぽーるん¹ [jaripo:run] [動] 破り散らか
す。[否] やりぽーらぬ
- やりるん¹ [jarirun] [動] 破れる。[否] やるぬ
- やるはく¹ [jaruhaku] [名] ぼろ。ぼろ切れ。
- やるん¹ [jarun] [動] ~だ。~である。[否]
あらぬ
- やん¹ [jan] [名] 病^{やまい}。病気。
- やんばるしん¹ [jambaruʃin] [名] 山原船^{やんばるせん}。沖
縄在来の帆船。
- ゆー¹ [ju:] [名] 魚。魚類。
- ゆー¹ [ju:] [名] 粥^{かゆ}。
- ゆー¹ [ju:] [名] 世。時代。
- ゆー¹ あうん¹ [ju: aun] [句] よく合う。よく
似合う。
- ゆーあみ¹ [ju:ami] [名] 夜雨。夜間に降る雨。
豊年の印。ゆがふ雨として喜ばれた。
- ゆーがーり¹ [ju:garri] [名] 世変り。
- ゆーかどう¹ [ju:kadu] [名] 四ツ角。四隅。
- ゆー¹さんちゃ¹ [ju:santʃa] [句] もしかした

- ら。
- ゆーじ^ㄐ [ju:dʒi] [名] 用事。行事。
- ゆーしき [ju:ʃiki] [名] 魚突き。銚で突く漁法。
- ゆーち^ㄐ [ju:tʃi] [名] 四つ。簡略化：ゆー。
- ゆーとうり^ㄐ [ju:tʊri] [名] 魚獲り。漁業。
- ゆーどうり^ㄐ [ju:duri] [名] 夕風。
- ゆーび^ㄐ [ju:bi] [名] 夕べ。昨夜。
- ゆーべー^ㄐ [ju:be:] [名] ^{めかけ} 妾。情婦。
- ゆーべーかち^ㄐ [ju:be:kætʃi] [名] 戻り風。風向が元にもどる風。
- ゆーべーぷち [ju:be:putʃi] [名] 流れ星。直訳「夜這い星」。
- ゆーほすん [ju:hosun] [句] 魚釣り。
- ゆい^ㄐ [ju:] [動] 叱る。[否] ゆわぬ
- ゆい^ㄐ [ju:] [名] ^{ゆい} 結。共同作業。
- ゆうん^ㄐ [ju:n] [動] 結う。結ぶ。[否] ゆわぬ
- ゆがふ^ㄐ [jugafu] [名] 豊年。直訳「世果報」。
- ゆがみるん^ㄐ [jugamirun] [動] 歪める。
- ゆがむん^ㄐ [jugamun] [動] ^{ゆが} 歪む。[否] ゆがまぬ
- ゆぐ^ㄐ [jugu] [名] 欲。
- ゆぐ^ㄐさん [jugusan] [形] ① 欲張りだ。欲深い。② けちだ。しみったれた。
- ゆくしむに^ㄐ [jukuʃimuni] [名] うそ。いつわり。
- ゆくすか^ㄐ [jukusuka] [動 (接)] 欲張る。
- ゆぐすん^ㄐ [jugusun] [動] 汚す。[否] ゆぐさぬ
- ゆくたーるん^ㄐ [jukuta:run] [動] ① 横たわる。横になる。② 寝そべる。[否] ゆくたーらぬ
- ゆぐぬ ねーぬ [jugunu ne:nu] [句] 無欲だ。欲がない。食欲について淡泊だ。
- ゆくばるん [jukubarun] [動] 欲張る。
- ゆぐり^ㄐ [juguri] [名] 汚れ。
- ゆぐりるん^ㄐ [jugurirun] [動] 汚れる。けがれる。[否] ゆぐるぬ
- ゆごー^ㄐ [jugo:] [名] 隅。片隅。東の村では〈やごー〉。
- ゆごー^ㄐ すん^ㄐ [jugo:sun] [句] お休みになる。「休む」、「憩う」の敬語。
- ゆさし^ㄐ [jusaʃi] [名] 四つ星。
- ゆしき^ㄐ [juʃiki] [名] ススキ。植物名。
- ゆしぐとう^ㄐ [juʃigutu] [名] 忠言。訓話。
- ゆしるん^ㄐ [juʃirun] [動] 寄せる。移動する。[否] ゆすぬ
- ゆす^ㄐ [jusu] [名] 露。朝露。
- ゆすぱり^ㄐ [jusupari] [名] 寝小便。
- ゆずるん^ㄐ [judzurun] [動] 譲る。[否] ゆずらぬ
- ゆた^ㄐ [juta] [名] 易者。占い師。
- ゆだ^ㄐ [juda] [名] ユウナ。植物名。
- ゆだば^ㄐ [judapa] [名] 枝葉。
- ゆだばり^ㄐ [judabari] [名] 黙っていること。ぐずぐずすること。
- ゆだり^ㄐ [judari] [名] 涎。
- ゆどうあみ^ㄐ [judu.ami] [名] 梅雨。五月雨。
- ゆどうし [juduʃi] [副] 夜通し。一晩中。
- ゆどうむん^ㄐ [judumun] [動] 淀む。停滞する。[否] ゆどうまぬ
- ゆなが^ㄐ [junaga] [名] 夜中。真夜中。
- ゆにげー^ㄐ [junige:] [名] 世願い。豊作祈願など神行事。
- ゆぬ [junu] [接頭] 同じ。
- ゆぬぐ^ㄐ [junugu] [名] (小麦の) はったい粉。
- ゆぬしゆく^ㄐ [junuʃuku] [名] 同じ程度。
- ゆぬとうし^ㄐ [junutufi] [名] 同じ年。同年。
- ゆぬむぬ [junumunu] [名] 同じ。同じもの。同じこと。
- ゆぬめー^ㄐ [junume:] [名] 魚の目。足などに出るいぼ。
- ゆねん^ㄐ [junen] [名] 夕方。夕暮れ。
- ゆのー^ㄐ [juno:] [名] 与那国。与那国島。八重山諸島の島の名。最も西の方に位置する。

- ゆびくん¹ [jupikun] [動] 茹でる。湯がく。[否]
ゆびかぬ
- ゆびだすん¹ [jubidasun] [動] 吸い出す。[否]
ゆびんだはぬ
- ゆふる¹ [jufuru] [名] 風呂。
- ゆぶん¹ [jubun] [動] 呼ぶ。[否] ゆばぬ
- ゆぶん¹ [jubun] [動] (水気を) 吸う。吸る。
[否] ゆばぬ
- ゆみ¹ [jumi] [名] 嫁。
- ゆむぬ¹ [jumunu] [名] 夕飯。夕食。
- ゆむん¹ [jumun] [動] ① 読む。② 数える。[否]
ゆまぬ
- ゆらし¹ [juraʃi] [名] (選別用の) 箕。
- ゆらすん¹ [jurasun] [動] 揺する。振るう。[否]
ゆらはぬ
- ゆりしき¹ [juriʃiki] [名] 閏月。
- ゆりどうし¹ [juridusi] [名] 閏年。
- ゆりはかるん¹ [jurihakaru] [動] よりかかる。
もたれかかる。[否] ゆりはからぬ
- ゆる¹ [juru] [名] 夜。夜間。
- ゆるあみ¹ [juru.ami] [名] 夜雨。夜間に降る
雨。豊年の印。ゆがふ雨として喜ばれた。
- ゆるさーるん [jurusaru] [動] 許される。
- ゆるさ¹はん [jurusahan] [形] 緩い。
- ゆるし¹ [jurusi] [名] 許し。許可。
- ゆるすん¹ [jurusun] [動] 許す。許可する。[否]
ゆるさぬ
- ゆるみるん¹ [julumiru] [動] 緩める。[否]
ゆるむぬ
- ゆるみん¹ [jurumin] [動] 緩める。[否] ゆる
むぬ
- ゆるん¹ [jurun] [動] ① 寄る。寄って来る。②
寄り合う。集まる。[否] ゆらぬ
- ゆん¹ [jun] [名] 弓。
- ゆんぐとう¹ [jungutu] [名] 古謡の種類。
- ゆんさん¹ [junsan] [名] 巡查。駐在。
- ゆんた¹ [junta] [名] 古謡の種類。
- ゆんたく¹ [juntaku] [名] おしゃべり。雑談。
- ゆんたま [juntama] [名] 小魚。
- ゆんちゅ¹ [juntju] [名] ^{よんちゆ} 与人。王府時代の役
人の位階名。
- よー¹ [jo:] [副] きっと。よくよく。〈よーよ
ー〉は強調。
- よーがりるん¹ [jo:gariru] [動] ① 痩せる。②
くびれる。[否] よーがるぬ
- よーがりん¹ [jo:garin] [動] 痩せる。衰弱す
る。[否] よーがるぬ
- よーに¹ [jo:ni] [副] 容易に。
- よーば¹ [jo:ba] [名] 弱虫。虚弱。
- よー¹はん [jo:han] [形] 弱い。
- よーみるん¹ [jo:mirun] [動] 弱める。[否] よ
ーむぬ
- よーらさー¹ [jo:rasa:] [名] ゴイサギ。鳥の名。
- よーるん¹ [jo:run] [動] 弱る。弱くなる。衰
弱する。[否] よーらぬ
- よい¹ [joi] [名] 祝い。祝典。
- よいぬ むぬ [joinu munu] [句] 祝いの引き出
物。
- よがーしみるん [joga:ʃimirun] [動] 休ませる。
- よがすん¹ [jogasun] [動] 休む。休憩する。休
息する。「寝る」の尊敬語。[否] よがはぬ
- よみしゃ¹はん [jomisahan] [形] 神聖だ。聖
なる。御嶽や拝所などの場所など。[備] 宮
古の jagumi- 「畏れ多い」と同源。
- よんなよんな [jonnajonna] [擬] ゆっくり。ゆ
らりと。「ゆっくり」の強調。
- ら [ra] [接尾] ～匹。魚などを数える助数詞。
〈ぴとーら〉「一匹」。
- らく¹ [raku] [名] 楽。
- らく¹ すん¹ [raku sun] [句] 楽をする。
- り [ri] [接尾] ～ろ。命令接辞。〈みり〉「見
ろ」、〈ぱり〉「走れ」など。
- りーぎ¹ [ri:gi] [名] 礼儀。「礼儀」の転訛。
- りくち¹ [rikuti] [名] 理屈。[備] 理屈の転

- 訛。
- りくちいむち¹ [rikutʃimutʃi] [名] 悪知恵の者。
- るがい¹ [rugai] [名] ^{りゅうぜつらん}竜舌蘭。植物名。
- るくず¹ [rukudzu] [名] 六十。
- わー¹ [wa:] [名] 御嶽。拝所。
- わーわー [wa:wa:] [擬] わあわあ。大声で泣くさま。
- わざ¹ [wadza] [名] ① 技。技術。② 業。行為。
- わしき¹ [waʃiki] [名] 天気。天候。
- わしく¹ [waʃiku] [名] 悪さ。悪戯。妨害。
- わっか¹ んぐん¹ [wakka ŋun] [句] 追いかける。
- わっか¹ んだすん¹ [wakka ndasun] [句] 追出す。
- わっきらいるん¹ [wakkirairun] [動] 追われる。
- わっきるん¹ [wakkirun] [動] 追う。追い払う。
[否] わっくぬ
- わっきん¹ [wakkin] [動] 追う。追い払う。[否]
わっくぬ
- わっさはん¹ [wassahan] [形] 悪い。
- わりあていん¹ [wari.atin] [動] 割り当てる。振り当てる。[否] わりあとうぬ
- んーむん¹ [NNMUN] [動] 績む。[否] うーまぬ
- んーんー [NN.NN] [感] ううんううん。うなる声の形容。
- んぎちげーるん¹ [ŋgitʃige:run] [動] 行き違う。すれ違う。[否] んぎちげーらぬ
- んくむん¹ [ŋkumun] [動] 力む。いきむ。[否]
んくまぬ
- んぐん¹ [ŋgun] [動] ① 行く。去る。② 参る。
- ③ 時が経つ。[否] んがぬ
- んげーるん¹ [ŋge:run] [動] 召し上がる。「食べる」の尊敬語。[否] んげーらぬ
- ん¹ごー¹び [ŋgo:bi] [副] たくさん。一杯。
- んさはん¹ [nsahan] [形] 重い。重たい。
- んじたつん¹ [ndʒitʃʌsun] [動] 出で立つ。出発する。[否] んじたため
- んじふち¹ [ndʒifutʃi] [名] 出口。
- んじふに¹ [ndʒifuni] [名] 出船。
- んじん¹ [ndʒin] [動] 出る。出席する。[否]
んどうぬ
- んた¹ [nta] [名] 土。粘土。
- んだ [nda] [接尾] ~^{たち}達。複数の人を示す接尾語。〈いやんだ〉「父親たち」など。
- んだすん¹ [ndasun] [動] 出す。差し出す。[否]
んだはぬ
- んたちるん¹ [ntatʃirun] [動] (全部) ^{こぼ}零す。
- んちん¹ [ntʃin] [動] 満ちる。一杯になる。[否]
んつぬ
- んつあすん¹ [ntsasun] [動] 満たす。[否] んつあはぬ
- んな¹ [nna] [名] 空っぽ。
- んなあわり¹ [nna.awari] [名] 無駄骨。徒勞。
- んなすー¹ [nnassu] [名] 中味のない汁物。
- んなふち¹ [nnafutʃi] [名] 無駄口。
- んなん [nnan] [名] 遺言。
- んば [mba] [感] ^{いや}嫌。〈あーい〉より否定の程度が強い。
- んぶすん¹ [mbusun] [動] 煮しめる。味付けをして煮る。[否] んぶさぬ
- んま¹ [mma] [名] ^{うま}午。十二支の午。
- んまん¹ [mman] [名] 馬。

6 共通語引き

- ああ【嗚呼】あー
 ああとうとし【ああ尊し】うーとーとう
 あい【藍】あいⅴ
 あいご【アイゴ】えぬふあⅴ
 あいさつ【挨拶】あいさちⅴ、すさりぶちⅴ
 あいず【合図】あいずⅴ
 あいぞめ【藍染】あいぞみ
 あいだ【間】ふたびしⅴ
 【あいつら】うしたまⅴ
 あいて【相手】あいていⅴ
 あいぼう【相棒】ぐーⅴ
 【あいま】あいまⅴ
 あいま【合間】ふたびしⅴ
 あいらしい【愛らしい】かなⅴさーん
 あえもの【和え物】まんず
 あえる【会える】あいるんⅴ
 あえる【和える】あいるんⅴ
 あえる【逢える】あいるんⅴ
 あおあおと【青々と】おー¹し
 あおがんび【青雁皮】ふがじⅴ
 あおぐ【扇ぐ】おんぐんⅴ
 あおくさい【青臭い】おーふつあⅴはーん
 あおくなる【青くなる】おーむんⅴ
 あおだいしょう【青大将】おーじゃなーⅴ
 あおぼと【青鳩】おーぱーとⅴ
 あおばな【青漬】ばなだりⅴ
 あおばむ【青ばむ】おー¹し なるんⅴ、おーむんⅴ
 あおむ【青む】おーむんⅴ
 あおむく【仰向く】あばんぐんⅴ
 あおむけになる【仰向けになる】あばんぐんⅴ
 あか【垢】ふたりⅴ
 あか【塗】あかⅴ
 あかい【赤い】あがⅴはん
 あかいねんど【赤い粘土】あがⅴんたⅴ
 あかいろ【赤色】あかーいる
 あかく【赤く】あ¹かー¹し
 あかくする【赤くする】あがますんⅴ
 あかくなる【赤くなる】あかー すん、あ¹かー¹し なるんⅴ、あがむんⅴ
 あかご【赤子】あがたまⅴ、あがんたまⅴ
 あかす【明かす】〔夜を～〕あがらすんⅴ
 あかだに【赤ダニ】あがだんⅴ
 あかつき【暁】あかしきんⅴ
 あかつち【赤土】あがⅴんたⅴ
 あかてつ【アカテツ】とうのーⅴ
 あがめる【崇める】あがみるんⅴ
 あからむ【赤らむ】あかー すん、あ¹かー¹し なるんⅴ、あがむんⅴ
 あかり【灯り】あがりⅴ、とうりⅴ
 あがる【上がる】あがるんⅴ、ぬぶるんⅴ
 あかるい【明るい】あがりゃん
 あかるくする【明るくする】あがらすんⅴ
 あかるくなる【明るくなる】あがるんⅴ
 あかんぼう【赤ん坊】あがたまⅴ、あがんたまⅴ
 あき【秋】すさんちⅴ
 あきや【空家】あぎひⅴ
 あきやしき【空き屋敷】あぎやしきⅴ
 あきらめる【諦める】うむいきすんⅴ
 あきる【飽きる】あきりるんⅴ、あきりんⅴ
 あきれはてる【呆れ果てる】あきるんⅴ
 あきれる【呆れる】あきるんⅴ
 あく【開く】あぐんⅴ
 あくじ【悪事】やなくとうⅴ
 あくしゅう【悪臭】ふつありかー、やなかーⅴ
 あくてんこう【悪天候】やなわしきⅴ
 あくどう【悪童】やなわらびⅴ
 あくへき【悪癖】やなくしーⅴ
 あくりょうばらいのひとつ【悪霊払いの一つ】いたすきばらⅴ

あけがた【明け方】あぎさり
 あけのみょうじょう【明けの明星】あかしき
 ぶし
 あける【明ける】あがるんⅴ
 あける【空ける】いたちるん
 あける【開ける】〔戸を〜〕あぎるんⅴ、あぎ
 んⅴ
 【あげる】ひるんⅴ
 あげる【上げる】あんぎるんⅴ
 あげる【揚げる】〔油で〜〕あぎるんⅴ
 あご【顎】はこちⅴ
 あこう【アコウ】あごんⅴ
 あさ【朝】すとうむちⅴ
 あさい【浅い】あさⅴはん
 あざける【嘲る】あなどるんⅴ、ばくるんⅴ
 あさせ【浅瀬】〔磯に続く〜〕びしょーⅴ
 あさって【明後日】あすうとうⅴ、あつあす
 とうⅴ
 あさって【近いうち】あつあすとうⅴ
 あさつゆ【朝露】ゆすⅴ
 【あざなう】あんじるんⅴ
 あさなぎ【朝風】あさどまりⅴ
 あざみ【薊】あざんⅴ
 あざみさんご【アザミサンゴ】すぶるいしⅴ
 あざむく【欺く】あぎまーすんⅴ
 あさる【漁る】あさるんⅴ、ふつるんⅴ
 あし【足】ぱんⅴ
 あじ【味】あじⅴ
 あじ【按司】あざまぐⅴ
 あしあと【足跡】ぴょんⅴ
 あしがおそい【足が遅い】ぱんぬ にふつあー
 あしくび【足首】ぱんぬ ふき
 あした【明日】あつあーⅴ
 あしたのあさ【明日の朝】あつあすとうむちⅴ
 あしたのよる【明日の夜】あつあゆⅴ
 あじつけをしてにる【味付けをして煮る】ん
 ぶすんⅴ

あしのこう【足の甲】ぱんぬ こー、ぱんぬ
 ぴいさ、ぴいさⅴ
 あじわう【味わう】あじ すん
 【あす】あつあーⅴ
 あずかる【預かる】あすかるんⅴ
 あずき【小豆】あがまーみⅴ
 あずける【預ける】あしきるんⅴ
 あせ【汗】あしⅴ
 あぜ【畦】あぶしⅴ
 あせくさい【汗臭い】あしⅴふさⅴはーん
 あせばむ【汗ばむ】あし ふきん
 あせみず【汗水】あしみじⅴ
 あせも【汗疹】あしゃぼーⅴ
 あせをかく【汗をかく】あし ふきん
 【あそこ】はー
 【あそこに】はなⅴ
 あそび【遊び】あしびⅴ
 あたえる【与える】とらしみん、ひるんⅴ
 あたたかい【暖かい】のーさⅴはん
 あたたかく【温かく】あ「てー」し
 あたたかくなる【暖かくなる】のーさⅴなる
 んⅴ
 あたたまる【暖まる】のーさⅴなるんⅴ
 あたたまる【温まる】あつあはⅴなるんⅴ、ぬ
 るみゃんⅴ
 あたためる【温める】あつあーすんⅴ、〔食べ
 物を〜〕あつあすんⅴ
 あたま【頭】あまっすくるⅴ、かしらⅴ
 あたまがいたい【頭が痛い】あまっすくるⅴや
 みⅴ
 あたらしい【新しい】みーⅴ
 あたらしいもの【新しい物】みーむんⅴ、めー
 むぬⅴ
 あたる【当たる】あたるんⅴ、〔風に〜〕ふか
 りるんⅴ
 あだん【阿旦】あんだにⅴ
 あだんのきこん【アダンの気根】あんだしいⅴ

【あちら】はー
 【あちらこちら】あまゝくまゝ
 【あちらに】はなゝ
 あつい【暑い】あつあゝはん
 あつい【熱い】あつあゝはん
 あつがりだ【暑がりやだ】あつあむさゝはん
 あつくなる【熱くなる】あつあはゝなるんゝ
 あつまらせる【集まらせる】するいるんゝ
 あつまる【集まる】あすまるんゝ、ゆるんゝ
 あつめる【集める】あしみるんゝ
 あつらえる【誂える】あちらいんゝ
 あてにする【当てにする】あちすんゝ
 あてはめる【当てはめる】ばみるんゝ
 あてもの【当て物】〔頭上運搬の〜〕ししきゝ
 あてる【当てる】あちるんゝ
 あと【後】あとうゝ、しびゝ、しびゃたゝ
 あと【跡】あとうゝ
 あとあと【後々】あとうあとうゝ
 あとさき【後先】あとさきゝ
 あとつぎ【後継ぎ】あとうゝちぎゝ
 あな【穴】みんゝ
 あながあく【穴があく】みんぴきるん
 あなどる【侮る】あなどるんゝ、ばくるんゝ
 あなをあける【穴をあける】ぴくんゝ
 あに【兄】しゃまゝ
 あね【姉】あまゝ
 【あの】うぬゝ
 あによ【あの世】ぐそーゝ
 あばらぼね【肋骨】やたぶにゝ
 あばれもの【暴れ者】やまぐゝ、やまんぐゝ
 あばれる【暴れる】ありるんゝ
 あばれんぼうだ【暴れん坊だ】やまんぐゝさー
 ん
 あびせる【浴びせる】あますん
 あひる【家鴨】あぴらゝ
 あびる【浴びる】あみんゝ
 あぶってかんそうする【焙って乾燥する】〔火
 で〜〕かんがーすんゝ
 あぶない【危ない】ぴこゝはん
 あぶら【油】あばゝ
 あぶらせみ【アブラゼミ】しゃんしゃんゝ
 あぶらっこい【脂っこい】あばずーゝさーん
 あぶらみそ【油味噌】あんだみしゅゝ
 あぶらむし【油虫】かむしゝ
 あぶる【炙る】あぶるんゝ
 あふれる【溢れる】あふらん
 【あほらしい】ほーらきしゝ
 あまい【甘い】あずまゝはん
 あまぐも【雨雲】あまふもんゝ
 あまごいきがん【雨乞い祈願】あみにげーゝ
 あまごいきがんのかめんしん【雨乞い祈願の
 仮面神】ふつあまらゝ
 あます【余す】あまらすんゝ
 【あまつたれ】ふんでーゝ
 あまど【雨戸】やどゝゝ
 あまどい【雨樋】はきじゃーゝ
 あまのがわ【天の川】じんぬゝ ふかーゝ
 あまもり【雨漏り】あまむりゝ
 あまやかす【甘やかす】ふんでーゝ すむん
 あまらす【余らす】あまらすんゝ
 あまり【余り】あまりゝ、おーぼーゝ
 あまる【余る】あまるんゝ、のがるんゝ
 あみ【網】あんゝ
 あみでとる【網で捕る】〔魚を〜〕はからすんゝ
 あむ【編む】あむんゝ、ふむんゝ
 あめ【雨】あみゝ
 あやかる【肖る】あやかーるんゝ、あやかるんゝ
 あやしい【怪しい】あやっゝさーん
 あやまり【誤り】まちげーゝ
 あやまる【誤る】ばっぺーゝ すん
 あら【粗】あらゝ
 あらい【粗い】あらゝはん
 あらい【荒い】〔波、動作、粉末などが〜〕あ
 らゝはん

- あらいことば【荒い言葉】あらゝむに¹
 あらいそ【荒磯】すび¹
 あらう【洗う】あらすん¹
 あらうみ【荒海】あらなん¹
 あらぐすくじま【新城島】ぼなり¹、ぼなりぬ
 すま¹
 あらす【荒らす】あらすん¹
 あらそう【争う】えんだりるん¹、えんだりん¹
 あらそう【戦争する】いふつあー¹ すん¹
 あらだてる【荒立てる】あらだているん¹
 あらためる【改める】あらたみるん¹
 あらなみ【荒波】あらなん¹
 あらわれる【現れる】あらわりるん¹
 あり【蟻】あー¹¹
 【ありがたい】ふくらゝはん、ふこーらゝはん
 【ありがとう】にーはい、ふくらゝはん
 【ありがとうございます】にーはいゆー
 ある【有る】あん¹
 あるく【歩く】あるぐん¹
 【あれ】うり¹
 あれる【荒れる】ありるん¹、〔波が～〕ぶり
 るん¹
 あわ【泡】あすぺー¹
 あわ【粟】あん¹
 あわせる【合わせる】あーしみるん¹
 あわせる【合わせる】あーすん¹
 あわてさせる【慌てさせる】さわがすん¹
 あわてふためく【慌てふためく】あばちかん
 ち¹ すん¹
 あわてる【慌てる】あばちるん¹
 あわれだ【哀れだ】すむやむーん
 あん【餡】あん¹、ばた¹
 あんかだ【安価だ】やっさ¹はん
 あんこ【餡子】あん¹、ばた¹
 あんしょう【暗礁】じり¹
 あんしん【安心】「うなー¹ぐ、とうくっとう¹
 あんしんした【安心する】やぶす なるん
- あんしんする【安心する】「うなー¹ぐ なるん¹
 、やすんじるん¹
 あんつく【アンツク】めった
 あんど【安堵】「うなー¹ぐ、とうくっとう¹
 あんどした【安堵する】やぶす なるん
 あんどする【安堵する】「うなー¹ぐ なるん¹
 あんないする【案内する】しけーすん¹
 【あんまりだ】どう¹ぐ¹どうぐ
 あんもち【餡餅】あんむち¹
 い【亥】びー¹
 い【胃】ぶーばた¹
 いいあわせる【言い合わせる】そんだん¹ す
 ん¹
 【いいえ】あーい
 いいなおす【言いなおす】いーのーすん¹
 いいはる【言い張る】やっぱり¹
 いいまかす【言い負かす】いーまかすん¹
 いいわけ【言い訳】いーばぎ¹
 いう【言う】えぬん¹
 いえ【家】ひー¹
 いえづくり【家造り】ひすくり¹
 いえのしゅうかん【家の習慣】やーなれー
 いえのらくせいいわい【家の落成祝い】ひす
 くりよい¹
 いえもと【家元】やーむとら¹
 いかす【生かす】いがすん¹
 いかなる【如何なる】ねーしゃるん
 いかり【怒り】くんぞー¹
 いき【息】いし¹
 いきおいづく【勢いづく】ばざーるん¹
 いきおいよくあふれる【勢いよく溢れる】ふ
 きんじるん¹
 いきおいよくうつすさま【勢いよく移すさま】
 〔液体や小粒の物を～〕いたちり¹
 いきかえる【生き返る】ぬちいむやん
 いきがはずむ【息がはずむ】あふくん¹
 いきぎれになる【息切れになる】あふくん¹

いきちがう【行き違う】んぎちげーるんⅴ
 いきている【生きている】いぎだる
 【いきむ】んくむんⅴ
 いきもの【生き物】いすむしⅴ
 いきりょう【生霊】いきろーⅴ
 いきる【生きる】いぎるんⅴ、いぎんⅴ
 いく～【幾～】うー
 いく【行く】ぱるんⅴ、んぐんⅴ
 【いくたり】うたーりⅴ
 いくつ【幾つ】うーちいⅴ、うーびⅴ
 いくら【幾ら】うーびⅴ
 いける【生ける】〔花などを～〕いぎるんⅴ
 いざってすすむ【いざって進む】しきつつあ
 ーるん
 いさり【漁り】いざりⅴ
 【いざる】しきつつあーすんⅴ
 いし【石】いしⅴ
 いじ【意地】いじいⅴ
 いしうす【石臼】いしうしⅴ
 いしがき【石垣】いしまーしⅴ、ふくⅴ
 いしがきし【石垣市】しかⅴ
 いしがきじま【石垣島】いさすうまⅴ
 いしき【意識】そーⅴ
 いじめる【虐める】いじみるんⅴ
 いしもり【石盛】むりⅴ
 いしゃ【医者】いしゃんⅴ
 いしょう【衣装】いしょーⅴ
 いしょくする【移植する】やとーすんⅴ
 いじる【弄る】だーぶんⅴ
 いじをはる【意地を張る】こっぱるんⅴ
 いずみ【泉】ばぎみじⅴ、ぱりみじいⅴ
 いぜん【以前】めーⅴ
 いそ【磯】すびⅴ
 いそいで【急いで】ペーしゃなⅴ
 いそがしい【忙しい】ぱんたっさⅴはん
 いそがせる【急がせる】あーらすんⅴ、いすが
 すんⅴ

いそぐ【急ぐ】あばちるんⅴ、いすぐんⅴ
 いそべ【磯辺】「ばま」ふちい
 いた【板】いたⅴ
 いたい【痛い】あがー
 いたくてかゆいかんじがする【痛くて痒い感
 じがする】〔稲、麦などの芒が皮膚をつきさ
 すような～〕ばすうこーⅴはん
 いたずら【悪戯】がんまりⅴ、わしくⅴ
 いたずらずきだ【悪戯好きだ】やまんぐⅴさー
 ん
 いたずらっこ【悪戯っ子】やなわらびⅴ
 いたずらっぽい【悪戯っぽい】がまⅴさーん、
 がんまり シャーん
 いたずらっぽいもの【悪戯っぽい者】やまぐⅴ
 、やまんぐ
 【いたずらに】あだりⅴ
 いただき【頂】ちじⅴ
 いただきもの【頂き物】「たぼらり」むぬ
 いただく【頂く】たぼらいるんⅴ、たぼるんⅴ
 【いたっ】あがー
 いたむ【傷む】〔肉類が～〕さがるんⅴ
 いたむ【痛む】やむんⅴ
 いためる【痛める】やますんⅴ
 いたゆか【板床】ふんたⅴ
 いちごうます【一合枱】なもりⅴ
 いちぞく【一族】いちむんⅴ
 いちだいじ【一大事】うーぐとう
 いちど【一度】ぴいとうむしⅴ
 いちにち【一日】ぴてんⅴ
 いちにちじゅう【一日中】ぴてんぴじゅ
 いちばん【一番】いすばんⅴ
 いちばんきょうげん【一番狂言】いすばんこ
 んぎⅴ
 いちもくさんに【一目散に】びよすた、みっ
 ふあⅴん
 いちもん【一門】いちむんⅴ
 いつ【何時】いちいⅴ

いかい【一回】ぴいとうむし¹
 いっしゅうき【一周忌】なんが¹
 いっしょ【一緒】まーじい¹
 いっしょうけんめい【一生懸命】いざんだ¹
 いっしょうます【一升枰】しゃー¹
 いっしょに行く【一緒に行く】そーり¹ んぐ
 ん¹
 いっしょにくる【一緒に来る】そーり¹ くん¹
 いっしょにする【一緒にする】まんざーすん
 いつつ【五つ】いっし¹
 いてきかせる【言って聞かせる】えにすか
 すん¹
 【いっとき】あ¹たー¹すま
 いっぱい【一杯】まんしん¹、まんどん¹、ん¹
 ごー¹び
 いっぱいになる【一杯になる】んちん¹
 いっぴん【一品】ぴいとうすな¹
 いっぼう【一方】ぴいとうかた¹
 いつも【何時も】い¹ちい¹ん、しゃー¹、めー¹
 が¹めー¹にち
 【いつわり】ゆくしむに¹
 いでたつ【出で立つ】んじたつん¹
 いと【糸】いと¹
 いど【井戸】けー¹
 いどうする【移動する】うがすん¹、ゆしるん¹
 いとこ【従兄弟】いちふ¹
 いどころ【居所】ぶーど¹り¹
 いどむ【挑む】しかきるん¹
 いなくなる【居なくなる】のーなさん
 いなづま【稲妻】ぶちり¹
 いなびかり【稲光】ぶちり¹
 いなむら【稲むら】しら¹
 いぬ【戌】いぬ、いん¹
 いぬ【犬】いぬ、いん¹
 いぬまき【イヌマキ】きゃんぎ¹
 いね【稲】いに¹
 いねかり【稲刈り】めーかり¹
 いねむり【居眠り】にんぶり¹
 いのしし【猪】むざ¹
 いのち【命】ぬちい¹
 いのちづよい【命強い】ぬちいずー¹さーん
 いのちのおんじん【命の恩人】ぬちいぬうや¹
 いのり【祈り】うやっすり¹
 いのる【祈る】にげー¹しきるん¹、にんじる
 ん¹
 いはい【位牌】いべー¹
 いばる【威張る】いばりすくん¹、いばるん¹、
 がーりすきん¹、たかぶるん¹、ほーらし
 いびき【鼾】ばな¹ふき¹
 【いびる】はき¹まんじるん¹
 いぶくろ【胃袋】ぶーばた¹
 いま【今】なま¹、まな¹
 いまごろ【今頃】まなばら¹
 いましめる【戒める】いましみるん¹、いまし
 みるん¹、すかり¹すくん¹
 いますぐ【今すぐ】ふたぎな¹、まなまな
 いまのよ【今の世】まなぬ¹ ゆー¹
 いむ【忌】いみ¹
 いもうと【妹】うと¹うーと¹
 いや【嫌】あーい、んば
 いやだ【嫌だ】ふつくれー
 【いらっしゃる】おーるん¹
 いろおもて【西表】いろむち¹
 いろおもてじま【西表島】いろむち¹
 いろぐち【入口】ぺりふちい¹
 いろひ【入日】いろしな¹
 いろびたる【入り浸る】いろびたるん¹
 いろむこ【入り婿】いろ¹むぐ¹
 いる【射る】いるん¹
 いる【居る】ぶん¹
 いる【煎る】いろぐん¹
 いる【要る】いるん¹
 いるいいれ【衣類入れ】なーばぐ¹
 入れかえする【入れ換えする】いろかい¹ す

- んⅴ
 いれかえる【入れ換える】いりかいⅴ すんⅴ、
 いりかいるんⅴ
 いれかわる【入れ代わる】いりかーるんⅴ
 いれもの【入れ物】いりむんⅴ
 いれもののいっしゅ【入れ物の一種】めった
 いれる【入れる】いりんⅴ
 いろ【色】いるⅴ
 いろあせる【色褪せる】ぱぎるんⅴ
 いろがあせる【色があせる】すさむんⅴ
 いろがしろい【色が白い】いるすそーⅴはん
 いろきちがい【色気違い】しきべー
 いろり【囲炉裏】すかⅴ
 いわい【祝い】よいⅴ
 いわいのひきでもの【祝いの引き出物】よい
 む むぬ
 いわがんぺき【岩岸壁】すばにⅴ
 いわれ【謂れ】いわりⅴ
 いん【印】いんⅴ、ぱんⅴ
 いんかん【印鑑】いんⅴ、ぱんⅴ
 いんけい【陰茎】〔幼児語〜〕こっち、まらⅴ
 いんしゅう【因習】やななれーⅴ
 いんしょくしつくす【飲食し尽くす】〔飲食物
 を残らず〜〕たいらぎるんⅴ
 う【卯】うーⅴ
 ういきょう【ウイキョウ】に「じ」きょー
 【ううんううん】んーんー
 うえ【上】ういⅴ
 うえからかける【上からかける】かふちるんⅴ
 うえへ【上へ】ういがⅴ
 うえる【植える】いびるんⅴ
 うえる【飢える】かちりるんⅴ、かちりんⅴ
 うおのめ【魚の目】ゆぬめーⅴ
 うかせる【浮かせる】おーぎるんⅴ
 うかぶ【浮かぶ】おーがーるんⅴ、おーがるんⅴ
 うかべる【浮かべる】おーぎるんⅴ
 うかれる【浮かれる】おーがーるんⅴ
- うけおう【請け負う】うきるんⅴ
 うけとる【受け取る】うきとるんⅴ
 うけもつ【受け持つ】うきむつんⅴ
 うける【受ける】うきるんⅴ
 うける【浮ける】おーぎるんⅴ
 うごかす【動かす】うがすんⅴ
 うごく【動く】うぐんⅴ
 うし【丑】うしⅴ
 うし【牛】うしⅴ
 うじ【蛆】うじⅴ
 うじこ【氏子】〔御嶽の〜〕「ばなぬ」ふあー
 うしなう【失う】うすなすんⅴ、ねーなⅴさんⅴ
 うしゅがなし【御主加那志】うしゅがなしⅴ
 うしろ【後ろ】しなたⅴ、しびⅴ、しびゃたⅴ
 うす【白】うしⅴ
 うすあじだ【薄味だ】あふあⅴさん
 うすぐらい【薄暗い】あやっふあⅴさーん
 うすぐらくなる【薄暗くなる】ふあどうまる
 んⅴ
 うずたかく【うず高く】た「が」たかし
 うずまる【埋まる】うずまるんⅴ
 うすめ【薄い】ぴいさⅴはん
 うすめだ【薄めだ】ぴいさⅴはん
 うすめる【薄める】〔水などで〜〕ばーすんⅴ、
 ばいるんⅴ
 うずめる【埋める】うずみるんⅴ
 うずら【ウズラ】うずらⅴ
 【うそ】ゆくしむにⅴ
 うそ【嘘】ぷりむにⅴ
 うそだ【嘘だ】がーん
 うそなき【うそ泣き】なぎまーべⅴ
 うた【歌】うたⅴ
 うたがう【疑う】うたげーるんⅴ、うたごーんⅴ
 うたがわしい【疑わしい】あやっⅴさーん
 うたき【御嶽】わーⅴ
 うたきのさいしにさんかするむらびと【御嶽
 の祭祀に参加する村人】やまにんじゅⅴ

うたさんしん【歌三線】うたさんしんⅴ
 うち【内】うちⅴ
 うちがわ【内側】うちⅴ
 うちくたく【打ち砕く】くだくん
 うちこむあめ【打ち込む雨】〔室内に〜〕うち
 あみⅴ
 うちつける【打ち付ける】うつつあーすんⅴ
 うちとける【打ち解ける】すむびらすんⅴ
 うちまかす【打ち負かす】うちまかすん
 うちみ【打ち身】うったち
 うちわ【団扇】おんⅴ、おんぎⅴ
 うちわすれる【うち忘れる】うちばっさん
 うつ【打つ】うつんⅴ、くらすんⅴ、たたぐんⅴ
 うつ【撃つ】いるんⅴ
 【うっかり】うかっと
 【うっかりする】うかっと すんⅴ
 うつくしい【美しい】〔容姿が〜〕あばりし
 ьяⅴはん、けしゃⅴはん
 うつす【写す】うつすんⅴ
 うつす【移す】〔牛馬を〜〕むすなすんⅴ
 うったえる【訴える】うったいんⅴ
 うつむく【俯く】うすふくんⅴ
 【うつる】〔病気が〜〕うつるんⅴ
 うつる【映る】うつるんⅴ
 うつる【移る】うつるんⅴ
 うで【腕】うじⅴ
 うてん【雨天】あまおしきⅴ
 うなぎ【ウナギ】うなんⅴ
 うなりがみ【姉妹神】ぶなりかんⅴ
 うなる【唸る】たけーるんⅴ
 うに【海栗】うんⅴ、かちⅴ
 うぬぼれる【自惚れる】ほーらし
 うね【畝】ばかⅴ
 うばいとる【奪い取る】ばがいとるんⅴ、ば
 がへ とるんⅴ
 うぼう【奪う】とるんⅴ、ばがすんⅴ
 うほう【右方】ねーりⅴ

うま【午】んまⅴ
 うま【馬】んまんⅴ
 うまい【上手い】ぞーじⅴ
 うまい【旨い】まーⅴはん
 うまくない【旨くない】にしゅⅴはん
 【うまくまとまる】とうとうのーんⅴ
 うまれ【生まれ】まりⅴ
 うまれじま【生まれ島】まりじまⅴ
 うまれどし【生まれ年】まりどーしいⅴ
 うまれる【生まれる】まりるんⅴ
 うみ【海】いなーⅴ、いながⅴ
 うみどり【海鳥】「いんⅴどーり
 うみべ【海辺】「いなんⅴぱた
 うみへのおりぐち【海への降り口】うだちⅴ
 うむ【産む】なすんⅴ
 うむ【績む】んーむんⅴ
 うむ【膿む】みゃん
 うめあわせる【埋め合わせる】たらーすんⅴ
 うもれる【埋もれる】うずまるんⅴ
 うやまう【敬う】あがみるんⅴ、うやまいるんⅴ
 、うやめーるんⅴ
 【うようよ】うじゃうじゃ
 うらがえす【裏返す】うらがいすんⅴ、うらげ
 ーすんⅴ
 うらさびしい【うら寂しい】すとーるⅴさーん
 うらないし【占い師】さんぎんそーⅴ、ゆたⅴ
 うらむ【恨む】にたむんⅴ
 うらやましい【羨ましい】べーちゃー
 うる【売る】かしまるんⅴ
 うるうづき【閏月】ゆりしきⅴ
 うるうどし【閏年】ゆりどーしいⅴ
 うるおい【潤い】うりーⅴ
 うるちまい【うるち米】むすめーⅴ
 うれしい【嬉しい】さにしゅⅴはん
 うれしがる【嬉しがる】さにしゅー すん
 うれる【熟れる】みゃんⅴ
 うろこ【鱗】いりぎⅴ

【うろたえる】ざまどうるん、どまんぐるん、
 うわきおんな【浮気女】さんごな一
 うわさ【噂】さた一
 うわやく【上役】ういぬ、ぴいと一
 うん【運】うん、ふん一
 うんがない【運がない】うんぬ、ねーぬ、
 え【絵】え一
 えいようをつける【栄養をつける】くんき し
 きるん
 えきしゃ【易者】さんぎんそ一、ゆた一
 えきびょうよけのぎょうじ【疫病除けの行事】
 しまふさら一
 えさ【餌】むんだに一
 えだは【枝葉】ゆだば一
 えび【海老】いび一
 【えびずる】かなぶ一
 えもの【獲物】ていがら一
 えものがおおい【獲物が多い】だーさ、はん、
 まだ、はん
 えらいひと【偉い人】たかぴいと一、ぶーび
 一と一
 えらぶ【選ぶ】いらぶん一
 えんきする【延期する】ぬばすん一
 えんさい【エンサイ】うんつえ一
 えんぼう【遠方】とっけ一
 えんぼうだ【遠方だ】とっさ、はん
 お【尾】ぶすぶ一
 おあがりになる【お上がりになる】おーし お
 ーるん
 おい【甥】ぶい、ぶいふあ一
 おい【老い】うい一
 おいかける【追いかける】わっか、んぐん、
 おいこす【追い越す】ういぬぐん、
 おいこむ【追い込む】ういくむん一
 おいしい【美味しい】ま一、はん
 おいしげる【生い茂る】かぶん、むい、かぶ
 ーん一
 おいだす【追い出す】ういんだすん、わっか、
 ーんだすん一
 おいたてる【追い立てる】ういまーすん、だ
 ーふつるん、
 おいちらす【追い散らす】ういわっきるん、
 ーだふつり、わっकिन一
 おいつく【追いつく】ういすくん、
 おいておく【置いておく】すくん一
 おいぬく【追い抜く】ういぬぐん、
 おいはらう【追い払う】わっきるん、わっき
 ーん、
 おいぼれる【老いぼれる】ういぶり一
 おいまわす【追い回す】ういまーすん、
 おいめ【負い目】うか一
 おいる【老いる】ういるん一
 おいること【老いること】うい一
 おう【追う】わっきるん、わっकिन一
 おうぎ【扇】おん、おんぎ一
 おうし【雄牛】〔大きな～〕ぐつえー、びー
 ーうしい、
 おうちやくなもの【横着な者】なまふつあり
 むぬ、やまぐ、やまんぐ
 おうべいじん【欧米人】うらんだ一
 おえる【終える】しー うすくまん、すますん、
 ーとっじみるん、
 おお【大】ぶ一
 おおあわてする【大慌てする】あばちかんち
 ーすん、
 おおい【多い】ぶさ、はん
 おおう【覆う】うすん、かふちるん一
 おおかぜ【大風】ぶーかち一
 おおがたのえい【大型エイ】かまんた一
 おおがたのかつお【大型のカツオ】だいばん、
 おおかわ【大川】ふーが一
 おおきい【大きい】ぶ一、ぶさ、はん、ま一、ぎ
 おおきくなる【大きくなる】ぶさは、なるん、
 おおきなうねり【大ききなうねり】むさん、

おおきなかなてこ【大きな金槌子】しんがら1
 おおきなは【大きな葉】かなば1
 おおきなひと【大きな人】ぶーぴいと
 おおくする【多くする】ぶーさ1 なすん1
 おおくなる【多くなる】ぶーさ1 なるん1
 おおごえ【大声】まーぎ1くい1
 おおざけのみ【大酒飲み】さきじょーぐ1
 おおざっぱに【大雑把に】「ざっ」と
 おおざら【大皿】ぶーさら
 おおしお【大潮】ぶーすー1
 おおたにわたり【オオタニワタリ】ふつがら1
 おおなみ【大波】ぶーなん1、むさん1
 おおばかも【大馬鹿者】まーぷりむん1
 おおはま【大浜】ぼーま1
 おおみそかのよる【大晦日の夜】とうしいぬ1
 ゆーん、とうしいぬ1 ゆる1
 おおむかし【大昔】かーま1むがし1
 おおもうけ【大儲け】あらもーぎ1
 おおわらい【大笑い】ぷりばーり1
 おか【丘】むり1
 【おかしい】いふなー1
 おかしい【可らしい】ばーしゃ1はん
 【おかず】かちむん1
 おかね【お金】じん1
 おかねいれ【お金入れ】じんふくる1
 おかねをためる【金を貯める】じん1たみるん1
 おがみ【拝み】うがみ1
 おがむ【拝む】うがむん1、こーみ1
 おがむこと【拝むこと】うがみ1
 おかよい【陸酔い】じふねー1
 おがわら【雄瓦】びーがーら1
 おき【沖】とー1
 おぎなう【補う】たらすん1
 おきなわ【沖繩】うすな1
 おきなわほんとう【沖繩本島】うすな1
 おきゃく【お客】しん1
 おきゅう【お灸】やち1
 おきる【起きる】うぎるん、うぎん1
 おく【奥】うく1、すく1
 おく【置く】うすくん1、すくん1
 おくのほう【奥の方】うく1
 おくびょうだ【臆病だ】いじい ねーぬ、いじ
 いぬ1 ねーぬん、うくびょー1さーん
 おくらせる【遅らせる】うくらすん1
 おくる【送る】うぐるん1
 おくれる【遅れる】うくりん1、にふつあ1はん
 おけ【桶】たんぐ1
 おこう【お香】こー1
 【おこげ】なびしき1
 おこす【熾す】〔火を〜〕てしきるん1
 おこす【起こす】うがすん1
 おこたる【怠る】うくたるん1
 おこりんぼ【怒りんぼ】くんぞーむぬ
 おこる【怒る】おこるん1
 おこる【起こる】おこるん1
 おこること【怒ること】くんぞー1
 【おこわ】かしき1
 おさえこむ【押さえ込む】うししきん1
 おさえる【押さえる】うすん1
 おさけ【お酒】ぐしん1
 おさないこ【幼い子】いしゃがーたま1
 おさまる【治まる】うさまるん1
 おさめる【治める】うさみるん1
 おさめる【納める】うさみるん1
 おじ【伯父】ぶざま1
 おじ【叔父】ぶざま1
 おしあげる【押し上げる】うしあんぎるん1
 おしい【惜しい】あがやー、あたら1さん
 【おじいさん】うしとうぶや、ぶや1
 おしいれ【押し入れ】うちくる1
 おしえる【教える】いましみるん1、いましみ
 ん1、ならすん1
 おじおぼのまご【叔父叔母の孫】「いちふ」ぶ
 い

おしかえす【押し返す】うしかいすんⅴ
 おじき【お辞儀】こーみⅴ
 おじぎする【お辞儀する】こむんⅴ
 おじけづく【怖気づく】たんきるんⅴ
 おしこむ【押し込む】うしくむんⅴ
 おしこめる【押し込める】うしくみるんⅴ
 おしころがす【押し転がす】うしくるばすんⅴ
 おしころばす【押し転ばす】うしくるばすんⅴ
 おしたおす【押し倒す】うしとーすん
 おしだまる【押し黙る】とぅなばるんⅴ
 おしつける【押し付ける】うししきるんⅴ
 おしつぶす【押しつぶす】びらがすんⅴ
 おしてひらたくする【押して平たくする】び
 らがすんⅴ
 おしはかる【押し量る】ばがるんⅴ
 おしもどす【押し戻す】うしむどぅすんⅴ
 【おじや】ずーしⅴ
 【おしゃべり】むぬばなしⅴ、ゆんたくⅴ
 【おしゃれた】はいからⅴさーん
 おしよせる【押し寄せる】うしゆしるん
 おす【押す】うすんⅴ
 おぜん【お膳】じんⅴ
 おそい【遅い】にふつあⅴはん
 おそなえする【お供えする】しきるんⅴ
 おそろしい【恐ろしい】うすまさん、うとぅ
 るさⅴはん、ごーⅴはん、ぬぐりしゃⅴはん
 おだく【汚濁になる】やなごるんⅴ
 【おたふくかぜ】とーしんべーⅴ
 おたま【お玉】すーペーⅴ
 おたまじゃくし【オタマジャクシ】たらぐⅴ
 おだやかになる【穏やかになる】なだらぐんⅴ
 おちつきがない【落ち着かない】すむあーり
 おちつく【落ち付く】うちすくんⅴ
 おちぶれる【落ちぶれる】さぼーりんⅴ
 おちゃうけ【お茶うけ】さうきⅴ
 おちる【落ちる】うちんⅴ
 おっかけていく【追っかけていく】ういんぐ
 ⅴんⅴ
 【おっかぶせる】すかふちるんⅴ
 おっこちる【落っこちる】すかうちるんⅴ
 おっと【夫】ぶとぅⅴ
 おっばらう【追っ払う】ういばろーんⅴ
 【おつゆ】すーⅴ
 おてんば【お転婆】ぱたらしやみどぅむ、ぴ
 ゃんがⅴ
 おてんばむすめ【お転婆娘】ぴゃんがⅴ
 おと【音】うとーⅴ
 おとうと【弟】うとぅーとぅⅴ
 【おどける】ぴらすんⅴ
 おとこ【男】びどぅむⅴ
 おとこのきょうだい【男の兄弟】びぎりⅴ
 おとこのこのあいしょう【男の兄の愛称】こ
 ー「に」ー
 おとこのさいこん【男の再婚】またそーりⅴ
 おとさた【音沙汰】うとぅさたⅴ
 おとす【落とす】うたすんⅴ
 おどす【脅す】うどぅがすんⅴ
 おととい【一昨日】ぶとぅちⅴ
 おととし【一昨年】みちなりん
 おとなしい【大人しい】うとぅなさⅴはん
 おどり【踊り】ぶどぅりⅴ、ぶんどぅり
 おとる【劣る】うとぅるんⅴ、ぴなⅴはん
 おどる【踊る】ぶどぅるんⅴ、ぶんどぅるんⅴ
 おとろえる【衰える】うとぅるいるんⅴ、〔植
 物の勢いが～〕だーりるんⅴ
 おどろき【驚き】うどぅるぎⅴ
 おどろく【驚く】うどぅるぐんⅴ
 おなかをこわしやすい【お腹をこわしやすい】
 ばたⅴよーⅴさーん
 おなじ【同じ】ゆぬ、ゆぬむぬ
 おなじこと【同じこと】ゆぬむぬ
 おなじていど【同じ程度】ゆぬしゅくⅴ
 おなじとし【同じ年】ゆぬとぅしⅴ
 おなじもの【同じもの】ゆぬむぬ

おに【鬼】うん1
 おにおこぜ【オニオコゼ】いしゃばV
 おの【斧】ぶぬ1
 おば【伯母】ぶば1
 おば【叔母】ぶば1
 【おばあさん】ばー1
 おばさんたち【おばさん達】ぼんだー1
 おはつ【お初】ぱちV
 おび【帯】すくびV
 おぼえ【覚え】うぶい1
 おぼえる【覚える】うぶいるん1、うぶいん
 おぼれる【溺れる】うぶりるんV
 おぼん【お盆】そーりん1
 おぼんのさいしゅうび【お盆の最終日】うぐ
 るびんV
 おまえ【お前】だーV
 おまえは【お前は】だんぎー1
 おまえら【お前ら】だいまV
 おみき【お神酒】ぐしん1
 おみやげ【お土産】すうとう1
 おむかえする【お迎えする】しけーすんV
 おもい【重い】んさ1はん
 おもいあたる【思い当たる】ぼがるん1
 おもいきる【思い切る】うむいきすん1、むい
 きし1
 おもいこがれる【思い焦がれる】うむいくが
 りん1
 おもいこむ【思い込む】うむいくむん1、むい
 くみ1
 おもいだす【思い出す】うむいんだすん1、む
 んじる1
 おもいたつ【思い立つ】うむいたつん1
 おもいつく【思い付く】うむいつくんV
 おもいつめる【思い詰める】うむいつみるん1
 、うむいつみん1
 おもいなおす【思い直す】うむい1のーすん1
 おもいのこす【思い残す】うむい1ぬぐすん1
 おもいやり【思いやり】なさき1
 おもう【思う】かんげーるん1、むん1
 おもしろい【面白い】むっさ1はん
 おもたい【重たい】んさ1はん
 おもちゃ【玩具】だーびむぬ1
 おもとだけ【於茂登岳】むとうだぎV
 おもや【母屋】ぶー1ひー1
 【おや】あい
 おや【親】うや1
 おやかた【親方】うやかた1
 おやこ【親子】「うや」ふあ
 おやすみになる【お休みになる】ゆごー1 す
 んV
 おやゆび【親指】ぶーび1
 およぐ【泳ぐ】うい1
 およぶ【及ぶ】ういぶんV、うゆぶんV
 おりいど【降り井戸】うりげー1
 おりこうさん【お利口さん】ぼーりぼーり
 おりたたむ【折り畳む】たたむん
 おりもの【織物】ぬぬV
 おる【折る】ぶるん1
 おる【織る】うるんV
 おれ【俺】ばぬ1
 おれやすい【折れやすい】さばVはん
 おれる【折れる】ぶりるん1
 おろす【下ろす】うらすん1
 おろす【降ろす】うらすん1
 おわせる【負わせる】[全責任を～]ばかすんV
 おわり【終わり】おび1
 おわる【終わる】うわるんV、おわるんV、しま
 いるんV、すむん1
 おわれる【追われる】わっきらいるんV
 おん【恩】おん1、ぶん1、ぶんぎ1
 おんぎ【恩義】おん1、ぶん1、ぶんぎ1
 おんぎよく【音曲】うたさんしんV
 おんしん【音信】うとうさたV
 おんな【女】みどうむ1

おんなのこ【女の子】みどぅんたま¹
 おんなのさいこん【女の再婚】またむち¹
 おんなのふんどし【女のふんどし】めつつあ¹
 おんなわらべ【女わらべ】みやらび¹
 【おんぶする】か¹にるん¹
 おんわだ【穏和だ】うとぅなさ¹はん
 おんをかえす【恩を返す】ぶん¹か¹いすん¹
 【おーい】やー
 か【蚊】が¹んざん¹
 が【我】がー¹
 が【蛾】ぱ¹びる¹
 かい【權】いやぐ¹
 かい【貝】みなん¹
 ~かい【~回】むし
 がい【害】がい¹
 かいが【絵画】えー¹
 かいがら【貝殻】みなんぬ¹ くー¹
 かいがんふきん【海岸付近】「いなん¹」ぱた
 かいこんする【開墾する】ありしあぎるん¹
 かいこんはたち【開墾畑地】ありしびてー¹
 がいしゅつ【外出】ふかまー¹り¹
 かいすい【海水】すー¹
 かいすいよく【海水浴】おんだ¹
 がいする【害する】がい¹ すん¹
 かいぜんする【改善する】あらたみるん¹
 かいたいする【解体する】ば¹ずらすん¹
 かいだん【階段】「だん¹」だん
 かいちゅう【回虫】ばたぬ¹ むしい¹
 がいちゅう【害虫】やなむしい¹
 かいてんさせる【回転させる】まーすん¹
 かいてんする【回転する】まーるん¹
 かいふくする【回復する】むちのーるん¹
 かう【買う】こーん¹
 かう【飼う】すかのーすん¹
 かえりみち【帰り道】むどぅりみち¹
 かえる【代える】かれーるん¹
 かえる【変える】かれーるん¹
 かえる【帰る】けーるん¹
 かえる【替える】かれーるん¹
 かえる【蛙】おった¹
 かお【顔】むち¹
 かおく【家屋】ひー¹
 かおり【香り】かー¹
 かおる【薫る】かば¹はん
 かがせる【嗅がせる】かばすん¹
 かかと【踵】あどぅ¹
 かがみ【鏡】か¹んが¹ん¹
 かがむ【屈む】すくまるん¹
 【かかる】〔禁忌に~〕はかるん¹
 かかる【掛かる】はかるん¹
 かかる【罹る】〔病気に~〕はかるん¹
 かき【夏季】なちい¹
 かき【書く】はく¹ん¹
 かきあつめてとる【掻き集めて取る】はかじ¹
 とるん¹
 かきあつめる【掻き集める】はきあしみるん¹
 かきいれる【書き入れる】はき¹い¹りるん¹
 かきおとす【書き落とす】はきもらすん¹
 かきそえる【書き添える】はきたすん¹
 かきたす【書き足す】はきたすん¹
 かきだす【掻き出す】はき¹ん¹だ¹すん¹
 かきちらかす【掻き散らかす】はきぼーるん¹
 かきとどめる【書き留める】はきとぅみるん¹
 かぎのて【鉤の手】かーぎ¹
 かきまぜる【掻き混ぜる】きんつあーらすん¹
 、はき¹まん¹じるん¹
 かきまわす【掻き回す】はきまーすん¹
 かきみだす【掻き乱す】き¹ん¹だ¹るん¹、はき¹
 まん¹じるん¹
 かきもらす【書き漏らす】はきもらすん¹
 かく【描く】はく¹ん¹
 かく【掻く】はく¹ん¹
 かぐ【嗅ぐ】〔匂いを~〕かぶ¹ん¹
 かくげん【格言】むがし¹く¹とぅ¹ば¹

かくじ【各自】な—どう—どう
 かくしご【隠し子】ぐんぼ—
 かくじで【各自で】どうしけな
 がくしゅう【学習】むぬなれ—
 かくす【隠す】かつあみるん¹、はこすん¹
 かくだりする【拡大する】ぴそ—ぎるん
 がくどう【学童】がくたま
 かくにんする【確認する】たしかみるん¹
 がくもん【学問】がくむん¹
 かくれる【隠れる】くまるん¹、はこりん¹
 かけ【賭け】か—き¹
 かげ【影】かぎ¹
 かげ【陰】かぎ¹、け—
 かけがいする【掛け買いする】さがらすん¹
 かけごえ【掛声】やぐい¹
 かげぜん【陰膳】かぎじん¹
 かけまわる【駆け回る】はきま—るん¹
 かけら【欠片】はき¹
 かける【掛ける】はきるん¹
 かける【欠ける】はきるん¹、はきん¹
 かける【駆ける】かしきるん¹、はきしいきる
 ん¹
 かご【籠】かぐ¹
 かこつける【託ける】なしきるん¹
 かこませる【囲ませる】はこますん¹
 かこむ【囲む】はこますん¹、はこむん¹
 かさ【傘】さな¹
 かさ【暈】ぴながん¹
 かさ【笠】かつあ¹
 かざかみへ【風上へ】お—らが¹
 かざぐるま【風車】かざまや—¹
 かざしも【風下】すと—ま¹
 かさなる【重なる】かさばるん¹、かつあなる
 ん¹
 かさねる【重ねる】かさになるん¹、かさびるん¹
 、かつあびるん¹
 かさむ【嵩む】かつあむん¹

かざむき【風向】たむき¹
 かざり【飾り】かつあり¹
 かし【菓子】こ—し¹
 かじ【火事】ぴ—¹
 かじ【舵】かち¹
 かじ【鍛冶】かつえ—¹
 がし【餓死】が—し¹
 かしこい【賢い】そ—いり¹
 がしのとし【餓死の年】がしいどうしい
 かじぼう【舵棒】て—に¹
 かじや【鍛冶屋】かつえ—¹
 かじやまつり【鍛冶屋祭】かつえ—ぶな¹
 かじゅ【果樹】な—りむぬ¹
 がじゅまる【ガジュマル】がざまに¹
 かす【貸す】からすん¹
 かず【数】かじ¹
 かずら【蔓】かちいら¹
 かぜ【風】かち¹
 かせい【加勢】かし—¹
 かぜがつよい【風が強い】かちよ¹はん
 かぜがはやる【風邪が流行る】ばなしきぬ は
 やるん
 かぜまわり【風廻り】かちま—り¹
 かぜよけ【風除け】かたが¹
 かせん【河川】か—ら¹
 かそうぎょうれつ【仮装行列】〔旧盆の～〕み
 ちすね—¹
 かぞえる【数える】かずいるん¹、ゆむん¹
 かぞく【家族】や—にんじゅ¹
 かた【型】かた¹
 かた【肩】かた¹
 かたあし【片足】かたばん¹
 かたい【固い】こ—¹はん
 かたい【硬い】こ—¹はん
 かたいっぱい【片一方】かたぐ¹
 かたおや【片親】かたうや¹
 【がたがた】がたがた

- かたがわ【片側】ぴいとうかた1
 かたく【固く】こーし
 かたくなる【固くなる】こっぼるん1
 かたくなる【硬くなる】かたまるん1、こーる
 ん1、こすぼるん1
 かたぐるま【肩車】かngo1
 かたすみ【片隅】ゆごー1
 かたち【形】かたち1
 かたづけ【片付け】かたすか1
 かたづけてきれいにする【片付けてきれいにする】あざーぎるん1
 かたづける【片付ける】まだぎるん1、まどう
 ぎるん1
 かたつむり【カタツムリ】すたみん1
 かたな【刀】かたな1
 かたぶり【片降り】かたぶり1
 かたほう【片方】かたぐ1
 かたまる【固まる】かたまるん1、こーるん1、
 こすぼるん1
 かたむく【傾く】かたふくん1
 かたむける【傾ける】かたふかすん、かたふ
 きるん1
 かためる【固める】かたみるん1
 かたらう【語らう】かたるん1
 かたる【語る】かたるん1、ばなすん1
 かたわら【傍ら】ぱた1
 勝ち【勝ち】かち1
 かつ【勝つ】かつん1
 かつえる【餓える】かちりるん1、かちりん1
 かつお【鰹】かちゅ1
 かつおぎょせん【鰹漁船】かちゅぶに1
 かつおこうじょう【鰹工場】なや1
 かつおのえさのこごかな【鰹の餌の小魚】じ
 ゃく1
 かつおのけずりかす【鰹の削りかす】ぴじが
 ら1
 かつおぶし【鰹節】かちゅぶし1
 かつぐ【担ぐ】〔肩に〜〕かたみるん1、かに
 るん1
 かつこう【恰好】かたち1
 がっこう【学校】がく
 かつこうわるい【恰好悪い】うきしゃ1はん
 かつこと【勝つこと】かち1
 【がっちり】だ「ん」た
 かってほうだいだ【勝手放題だ】ふんだやー
 【かっぱらう】ばぎとーるん1
 かてい【家庭】きに1
 かていそうぎ【家庭内争議】やーむんどー
 かど【角】かどー1
 かなう【叶う】ういぶん1、かのーん1
 かなえる【叶える】かねーるん1
 かなしい【悲しい】しから1はん、なぐりしゃ1
 はん
 かなしがる【悲しがる】しからさ1 すん1
 かなしみふさぐ【悲しみふさぐ】しから1はー
 ん
 かなづち【金槌】かにち1
 かならず【必ず】やっ「ち」ん
 かに【蟹】かん1
 かね【鉦】かに1
 かね【鐘】かに1
 かねじゃく【曲尺】ぼんぞーがに1
 かねもうけ【金儲け】じんもーき1
 かねもち【金持ち】うやぎ1、じんむちゃー1
 かねもちのいえ【金持ちの家】「うやぎ」ひー
 【がぼと】やいっと
 かび【黴】かペー1
 かびん【花瓶】ばないぎ1
 かふう【家風】やーなれー
 かふう【火風】ピーかち1
 かぶせる【被せる】かふちるん1
 かぶる【被る】かぶん1
 【かぶれ】まぎ1
 かぶわけする【株分けする】にんばぎるん1

かほうへ【下方へ】したいがV
 かま【釜】かまV
 かま【鎌】がっきゃI
 かまえる【構える】かまいるんI
 【かまぼこ】かまぐV
 かまわない【構わない】だすたすくんI
 がまんつよい【我慢強い】がーずさはん
 がまんできない【我慢できない】ふしがらぬ
 かみ【神】かんI
 かみ【髪】あまじI
 かみうらない【神占い】うがじいI
 かみぎょうじ【神行事】かぬめーI、きさりV
 かみぎょうじのぎょうろがかり【神行事の漁
 労係】いしょーぶさV
 かみきる【噛み切る】じんぼるんV
 かみくだく【噛み砕く】かんぼるんI
 かみさま【神様】かんI
 かみそり【剃刀】かんすりI
 かみなり【雷】かんなりI
 かみのみち【神の道】かんみちいI
 かみのよ【神の世】かんぬI ゆーV、むがしいI
 ゆーV
 かみのれいげんがたかい【神の靈験が高い】か
 んだがIさーん
 かむ【咬む】かむんI
 かむ【噛む】かむんI、かんだるんI、〔歯で～
 〕ふしきるんI
 かめ【亀】かみI
 かめ【甕】かみI
 かもされる【醸される】〔酒が～〕ばぐんV
 かもん【家紋】やーばんI
 かや【茅】がやI
 かや【蚊帳】かつあV
 【がやがや】がーがー
 かやぶきのかおく【萱ぶきの家屋】がやふき
 ひーI
 かゆ【粥】ゆーI
 かゆい【痒い】びよーIはん
 かよう【通う】かよーんV
 からい【辛い】からIはん
 【からかう】ぼくるんI、ぼっくるんI
 【からから】がらから
 からげる【絡げる】からぎるんI
 からす【カラス】がらしI
 からだ【体】ぐてーI、どーI
 からだがけんこうだ【体が健康だ】どーIが
 んじゅーIさーん
 からだがじょうぶだ【体が丈夫だ】どーIが
 さIはん
 からだがつよくなる【体が強くなる】がんず
 さIなるんI
 からっぽ【空っぽ】んなV
 からにする【空にする】いたちるん
 からになる【空になる】からVなるんI
 からまる【絡まる】あんざるんI、からまぐんI
 からみつく【絡み付く】からまぐんI、からむ
 んI
 からめる【絡める】からまぐんI
 かりる【借りる】かりるんV、かるんV
 かる【刈る】かるんV
 かるい【軽い】かるVはん
 かるくおもう【軽く思う】かるんじるんV
 かれい【嘉例】かりーI
 かれら【彼ら】うしたまI
 かれる【嘎れる】〔声が～〕かりるんV
 かれる【枯れる】かりるんV
 かるんじる【軽んじる】かるんじるんV
 かわ【川】かーらV
 かわいい【可愛い】かなIさーん、しんだらI
 さーん
 かわいそうだ【可哀そうだ】すむIいたIはん、
 すむIぐりIさん、どうぐりしゃIはん
 かわいそうなおもいがする【可哀そうそうな
 思いがする】すむIぐりIしゃIはん

かわいらしい【可愛らしい】あたらゝさん、し
 んだらゝさん
 かわかす【乾かす】かりがすん、ぶつん
 かわく【乾く】かりぐん
 かわっている【変わっている】いふなー やっ
 さい
 かわはぎ【カワハギ】ふくらび
 かわや【厠】ふーる、ふるや
 かわら【瓦】かーら
 かわらぶきのいえ【瓦葺きの家】かーらゝひー
 かわり【代わり】かーり
 かわり【変わり】かわり
 かわる【代わる】かわるん
 かわる【変わる】かわるん、ちごーん
 がん【龕】がんだるごー
 かんおけ【棺桶】かん
 かんがい【旱害】びぱり、ペーりまぎ
 かんがえ【考え】かんげー
 かんがえる【考える】かんげーるん、むん
 かんき【寒気】かん、ぴらぐ
 がんきゅう【眼球】みっちん、みんなま
 がんこもの【頑固者】がんくむぬ
 かんしょ【甘蔗】あますな
 かんしょ【甘藷】あがん
 がんしょう【岩礫】すばに
 がんじょうだ【頑丈だ】がんずさはん
 かんしんがある【関心がある】きぬ、あん
 かんせんさせる【感染させる】うつすん
 かんせんする【感染する】うつるん
 がんそ【元祖】がんす
 かんぞう【肝臓】きむ
 かんたんに【簡単に】「ざっ」と
 かんちょうじ【干潮時】すっち
 かんちょうになる【干潮になる】すーびすん
 かんづかさ【神司】すかさ
 かな【鉋】かな
 かんぱ【寒波】ぴらぐ
 【かんばしい】ぱからっさい
 かんばしい【芳しい】かばはん
 かんばしくない【芳しくない】ぱからっさい
 ねーぬ
 かんぱつ【早魃】ペーり
 かんぱつだ【早魃だ】ペーり シャーん
 がんばる【頑張る】ぎばるん
 かんまんである【緩慢である】〔動作が～〕ど
 うなーさん
 がんめん【顔面】むち
 がんらい【元来】むとうがら
 【かーかー】がーがー
 き【木】きー
 き【気】きー
 きいろ【黄色】きーる
 きいろになる【黄色になる】きんき すん
 きおく【記憶】うぶい
 きおくりよく【記憶力】むぬうぶい
 きおけ【木桶】うき
 きおちする【気落ちする】すむだーりるん
 きがある【気がある】きぬ、あん
 きがえる【着替える】すうぬ、かれーるん
 きがきかなくなる【気が利かなくなる】じん
 ぶん、とーらん
 きがくるう【気が狂う】ぷりるん
 きかざる【着飾る】しだすん
 きかせる【聞かせる】すかすん
 きがたかまる【気が高まる】ばざるん
 きがちいさい【気が小さい】すむいしゃが
 はーん
 きかれる【聞かれる】すかいるん
 きがん【祈願】うがみ、うがん、うやっす
 り、にげー
 きがんする【祈願する】にげるん
 きがんのことば【祈願の言葉】にげーふちい
 ききぐるしい【聞き苦しい】しきぐりさん
 ききん【飢饉】がーし

- きく【聞く】すくんV
 きぐらいがたかい【気位が高い】すむ1だが1
 はん
 きくらげ【キクラゲ】みんぐるん、みんぐるみ
 ん1
 きける【聞ける】すかいるんV
 きけんだ【危険だ】ぬぐりしゃん、ぴこV
 はん
 きこえない【聞こえない】すかーるぬ、みん
 とーら1
 きこえる【聞こえる】すかいるんV
 きこつ【気骨】きがいV
 【きさまは】だんざー1
 きざむ【刻む】うらすん1、きつあむんV
 ぎじゅつ【技術】わざ1
 きずつける【傷つける】あやみるん1、いたま
 すん1、いたみるん1、やますん1
 きせいちゅう【寄生虫】ばたぬ1、むしいV
 きせつ【季節】しち1
 きぜつする【気絶する】ふきーるんV
 きせる【煙管】きしり1
 きそく【規則】さだみ1
 きた【北】にしV、にしたV
 きたいする【期待する】あちすんV
 きたかぜ【北風】にしかちV
 きだて【気立て】きがいV
 きたない【汚い】あだらV、すぶた1はん
 きたない【汚ない】やにっしゃん、はん
 きたむら【北村】にしむらV
 きちがい【気違い】しんけー1、ぷりむぬV
 きちじつ【吉日】ぴーる
 きちゅう【忌中】いみうち
 きちゅう【忌中だ】いみはかるん1
 きちれい【吉例】かりー1
 きちんとせいりされる【きちんと整理される】
 かたずぐん1
 【きちんとする】とうとうのーん1
 きっかかる【引かかる】ぴきはかるん
 きづく【気付く】さとうるん1
 きづち【木槌】あいち1
 【きつと】よーV
 きぬ【絹】いちゆ1
 きぬのきもの【絹の着物】いちゆすぬ
 きね【杵】いなしき1
 きねんさい【祈年祭】あみじわー1
 きのう【昨日】しぬV、すうぬ
 きのこ【茸】なば1
 きのどくだ【気の毒だ】すむ1いた1はん、す
 む1ぐり1さん、どうぐりしゃん、はん
 きのみき【木の幹】きーぬ、むとう
 きばむ【黄ばむ】きんき、すんV
 きぶんがわるい【気分が悪い】おま1はん
 きぼう【希望】ぬずみV
 きまずい【気まずい】どうぐりしゃん、はん
 きまる【決まる】きまるん1
 きみ【君】だーV
 きみたち【君たち】だいまV
 きめる【決める】きみるん1、さだみるん1
 きも【肝】きむ1、すむ1
 きもいり【肝入り】すむ1いりV
 きもち【気持】きーV
 きもちいい【気持ちいい】めっさ1はん
 きもの【着物】すうぬ1
 きものをきる【着物を着る】すうぬ1、すっす
 んV
 ぎゃく【逆】さかさー、めー1しびV
 ぎゃくたいする【虐待する】いじみるんV
 きゅう【灸】やち1
 きゅうかん【旧慣】むがしいなれー1
 きゅうくつだ【窮屈だ】くちさVはん
 きゅうけい【休憩】やしみ1
 きゅうけいする【休憩する】どー1よがすん1
 、よがすん1
 きゅうこんする【求婚する】くいるん1

- きゅうし【急死】あたしに
 きゅうしゅう【旧習】むがしいなれー
 きゅうじゅう【九十】ぐじゅうー
 きゅうじゅうななさいのちょうじゅうい
 【九十七歳の長寿祝い】かじまやー
 きゅうしょ【急所】すうぶ
 きゅうす【急須】ぞっか
 きゅうそくする【休息する】よがすん
 きゅうに【急に】あたし
 きゅうにちいさくなるさま【急に小さくなる
 様】だった
 きゅうになぐさま【急に風ぐ様】だった
 きゅうぼん【旧盆】そーりん
 きゅうぼんのゆにげーぎょうじ【旧盆のくゆ
 にげー】「世願い」行事】むしゃまー
 きゅうよう【休養】ぷにやしみ
 きゅうり【胡瓜】うりん
 きゅうれきのさんがつみっか【旧暦の三月三
 日】さにち
 きゅうれきのたなばた【旧暦の七夕】なんが
 そーりん
 きょう【今日】きゅうー
 きょうかい【境界】さけー
 きょうくんする【教訓する】えにすかすん
 きょうげん【狂言】こんぎ
 きょうさくのとし【凶作の年】がしいどうし
 い
 きょうじ【凶事】やなくとら、やふ
 ぎょうじ【行事】ゆうじ
 きょうしゆくた【恐縮だ】どうぐりしゃはん
 ー
 きょうだ【器用だ】〔手が〜〕くまはん、し
 ーぐまはん
 きょうだいしまい【兄弟姉妹】うちざ
 きょうどうさぎょう【共同作業】ぼーん、ゆい
 きょうむ【業務】しぐとら、すかま
 きょうり【郷里】すうま
- きょうりよくだ【強力だ】すさはん
 ぎょうれつ【行列】ぎょうれつ
 ぎょうれつをつくる【行列をつくる】するい
 るん
 きょか【許可】ゆるし
 きょかする【許可する】ゆるすん
 ぎょぎょう【漁業】ゆうとら
 ぎょぐ【漁具】いしよーだぐ
 きょげん【虚言】ぷりむに
 きょじゃく【虚弱】びーら、よーば
 きょせいする【去勢する】たにーとらるん
 きょねん【去年】くつん
 きよめる【清める】きよみるん
 ぎょるい【魚類】ゆう
 ぎょろう【漁労】いしよー
 きらい【嫌い】みつふあはん
 きらわれもの【嫌われ者】「みつふあー」むん
 きり【錐】いり
 ぎりかたい【義理堅い】ぎりかたはん
 きりたおす【切り倒す】きりとーすん、けー
 りーとーすん、けーるん、なぎとーすん
 きりとる【切り取る】しっしとらるん
 きりひらく【切り開く】さくるん
 きる【切る】しっすん
 きる【着る】しっすん
 【きれい】けしゃはん
 きれいずきだ【きれい好きだ】あざぎしゃはん
 ー
 【きれいに】けーし
 きれる【切れる】むっしるん
 きわだつ【際立つ】みだつん
 きをつける【気をつける】きーしきるん、
 くくるいるん
 きん【斤】きん
 ぎん【銀】なんざ
 ぎんが【銀河】じんぬ、ふかー
 きんきより【近距離】すかはん

- きんすう【斤数】きんⅴ
 きんぞく【金属】かにⅴ
 ぎんみ【吟味】ぎんみⅴ
 きんむする【勤務する】すとぅみるんⅴ
 きーる【キール】かーらⅴ、まつらⅴ
 くいあます【食い余す】へーⅴ あますんⅴ
 くいいじがきたない【食い意地が汚い】へだ
 まⅴさーん
 くいきる【食い切る】ふしきるんⅴ
 くいしんぼう【食いしん坊】へだまⅴ
 くいつく【食いつく】ふしきるんⅴ
 くいのこす【食い残す】へーⅴ あますんⅴ
 くいはずす【食い外す】へーぼんちるんⅴ
 【ぐうぐう】ごーごー
 くうふくだ【空腹だ】やーはⅴ すんⅴ、やーⅴ
 はん
 くかく【区画】ぱかⅴ、〔田の～〕まーしいⅴ
 くき【莖】ふきⅴ
 くぎ【釘】ふんⅴ
 くぐりぬける【潜り抜ける】ふきるんⅴ
 くくる【括る】ふくるんⅴ
 くぐる【潜る】ふきるんⅴ
 くげん【苦言】すーむにⅴ
 くさ【草】ふつあⅴ、ふつあんだにⅴ
 くさい【臭い】ふつあⅴはん
 くさび【楔】ふつあび、やⅴ
 くさむら【草むら】ふつあらしⅴ
 くさらせる【腐らせる】ふつあらすんⅴ
 くさりかかる【腐りかかる】にーまらんⅴ、に
 んまるんⅴ
 【ぐさりど】ぎっふあざっふあ
 くさる【腐る】〔食物が～〕にーまらんⅴ、ふ
 つありんⅴ
 くし【櫛】ふちⅴ
 くじ【公事】うやだりⅴ
 【くしゃみをする】ばなⅴぴいすんⅴ
 くじら【鯨】ぐじいらⅴ
- くじる【抉る】ぴんくるんⅴ
 【ぐずぐずすること】ゆだぼりⅴ
 くすぐったい【擦ったい】こさⅴはん
 くすぐる【擦る】ぐちゆるんⅴ
 くずす【崩す】こっふあすんⅴ
 くすり【薬】ふちりⅴ
 くずれる【崩れる】こーりるんⅴ、こっふいる
 んⅴ
 くそ【糞】ふつⅴ
 くそくさい【糞臭い】ふつⅴふつあⅴはーん
 くそをたれる【糞を垂れる】ふつⅴまるんⅴ
 くだく【砕く】くだくん、しきだるんⅴ、ふく
 なすんⅴ、ふなぐんⅴ
 くださる【下さる】たぼらいるんⅴ、たぼるんⅴ
 くだす【下す】〔お腹を～〕くなすんⅴ
 【ぐだっと】だーり
 【くたばる】うがんちゅむんⅴ
 くたびれ【草臥れ】くたんでーⅴ
 くたびれる【草臥れる】くたんでいるんⅴ
 くだもの【果物】なーりⅴ、なーりむぬⅴ
 くだりざか【下り坂】さんがりⅴ
 くち【口】ふちⅴ
 くちがおもい【口が重い】ふちいくばはん
 くちがかるい【口が軽い】ふちいかるⅴはん
 くちぎたない【口汚い】ふちいやにっしゃー
 ん
 くちたっしゃだ【口達者だ】ふちいⅴやばⅴはん
 ん
 くちにかきこむ【口にかき込む】はきⅴいりる
 んⅴ
 くちのおおきなみずがめ【口の大きな水甕】ば
 んどーⅴ
 くちびる【唇】すうばⅴ、ふちぬⅴ すばⅴ
 くちべただ【口下手だ】ふちいくばはん
 くちる【朽ちる】ふとぅちるんⅴ
 ぐちをいう【愚痴を言う】むにⅴ ゆむんⅴ
 くつ【靴】ふちいⅴ

- 【ぐったり】だーり
 【ぐったりする】だーりるんA
 くつつく【くっ付く】だっくわーるんI、むっ
 つあーるんA、むつつあるんA
 くつつける【くっ付ける】すばしきるんV、む
 っつあーすんA
 くば【クバ】くばV
 くばがさ【クバ笠】くばかつあV
 くばる【配る】くばるんI
 くび【首】ぬぶしんA、まんしんA
 【くびれる】よーがりるんV
 くふう【工夫】しかきV
 【くべる】〔薪などを〜〕てしきるんV
 くぼち【窪地】とーV
 くぼませる【窪ませる】とまらすん
 くぼむ【窪む】とーまるんV
 くまい【供米】ばなぐみI
 くみする【組する】かたすんV
 くむ【汲む】〔水を〜〕ふむんV
 くめん【工面】さんだん
 くめんする【工面する】さんだん すん
 くも【クモ】すうふくI
 くも【雲】ふもんI
 くものいと【クモの糸】すうふくI
 くもる【曇る】ふわどうまりV なるんA、ふわ
 むんV
 くら【倉】ふっふあI
 くら【鞍】ふっふあI
 くらい【暗い】ふわVはん
 くらくなる【暗くなる】ふわどうまりV なる
 んA、ふわむんV
 くらげ【クラゲ】いらI
 くらべる【比べる】くらびるんV
 くりぶね【くり舟】いたふにI、さばにI
 くる【来る】くんI
 くるしい【苦しい】くちさVはん
 くるとし【来る年】えんA、げん
- くるまぼう【車棒】くるまぼーI
 くるりぼう【くるり棒】くるまぼーI
 くれる【暮れる】〔日が〜〕ふわむんV
 くろい【黒い】ふっかばりI
 くろう【苦勞】あわりI
 くろき【黒木】きなV
 くろく【黒く】「ふー」し
 くろくなる【黒くなる】「ふー」し なるんA
 くろぎとう【黒砂糖】ふーさた
 くろしま【黒島】ふすうまI
 くろずむ【黒ずむ】「ふー」し、「ふー」し なる
 んA、ふっかばりI
 くろつぐ【クロツグ】まーにI
 くろつぐのせんい【クロツグの繊維】ふがらI
 くろむ【黒む】「ふー」し なるんA
 くろよな【クロヨナ】ぶがま
 くわ【鍬】ペーV
 【くわえる】〔口に〜〕ふしきるんI
 くわえる【加える】くわいるんI、まんざーす
 ん
 くわずいも【クワズイモ】びりかなばI
 くわのき【桑の木】こんぎI
 くんかい【訓戒】ういしI
 くんかいする【訓戒する】ういし うがますん
 くんわ【訓話】ゆしぐとうV
 け【毛】きーV
 けいかする【経過する】たつんI
 けいこ【稽古】きっくI
 けいさつ【警察】きっしいV
 けいさん【計算】さんみんI
 けいじ【慶事】「いー」くとう
 けいしゃする【傾斜する】かたふくんI
 けいそくする【計測する】ばかるんI
 けいそつだ【軽率だ】うかっと すん
 げいのう【芸能】ぎなむぬA
 けいべつする【軽蔑する】うせーるんV
 けいらん【鶏卵】ごかけーI

- けいれんする【痙攣する】びきしいきんⅴ
 【けがれる】ゆぐりるんⅴ
 げし【夏至】かーちⅴ
 けす【消す】けすんⅴ
 けずる【削る】きちいるんⅴ、ぴぐんⅴ
 けた【桁】きたⅴ
 げた【下駄】あしたⅴ
 【けちだ】ゆぐⅴさん
 けつえき【血液】じいーⅴ
 けっかん【血管】じいぬ みちⅴ
 けつがん【結願】きちがんⅴ
 けっこんいわい【結婚祝い】「あいなーⅴよい
 けっこんしき【結婚式】「あいなーⅴよい、にー
 びちⅴ
 けっこんする【結婚する】ぶとうむち
 けっしんする【決心する】うむいきすんⅴ
 けっそんする【欠損する】そんⅴ すんⅴ
 けっていする【決定する】きみるんⅴ
 けっとう【血統】びきⅴ、まりⅴ
 げっとう【月桃】さーにⅴ
 けとばす【蹴飛ばす】きりとうばすんⅴ
 けなす【貶す】うせーんⅴ
 げなん【下男】ばたさⅴ
 けぶる【煙る】きぶさⅴはーん
 けむたい【煙たい】きぶさⅴはーん
 けむりをたてる【煙を立てる】ふもーらすんⅴ
 げりする【下痢する】くなすんⅴ、さぎるんⅴ、
 とろふかすんⅴ
 けりたおす【蹴り倒す】きりとーすんⅴ
 ける【蹴る】きるんⅴ
 【けれども】えすか
 げん【弦】すーるⅴ
 けんかする【喧嘩する】えんだりるんⅴ、えん
 だりんⅴ
 げんきがなくなる【元気がなくなる】だりる
 んⅴ
 げんきだ【元気だ】がんずさⅴはん
- げんきづける【元気付ける】きーいりんⅴ
 げんきをなくす【元気をなくす】がんどーり
 んⅴ
 げんご【言語】くとうばⅴ、むにⅴ
 けんこうきがん【健康祈願】「どうばだⅴにげ
 ー
 けんこうだ【健康だ】どーーⅴずさⅴはん
 げんこつ【拳骨】こーさーⅴ
 けんさ【検査】きんさⅴ
 げんざい【現在】なまⅴ、まなⅴ
 けんじつに【堅実に】こーし
 げんしょうする【減少する】ぴなるんⅴ
 けんじょうひん【献上品】うさぎⅴむぬⅴ、お
 ーすむぬⅴ
 げんだい【現代】まなぬⅴ ゆーⅴ
 けんとう【検討】ぎんみⅴ
 げんのう【玄翁】かにちⅴ
 けんまする【研磨する】とうぐんⅴ
 こ【子】うたまⅴ
 ～こ【～個】ちー
 こい【濃い】かたⅴはん
 ごいさぎ【ゴイサギ】よーらさーⅴ
 こいし【小石】いしふくⅴ、いしんⅴたまⅴ
 こう【請う】くいるんⅴ
 こうい【行為】しわざⅴ、わざⅴ
 こういか【甲烏賊】くしみⅴ
 こううん【幸運】うんⅴ
 こうか【硬貨】かにじんⅴ
 こうかいあんぜん【航海安全】かりゆしⅴ
 こうかな【高価な】でーだがⅴ
 こうかんする【交換する】かれーるんⅴ
 こうぎ【抗議】だんぱんⅴ
 こうぎする【抗議する】かきあうんⅴ
 ごうけい【合計】すーだがⅴ
 こうけいしゃ【後継者】あとうⅴちぎⅴ
 こうごうしい【神々しい】みしこⅴはん
 こうさい【交際】ぴいとうぴれーⅴ、ぴらいⅴ、

- ぴらす
 こうさく【耕作】さくほー1
 こうささせる【交差させる】あんざらすん1、
 あんじるん1
 こうさんする【降参する】まきるん1
 こうじつにする【口実にする】なしきるん1
 こうじょう【口上】すさりぶち1
 ごうじょうだ【強情だ】がーずさはん
 こうしょうぶる【高尚ぶる】いぼりすくん1
 こうしょくのじょし【好色の女子】しきべー
 こうせい【後生】ぐそー1
 こうぞう【構造】すくり1
 こうたいする【後退する】さがるん1
 こうち【高地】うがり1、た「か」た
 こうちよくする【硬直する】こっばるん1
 こうつうきかん【交通機関】ぬりむぬ1
 こうつごう【好都合】「いー」ば
 こうとうぶ【後頭部】うっす1
 こうびする【交尾する】ずーぶん1
 こうへい【公平】まーたき
 こうほう【後方】しなた1、しびゃた1
 こうむ【公務】うやだり1
 こうもり【コウモリ】かぶる1
 こうもん【肛門】しびぬ1、みん1
 ごうりきしゃ【強力者】ぶし1
 こうりゃん【高粱】や「た」ぶ
 こうろへいあん【航路平安】かりゆし1
 こうろん【口論】むんどろー1
 こうろんする【口論する】むんどろー すん
 こえ【声】くい1
 こえだめ【肥溜】こいすぶ1
 こえび【小エビ】せー1
 こえる【肥える】ばなたるん1、ばんたるん1
 こえる【越える】くいるん1、こすん1
 こがす【焦がす】くがすん1
 こがたな【小刀】しぐ1
 こがね【黄金】くがに1
 こがま【小鎌】〔粟刈りの～〕いら1
 こがれる【焦がれる】くがりるん1
 こかん【股間】またびし1
 ごきぶり【ゴキブリ】かむし1
 こきょう【故郷】まりじま1
 【こく】〔屁を～〕ぴいすん1
 こく【扱く】〔稲を～〕しゅるん1
 こぐ【漕ぐ】くん1
 こくおう【国王】うしゅがなし1
 こくする【濃くする】〔酒などを～〕しいみる
 ん1
 こくとう【黒糖】さた1、ふーさた
 こくのあるうまみ【コクのある旨味】すまじ
 しゃ1はん
 こくもつ【穀物】「ぶーぬ」むぬ
 【ごくんごくん】ごんた
 こけ【苔】ぬり1
 こげる【焦げる】くがりるん1、なびふつあり
 ん1
 【ここ】なー1、もー1
 ごご【午後】ぴいすあとう
 ごごえる【凍える】〔寒さで～〕くばるん1、ぴ
 んぐるん1
 こちよい【心地よい】めっさ1はん
 ここに【此処に】なー1
 ここのつ【九つ】くくぬち1
 こころ【心】くくる1、すむ1
 こころえる【心得る】くくるいるん
 こころがいたむ【心が痛む】すむやむーん
 こころがうつくしい【心が美しい】すむ1けし
 しゃ1はん
 こころがける【心掛ける】くくるいるん、く
 くるがきるん
 こころがやさしい【心が優しい】すむ1けししゃ1
 はん
 こころづよい【心強い】すむ1ずさ1はん、す
 む1ずさ1はん

こころね【心根】きむぐくる¹
 【こさえる】くつあすん¹
 こごかな【小魚】ゆんたま
 こさせる【越させる】こすん¹
 【こごっぱりする】あざぎしゃ¹はん
 こし【腰】くち¹
 ごしゃくまい【五勺米】ぐそーみ¹
 ごじゅう【五十】ぐんず¹
 こしらえる【拵える】〔魚などを〜〕くつあー
 すん¹、くつあすん¹、しこーるん¹
 こじん【古人】むがしい¹ぴいと¹
 こす【漉す】こすん¹
 こす【瀘す】〔篩で〜〕ふかすん¹
 こす【越す】こすん¹
 こする【擦る】しっすするん¹、すすするん¹、と
 ーびくん¹
 こそだてする【子育てする】うたま¹すかな
 すん¹
 こたえる【答える】くたいるん¹
 こだかいだいち【小高い台地】うがり¹
 こたち【子たち】「うたま¹んじ
 ごちそう【ご馳走】こっきー¹、まさむぬ¹
 【こちょこちょ】ぐちゅぐちゅ
 【こちらから】もーら¹
 【こちらへ】もが¹
 こづかい【小使い】ばたさ¹
 こっかく【骨格】ぶに¹
 こつぶだ【小粒だ】ぐま¹はん
 【こつん】ごーんた
 こときれる【こと切れる】ぬちい しさん
 ことし【今年】くとうしい¹
 ことづける【言付ける】くとうしきるん¹
 ことば【言葉】くとうば¹、むに¹
 ことばがあらひ【言葉が荒い】むに¹あら¹は
 ーん
 ことばがあらっばい【言葉が荒っばい】むに¹
 あら¹はーん

こども【子供】うたま¹、やらび¹
 こどもたち【子供たち】「うたま¹んじ
 こどもをうむ【子供を産む】うたま¹なすん¹
 ことわざ【諺】むがし¹くとうば¹
 【ことわり】どーり¹
 ことわる【断る】くとうばるん¹
 こな【粉】く¹、ふく¹
 こなごなにする【粉々にする】ふくなすん¹
 こなごなになる【粉々になる】ふくなるん¹
 こなごなにわれる【粉々に割れる】ふく なる
 ん
 【こなす】くなすん¹
 【この】くぬ¹
 このあいだ【この間】くんた¹ばり¹
 このふきん【この付近】もぬ¹ まーり¹
 このへん【この辺】もー¹、もぬ¹ まーり¹
 このむ【好む】すくん¹
 ごはん【ご飯】いー¹
 こぶし【拳】しふく¹
 こふん【古墳】めーむるし¹
 ごぼう【牛蒡】ぐぼん¹
 こぼす【零す】〔液体を残りなく〜〕いたちる
 ん¹、くばすん¹、〔全部〜〕んたちるん¹
 こぼれる【零れる】くぶりるん¹、くぶりん¹
 こぼれるようす【零れる様子】〔粒など小さな
 物が〜〕ざらざら
 こま【独楽】こーろ¹
 こまかい【細かい】くま¹はん
 こまったこと【困ったこと】ざーふえー¹
 【ごみ】あるふた¹
 こむぎ【小麦】まーむん
 こむぎこ【小麦粉】むんぬ¹ くー¹
 こめ【米】めー¹
 こめこのむしがし【米粉の蒸し菓子】ありす
 むち¹
 こめだわら【米俵】めーだら¹
 こめぬか【米糠】ぬが¹

- こめのめし【米の飯】めーぬⅴ いーⅴ
 ごめんください【ご免下さい】すされー
 こもりのむすめ【子守の娘】むりあまⅴ
 こもる【籠る】くまるんⅴ
 こやし【肥し】こいⅴ
 こやすがい【子安貝】しびⅴ
 こゆび【小指】びびんたまⅴ
 こようする【雇用する】やとすんⅴ
 こようのいっしゅ【古謡の一種】あよーⅴ
 こようのしゅるい【古謡の種類】ゆんぐとらⅴ
 、ゆんたⅴ
 こようのろうどうか【古謡の労働歌】じらばⅴ
 ごようふ【御用布】ぐいふⅴ
 こらい【古来】むがしいがらⅴ
 こられる【来られる】おーるんⅴ
 【これの】くぬⅴ
 【ころ】じぶんⅴ
 ころがす【転がす】くるばすんⅴ
 ころがる【転がる】くるぶんⅴ、まるぶちんⅴ
 ころす【殺す】くらすんⅴ、すなすんⅴ
 ころばす【転ばす】くるばすんⅴ
 ころぶ【転ぶ】くるぶんⅴ、まるぶちんⅴ、まる
 ぶんⅴ
 こわい【怖い】うとるさⅴはん、ごーⅴはん
 こわす【壊す】こーすん、こっふあすんⅴ、や
 ぶるんⅴ
 こわばる【強張る】こっばるんⅴ
 こわめし【こわ飯】かしきⅴ
 こわれる【壊れる】こーりるんⅴ、やぶりんⅴ
 【こんがらがる】あんざるんⅴ
 こんき【根気】くんきⅴ
 こんごうする【混合する】まんざるんⅴ、まん
 じるんⅴ
 こんじょう【根性】がーⅴ
 こんちゅう【昆虫】むしⅴ
 こんなんだ【困難だ】むすかっさⅴはん
 こんばん【今晚】にがⅴ
- さ【差】さⅴ
 【～さ】さ
 ざ【座】ざーⅴ
 ざあざあ【ザァザァ】ぞーりぞーり
 【さあー】せー
 ～さい【～歳】ちー
 ざいさん【財産】ざいさんⅴ
 さいしゅする【採種する】たにⅴとるんⅴ
 さいそくする【催促する】いみるんⅴ
 ざいにん【罪人】とうがにん
 さいばい【栽培】むぬすくりⅴ
 さいふ【財布】じんふくるⅴ
 さいほう【裁縫】ぬーんⅴ、ぬいむぬⅴ
 ざいもく【材木】ざいぎⅴ
 さいれい【祭礼】ぶながⅴ
 さえずる【囀る】〔鳥が～〕なーぐんⅴ、ふき
 んⅴ
 さお【竿】そーⅴ
 さおばかり【竿秤】ぴきⅴ
 さかい【境】さけーⅴ
 さかえる【栄える】さかいるんⅴ
 さかさ【逆さ】さかさー
 さがしまわる【探し回る】ふつるんⅴ
 さがしもとめる【捜し求める】たしかみるんⅴ
 さがす【探す】あさるんⅴ、さばくんⅴ、たじい
 にくんⅴ、とうみるんⅴ、とうみんⅴ
 さかずき【盃】さかすけーⅴ
 さかな【肴】うせーⅴ
 さかな【魚】ゆーⅴ
 さかなつき【魚突き】ゆーしき
 さかなつり【魚釣り】ゆーほすん
 さかなとり【魚獲り】ゆーとるりⅴ
 さかなのえら【えら】〔魚の～〕ぴむⅴ
 さかなのはらにく【魚の腹肉】はらごーⅴ
 さかなのひもの【魚の干物】てーⅴ
 さかり【盛り】ばんじいんⅴ
 さがる【下がる】さがるんⅴ

- さがん【砂岩】あーいし1
 さき【先】さき1、すら1、ぼな1、ぼなた1
 さき【崎】さき1、ぼな1
 さきにする【先にする】めー1 なすん1
 さきになる【先になる】めー1 なるん1
 さきまわり【先回り】さきまーり1
 さきやま【崎山】さきやま1
 さぎょうぎ【作業着】ぴてーすうぬ1
 さく【咲く】さくん1
 さく【裂く】さくん1
 さくせいする【作成する】すくるん1
 さくねん【昨年】くつん1
 さくや【昨夜】ゆーび1
 【さくりと】ぷちんた
 さぐる【探る】さぐるん1
 さけ【酒】さき1
 さけくさい【酒臭い】さきふつあ1はーん
 さけぐせ【酒癖】さきぐし1
 さけじょうご【酒上戸】さきじょーぐ1
 さけによろ【酒に酔う】びたこら1
 さけぶ【叫ぶ】たけーるん1
 さけめ【裂け目】やりふちい1
 さけやすい【裂けやすい】さば1はん
 さける【裂ける】〔布などが古くなって〜〕ざーりるん1、さきるん1、ざりるん1、やーりん1
 ささえる【支える】しけーるん1
 ささえるちから【支える力】てー1
 さしあげる【差し上げる】うさぎるん1、おーすん1
 ざしき【座敷】ざしき1
 さしず【指図】ぎし1
 さしずする【指図する】えにすかすん1
 さしだす【差し出す】んだすん1
 さしば【鷓】たか1
 さしみ【刺身】なましい1
 さす【刺す】さすん1、ぬぐん1
 さす【差す】さすん1、しっすん1
 さす【挿す】さすん1
 さずける【授ける】たぼらいるん1
 さそり【蠍】しんがま1
 さだまる【定まる】きまるん1
 さだめ【定め】さだみ1
 さだめる【定める】さだみるん1
 【さっさと】さーった、さらさら
 さっさといきおいよくあるくようす【さっさと勢いよく歩く様子】さーっさーった
 ざっそう【雑草】ふつあ1、ふつあんだに1
 ざっだん【雑談】ゆんたく1
 さっとかんつうするさま【さっと貫通するさま】ぼふあった、ぼふった
 【さっぱり】むっとう1
 さつまいも【さつまいも】あがん1
 さとう【砂糖】さた1
 さとうきび【サトウキビ】あますな1
 さとうてんぷら【砂糖てんぷら】さたばんべー1
 さとのし【里之子】さとぬし1
 さとる【悟る】さとるん1
 【さばく】さばくん1
 さび【錆】さび1
 さびしがる【寂しがる】しからさ1 すん1、しから1はーん
 さびつく【錆付く】さびすくん
 さびれる【寂れる】さぼーりん1
 【ざぶざぶ】ざっふあざっふあ
 【ざぶっと】ざっふあった、ざぼんた
 【ざぶんと】だぼんた
 さます【冷ます】さますん1、ぴらすん1
 さます【覚ます】さますん1
 さまたげる【妨げる】さまたぎるん1
 さみしい【淋しい】しから1はん
 さみだれ【五月雨】ゆどうあみ1
 さむい【寒い】ぴしゃ1はん

- さむくてふるえる【寒くて震える】ふひつあ
るん
- さむけがする【寒気がする】ふい一つあるん
- さむさ【寒さ】かん1
- さめる【冷める】さみるん1
- さめる【覚める】さみるん1
- さめる【醒める】さまるん1
- さゆ【白湯】さゆ1
- さら【皿】さらーV
- さらいねん【再来年】まー みちん
【ざらざらする】ざらざーら すん
- さらす【晒す】さらすんV、〔水に～〕さらす
んV
- さる【去る】んぐんV
- さる【猿】さーる1
- さる【申】さり1
【ざる】ばーき1
- さるかけみかん【サルカケミカン】じろーしV
- さわがしくする【騒がしくする】あーらすんV
- さわがす【騒がす】あーらすんV、さわがすんV
- さわぎ【騒ぎ】そーどーV
- さわぐ【騒ぐ】あーるんV、なーるんV
- さわら【サワラ】さーら1
- さわる【触る】さーるんV
- さん【棧】さん1
- さんきらい【山帰来】さんきらい
- さんご【珊瑚】うるV
- さんごのいし【珊瑚の石】うるV
- さんじゅう【三十】さんず1
- さんじゅうさんねんき【三十三年忌】あぎご
っこーV
- さんしん【三線】さんしんV
- ざんねん【残念】あがやー、いなむん
- ざんぶ【残部】ぬぐり1
- さんぼう【三方】「さん」ぼー
- さんらんさせる【散乱させる】しきぼーるんV
- じ【字】じいーV
- しあげる【仕上げる】しあぎるんV
- しあん【思案】かんげー1、むぬかんげー1
- しいくする【飼育する】すかなすん1
- しいる【強いる】うししきるんV
- じうたい【地謡】じうてー1
- しお【塩】まーす1
- しお【潮】すー1
- しおがひくこと【潮が引く】すーぴすん1
- しおがみちる【潮が満ちる】すー1んつん1
- しおからい【塩辛い】さこら1はん
- しおどき【潮時】すっち1
- しおに【塩煮】まーすにー1
- しおひがり【潮干狩り】あさらごー1
- しおみず【潮水】ぶす1
- しおみぶそく【塩味不足】あふあ1さん
- しおれる【萎れる】〔植物が～〕だーりん1、だ
りるん1
- しかけ【仕掛け】しかきV
- しかける【仕掛ける】しかきるんV
【しかし】えすか
- しかた【仕方】しかたV
【しかむ】しかむん1
- しかりつける【叱りつける】しゃみしきるん、
しゃみしきんV、すかりVすくん1
- しかりつける【叱りつける】しゃーみるんV
- しかる【叱る】おこるん1、ゆいV
- しきさい【色彩】いる1
- しく【敷く】すくんV
- しげきしておこらせる【刺激して怒らせる】
〔人を～〕おこらすん1
- しげる【繁る】さかいるんV
- しげる【茂る】かぶん1
- しごきおとす【しごき落とす】しゆるん1
【しごく】しゆるん1
- しごと【仕事】しかま1、しぐとぅV、すかま1
- しごとする【仕事する】ばたらぐんV
- しごとをかなりょうする【仕事を完了する】し

- ー1うすくまV
 しこむ【仕込む】しくむんV
 しさい【司祭】にんぶちA
 しさんか【資産家】むぬむちA
 じさんさせる【持参させる】むたすんA
 じさんする【持参する】むつんA
 しし【獅子】しーし1
 じし【次姉】やしゃA
 ししょうじ【指小辞】たま
 じしょくする【辞職する】やみるんV
 じしん【地震】にんA
 しずかに【静かに】や「まー」し
 しずかになる【静かになる】とーりるんV
 しずませる【沈ませる】すますん1
 しずむ【沈む】すむん1
 しせいじ【私生児】ぐんぼーA
 した【舌】した1
 したあご【下あご】すたはこちV
 じだい【時代】ゆーV
 したくする【支度する】したく すん
 【したくない】しばへぬ
 したたらせる【滴らせる】すたらすん1
 したたる【滴る】あまだりん1、すたるん1
 したてる【仕立てる】したているんV
 したにむけておく【下に向けて置く】うすふ
 かすんV
 したへ【下へ】したいがV
 じっか【実家】やーむとらA
 【しっかり】「うん」とら
 しつかり【しっかり】「しかい」とら、だ「ん」た
 しっくい【漆喰】むちV
 しつける【躰ける】すかりVすくん1
 じつげんする【実現する】かのーん1
 しっこうする【膝行する】しきつつあーるん
 しっしんする【失神する】ふきーるんV
 したたことか【知ったことか】たすたがーV
 知っている【知っている】ししゅんV
 しっとする【嫉妬する】たい1 すんV
 しっぽ【尻尾】ぶすぶA
 しつれい【失礼】ぶりーA
 【してやられる】しらいんV
 しとげる【し遂げる】しー うすくまん、すま
 すん1
 【しとしと】すとーりすとーり
 しな【品】しな1
 しなおす【し直す】しーVのーすんA
 しなのき【シナノキ】きなし1
 しなびる【萎びる】しいぴりるんV、しぴりんV
 しにはてる【死に果てる】しにぶたん
 じにんする【辞任する】やみるんV
 しぬ【死ぬ】すうぬんV
 しばしばいく【しばしば行く】しゃー1 んぐ
 んV
 しはらう【支払う】ばらすん1
 しばらく【暫く】あ「たー」すま
 しばりつける【縛りつける】さましきるん
 しばる【縛る】さまるん1、ふくるんV、むすぶ
 んV
 しびれる【痺れる】ぴくらVやむんA、ペしく
 らやむんA
 しぶい【渋い】すぼ1はん
 しぶみがある【渋みがある】すぼ1はん
 じぶん【時分】じぶんV
 じぶん【自分】どーん、なーどーん、ば
 ーA
 じぶんかって【自分勝手】どーん1かっていV
 じぶんかってしている【自分勝手している】ど
 ーん1かってい しゃーん
 じぶんかってだ【自分勝手だ】どーん1かって
 い しゃーん
 じぶんで【自分で】「どーん」し、どーしけな
 しぼうする【死亡する】ぬちい しさん
 しばむ【萎む】〔花などが～〕だーりるんA
 しばる【搾る】すぶるん1

しま【島】すま ¹	しゅうのうする【収納する】うすくみん ¹
しまい【姉妹】ぶなり ¹	じゅうばこ【重箱】じばぐ ¹
しまいこむ【仕舞い込む】かつあみるん ¹	じゅうぶんにじゅくする【十分に熟する】け った みゃーん
しまう【仕舞う】うすくみん ¹ 、うわるん ¹	しゅうりょうする【終了する】おわるん ¹
しまことば【島言葉】すま ¹ むに ¹	じゅうろくにちさい【十六日祭】じりく ¹ にち ¹
しみこむ【しみ込む】〔味などが〜〕ふくむん 【しみったれだ】ゆぐ ¹ さん	じゅくしきる【熟しきる】けった みゃーん
【じめじめ】びちゃびちゃ	じゅくすいする【熟睡する】たーりん ¹
【じめじめする】〔畑が〜〕ふこ ¹ はん	じゅくする【熟する】みゃん ¹
しめつける【締めつける】しみしきるん ¹ 、し みるん ¹	しゅくてん【祝典】よい ¹
しめっぽくなる【湿っぽくなる】しみるん ¹	しゅくはくする【宿泊する】とうまるん ¹ 、や どうとうるん
しめらせる【湿らせる】しみらすん ¹	じゅごん【ジュゴン】ざん ¹ 、ざんぬ ¹ ゆ ¹
しめる【湿る】しみるん ¹ 、すたるん ¹	しゅし【種子】たに ¹
しめる【締める】しみるん ¹	じゅし【呪詞】ばん ¹
しめる【閉める】ふーん ¹	しゅちょうする【主張する】やっぱり ¹
しゃくし【杓子】すーぺー ¹	しゅっこうする【出港する】ふにんじるん
【しゃくにさわる】くさむくん ¹	しゅっさん【出産する】うたま ¹ なすん ¹
しゃくようする【借用する】かるん ¹	しゅっせきする【出席する】んじん ¹
しゃげきする【射撃する】うつん ¹	しゅっぱつする【出発する】んじたつん ¹
しゃこがい【シャコガイ】あしけー ¹	じゅもく【樹木】きー ¹
じゃまする【邪魔する】さまたぎるん ¹	しゅるい【種類】しな ¹
じゃまになる【邪魔になる】ふさがるん ¹	しゅろ【棕櫚】しゅる ¹
しゃもじ【杓文字】しゃしゃびら ¹	じゅんかいする【巡回する】まーり ¹ みるん ¹
じゃり【砂利】いしん ¹ たま ¹	しゅんき【春季】うりじん ¹
しゅいうふやく【首里大屋子】しなぼく ¹	じゅんさ【巡查】ゆんさん ¹
しゅうい【周囲】まーましい ¹ 、まーり ¹	しゅんじに【瞬時に】たでーま
じゅういち【十一】とーびとーち	じゅんばん【順番】ばん ¹ 、まーり ¹
じゅういっこ【十一個】とーびとーち	じゅんびする【準備する】しくむん ¹ 、しこー るん ¹ 、するいるん ¹
しゅうかくする【収穫する】ぶるん ¹	じょいん【女陰】ぴー ¹
しゅうかん【習慣】なれー ¹	じょうがぶかい【情が深い】じょー ¹ ふか ¹ は ーん
しゅうき【秋季】すさんち ¹	しょうかふりょう【消化不良】ばたふくら
じゅうぎょういん【従業員】しんか ¹	しょうき【正気】そー ¹
しゅうごうさせる【集合させる】するいるん ¹	じょうき【蒸気】きぶ ¹
じゅうごや【十五夜】じぐや ¹	じょうぎ【定規】じょーぎ ¹
しゅうじつ【終日】ぴてんぴじゅ	
じゅうしょ【住所】ぶーどーり ¹	

- じょうきげんになる【上機嫌になる】さーふ
 ーふー すんⅴ
 しょうきよする【消去する】けすんⅴ
 しょうきをうしなう【正気を失う】どまんぐ
 るんⅴ
 じょうげぎゃく【上下逆】すたうい
 しょうご【正午】ぴいすまりⅴ
 じょうご【上戸】じょーぐⅴ
 じょうし【上司】ういぬⅴ ぴいとぅⅴ
 しょうじきだ【正直だ】まとーばⅴ
 じょうず【上手】ぞーじⅴ やばⅴはん
 しょうする【使用する】すこーんⅴ
 しょうそく【消息】うとぅさたⅴ、さたⅴ
 しょうたいきゃく【招待客】しんⅴ
 じょうだん【冗談】ふばむにⅴ
 しょうたんだ【小胆だ】いじい ねーぬ、いじ
 いぬⅴ ねーぬⅴ、すむⅴいしやがⅴはん
 しょうち【礁池】いのーⅴ
 しょうちょう【小腸】ばちばたⅴ
 しょうてん【商店】まちやーⅴ
 じょうとう【上等】ぞーとぅⅴ
 しょうにゅうせき【鍾乳石】いんぬⅴ まらⅴ
 しょうぶ【勝負】しーぶⅴ
 じょうふ【情婦】ゆーべーⅴ
 じょうぶだ【丈夫だ】がんずさⅴはん
 じょうぶになる【丈夫になる】がんずさⅴ な
 るんⅴ
 じょうほう【上方】ういⅴ
 じょうほうへ【上方へ】ういがⅴ
 しょうまん【小満】すーまんⅴ
 しょうめん【正面】たんかⅴ
 しょうゆ【醤油】したちⅴ
 しょか【初夏】ばがなちⅴ
 しょき【暑気】ぷーき
 しょき【書記】ぴっしやⅴ
 しょくじ【食事】むぬⅴ
 しょくす【食酢】ペーるⅴ
- しょくぶん【職分】しゅくぶんⅴ
 しょくゆ【食油】あばⅴ
 しょくよくがないこと【食欲がないこと】ふ
 ちⅴやぶらⅴ
 しょくりょう【食糧】ばめーⅴ、ほーむぬⅴ
 しょげかえる【悄げかえる】だりるんⅴ
 しょげる【悄げる】すむだーりるんⅴ
 じょせい【女性】みどぅむⅴ
 じょそうする【除草する】〔へらで〜〕そるんⅴ
 じょそうせいそう【除草清掃】〔御嶽や神道
 の〜〕みやくつえーⅴ
 しょつき【食器】かまさⅴ
 しょもうする【所望する】ぬずむん
 しょもつ【書物】すむちⅴ
 しらが【白髪】しっせーⅴ
 しらさぎ【白鷺】そんⅴさみやⅴ
 しらせる【知らせる】いーしきるんⅴ、すかす
 んⅴ
 しらない【知らない】ばがらぬⅴ
 しらべる【調べる】すさびるんⅴ
 しらほ【白保】すさぶⅴ
 しらみ【虱】さんⅴ
 しらむ【白む】すさむんⅴ
 しり【尻】しびⅴ
 しりがおもい【尻が重い】しびんさⅴはん
 しりがかるい【尻が軽い】しびかるⅴはん
 しりがるおんな【尻軽女】さんごなーⅴ
 しりぞく【退く】ぬぎるんⅴ
 しりのあな【尻の穴】しびぬⅴみんⅴ
 しる【汁】すーⅴ
 しる【知る】しっすんⅴ
 しるし【印】しるしⅴ
 しろあり【白蟻】すさーりⅴ
 しろい【白い】「すそー」し
 しろいきのこ【白いキノコ】しっすみんⅴ
 しろくなる【白くなる】すさむんⅴ
 しろっぽい【白っぽい】「すそー」し

- しろみをおびる【白みを帯びる】すさむん1
 しわ【皺】ぴいな1
 しわざ【仕業】しわざ1
 じわれ【地割れ】びぱり1
 しん〜【真〜】まー
 しんこうする【信仰する】しんじるん1
 しんじつ【真実】ふんとー1
 しんじょう【心情】きむぐくる1、すむぐくる1
 しんじる【信じる】しんじるん1
 しんせいだ【神聖だ】みしこ1はん、よみしゃ1
 はん
 しんせき【親戚】うちざ1まり1、うやぐ1
 しんぜんのかもつのはな【神前の供物の名】く
 ぱん1
 しんぞう【心臓】まーみ1
 しんぞく【親族】うやぐ1
 しんちょう【身長】たき1
 しんちょうに【慎重に】みしこーみしこ
 しんどうする【振動する】ふっふん1
 しんねん【新年】あらとうし1
 しんぱい【心配】しわー1、むぬむい1
 しんぱいする【心配する】すむ1やむん1
 しんぴん【新品】みーむん1、めーむぬ1
 しんぶつのけいじ【神仏の啓示】むぬしらし1
 しんゆう【親友】いすぱんどーし1
 しんようする【信用する】しんじるん1
 しんりょく【新緑】ぼがぼ1
 しんるい【親類】うちざ1まり1
 す【巢】しー1
 す【酔】ペーる1
 すいえい【水泳】おんだ1
 すいじ【炊事】ぞーしき1
 すいじごや【炊事小屋】とーら1
 すいじする【炊事する】たくん1、まがすん1
 すいじば【炊事場】ふちめー1
 すいじゃくする【衰弱する】やちるん1、よ
 ーがりん1、よーるん1
 すいせい【彗星】ぼーぎぶしい1
 すいだす【吸い出す】ゆびだすん1
 すいちゅうめがね【水中眼鏡】がんきょー1、
 みーかんがん1
 すいでん【水田】たなー1、たなが1
 すいとる【吸い取る】すぶるん1
 すいひおけ【水肥おけ】こいたんぐ1
 すいふ【水夫】はこー1、ふなはこー
 すいもの【吸い物】しむぬ1
 すう【吸う】すぶるん1、〔水気を〜〕ゆぶん1
 すえる【据える】びしるん1
 すえる【饅える】しーるん1
 ずが【図画】えー1
 すがた【姿】かたち1
 すきぐし【梳き櫛】かとーし1
 すぎさる【過ぎ去る】しぎるん1、すぎゃん1
 すきだ【好きだ】すくん1
 すきとおってみえる【透き通って見える】み
 ーふかさりん1
 すきま【隙間】あいま1
 すく【梳く】〔櫛で髪を〜〕きちいるん1
 すく【鋤く】すかすん1
 すくう【掬う】すこーすん1
 すくう【救う】たしきるん1
 すくない【少ない】いきら1さん
 【すぐに】たでーま、ぴく
 【すくむ】すくむん
 【すぐれた】かねー
 すぐれている【優れている】やば1はん
 すぐれる【優れる】すぐりん1、まさるん1
 すこし【少し】ペー1、ベ「ー」な、「ペー」び
 すこしまえ【少し前】くんた1ぱり1
 【すじ】かち1
 ずじょうにのせてはこぶ【頭上に乗せて運ぶ】
 かみん1
 すす【煤】ししー1
 すずかせ【涼風】ぴりかち1

すすき【ススキ】ゆしきⅴ
 すずしい【涼しい】ぴりしゃⅴはん
 すずむ【涼む】ぴりしゃー すん
 すずめ【雀】みしゅⅴどうりⅴ
 すずめばち【ズメバチ】あがぼーちⅴ
 すずり【硯】しじりⅴ
 【すする】すぶるんⅴ
 すずる【啜る】ゆぶんⅴ
 すそ【裾】すっすⅴ
 ずたずたにさく【ずたずたに裂く】さきつあ
 ーるんⅴ
 ずつう【頭痛】あまっすくるⅴやみⅴ
 ずつうがする【頭痛がする】おまⅴはん
 すっかりわすれきる【すっかり忘れきる】け
 った ぼっさーん
 【すくくと】やいっと
 すっぱい【酸っぱい】しさⅴはん
 すてておく【捨てておく】だすたすくんⅴ
 すでに【既に】きさⅴ
 すてる【捨てる】ししんⅴ、なんがⅴっしんⅴ
 すな【砂】いしょんⅴ
 すなはま【砂浜】ぼまⅴ
 【すねる】ひんすんⅴ
 すねる【拗ねる】むじかーるんⅴ、むじかるんⅴ
 【すばしこい】からぼっさⅴはん
 すばやく【素早く】さーった、さらさら
 すべらせる【滑らせる】ししらすんⅴ
 すべりやすい【滑りやすい】なふこⅴはん
 すべる【滑る】ししりんⅴ、ししりるんⅴ
 すます【済ます】すますんⅴ
 すます【澄ます】すますんⅴ
 すませる【済ませる】すますんⅴ
 すみ【墨】しんⅴ
 すみ【炭】たんⅴ
 すみ【隅】かどうⅴ
 すむ【済む】しまいるんⅴ、すむんⅴ
 すむ【澄む】すむんⅴ、ぴりがるんⅴ

すもう【相撲】さぼあⅴ
 ずりおちる【ずり落ちる】ししりるんⅴ
 【する】すんⅴ
 する【擦る】しっすするんⅴ
 するどくとがった【鋭く尖った】ぴんとまり
 すれちがう【すれ違う】んぎちげーるんⅴ
 すわる【座る】びるんⅴ
 すんぼう【寸法】すんぽーⅴ
 せいっぱい【精一杯】「うんⅴとう、しーっペ
 ーⅴ、「しかいⅴとう
 せいけつだ【清潔だ】あざぎしゃⅴはん
 せいこうだ【精巧だ】〔技が〜〕くまⅴはん
 せいざ【正座】ぺしきびりⅴ
 せいしん【精神】くくるⅴ、すむぐくるⅴ
 せいち【生地】まりⅴ
 せいちょうする【成長する】ぶーさⅴなるんⅴ
 、ぶさはⅴなるんⅴ、ぶすとう なるん
 せいてい【正丁】ふだにんⅴ
 せいと【生徒】がくたま
 せいとうする【製糖する】さたたくん
 せいなる【聖なる】よみしゃⅴはん
 せいねん【生年】まりどうしいⅴ
 せいねん【青年】ぼがむぬⅴ
 せいねんいわい【生年祝い】まりぶなーⅴ
 せいほう【西方】いりⅴ
 せいめい【生命】ぬちいⅴ
 せiyouじん【西洋人】うらんだーⅴ
 せいり【整理】かたすかⅴ
 せいりする【整理する】まだぎるんⅴ
 せいれつする【整列する】ならぶんⅴ
 せいろ【蒸籠】せいろーⅴ
 せおわす【背負わす】〔牛馬に荷物を〜〕おー
 すんⅴ
 【せがむ】きぬんⅴ
 せき【咳】さこーⅴ
 せき【席】ざーⅴ
 せきうん【積雲】ぬりふもんⅴ

- せきたてる【急き立てる】あーらすん、あば
 たしみるん
 せきたん【石炭】しきたん1
 せきにんをおう【責任を負う】ぼくん1
 せきゆ【石油】しきゆ1
 せきらんうん【積乱雲】ぬりふもん1
 せけん【世間】しきん1
 せけんばなし【世間話】むぬばなし1
 せたい【世帯】きに1
 せつ【節】しち1
 せっかい【石灰】うるんべー1
 せっきょうする【説教する】いましみるん1、
 いましみるん1
 せっけん【石鱈】さっぷん1
 せっせとはたらくさま【せっせと働くさま】や
 いやいた
 せったいする【接待する】とーりむつん1
 せっちゃくする【接着する】すばしきるん1
 せっとくする【説得する】とーしきるん1
 せっばん【折半】ふたばぎ1
 せつまつり【節祭】ししん1
 せつまつりでこぐくりぶね【節祭で漕ぐくり
 舟】しっしんふに1
 ぜつめつする【絶滅する】たに しさん
 せなか【背中】いしなが1
 ぜに【銭】じん1
 せのたかいひと【背の高い人】たかぴいとー1
 せのび【背伸び】ぬーび1
 せばめる【狭める】しばみるん、すばみるん1
 ぜひとも【是非とも】たんでー1、「どー」でい
 ん
 せぼね【背骨】なーぶに1
 せまくする【狭くする】しばみるん1
 【せまる】[間近に、目前に～]ぬすかるん1
 せみ【セミ】しゃんしゃん1
 せめつける【責めつける】しみしきるん1
 せめる【攻める】しみるん1
 せめる【責める】しみるん1
 せん【千】しん1
 ぜん【膳】じん1
 せんい【繊維】かち1
 せんいん【船員】はこー1、ふなはこー
 せんげつ【先月】めーぬ1 しき1
 ぜんご【前後】あとさき1、めーしび1
 せんこう【線香】こー1
 せんこつ【洗骨】しんくつえー1
 せんじやく【煎じ薬】「しんじ」ふちり
 せんしゅざいがうえにでたふね【船首材が上
 に出た船】かんぼーしん1
 せんじる【煎じる】しんじるん1
 せんせい【先生】しんしん1
 せんぞ【先祖】がんと1
 せんそう【戦争】いふつあ1
 せんぞしん【先祖神】うやぴいとー1
 せんぞのれい【先祖の霊】うやぴいとー1
 せんたい【浅堆】すねー1
 せんたくする【洗濯する】あらすん、すうぬ1
 あらすん1
 せんたくする【選択する】いらぶん1
 せんたん【先端】さき1、すら1、ばなた1
 せんどう【船頭】しんどー1
 せんぱい【先輩】しゃまかた1
 ぜんぶ【全部】「がす」た、けーら、ぼふた
 ぜんぼう【前方】めー1
 せんめんき【洗面器】みんだれー1
 ぜんら【全裸】まるばい1
 せんりょう【染料】あい1
 ぜんりょくではしる【全力で走る】かしきる
 ん1
 そあくな【粗悪な】そーべー1
 【そう】えー
 そうおうする【相応する】うゆぶん1
 【そうか】えーなー
 そうがく【総額】すーだが1

- そうぎ【争議】むんどうー¹
 そうぎする【争議する】むんどうー すん
 【そうさせる】「えー」しみるん¹
 そうじ【掃除】そーじ¹
 【そうしか】「えー」ばぎる
 そうしき【葬式】そーしき¹
 そうしきをすませる【葬式を済ませる】うぐ
 るん¹
 そうじする【掃除する】ぼーぐん¹
 【そうして】「え」した
 そうしょく【装飾】かつあり¹
 ぞうすい【雑炊】ずーし¹
 【そうする】えー¹ すん¹
 そうせいする【早世する】はやじに¹ すん¹
 そうそふ【曾祖父】ういぶや¹
 そうそぼ【曾祖母】ういばー¹
 【そうだ】えーるやろ
 【そうだから】「えす」がら、えちー¹、えちる
 【そうだよ】えーさ
 そうだん【相談】そんだん¹
 そうだんする【相談する】そんだん¹ すん¹
 【そうではない】あらぬ¹
 【それでも】「えー」やばん
 そうどう【騒動】そーどー¹
 そうとうする【相当する】ひきあうん¹
 【そうなら】「えー」やちゃら
 そうめん【素麺】そーめん¹
 ぞうり【草履】さぱん¹
 そうりょ【僧侶】ぼーず¹
 【そぐ】しゆるん¹
 そくぎに【即座に】たでーま
 そこ【底】すく¹
 そこなう【損なう】あやみるん¹、いたますん¹
 、いたみるん¹
 そぜい【租税】ぞーぬ¹
 そせき【礎石】びしじ¹
 そそぐ【注ぐ】しっすん¹
- そだつ【育つ】すだつん¹、ぶすとぅ なるん
 そだてる【育てる】すだちるん¹、すなちるん¹
 そっきょうおどり【即興踊り】もーや¹
 そつぎょうする【卒業する】ぬがーるん¹
 そっちょくに【率直に】まんがたんが
 そっとうする【卒倒する】ふきん¹
 そてつ【蘇鉄】すとうち¹
 そと【外】ふか¹
 そとまご【外孫】ふかまー¹
 そとまわり【外回り】ふかまーり¹
 そね【曾根】すねー¹
 【その】うぬ¹
 そのていど【その程度】うだぎ、だぎ
 そのとおりだ【その通りだ】えーるやろ
 そのはず【その筈】えぬばち
 【そのまま】うぬ まーま
 そば【側】ぱた¹
 そふ【祖父】ぶや¹
 そぼ【祖母】ばー¹
 そまつにする【粗末にする】すまっち すん
 そまる【染まる】すまるん¹
 そむく【背く】すむくん¹
 そめる【染める】しみん¹
 そら【空】じん¹
 そる【剃る】するん¹
 【それ】うり¹
 【それだけ】うだぎ、おび¹
 【それなら】「えー」やちゃら
 【それほど】うしゅく、うんしゅく¹
 【それまで】おび¹
 そろえる【揃える】するいるん¹、するいん¹
 そん【損】すん¹
 そんけいする【尊敬する】うやまいるん¹、う
 やめーるん¹
 ぞんざいにあつかう【ぞんざいに扱う】すま
 っち すん
 そんする【損する】そん¹ すん¹

- 【そんな】「えー」ぬ
 【そんなこと】「えー」ぬ
 【そんなもの】えぬ むぬ
 そんならく【村落】むらⅴ
 【～だ】やっさ、やるんⅴ
 だい【大】ぶー
 たいおん【体温】にちいⅴ
 たいかい【大海】とーⅴ
 たいがい【大概】たげーⅴ
 たいかく【体格】ぐてーⅴ
 だいきん【代金】でんⅴ
 だいく【大工】せーぐⅴ、でーぐⅴ
 たいこ【太古】かーまⅴむがしⅴ
 たいこ【太鼓】てーくⅴ
 たいこうする【対抗する】たいⅴ すんⅴ
 だいこん【大根】でーぐにⅴ
 だいじ【大事】うーぐとぅ、でーじⅴ、みざし
 くとぅ
 だいじにしまう【大事にしまう】「あためー」
 すん、かちみるんⅴ
 たいせつに【大切に】あたらはⅴ
 【たいそう】「けっ」た、みざしⅴ
 だいたい【太腿】むんだらしⅴ
 たいだなのうふ【怠惰な農夫】ぴらすかⅴ
 だいち【台地】た「か」た
 だいちじょうのへいち【台地上の平地】ぴい
 せーⅴ
 たいちょうがわるい【体調が悪い】まーさか
 さー ねーぬ
 たいとう【対等】まーたき
 だいどころ【台所】ふちめーⅴ
 だいのう【大脳】のーⅴ
 【だいぶ】たげーⅴ
 たいふう【台風】かちふきⅴ、ぶーかちⅴ
 たいふうのふきかえし【台風の吹き返し】ふ
 きけーしⅴ
 たいへん【大変】でーじⅴ
- たいへんだ【大変だ】さっていむ
 たいへんな【大変な】みざしⅴ
 たいへんなこと【大変なこと】みざしくとぅ
 たいまつ【松明】てーⅴ
 たいも【田芋】たーむじいⅴ、むーじⅴ
 たいもう【体毛】きーⅴ
 たいよう【太陽】しなⅴ
 たいようのかさ【太陽の暈】ぴながんⅴ
 たいらにならす【平らにならす】なだらぎる
 んⅴ
 だいら【代理】みよーでんⅴ
 たいりよく【体力】くんぎⅴ
 たいんのじょし【多淫の女子】しきべー
 たうえをする【田植えをする】たなⅴいびるんⅴ
 だえき【唾液】しんⅴ
 たえる【絶える】しっしるんⅴ
 たおす【倒す】とーすんⅴ
 たおる【タオル】しっしⅴ
 たおれる【倒れる】とーりるんⅴ
 【だが】えすか
 たかい【高い】たかⅴはん
 たかくとまる【高く止まる】たかぶるんⅴ
 たかだかと【高々と】た「が」たかし
 たかなきする【高鳴きする】ふきんⅴ
 たかぶる【高ぶる】たかぶるんⅴ
 たがやす【耕す】けーすんⅴ
 たから【宝】たからⅴ
 【だから】「えす」がら
 たからがい【タカラガイ】しびⅴ
 たきぎ【薪】たむぬⅴ、たむん
 たきつける【焚き付ける】てしきるんⅴ
 【たぎらせる】たぎらすんⅴ
 【たぎる】たぎるんⅴ
 たく【炊く】たくんⅴ、〔米飯を～〕ぴいさす
 んⅴ
 だく【抱く】だぐんⅴ
 たぐさ【田草】とーさⅴ

- 【たくさん】ん「ごー」び
 たくさん【沢山】まんどんA
 【～たかない】ぼへぬ
 たくらむ【企む】たくらむん、はかるん1
 たぐる【手繰る】たぐるん1
 たくわえる【蓄える】たみるんV
 たくわえる【貯える】たこーすんV
 たけ【丈】たき1、なぎA
 たけ【岳】だきV
 たけ【竹】たきV
 【～だけ】がーし
 たけざる【竹ざる】ばーきA
 たけとみ【竹富】たきどーん1
 たけぶえ【竹笛】ぴんV
 たけゆか【竹床】たきふんた
 たこ【凧】「たー」こ
 たこ【蛸】たく1
 だし【出汁】だーしA
 たしかめる【確かめる】たしかみるん1、ただ
 すん1
 だしもの【出しもの】ぎなむぬA
 だす【出す】まるんA、んだすん1
 たすかる【助かる】ぬちいむやん
 【たすき】あじまぎ1
 たすける【助ける】たしきるん1
 たずねる【尋ねる】たじいになるん1、とーんV、
 むぬAすくんV
 【～だそうだ】えーちゅー、ちゅー
 たそがれどき【たそがれ時】あやっふわみ1
 たたかい【戦い】いふつあ1
 たたかわせる【戦わせる】あーすん1
 たたききる【叩き切る】〔固いものを～〕けー
 るん1、〔固い物、刃物で～〕だきすんA
 たたきつける【叩きつける】だすきんA、なん
 ぎるんA
 たたきのめす【叩きのめす】どみんがすんA
 たたきわる【叩き割る】たたぎばるん1
 たたく【叩く】しきだるん1、たたぐん1、ふな
 ぐん1
 ただしい【正しい】あたるんV
 ただす【質す】ただすん1
 ただちに【直ちに】ふたぎなV
 ただのもの【只のもの】いたんだ1
 たたみ【畳】たためーV
 たたむ【畳む】たたむん
 ただよわす【漂わす】おーぎるんV、なんぶり
 るん
 たたる【崇る】たたーるん1
 ただれる【爛れる】ただりん
 ～たち【～達】んだ
 ちなおる【立ち直る】たちのーるん1、むち
 のーるんA
 たつ【建つ】たつん1
 たつ【発つ】ばるん1
 たつ【立つ】だっち、たつん1
 たつ【経つ】たつん1
 たつ【辰】たちV
 だっこくする【脱穀する】しゆるん1
 だっした【脱した】ぬがりゃんA
 たつまき【竜巻】いのーV
 たてあみのいっしゅ【建て網の一種】ふつあ
 あん
 たてる【建てる】たちるん1
 たてる【立てる】たちるん1
 たとえる【例える】たとういん1
 たどる【辿る】たどるん1
 たな【棚】たなV
 たにん【他人】ぴいとうV
 たね【種】たに1
 たねがなくなる【種がなくなる】たに しさん
 たねとりさい【種取祭】たにどーりV
 たねとりさいのやまもりめし【種取祭の山盛
 飯】いばちV
 たのあぜ【田の畔】あぶし1

たのしむ【楽しむ】あまいるん、さにしゃー
 すん
 たのみ【頼み】たぬみ
 たのむ【頼む】たぬむん
 たのもし【頼母子】むえー
 たのもしくおもう【頼もしく思う】すむ、ずさ
 はーん
 たば【束】たば
 たばこ【煙草】たかぶ
 たばこいれ【煙草入れ】ぶつおー
 たばねる【束ねる】さまるん、まりぐん
 たび【旅】たび
 たびたび【度々】す「たー」すたー
 たべごろ【食べ頃】へーじぶん
 たべつくす【食べ尽くす】へぶたん
 たべもの【食べ物】ほーむぬ、むぬ
 たべものをいれるたけかご【食べ物を入れる
 竹籠】ふたじろー
 たべる【食べる】ほーん
 たぼうだ【多忙だ】ばんたっさはん
 たま【弾】たまん
 たま【玉】たまん
 たまご【卵】けー、〔蟹の〜〕ぱりゃん
 たましい【魂】たましい、たまち、まーぶ
 り
 だます【騙す】あぎまーすん
 【たまたま】た「まー」たま
 だまっていること【黙っていること】ゆだば
 り
 【たまに】た「まー」たま
 たまる【溜まる】たまるん
 たまる【貯まる】たまるん
 だまる【黙る】とぅなばるん
 たまわる【賜る】たばーらりん、たぼらいる
 ん
 たむし【田虫】うるばたぎ
 ため【為】たみ

ためいけ【溜め池】あなぶ
 ためす【試す】たみすん
 ためる【溜める】たみるん
 ためる【貯める】たみるん
 たもあみ【たも綱】たぶ
 たもつ【保つ】たむつん
 たやす【絶やす】しっさん
 たやすい【た易い】やっさはん
 たより【頼り】たぬみ
 たよりにする【頼りにする】たなぎるん
 たよる【頼る】たゆるん、むたーりるん
 たらい【盥】たれー
 【だらけ】ぶった
 だらしないすがたをする【だらしない姿をす
 る】〔帯が下に下がって〜〕ふきつあー
 ん
 たらす【垂らす】すさーらすん
 たらす【足らす】たらすん
 【だらだら】だらだら
 たりない【足りない】たらーぬ
 たりる【足りる】たりるん
 【だるい】だる、さーん
 たるき【垂木】きちい
 だれ【誰】たー
 だれが【誰が】たるぎー
 たれさがる【垂れ下がる】すさーるん
 たれる【垂れる】すさーるん、〔雫が〜〕すた
 るん、たりるん
 【だれる】だーりるん、だーりん
 【〜だろう】やっさ
 【たわむ】まんかるん
 たわら【俵】たーら、たらぐ
 たん【反】たん
 だん【壇】だん
 だん【段】だん
 たんきもの【短気者】たんきむぬ
 たんさくする【探索する】さぐるん、さばく

- ん1
たんじょういわい【誕生祝い】まりぶな-1
たんじょうする【誕生する】まりるん1
たんじょうび【誕生日】まりぴん1
たんすい【淡水】あまみじ1、みじい1
だんせい【男性】びどうむ1
だんちく【ダンチク】だちご1
だんどく【ダンドク】まるぶさ1
だんぱつ【断髪】だんぱち1
だんぱん【談判】だんぱん1
だんぱんする【談判する】かきあうん1
たんぼ【田んぼ】たな-1、たなが1
たんめい【短命】ぬちいまる1はん
ち【地】じい-1
ち【血】じい-1
ちいさい【小さい】いしゃが1はん、ぐま1はん
ちいさくなる【小さくなる】しいぴりるん1、
すくまるん1
ちえ【知恵】じんぶん1
ちかい【近い】すか1はん
ちがう【違う】あらぬ1、ちご-ん1
ちかづく【近づく】すかは1なるん1、ぬすか
るん1、め-1ぬすかるん1
ちかみち【近道】すかみち1
ちがや【チガヤ】がや1
ちぎる【千切る】すむん1
ちぎれる【千切れる】むっしるん1
ちくせいのたべものかご【竹製の食べ物籠】び
らぐ1
ちくどうん【筑登之】ちくどうん1
ちすじ【血筋】びき1
ちち【乳】じい1
ちち【父】いや1
ちちおや【父親】いや1
ちちかたのしんせき【父方の親戚】たにかた
うやぐ1
ちちこまる【縮こまる】すくまるん1
ちぶさ【乳房】じい1、ずっち
ちほう【痴呆】ういぶら1
ちゃ【茶】さ1
ちやがし【茶菓子】さうき1
ちやづつ【茶筒】じんぎり1
ちやとう【茶湯】さと-1
ちやわん【茶碗】さばん1
ちゅういする【注意する】き-1しきるん1
ちゅうげん【忠言】す-むに1、ゆしぐとう1
ちゅうごく【中国】と-1
ちゅうざい【駐在】ゆんさん1
ちゅうさいする【仲裁する】あがすん1
ちゅうざら【中皿】なかざら1
ちゅうしょく【昼食】ぴいすまりむぬ1
ちゅうどくさせる【中毒させる】びら-すん1
ちゅうどくする【中毒する】び-るん1
ちょう【蝶】ぱびる1
ちょうけい【長兄】ぶしゃ1
ちょうげん【調弦】ちんだみ
ちょうこう【兆候】しるし1
ちょうし【長姉】ぼ-ま1
ちょうじゅ【長寿】ちよ-み-1、ながいき1
ちょうじょう【頂上】ちじ1
ちょうしょく【朝食】あさむぬ1
ちょうだいする【頂戴する】たぼ-らりん1
ちょうていする【調停する】さぼくん1
ちょうなん【長男】さこ-し1
ちょうめい【長命】ちよ-み-1
ちょうりゅう【潮流】す-びき1
ちよきんする【貯金する】じん1たみるん1
ちよぞうする【貯蔵する】たこ-すん1
ちよま【苧麻】ぶ-1
ちらかす【散らかす】しきぼ-るん1
ちらかる【散らかる】ぼ-りゃん1
ちらす【散らす】ぼ-るん1
ちらばる【散らばる】ぼ-りゃん1
ちり【塵】あるふた1

- ちりょうする【治療する】いしゃんが1 はか
るん1
- ちんでんする【沈澱する】ぴりがるん1
- ついていく【付いて行く】しき1 んぐん1
【ついばむ】しきほーん1
- ついひ【追肥】またぐい1
- ついやす【費やす】すこーん1
- つうじがよくなる【通じが良くなる】さぎる
ん1
- つうようする【通用する】とーるん1
- つえ【杖】ぐさん1
- つか【柄】すか1
- つかいでがある【使い出がある】すけーとー1
あん1
- つかう【使う】すこーん1
- つかさ【司】すかさ1
- つかまえる【捕える】かみしきるん1、かみん1
- つかみだす【掴み出す】すかみんだすん1
- つかむ【掴む】かみん1、すかむん1、〔箸など
を〜〕ばつあむん1
- つかる【漬かる】すかるん1
- つかれ【疲れ】ぼーがり1
- つかれはてる【疲れ果てる】がんどーりん1
- つかれる【疲れる】くたんでいるん1、だーり
ん1、ぶがりるん1、ぼたりるん1、ぼたりん1
- つかれをとる【疲れをとる】ぼーり1のがすん1
- つかわす【遣わす】やらすん1
- つき【月】〔天体の〜〕しけん1、〔月日の〜〕
ちき1
- つきあい【付き合い】ぴいとうぴれー1、ぴら
い1、ぴらす
- つきあげる【突き上げる】しきあんぎるん1
- つきあたる【突き当たる】しきあたるん1
- つきくずす【突き崩す】どみがすん1
- つきさす【突き刺す】ぬぐん1
- つきださせる【突き出させる】しきんだすん
- つきだす【突き出す】しきんだすん
- つきでる【突き出る】しき1んじるん1、とっ
んちるん1
- つきとおす【突き通す】とふかすん1
- つきとばす【突き飛ばす】うしとーすん、し
きとっばすん1
- つく【搗く】すくん1、〔臼・杵で〜〕すさぎ
るん1
- つく【着く】すくん1
- つく【突く】しくん1、すくん1
- つぐ【注ぐ】ばらすん1
- つぐ【継ぐ】つぐん1
- つくす【尽くす】ぎばるん1
- つぐなう【償う】ぱくん1
- つくり【造り】すくり1
- つくる【作る】しこーるん1、すくるん1
- つける【漬ける】しきるん1
- つける【点ける】〔灯りや火を〜〕しきるん1、
〔薪に火を〜〕てしきるん1
- つげる【告げる】いーしきるん1
- つたない【拙い】すうな1はん
- つち【土】んた1
- つづかせる【続かせる】すながらすん1
- つづく【続く】ちじくん1
- つづけてみる【続けて見る】みーとーすん1
- つづける【続ける】ちじきるん1
- つつしむ【慎む】ちちすむん1
- つったつ【突っ立つ】だっち
- つつむ【包む】すむん1
- つとめる【勤める】すとうみるん1
- つな【綱】すな1
- つなぎかえる【繋ぎ変える】〔牛馬を〜〕むす
なすん1
- つなぎとめる【繋ぎとめる】ばつあみるん1
- つなぐ【繋ぐ】〔牛馬などの動物を〜〕ばつあ
みるん1
- つなみ【津波】ぶーなん1
- つねに【常に】い「ちい」ん、しゃー1

【つねる】すむん1
 つねる【抓る】じんぱるん
 つの【角】しのー1
 つば【唾】しん1
 つばさ【翼】ぱにV
 つばめ【燕】またさ1
 つぶて【礫】いしふくV
 つぶれる【潰れる】ぴさんたらすんV
 つぼ【坪】ちぶV
 つぼ【壺】すうぶV
 つま【妻】とうんV
 つまさきだち【つま先立ち】とうんたちV
 つまだつ【爪立つ】とうんたちびるんV
 つまにする【妻にする】そーるんV
 つまみおる【摘み折る】ぶるん1
 つまる【詰まる】すうまるん1
 つまをめとる【娶る】〔妻を〜〕とうみん1
 つみ【罪】とうが1、ばつあ1
 つみかさねる【積み重ねる】すむんV
 つみきる【摘み切る】すむん1
 つみとる【摘み取る】むっすんV
 つむ【摘む】すむん1、〔木の実などを〜〕ぶ
 るんV
 つむ【積む】すむんV、ぬしんV
 つむじかぜ【つむじ風】まーじゃかちV
 つめ【爪】しみV
 つめこむ【詰め込む】うしくむんV
 つめたい【冷たい】ぴじゆる1さーん、ぴり1
 つめたいかぜ【冷たい風】ぴりかち1
 【つもり】しゃーみ1
 つゆ【梅雨】ゆどうあみ1
 つゆ【露】ゆす1
 つよい【強い】すさ1はん
 つよくたたく【強く叩く】まるばすんV
 つよくたばねる【強く束ねる】ふんまるぐんV
 つよくなげいれる【強く投げ入れる】〔液体の
 中に物を〜〕だぼんがすん1
 つよくふる【強く振る】すくふあすんV
 つよめる【強める】しいみるん1
 つらぬく【貫く】ぬぐん1
 つらねる【連ねる】すながらすんV、すながる
 んV
 つりあう【つり合う】あたるんV
 つりいと【釣り糸】なん1
 つりえさ【釣り餌】むんだに1
 つりざお【釣り竿】じぼーV
 つりざおのくふう【釣竿の工夫】あんざらだ
 ーぐ1
 つりさげる【吊下げる】さんぎるん1
 つりばり【釣針】じばりV
 つる【釣る】ほすん1
 つるす【吊るす】さんぎるん1
 つるべ【釣瓶】ぶらV
 つれ【連れ】ぐー1
 つれていく【連れていく】そりV んぐんV、そ
 んぐんV
 つれる【連れる】そーるんV
 つんぼ【聾】みんかー1
 て【手】しー1
 てあし【手足】しーぱん1
 てあらい【手荒い】しー1あらはーん
 【〜である】やるんV
 ていたいする【停滞する】ゆどうむん1
 ていねいに【丁寧に】みしこーみしこ
 ていへいち【低平地】とーV
 てがあらっぽい【手が粗っぽい】しー1あらは
 ーん
 てがおそい【手が遅い】しーぬふつあはん
 てがける【手がける】ししきるん
 【でかした】したい
 てがすぐでる【手がすぐ出る】しー1ぺしゃ1
 はん
 てがすばしこい【手がすばしこい】しー1ぺし
 ちゃ1はん

てがのろい【手のろい】しーぬふつあはん
 てがみ【手紙】しがみ1
 てがら【手柄】ていがら1
 てきたいする【敵対する】たい1 すん1
 【てきぱきと】さっと
 できる【出来る】なーるん1
 てぐち【出口】んじふち1
 てくび【手首】「しぬ」ふき
 てじな【手品】ほっか1
 てだすけ【手助け】しがねー1
 てつだい【手伝い】かしー1、しがねー1
 てっぼう【鉄砲】しゅぶ1
 てぬぐい【手拭い】しっし1
 てのしごとがおそい【手の仕事が遅い】しー
 にふつはん
 てのゆび【手の指】しんび1
 てばやい【手早い】しー1ペしゃ1はん
 てばやく【手早く】さっと
 【でぶ】ばたぶたー1
 てぶね【出船】んじふに1
 てま【手間】しいま1
 てまちん【手間賃】しいま1
 てまどる【手間取る】しまはかるん1
 てらす【照らす】あがらすん1
 てりはぼく【テリハボク】やらぶ1
 てる【照る】〔太陽が～〕しるん1
 でる【出る】んじん1
 てをあわせる【手を合わせる】しー1うさぎる
 ん1
 てをつける【手をつける】ししきるん
 てん【天】じん1
 てんき【天気】おしき1、わしき1
 てんきがわるい【天気が悪い】やなわしき1
 てんこう【天候】おしき1、わしき1
 でんごんする【伝言する】くとうしきるん1
 てんじょう【天井】しんじょー1
 でんせんびょう【伝染病】はやりやん1
 てんてこまい【てんてこ舞い】ぱったらげー
 てんとうする【転倒する】まるぶちん1
 てんぷら【天ぷら】しんぷら1、ぽんべー1
 てんません【伝馬船】ていんま1
 と【戸】やどう1
 とあみ【投網】うちあん1
 といきく【問い聞く】とういすくん1
 といし【砥石】とうし1
 といせめる【問い責める】とうしみるん1
 【どいつが】たるぎー1
 といつめる【問い詰める】とういしみるん1、
 とうしみるん1
 とう【唐】とー1
 とう【問う】たじいになるん1、とーん1
 とう【籐】くち1
 【どう】ねー1、「ねー」や
 【どうか】たんでー1、「ちゃー」が
 【どうかね】「ねー」や
 とうがらし【トウガラシ】ぐす1
 とうがん【冬瓜】すぶりん1
 とうき【冬季】ふっひ1
 どうきせい【同期生】まーじい1
 とうきび【唐黍】や「た」ぶ
 どうぐ【道具】だーぐ1
 どうくつ【洞窟】いん1
 どうけつ【洞穴】いん1、〔海中の～〕がまん1
 とうじ【冬至】とんじー1
 とうじき【陶磁器】やぎむぬ1
 【どうして】ねーき1、ねーきる
 【どうしても】ぬーしん、「のー」しん
 【どうぞ】「どー」でいん
 どうたい【胴体】どー1
 【どうだい】「ちゃー」が
 とうちする【統治する】うさみるん1
 とうちやくする【到着する】すくん1
 どうとう【同等】まーたき
 どうどうとあるくさま【堂々と歩くさま】だ

- つふあだっふあ
 どうねん【同年】ゆぬとうしⅠ
 とうはつ【頭髮】あまじⅠ
 とうひょう【投票】ふだいりⅤ
 とうぶ【頭部】あまっすくるⅠ
 どうぶつ【動物】いすむしⅠ
 とうほう【東方】あーりⅤ、ありかたⅤ
 とうぼうする【逃亡する】ぴんぎるんⅠ
 どうめい【童名】やらびなーⅠ
 どうり【道理】どーりⅠ
 とうりょう【頭領】かしらⅠ
 どうろ【道路】みちいⅤ
 どうろしゅうり【道路修理】みちいくせーⅤ
 とお【十】とーⅤ
 とおい【遠い】とうさⅤはん
 とおいところ【遠い所】とうけーⅤ
 とおす【通す】とーすんⅠ
 とおのく【遠のく】ぬぎるんⅠ
 とおりにくい【通りにくい】〔刺、木やつるが
 多くて〜〕あざらはーん
 とおる【通る】とーるんⅠ
 とおれない【通れない】〔荒れて〜〕あざらは
 ーん
 とが【咎】ぼつあⅠ
 とかげ【トカゲ】ぼずらⅠ
 とかす【溶かす】たらすんⅤ
 とがめる【咎める】とうがみるんⅠ
 とがらせる【尖らせる】ぴんとまらすんⅠ
 とがる【尖る】ぴんとまるんⅠ
 とがをかぶる【咎を被る】ぼつあかぶん
 ときがたつ【時が経つ】んぐんⅤ
 とききかせる【説き聞かせる】えにすかすんⅤ
 【どきどき】どんどん、ふとうふとう
 とぎれる【途切れる】しっしるんⅠ
 とく【得】とぅくⅠ
 とく【徳】とぅくⅠ
 とぐ【研ぐ】あーらすん、とうぐんⅠ
 どく【毒】どぅくⅠ
 どくしん【独身】たんがーむぬⅠ
 とくそくする【督促する】いみるんⅠ
 とげ【棘】じいーⅠ
 とける【溶ける】たりるんⅠ、とうきるんⅠ
 とける【融ける】とうきるんⅠ
 どこ【何処】ざーⅠ
 【どこの】ざぬ
 どこの【何処の】ざーぬⅠ
 とこのま【床の間】ざとくⅠ、とぅくⅤ
 とこのまのかみだな【床の間の神棚】ぶざす
 けーⅠ
 とこや【床屋】だんぼちーやー
 ところ【所】とぅくるⅠ
 とさつする【屠殺する】ぼずらすんⅤ
 とし【年】とぅちいⅠ
 とし【歳】とぅちいⅠ
 としうえ【年上】しじゃーⅠ、しゃまⅠ
 とししたのきょうだい【年下の兄弟】うとぅ
 ーとぅⅠ
 としより【年寄り】うしとぅⅠ
 とじる【閉じる】ふーんⅤ、ふさぐんⅤ、〔目を〜
 〕ふつあるんⅤ
 としをとる【年を取る】ういるんⅠ、とぅちい
 とぅるんⅠ
 としをとる【歳を取る】うしとぅⅠなるんⅠ
 【どすん】だーんた
 【どたあんと】だーんた
 どだい【土台】びしじⅤ
 とち【土地】じいーⅠ
 どっかと【どかっと】どっふあつた
 【どっかり】どっふあつた
 【どっくに】きさⅠ
 とつぜん【突然】あたⅤ
 とってすてる【取って捨てる】とぅりⅠっし
 ーんⅤ、「とぅり」っしんⅤ
 とつべんだ【訥弁だ】ふちいくばはん

とてもいたい【とても痛い】あがよー
 とどく【届く】とうとうぐん1
 とどける【届ける】とうとうぎるん1
 とどのう【整う】とうとうのーん1
 とどろかせる【轟かせる】とうゆますん1
 【どなた】たー1
 どなる【怒鳴る】たけーるん1、どうげーるん1
 【どの】ざーぬん、ざぬ
 とのしろ【登野城】とうぬすく1
 【どのような】ぬ「ー」しゃる
 【どのように】ねーる1
 とび【鳶】ぺふつあ1
 とびうお【飛魚】とうびゆ1
 とびおりる【跳び下りる】ぶんちうちん1
 とびこえる【飛び越える】とうびくいるん1
 とびこむ【飛び込む】とうぷちん1
 とびでる【飛び出る】とうんじるん1
 とぶ【跳ぶ】ふんつん1
 とぶ【飛ぶ】とうぶん1
 とぼしい【貧しい】ぴんそー1
 【どぼんと】だぼんた
 【とまどう】すまどうるん1
 とまらせる【泊まらせる】とうまらすん1
 とまる【泊まる】とうまるん1、やどとうる
 ーん
 とめる【止める】やみるん1
 とも【鱸】とうむ1
 ともだち【友達】どうし1
 どもりがちだ【吃りがちだ】ふちいくばはん
 どもる【吃る】したくぼるん1
 【どやしつける】しゃみしきるん
 【どやす】うどやがすん1
 【とよます】とうゆますん1
 【とよむ】とうゆまりん1
 とら【虎】とら1
 どら【銅鑼】どらん1
 とらえる【捕える】すかむん1
 とらせる【取らせる】とらしみん
 とり【酉】ととり1
 とり【鳥】ととり1
 とりあつかう【取り扱う】むたすくん1
 とりかえす【取り返す】ととりかいすん1、と
 ーりけーすん1
 とりかえる【取り替える】ととりかいるん1
 とりくむ【取り組む】ととりくむん1
 とりこむ【取り込む】ととりくむん
 とりさる【取り去る】「ととり」っしん1
 とりしまる【取り締まる】ととりしまるん1
 とりだす【取り出す】ととりんだすん1
 とりたてる【取り立てる】ととりたちん1
 とりちがえる【取り違える】まちがいん1
 とりにがす【取り逃がす】ととりぴんがすん1
 とりのす【鳥の巣】しー1
 とりのぞく【取り除く】ととり1 っしるん1
 とりはからう【取り計らう】ととりはかるー
 ーん1
 とりはずす【取り外す】ととり1ばんつん1
 とりまぜる【取り混ぜる】ぶくむん1
 とりもどす【取り戻す】ととりかいすん1、と
 ーりむどうすん1
 どりょくする【努力する】ぎぼるん1
 とりよせる【取り寄せる】ととりゆしるん
 どりーね【ドリーネ】あぶ1
 とる【取る】とるん1
 【どれ】ざー1
 【どれほど】いかすく
 どろ【泥】どらーる1
 とろう【徒労】んなあわり1
 【とろかす】たらすん1
 だろだらけになる【泥だらけになる】どらる
 びちゃー1 なるん1
 だろぼう【泥棒】ぬすととり1
 だろみち【泥道】どらるみち1
 どんてん【曇天】あまおしき1

- 【どんと】だーんた
 【どんどん】みっ「ふぁ」ん
 【どんな】ぬ「ー」しゃる、ねーん、ねーしゃる
 ん
 どんなふう【どんな風に】ねーるん
 どんぶり【丼】どんぶりん
 とんぼ【蜻蛉】あいじん
 な【名】なーん、なんん
 な【菜】なんん
 ない【無い】ねーぬん
 【ないがしろにする】かるんじるん
 ないしむら【長石村】なすむらん
 ないぞう【内臓】ばたん
 ないちじん【内地人】やまとうんぶいとうん
 ないふ【ナイフ】しぐん
 なう【綱う】なーすんん、なすんん
 なえる【萎える】だーりるん
 なおす【治す】のーすんん
 なおす【直す】のーすんん
 なおる【治る】のーるんん、みしゃーん なるんん
 なおる【直る】のーるんん
 なか【中】ながん
 ながあめ【長雨】ながあみん
 ながい【永い】なーんはん
 ながい【長い】なーんはん
 ながい【長居】ながびりん
 ながいあいだ【長い間】なげーくとう
 ながいき【長生き】ながいきん
 ながいきする【長生きする】ながいぎん すんん
 ながいこと【長いこと】なげーくとう
 なががいい【仲がいい】むつまっんさーん、む
 つまっさんはん
 ながさ【長さ】ながん
 なかす【泣かす】なーがすんん
 ながす【流す】なんぶらすんん、〔血、汗など
 を〜〕ばらすんん
 なかど【中戸】ながやどんん
 なかなおりする【仲直りする】すむびらすんん
 ながながとした【長々とした】な「ー」なー し
 ゃんん
 なかなかみることのない【中々見ることのな
 い】みーどろーんさーん
 なかに【中に】ながん
 ながびく【長引く】ながびくんん
 なかま【仲間】ぐーん
 なかみのないしるもの【中味の無い汁物】ん
 なすーん
 ながめる【眺める】ながみんん
 ながもち【長持ち】なーばぐん
 ながもちする【長持ちする】たむつんん
 ながれだす【流れ出す】なんぶりんん
 ながれぼし【流れ星】ゆーべーぷち
 ながれる【流れる】なーりんん
 ながわずらい【長患い】ながやみん
 なきかかる【泣きかかる】なぎすかりん
 なきくたびれる【泣きくたびれる】なぎぼた
 りるんん
 なきこがれる【泣き焦がれる】なきくがりん
 【なぎさ】すーぬん ぶちん、「ばま」ぶちん
 なきしおれる【泣きしおれる】なぎぼたりる
 んん
 なぎたおす【薙ぎ倒す】けーりん とーすんん、
 なぎとーすんん
 なきつかれる【泣き疲れる】なぎぼたりるんん
 なきつく【泣きつく】なぎすかりん
 なきまね【泣き真似】なぎまーべん
 なきむしだ【泣き虫だ】なちぶさーん
 なく【泣く】なーぐんん
 なく【鳴く】なーぐんん
 なく【凧ぐ】とーりるんん、なだらぐんん
 なくさめる【慰める】なぐさみんん
 【なくす】うすなすんん、ねーなさんん
 【なくなる】ねーん なるんん
 なくなる【亡くなる】まらすんん

なぐる【殴る】くらすん、すなすん、たたぐ
 ん、ばみがすん、やーらぎるん
 なげあみ【投げ網】うちあん
 なげいれる【投げ入れる】だくむん
 なげきかなしむさま【嘆き悲しむさま】あが
 よーあがよー
 なげくさま【強く痛み嘆くさま】あがよーあ
 がよー
 なげこむ【投げ込む】うちくむん
 なげすてる【投げ捨てる】すか っしりん、な
 んが、ししるん、なんが、っしん、ぼん
 ぎるん
 なげてたたきつける【投げて叩きつける】た
 たしきるん
 なげる【投げる】なんぎるん
 なこうど【仲人】なかだち
 なごりおいしい【名残惜しい】なぐりしゃはん
 なさけ【情け】なさき
 【なじむ】なすうくん
 なすび【茄子】なしび
 なぜ【何故】ねーきん、ねーきる
 なぞなぞ【謎々】ぬーとう
 なだかい【名高い】うとうだがはん、なー
 たかはん
 なだめる【宥める】なだみるん
 【なだらかだ】なだらぎゃーん
 【なだらかにする】なだらぎるん
 なつ【夏】なちい
 なつかしい【懐かしい】なすかっさはん
 なつぎ【夏着】なちすうぬ
 なつく【懐く】なすうくん
 なづけおや【名付け親】なーしきうや
 なつまけ【夏負け】なちいまき
 なでる【撫でる】しっつあーすん
 ななじゅう【七十】ななず
 ななつ【七つ】ななち
 なに【何】ぬー
 なにが【何が】ぬー¹や
 なにごと【何事】ぬーぐとう
 なにも【何も】ぬー¹ん
 なのか【七日】なんが
 なのる【名乗る】なん、えぬん
 なべ【鍋】なび
 なべをこがす【鍋を焦がす】なびふつあらす
 ん
 なま【生】なま
 なまえ【名前】なー、なん
 なまき【生木】なまき
 なまぐさい【生臭い】おーふつあはん、な
 まふささーん、なまふつあはん
 なまけ【怠け】ふゆー
 なまけもの【怠け者】なまふつありむぬ、ふ
 ゆーむぬ
 なまこ【海鼠】しきり
 なまごめ【生米】なまぐみ
 なまもの【生物】なまむぬ
 なまる【鈍る】なまるん
 なみ【波】なん
 なみうちぎわ【波打ち際】すーぬ、ふち
 なみだ【涙】なだ、なんだ
 なみだがでる【涙が出る】なんだ、んじるん
 なみだぐむ【涙ぐむ】なんだ、んじるん
 【なめらかだ】なふこはん
 なめる【舐める】しいぴるん、すぷるん、ぬ
 っふえーるん
 なやむ【悩む】すむ、やむん
 【ならい】なれー
 ならう【習う】ならすん
 ならず【均す】なだぎるん、なだらがすん
 ならず【鳴らす】ならすん
 ならぶ【並ぶ】ならぶん
 ならべる【並べる】すながるん、ならびるん
 なりわい【生業】むぬへーずく
 なる【鳴る】なーるん

【なるほど】えーなー
 なれる【慣れる】なーれるん、ならずん
 なわ【縄】すな
 なわしろ【苗代】なっす
 なわしろいちご【ナワシロイチゴ】てーし
 なわしろだ【苗代田】なっすだー
 なをつける【名を付ける】なーしきん
 なん〜【何〜】うー
 なんかい【何回】うーむし
 なんぎ【難儀】あわり、なんぎ
 なんきんぶくろ【南京袋】「かしがー」ふくる
 なんさい【何歳】うーちい
 なんせいほう【南西方】「さん」ば
 【なんたることか】あきさみよー、はっさみ
 よー
 なんちょうになったひと【難聴になった人】み
 んとーりむん
 なんちょうになる【難聴になる】みんとーら
 【なんでも】ぬ「ー」やぼん
 【なんと】ぬ「ー」た、ぬーたる
 なんといってるか【何と言ってるか】ぬ「ー」
 た、ぬーたる
 なんにん【何人】うたーり
 なんぼう【南方】ペー、¹「ペーぬ」かた、¹「ペ
 ったぬ」かた
 なーらぼん【ナーラボン】なーらぼん
 にあう【似合う】うつるん、ばいるん
 にいさん【兄さん】びらま
 にえたぎらせる【煮えたぎらせる】たぎらす
 ん
 にえたぎる【煮えたぎる】たぎるん
 にえる【煮える】ねーるん
 におい【匂い】かー
 においがする【匂いがする】かーすん
 においがつよい【匂いが強い】かーぬ すさは
 ぬ
 におう【匂う】かーすん

にかい【苦い】ぎーはん
 にかえす【煮返す】ふつあーすん
 にかおもい【荷が重い】にんぬ んさはん
 にかがす【逃がす】ぴんがすん
 にかたけ【苦竹】ぎーだぎ
 にぎやかにさわぐ【賑やかに騒ぐ】はなやか
 すん
 にぎわす【賑わす】はなやかすん
 にく【肉】にく
 にくい【憎い】にたはん
 にくしん【肉親】うや
 にくまれぐち【憎まれ口】ばたふちりむぬ
 にくらしい【憎らしい】みっふあはん
 にげまわる【逃げ回る】ぴんぎまーるん
 にげる【逃げる】ぴんぎるん
 にこにことわらう【にこにこと笑う】さにさ
 に しゃん
 にごる【濁る】やなごるん
 にし【西】いり
 にじ【虹】のーじん
 にしめる【煮しめる】んぶすん
 にじゅう【二十】にんず
 にしゅうき【二週忌】ふたなんが
 にじりよる【にじり寄る】しきつあーすん
 にせる【似せる】にーらすん
 にたつ【煮立つ】ふつん
 にちぼつ【日没になる】しな¹いるん
 にっすう【日数】ぴんちい
 にっちゅう【日中】ぴいす、まーびる
 にている【似ている】にししゃはん
 にとうぶん【二等分】ふたばぎ
 にばい【二倍】まーおーび
 にぶる【鈍る】〔切れ味が〜〕なまるん
 にほん【日本】やまとう
 にほんご【日本語】やまとうむに
 にほんじん【日本人】やまとう¹ぶいとう
 にほんほんど【日本本土】やまとう

にもつ【荷物】にむちい¹
 にゅうどうぐも【入道雲】たかふもん¹
 にはら【葎】びら¹
 にはらむ【睨む】みーしきるん
 にはる【似る】にししゃ¹はん
 にはる【煮る】ねっすん¹、ぼがすん¹
 にはわ【庭】みなー¹、みなが¹
 にはわかあめ【俄雨】あたあみ
 にはわとり【鶏】ごっか¹
 にはわたりのたまご【ニワトリの卵】ごかけー¹
 にはんげん【人間】にんぎん¹、ぴいと¹
 にはんじょうがない【人情がない】すむ¹ ねー
 ぬ¹
 にはんじん【ニンジン】あがでーぐに¹
 にはんしんする【妊娠する】ぼるむん¹
 にはんずう【人数】にんずー¹
 にはんたい【忍耐】がー¹
 にはんたいりよくがつよい【忍耐力が強い】が
 ーずさはん
 にはんにく【大蒜】びる¹
 にはんむ【任務】しゅくぶん¹
 ぬいもの【縫い物】ぬいむぬ¹
 ぬう【縫う】ぬーん¹
 ぬか【糠】ぬが¹
 ぬきだす【抜き出す】ぴき¹ぬぐん¹
 ぬきや【貫き家】ぬきひー
 ぬきんでる【抜きんでる】ぬぎんだん
 ぬく【抜く】ぬぐん¹
 ぬぐ【脱ぐ】ぬぐん¹、〔着物を～〕ぼちるん¹
 ぬくく【温く】あ¹てー¹し
 ぬける【抜ける】ぬぎるん¹
 ぬすっと【盗人】ぬすとうり¹
 ぬすむ【盗む】ぬすむん¹
 ぬの【布】ぬぬ¹
 ぬのさらし【布晒し】ぬのさらし¹
 ぬま【沼】あなぶ¹
 ぬらす【濡らす】ぞっふわらすん¹、ぞっふわ
 るん¹
 ぬりたくる【塗りたくる】ぬりだっくわーす
 ん
 ぬりつける【塗りつける】だっくわすん
 ぬる【塗る】ぬるん¹
 ぬるくする【温くする】ぬるみるん¹
 ぬれる【濡れる】ぞっふわりん¹
 ね【子】にー¹
 ね【根】にん¹
 ねいる【寝入る】たーりん¹、ぬっふたりるん
 ねがいである【願い出る】にげー¹ んじるん¹
 ねがう【願い】にげー¹
 ねかしつける【寝かしつける】ぬふちるん
 ねかせる【寝かせる】ぬふちるん
 ねぎ【葱】しびる¹
 ねこ【猫】まゆ¹
 ねこそぎとる【根こそぎ取る】こーすん¹
 ねこそぎにとる【根こそぎに取る】〔ヘラで～
 〕そーるん¹
 ねじまがる【ねじ曲がる】むじかるん¹
 ねじまがる【振じ曲がる】むじかーるん¹
 ねじまげる【ねじ曲げる】むじまーすん¹
 ねしょうべん【寝小便】ゆすぱり¹
 ねじる【振じる】むじまーすん¹
 ねじれる【振じれる】むじかーるん¹、むじか
 るん¹
 ねそべる【寝そべる】ゆくたーるん¹
 ねたましい【妬ましい】にた¹はん
 ねたむ【妬む】にたむん¹
 ねだやしになる【根絶やしになる】〔作物が～
 〕たに しさん
 【ねだる】いみるん¹、きぬん¹
 ねだん【値段】でん¹
 ねつ【熱】にちい¹
 ねつがでる【熱が出る】にち¹ んじるん¹
 ねづく【根付く】にんうりん、にん¹すくん¹
 ねっしん【熱心】すむ¹いり¹

ねっちゅう【熱中】まーぷりⅴ
 ねっとう【熱湯】あちいゆⅴ
 ねつびょう【熱病】ぷーきⅴ、やきーⅴ
 ねどこ【寝床】とぅくⅴ
 ねばつく【粘付く】むつつあるんⅴ
 ねばっこい【粘っこい】むつつあⅴはん
 【ねばねばする】むつつあⅴはん
 ねばりけのないさま【粘り気のない様】さば
 さば
 ねぼう【寝坊】にーぶやーⅴ
 ねぼすけ【寝坊助】にーぶやーⅴ
 ねむたい【眠たい】ぬふたⅴはん
 ねむる【眠る】ぬっふんⅴ
 ねもと【根元】にんむとぅⅴ
 ねる【寝る】ぬっふんⅴ
 ねわけする【根分けする】にんばぎるんⅴ
 ねん【年】にんⅴ
 ねんぐ【年貢】ぞーぬん、にんぐⅴ
 ねんずる【念ずる】にんじるんⅴ
 ねんちょう【年長】しじゃーⅴ
 ねんど【粘土】んたⅴ
 ねんねん【年々】にんにん
 ねんぶつしゃ【念仏者】にんぶちⅴ
 ねんりょうゆ【燃料油】あばⅴ
 ねんれい【年齢】とぅちいⅴ
 の【野】ぬーⅴ
 のいちご【野いちご】てーしⅴ
 のう【脳】のーⅴ
 のうこう【農耕】むぬすくりⅴ
 のうこうだ【濃厚だ】かたⅴはん
 のうさぎょう【農作業】ぴてーⅴするんⅴ
 のうさく【農作】さくほーⅴ
 のうにゅうする【納入する】うさみるんⅴ
 のうべんだ【能弁だ】ふちいⅴやばⅴはん
 のうりつがあがる【能率が上がる】だっつあ
 ぐんⅴ
 のからむし【ノカラムシ】ばごーⅴ

のきさき【軒先】あまばんぎⅴ
 のきば【軒端】あまばんぎⅴ
 のこぎり【鋸】ぬぎりⅴ
 のこす【残す】のがすんⅴ
 のこり【残り】ぬぐりⅴ
 のこる【残る】のがるんⅴ
 のせる【乗せる】ぬしんⅴ
 のぞみ【望み】ぬずみⅴ
 のぞむ【望む】ぬずむん
 のど【喉】ぬどぅⅴ
 のどがかわく【喉が渴く】ぬどぅⅴかりるんⅴ
 のどもと【喉元】ぬぶしんⅴ
 のばす【延ばす】ぬばすんⅴ、ぬびるんⅴ、ぴそ
 ーぎるん
 のはら【野原】ぬーⅴ
 のびる【伸びる】ぬぶんⅴ
 のぶどう【野ブドウ】かなぶⅴ
 のべる【伸べる】ぬびるんⅴ
 のべる【延べる】ぴそーぎるん
 ～のほうへ【～の方へ】が
 のぼせる【逆上せる】ぬぶしるんⅴ
 のぼりざか【上り坂】さかⅴ
 のぼる【昇る】あがるんⅴ
 のぼる【登る】ぬぶるんⅴ
 のみ【蜜】ぬんⅴ
 のみ【鑿】ぬんⅴ
 のみおろす【飲み下ろす】ぬみ うらへ
 のみこむ【飲み込む】ぬみくむんⅴ
 のみつくす【飲み尽くす】ぬぶたんⅴ
 のみのこす【飲み残す】ぬみのがすんⅴ
 のむ【飲む】ぬむんⅴ
 のらぎ【野良着】ぴてーすうぬⅴ
 のらんそう【卵巣】〔鯉など魚の～〕はらみⅴ
 のり【糊】ぬりⅴ
 のりおくれる【乗り遅れる】ぬりうくりるん
 のりと【祈詞】ばんⅴ
 のりはずす【乗りはずす】ぬりうくりるん

- のりもの【乗り物】ぬりむぬⅴ
 のる【乗る】ぬぶるんⅴ、ぬるんⅴ
 のる【載る】ぬるんⅴ
 のろい【呪い】いきろーⅠ
 のろい【鈍い】どうなはん
 【のろのろしている】どうなーⅠさーん
 は【歯】ぱんⅠ、ふちいぬⅴ ぱんⅠ
 は【葉】ぱーⅴ
 ばあさん【おばあさん】うしとうぱーⅠ
 【ばあっと】ぱーった
 【はあはあ】はーはー
 【はい】おー
 ばい【倍】まーおーび
 はいからだ【ハイカラだ】はいからⅠさーん
 はいきび【ハイキビ】にんどーしいⅠ
 ばいしゃくにん【媒酌人】なかだちⅠ
 はいしょ【拝所】うがんじゅ、わーⅠ
 はいすいこう【排水溝】みぞーりⅴ
 はいせつしちらかす【排泄し散らかす】〔大便
 を〜〕ふつⅠ まりぼーるんⅠ
 はいせつしちらす【排泄し散らす】〔大小便
 を〜〕まりぼーるんⅴ
 はいぞう【肺臓】ふくⅠ
 はいつくぼう【這いつくぼう】ペーつあーる
 んⅠ、ペっつあるんⅠ
 はいべんする【排便する】ふつⅠまるんⅠ
 はいりこむ【入り込む】ペーりくむんⅠ
 はいる【入る】ペーるんⅠ、ペるんⅠ
 はう【這う】ペーつあーるんⅠ、ペっかるんⅠ
 はえ【蠅】ペーⅴ
 はえきび【ハエキビ】なざぎⅠ
 はえる【映える】ぱいるんⅠ
 はえる【生える】むいるんⅠ
 はか【墓】ぱかⅴ
 ばか【馬鹿】ふらーⅴ
 はがす【剥がす】ばがすんⅠ
 ばかす【化かす】ぎまどうらすんⅠ
 はかせる【吐かせる】ばかすんⅠ
 【はかどる】だっつあぐんⅴ
 ばかにする【馬鹿にする】うせーんⅴ、ばっく
 るんⅠ
 はがね【鋼】はーがにⅠ
 はかま【袴】ばかまⅴ
 はがま【羽釜】ぱんがまⅴ
 ばかもの【馬鹿者】ふらーⅴ、ぷりむぬⅴ
 【〜ばかり】がーし
 はかる【計る】ばかるんⅠ
 はかる【謀る】はかるんⅠ
 はがれる【剥がれる】ばがりるんⅠ、ぱなりる
 んⅠ
 ばかわらい【馬鹿笑い】ぷりばーりⅴ
 はきけがする【吐き気がする】〔胸がむかつい
 て〜〕いがぼりゃん
 はきだす【吐き出す】ばきんだすんⅠ
 はぎとる【剥ぎ取る】ばぎとるんⅠ、ぱぐんⅠ
 はきもの【履物】ふむむぬⅴ
 【はく】〔履物を〜〕ふむんⅴ
 はく【佩く】ぱくんⅴ
 はく【吐く】ぱくんⅴ、むどうすんⅠ
 はく【掃く】はくんⅠ、ぼーぐんⅠ
 はぐ【剥ぐ】ぱぐんⅠ
 はくじょう【薄情】すむⅠ ねーぬⅠ
 はくめい【薄命】ぬちいまるⅠはん
 はげあたま【禿頭】ばぎすぶるⅠ
 ばけつ【バケツ】ばぎしⅠ
 はげる【禿げる】ばぎんⅠ
 はこ【箱】ぱくⅴ
 はごたえがある【歯ごたえがある】こーⅠはん、
 こすぱり
 はさき【刃先】ぱんⅠ
 はさみ【鋏】ぱつあんⅠ
 はさむ【挟む】ぱつあむんⅠ
 はし【橋】ぱちⅴ
 はし【端】ぱたⅴ、ぱんたⅴ

- はし【箸】まーし1
 はし【隅】ゆごーV
 はじく【弾く】ぼんくん1
 はじける【弾ける】ぼしゅくりん1
 はしご【梯子】ぱちV
 はしっこ【端っこ】ぼんたV
 はじまる【始まる】はじまるんV
 はじめる【始める】はじめるんV
 【はしゃぐ】ばざるんV
 ばしょ【場所】とぅくる1、ばしゅ1
 ばしょう【芭蕉】ばーさ1
 ばしょうふのきもの【芭蕉布の着物】ばさす
 うぬ1
 はしら【柱】ばら1
 はしらせる【走らせる】ばらすん1
 はしる【走る】はきしいきるん1、ばるん1
 はずかしい【恥ずかしい】〔人に対して～〕ば
 すうか1さーん、ばすかはん
 はずす【外す】ぼんつん
 はすのはぎり【ハスノハギリ】さこだちV
 はずれる【外れる】ぬぎるん1、ぼんちんV
 はぜのき【ハゼノキ】ぼんじV
 はた【ハタ】にばり1
 はた【旗】ぱたV
 はたおりき【機織り機】ぱたむんV
 はだか【裸】あばだり1
 はたけ【畑】ぴてー1、ぴてーぎ1
 はたけごや【畑小屋】ぴてーひ1
 はたけしごと【畑仕事】ぴてー1するん1
 はだし【裸足】からぼんV
 はたす【果たす】うむいきすん1
 はたち【二十歳】ぱたちV
 はたらく【働く】ぱたらぐんV
 はち【蜂】ぱーちV
 【ばち】〔大鼓の～〕ばち
 はちじゅう【八十】ぱちず1
 はちまき【鉢巻】さちV
 ばつ【罰】とぅが1、ぱちV、ばつあ1
 はつじょうする【発情する】ずーぶるん1
 ばつする【罰する】とぅがみるん1
 ばった【バッタ】かたんV
 はったいこ【はったい粉】〔小麦の～〕ゆぬぐ1
 はってすすむ【這って進む】ぴゃっかるん1
 はってんする【発展する】ひらきるん1
 はつどうきせん【発動機船】きかんしん1
 はつねつする【発熱する】にち1 んじるん1
 はつほまつり【初穂祭】すくまん1
 はつもの【初物】ぱちV
 ばつをかぶる【罰を被る】ばつあかぶん
 【はて】あい
 はてるま【波照間】ぱちるま、はてろーV、ば
 てろーまV
 はてるまじま【波照間島】はてろーV、ぱてろ
 ーまV、〔島民間で～〕ベーすま
 はと【鳩】ぱとん1
 はとま【鳩間】ぱとーま1
 はとまじま【鳩間島】ぱとーま1
 はな【花】ばな1
 はな【鼻】ばなV
 はないけ【花生け】ばないぎ1
 はなし【話】ばなし1
 はなじる【鼻汁】ばなだりV
 はなす【話す】かたるんV、ばなすん1
 はなす【離す】ばがすん1、ばなすん1
 はなつ【放つ】〔糞を～〕まるん1
 はなづな【鼻綱】〔牛の～〕ばなじな1
 ばなな【バナナ】ばーさ1
 ばななのみ【バナナの実】ばーさぬ1 なーり1
 はなよめ【花嫁】あいなー1
 はなれ【離れ】ばなり1
 はなれのしま【離れの島】ばなりぬ すま1
 はなれる【離れる】ぬぎるん1、ばなりるん1、
 ばなりん1、ひだみるん1、ひだみん1
 はね【羽】ばにV

はねかえす【跳ね返す】〔物に突き当たって～
 〕はにかいすん1
 はねかえる【跳ね返る】はにかいるん1
 はは【母】あぶわ1
 ばばいあ【パイア】まんじょー1
 ははおや【母親】あぶわ1
 ははかたしんせき【母方親戚】じーかたうや
 ぐ、ちーかたうやぐ1
 はへん【破片】はきV
 はま【浜】ばま1
 はまおもと【ハマオモト】さでいふか1
 はまかに【浜蟹】ばまかん1
 はましたん【浜紫檀】すばんこっち
 はまじゃり【浜砂利】な'り'さ
 はまゆう【浜木綿】やたかび
 【はまる】ばまるん1
 はめこむ【はめ込む】ばみるん1
 【はめる】ばみるん1
 ばめん【場面】ばしゅ1
 はやうまれ【早生まれ】はやまり1
 はやく【早く】がながん、ぴく、ぴくだりV、ペ
 ーしゃな1
 はやくする【早くする】はやみるん1
 はやくなる【早くなる】はやまるん1
 はやじにする【早死する】はやじに1 すんV
 はやしのかなか【林の中】きぬ1 みーV
 はやす【囃す】ばーすん1、ばやすん1
 はやす【生やす】〔草を～〕むやすん1
 はやまる【早まる】はやまるん1、ペーまるん1
 はやめに【早めに】ぴくだりV
 はやめる【早める】はやみるん1
 はやらせる【流行らせる】ひるみるん1、ひる
 みるん1
 はやり【流行り】はやり1
 はやる【流行る】はやーるん1
 はら【腹】ばた1
 はらいっぱいになる【腹一杯になる】ばた1ん
 ち1
 はらう【払う】ばらすん1
 はらう【祓う】〔不吉を～〕ばちるん1
 はらがしぼるようにいたむ【腹がしぼるよう
 に痛む】すぶりやみ
 はらがふくれる【腹が膨れる】〔消化不良で～
 〕ばたふくりるん1
 はらがもたれる【腹がもたれる】ばたふさり
 ー
 はらぐあいがわるい【腹具合が悪い】ばたふ
 くら、ばたふさりー
 【ばらす】ぼつつあらすん
 【ばらばらにする】ぼつつあらすん
 【ばらばらになる】ぼつつあーるん1
 ばらばらにわれる【ばらばらに割れる】ざん
 ざらごー
 はらまない【孕まない】やじまるんV
 はらむ【孕む】ばるむん1
 はらわた【腹わた】ばた1
 はり【梁】かむい1
 はり【針】ばり1
 はりせんぼん【ハリセンボン】いしかぼ1
 はる【張る】ばるんV
 はる【春】うりじん1
 はるののげし【ハルノノゲシ】ふくなV
 はれがひく【腫れがひく】しぴりんV
 はれつする【破裂する】ばしゅくりん1
 はれもの【腫れ物】にーぶた1
 はれる【晴れる】〔天気～〕ばりん1
 はれる【腫れる】ふくりるんV
 はろう【波浪】なんV
 はわす【這わす】〔釣り糸などを～〕ペーすん1
 ばん【番】ばん1
 はんえい【繁栄】はんじょー1
 はんえいする【繁栄する】さかいるんV
 ばんく【バンク】すねー1
 はんこうする【反抗する】たい1 すんV

- ばんざくろ【バンザクロ】〔野生の〜〕とつき
 ん、ばんしゆるⅴ
 はんじょう【繁昌】はんじょーⅴ
 はんせん【船舶】ふにⅴ
 はんにあ【半煮え】なまにーⅴ
 はんにあ【半日】ぱんにちⅴ
 はんばいする【販売する】かしみるんⅴ
 はんぶん【半分】ぱんぶんⅴ
 はんぶんわけ【半分分け】ぱんぶんばぎⅴ
 はんもする【繁茂する】かぶんⅴ
 ひ【日】しなⅴ、ぴんⅴ
 ひ【火】ぴーⅴ
 ひえ【稗】しんⅴ、ぴんⅴ
 ひえらび【日選び】ぴーる
 ひえる【冷える】ぴーるんⅴ、ぴしゃⅴはん、ぴ
 りⅴ、ぴんぐるんⅴ
 ひかくする【比較する】くらびるんⅴ
 ひかげ【日蔭】けー
 ひがし【東】あーⅴⅴ
 ひがしがわ【東側】ありかたⅴ
 ひがしずむ【日が沈む】しなⅴいるんⅴ
 ひがてる【日が照る】しなⅴしっすんⅴ
 ひがのぼる【日が昇る】しなⅴあがるんⅴ
 ひからせる【光らせる】ぴからすんⅴ
 ひかり【光る】ぴかるんⅴ
 ひがん【彼岸】ぴんがんⅴ
 ~ひき【~匹】がら、ら
 ぴき【引き】ぴきⅴ
 ひきあう【引き合う】ひきあうんⅴ
 ひきあげる【引き揚げる】ひきあんぎるんⅴ
 ひきうける【引き受ける】うきとるんⅴ、ひ
 きⅴうきるんⅴ
 ひきうす【引き白】ぴきうしⅴ
 ひきおろす【引き下ろす】ぴきうらすん、ぴ
 きうるすん
 ひきかえす【引き返す】ぴきけーすんⅴ
 ひきさく【引き裂く】ぴきさくんⅴ
 ひきしお【引き潮】ぴきすーⅴ
 ひきずる【引きずる】さふくんⅴ、そんぐんⅴ
 ひきたおす【引き倒す】ぴきとーすん
 ひきだす【引き出す】ぴきだーすん、ぴきん
 だすん
 ひきたてる【引き立てる】むちあんぎるんⅴ
 ひきつける【引き付ける】ぴきしいきんⅴ
 ひきつれる【引き連れる】ぴきそーるんⅴ
 ひきど【引き戸】ぴきやどーⅴ
 ひきとる【引き取る】ぴきとるんⅴ
 ひきなわりょう【曳き縄漁】ぴきなんⅴ
 ひきぬく【引き抜く】ぴきぬぐんⅴ
 ひきのばす【引き伸ばす】ぴきぬばすんⅴ
 ひきはなす【引き離す】ばがすんⅴ
 ひきやぶる【引き破る】ぴきやぶるんⅴ
 ひきよせる【引き寄せる】ぴきゆしるんⅴ
 ひく【引く】〔潮が〜〕ぴいすんⅴ、ぴくんⅴ
 ひく【弾く】ぴくんⅴ
 ひく【挽く】〔木を〜〕ばぐんⅴ、〔白を〜〕ぴ
 くんⅴ
 ひくい【低い】まろⅴはん
 ひげ【鬚】ぴにⅴ
 ひご【庇護】かたがⅴ
 ひこうする【飛行する】とーぷんⅴ
 ひざ【膝】すぶしんⅴ
 ひさし【庇】あまだりⅴ
 ひさしくあわない【久しく会わない】みーど
 うーⅴさーん
 【ひざまずき】べしきびりⅴ
 ひしゃく【柄杓】にぶⅴ
 【ひしゃげる】ぴさんたらすんⅴ
 びじんだ【美人だ】あばりしゃⅴはん
 ひせ【干瀬】ぴーⅴ
 ひせのわれめ【干瀬の割れ目】「ぴーぬ」ばり
 ひたい【額】ふてーⅴ
 ひだり【左】ぴなりⅴ
 ひだりかた【左方】ぴなりⅴ

ひたる【浸る】すかるんⅴ
 ひっかく【引っ掻く】はかじるんⅴ、〔爪で～〕
 はかずるんⅴ
 ひっかける【引っ掛かる】はかるんⅴ
 【ひっかぶる】ばくんⅴ
 ひっくりかえす【引っくり返す】ぐるっけー
 すんⅴ
 ひっくりかえる【引っくり返る】ぐるっけー
 らんⅴ
 ひづけ【日付】びんちいⅴ
 ひっこす【引っ越す】うつるんⅴ
 【びっこになる】ないぐんⅴ
 【びっこをひく】ないぐんⅴ
 ひっさげる【引っ提げる】びきさんぎるんⅴ
 ひつじ【未】びちいⅴ
 ひっしゃ【筆者】びっしゃⅴ
 【びっしょり】けった ぞっふあら
 【ひつつかむ】かみしきるんⅴ
 ひつつく【ひっ付く】だっくわーるんⅴ、むっ
 つあーるんⅴ、むつつあるんⅴ
 ひつつける【ひっ付ける】むつつあーすんⅴ
 ひつつける【引つつける】だっくわすん
 【ひっばたく】〔鞭で～〕だすますんⅴ
 ひっばる【引っ張る】びきしいきんⅴ
 ひつようだ【必要だ】いるんⅴ
 ひでり【日照り】ペーりⅴ
 ひと【人】にんぎんⅴ、ぴいとうⅴ
 ひどい【酷い】どうぐ
 ひといき【一息】ぴいとういしⅴ
 びどう【美童】みやらびⅴ
 ひとつね【一畝】ぴいとうきばⅴ
 ひとえぐさ【ヒトエグサ】あーさⅴ
 ひとえまぶた【一重瞼】かーみんⅴ
 ひとおじする【人怖じする】ぴいとうごはす
 ん
 ひときれ【一切れ】ぴいとうっしⅴ
 ひとさしゆび【人差し指】ぴいささしーⅴ

ひとしごと【一仕事】ぴいとうしごとうⅴ
 ひとだのみ【人頼み】ぴいとうたなぐん
 ひとだま【人魂】ぴんだまⅴ
 ひとつ【一つ】ぴとうちⅴ
 ひとなみに【人並に】ぴいとうだぎⅴ
 ひとにたよる【人に頼る】ぴいとうたなぐん
 ひとばん【一晚】ぴいとうゆーⅴ
 ひとばんじゅう【一晚中】ゆどうし
 ひとみしりをする【人見知りをする】ぴいと
 うごはすん、ぴとうみしり すん
 ひとよ【一夜】ぴいとうゆーⅴ
 ひとり【一人】ぴいとうりⅴ
 ひとり【独り】ぴいとうりⅴ
 ひとりごと【独り言】ぴいとうりふちⅴ
 ひとりっこ【一人っ子】ぴいとうりたまⅴ
 ひとりもの【独り者】たんがーむぬⅴ
 ひとをつかう【人を使う】ぴいとうすこーん
 ひなた【日向】しなぬⅴ みーⅴ
 ひなわ【火縄】ぴーなんⅴ
 ひなんする【非難する】しみるんⅴ
 ひにち【日にち】ぴんⅴ
 ひねる【捻る】びにるんⅴ、むじまーすんⅴ
 ひのかみ【火の神】ぴなかんⅴ
 ひのたま【火の球】ぴんだまⅴ
 ひのでになる【日の出になる】しなⅴあがるんⅴ
 ひはつもどき【ヒハツモドキ】ぴばちいⅴ
 ひばんもり【火番盛】「ひばん」むり
 【ひびる】しかむんⅴ
 ひま【暇】ぴまⅴ
 ひまご【曾孫】またまーⅴ
 ひまんしゃ【肥満者】ばたぶたーⅴ
 ひまんになる【肥満になる】ばなたるんⅴ、ば
 んたるんⅴ
 ひも【紐】ぶーⅴ
 【ひもじい】やーはⅴ すんⅴ、やーⅴはん
 【ひやかす】ばくるんⅴ
 ひゃく【百】ぴゃーぐⅴ

ひやくしょう【百姓】ぶざ¹
 ひやす【冷やす】ぴらすん¹
 ひやとい【日雇い】ひよー¹
 ひやみず【冷や水】ぴーみじい¹
 ひやめし【冷や飯】ぴりふつありむぬ
 【ひゅうひゅう】びゅーびゅー
 【びゅうびゅう】ぼーぼー
 びょうき【病気】ばなしき¹、やみ¹、やん¹
 びょうきにかかる【病気に罹る】やむん¹
 びょうじゃくだ【病弱だ】びな¹さーん
 びょうじゃくなこども【病弱な子供】びーら
 ー
 ひょうじゅんご【標準語】やまとうむに¹
 ひょうたん【ヒョウタン】かなぼりん¹
 ひょうはくする【漂白する】さらすん¹
 ひょうばん【評判】さた¹
 ひょうりゅうする【漂流する】なーりん¹
 ひよくなはたけ【肥沃な畑】めーりぴてー¹
 ひより【日和】ぴんちい¹
 ひよわ【ひ弱】びーら
 ひらえ【平得】ぴいせー¹
 ひらきど【開き戸】まーしと¹
 ひらける【開ける】ひらきるん¹
 ひらたい【平たい】ぴいさんたり¹
 ひらたくなる【平たくなる】びさんたらすん¹
 ひらてでうつ【平手で打つ】ぱちみがすん¹
 ひらべったい【平べったい】ぴいさんたり¹
 ひらみれもん【ヒラミレモン】ざがふなぶ¹
 ひりょう【肥料】こい¹
 【ひる】〔屁を〜〕ぴいすん¹
 ひる【昼】ぴる¹
 ひるご【昼後】ぴいすあと¹
 ひるね【昼寝】ぴいすまぬっふい¹
 ひるのうちに【昼の内に】ぴるぬ うち
 ひるま【昼間】ぴいす¹、ぴる¹、ぴるぬ うち
 【ひるむ】たんきるん¹
 ひるめし【昼飯】ぴいすまりむぬ¹

ひるやすみ【昼休み】ぴいすまり¹やしみ¹
 ひれ【鱈】ばに¹
 ひろい【広い】ぴいそ¹はん
 ひろいもの【拾い物】「ぴいしゃー」むぬ
 ひろう【拾う】と¹みるん¹、ぴいすん¹
 ひろう【疲労】くたんでー¹、ぼーがり¹
 びろう【ビロウ】くぼ¹
 ひろうぎみだ【疲労ぎみだ】だる¹さーん
 ひろうする【疲労する】ぶがりるん¹、ぼたり
 ーるん¹
 ひろがる【広がる】ひるまるん¹、ぴるまるん¹
 ひろげる【広げる】ぴそーぎるん、ひるみる
 ーん¹、ひるみる¹
 ひろまる【広まる】ひるまるん¹、ぴるまるん¹
 ひろめる【広める】ひるみるん¹、ひるみる¹
 ひんじゃくだ【貧弱だ】びな¹はん
 びんしょうだ【敏捷だ】からぼっさ¹はん
 びんぼう【貧乏】ぴんそー¹
 びーちろっく【ビーチロック】なんだら¹
 ぴーなつ【ピーナツ】じいーまーみ¹
 ふあん【不安】しわー¹
 ふいごまつり【ふいご祭】かつえーぶな¹
 ふうしん【風疹】とーしんべー¹
 ふうすい【風水】ふんしー¹
 ふうすいがく【風水学】ふんしー¹
 ふうたい【風袋】ふーたい¹
 ふうとう【封筒】じょーぶくろ¹
 ふうふ【夫婦】と¹んぶと¹
 ふうんだ【不運だ】うんぬ¹、ねーぬ¹
 ふえ【笛】ぴん¹
 ふえる【増える】ぶーさ¹なるん¹
 ふか【鱻】さば¹
 ぶか【部下】しんか¹
 ふかい【悪口を言うこと】ばたふちり¹
 ふかい【深い】ふか¹はん
 ふかくおもう【深く思う】うむいくがりん¹
 ぶかっこう【不恰好】やなかたち¹

- ふかむら【富嘉村】ふかむらⅴ
 ふかれる【吹かれる】〔風に～〕ふかりるんⅴ
 ふきあれる【吹き荒れる】ふきありるんⅴ
 ふきでもの【吹き出物】に一ぶたⅴ
 ふきとる【拭き取る】しっするんⅴ
 ふきまくる【吹きまくる】ふきありるんⅴ
 ふきようだ【不器用だ】くばⅴはん、しーⅴく
 ばⅴはん
 ふく【拭く】しっするんⅴ、すするんⅴ
 ふく【葺く】〔屋根を～〕ふくんⅴ
 ふくぎ【福木】ふこんⅴ
 ふくつう【腹痛】ばたⅴやみⅴ
 ぶくぶく【ブクブク】ぶくぶく
 ふくませる【含ませる】ふくますんⅴ
 ふくむ【含む】ふくむんⅴ
 ふくめん【覆面】こーがきⅴ
 ふくや【福屋】とーらⅴ
 ふくらます【膨らます】ふくらすんⅴ
 ふくらませる【膨らませる】ふくらますんⅴ
 ふくらむ【膨らむ】ふくりんⅴ
 ふくれあがる【膨れ上がる】むりあがるんⅴ
 ふくれる【膨れる】ふくりるんⅴ、〔水を含ん
 で～〕ふくりんⅴ
 ふくろ【袋】ふくるⅴ
 ふくろう【梟】すくくⅴ
 ふけつだ【不潔だ】すぶたⅴはん、すぶⅴつあ
 ーん
 ふけつになる【不潔になる】〔湿って～〕しみ
 ーるんⅴ
 ふこう【不幸】やなくとーらⅴ
 ふごうかく【不合格】ふごーⅴ
 ふさい【負債】うかⅴ
 ふさがる【塞がる】ふさがるんⅴ、ふつあるんⅴ
 ふさぐ【塞ぐ】ふさぐんⅴ
 ふし【節】ふしⅴ
 ぶし【武士】ぶしⅴ
 ふしうた【節歌】ふしうたⅴ
- ふしぎだ【不思議だ】ぴるまさん、ぴるまⅴは
 ん、みずらⅴはん
 ふしゅう【腐臭】ふつありかー
 ぶしょう【不精】ふゆーⅴ
 ぶしょうだ【不精だ】しびんさⅴはーん
 ふしょうちだ【不承知だ】ふつくれー
 ぶしょうもの【不精者】ふゆーむぬⅴ、ふゆな
 むぬ
 ふせぐ【防ぐ】ふしぐんⅴ
 ふせる【伏せる】うすふかすんⅴ
 ふそく【不足】ふすくⅴ
 ふそくする【不足する】たらーぬⅴ
 ふた【蓋】ふたⅴ
 ふだ【札】ふだーⅴ
 ぶた【豚】うわーⅴ
 ふだいれ【札入れ】ふだいりⅴ
 ぶたごや【豚小屋】うわんⅴひーⅴ
 ふたたび【再び】またⅴ
 ふたたびふっとうさせる【再び沸騰させる】ふ
 つあーすんⅴ
 ふたつ【二つ】ふたーちⅴ、ふたちⅴ
 ふたつとも【二つとも】ふたーちいⅴばぎⅴ
 ふだにん【札人】ふだにんⅴ
 ぶたのえさいれ【豚の餌入れ】とーにⅴ
 ふたまた【二又】ふたまたⅴ
 ふたまた【二股】ふたまたⅴ
 ふたをする【蓋をする】ふーんⅴ
 ふだんぎ【普段着】ひーすうぬⅴ
 ふち【縁】ふちいⅴ
 ぶちあたる【ぶち当たる】だっさが
 ぶちあてる【ぶち当てる】だっさが
 ぶちこむ【ぶち込む】だくむんⅴ、ぶくむんⅴ
 ぶちこわす【ぶち壊す】すくっふわすんⅴ
 【ぶっかける】〔水を～〕いがふちるんⅴ
 ふっくらとしたさま【ふっくらとした様】ふ
 くるふくる
 ぶつぜん【仏前】ぶとうぎんぬⅴめーⅴ

ぶつだん【仏壇】とくくⅴ

【ぶつつける】うったち

ふっておとす【振って落とす】ふいⅴ っしんⅴ

ふっとうさせる【沸騰させる】たぎらすんⅴ

ふっとうする【沸騰する】たぎるんⅴ、ふつんⅴ

ふっとうするさま【沸騰する様】ぶとうぶと
う

【ぶつりと】ぶちんた

【ぶつんと】ぶちんた

ふで【筆】ふちⅴ

ふとい【太い】みちさはん

ふところ【懐】ふちくる

ふとる【太る】ぼなたるんⅴ、ぼんたるんⅴ、〔芽
などが〜〕めーるんⅴ

ふとん【布団】うずⅴ

ふなうら【船浦】ふのーらⅴ

ふなだいく【船大工】ふなでーぐ

ふなたび【船旅】ふなたびⅴ

ふなだま【船霊】ふなだまⅴ

ふなだまり【船溜り】ふなだまりⅴ

ふなよい【船酔い】ふねーⅴ

ふにんだ【不妊だ】やじまるんⅴ

ふね【船】ふにⅴ

ふねのていはくぼしょ【船の停泊場所】ふな
だまりⅴ

ふねのよこいた【船の横板】ふなばにⅴ

ふねのりゅうこつ【船の竜骨】かーらⅴ、まつ
らⅴ

ふはいする【腐敗する】ふつありんⅴ

ふびじん【不美人】うきしゃⅴはん

ふみつける【踏みつける】ふんしきるんⅴ、ふ
んつあーすんⅴ

ふみつぶす【踏み潰す】うすびらがすんⅴ、ふ
んびらがすんⅴ

ふみにじる【踏みにじる】ふんつあーすんⅴ

ふみはずす【踏み外す】とうぶちんⅴ、ふんぼ
んちるんⅴ、ふんぼんつあすんⅴ

ふむ【踏む】〔足で〜〕ふむん

ふやす【増やす】ぶーさⅴ なすんⅴ

ふゆ【冬】ふっひⅴ

ふゆう【富裕】うやぎⅴ

ふゆうしゃ【富裕者】「うやぎ」ひー

ふゆうする【浮遊する】おーがるんⅴ

ぶよう【舞踊】ぶどおりⅴ、ぶんどおり

ぶらさがる【ぶら下がる】さがるんⅴ、さんが
るんⅴ

ぶらさげる【ぶら下げる】すきーらすんⅴ、び
きⅴさんぎんⅴ

【ふらふらっと】ふらふら

ふりあてる【振り当てる】ぼりあていんⅴ、わ
りあていんⅴ

ふりかえる【振り返る】とんけーるん

ふりかける【振りかける】ふりはきんⅴ

ふりすてる【振り捨てる】ふっひ ししるん

ふりはらう【振り払う】ふっひ ししるん

ふりまわす【振り回す】ふりまーすんⅴ

ふりむく【振り向く】とんけーるん

ふる【振る】ふっふんⅴ

ふる【降る】〔雨が〜〕ふっふんⅴ

ふるい【篩】しーⅴ

ふるう【振るう】ゆらすんⅴ

ふるぎ【古着】ふーすうぬⅴ

ふるくする【古くする】ふーⅴ なすんⅴ

ふるくなる【古くなる】ふーⅴ なるんⅴ

ふるさと【故里】まりじまⅴ

ふるびる【古びる】ふーⅴ なるんⅴ

【ぶるぶる】ふとうふとう

ふるむ【古む】ふーⅴ なるんⅴ

ぶれい【無礼】ぶりーⅴ

ふれる【触れる】さーるんⅴ

ふろ【風呂】ゆふるⅴ

ふろしき【風呂敷】うしびⅴ

ふんがいする【憤慨する】くさむくんⅴ

ぶんけ【分家】きにばがらⅴ

- ぶんけする【分家する】きにばがりるんA
 ぶんじばる【ぶん縛る】ぶんさまるんV
 ぶんそん【分村】むらばぎんA
 ぶんどう【分銅】びきぬ ふり
 ふんどし【褌】さねーV
 ぶんなぐる【ぶん殴る】ばみがすんV
 ぶんばいする【分配する】くぼるん1
 ぶんべつ【分別】じんぶんA
 ぶんべつする【分別する】ばぎんA
 ぶんまつ【粉末】く1、ふく1
 ぶんまつにする【粉末にする】ふくなすん1
 【ぶんわりする】ふくらVさーん、ふくるさ1
 はん
 へ【屁】ぴん1
 べいじゅ【米寿】とーかち1
 へいたんだ【平坦だ】なだらがVはん
 へいたんなしま【平坦な島】ぴいさじまV
 へいたんにする【平坦にする】なだらがすんV
 へいたんになる【平坦になる】なだらぐんV
 べいはん【米飯】めーぬV いー1
 へいみん【平民】ぶざ1
 【へえー】べー
 へくさい【屁臭い】ぴんふつあ1はーん
 【へこむ】とうまるんV
 へしこむ【へし込む】うしくむんV
 へそ【臍】ぷつV
 へただ【下手だ】くぼ1はん
 へだてる【隔てる】ひだみるん1、ひだみん1
 へたなのうふ【下手な農夫】ぴらすか1
 べたぼれ【べた惚れ】まーぷりV
 へちま【糸瓜】なーびらA
 べつ【別】びちいA
 べったりすわる【べったり座る】しきだーす
 んV
 べつに【別に】ふかな
 べつの【別の】びちいぬA
 べつべつ【別々】びちいびちい
 へび【蛇】ぱくV
 へら【篋】ぴら1
 べら【ペラ】ふつあび1
 へる【減る】びなるんV
 へんかする【変化する】かわるんV
 べんきょう【勉強】むぬなれーA
 へんじ【返事】ひんとーV
 べんじょ【便所】ふーる1、ふるや1
 べんしょうさせる【弁償させる】はかすんV
 べんしょうする【弁償する】ぱくんV
 へんずつう【片頭痛】かたすぷる1やみA
 へんだ【変だ】いふなーV、いふなー やっさ
 ーV
 へんたんにする【平坦にする】なだぎるんV
 へんとう【返答】ひんとーV
 べんとう【弁当】びんとーV
 へんなぐあいだ【変な具合だ】〔胸のあたりが
 何となく〜〕いがぼりゃん
 ほ【帆】ぼーV
 ほ【穂】ぶー1
 ～ほう【～方】た
 ぼう【棒】ぼーA
 ぼうがい【妨害】わしくA
 ぼうかんぎ【防寒着】ふくた1
 ほうき【箒】ぼーち1
 ほうきぼし【ほうき星】ぼーぎぶしい1
 ほうげん【方言】すま1むにA
 ほうげん【暴言】あらVむにA
 ほうこう【奉公】ふーく1
 ほうじ【法事】こっこー1、しょっこー1
 ぼうしゅ【芒種】ぼーすA
 ほうしゅう【報酬】しいま1
 ぼうじゅつ【棒術】ぼーA
 ほうじょうでへいわのよ【豊穰で平和の世】み
 るくゆーV
 ほうじょうのよ【豊穰の世】かんぬ1 ゆーV、
 むがしいAゆーV

- ぼうず【坊主】ぼーず
 ほうちする【放置する】だすたすくん
 ほうちょう【包丁】かたな、ぽっつあ
 ほうねん【豊年】のーりゆ、ゆがふ
 ほうねんさい【豊年祭】ぷーりん
 ほうねんさいじのかみつかさたち【豊年祭時
 の神司達】みなすけぬ ぼんだー
 ほうふう【暴風】かちふき
 ほうほう【方法】しかた
 【ぼうぼう】ばーばー
 ほうよう【法要】こっこー、しょっこー
 ほうりこむ【放り込む】うちくむん、だくむ
 ん、たたつくむん、ぶくむん
 ほうりなげる【放り投げる】ぼんぎるん
 ほうおかぶり【頬かぶり】こーがき
 ほか【他】ふか
 ほか【外に】ふかな
 ほかの【他の】びちいぬ
 ほかんする【保管する】「あためー」すん、かち
 みるん
 【ぼきっと】ぶちんた
 【ぼきりと】ぶちんた
 ぼくじゅう【墨汁】しん
 ぼくとしちせい【北斗七星】にしななち
 ぼくとせい【北斗星】にしななち
 ぼくほう【北方】にした
 ぼこり【埃】ふくじい
 ほし【星】ぶち
 ほしい【欲しい】ふつあはん
 ほしがる【欲しがる】ふつあはん
 ほす【干す】ぶつん
 ほせん【帆船】ぼーしん
 ほそい【細い】ばちさはん
 【ぼたぼた】すとーりすとーり
 ほたる【蛍】しっすぴかり
 ほっきょくせい【北極星】にんぼぶち
 ほっする【欲する】ぬずむん
 ほったてごや【掘っ立て小屋】「あなばり」ひ
 ー
 【ほっておく】だすたすくん、だすだすくん
 【ほっとする】〔心配事がなくなり〜〕うな
 ーぐ シャーん、「うなー」ぐ なるん
 ほづな【帆綱】しーなん
 ほっぼう【北方】にし
 ほどく【解く】ぷとうぐん
 ほどけ【仏】ぷとうぎん
 ほどけのまえ【仏の前】ぷとうぎんぬ、めー
 ほどける【解ける】ばんちるん、ぷとうぎる
 ん
 ほね【骨】ぶに
 ほねおしみ【骨惜しみ】どーたんき
 ほねやすめ【骨休め】ぶにやしみ
 ほほえむ【微笑む】ばーりゃん
 ほめあげる【褒めあげる】ふみあぎるん
 ほめたたえる【褒め讃える】ふみあぎるん
 ほめる【褒める】ふみるん
 ほら【法螺】〔楽器の〜〕ぶら
 ほらがい【法螺貝】さぶら、ぶら
 ほりとる【掘り取る】こーすん
 ほる【彫る】ぷるん
 ほる【掘る】ぷるん
 ほれる【惚れる】ぷりるん
 【ぼろ】やるはく
 ぼろきれ【ぼろ切れ】やるはく
 ぼろのきもの【ぼろの着物】ふくた、やりす
 うぬ
 ほろぶ【滅ぶ】とーりるん、ふるぶん
 ほろぼす【滅ぼす】ふるぼすん
 ほろよいになる【ほろ酔いになる】さーふー
 ふー すん
 ほん【本】すむち
 ほん〜【本〜】まー
 ほんき【本気】まーすむ
 ほんけ【本家】やーむとら

- ほんけんちく【本建築】ぬきひー
 ほんじつ【本日】きゅー1
 ほんしん【本心】まーすむV
 ほんとう【本当】ふんとー1
 ほんとうだ【本当だ】ましんV
 ほんのしょにち【盆の初日】むげーぴんV
 ほんむすび【本結び】まーむしいびV
 ほんもの【本物】まーむぬV
 【ぼんやりする】うかっと すんV、ぶ¹り¹ぶ
 り すんV
 ま【間】まーV
 まいとし【毎年】にんにん、めーどうしA
 まいにち【毎日】めー¹が¹めーにち、めーに
 ちA
 まいる【参る】うがんちゅむん1、んぐんV
 まう【舞う】ぶんどうるんV
 まうしろ【真後ろ】まとむV
 まえ【前】めーA
 まえあし【前足】めーぱんA
 まえがり【前借】めーがりA
 まえさと【真栄里】みざとぅA
 まえにおく【前に置く】めーA なすんA
 まえにする【前にする】めーA なすんA
 まえば【前歯】めーぱんA
 まえむら【前村】なーむらV
 まえもって【前もって】めーむち
 まえをいく【前に行く】めーA なるんA
 まかす【負かす】まかすんV
 まかせる【任せる】まかすんV
 まがたま【勾玉】がーら1だまV
 まがりくねって【曲がりくねって】まんかり
 かんかり
 まがる【曲がる】まんかるんV
 まきおどり【巻き踊り】ますぶどぅりV
 まきちらかす【蒔き散らかす】ぽーりすくん
 まきちらす【蒔き散らす】まぎぼーるんA
 まきつける【巻き付ける】からまぐん1
 まぎり【間切】まぎりV
 まく【巻く】まーぐんV
 まく【幕】まくA
 まく【播く】まーぐんV
 まく【蒔く】まーぐんV
 まくら【枕】まっふぁA
 まくる【捲る】からぎるん1
 まくれる【捲れる】〔男の包茎の皮が〜〕ぱん
 きん1
 まぐる【鮪】しびV
 【まけ】まぎV
 まける【負ける】まきるんV
 まげる【曲げる】まんきるんV
 まご【孫】まー1
 まごころ【真心】まぐくるV
 【まごつく】ざまどうるんA
 まこと【誠】まくとぅA
 【まさか】がーん
 まさる【勝る】すぐりんV、まさるんV
 まざる【混ざる】まんざるんA
 【まし】〔〜より〜〕まーしA
 ましょうめん【真正面】まそーみV
 ます【増す】ぶーさ1 なすんA
 ます【杵】しゃー1
 まずい【不味い】にしゃVほん
 【まずいこと】ぎーふえーA
 まぜあわせる【混ぜ合わせる】あいるん1、ま
 んざーすん
 まぜる【混ぜる】あいるん1、まんじるんA
 また【又】またV
 また【又】またV
 また【股】またV
 またいとこ【又従兄弟】またいちふV
 またがる【跨る】またんがるんA
 またした【股下】またびしA
 まだらかになる【なだらかになる】なだらぐ
 んV

- まちがい【間違い】ばっぺーん、まちげーん
 まちがう【間違う】ばっぺー すん
 まちがえる【間違える】まちがいん、まちげーるん
 まちかにせまる【間近に迫る】めーぬすかるん
 まちこがれる【待ち焦がれる】まちくがりん
 まちどおしくおもう【待ち遠しく思う】まちぼさーん
 まちわびる【待ちわびる】まちぼさーん
 まつ【待つ】まつん
 まつ【松】まーち
 まっくら【真っ暗】やみ
 まつげ【睫毛】まちゅ
 まっさかり【真っ盛り】ばんじいん
 まっすぐ【真っ直ぐ】まんが
 まっすぐにする【真っ直ぐにする】たみらすん、たみるん
 まっすぐになる【真っ直ぐになる】〔曲がっている物が〜〕たまるん
 まったく【全く】ぬ「ー」ん、むっとう
 まったくりこうでない【全く利口でない】まーぱからさー ねーぬ
 まっち【隣寸】しきだぎ
 まつのねのしん【松の根の芯】あがしい
 まつり【祭】ぶなが、まぢり
 【〜まで】ばぎ
 【まとまる】まとうまるん
 【まとめる】まとうみん
 【まとも】まとむ
 まどわす【惑わす】ざまどぅらすん
 まないた【まな板】まんつあ
 まなぶ【学ぶ】ならすん
 まにあう【間に合う】まにあうん
 まにあわせる【間に合わせる】〔時間に〜〕まにあーすん
 まぬがれさせる【免れさせる】ぬがーらすん
- まぬがれる【免れる】ぬがーるん
 まぬけ【間抜け】ほーらきし
 まね【真似】まーべー
 まねする【真似する】まーべー すん
 まねる【真似る】まーべー すん
 まひる【真昼】ぴいすまり、まーびる
 まぶしい【眩しい】ぼちまはん、ぼちまはん
 まぶた【瞼】みんぬ かー
 まみず【真水】あまみじ
 まむかい【真向かい】たんか
 まむすび【真結び】まーむしいび
 まめ【豆】まーみ
 まもの【魔物】まざむん、やなむん
 まもる【守る】まむるん
 まゆ【眉】まちゅ
 まゆ【繭】まゆ
 まよう【迷う】ざまどぅるん、すまどぅるん
 まよけのむすび【魔除けの結び】さん
 まよなか【真夜中】ゆなが
 まよわす【迷わす】ざまどぅらすん
 まらりあ【マラリア】ぶーき、やきー
 まるい【丸い】む「る」むるし
 まるっこい【丸っこい】む「る」むるし
 まるでおろかだ【まるで愚かだ】まーぱからさー ねーぬ
 まるはだか【丸裸】まるばい
 【まるぶ】まるぶん
 まわす【回す】まーすん、みぐらすん
 【まわり】まーましい
 まわり【周り】まーり
 まわる【回る】まーるん、みぐるん
 まん【万】まん
 まんいち【万一】まんいち
 まんいっさいのたんじょうび【満一歳の誕生日】たんかー
 まんげつ【満月】ぶーしけん
 まんさい【満載】まんしん

- まんた【マンタ】かまんたㄥ
 まんちょうになる【満潮になる】すーㄥんつんㄥ
 まんなか【真ん中】ま「んなー」が
 まんぱいになる【満杯になる】まんしん なる
 ん
 まんぷくになる【満腹になる】ばたㄥんちㄥ
 【まんまと】みしーみし
 まーらんせん【馬艦船】まー「らん」ぶに
 み【実】なーりㄥ
 み【巳】みーㄥ
 み【箕】そーぎㄥ、〔選別用の～〕ゆらしㄥ
 みあやまり【見誤り】みーぼっぺーㄥ
 みおとす【見落とす】みーうとすん、みぬが
 すんㄥ
 みおぼえがない【見覚えがない】みりㄥ みら
 ぬㄥ
 みがく【磨く】とーびくんㄥ
 みかたする【味方する】かたすんㄥ
 みがなる【実がなる】なーるんㄥ
 みがまえる【身構える】かまいるんㄥ
 みがるだ【身軽だ】からばっさㄥはん
 みかん【蜜柑】ふなぶㄥ
 みき【幹】むとㄥㄥ
 みき【神酒】みしㄥ
 みぎ【右】ねーりㄥ
 みぎがわ【右側】ねーりㄥ
 みぐるしい【見苦しい】うかさㄥはん、みー
 ぐりしゃーん、みぐりしゃㄥはん、みっとㄥ
 はん
 みごと【見事】みぐとㄥㄥ
 みさき【岬】さきㄥ、ぱなㄥ
 みじかい【短い】まろㄥはん
 みじめなおもいがする【みじめな思いがする】
 すむㄥぐりしゃㄥはん
 みず【水】みじいㄥ
 みずあたり【水当たり】みじいがーりㄥ
 みずあび【水浴】みずあみ
 みずおけ【水桶】うきㄥ、たんぐㄥ
 みすかされる【見透かされる】みーふかさり
 んㄥ
 みすかす【見透かす】みーふかすんㄥ
 みずがめ【水甕】みじいがーみㄥ
 みずがわく【湧く】〔水が～〕ばぐんㄥ
 みずがんび【ミズガンピ】すぱんこっち
 みすてる【見捨てる】みーㄥ しちんㄥ
 みずのこう【水の香】みずぬ こー
 みずぼうそう【水疱瘡】みじいがーさㄥ
 【みすみす】みしーみし
 みずをきる【水を切る】すたらすんㄥ
 みせ【店】まちやーㄥ
 みせもの【見せ物】みーむぬㄥ
 みせる【見せる】みしるんㄥ
 みそ【味噌】みしゆㄥ
 みぞ【溝】みぞーりㄥ
 みそこなう【見損なう】みまちごーんㄥ
 みだしなみ【身だしなみ】すがいㄥ
 みたす【満たす】んつあすんㄥ
 みたてる【見たてる】みたてているんㄥ
 みだらだ【淫らだ】さんごなーㄥ すんㄥ
 みち【道】みちいㄥ
 みちぶしん【道普請】みちいくせーㄥ
 みちる【満ちる】んちんㄥ
 みつかる【見つかる】めすかるんㄥ
 みつける【見つける】とうみるんㄥ、とうみるんㄥ
 、みしきるんㄥ
 みっしゅうしている【密集している】かたㄥは
 ん
 みつつ【三つ】みーちㄥ
 【みっともない】みぐりしゃㄥはん、みっとㄥは
 ん
 みてゆるす【見て許す】みのーすんㄥ
 みとおす【見通す】みーとーすんㄥ、みーふか
 すんㄥ
 みとどける【見届ける】みーとうどうきるんㄥ

、みとうどうぎるん¹
 みとめられる【認められる】とーるん¹
 みとめる【認める】みとうみるん¹
 みどりいろに【緑色に】お「ー」し
 みとれる【見とれる】みーぶりん¹
 みなおす【見直す】みのーすん¹
 みなさま【皆さま】けーら¹ねーら¹
 みなみ【南】ペー¹
 みなみかぜ【南風】ペーかち¹
 みなみがわ【南側】ぺった¹
 みなみなさま【皆皆様】けーら¹ねーら¹
 みなみむら【南村】ペーむら¹
 みならい【見習い】みなれー¹
 みならう【見習う】みーならすん¹
 みなり【身なり】すがい¹
 みなれる【見慣れる】みーなりゃん
 みにくい【見にくい】みーぐりしゃーん
 みにくい【醜い】うかさ¹はーん
 みにこたえる【身に応える】あたるん¹
 みの【蓑】めんさ¹
 みのがす【見逃す】みーぬがすん¹、みぬがす
 ん¹
 みのり【実り】のーり¹
 みのる【実る】のーるん、めーるん¹
 みはりする【見張りする】ぼん¹
 みぶるいする【身震いする】ふいーつあるん
 みほれる【見惚れる】みーぶりん¹
 みまちがい【見間違い】みーぼっペー¹
 みまちがえる【見間違える】みまちごーん¹
 みまわる【見回る】まーり¹、みるん¹
 みみ【耳】みん¹
 みみがとおい【耳が遠い】みんとーさーん
 みみず【ミミズ】みみじい¹
 みみずく【ミミズク】ましかく¹
 みみたぶ【耳たぶ】みしくるみん¹
 みもの【見物】みーむぬ¹
 みゃく【脈】みゃぐ¹

みやこ【宮古】みゃーぐ¹
 みやすい【見やすい】みーやっ¹さーん
 みやら【宮良】めーら¹
 みょうだい【名代】みょーでん¹
 みょうばん【明晩】あつあゆ¹
 みる【見る】みるん¹
 みるにしのびない【見るに忍びない】すむや
 むーん
 みろくがみ【弥勒神】みるく¹
 みろくぼさつ【弥勒菩薩】みるく¹
 みをつける【目を付ける】みーしきるん
 みんな【皆】「がす」た、けーら、むーる
 みんなよう【民謡】うた¹
 むいに【無為に】あだり¹
 むかいかぜ【向かい風】むげーかち¹
 むかう【向かう】むぎゃん¹
 むかえのひ【迎えの日】むげーぴん¹
 むかえる【迎える】むげーるん¹
 むかし【昔】むがし¹
 むかしから【昔から】むがしいがら¹
 むかしのひと【昔の人】むがしい¹ぴいとう¹
 むかしのふなまちごや【昔の船待ち小屋】い
 なさ¹ひー¹
 むかしのよ【昔の世】むがしい¹ゆー¹
 むかしばなし【昔話】むがしい¹ばなし¹
 むかで【百足】むがじ¹
 むぎ【麦】むん¹
 むぎわら【麦わら】むんぐる¹
 むく【剥く】〔皮を～〕むぐん¹
 むこ【婿】むぐん、むぐぶざ¹
 むこきょうだい【婿兄弟】むぐちよーでー¹
 むし【虫】むし¹
 むしば【虫歯】ふとうちばん¹
 【むしる】むっすん¹
 むしろ【蓆】むっす¹
 むす【蒸す】あーらすん¹
 むずかしい【難しい】むすかっさ¹はん

- むすぶ【結ぶ】むすぶん、ゆうん
 むすめ【娘】みどうんたま、みやらび
 むだい【無代】いたんだ
 むだぐち【無駄口】んなふち
 むだづかい【無駄遣い】むだすけ
 むだぼね【無駄骨】んなあわり
 むち【鞭】すむと
 むちうつ【鞭打つ】すんぐるん
 むつつ【六つ】むーち
 むつまじい【睦まじい】むつまっ、さーん、む
 つまっ、はん
 むなさわぎ【胸騒ぎ】すむあーり
 むね【胸】にちい
 むねのいたむおもいがする【胸の痛む思いが
 する】すむやむーん
 むねやけ【胸焼け】いがぼり
 むねん【無念】いなむん
 むよくだ【無欲だ】ゆぐぬ、ねーぬ
 むら【村】むら
 むらじむしょ【村事務所】おーしゃ
 むらのぎょうじ【村の行事】むらぐとう
 むらばんしょ【村番所】おーしゃ
 むらびとのしゅうかい【村人の集会】むらた
 たまり
 め【目】みん
 め【芽】ふき、べー
 めあて【目当て】みあてい
 めい【姪】ぶい、ぶいふあー
 めいにち【命日】みーにち
 めいめいする【命名する】なーしきん
 めいれい【命令】ぎし
 めいわく【迷惑】やっけー
 めうえ【目上】うい
 めうし【牝牛】ういなん
 めおと【夫婦】とんぶとう
 めがかたい【目がかたい】みんすさ、はん
 めかくしのいしがき【目隠しの石垣】なーふ
 く
 めかけ【妾】ゆーべー
 めがさえる【目がさえる】みんくぼり
 めがね【眼鏡】がんきょー、みーかんがん
 めがまぶしい【目が眩しい】みーん、ぱちま
 はん
 【めくら】みっくわ
 【めぐらす】みぐらすん
 【めぐる】みぐるん
 めざし【目差】みざし
 めざめる【目覚める】うぎるん、うぎん、さ
 まるん、みん、さまるん
 めし【飯】いー
 めしあがる【召し上がる】おーし、おるん、ん
 げーるん
 めしぢゃわん【飯茶碗】いーまーり
 めじろ【メジロ】ふなどうり
 めずらしい【珍しい】ぴるまさん、ぴるま、は
 ん、みずら、はん、むぬみずらはん
 めだつ【目立つ】みだつん
 めだま【目玉】みっちん、みんたま
 めつぼうする【滅亡する】とーりるん
 めとる【娶る】あいなー、すん、そーるん、
 【妻を〜】そるん、とんそるん
 めりけんこ【メリケン粉】むんぬ、くー
 めるい【温い】ぬるさ、はん
 めん【綿】ぼた
 めんどう【面倒】みんどうー
 めんどうだ【面倒だ】みんどうな
 も【喪】いみ
 もあい【模合】むえー
 【もう】とー
 もういちど【もう一度】まー、ぴいとうむし
 【もういやだ】まきしょー
 もうけ【儲け】もーが、もーぎ
 もうしあげる【申し上げる】すさりん
 もうしいれる【申し入れる】にげー、んじる

- ん1
もうしょ【猛暑】ぶーき
もうじん【盲人】みっくわ1
もうすこし【もう少し】ま「べ」ー
もうたいへん【もう大変】さっていむ
【もうちょっと】ま「べ」ー
もうひつ【毛筆】ふち1
もうふ【毛布】きつー1
もうろく【毫碌】ういぷら1
もうろくしている【毫碌している】そー ねー
ぬ
もえだす【燃えだす】〔火が〜〕てすかるん1
もえる【燃える】めーるん1
もぎとる【もぎ取る】ぶるん1
もくざい【木材】ざいぎ1
もくたん【木炭】たん1
もくひょう【目標】みあてい1
もぐらせる【潜らせる】すますん1
もぐる【潜る】すむん1
もじ【文字】じー1
【もしかしたら】ゆー1さんちゃ1
【もしも】まんいち1
【もたげる】〔顔を〜〕むち1 あんぎるん1
もたす【持たす】むたすん1
【もたれかかる】ゆりはかるん1
【もたれる】むたーりるん1
もち【餅】むち1
もちあがる【持ち上がる】むりあがるん1
もちあげる【持ち上げる】むちあんぎるん1
〔上へ〜〕むちあんぎるん1
もちごめ【もち米】むすめー1
もちなおす【持ち直す】むちのーすん1
もちなおる【持ち直す】むちのーるん1
もちぶん【持分】たまち1
もちもの【持ち物】むちいむぬ1
もつ【持つ】むつん1
もっこ【畚】おんだ1
- もっていく【持っていく】むち んぐん
【もっと】まーび
【もっとも】むっ「と」む
【もつれる】あんぎーりるん1、あんぎるん1
もてあそぶ【遊ぶ】だーぶん1
もてなす【持てなす】とーりむつん1
もと【元】むとう1
もとごえ【元肥】むとうぐい1
もどす【戻す】むどーすん1
もどめる【求める】くいるん1、とーみるん1、
むとうみるん1
もともと【元々】むとうがら1
もどりかぜ【戻り風】ゆーべーかち1
もどりみち【戻り道】むどーりみち1
もどる【戻る】むどーるん1
もにふくする【喪に服する】いみはかるん1
もの【物】むぬ1
ものおと【物音】うとー1
ものおぼえ【物覚え】むぬうぶい1
ものおもい【物思い】むぬむい1
ものかんがえ【物考え】むぬかんげー1
ものごと【物事】むぬぐとー1
ものごとをきく【物事を聞く】むぬ1すくん1
ものさし【物差し】じょーぎ1
ものしり【物知り】むぬしり1
【ものすごい】うすまさん
ものならい【物習い】むぬなれー1
ものめずらしい【物珍しい】むぬみずらはん
ものもち【物持ち】むぬむち1
【ものもらい】いっふえー1、みんぜー1
ものわすれ【物忘れ】むぬぼっさ
ものわらいになる【物笑いになる】ばーらい
るん1
ものをおぎなう【物を補う】たらーすん1
もみ【粃】もみ1
もみがら【粃殻】すくぶ1
もみつぶ【粃粒】〔白米中の〜〕あら1

もみほぐす【揉みほぐす】むむんⅴ
 もむ【揉む】むむんⅴ
 もめん【木綿】ばたん、むみんⅴ
 もも【腿】むんだらすいⅴ
 もやし【モヤシ】まーみなんⅴ
 もやす【燃やす】めーすんⅴ
 もよう【模様】むよーⅴ
 もらいもの【貰い物】「たぼらり」むぬ
 もらす【漏らす】もーらすんⅴ
 もり【森】むりⅴ、やまⅴ
 もり【銚】ういⅴ
 もりあがる【盛り上がる】むりあがるんⅴ
 もりあげる【盛り上げる】むりあぎるんⅴ、む
 るん
 もる【漏る】もーるんⅴ
 もる【盛る】むるん
 もれる【漏れる】もーるんⅴ
 【もろみ】むるんⅴ
 もん【門】ぞーⅴ
 もんどう【問答】むんどうーⅴ
 もんぱのき【モンパノキ】すさぎぎⅴ
 もんめ【刃】むんみⅴ
 や【矢】やⅴ
 【やあー】やー
 やいば【刃】ぱんⅴ
 やえやま【八重山】やいまⅴ
 やえやまあおき【ヤエヤマアオキ】ぶ「が」き
 【やかましい】やがまっさⅴはーん
 やかましい【喧しい】かつあまⅴはーん
 やかん【夜間】ゆるⅴ
 やぎ【山羊】ぴみざⅴ
 やきすてる【焼き捨てる】やぐんⅴ
 やきもの【焼き物】やぎむぬⅴ
 やぎょう【夜業】ぶなび
 やく【厄】やくⅴ
 やく【焼く】あぶるんⅴ、やぐんⅴ
 やくしょ【役所】やくばⅴ

やくしょく【役職】やくⅴ
 やくそく【約束】かーきⅴ
 やくどし【厄年】やくどうしⅴ
 やくにたつ【役に立つ】やくⅴたつんⅴ
 やくば【役場】やくばⅴ
 やくひん【薬品】ふちりⅴ
 やけどをする【火傷をする】やびくんⅴ
 やける【焼ける】やがりるんⅴ
 やさい【野菜】やせーⅴ
 やさいばたけ【野菜畑】やせーびてー
 やし【椰子】やしⅴ
 やしがに【やし蟹】むごんⅴ
 やしき【屋敷】はこーⅴ、やしきⅴ
 やしない【養い】やしねー
 やしないおや【養い親】すかなーうやⅴ、やし
 ねーうや
 やしないご【養い子】やしいねーふあ
 やしなう【養う】すかのーすんⅴ、やすなすんⅴ
 やすい【安い】やっさⅴはん
 やすっばい【安っばい】そーべーⅴ
 やすませる【休ませる】よがーしみるん
 やすみ【休み】やしみⅴ
 やすむ【休む】どーーⅴよがすんⅴ、やすうむ
 んⅴ、よがすんⅴ
 やすもの【安物】やしむぬⅴ
 やすり【鑢】やしりⅴ
 やすんじる【安んじる】やすんじるんⅴ
 やせおとろえる【痩せ衰える】がんどらんⅴ
 やせち【痩せ地】ぱぎじⅴ
 やせる【痩せる】やちるんⅴ、よーがりるんⅴ
 、よーがりんⅴ
 やっかい【厄介】やっけーⅴ
 【やったー】したい
 やっつ【八つ】やーちⅴ
 【やっつける】しゃーみるんⅴ
 【やっど】やっとう
 やど【宿】やどうⅴ

やとう【雇う】やとすんⅠ
 やどかり【ヤドカリ】あまんⅠ
 やどや【宿屋】やどやⅠ
 やどる【宿る】とうまるんⅡ、やどとうるん
 やね【屋根】ぴいさⅡ
 やはん【家判】やーばんⅠ
 やぶってすてる【破って捨てる】やりしちる
 Ⅰ
 やぶのなか【藪の中】きぬⅠ みーⅡ
 やぶりちらかす【破り散らかす】やりぼーる
 Ⅰ
 やぶる【破る】やぶるんⅠ
 やぶれる【破れる】ざりるんⅠ、やーりんⅠ、や
 ぶりんⅠ、やりるんⅠ
 やま【山】だきⅡ、むりⅡ、やまⅠ
 やまい【病】ばなしきⅡ、やみⅠ、やんⅠ
 やまいも【山芋】かりょんⅠ
 やまがたな【山刀】やまかたなしⅠ
 やまぐに【山国】やまじいまⅠ
 やましごと【山仕事】やましごとⅠ
 やまじま【山島】やまじいまⅠ
 やまと【大和】やまとうⅠ
 やまどめ【山止め】やまどうみⅠ
 やまのないへいたんなしま【山のない平坦な
 島】ぬぐじまⅡ
 やまほさ【山補佐】やーぶさⅠ
 やみ【闇】やみⅡ
 やむ【止む】〔風雨が～〕やむんⅡ
 やもり【守宮】ふたしみⅠ
 【やらない】しばへぬ
 やり【槍】やりⅡ
 やりこめる【やり込める】しゃーみるんⅡ
 【やる】すんⅡ
 【やるもんか】まきしょー
 やれめ【破れ目】やりふちいⅠ
 やわらかい【柔らかい】やらⅠはん
 やわらかくする【柔らかくする】くすんⅡ、
 やーらぎるんⅡ、やらふあーⅠ すんⅡ
 やわらかくなる【柔らかくなる】やらふあーⅠ
 なるんⅠ
 やわらかになる【柔らかになる】やーらぐんⅡ
 、やふあらぐん
 やわらぐ【和らぐ】やふあらぐん
 やわらぐ【柔らぐ】やーらぐんⅡ
 やわらげる【和らげる】やーらぎるんⅡ
 やんばるせん【山原船】やんばるしんⅠ
 ゆ【湯】あちいゆⅠ
 ゆい【結】ゆいⅡ
 ゆいごん【遺言】んなん
 ゆう【結う】ゆうんⅡ
 ゆうがおのみ【夕顔の実】かなぼりんⅠ
 ゆうかく【遊廓】さかなやーⅡ
 ゆうがた【夕方】ゆねんⅠ
 ゆうき【勇気】いじいⅡ
 ゆうぐれ【夕暮れ】ゆねんⅠ
 ゆうしょく【夕食】ゆむぬⅠ
 ゆうじん【友人】どうしⅡ
 ゆうせいだ【優勢だ】すさⅠはん
 ゆうだち【夕立ち】ペーしゅらⅠ
 ゆうな【ユウナ】ゆだⅡ
 ゆうなぎ【夕凧】ゆーどーりⅠ
 ゆうのうな【有能な】かねー
 ゆうはん【夕飯】ゆむぬⅠ
 ゆうべ【夕べ】ゆーびⅠ
 ゆうめいだ【有名だ】うとーだがⅡはん、なーⅡ
 たかⅠはん
 ゆうれい【幽霊】まざむんⅡ
 ゆか【床】ふんたⅡ
 ゆがく【湯がく】ゆびくんⅠ
 ゆかした【床下】いためーⅠ
 ゆがむ【歪む】ゆがむんⅡ
 ゆがめる【歪める】ゆがみるんⅡ
 ゆきあう【行き会う】いげーるんⅡ
 ゆくすえ【行く末】あとうあとうⅠ

- ゆげ【湯気】きぶⅴ
 ゆする【揺する】くいつあーすんⅴ、ゆらすんⅴ
 ゆずる【譲る】ゆずるんⅴ
 ゆだんする【油断する】うくたるんⅴ
 【ゆっくり】よんなよんな
 【ゆっくりと】や「まー」し
 ゆでる【茹でる】ゆびくんⅴ
 ゆのみ【湯呑】さばんⅴ
 ゆびぶえ【指笛】しーふきⅴ
 ゆびわ【指輪】うるんがにⅴ
 ゆみ【弓】ゆんⅴ
 ゆめ【夢】いみⅴ
 ゆらい【由来】いわりⅴ
 ゆらす【揺らす】くいつあーすんⅴ、すくふあ
 すんⅴ
 【ゆらりと】よんなよんな
 ゆるい【緩い】ゆるさⅴはん
 ゆるされる【許される】ぬがーるんⅴ、ゆるさ
 ーるん
 ゆるし【許し】ゆるしⅴ
 ゆるす【許す】ぬがーらすん、ゆるすんⅴ
 ゆるむ【緩む】ふきつつあーるんⅴ
 ゆるめる【緩める】ゆるみるんⅴ、ゆるみんⅴ
 ゆれうごくさま【揺れ動くさま】がたがた
 ゆれる【揺れる】ふっふんⅴ
 よ【世】ゆーⅴ
 よあけまえ【夜明け前】あぎさり
 よい【良い】まーしⅴ、みしゃⅴはん
 よいこと【良いこと】「いー」くとう
 よいつぶれる【酔いつぶれる】びーたこりる
 んⅴ
 よいのみょうじょう【宵の明星】「しかま」ぶ
 ち
 よいもの【良い物】しよーむぬⅴ
 よういくする【養育する】すかなすんⅴ、やす
 なすんⅴ
 よういする【用意する】しこーるんⅴ
- よういに【容易に】よーにⅴ
 ようかい【妖怪】まごむんⅴ
 ようがさ【洋傘】かぶるさなⅴ、さなⅴ、だんが
 さⅴ
 ようき【容器】いりむんⅴ
 ようきめい【容器名】がいじいⅴ
 ようし【養子】やしいねーふあ
 ようじ【幼児】いしゃがーたまⅴ
 ようじ【用事】ゆーじⅴ
 ようす【様子】むよーⅴ
 ようせき【陽石】びっちゆるⅴ
 ようち【幼稚】すうなⅴはん
 ようはい【遥拝】たんかにげーⅴ
 ようふぼ【養父母】すかなーうやⅴ、やしねー
 うや
 ようみょう【幼名】めらびなー、やらびなーⅴ
 【ようやく】やっとう
 よがわり【世変り】ゆーがーりⅴ
 よく【好く】すくんⅴ
 よく【欲】ゆぐⅴ
 よくあう【よく合う】ゆーⅴ あうんⅴ
 よくいく【よく行く】しゃーⅴ んぐんⅴ
 よくいたずらをする【よく悪戯をする】がん
 まり しゃーん
 よくがない【欲がない】ゆぐぬ ねーぬ
 よくかむ【よく噛む】かんだるんⅴ
 よくちょう【翌朝】あつあすとうむちⅴ
 よくない【良くない】ばからっさーⅴ ねーぬⅴ
 よくなる【良くなる】みしゃーⅴ なるんⅴ
 よくにあう【よく似合う】ゆーⅴ あうんⅴ
 よくねむる【よく眠る】ぬっふたりるん
 よくはたらく【よく働く】ぎぼるんⅴ
 よくばりだ【欲張りだ】ゆぐⅴさん
 よくばる【欲張る】ゆくすかⅴ、ゆくばるん
 よくぶかい【欲深い】ゆぐⅴさん
 【よくよく】よーⅴ
 よこうえんしゅう【予行演習】しらすⅴ

【よこす】 やらすんⅴ
 よごす【汚す】 ゆぐすんⅴ
 よこたえる【横たえる】 くるばすんⅴ
 よこたわる【横たわる】 ゆくたーるんⅴ
 よこになる【横になる】 ゆくたーるんⅴ
 よこべり【横舷】 ふなばにⅴ
 よごれ【汚れ】 ふたりⅴ、 ゆぐりⅴ
 よごれている【汚れている】 やにっしゅⅴはん
 よごれる【汚れる】 ゆぐりるんⅴ
 よさめ【夜雨】 ゆーあみⅴ、 ゆるあみⅴ
 よすみ【四隅】 ゆーかどうⅴ
 よせあつめる【寄せ集める】 ぴきゆしるんⅴ
 よせる【寄せる】 ゆしるんⅴ
 よだれ【涎】 ゆだりⅴ
 よちょう【予兆】 むぬしらしⅴ
 よつかど【四ツ角】 ゆーかどうⅴ
 よつつ【四つ】 ゆーちⅴ
 よっぱらい【酔っ払い】 びーちゃーⅴ
 よつぼし【四つ星】 ゆさしⅴ
 よてい【予定】 しゃーみⅴ
 よどおし【夜通し】 ゆどうし
 よどむ【淀む】 ゆどうむんⅴ
 よなあべごや【よなべ小屋】 ぶなびやーⅴ
 よなか【夜中】 ゆながⅴ
 よなぐに【与那国】 むしいま、 ゆのーⅴ
 【よなべ】 ぶなび
 よになりひびく【世に鳴り響く】 とうゆまり
 ⅴんⅴ
 よねがい【世願い】 ゆにげーⅴ
 よのなか【世の中】 しきんⅴ
 よぶ【呼ぶ】 ゆぶんⅴ
 よぶん【余分】 あまりⅴ、 おーばーⅴ
 よみがえらせる【蘇らせる】 いがすん
 よむ【読む】 ゆむんⅴ
 よめ【嫁】 とうんⅴ、 ゆみⅴ
 よめにいく【嫁に行く】 ぶとうむち
 よめをさがす【探す】 [嫁を～] とうみんⅴ

よもぎ【蓬】 やたふちい
 よりあう【寄り合う】 ゆるんⅴ
 【よりかかる】 ゆりはかるんⅴ
 よりかかる【寄り掛かる】 むたーりるんⅴ
 よる【夜】 ゆるⅴ
 よる【寄る】 ゆるんⅴ
 よろこぶ【喜ぶ】 あまいるんⅴ、 さにしゅー す
 ⅴん
 【よろしい】 みしゅⅴはん
 よわい【弱い】 よーⅴはん
 よわくなる【弱くなる】 よーるんⅴ
 よわむし【弱虫】 よーばⅴ
 よわめる【弱める】 よーみるんⅴ
 よわる【弱る】 よーるんⅴ
 よんじゅう【四十】 しんずⅴ
 よんちゅ【与人】 ゆんちゅⅴ
 らいおん【ライオン】 しーしⅴ
 らいねん【来年】 えんⅴ、 げん
 らいねんのなつ【来年の夏】 くなちいⅴ
 らいめい【雷鳴】 かんなりⅴ
 らく【楽】 らくⅴ
 らくをする【楽をする】 らくⅴ すんⅴ
 らたい【裸体】 あばだりⅴ
 らっかせい【落花生】 じいーまーみⅴ
 らっきょう【ラッキョウ】 だっきょんⅴ
 らんがさ【蘭傘】 かぶるさなⅴ
 らんそう【卵巣】 [魚の～] ぱりゃんⅴ
 らんぷ【ランプ】 とうりⅴ
 らんぼうもの【乱暴者】 やまぐⅴ、 やまんぐ
 らんぼうをはたらく【乱暴を働く】 やまぐⅴ す
 ⅴんⅴ
 りえき【利益】 もーがⅴ、 もーぎⅴ
 りかいする【理解する】 ばがるんⅴ
 りきむ【力む】 んくむんⅴ
 りくつ【理屈】 りくちⅴ
 りこう【利口】 そーいりⅴ
 りこうな【利口な】 めふなⅴ

りこんする【離婚する】ばがりんA
 りちぎだ【律義だ】ぎりかたAはん
 りっば【立派】ぞーとぅん、ばからっ1さ、みぐ
 とぅA
 りっばだ【立派だ】だーさAはん、まだVはん
 りっばなもの【立派なもの】しょーむぬV
 りっばに【立派に】けーし、こーし
 りとく【利得】とぅく1
 りはつ【理髪】だんぱち1
 りはつてん【理髪店】だんぱちーやー
 りは一さる【リハーサル】しらすV
 りゅうきゅうこくたん【琉球黒檀】きなV
 りゅうこう【流行】はやり1
 りゅうこうする【流行する】はやーるん1
 りゅうしゅつする【流失する】なんぶりんA
 りゅうぜつらん【竜舌蘭】るがい1
 りょうがえする【両替する】かれーるんV
 りょうしん【両親】ふたうやV
 りょうて【両手】ふたしV
 りょうてい【料亭】さかなやーV
 りょうてで【両手で】ふたしV
 りょうほう【両方】ふたかたV
 りょうほうとも【両方とも】ふたーちいVばぎA
 りょうめ【両目】ふたみんV
 りょこう【旅行】たびV
 りんげつ【臨月】まりしきV
 りーふ【リーフ】じりA
 るす【留守】ひなA のーぬA
 るすばん【留守番】ひぬばんA
 れいかんのうりよくがたかい【靈感能力が高
 い】さーだがVはん
 れいぎ【礼儀】りーぎV
 れいげんあらたかだ【靈験あらたかだ】さー
 だがVはん
 れいこん【靈魂】たましい1、たまち1、まーぶ
 りA
 れいはいする【礼拝する】しー1うさぎるんV

れつあくだ【劣悪だ】やなV
 れつをととのえる【列を整える】するいるん1
 れんしゅう【練習】きつく1
 ろ【炉】すか1
 【～ろ】り
 ろうえき【労役】すかま1
 ろうがんになる【老眼になる】みんみりA
 ろうじん【老人】うしとぅ1
 ろうじんになる【老人になる】うしとぅ1 な
 るんA
 ろうば【老婆】うしとぅばー1
 ろうや【老爺】うしとぅぶや
 ろくじゅう【六十】るくずA
 【ろくでなし】やびむんA
 【わあわあ】わーわー
 【わぁー】べー
 わが【我が】べーA
 わかい【若い】ばがAはん
 わかいさせる【和解させる】ばぎるんA
 わかがえる【若返る】ばがけーるA
 わがしま【我が島】べーすま
 わかしらが【若白髪】ばがっせーA
 わかす【沸かす】〔湯を～〕ふかすん1
 わかつき【若月】ばがすけんA
 わかなつ【若夏】ばがなちA
 わかば【若葉】ばがばA
 わがまま【我がまま】ふんでーV
 わがままだ【我がままだ】ふんだやー
 わかもの【若者】ばがむぬA
 わかる【分かる】ばがるんA
 わかれる【別れる】ばがりんA、ばなりるん1
 わき【脇】ぐちみんA、やたA
 わきでる【湧き出る】ばーぐんA
 わきのした【脇の下】ぐちみんA
 わきみず【湧水】ばぎみじV、ぱりみじい1
 わきめ【脇芽】またべーA
 わけまえ【分け前】くまた1、ばぎだまA

わける【分ける】ばぎるん、ばぎん
 わざ【技】わざ
 わざ【業】わざ
 わざわい【災い】やく、やふ
 わし【驚】ばしい
 【わずか】いきらさん、べー、べーな、「
 べーび
 わずらう【患う】はかるん
 わすれっぽい【忘れっぽい】ばっしめさ
 ん
 わすれもの【忘れ物】ばっしむぬ
 わすれる【忘れる】ばっしるん、ばっしん
 わたし【私】ばー、ばぬ
 わたしたち【私たち】ばいま
 わたしの【私の】ばー
 わたしのいえ【私の家】ばひー
 わたしのこ【私の子】ばー うたま
 わたす【渡す】ばたすん
 わたる【渡る】ばたるん
 わってしまう【割ってしまう】ばり っしん
 わら【藁】ばら
 わらう【笑う】ばーるん
 わらざん【藁算】ばらざん
 わらじ【草鞋】ふちい
 わらせいのわらじ【藁製の草鞋】ばらふちい
 わらたば【藁束】ばらふた
 わらなわ【藁縄】ばらじいな
 わらべ【童】やらび
 わらむしろ【藁蓆】みなぶ
 わらわれる【笑われる】ばーらいるん
 わりあて【割当て】たまち
 わりあてる【割り当てる】ばりあていん、わ
 りあていん
 わりくだく【割り砕く】ばりくだくん
 わる【割る】さくん
 わるい【悪い】やな、わっさはん
 わるいかたち【悪い形】やなかたち

わるいくせ【悪い癖】やなくしー
 わるいこと【悪いこと】あく
 わるいしゅうかん【悪い習慣】やななれー
 わるぐち【悪口】あく、やなふちい
 わるさ【悪さ】がんまり、わしく
 わるじえのもの【悪知恵の者】りくちいむち
 わるだくみ【悪だくみ】やなたくみ
 わるもの【悪者】やなむん
 われ【我】ばぬ、べー
 われめ【割れ目】ばーり
 わん【湾】うら
 わん【碗】まーり
 わんぱくだ【腕白だ】がまさん、やまんぐ
 さん
 わんぱくもの【腕白者】やまぐ、やまんぐ

参考文献

- 麻生玲子 (2020) 「南琉球八重山語波照間方言の文法」 博士論文 (未公開), 東京外国語大学.
- 麻生玲子・小川晋史 (2016) 「南琉球八重山語波照間方言の三型アクセント」 『言語研究』 150, 87-115.
- 麻生玲子・セリックケナン・中澤光平 (2022) 「日琉諸語の記述言語学を対象としたメタ研究の試み: 南琉球諸語の過去 40 年間の語彙研究の評価と課題」 『国立国語研究所論集』 (23), 75-98.
- 池間苗・池間龍一・池間龍三 (1998) 『与那国ことば辞典』 池間龍一.
- 大野眞男 (1989) 「琉球波照間方言の音対応と音変化」 『岩手大学教育学部研究年報』 48 (2), 1-17.
- 沖縄県教育委員会 (1975) 『波照間の方言—琉球方言緊急調査 第 2 集』 沖縄県文化財調査報告書 第 3 集.
- 加治工真市 (1996) 「波照間方言の音韻研究」 『沖縄文化研究』 22, 137-181.
- 加治工真市 (2020) 『鳩間方言辞典』 国立国語研究所.
- 狩俣繁久 (2008) 『琉球八重山方言の比較歴史方言学に関する基礎的研究』 平成 17 年度～平成 19 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 研究成果報告書.
- セリックケナン・大浦辰夫 (2022) 『『みんなふつ語彙集』 電子データ (220331 版)』 .
- 中松竹雄 (1987) 『琉球方言辞典』 那覇出版社.
- パッパラルドジュゼッペ (2012) 「波照間方言 2 変種の音響音声学的比較」 『音声研究』 16 (1), 6-15.
- Pappalardo, G. (2016). Conservative and Innovative Features in the Phonology of Hateruma Dialect. *Annali di Ca' Foscari. Serie orientale*, 52.
- 平山輝男 (1983) 『琉球宮古諸島方言基礎語彙の総合的研究』 桜楓社.
- 平山輝男 (1988) 『南琉球の方言基礎語彙』 桜楓社.
- 平山輝男 (2013) 『奄美方言基礎語彙の研究』 角川学芸出版.
- 平山輝男・大島一郎・中本正智 (1967) 『琉球先島方言の総合的研究』 明治書院.
- 本田昭正 (2019) 『波照間方言語彙集』 私家版.
- 前新透・波照間永吉・高嶺方祐・入里輝男 (2011) 『竹富方言辞典』 南山舎.
- 松森晶子 (2015) 「南琉球の三型アクセント体系: その韻律単位に関する考察」 『日本女子大学紀要. 文学部』 (64), 55-92.
- 宮城信勇 (2003) 『石垣方言辞典』 沖縄タイムス社.
- 宮里俊治 (2018) 『クモーマ スマヌ, クトゥバ』 私家版.
- 宮良当壮 (1930) 『八重山語彙: 附八重山語總説』 東洋文庫叢刊 (第 2) 東洋文庫.
- ローレンスウエイン (2000) 「八重山方言の区画について」 石垣繁 (編) 『宮良當壮記念論集』 宮良當壮生誕百年記念事業期成会 pp. 547-559.

受理日 2023 年 4 月 11 日

「日々の仕事」と「簡単な自分史」：カガヤヌン語の談話資料*

山本恭裕, 竹村美宥

東京外国語大学

キーワード：カガヤヌン語, オーストロネシア語族, フィリピン, 談話資料

1 はじめに

カガヤヌン語 (Kagayanen [kagajanən]; Ethnologue Code: cgc) はオーストロネシア語族マラヨ・ポリネシア語派, マノボ諸語の言語の一つである (Harmon 1977). マノボ諸語の多くはフィリピン南部のミンダナオ島に分布するが, カガヤヌン語はパラワン州の Cagayancillo (図1の右側中央の島) で主要な言語として話されている. また話者の移住により, パラワン島東沿岸部, 南のバラバック島, 北のコロン島とブスアンガ島にもカガヤヌン語話者コミュニティが点在する. 話者数は2007年時点で30,000人と推定されている (Eberhard et al. 2022).

本稿の目的は, 言語資料としてカガヤヌン語による2編の談話をグロスと和訳とともに提示することである. 本言語資料の音声データは, 2022年8月28日にフィリピン共和国, パラワン島のロハス市において録音された. 録音はリニア PCM レコーダー (ZOOM H5) とコンデンサーマイク (Audio-Technica AT831b) を使用し, 44.1kHz のサンプリングレートで行なわれた.

フィリピンで話される他のオーストロネシア語族の言語と比べて, カガヤヌン語は比較的豊かな指示詞の体系¹を持つほか, 定性と空間的直示性を表現する指示詞由来の前接語を持つことがわかっている (Pebley 1999a). これらの定性や空間的直示性が関わる言語形式の意味論・語用論的特徴を明らかにするためには豊富な談話資料が不可欠であるが, これまでに出版された談話資料は MacGregor and Pebley (1999) のみで, 非常に限

* 本研究は JSPS 科研費 20K13042, 19H01264, 19KK0012 の助成を受けている. 本談話資料の録音において, カガヤヌン語話者の Jehu Pedigan Cayaon 氏にたくさんのカガヤヌン語話者を紹介して頂いた. 心より感謝を申し上げる. また, 本稿の作成にあたって数多くの有益なコメントをくださった落合いずみ氏に深く感謝を申し上げる.

¹ Pebley (1999a: 51–55) の記述では, 指示詞には次の形式的区別が存在する. 直示的中心に対する距離に関する4つの系列 (D1, D2, D3, D4) の区別, 統語的機能に関する6つの区別, さらにこれら6つの統語的機能のうち4つに特定 (specific) と総称 (generic) の区別. あわせて40の言語表現から指示詞の体系が構成されるが, 特定・総称の対立などその意味論的・語用論的特徴が明らかでない点が多く残されている.

定的である。本研究はそうした言語資料の不足を補うことに貢献する。



図1 パラワン州の地図 (ANU CartoGIS の地図データを編集)

2 カガヤヌン語の概略

カガヤヌン語の子音音素は /p b t d k g ʔ s (h) m n ŋ l r w ɔ̯ j/, 母音音素は /i (e) ə u (o) a/ である (Mielke et al. 2010: 206). /e/, /o/ は借用語にのみ見られる。無声声門摩擦音 [h] は音韻的には役割が少ない。主に借用語や固有名に現れ、固有語ではゼロとの自由異音として現れる (e.g., [waig~wahig] ‘water’).² カガヤヌン語は通言語的に珍しい歯間接近音 (interdental approximant) /ɔ̯/ を持つ。この音は舌を突き出し、舌端を上前歯に接近させて調音される (この時、舌尖は下前歯か下唇に触れている)。歯間接近音はカガヤヌン語の固有語でそれなりの頻度で、品詞を問わず観察される。歯間接近音は知覚的に側面音的性質を持つと描写されることもあり、例えば Harmon (1977: 17) はこの音を ‘L-

² 話者内での変異というより、話者間や話者コミュニティ間での変異という印象が強い。話者内ではある程度 [h] かゼロのどちらか一方で一貫して実現する傾向がある。

colored glide' と呼んでいる。この特徴のためか、カガヤヌン語の先行研究においては歯間接近音と /l/ が区別されていないことも少なくない。例えば Pebley (1999a, 1999b) や Huggins et al. (1989), MacGregor and Pebley (1999) ではどちらの音も 'l' を用いて表記されている。

音韻語が基底において語頭子音を持たない時、その位置に声門閉鎖音が挿入される (e.g., /ubra/ > [ʔubra] 'work'). 語中、語末の声門閉鎖音は他の音との対立が見られるため、音素として機能しているとみなせる。

表層での音節構造は語頭で C₁(C₂)V(V)(C), それ以外で (C₁)(C₂)V(V)(C) である。音節核として V が2つ連続して現れることが可能だが、同じ母音が連続することは許されない。C₂ の位置には接近音 /w ɔ̃ j/ のみが生起可能である。また、声門閉鎖音が C₁ にある時、いかなる C₂ も生起しない。

形態論的には、他のフィリピンタイプの言語と同様に形態素境界がわかりやすい分析的な傾向があるが、接頭辞－語幹間で母音脱落や子音置換が頻繁に見られる。また、タガログ語やイロカノ語などのフィリピン諸言語では接中辞の存在や重複の多機能性が見られるが、これまでのところカガヤヌン語で接中辞は観察されておらず、重複もあまり生起しない。

動詞述語節では基本的に述語が先行し VS/VAP の順序を取るが、SAP のどの構成素も述語の前に現れうる (Pebley and Brainard 1999)。人称代名詞では格による対立が発達しており、能格／属格³、絶対格、斜格などが形式的に区別される (Pebley 1999a)。

表1 人称代名詞

	ABS	ERG/GEN	POSS	FRONT	OBL
1SG	<i>a/arən</i>	<i>ku</i>	<i>akə/ kəndə</i>	<i>jakən</i>	<i>kijakən</i>
2SG	<i>ka</i>	<i>nu</i>	<i>imu</i>	<i>kaun</i>	<i>kikaun</i>
3SG	<i>kanən</i>	<i>din</i>	<i>ija</i>	<i>kanən</i>	<i>kikan</i>
1PL.EX	<i>kaj</i>	<i>naj</i>	<i>amə/məndə</i>	<i>kami</i>	<i>kikami</i>
1PL.INC	<i>ki</i>	<i>ta</i>	<i>atə/təndə</i>	<i>kitən</i>	<i>kikitən</i>
2PL	<i>kaw</i>	<i>njo</i>	<i>injo</i>	<i>kjo</i>	<i>kikjo</i>
3PL	<i>danən</i>	<i>danən</i>	<i>iran</i>	<i>danən</i>	<i>kidanən</i>

普通名詞の格は形態的にではなく統語的に標示され、絶対格（ゼロ）と能格・属格・斜格 (*ta=*) の対立が見られる。人名の自動詞文主語および他動詞文行為者と被動作者は明

³ 能格と属格は形式上区別されない。

示的な標示はされず、斜格のみ明示的に標示される。

表2 普通名詞と人名の格標識

	ABS	ERG/GEN	OBL
普通名詞	∅	ta=	ta=
人名	∅	∅	ki=

カガヤヌン語は後接語と前節語を豊富に持つ。後接語には格を標示するものや接続詞が含まれる。前接語には節レベルの前接語と句レベルの前接語の二種類が存在する。節レベルの接語として絶対格と能格の人称代名詞や *=ən* ‘already’ の様な副詞的要素があり、これらは基本的に節の最初の音韻語の後に生起する。句レベルの前接語には、句の最初の音韻語の後に生起するものと、句の最後に生起するものがある。句の最初の音韻語の後に生起する接語の例としては、属格人称代名詞や、指示対象の定性や話者からの距離を表現する指示的前接語があげられる。

3 談話資料

本セクションでは、「日々の仕事」 (§3.1) と「簡単な自分史」 (§3.2) の 2 つの談話資料を提示する。以下では、上から順に、音韻プロセスを経た表層の音韻表記⁴、形態素境界を示した基底の音韻表記、語釈、和訳という構成で各文を提示する。

談話にはスペイン語、英語、タガログ語からの借用語が現れる。それらの借用語はカガヤヌン語の音韻論にある程度合う様に修正されて発音されており、以下での表記もその発音を反映したものになっている。§3.2 ではタガログ語にコードスイッチしている箇所が一つ見られるが、ここでも実際の発音を反映した表記を行い、カガヤヌン語に存在しない母音の長短の区別も示している。

3.1 日々の仕事

この談話は、ロハス市在住の 62 歳の男性が日々の仕事について語ってくれたものである。談話では男性の職場の病院での仕事に加えて、自宅の修復仕事についても話がされている。ロハス市は 2021 年 12 月にフィリピンを襲った台風オデッテによる大きな被害を受けており、2022 年の 8 月でも、教会や家々にその傷跡がまだ多く残されていた。男性の家も台風によって屋根が飛ばされており、修復の大変さを笑いながら話してくれ

⁴ 母音の脱落など、音韻プロセスでなく言語固有の音声現象である可能性もある。この点を明らかにするには詳細な検証が必要となるため、本稿ではその可能性を考慮せず、音韻プロセスとして表層の音韻表記に反映させている。

た.

(1) *gaubra ʔuspital.*

ga-ubra ʔuspital
 RL.AV-work hospital
 ‘(私は) 病院で働いている’

(2) *daw lunes ʔuḡa ʔa ʔubra ... daw martes mjerkules bjernes*

daw=lunes uḡa=a ubra ... daw=martes mjerkules bjernes
 when=Monday NEG.EXIS=1SG.ABS work PAUSE when=Tuesday Wednesday Friday
ʔasta sabadu ʔubra ku ʔan ʔuspital.
 asta=sabadu ubra=ku an=ʔuspital
 until=Saturday work=1SG.GEN LOC=hospital
 ‘月曜日は仕事がなく、火曜日、水曜日、金曜日、そして土曜日まで病院で仕事.’

(3) *ʔubra ku dja tama ... mintinans ... kisjaŋ garipira*

ubra=ku dja tama ... mintinans ... kisjaŋ ga-ripira
 work=1SG.GEN DIS.ADV many PAUSE maintenance PAUSE sometimes RL.AV-repair
ta baḡaj ... ga-pamandaj tapus daw ʔuḡa man duma na ʔubra
 ta=baḡaj ... ga-pamandaj tapus=daw=uḡa=man duma=na ubra
 OBL=house PAUSE RL.AV-carpenter and=when=NEG.EXIS=also other=LIG work
gagaskatara.
 ga-gaskatara
 RL.AV-grasscutter
 ‘そこでの仕事はたくさんあって、メンテナンスや、時々建物を直したり、大工仕事をしたり、そして他の仕事がなければ草刈りをする.’

(4) *junnan ʔubra ku ʔan ʔuspital.*

junnan ubra=ku an=ʔuspital
 DIS.FRONT work=1SG.GEN LOC=hospital
 ‘それが私の病院での仕事だ.’

(5) *minsangalimpiw ʔa.*

minsangalimpiw=ʔa
 sometimes RL.AV-clean=1SG.ABS
 ‘時々、掃除をする.’

- (6) *jun ʔubra ku ʔadlawʔadlaw naʔan ʔuspital.*
 jun ubra=ku adlaw~adlaw naʔan=uspital
 DIS.FRONT work=1SG.GEN day~day LOC=hospital
 ‘それが病院での私の毎日の仕事だ.’
- (7) *daw səlləm gid ... bagʔu kaj miliŋ naʔan ʔubra naj*
 daw=səlləm=gid ... bagʔu=kaj m-iliŋ naʔan=ubra=naj
 when=morning=indeed PAUSE before=1PL.EX.ABS IRR.AV-go LOC=work=1PL.EX.GEN
 ... *maj dibusjun kaj ʔisja ʔuras.*
 ... maj=dibusjun=kaj isja uras
 PAUSE EXIS=devotion=1PL.EX.ABS one hour
 ‘朝，私たちが仕事に行く前，一時間お祈りをする.’
- (8) *ʔapus dibusjun junən munta kaj ta ʔubra naj.*
 ʔapus=dibusjun junən m-punta=kaj ta=ubra=naj
 after=devotion PAUSE then IRR.AV-go=1PL.EX.ABS OBL=work=1PL.EX.GEN
 ‘お祈りの後，私たちは仕事に行く.’
- (9) *ʔasta ʔalasdusi ʔapus malik kaj migma.*
 ʔasta=alas-dusi ʔapus=m-balik=kaj m-igma
 until=at-twelve then=IRR.AV-go.back=1PL.EX.ABS IRR.AV-lunch
 ‘12時まで働き，そして帰ってランチをとる.’
- (10) *bagʔu magʔalaʔuna malik kaj.*
 bagʔu=mag-ala-una m-balik=kaj
 before=IRR.AV-at-one IRR.AV-go.back=1PL.EX.ABS
 ‘1時になる前に，（また職場に）戻る.’
- (11) *ʔalaskwatru muliʔ kaj manən*
 alas-kwatru m-uliʔ=kaj=man=ən
 at-four IRR.AV-go.home=1PL.EX.ABS=also=already PAUSE
malik kaj ʔən.
 m-balik=kaj=ən
 IRR.AV-go.back=1PL.EX.ABS=already
 ‘4時に再び家に帰る.’

(12) *junnan ʔubra ku ʔan ʔuspital.*

junnan ubra=ku an=uspital
DIS.FRONT work=1SG.GEN LOC=hospital
‘それが病院での私の仕事だ.’

(13) *tapus ʔubra muliʔ kaj ta baʔaji*

tapus=ubra m-uliʔ=kaj ta=baʔaj=i
after=work PAUSE IRR.AV-go.home=1PL.EX.ABS OBL=house=DEF.PROX
*ʔubra man gjapun.*⁵
ubra=man gjapun
work=also still
‘仕事のあと私たちは自分の家に帰って、まだ仕事がある.’

(14) *garipira ta baʔaji tak nagbaʔ ta bagju.*

ga-ripira ta=baʔaj=i tak=na-gbaʔ ta=bagju
RL.AV-repair OBL=house=DEF.PROX because=RL.STAT-destroy ERG=typhoon
‘台風が壊してしまったので、自分の家を修理している.’

(15) *jakənən⁶ gaʔamatʔamat⁷ ʔubra ta baʔaji*

jakən=ən ga-amatʔamat ubra ta=baʔaj=i
1SG.FRONT=just RL.AV-do.gradually work OBL=house=DEF.PROX
tak ʔuʔa kaj man kwarta na pampaajus.
tak=uʔa=kaj=man kwarta=na paŋ-pa-ajus.
because=NEG.EXIS=1PL.EX.ABS=also money=LIG INST-CAUS-make.good
‘修理してもらうためのお金がないので私が自分で少しずつ家の修理をしている.’

⁵ 指示詞由来の前接語 (i.e. =i, =an, =ja) はホストと共に再音節化される。ホストが子音終わりならば、ホストの最終子音を頭子音に取って音節を形成する。=ja に関しては、ホストが子音終わりの場合はその子音を口蓋化させ、調音的には一つの分節音として産出されることが多い。

⁶ ここでは *jakən* と =ən が再音節化され、声門閉鎖音の挿入は生じていない。一方、上の例 (11) では、=ən は =kaj と共には再音節化されず、声門閉鎖音が語頭に挿入されている。=ən が先行するホストと共に再音節化されるか否かにはこの様に揺れが見られ、§3.2 の話者も同様である。別の接語が =ən に先行する場合に声門閉鎖音の挿入が生じる傾向があるという印象であるが、更なる検証が必要である。

⁷ *amatʔamat* ‘do gradually’ に関して、*amat* が語彙素として存在するか不明であるため、重複の形態プロセスを経ていない本来的重複 (inherent reduplication) と見做し、分割せずに提示している。

- (16) *gani jakən naŋ gid gaubra ... sweldu ku*

gani=jakən=naŋ=gid ga-ubra ... sweldu=ku
 because=1SG.FRONT=just=really RL.AV-work PAUSE salary=1SG.GEN
kuðəŋ gid.
 kuðəŋ=gid
 inadequate=really
 ‘働いているのは私だけで、私の給料では全然足りない.’

- (17) *tama naŋ ta pagkaʔan naj.*

tama=naŋ ta=pagkaʔan=naj
 many=just OBL=food=1PL.EX.GEN
 ‘食べ物にほとんど消えていってしまう.’

- (18) *gapaŋamuju ʔa naŋ daw maj ʔittaw na magtabaŋ kikami.*⁸

ga-paŋamuju=a=naŋ daw=maj=ittaw=na mag-tabaŋ kikami
 RL.AV-pray=1SG.ABS=just if=EXIS=person=LIG IRR.AV-help 1EX.PL.OBL
 ‘誰か私たちを助けてくれないか私は祈っている.’

- (19) *maskiən paŋ-diŋdiŋ naj ba ...*

maski=ən paŋ-diŋdiŋ=naj=ba ...
 even=already INST-wall=1EX.PL.GEN=more PAUSE
tak sʝot ʔa gid ta sweldu ku.
 tak=sʝot=a=gid ta=sweldu=ku
 because=short=1SG.ABS=really OBL=salary=1SG.GEN
 ‘壁のためのお金もまだ必要で、私の給料では全然足りない.’

- (20) *jun naŋ ... lipuʔ naŋ.*

jun=naŋ ... lipuʔ=naŋ
 DIS.FRONT=just PAUSE short=just
 ‘話はそんな感じ、短いね.’

⁸ *daw* は条件を表す従位接続詞、疑問の補文を導入する標識、等位接続詞の機能を持つ。機能によって異なる語釈を用いており、それぞれ ‘when’, ‘if’, ‘and’ を割り当てている。

3.2 簡単な自分史

この談話は、同じくロハス市に住む 70 歳の男性が語ってくれたものである。この話は男性の若い頃から、現在に至るまでを簡単に振り返ったものである。

(1) *kwentu ku ki kjo ta ?akə na nagi?an na bata ?a pa*

kwentu=ku ki=kjo ta=akə=na nagi?an=na bata=a=pa
 story=1SG.GEN OBL=Kyo GEN=1SG.POSS=LIG experience=LIG young=1SG.ABS=yet
 ‘Kyo への私の話は私がまだ若い頃の経験（の話）.’

(2) *jakəni nabata ?a pa ...*

jakən=i na-bata=a=pa ...
 1SG.FRONT=DEF.PROX RL.STAT-young=1SG.ABS=yet PAUSE
maj maŋa bisju ?a.
 maj=maŋa=bisju=a
 EXIS=PL=bad.habit=1SG.ABS
 ‘私はまだ若くて、色々悪い習慣を持っていた.’

(3) *ginəm ?a gasigarilju.*

ga-inəm=a ga-sigarilju
 RL.AV-drink=1SG.ABS RL.AV-smoke
 ‘私は酒を飲み、タバコを吸っていた.’

(4) *siguru ?u ... naisipan ku ?ən na*

siguru=u ... na-isip-an=ku=ən=na
 perhaps=CFP PAUSE RL.STAT-think-LV=1SG.ERG==already=LIG
maŋa la?iŋ na bisju.
 maŋa=la?iŋ=na bisju
 PL=bad=LIG bad.habit
 ‘多分だけど、私はそれらが悪習だと考えていた.’

(5) *gidad ʔa ta maŋa disjutju ʔanjus*

ga-idad=a ta=maŋa=disjutju anjus

RL.AV-become.certain.age=1SG.ABS OBL=PL=eighteen years

kamaŋ kuən maŋa bisju.

kamaŋ=ku=ən maŋa=bisju

take=1SG.ERG=already PL=bad.habit

‘18歳くらいのとき、そうした習慣をやめた.’

(6) *ʔuḡa ... ʔuḡa gid man maparuruʔunan.*

uḡa ... uḡa=gid=man maparuruʔunan

NEG.EXIS PAUSE NEG.EXIS=really=also destination

‘(それらの悪臭は) 何にもならないから (lit. 辿り着けるところがないから).’

(6) *jakəni galiŋkud ʔa ta maŋa ʔilintan*

jakən=i ga-liŋkud=a ta=maŋa=ilintan

1SG.FRONT=DEF.PROX RL.AV-serve=1SG.ABS OBL=PL=lord

naʔan simbaʔan njan.

naʔan=simbaʔan=njan

LOC=church=MED.GEN

‘私は教会で神に仕えた.’

(7) *kasi jakəni katuliku ʔa*

kasi=jakən=i katuliku=a

because=1SG.FRONT=DEF.PROX catholic=1SG.ABS

galiŋkud ʔa gasimba.

ga-liŋkud=a ga-simba.

RL.AV-serve=1SG.ABS RL.AV-go.church

‘私はカトリックだから、教会に行っていた.’

(8) *ʔanu maŋa tudḡu ta ginikanan naj.*

anu maŋa=tudḡu ta=ginikanan=naj

what PL=help OBL=parents=1PL.EX.GEN

‘両親に対する手伝いは何だったか.’

(9) *magsunud kaj daw mubra kaj.*⁹

mag-sunud=kaj daw=m-ubra=kaj
 IRR.AV-follow=1PL.EX.ABS and=IRR.AV-work=1PL.EX.ABS
 ‘私たちは（両親に）従いそして働いた.’

(10) *lunes tægka bjernes ?iskwila sabadu dumingu ?unti kaj*

lunes tægka=bjernes iskwila sabadu dumingu unti=kaj
 Monday until=Friday school PAUSE Saturday Sunday PROX.ADV=1PL.EX.ABS
ta basakani.
 ta=basakan=i.
 OBL=rice.field=DEF.PROX
 ‘月曜から金曜まで学校で、土日は田んぼにいた.’

(11) *mahi:rap kami nu?uŋ ?a:raw pe:ro sa tjaga?*

ma-hi:rap=kami nu?uŋ=?a:raw pe:ro sa=tjaga?
 ADJ-hard=1PL.EX.NOM back.when=day but LOC=patient
*nuŋ na:naj ?at ta:taj na:min.*¹⁰
 nuŋ=na:naj at ta:taj=na:min
 gen.dis=mother and father=1PL.EX.GEN
 ‘その当時、私たち家族は貧しかったけれど、母と父はとても辛抱強かった.’

(12) *?anduni kami ?əman ba?əs di.*

anduni=kami=əman ba?əs di
 now=1PL.EX.FRONT=CONT give.back PROX.ADV
 ‘今度は自分たちが（家のことを）引き継ぐ.’

(13) *maj pamilja ?a.*

maj=pamilja=a
 EXIS=family=1SG.ABS
 ‘私は家族を持った.’

⁹ 主語が複数形になっている。筆者らは話者に加えて兄弟・姉妹を含んでいると想定していたが、落合氏は家族などを話題にする場合に義務的に複数主語を用いる可能性を指摘した。

¹⁰ この一文はタガログ語にスイッチしている。

- (14) *tapus gaubra ?a dusi ?anjus sirbisju ta sikjuriti gad.*
 tapus=ga-ubra=a dusi anjus sirbisju ta=sikjuriti gad
 then=RL.AV-work=1SG.ABS twelve years service OBL=security gard
 ‘そして、12年警備員の仕事をした.’
- (15) *tapus galiŋ ?a.*¹¹
 tapus=galiŋ=a
 then=RL.AV.leave=1SG.ABS
 ‘そしてその仕事を辞めた.’
- (16) *galaktəd ?a ta munisipju disinjubi na taun*
 ga-laktəd=a ta=munisipju disinjubi=na taun.
 RL.AV-move=1SG.ABS OBL=municipality nineteen=LIG year
 ‘市の仕事に移り、そこで19年間働いた.’
- (17) *?ubra ku ta munisipju.*
 ubra=ku ta=munisipju
 work=1SG.GEN OBL=town
 ‘私は市で働いた.’
- (18) *?uḏa man gjapun.*
 ?uḏa=man=gjapun
 NEG.EXIS=also=still
 ‘(仕事は) 今はない.’
- (19) *junman gjapun kaka?an kamaŋ tallu bisis magapun.*
 junman=gjapun ka-ka?an kamaŋ tallu bisis magapun
 DIS.FRONT=still IRR.STAT.AV-eat get three time whole.day
 ‘依然として日に3度食事を取れる.’

¹¹ 動詞 *galiŋ* の語根は不明であるため、分割せずに提示している。

- (20) *duni naisipan ku man ?amba? ku malik ?a*

duni na-isip-an=ku=man amba? =ku m-balik=a
 now RL.STAT-think-LV=1SG.ERG=also story=1SG.GEN IRR.AV-go.back=1SG.ABS
ta kwa kui ... luti.
 ta=kwa=ku=i ... luti
 OBL=whatchamacallit=1SG.GEN=DEF.PROX PAUSE land
 ‘今度は、土地の話に戻ろうと思う。’

- (21) *na?an ?a di gatindəg ta ba?aj ku.*

na?an=a di ga-tindəg ta=ba?aj=ku
 place=1SG.ABS PROX.ADV RL.AV-build OBL=house=1SG.GEN
 ‘ここに私は家を建てた。’

- (22) *nagkaru?un ?a babuj.*¹²

nagkaru?un=a babuj
 RL.AV.possess=1SG.ABS pig
 ‘私は豚を飼っている。’

- (23) *ma?a bata ku nakatapus tallu nakatapus bata ku.*

ma?a=bata=ku naka-tapus tallu naka-tapus bata=ku
 PL=child=1SG.GEN RL.STAT.AV-finish three RL.STAT.AV-finish child=1SG.GEN
 ‘私の3人の子供たちはもう学校を卒業した。’

- (24) *majstra ... business ... bag?u sub?ukja*

majstra ... business ... bag?u=sub?uk=ja
 teacher PAUSE business PAUSE just=one=DEF.DIS
darwa taun na kursu na kama? din.
 darwa taun=na kursu=na kama? =din
 two year=LIG course=LIG take=3SG.ERG
 ‘一人は教師，もう一人は商売をしていて，そしてもう一人は2年のコースを終
 えたところ。’

¹² 動詞 *nagkaru?un* はタガログ語からの借用である。

- (25) *ʔasta ʔanduniʔi junmanən tjagaʔ kaj naŋ.*
 asta=anduni=i junman=ən tjagaʔ=kaj=naŋ
 until=now=DEF.PROX DIS.FRONT=already patient=1PL.EX.ABS=just
 ‘今まで私たちは辛抱強くしていた.’
- (26) *maski maj ʔubra man bataʔan ku ... gubra kaj man.*
 maski=maj=ubra=man bataʔan=ku ... ga-ubra=kaj=man
 even=EXIS=work=also children=1SG.ABS PAUSE RL.AV-work=1PL.EX.ABS=also
 ‘子供たちは仕事をしていたけれど、私たちはその後もまだ働いた.’
- (27) *maski manakəm gasalig kaj.*
 maski=manakəm ga-salig=kaj
 even=old RL.AV-want=1PL.EX.ABS
 ‘歳をとっていたけれど（働くことを）私たちは望んだ.’
- (28) *maŋa kabataʔan diliʔ.*
 maŋa=kabataʔan diliʔ
 PL=children NEG
 ‘子供たちは（それを）望まなかったけれど.’
- (29) *gubra kaj magasawa.*
 ga-ubra=kaj magasawa.
 RL.AV-work=1PL.EX.ABS couple
 ‘私たち夫婦は働いた.’
- (30) *galaga ta maŋa ʔajəp.*
 ga-alaga ta=maŋa=ajəp.
 RL.AV-take.care OBL=PL=animal
 ‘動物の世話をする.’
- (31) *ʔasta ʔanduni junman.*
 asta=anduni junman
 until=today DIS.FRONT
 ‘今日までその様な感じ.’

(32) *kakaʔan kamaŋ tallu bisis ... ʔokej manən.*

ka-kaʔan kamaŋ tallu bisis ... okej=man=ən
 IRR.STAT.AV-eat get three time PAUSE ok=also=already
 ‘(日に) 3度食事ができる, それで OK だ.’

(33) *jan naŋ kwentu ku ki kjo.*

jan=naŋ kwentu=ku ki=kjo.
 MED.FRONT=just story=1SG.GEN OBL.P=Kyo
 ‘Kyo への私の話はこれで終わり.’

略号一覧

ABS = absolutive, ADJ = adjective, ADV = adverb, AV = actor voice, CFP = clause-final particle, CONT = contrastive, DEF = definite, DIS = distal, EX = exclusive, EXIS = existential, FRONT = fronted form, GEN = genitive, IRR = irrealis, LIG = ligature, LOC = locative, LV = locative voice, MED = medial, NEG = negation, NOM = nominative, OBL = oblique, PL = plural, POSS = possessor, PROX = proximal, PV = patient voice, RL = realis, SG = singular, STAT = stative, 1 = first person, 3 = third person

参考文献

- Eberhard, David M., Gary F. Simons, and Charles D. Fennig (eds.). 2022. *Ethnologue: Languages of the World*. Twenty-fifth edition. Dallas, Texas: SIL International. Online version: <http://www.ethnologue.com>.
- Harmon, Carol. W. 1977. Kagayanen and the Manobo subgroup of Philippine languages. Honolulu: University of Hawai‘i at Mānoa PhD dissertation.
- Huggins, Jacqueline, Louise A. MacGregor, Scott W. MacGregor, and Carol Jean Pebley. 1989. *Mga pangadlaw-adlaw na ambalen* [Everyday conversation], Manila: Summer Institute of Linguistics.
- MacGregor, Louise A., and Carol Jean Pebley. 1999. Two Kagayanen texts. *Studies in Philippine Languages and Cultures* 10. 91–115.
- Mielke, Jeff, Josephine S. Daguman, Hugh J. III Paterson, Kenneth S. Olson, Carol Jean Pebley. 2010. The phonetic status of the (inter)dental approximant. *Journal of the International Phonetic Association* 40(2), 199–215.
- Pebley, Carol Jean. 1999a. Kagayanen enclitic demonstratives ‘i’, ‘an’, and ‘ya’. *Studies in Philippine Languages and Cultures* 10(2), 50–90.

- Pebley, Carol Jean. 1999b. A sketch of Kagayanen clause structures. *Studies in Philippine Languages and Cultures* 10(2), 1–20.
- Pebley, Carol Jean and Sherri Brainard. 1999. The functions of fronted noun phrases in Kagayanen expository discourse. *Philippine Journal of Linguistics* 30, 75–121.

受理日 2023年 4月 11日

言語記述論集 第15号

言語記述研究会

2023年4月30日発行

ISSN 2432-244X